

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄							備考	
計画の区分		学部・学科の設置								
フリガナ 設置者		ガッコウホクシン アオバガクエン 学校法人 青葉学園								
フリガナ 大学の名称		トキョウリョウホケンダクガク 東京医療保健大学								
大学本部の位置		東京都品川区東五反田4-1-17								
大学の目的		本学は、「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を建学の精神及び教育理念とし、医療分野において特色ある教育研究を実践することで、時代の求める高い専門性及び豊かな人間性と幅広い教養並びに高い倫理性を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に探求し解決することのできる人材を育成する。								
新設学部等の目的		「社会や医療保健の高度化を踏まえ、多様なニーズに対応できる医療保健専門職の育成」、「健康に関わる社会課題を俯瞰し、医療保健の現場を含むあらゆるフィールドにおいて、他の専門職と協調して自らの専門性を発揮できる人材の育成」を図る。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	医療保健学部 [Faculty of Healthcare]	年	人	年次人	人	学士（医療保健学） 【Bachelor of Healthcare】	家政関係 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)	令和8年4月 第1年次	東京都世田谷区 世田谷3-11-3	
	医療保健学科 [Division of Healthcare]	4	160	—	640					
	計		160	—	640					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		○入学定員の変更 医療保健学部看護学科〔定員増〕（20）（令和8年4月） ○学生募集停止 医療保健学部医療栄養学科(廃止)（△100）（※令和8年4月 学生募集停止） 医療保健学部医療情報学科(廃止)（△80）（※令和8年4月 学生募集停止）								
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
			講義	演習	実験・実習	計				
	医療保健学部医療保健学科 管理栄養学専攻	102科目	11科目	25科目	138科目	126単位				
	医療保健学部医療保健学科 臨床検査学専攻	89科目	4科目	20科目	113科目	126単位				
	医療保健学部医療保健学科 臨床工学専攻	87科目	6科目	10科目	103科目	126単位				
	医療保健学部医療保健学科 医療情報学専攻	67科目	23科目	1科目	91科目	124単位				
学部等の名称			基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
			教授	准教授	講師	助教	計			
新設	医療保健学部 医療保健学科		13 (13)	10 (10)	5 (5)	4 (4)	32 (32)	5 (5)	5 (5)	
	設	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	10 (10)	5 (5)	4 (4)	31 (31)			
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
		小計（a～b）	13 (13)	10 (10)	5 (5)	4 (4)	32 (32)			
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
		計（a～d）	13 (13)	10 (10)	5 (5)	4 (4)	32 (32)			
	分	計		13 (13)	10 (10)	5 (5)	4 (4)	32 (32)	5 (5)	
既設	医療保健学部 看護学科		16 (16)	11 (11)	8 (8)	2 (2)	37 (37)	2 (2)	10 (10)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 10人
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	14 (14)	9 (9)	8 (8)	2 (2)	33 (33)			
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)			
		小計（a～b）	16 (16)	11 (11)	8 (8)	2 (2)	37 (37)			
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

設		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
		計（a～d）	16 (16)	11 (11)	8 (8)	2 (2)	37 (37)		
	東が丘看護学部 看護学科		8 (8)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	15 (15)
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	18 (18)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）		8 (8)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	18 (18)		
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）		8 (8)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	18 (18)		
	立川看護学部 看護学科		6 (6)	5 (5)	5 (5)	3 (3)	19 (19)	1 (1)	3 (3)
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	5 (5)	5 (5)	3 (3)	19 (19)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人	
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		6 (6)	5 (5)	5 (5)	3 (3)	19 (19)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		6 (6)	5 (5)	5 (5)	3 (3)	19 (19)			
千葉看護学部 看護学科		7 (7)	5 (5)	6 (6)	3 (3)	21 (21)	3 (3)	9 (9)	
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	5 (5)	6 (6)	3 (3)	21 (21)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人	
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		7 (7)	5 (5)	6 (6)	3 (3)	21 (21)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		7 (7)	5 (5)	6 (6)	3 (3)	21 (21)			
和歌山看護学部 看護学科		7 (7)	6 (6)	5 (5)	14 (14)	32 (32)	3 (3)	1 (1)	
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	6 (6)	5 (5)	14 (14)	32 (32)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人	
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		7 (7)	6 (6)	5 (5)	14 (14)	32 (32)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		7 (7)	6 (6)	5 (5)	14 (14)	32 (32)			
分	計		44 (44)	35 (35)	26 (26)	22 (22)	127 (127)	9 (9)	38 (38)
合 計			57 (57)	45 (45)	31 (31)	26 (26)	159 (159)	14 (14)	43 (43)
職 種			専 属			そ の 他		計	
事 務 職 員			72 (72)			19 (19)		91 (91)	
技 術 職 員			0 (0)			0 (0)		0 (0)	
図 書 館 職 員			25 (25)			0 (0)		25 (25)	
そ の 他 の 職 員			1 (1)			2 (2)		3 (3)	

指 導 補 助 者			(0)		(0)		0 (0)						
計			98 (98)		21 (21)		119 (119)						
校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		大学全体 (必要面積 6,400㎡ 借用面積0㎡)				
	校 舎 敷 地		47,591㎡	0㎡	0㎡		47,591㎡						
	そ の 他		4,598㎡	0㎡	0㎡		4,598㎡						
	合 計		52,189㎡	0㎡	0㎡		52,189㎡						
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		大学全体 (必要面積 5,705㎡ 借用面積0㎡)				
			55,175㎡ (37,132㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		55,175㎡ (37,132㎡)						
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室	71室	教 員 研 究 室		200室		大学全体				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕冊		機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分を含む 電子ジャーナルは大学契約、全 キャンパス閲覧可		
	医療保健学部 医療保健学科		156,000 [2,516] (157,520 [2,580])		220 [0] (202 [0])		1,399 [226] (1,390 [228])		4,499 [2,916] (4,541 [2,916])			15,397 (15,397)	389 (389)
	計		156,000 [2,516] (15,7520 [2,580])		220 [0] (202 [0])		1,399 [226] (1,390 [228])		4,499 [2,916] (4,541 [2,916])			15,397 (15,397)	389 (389)
スポーツ施設等			スポーツ施設			講堂			厚生補導施設			大学全体	
			5,939㎡			0㎡			5,475㎡				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—	—				
		共同研究費等		7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	—	—				
		図 書 購 入 費	25,000千円	25,000千円	25,000千円	25,000千円	25,000千円	—	—				
	学生1人当り 納付金	設 備 購 入 費	320,000千円	320,000千円	320,000千円	320,000千円	320,000千円	—	—				
				第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
				2,000千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	—	—				
		学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金									

	大 学 等 の 名 称	東京医療保健大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 員 定	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
既 設 大 学 等 の 状 況	大学	年	人	年次 人	人		倍			
	医療保健学部		280	—	1,120		0.82			
	看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.27	平成17年度	東京都品川区東五反田4-1-17	
	医療栄養学科	4	100	—	400	学士(医療栄養学)	0.64	平成17年度	東京都世田谷区世田谷3-11-3	
	医療情報学科	4	80	—	320	学士(医療情報学)	0.48	平成17年度	東京都世田谷区世田谷3-11-3	
	東が丘看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.10	令和2年度	東京都目黒区東が丘2-5-1	
	立川看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.18	令和2年度	東京都立川市緑町3258	
	千葉看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.12	平成30年度	千葉県船橋市海神町西1-1042-	
	和歌山看護学部 看護学科	4	100	—	370	学士(看護学)	1.08	平成30年度	雄湊キャンパス 和歌山件和歌山市東坂ノ上丁3 日赤和歌山医療センターキャン パス 和歌山県和歌山市小松原通4- 20	
	大学院									
	医療保健学研究科 医療保健学専攻 (修士課程)	2	33	—	66	修士 (看護マネジメント学) (看護実践開発学) (助産学) (感染制御学) (周手術医療安全学) (滅菌供給管理学) (医療栄養学) (医療保健情報学) (プライマリケア看護学)	0.98	平成19年度	東京都品川区東五反田4-1-17	
	医療保健学専攻 (博士課程)	3	4	—	12	博士 (感染制御学) (周手術医療安全学) (看護学)	1.83	平成19年度	東京都品川区東五反田4-1-17	
	看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	40	—	80	修士 (看護学) (助産学)	1.06	平成25年度	東京都目黒区東が丘2-5-1	
	看護学専攻 (博士課程)	3	2	—	6	博士 (看護学)	0.5	平成26年度	東京都目黒区東が丘2-5-1	
	和歌山看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (看護学)	0.58	令和2年度	和歌山県和歌山市小松原通4- 20	
	千葉看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士 (看護学)	1.00	令和3年度	千葉県船橋市海神町西1-1042-	
	専攻科 助産学専攻科 和歌山助産学専攻科	1 1	15 10	— —	15 10	修了認定 修了認定	1.33 1.00	平成21年度 令和4年度	東京都品川区東五反田4-1-17 和歌山県和歌山市小松原通4- 20	
附属施設の概要										

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については，専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(医療保健学部医療保健学科 管理栄養学専攻)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員
医療保健学科 共通科目群	いのち・人間の教育	いのち・人間	哲学と宗教	1前	○	2			○							1	オムニバス	
			心理学	1前			2		○							1		
			文学	2後			1		○							1		
			生命倫理学	1後			1		○							1		
			医療と人間	1前			1		○			2				4		
			小計 (5科目)	—	—	2	5	0	—			2	0	0	0	0		7
		社会科学	コミュニケーション概論	1後			2		○								1	
			経済学	1前			2		○								1	
			社会学	1前			2		○								1	
			法学	1前			2		○								1	
			歴史	1前			2		○								1	
			国際関係論	2後			1		○								1	
			認知科学	1後			1		○								1	
			人間関係論	2前			1		○								1	
			家族社会学	2後			1		○			1						
			ジェンダー論	2後			1		○								1	
			比較文化論	2後			1		○								1	
			小計 (11科目)	—	—	0	16	0	—			1	0	0	0	0	10	
		自然科学	基礎生物	1前			1		○								1	
			データサイエンス	1後	○	2			○					1			1	
			基礎数学	1前			1		○								1	
			物理学	1前			1		○								1	
			基礎化学	1前			1		○								1	
			スポーツ科学	1前・2後・3後			1		○								1	
			スポーツ実習	1前・2後・3後			1				○						1	
			小計 (7科目)	—	—	2	6	0	—			0	0	1	0	0	6	
		外国語	英語購読・記述	1後	○	2			○								5	
			英会話Ⅰ	1前	○	2			○								5	
			英会話Ⅱ	1後	○	2			○								5	
			英会話Ⅲ	2前			2		○								1	
			専門英語	3後			2		○								1	
			フランス語	1前			2		○								1	
			中国語	1前			2		○								1	
			小計 (7科目)	—	—	6	8	0	—			0	0	0	0	0	8	
		情報科学	情報リテラシー	1前	○	2			○				1				2	
			情報科学	1後	○	2			○				1				2	
			情報通信と保健医療	2後			2		○				1				2	
			小計 (3科目)	—	—	4	2	0	—			2	0	0	0	0	4	
管理栄養学 専攻科目群	医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	1前	○	2			○			1					オムニバス・共同 (一部)	
			体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	1後	○	2			○			1						
			公衆衛生学	2後	○	2			○				1					
			栄養学総論 (基礎栄養学)	1後	○	2			○				1					
			医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2前	○	2			○							1		
			応用生物	1前	○	1			○							1		
			応用化学	1前	○	1			○							1		
			キャリア教育Ⅰ	1前	○	1			○			5	2	4	2			7
			小計 (8科目)	—	—	13	0	0	—			5	4	4	2	0		10
		発展	医学・医療概論	1後	○	1			○				1	1				オムニバス
			臨床薬理学 (薬理学)	3後	○	2			○								1	
			医療マネジメント論	3前	○	2			○								1	
			キャリア教育Ⅱ	2後	○	1			○				1					
			キャリア教育Ⅲ	3後	○	1			○			1					1	
			小計 (5科目)	—	—	7	0	0	—			2	2	0	0	0	3	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を 教員以外の教員を除く）	
		実践	協働実践演習	4前	○	1				○		6	3	4	2		7	
			ボランティア論	1前	○	1			○								1	
			ボランティア活動	1前			1			○							1	
			小計（3科目）	—	—	2	1	0	—			6	3	4	2	0	8	
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	専門基礎	健康管理概論	1前	○	2			○				1					
			社会福祉総論	1前	○	2			○								1	
			食育論	1後			1		○								1	
			食文化論	1後			1		○								1	
			病理学Ⅰ（病態の系統的理解）	2後	○	2			○			1						
			病理学Ⅱ（病態の評価・診断）	3前	○	2			○			1						
			生化学Ⅰ（生体物質の構造と機能）	2前	○	2			○				1					
			生化学Ⅱ（生体物質の代謝）	2後	○	2			○				1					
			微生物学	2前	○	2			○								1	
			分子病態学	3前	○	2			○								1	
			解剖生理学実習	2前	○	1					○	1			1			
			生化学実験Ⅰ（生体物質の分析）	2前	○	1					○		1		1			
			生化学実験Ⅱ（生体物質の発現・代謝分析）	3後	○	1					○		1					
			薬物療法学	4前			1		○								1	
			病態生化学	4後			1		○								1	
			臨床検査学	4前			2		○								1	
			食品学Ⅰ （総論・食品の構成・生理および栄養機能）	1後	○	2			○			1						
			食品学Ⅱ （各論・食品の種類、性状、栄養特性・加工）	2前	○	2			○			1						
			食品衛生学	2前	○	2			○				1					
			食安全学	4前			2		○				1					
			調理学	1後	○	2			○			1						
			食品化学実験	1前	○	1					○		1					
			食品学実験	1後	○	1					○	1			1			
			食品加工学実習	3前	○	1					○	1						
			食品衛生学実験	2後	○	1					○		1					
			調理学実習Ⅰ（基本調理・日本食の理解）	1前	○	1					○	1						
			調理学実習Ⅱ （応用調理・食文化と献立作成）	1後	○	1					○	1						
			食品機能学	3前			1		○								1	
			サプリメント論	4後			1		○								1	
			調理科学実験	2前	○	1					○	1						
			食品流通論	3後			2		○								1	
			フーズスペシャリスト論	3前			2		○				1					
			フードコーディネート論	3前			2		○								1	
			食品の官能評価・鑑別論	2前			1		○			1					1	
			小計（34科目）	—	—	34	17	0	—			4	3	0	1	0	11	
	栄養学基礎		基礎栄養学特講	2前	○	1			○				1					
			栄養生理学実験	3後	○	1					○	1			1			
			小計（2科目）	—	—	2	0	0	—			1	1	0	1	0	0	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ（基本的理解・総論）	2前	○	2			○			1						
			応用栄養学Ⅱ （応用・特殊環境と栄養・実践）	2後	○	2			○			1						
			運動栄養学	3前	○	1			○						1			
			アスリート栄養学	3前			1		○								1	
			栄養学演習	1後	○	1				○				1				
			応用栄養学実習Ⅰ （ライフステージ別食事管理）	2前	○	1					○	1						
			応用栄養学実習Ⅱ （ライフステージ別栄養管理）	2後	○	1					○	1						
			小計（7科目）	—	—	8	1	0	—			1	0	1	1	0	1	
		栄養教育論	栄養教育論Ⅰ（基礎）	2前	○	2			○				1					
			栄養教育論Ⅱ （応用・ライフステージ別栄養教育）	2後	○	2			○				1					
			栄養教育論Ⅲ （応用・要介護者の栄養管理とカウンセリング）	3後	○	2			○								1	
			栄養教育論実習Ⅰ （基礎・ライフステージ別栄養教育）	2後	○	1					○		1					
			栄養教育論実習Ⅱ （応用・症例に基づく栄養教育）	3前	○	1					○		1					
			カウンセリング論	3前			1		○								1	
			小計（6科目）	—	—	8	1	0	—			0	1	0	0	0	2	
		臨床栄養学	医療栄養学概論	3後	○	2			○			1					7	オムニバス
			臨床栄養学Ⅰ（臨床症候と栄養障害の評価）	2後	○	2			○				1					
			臨床栄養学Ⅱ（疾患別・病態別栄養管理）	3前	○	2			○				1					
			臨床栄養学Ⅲ （チーム医療における栄養管理）	3後	○	2			○				1					
		臨床栄養学	臨床栄養学実習Ⅰ（基礎）	3前	○	1					○		1					
			臨床栄養学実習Ⅱ（応用と実践）	3後	○	1					○		1					
			臨床栄養実践演習	4後			1			○				1				
			小計（7科目）	—	—	10	1	0	—			1	1	1	0	0	7	
		公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ （地域栄養の現状と課題・公衆栄養マネジメント）	3前	○	2			○					1				
			公衆栄養学Ⅱ （国内外の健康・栄養施策・栄養疫学）	3後	○	2			○					1				
			公衆栄養学実習	3前	○	1					○			1			1	
			地域栄養学実習	3後			1				○			1				
			小計（4科目）	—	—	5	1	0	—			0	0	1	0	0	1	
		給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ（基礎）	2前	○	2			○					1				
			給食経営管理論Ⅱ （応用・実践・施設別給食管理）	2後	○	2			○				1					
			給食経営管理論実習	2後	○	1					○		1	1				
			小計（3科目）	—	—	5	0	0	—			0	1	1	0	0	0	
		総合演習	総合演習Ⅰ（基礎）	4前	○	1				○			1	2				オムニバス
			総合演習Ⅱ（応用・総合）	4後	○	1				○		5	6	2				
			小計（2科目）	—	—	2	0	0	—			5	6	2	0	0	0	
		臨地実習	臨地実習Ⅰ（給食経営管理）	3後	○		1				○		1	1	1			※選択必修 ※選択必修
			臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	3後	○		1				○			1			1	
			臨地実習Ⅲ （給食の運営・臨床栄養学・給食経営管理）	4前	○	3					○		2	1				
			小計（3科目）	—	—	3	2	0	—			0	2	2	1	0	1	
		その他	総合学習Ⅰ（食べ物・栄養と健康）	1前	○	1				○			1					オムニバス・共同（一部）
			総合学習Ⅱ（食べ物・栄養と疾病・治療）	2前	○	1				○					1			
			実用国語	1前			1		○			2		1			1	
			卒業研究	4通	○		4			○		5	6	2				
			小計（4科目）	—	—	2	5	0	—			5	6	2	1	0	1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助手を除く） 教員以外の教員	
栄養 教諭 教職 課程（一種免許状）	教育原理	2前				1	○								1	
	教職論	2前				2	○				1					
	教育制度論	2後				1	○				1					
	教育心理学	2前				2	○								1	
	特別支援教育の基礎	3前				1	○								1	
	教育課程論	2後				1	○								1	
	道德教育/総合的な学習の時間の指導法	3前				1	○								1	
	特別活動の指導法	3後				1	○								1	
	教育方法論	2後				1	○								1	
	生徒指導論	3前				1	○								1	
	学校教育相談	3後				2	○								1	
	栄養教育実習事前事後指導	4通				1	○				1			1	1	
	栄養教育実習	4前				1				○	1			1	1	
	教職実践演習（栄養教諭）	4後				2			○		1	1		1		
	学校栄養教育論	3前				2	○								1	
	学校栄養教育実践演習	3後				2			○						1	
	日本国憲法	3前				2	○								1	
	小計（17科目）		－	－	0	0	24	－			1	1	0	1	0	10
合計（138科目）		－	－	115	66	24	－			11	6	5	3	0	79	
学位又は称号		学士（医療保健学）		学位又は学科の分野					家政関係 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目は、「いのち・人間の教育」から14 単位、「医療のコラボレーション教育」から 22 単位、「専門職の教育」から 79 単位を修得する。選択科目は、上記 3 分野から 11 単位以上修得する。合計 126 単位以上修得する。 （履修科目の登録上限：45単位（年間）） なお、専門職の教育の選択科目のうち「臨地実習Ⅰ」及び「臨地実習Ⅱ」から1単位を選択必修とする。								1 学年の学期区分				4期				
								1 学期の授業期間				15週				
								1 時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(医療保健学部医療保健学科 臨床検査学専攻)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 （助手を除く） 教員以外の教員		
医療保健学科共通科目群	いのち・人間の教育	いのち・人間	哲学と宗教	1前	○	2			○							1	オムニバス	
			心理学	1前			2		○							1		
			文学	2後			1		○							1		
			生命倫理学	1後			1		○							1		
			医療と人間	1前			1		○			2				4		
			小計（5科目）	—	—	2	5	0	—			2	0	0	0	0		7
		社会科学	コミュニケーション概論	1後			2		○								1	
			経済学	1前			2		○								1	
			社会学	1前			2		○								1	
			法学	1前			2		○								1	
			歴史	1前			2		○								1	
			国際関係論	2後			1		○								1	
			認知科学	1後			1		○								1	
			人間関係論	2前			1		○								1	
			家族社会学	2後			1		○			1					1	
			ジェンダー論	2後			1		○								1	
			比較文化論	2後			1		○								1	
			小計（11科目）	—	—	0	16	0	—			1	0	0	0	0	10	
		自然科学	基礎生物	1前			1		○								1	
			データサイエンス	1後	○	2			○					1			1	
			基礎数学	1前			1		○								1	
			物理学	1前			1		○								1	
			基礎化学	1前			1		○								1	
			スポーツ科学	1前・2後・3後			1		○								1	
			スポーツ実習	1前・2後・3後			1				○						1	
			小計（7科目）	—	—	2	6	0	—			0	0	1	0	0	6	
		外国語	英語購読・記述	1後	○	2			○								5	
			英会話Ⅰ	1前	○	2			○								5	
			英会話Ⅱ	1後	○	2			○								5	
			英会話Ⅲ	2前			2		○								1	
			専門英語	3後			2		○								1	
			フランス語	1前			2		○								1	
			中国語	1前			2		○								1	
			小計（7科目）	—	—	6	8	0	—			0	0	0	0	0	8	
		情報科学	情報リテラシー	1前	○	2			○			1					2	
			情報科学	1後	○	2			○			1					2	
			情報通信と保健医療	2後			2		○			1					2	
			小計（3科目）	—	—	4	2	0	—			2	0	0	0	0	4	
臨床検査学専攻科目群	医療の コラボレーション教育	入門	体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）	1前	○	2			○			1					オムニバス・共同（一部）	
			体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系）	1後	○	2			○			1						
			公衆衛生学	2後	○	2			○				1					
			栄養学総論（基礎栄養学）	1後	○	2			○				1					
			医療安全管理学 （臨床工学・危機管理学・感染制御学）	2前			2		○							1		
			応用生物	1前	○	1			○							1		
			応用化学	1前	○	1			○							1		
			キャリア教育Ⅰ	1前	○	1			○			5	2	4	2			7
			小計（8科目）	—	—	11	2	0	—			5	4	4	2	0		10
		発展	医学・医療概論	1後			1		○			1	1					オムニバス
			臨床薬理学(薬理学)	3後	○	2			○								1	
			医療マネジメント論	3前			2		○								1	
			キャリア教育Ⅱ	2後	○	1			○				1					
			キャリア教育Ⅲ	3後			1		○			1					1	
			小計（5科目）	—	—	3	4	0	—			2	2	0	0	0	3	
		実践	協働実践演習	4前	○	1				○		6	3	4	2		7	
			ボランティア論	1前			1		○								1	
			ボランティア活動	1前			1			○							1	
			小計（3科目）	—	—	1	2	0	—			6	3	4	2	0	8	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員 （助手を除く）	
	専門基礎分野	社会・健康環境	健康管理概論	1前			2		○				1					
			社会福祉総論	1前			2		○								1	
			食育論	1後			1		○								1	
			食文化論	1後			1		○								1	
			小計（4科目）	—	—	0	6	0	—			0	1	0	0	0	3	
臨床検査学専攻科目群	専門基礎分野	人体の構造と機能 及び疾患の成り立ち	病理学Ⅰ（病態の系統的理解）	2後	○	2			○			1						
			病理学Ⅱ（病態の評価・診断）	3前	○	2			○			1						
			生化学Ⅰ（生体物質の構造と機能）	2前			2		○				1					
			生化学Ⅱ（生体物質の代謝）	2後			2		○				1					
			微生物学	2前	○	2			○								1	
			分子病態学	3前			2		○								1	
			解剖生理学実習	2前	○	1					○	1						
			生化学実験Ⅰ（生体物質の分析）	2前	○	1					○		1					
			生化学実験Ⅱ（生体物質の発現・代謝分析）	3後			1				○		1					
			薬物療法学	4前			1		○								1	
			病態生化学	4後			1		○								1	
			臨床検査学	4前			1		○								1	
			小計（12科目）	—	—	8	10	0	—			2	1	0	0	0	4	
	臨床検査学専攻科目群	病態学	臨床検査生化学	2前	○	2			○			1						
			臨床検査医学総論	3後	○	2			○			1						
			薬理学	1後	○	2			○								1	
			臨床検査栄養学	2後	○	2			○								1	
			チーム医療概論	4前	○	1			○			1						
			小計（5科目）	—	—	9	0	0	—			2	0	0	0	0	2	
		公衆衛生	医学概論	1前	○	1			○			1						
			臨床検査関係法規	2後	○	1			○				1					
			小計（2科目）	—	—	2	0	0	—			1	1	0	0	0	0	
		医用概論工学	医用工学・情報科学概論	2前	○	2			○				1					
			医用工学実習	2後	○	1					○		1					
			検査機器総論	2前	○	2			○				1					
			小計（3科目）	—	—	5	0	0	—			0	1	0	0	0	0	
		血液検査学	血液検査学総論	2前	○	2			○			1						
			血液検査学	2後	○	2			○			1						
			血液検査学実習	3前	○	1					○	1	1					
			小計（3科目）	—	—	5	0	0	—			1	1	0	0	0	0	
		病理検査学	病理検査学	2後	○	2			○				1					
			病理細胞検査学	3前	○	2			○				1					
			病理検査学実習	3後	○	1					○		1					
			小計（3科目）	—	—	5	0	0	—			0	1	0	0	0	0	
		等尿一般糞便検査学	一般検査学・寄生虫検査学	2前	○	2			○					1				
			一般検査学・寄生虫検査学実習	2前	○	1					○			1				
			小計（2科目）	—	—	3	0	0	—			0	0	1	0	0	0	
		疫学・生化学検査学・免疫検査学	生化学検査学	2後	○	2			○								1	
			免疫検査学	2後	○	2			○								1	
			生化学検査学実習	3前	○	1					○						1	
			免疫検査学実習	3前	○	1					○		1	1				
			小計（4科目）	—	—	6	0	0	—			0	1	1	0	0	2	
		体連遺伝子検査・伝染子学色関	遺伝子関連・染色体検査学	2後	○	2			○			1						
			遺伝子関連・染色体検査学実習	3前	○	1					○	1	1					
			小計（2科目）	—	—	3	0	0	—			1	1	0	0	0	0	
		輸血・移植検査学	輸血・移植検査学	3前	○	2			○								1	
			輸血・移植検査学実習	3後	○	1					○			1			1	
			輸血・移植検査学演習	3後	○	1				○							1	
			小計（3科目）	—	—	4	0	0	—			0	0	1	0	0	1	

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
		微生物検査学	微生物検査学Ⅰ	2後	○	2			○			1							
			微生物検査学Ⅱ	3前	○	2			○			1							
			微生物検査学実習	3後	○	2					○	1							
			小計（3科目）	—	—	6	0	0	—			1	0	0	0	0	0		
		生理検査学	生理検査学Ⅰ	3前	○	2			○									1	
			生理検査学Ⅱ	3前	○	2			○									1	
			生理検査学Ⅲ	3後	○	2			○									1	
			生理検査学実習Ⅰ	3後	○	1						○	1	1				1	
			生理検査学実習Ⅱ	3後	○	1						○	1	1				1	
			生理検査学実習Ⅲ	4前	○	1						○	1	1				1	
			生理検査学演習	4前	○	2				○								1	
		小計（7科目）	—	—	11	0	0	—			1	1	1	0	0	1			
		総合臨床検査管理学	検査管理総論	3前	○	2			○				1						オムニバス オムニバス
	検査精度管理学		4前	○	2			○									1		
	臨床検査総合演習Ⅰ		4後	○	1			○				1	1				2		
	臨床検査総合演習Ⅱ		4後	○	1			○				2	1	1					
	小計（4科目）	—	—	6	0	0	—			3	2	1	0	0	2				
	医療安全	臨床検査医療安全管理学	3後	○	2			○				1							
		臨床検査医療安全管理学実習	4前	○	1						○	1	1						
		小計（2科目）	—	—	3	0	0	—			1	1	0	0	0	0			
臨床検査学専攻科目群	専門応用分野	お上 げる 臨地 実 に 習	臨地実習前評価	4前	○	1			○			3	1	1			2	オムニバス	
			生理検査学に関する臨地実習	4前	○	3					○	3	2	1					
			生理検査学以外の臨地実習	4前	○	8					○	3	2	1					
			小計（3科目）	—	—	12	0	0	—			3	2	1	0	0	2		
		その他	実用国語	1前			1		○				2		1			1	オムニバス・共同（一部）
	卒業研究		4通			4					○	3	2	1					
	小計（2科目）		—	—	0	5	0	—			5	2	2	0	0	1			
	合計（113科目）				—	—	117	66	0	—			13	9	5	2	0	60	
	学位又は称号			学士（医療保健学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）									
	卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等									
必修科目は「いのち・人間の教育」から14単位、「医療のコラボレーション教育」から15単位、「専門科目」から88単位の必修科目と選択科目9単位以上の合計126単位以上を修得する。 （履修科目の登録上限：45単位（年間））									1学年の学期区分				4期						
									1学期の授業期間				15週						
									1時限の授業の標準時間				90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(医療保健学部医療保健学科 臨床工学専攻)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
医療保健学科共通科目群	いのち・人間の教育	いのち・人間	哲学と宗教	1前	○	2			○							1	オムニバス	
			心理学	1前			2		○							1		
			文学	2後			1		○							1		
			生命倫理学	1後			1		○							1		
			医療と人間	1前			1		○			2				4		
			小計（5科目）	—	—	2	5	0	—			2	0	0	0	0		7
		社会科学	コミュニケーション概論	1後			2		○								1	
			経済学	1前			2		○								1	
			社会学	1前			2		○								1	
			法学	1前			2		○								1	
			歴史	1前			2		○								1	
			国際関係論	2後			1		○								1	
			認知科学	1後			1		○								1	
			人間関係論	2前			1		○								1	
			家族社会学	2後			1		○			1					1	
			ジェンダー論	2後			1		○								1	
			比較文化論	2後			1		○								1	
			小計（11科目）	—	—	0	16	0	—			1	0	0	0	0	10	
		自然科学	基礎生物	1前			1		○								1	
			データサイエンス	1後	○	2			○						1		1	
			基礎数学	1前			1		○								1	
			物理学	1前			1		○								1	
			基礎化学	1前			1		○								1	
			スポーツ科学	1前・2後・3後			1		○								1	
			スポーツ実習	1前・2後・3後			1				○						1	
			小計（7科目）	—	—	2	6	0	—			0	0	1	0	0	6	
		外国語	英語購読・記述	1後	○	2			○								5	
			英会話Ⅰ	1前	○	2			○								5	
			英会話Ⅱ	1後	○	2			○								5	
			英会話Ⅲ	2前			2		○								1	
			専門英語	3後			2		○								1	
			フランス語	1前			2		○								1	
			中国語	1前			2		○								1	
			小計（7科目）	—	—	6	8	0	—			0	0	0	0	0	8	
		情報科学	情報リテラシー	1前	○	2			○			1					2	
			情報科学	1後	○	2			○			1					2	
			情報通信と保健医療	2後			2		○			1					2	
			小計（3科目）	—	—	4	2	0	—			2	0	0	0	0	4	
臨床工学専攻科目群	医療の コラボレーション教育	入門	体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）	1前	○	2			○			1						
			体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系）	1後	○	2			○			1						
			公衆衛生学	2後	○	2			○				1					
			栄養学総論（基礎栄養学）	1後			2		○				1					
			医療安全管理学 （臨床工学・危機管理学・感染制御学）	2前			2		○									1
			応用生物	1前	○	1			○									1
			応用化学	1前			1		○									1
			キャリア教育Ⅰ	1前	○	1			○			5	2	4	2	0		7
			小計（8科目）	—	—	8	5	0	—			6	4	4	2	0		10
		発展	医学・医療概論	1後			1		○			1	1					オムニバス
			臨床薬理学(薬理学)	3後	○	2			○								1	
			医療マネジメント論	3前			2		○								1	
			キャリア教育Ⅱ	2後	○	1			○			2						
			キャリア教育Ⅲ	3後			1		○			2						
			小計（5科目）	—	—	3	4	0	—			3	1	0	0	0	2	
		実践	協働実践演習	4前	○	1				○		6	3	4	2		7	
			ボランティア論	1前	○	1			○								1	
			ボランティア活動	1前			1			○							1	
			小計（3科目）	—	—	2	1	0	—			6	3	4	2	0	8	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
	専門基礎分野	解剖生理学・生理学	解剖生理学実習	2前	○	1					○	1						オムニバス
			臨床工学演習Ⅱ	4後	○	1				○		1	1					
			小計（2科目）	—	—	2	0	0	—			2	1	0	0	0	0	
			生化学（臨床工学）	2前	○	1			○			1						
		学生化学	小計（1科目）	—	—	1	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
			医学概論	1後	○	1			○			1						
			小計（1科目）	—	—	1	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
			臨床工学病理学	2後	○	2			○			1						
		学病理	小計（1科目）	—	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
			免疫検査学	2後	○	2			○								1	
		免疫学	輸血・移植検査学	3前	○	2			○								1	
			小計（2科目）	—	—	4	0	0	—	—		0	0	0	0	0	2	
		療ムチ論概医Ⅰ	チーム医療概論	4前	○	1			○			1						
			小計（1科目）	—	—	1	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
		法関係	関係法規	2後	○	1			○				1					
			小計（1科目）	—	—	1	0	0	—			0	1	0	0	0	0	
		数応学用	情報数学	1前	○	2			○								1	
			基礎数学Ⅱ	1後	○	2			○								1	
			小計（2科目）	—	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	2	
		・電気工学	電気工学Ⅰ	2前	○	2			○						1			
			電気工学Ⅱ	2後	○	2			○						1			
			電気磁気学	4後	○	1			○						1			
			電子工学Ⅰ	2前	○	2			○						1			
			電子工学Ⅱ	2後	○	2			○						1			
			電気・電子工学実習	3後	○	1					○				1			
			小計（6科目）	—	—	10	0	0	—			0	0	0	1	0	0	
		工機学械	医用機械工学	1後	○	2			○			1						
			小計（1科目）	—	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
		工計学測	計測工学	2後	○	2			○			1						
			小計（1科目）	—	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
		医用工学①	システム工学	2後	○	2			○			1						
			医用工学・情報科学概論	2前	○	2			○				1					
			コンピュータシステム	1前	○	2			○					1				
			小計（3科目）	—	—	6	0	0	—			1	1	1	0	0	0	
		学生料・体工医物学用性材工	生体物性工学	2前	○	2			○			1						
			医用材料工学	2後	○	1			○			1						
			生体物性・材料工学	4後	○	1			○			1						
			小計（3科目）	—	—	4	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
		②工医学用	臨床工学演習Ⅰ	4後	○	1				○		1	1		1			オムニバス
			小計（1科目）	—	—	1	0	0	—			1	1	0	1	0	0	
		論学機医	医用機器学概論	1後	○	2			○			1						
			小計（1科目）	—	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0	
		機医器用学治①療	医用治療機器学Ⅰ	2前	○	2			○				1					
			医用治療機器学実習	2後	○	1					○		1					
			小計（2科目）	—	—	3	0	0	—			0	1	0	0	0	0	
		生体計測装置学	生体計測装置学Ⅰ	2前	○	2			○			1						
			生体計測装置学Ⅱ	2後	○	2			○			1						
			生体計測学基礎	1後	○	1			○			1						
			生体計測装置学実習	3前	○	1						1						
			画像診断学	4後	○	1			○								1	
			小計（5科目）	—	—	7	0	0	—			1	0	0	0	0	1	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 教員（助手を除く） 以外の教員	
専門 応用 分野	学 技支臨 術援床	臨床支援技術学	3前	○	2			○					1					
		小計（1科目）	—	—	2	0	0	—			0	1	0	0	0	0		
	生 体 機 能 代 行 技 術 学	生体機能代行装置学概論	1後	○	1			○					1					
		生体機能代行装置学Ⅰ	2前	○	2			○					1					
		生体機能代行装置学Ⅱ	2後	○	2			○					1					
		生体機能代行装置学Ⅲ	3前	○	2			○					1					
		生体機能代行装置学Ⅳ	3後	○	2			○					1					
		生体機能代行装置学実習Ⅰ	2前	○	1						○		1					
		生体機能代行装置学実習Ⅱ	2後	○	1						○		1					
		生体機能代行装置学実習Ⅲ	3前	○	1						○		1					
		小計（8科目）	—	—	12	0	0	—			0	1	0	0	0	0		
	医 療 安 全 管 理 学	医用機器安全管理学Ⅰ	3前	○	2			○					1					
		医用機器安全管理学Ⅱ	3後	○	2			○					1					
		医療安全管理学（臨床工学）	4後	○	1			○				1						
		医用機器安全管理学実習	3後	○	1						○		1					
		小計（4科目）	—	—	6	0	0	—			1	1	0	0	0	0		
	学機治医 ②器療用	医療治療機器学Ⅱ	2後	○	2			○					1					
		小計（1科目）	—	—	2	0	0	—			0	1	0	0	0	0		
	臨 床 医 学 総 論	臨床医学総論Ⅰ	2前	○	2			○				1						
		臨床医学総論Ⅱ	3前	○	2			○				1						
		手術・集中治療学	3後	○	2			○				1						
		生理検査学Ⅰ	3前	○	2			○									1	
		生理検査学Ⅱ	3前	○	2			○									1	
		小計（5科目）	—	—	10	0	0	—			1	0	0	0	0	0	1	
臨床工学専攻科目群	専門 応用 分野	臨 床 実 習	技術・知識の到達度評価（臨床工学）	4前	○	1				○			2					
			臨床実習	4前	○	6					○		2		1			
			小計（2科目）	—	—	7	0	0	—			0	2	0	1	0	0	
	そ の 他	実用国語	1前			1		○				2		1			1	オムニバス・共同（一部）
		卒業研究	4通			4			○			2						
小計（2科目）	—	—	0	5	0	—			4	0	1	0	0	0	1			
合計（106科目）			—	—	119	52	0	—			12	11	5	3	0	55		
学位又は称号			学士（医療保健学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）									
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等									
必修科目は「いのち・人間の教育」から14単位、「医療のコラボレーション教育」から12単位、「専門科目」から92単位の必修科目と選択科目8単位以上の合計126単位以上を修得する。 （履修科目の登録上限：45単位（年間））									1 学年の学期区分			4期						
									1 学期の授業期間			15週						
									1 時限の授業の標準時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(医療保健学部医療保健学科 医療情報学専攻)																				
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 （助手を除く） 教員以外の教員			
医療保健学科 共通科目群	いのち・人間の教育	いのち・人間	哲学と宗教	1前	○	2			○								1	オムニバス		
			心理学	1前				2		○									1	
			文学	2後				1		○									1	
			生命倫理学	1後				1		○									1	
			医療と人間	1前				1		○			2						4	
			小計（5科目）	—	—	2	5	0	—			2	0	0	0	0	7			
		社会科学	コミュニケーション概論	1後				2		○								1		
			経済学	1前				2		○								1		
			社会学	1前				2		○								1		
			法学	1前				2		○								1		
			歴史	1前				2		○								1		
			国際関係論	2後				1		○								1		
			認知科学	1後				1		○								1		
			人間関係論	2前				1		○								1		
			家族社会学	2後				1		○			1							
			ジェンダー論	2後				1		○								1		
			比較文化論	2後				1		○								1		
			小計（11科目）	—	—	0	16	0	—			1	0	0	0	0	10			
		自然科学	基礎生物	1前				1		○								1		
			データサイエンス	1後	○	2				○						1				1
			基礎数学	1前				1		○								1		
			物理学	1前				1		○								1		
			基礎化学	1前				1		○								1		
			スポーツ科学	1前・2後・3後				1		○								1		
			スポーツ実習	1前・2後・3後				1				○						1		
			小計（7科目）	—	—	2	6	0	—			0	0	1	0	0	6			
		外国語	英語購読・記述	1後	○	2				○								5		
			英会話Ⅰ	1前	○	2				○								5		
			英会話Ⅱ	1後	○	2				○								5		
			英会話Ⅲ	2前				2		○								1		
			専門英語	3後				2		○								1		
			フランス語	1前				2		○								1		
			中国語	1前				2		○								1		
			小計（7科目）	—	—	6	8	0	—			0	0	0	0	0	8			
		情報科学	情報リテラシー	1前	○	2				○				1				2		
			情報科学	1後	○	2				○				1				2		
			情報通信と保健医療	2後				2		○				1				2		
			小計（3科目）	—	—	4	2	0	—			2	0	0	0	0	4			
医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）	1前	○	2				○				1					オムニバス・共同（一部）		
		体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系）	1後	○	2				○				1							
		公衆衛生学	2後				2		○								1			
		栄養学総論（基礎栄養学）	2前				2		○				1							
		医療安全管理学 （臨床工学・危機管理学・感染制御学）	2前	○	2				○			1					1			
		応用生物	1前				1		○								1			
		応用化学	1前				1		○								1			
		キャリア教育Ⅰ	1前	○	1				○			5	2	4	2	0	7			
		小計（8科目）	—	—	7	6	0	—			6	3	4	2	0	11				
	発展	医学・医療概論	1前	○	1				○				1							
		臨床薬理学（薬理学）	3後				2		○								1			
		医療マネジメント論	3後				2		○								1			
		キャリア教育Ⅱ	2後	○	1				○								1			
		キャリア教育Ⅲ	3前	○	1				○								1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
必修科目を57単位、及び選択科目を専門職の教育分野「医療情報」「ヘルスケア」「情報科学」から各8単位以上修得した上で、合計 124単位以上修得する。 （履修科目の登録上限：45単位（年間））							1 学年の学期区分								4期	
							1 学期の授業期間								15週	
							1 時限の授業の標準時間								90分	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医療保健学部医療栄養学科 管理栄養学専攻)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
いのち・人間の教育	いのち・人間	哲学と宗教	1前	○	2			○								1	オムニバス
		心理学	1前			2		○								1	
		文学	2後			1		○			1					1	
		生命倫理学	1後			1		○								1	
		医療と人間	1前			1		○			1					5	
		小計（5科目）	—	—	2	5	0	—			2	0	0	0	0	7	
	社会科学	コミュニケーション概論	1後			2		○								1	
		経済学	1前			2		○								1	
		社会学	1前			2		○								1	
		法学	1前			2		○								1	
		歴史	1前			2		○								1	
		国際関係論	2後			1		○								1	
		認知科学	1後			1		○								1	
		人間関係論	2前			1		○								1	
		家族社会学	2後			1		○			1					1	
		ジェンダー論	2後			1		○								1	
		比較文化論	2後			1		○								1	
		小計（11科目）	—	—	0	16	0	—			2	0	0	0	0	9	
	自然科学	生物Ⅰ	1前			1		○					1				
		生物Ⅱ	1前	○	1			○								1	
		データサイエンス	1後	○	2			○								2	
		基礎数学	1前			1		○								1	
		物理学	1前			1		○								1	
		化学Ⅰ	1前			1		○								1	
		化学Ⅱ	1前	○	1			○								1	
		スポーツ科学	1前・2後・3後			1		○								1	
		スポーツ実習	1前・2後・3後			1				○						1	
		小計（9科目）	—	—	4	6	0	—			0	1	0	0	0	7	
	外国語	英語購読・記述	1後	○	2			○								3	
		英会話Ⅰ	1前	○	2			○								3	
		英会話Ⅱ	1後	○	2			○								3	
		英会話Ⅲ	2前			2		○								1	
		専門英語	3後			2		○								1	
		フランス語	1前			2		○								1	
		中国語	1前			2		○								1	
		小計（7科目）	—	—	6	8	0	—			0	0	0	0	0	6	
	情報科学	情報リテラシー	1前	○	2			○								3	
		情報科学	1後			2		○								3	
		情報通信と保健医療	2後			2		○								3	
		小計（3科目）	—	—	2	4	0	—			0	0	0	0	0	6	
医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）	1前	○	2			○			1					オムニバス・共同（一部）	
		体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系）	1後	○	2			○			1						
		公衆衛生学	2後	○	2			○				1					
		栄養学総論（基礎栄養学）	1後	○	2			○				1					
		医療安全管理学 （臨床工学・危機管理学・感染制御学）	2前	○	2			○							1		
		キャリア教育Ⅰ	1前	○	1			○			2	2	2				13
		小計（6科目）	—	—	11	0	0	—			2	4	2	0	0		14
	発展	医学・医療概論	1後	○	1			○			1	1					オムニバス
		臨床薬理学（薬理学）	3後	○	2			○								1	
		医療マネジメント論	3前	○	2			○								1	
		キャリア教育Ⅱ	2後	○	1			○				1					
		キャリア教育Ⅲ	3後	○	1			○			2						
小計（5科目）	—	—	7	0	0	—			3	2	0	0	0	2			

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
	実践	協働実践演習	4前	○	1				○		4	3	2			15	
		ボランティア論	1前	○	1			○								1	
		ボランティア活動	1前			1			○							1	
		小計（3科目）	—	—	2	1	0	—			4	3	2	0	0	16	
専門職の教育分野	専門基礎	健康管理概論	1前	○	2			○				1					
		社会福祉総論	1前	○	2			○								1	
		食育論	1後			1		○								1	
		食文化論	1後			1		○			1						
		病理学Ⅰ（病態の系統的理解）	2後	○	2			○			1						
		病理学Ⅱ（病態の評価・診断）	3前	○	2			○			1						
		生化学Ⅰ（生体物質の構造と機能）	2前	○	2			○				1					
		生化学Ⅱ（生体物質の代謝）	2後	○	2			○				1					
		微生物学	2前	○	2			○								1	
		分子病態学	3前	○	2			○								1	
		解剖生理学実習	2前	○	1					○	1			1			
		生化学実験Ⅰ（生体物質の分析）	2前	○	1					○		1		1			
		生化学実験Ⅱ（生体物質の発現・代謝分析）	3後	○	1					○		1					
		薬物療法学	4前			1		○								1	
		病態生化学	4後			1		○								1	
		臨床検査学	4前			2		○								1	
		食品学Ⅰ （総論・食品の構成・生理および栄養機能）	1後	○	2			○			1						
		食品学Ⅱ （各論・食品の種類、性状、栄養特性・加工）	2前	○	2			○			1						
		食品衛生学	2前	○	2			○				1					
		食安全学	4前			2		○				1					
		調理学	1後	○	2			○			1						
		食品化学実験	1前	○	1					○		1					
		食品学実験	1後	○	1					○	1			1			
		食品加工学実習	3前	○	1					○	1						
		食品衛生学実験	2後	○	1					○		1					
		調理学実習Ⅰ（基本調理・日本食の理解）	1前	○	1					○	1						
		調理学実習Ⅱ（応用調理・食文化と献立作成）	1後	○	1					○	1						
		食品機能学	3前			1		○								1	
		サプリメント論	4後			1		○								1	
		調理科学実験	2前	○	1					○	1					1	
		食品流通論	3後			2		○								1	
		フードスペシャリスト論	3前			2		○				1					
		フードコーディネート論	3前			2		○								1	
		食品の官能評価・鑑別論	2前			1		○			1					1	
		小計（34科目）	—	—	34	17	0	—			5	3	0	1	0	10	
	栄養基礎学	基礎栄養学特講	2前	○	1			○				1					
		栄養生理学実験	3後	○	1					○	1			1			
		小計（2科目）	—	—	2	0	0	—			1	1	0	1	0	0	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ（基本的理解・総論）	2前	○	2			○				1					
		応用栄養学Ⅱ（応用・特殊環境と栄養・実践）	2後	○	2			○				1					
		運動栄養学	3前	○	1			○						1			
		アスリート栄養学	3前			1		○								1	
		栄養学演習	1後	○	1				○				1				
		応用栄養学実習Ⅰ （ライフステージ別食事管理）	2前	○	1					○		1					
		応用栄養学実習Ⅱ （ライフステージ別栄養管理）	2後	○	1					○		1					
		小計（7科目）	—	—	8	1	0	—			0	1	1	1	0	1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門職の教育分野	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ（基礎）	2前	○	2		○				1					
		栄養教育論Ⅱ （応用・ライフステージ別栄養教育）	2後	○	2		○				1					
		栄養教育論Ⅲ （応用・要介護者の栄養管理とカウンセリング）	3後	○	2		○								1	
		栄養教育論実習Ⅰ （基礎・ライフステージ別栄養教育）	2後	○	1				○		1					
		栄養教育論実習Ⅱ （応用・症例に基づく栄養教育）	3前	○	1				○		1					
		カウンセリング論	3前		1		○								1	
		小計（6科目）	－	－	8	1	0	－			0	1	0	0	0	2
	臨床栄養学	医療栄養学概論	3後	○	2		○			1					8	オムニバス
		臨床栄養学Ⅰ（臨床症候と栄養障害の評価）	2後	○	2		○				1					
		臨床栄養学Ⅱ（疾患別・病態別栄養管理）	3前	○	2		○			1						
		臨床栄養学Ⅲ（チーム医療における栄養管理）	3後	○	2		○			1						
		臨床栄養学実習Ⅰ（基礎）	3前	○	1				○	1						
		臨床栄養学実習Ⅱ（応用と実践）	3後	○	1				○		1					
		臨床栄養実践演習	4後		1			○				1				
		小計（7科目）	－	－	10	1	0	－			2	1	1	0	0	8
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ （地域栄養の現状と課題・公衆栄養マネジメント）	3前	○	2		○					1				
		公衆栄養学Ⅱ （国内外の健康・栄養施策・栄養疫学）	3後	○	2		○					1				
		公衆栄養学実習	3前	○	1				○			1			1	
		地域栄養学実習	3後		1				○			1				
		小計（4科目）	－	－	5	1	0	－			0	0	1	0	0	1
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ（基礎）	2前	○	2		○					1				
		給食経営管理論Ⅱ （応用・実践・施設別給食管理）	2後	○	2		○				1					
		給食経営管理論実習	2後	○	1				○		1	1				
		小計（3科目）	－	－	5	0	0	－			0	1	1	0	0	0
	総合演習	総合演習Ⅰ（基礎）	4前	○	1			○		1	1	2				オムニバス
		総合演習Ⅱ（応用・総合）	4後	○	1			○		4	7	1				
		小計（2科目）	－	－	2	0	0	－			5	7	2	0	0	0
	臨地実習	臨地実習Ⅰ（給食経営管理）	3後	○	1						1	1	1			※選択必修 ※選択必修
		臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	3後	○	1							1			1	
		臨地実習Ⅲ （給食の運営・臨床栄養学・給食経営管理）	4前	○	3					1	2	1				
		小計（3科目）	－	－	4	0	0	－			1	2	2	1	0	1
	その他	総合学習Ⅰ （食べ物・栄養と健康）	1前	○	1				○		1					オムニバス
		総合学習Ⅱ （食べ物・栄養と疾病・治療）	2前	○	1				○				1			
		実用国語	1前			1	○			2					1	
		卒業研究	4通	○		4		○		6	7	2				
		小計（4科目）	－	－	2	5	0	－			6	7	2	1	0	1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助手を除く） 教員以外の教員	
栄養 教諭 教職 課程（一種免許状）	教育原理	2前				1	○								1	
	教職論	2前				2	○				1					
	教育制度論	2後				1	○				1					
	教育心理学	2前				2	○								1	
	特別支援教育の基礎	3前				1	○								1	
	教育課程論	2後				1	○								1	
	道德教育/総合的な学習の時間の指導法	3前				1	○								1	
	特別活動の指導法	3後				1	○			1						
	教育方法論	2後				1	○								1	
	生徒指導論	3前				1	○								1	
	学校教育相談	3後				2	○								1	
	栄養教育実習事前事後指導	4通				1	○			2			1			
	栄養教育実習	4前				1			○	2			1			
	教職実践演習（栄養教諭）	4後				2		○		1	1		1			
	学校栄養教育論	3前				2	○								1	
	学校栄養教育実践演習	3後				2		○							1	
	日本国憲法	3前				2	○								1	
小計（17科目）		－	－	0	0	24	－			2	1	0	1	0	9	
合計（138科目）		－	－	114	66	24	－			8	7	3	1	0	83	
学位又は称号		学士（医療栄養学）		学位又は学科の分野					家政関係 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目は、「いのち・人間の教育」から14 単位、「医療のコラボレーション教育」から 20 単位、「専門職の教育」から 80 単位（なお、「臨地実習Ⅰ」及び「臨地実習Ⅱ」については、どちらか一方を必ず選択し、単位を取得しなければならない）を修得する。選択科目は、上記 3 分野から 12 単位以上修得する。合計 126 単位以上修得する。 （履修科目の登録上限：45単位（年間））								1 学年の学期区分				2期				
								1 学期の授業期間				15週				
								1 時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医療保健学部医療栄養学科 臨床検査学専攻)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
いのち・人間の教育	いのち・人間	哲学と宗教	1前	○	2			○								1	オムニバス
		心理学	1前			2		○								1	
		文学	2後			1		○			1						
		生命倫理学	1後			1		○								1	
		医療と人間	1前			1		○			1					5	
		小計（5科目）	－	－	2	5	0	－			2	0	0	0	0	7	
	社会科学	コミュニケーション概論	1後			2		○								1	
		経済学	1前			2		○								1	
		社会学	1前			2		○								1	
		法学	1前			2		○								1	
		歴史	1前			2		○			1					1	
		国際関係論	2後			1		○								1	
		認知科学	1後			1		○								1	
		人間関係論	2前			1		○								1	
		家族社会学	2後			1		○			1						
		ジェンダー論	2後			1		○								1	
		比較文化論	2後			1		○								1	
		小計（11科目）	－	－	0	16	0	－			2	0	0	0	0	9	
	自然科学	生物Ⅰ	1前			1		○								1	
		生物Ⅱ	1前	○	1			○								1	
		データサイエンス	1後	○	2			○								2	
		基礎数学	1前			1		○								1	
		物理学	1前			1		○								1	
		化学Ⅰ	1前			1		○								1	
		化学Ⅱ	1前	○	1			○								1	
		スポーツ科学	1前・2後・3後			1		○								1	
		スポーツ実習	1前・2後・3後			1				○						1	
		小計（9科目）	－	－	4	6	0	－			0	0	0	0	0	8	
	外国語	英語購読・記述	1後	○	2			○								3	
		英会話Ⅰ	1前	○	2			○								3	
		英会話Ⅱ	1後	○	2			○								3	
		英会話Ⅲ	2前			2		○								1	
		専門英語	3後			2		○								1	
		フランス語	1前			2		○								1	
		中国語	1前			2		○								1	
		小計（7科目）	－	－	6	8	0	－			0	0	0	0	0	6	
	情報科学	情報リテラシー	1前	○	2			○								3	
		情報科学	1後	○	2			○								3	
		情報通信と保健医療	2後			2		○								3	
		小計（3科目）	－	－	4	2	0	－			0	0	0	0	0	6	
医療の コラボレーション教育	入門	体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）	1前	○	2			○			1					オムニバス・共同（一部）	
		体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系）	1後	○	2			○			1						
		公衆衛生学	2後	○	2			○				1					
		栄養学総論（基礎栄養学）	1後	○	2			○				1					
		医療安全管理学 （臨床工学・危機管理学・感染制御学）	2前			2		○									1
		キャリア教育Ⅰ	1前	○	1			○			2	2	2				13
		小計（6科目）	－	－	9	2	0	－			2	4	2	0	0		14
	発展	医学・医療概論	1後			1		○			1	1					オムニバス
		臨床薬理学(薬理学)	3後	○	2			○								1	
		医療マネジメント論	3前			2		○								1	
		キャリア教育Ⅱ	2後	○	1			○				1					
		キャリア教育Ⅲ	3後			1		○			2						
		小計（5科目）	－	－	3	4	0	－			3	2	0	0	0	2	
	実践	協働実践演習	4前	○	1				○		4	3	2			15	
		ボランティア論	1前			1		○								1	
		ボランティア活動	1前			1			○							1	
		小計（3科目）	－	－	1	2	0	－			4	3	2	0	0	16	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員 (助手を除く)	
専門基礎分野	社会・環境と健康	健康管理概論	1前			2		○				1					
		社会福祉総論	1前			2		○								1	
		食育論	1後			1		○								1	
		食文化論	1後			1		○			1						
		小計（4科目）	—	—	0	6	0	—			1	1	0	0	0	2	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾患の成り立ち	病理学Ⅰ（病態の系統的理解）	2後	○	2			○			1						
		病理学Ⅱ（病態の評価・診断）	3前	○	2			○			1						
		生化学Ⅰ（生体物質の構造と機能）	2前			2		○				1					
		生化学Ⅱ（生体物質の代謝）	2後			2		○				1					
		微生物学	2前	○	2			○								1	
		分子病理学	3前			2		○								1	
		解剖生理学実習	2前	○	1					○	1						
		生化学実験Ⅰ（生体物質の分析）	2前	○	1					○		1					
		生化学実験Ⅱ（生体物質の発現・代謝分析）	3後			1				○		1					
		薬物療法学	4前			1		○								1	
		病態生化学	4後			1		○								1	
		臨床検査学	4前			1		○								1	
		小計（12科目）	—	—	8	10	0	—			2	1	0	0	0	4	
専門応用分野	病態学	臨床検査生化学	2前	○	2			○			1						
		臨床検査医学総論	3後	○	2			○			1						
		薬理学	1後	○	2			○								1	
		臨床検査栄養学	2後	○	2			○								1	
		チーム医療概論	4前	○	1			○			1						
		小計（5科目）	—	—	9	0	0	—			2	0	0	0	0	2	
	公衆衛生	医学概論	1前	○	1			○			1						
		臨床検査関係法規	2後	○	1			○				1					
		小計（2科目）	—	—	2	0	0	—			1	1	0	0	0	0	
専門応用分野	医用工学概論	医用工学・情報科学概論	2前	○	2			○				1					
		医用工学実習	2後	○	1					○		1					
		検査機器総論	2前	○	2			○				1					
		小計（3科目）	—	—	5	0	0	—			0	1	0	0	0	0	
	血液検査学	血液検査学総論	2前	○	2			○			1						
		血液検査学	2後	○	2			○			1						
		血液検査学実習	3前	○	1					○	1	1					
		小計（3科目）	—	—	5	0	0	—			1	1	0	0	0	0	
	病理検査学	病理検査学	2後	○	2			○				1					
		病理細胞検査学	3前	○	2			○				1					
		病理検査学実習	3後	○	1					○		1					
		小計（3科目）	—	—	5	0	0	—			0	1	0	0	0	0	
	等尿・一般糞便検査学	一般検査学・寄生虫検査学	2前	○	2			○					1				
		一般検査学・寄生虫検査学実習	2前	○	1					○		1					
		小計（2科目）	—	—	3	0	0	—			0	0	1	0	0	0	
	生化学検査学・免疫検査学	生化学検査学	2後	○	2			○								1	
		免疫検査学	2後	○	2			○								1	
		生化学検査学実習	3前	○	1					○						1	
		免疫検査学実習	3前	○	1					○		1	1				
		小計（4科目）	—	—	6	0	0	—			0	1	1	0	0	2	
	遺伝子検査・染色体検査・遺伝子検査	遺伝子関連・染色体検査学	2後	○	2			○			1						
		遺伝子関連・染色体検査学実習	3前	○	1					○	1	1					
		小計（2科目）	—	—	3	0	0	—			1	1	0	0	0	0	
	輸血・移植検査学	輸血・移植検査学	3前	○	2			○								1	
		輸血・移植検査学実習	3後	○	1								1			1	
		輸血・移植検査学演習	3後	○	1				○							1	
		小計（3科目）	—	—	4	0	0	—			0	0	1	0	0	1	
	微生物検査学	微生物検査学Ⅰ	2後	○	2			○			1						
		微生物検査学Ⅱ	3前	○	2			○			1						
		微生物検査学実習	3後	○	2					○	1						
		小計（3科目）	—	—	6	0	0	—			1	0	0	0	0	0	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員 （助手を除く） 以外の教員		
生理検査学	生理検査学Ⅰ	3前	○	2			○								1		
	生理検査学Ⅱ	3前	○	2			○								1		
	生理検査学Ⅲ	3後	○	2			○								1		
	生理検査学実習Ⅰ	3後	○	1					○		1	1			1		
	生理検査学実習Ⅱ	3後	○	1					○		1	1			1		
	生理検査学実習Ⅲ	4前	○	1					○	1	1	1			1		
	生理検査学演習	4前	○	2				○							1		
	小計（7科目）	—	—	11	0	0	—			1	1	1	0	0	1		
専門応用分野	臨床検査総合管理学	検査管理総論	3前	○	2			○			1					オムニバス オムニバス	
		検査精度管理学	4前	○	2			○							1		
		臨床検査総合演習Ⅰ	4後	○	1			○			1	1			2		
		臨床検査総合演習Ⅱ	4後	○	1			○			2	1	1				
		小計（4科目）	—	—	6	0	0	—			3	2	1	0	0	2	
	医療安全	臨床検査医療安全管理学	3後	○	2			○			1						
		臨床検査医療安全管理学実習	4前	○	1					○	1	1					
		小計（2科目）	—	—	3	0	0	—			1	1	0	0	0	0	
専門応用分野	お上 げる の 臨 地 実 習	臨地実習前評価	4前	○	1			○			3	1	1			2	オムニバス
		生理検査学に関する臨地実習	4前	○	3					○	3	2	1				
		生理検査学以外の臨地実習	4前	○	8					○	3	2	1				
		小計（3科目）	—	—	12	0	0	—			3	2	1	0	0	2	
	その他	実用国語	1前			1		○			2					1	オムニバス
		卒業研究	4通			4				○	3	2	1				
		小計（2科目）	—	—	0	5	0	—			5	2	1	0	0	1	
合計（113科目）		—	—	117	66	0	—			11	10	3	0	0	64		
学位又は称号		学士（医療栄養学）			学位又は学科の分野					保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等									
必修科目は「いのち・人間の教育」から16単位、「医療のコラボレーション教育」から13単位、「専門科目」から88単位の必修科目と選択科目9単位以上の合計126単位以上を修得する。 （履修科目の登録上限：45単位（年間））								1 学年の学期区分				2期					
								1 学期の授業期間				15週					
								1 時限の授業の標準時間				90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医療保健学部医療情報学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外	
いのち・人間の 教育分野	いのち・人間	心理学	1前			2		○								1	オムニバス
		哲学と宗教	1前			2		○								1	
		文学	4後			1		○								1	
		生命倫理学	1後			1		○								1	
		医療と人間	1前			1		○			1				5		
		小計（5科目）		—	—	0	7	0	—			1	0	0	0	0	8
	社会学学	コミュニケーション概論	3後			2		○								1	
		経済学	3前			2		○								1	
		社会学	3前			2		○								1	
		法学	3前			2		○								1	
		歴史	4前			2		○								1	
		国際関係論	4後			1		○								1	
		認知科学	4前			1		○								1	
		人間関係論	4前			1		○								1	
		家族社会学	4後			1		○								1	
		ジェンダー論	4後			1		○								1	
		比較文化論	4後			1		○								1	
		小計（11科目）		—	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	11
	自然科学	生物Ⅰ	1前			1		○								1	オムニバス
		生物Ⅱ	1前			1		○								1	
		データサイエンス	2前	○	2			○			1		1				
		基礎数学	1前			1		○								1	
		物理学	1前			1		○								1	
		化学Ⅰ	1前			1		○								1	
		化学Ⅱ	1前			1		○								1	
		スポーツ科学	1前・2後・3後			1		○								1	
		スポーツ実習	1前・2後・3後			1					○					1	
		小計（9科目）		—	—	2	8	0	—			1	0	1	0	0	5
	外国語	英語講読・記述	1後	○	2			○								3	
		英会話Ⅰ	1前	○	2			○								3	
		英会話Ⅱ	1後	○	2			○								3	
		英会話Ⅲ	2前			2		○								1	
		専門英語	2後			2		○								1	
		フランス語	1前			2		○								1	
		中国語	1後			2		○								1	
		小計（7科目）		—	—	6	8	0	—			0	0	0	0	0	6
	情報科学	情報リテラシー	1前	○	2			○				1				2	オムニバス
		情報科学	1前	○	2			○				1				2	
		情報通信と保健医療	2後			2		○				3					
		小計（3科目）		—	—	4	2	0	—			4	0	0	0	0	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外	
医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ	1前	○	2		○			1						オムニバス・共同（一部）
		体の仕組みと働きⅡ	1後	○	2		○			1						
		公衆衛生学	2後	○	2		○								1	
		栄養学総論	2前	○	2		○								1	
		医療安全管理学	2前	○	2		○			1					1	
		キャリア教育Ⅰ	1前	○	1		○			1			1		9	
		小計（6科目）	—	—	11	0	0	—		3	0	0	1	0	12	
	発展	医学・医療概論	1前	○	1		○			1						
		臨床薬理学	3後	○	2		○								1	
		医療マネジメント論	3後	○	2		○								1	
		キャリア教育Ⅱ	2後	○	1		○					1				
		キャリア教育Ⅲ	3前	○	1		○					1				
		小計（5科目）	—	—	7	0	0	—		1	0	1	0	0	2	
	実践	協働実践演習	4前	○	1			○		3		3	1		15	
		ボランティア論	1前			1	○								1	
		ボランティア活動	1前			1		○							1	
		小計（3科目）	—	—	1	2	0	—		3	0	3	1	0	16	
	コンピ ュー タ 科学	コンピュータシステム	1前	○	2							1				
		ワークショップA	1前	○	2								2			
		ワークショップB	1後	○		2						1	1			
		プログラミング演習Ⅰ	2前	○	2					1			2			
		プログラミング演習Ⅱ	2後			2				1			1			
		プログラミング演習Ⅲ	3前			2						1				
		情報基礎演習A	2後	○		2				1		1	2			
		情報基礎演習B	3前	○		2				1						
		情報応用演習	3後			2						1				
		Webデザイン	3前			2									1	
		マルチメディア工学	3後			2									1	
		通信ネットワーク	2前			2							1			
		情報セキュリティ	3後			2									1	
		情報システム開発論	3前	○		2						1				
		情報システム運用管理論	3後			2									1	
		小計（15科目）	—	—	6	24	0			2	0	3	4	0	4	
	情報 科学	情報数学	1前			2									1	オムニバス
		基礎数学Ⅱ	1後			2									1	
		データ構造とアルゴリズム	2後			2						1				
		AI基礎	3前	○		2				1						
		データベース基礎	2前	○	2					1			1			
		データベース応用	2後			2						1	1			
		臨床データ分析Ⅰ	2後	○		2				1		1				
		臨床データ分析Ⅱ	3前			2							1			
		意思決定論	3前			2									1	
		小計（9科目）	—	—	2	16	0			2	0	2	2	0	3	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外	
専門職の 教育分野	医療情報	診療情報論Ⅰ	2前	○		2	○			1						オムニバス
		診療情報論Ⅱ	2後			2	○			1						
		疾病分類演習Ⅰ	2前			1	○								1	
		疾病分類演習Ⅱ	2後			2	○								1	
		応用疾病分類演習Ⅰ	3前			2	○								1	
		応用疾病分類演習Ⅱ	3後			2	○								1	
		医療情報学概論	1後	○	2		○								2	
		医療情報システム論	2前	○		2	○			1						
		生体情報演習	1後			2	○			1						
		ワークショップC	2前	○		2	○					1	1			
		ワークショップD	2後			2	○			1						
		医療シミュレーション	2後			1	○			2						オムニバス オムニバス
		医用画像処理工学	3前			2	○					1				
		企業実習	3前			2	○			1						
		基礎ゼミⅠ	1前	○	1			○		4		4	4			
		基礎ゼミⅡ	1後	○	1			○		4		4	4			
		応用ゼミⅠ	3前	○	1			○		4		4				
		応用ゼミⅡ	3後	○	2			○		4		4				
		応用ゼミⅢ	4前	○	2			○		4		4				
		卒業研究	4後			4		○		4		4				
		小計（20科目）	—	—	9	28	0			4	0	4	4	0	3	
ヘル ス ケ ア		看護概論	3前			1	○								8	オムニバス
		社会福祉総論	3後			2	○								1	
		臨床医学総論	1後	○	2		○			1						
		臨床医学各論A	2前			2	○			1						
		臨床医学各論B	2後			2	○			1						
		臨床医学各論C	3前			2	○								1	
		臨床医学各論D	3前			2	○								1	
		診療プロセス論A	1後	○	2		○			1						
		診療プロセス論B	2前			2	○			1						
		臨床検査概論	3後			2	○								1	
		医療関係法規	3前			2	○								1	
		医療制度論	1後	○		1	○			1			1			
		医事会計論	2前			1	○								1	
		病院管理概論	2後	○	2		○						1			
		診療情報管理論	2前			2	○								1	
		病院実習	3前			2		○		1			1			
		小計（16科目）	—	—	6	23	0			2	0	0	1	0	14	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外	
合計（109科目）		—	—	54	134	0	—			5	0	4	5	0	77	
学位又は称号		学士（医療情報学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）									
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法							授業期間等									
必修科目66単位を修得した上で、合計 126 単位以上修得する。 （履修科目の登録上限：44単位（年間））							1 学年の学期区分				2期					
							1 学期の授業期間				15週					
							1 時限の授業の標準時間				90分					

授 業 科 目 の 概 要						
(医療保健学部医療保健学科 管理栄養学専攻)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間		哲学と宗教	○	多くの日本人は自身の生活にとって、宗教は縁遠いものと考えているようである。しかし、人間は「ホモ・サピエンス（英知人）」、「ホモ・レリギオス（宗教人）」と定義されてきた。人間にとって宗教は欠くことのできない要素であり、深く人間存在を知り、世界のありようを知るには、宗教に目を向ける必要がある。また、自らも無意識のうちに立脚している宗教性に目を向ける必要がある。この講義では、世界の諸宗教について、基本的な知識を身につけるとともに、人間の倫理や道徳を支える宗教性にあらためて目を向ける。	
			心理学		“こころ”とはなにか、心理学の基本概念に沿って解説しながら、人間の心理を理解するための基礎的な知識を学ぶ。自分自身を振り返り、日常生活でいかに心理学的視点を活かしていくか、講義を通して探っていく。心理学の基本概念を理解し、“こころ”について、さまざまな側面から考える視点を持つことができるようになることを目指し、心理学の全体像を見通して体系立てて学ぶ。講義で取り上げたトピックについて、日常生活で起こりうる思考や現象との関係について考え、理解を深めることを目指す。	
			文学		浦島太郎の物語が古代伝承をベースとし、各時代によって変化したことを理解する。日本人にとって、「浦島太郎」の物語は誰もが知っている物語であるが、実はこの物語は中国の神仙思想を基にした不老不死の物語であった。ところがそれが時代とともに、さまざまに変化し、現在の我々が知る、浦島物語に変貌する。この講義は、そもそももとなる浦島説話がどのようなものであったか、その背景にあった不老不死へのあこがれについて言及し、かつその後の浦島説話がどのように変化して、現代の形になったか、その過程を理解する。この授業を受けることによって、身近な物語の中に人々がどのように生死を考えてきたのか、人間の幸福とは何かを考える力がつく。さらに自分の文章を作成することが出来るようになる。	
			生命倫理学		ヒトは肉体を有する存在である。その限りでは、ヒトの身体は「モノ」と言える。だが、「いのち」とともにある人の身体は、単なる「モノ」として扱われるべきではない。その意味でも、人間のケアが仕事である医療の現場においては、「いのち」ある「人間」という視点に立った「倫理」のあり方に向き合う姿勢が、強く求められることになる。この講義では、パターナリズム、自己決定権、パーソン論、QOLとSOL、人口妊娠中絶、臓器移植の問題など、生命倫理学で扱われる基礎的な議論をひとつとおり押さえたうえで、医療の現場で起きた具体的な事例などをとおして、背後にある倫理的課題を様々な角度から、深く抉り出すことをしたい。また、日本人の死生観に独自の「倫理」のありようについても、随時、触れていきたい。	
			医療と人間		(概要) 現代の医療の根幹とされている「根拠に基づく医療（EBM）」とは、科学的データに基づいた最良の医療を、医療者の経験に基づいた専門的能力と患者さんの人生観・価値観等を統合して患者さんに提供するものである。そのためには根拠を理解できる能力ばかりでなく、寛容な精神と倫理観が強く求められる。医療への入門として、患者さんを中心とした医療を行うために医療人に求められる倫理観、患者さんの権利、医療制度の現状と課題、感染症と人類の歴史、患者さんからの情報の収集の仕方等いわゆるリベラル・アーツを学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全2回) ヒポクラテス流のパターナリズム（親権主義）から、近年は医療者と患者との共同意思決定が重視されるようになった背景を学び、医の倫理について考える。医療安全の取り組みや、本学のミッション・ビジョンと皆さんへの期待について学ぶ。 (1 郡司 俊秋／全1回) 病気になった患者さんだけでなく、ご家族のことも考える医療者を目指す上で、グリーフケアについて学ぶことは有益である。グリーフケアとは何かを学び、医療者ができるグリーフケアにはどのようなことがあるか考える。 (11 石原 照夫／全1回) 人類の感染症との闘いの歴史を概観し、新型コロナウイルス感染症の流行によって露呈した我が国の医療をめぐる問題点を考察する。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回) 医療の歴史、インフォームドコンセント、チーム医療などのキーワードを学ぶことにより、医療提供者と患者の関係や患者の権利について考える。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回) 脳卒中とパーキンソン病についての学習を通じ、体を動かす、感じる、認識する、などの機能の障害について、どのような原因でおこり、どのように調べて診断するかを知る。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全2回) 地域医療構想や全世代型社会保障改革について学ぶことにより、求められる医療サービスと医療構造の大変化ぶりを認識する。プライマリ・ケアや情報リテラシーから、チーム医療における医療関連職種の役割とデジタル活用について考える。	オムニバス方式
	社会科学	コミュニケーション概論		現代の高度情報化社会においては、インターネットやマルチメディアを中心とする文化活動が世界規模で営まれているが、個人に対しては、膨大な情報に流されて自己を見失う危険性が指摘されている。そのような現状において、いかに自分自身で論理的に物事を整理し、デマやフェイクニュースに騙されず、どのように他者とコミュニケーションをとればよいのかを考察する。授業では、現代社会における多種多様な具体的問題を題材に「ロジカルコミュニケーション」を実践する方法のケース・スタディを行う。「論理的思考法」に加えて「自己表現能力」を高め、各自の個性に応じたユニークなコミュニケーション・スタイルを修得する。とくに実際の医療現場において、さまざまな状況でチーム医療の一員として円滑にコミュニケーションするために有効な手段を身につける。		
		経済学		経済学とは、効率性、公平性といった観点から、さまざまな経済現象を分析する学問と考えることができる。具体的には、景気の安定化、雇用の確保といった問題をはじめ、租税、社会保障など私たちの生活に深く関わるさまざまな問題を研究の対象としている。本授業では、そのような経済学の基本的な考え方を身につけると共に、現在のわが国が直面する経済問題を理解し、考え、説明できることを目標とする。		

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間の教育分野	社会科学	社会学		社会について考えることは、私たちの日常生活の成り立ちや隠れた意味を明らかにし、相対化していく刺激的な試みである。この講義では、社会学の基本的な概念、歴史および理論について学ぶことで、社会学的なものの見方を養う。代表的な社会学者の議論や概念についての基本的な知識を身につけること、および身近な世界を社会学的視点から観察・分析できる能力を身につけることを目標とする。	
			法学		この講義では、憲法、民法、刑法についての学びを通して「法」とは一体何か、何の為にあるのかを学修することで、社会生活における法の作用や役割について理解を深める。「裁判員制度」について、その制度趣旨や手続の流れやメリットとデメリットについて理解する。日本国憲法の三大基本原理を学び、基本的人権や統治機構について理解を深める。民法、刑法の基本原理について理解できるようになることを目標にする。	
			歴史		和食のルーツとなる古代日本の食文化と歴史を学ぶ。「和食」の原点として、古代の日本人が何を食べてきたかを奈良・平安時代を中心として学ぶことが到達目標である。旧石器～古墳時代にかけて日本人が何を食べてきたのかを理解し、さらに奈良時代における律令制の成立によって、全国各地から税として食料品が中央に送られていたことが宮都出土の木簡や『延喜式』から判明するので、古代における食品加工法や給食体制、さらに天皇・貴族から庶民に至る食事の内容を明らかにし、奈良・平安時代の食生活を明らかにしたい。またその食事と生活習慣病との関係を考える。そのこの授業を受けることで、豊かな教養を身につけることが出来る。	
			国際関係論		文系学部・学科の国際関係論と違い、本講義では将来の医療職に関係の深い、医療をはじめ介護や年金など社会保障制度全般について、国際的な視野に立つ幅広い基礎的な知識を身につけることに目的を絞る。これに沿って、内外の政治、経済情勢などを踏まえながら、先進国共通の社会保障制度の課題、欧米とわが国との比較、わが国の社会保障制度の現状などについて、最近の具体的な報道事例などを織り交ぜながら概説し、今後のわが国の社会保障制度のあり方を探る。また、エイズ、ハンセン病などの医療をめぐる偏見・差別問題を各国との比較で取り上げる。本講義を最後まで受講すれば、新聞、TVなどでしばしば報道されている社会保障制度に関する用語の意味、政府の考えている改革の方向性、その方向性をめぐる与野党の対立点などがおおそ理解できるようになる。医療、介護、年金など社会保障制度は細かく分かれているが、個々の制度の断片的な知識ではなく、制度の背後にある考え方、なぜその制度が出来たのかなど、根本に遡って理解を深める。	
			認知科学		認知科学は人間の視覚、聴覚、触覚などの感覚情報から、注意、記憶、学習、思考などの脳機能によって、人間を取り巻く環境や外界を理解する学問である。この過程で、脳や心がどのような働きをしているかをとらえ、人間の「知」と「心」の仕組みを理解する。また、医療現場、日常生活、などでの人間の認知活動についてその特徴や要因を考える。これらの知識を踏まえ、ヒューマンエラーや事故防止の工夫など、医療における認知科学の活用について理解を深める。	
			人間関係論		他人と関係を一切持たずに生きている人はいない。良い人間関係を築くことは、良い生活を送ることにもつながる。本講義では心理学系のクリティカルシンキングの知見から人間関係を成立させる要素、深める要素や分析する方法などを学ぶ。それらを通じて自分が保持している人間関係について客観的に考え、問題が起きた際適切に対処できるようになることが最終的な狙いであり、具体的に次の項目を到達目標とする。 ・他人の行動の原因を特定し判断できるようになる。 ・自分自身について考える方法や知識を身につける。 ・人の認知にはどのようなバイアスがかかりやすいか、偏見や思い込みの修正の難しさなどを知りそれらに気づけるようになる。 ・自分が保持している知識を正しく把握しにくい理由を知り、自分が持っている知識や理解度を分析できるようになる。	
			家族社会学		家族社会学の古典的な学説における家族の定義、概念、構造、機能などを概観し、次にライフサイクルの視点から配偶者選択、結婚、子どもの社会化、親の扶養などの各論について検討する。適宜、現代的なトピックや諸説についても触れる。家族をとらえる基本的な概念を理解することができ、個人と家族、家族と外部の関係、家族を支える社会的ネットワークについて理解しようとし、自ら調べ、意見を述べるができるようになることを目標とする。	
			ジェンダー論		ジェンダーとは、社会的・文化的性差を意味する概念として使われているが、本授業では、ジェンダー概念とその歴史的成立過程について学んでいく。これらをふまえ、世界は激動的変動とグローバル化が進行しており、社会変動に対して、ジェンダーを切り口とする分析手法を学んでいく。本授業での学びをもとに、様々な領域における社会問題について、ジェンダー視点から分析考察することが出来るようになる。とりわけ、今後の社会発展をふまえ、国連決議で示された「持続可能な社会発展」に向けたSDGsが掲げる目標達成への取り組み内容を理解し、その基礎に「ジェンダー平等」が据えられること、そのことが持つ意義を理解することが出来るようになる。	
			比較文化論		日本は世界に先駆けて人口遷移を迎える（近代社会を支えてきた人口構成が新たな形態に移行する）。成長型の人口構成を前提にした従来の保健医療の常識が通用しなくなる未来に、何を備えればよいのだろうか。講義では、文化人類学の視点から、近現代の日本社会が創り出した食・健康・保健・医療の「当たり前」を相対化していく。対象を「文化」として捉えることで、社会の変化を丁寧に見定める能力を養い、変貌する社会に沿いうる保健文化のあり方を考える。自らが寄り添う当たり前をも「文化」として捉える方法を学び、人々の多元的な現実に向き合い関わり続けることを可能とする、自己変容をいとわない柔軟な姿勢と洞察力を身につける。	
		自然科学	基礎生物		「基礎生物」は近年、「生命科学」といわれている分野の基本的な事柄（DNA遺伝子の働き等）を内容とする。本講義では、高校で「生物基礎」を履修していることを前提として進めるが、履修していない学生にも配慮する予定である。また、専門科目を学ぶ際に参考になる授業にしたい。（将来、栄養学関連科目の学習に役立つもの）履修後は、最近話題になっている遺伝子関係の記事等や生物の基本的な内容を理解できるようになることを到達目標としてる。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間の教育分野	自然科学	データサイエンス	○	医療に係る高度専門職には、対象者の現状把握を適切に行い、抱えている問題点を認識し、具体的な各種指導・相談・対策を考えていく力が必要である。対象の状態を正しく把握するために、データ収集し、分析し、また結果公表する力を養うことが重要である。本講義では統計学の基礎的な用語を学びながら、統計的推定・検定の基本的な考え方を学ぶ。また、データ演習を通して、データの扱い方の基礎を学ぶ。基礎的統計用語やデータの種類について、理解し、説明できる。データ演習を通して統計ソフトの使用法と、実務能力を身につける。確率論的なものの見方を理解し、統計学的推計（推定と検定）の原理と方法を説明できる。調査や測定により得られた数値・文字データ特性を考察するための適切な集計方法や統計処理方法を選択できる。検定や統計分析を行う際の具体的な注意点や前提について学ぶ。	
			基礎数学		数学はあらゆる学問の基礎となるもので、どの学科の学生にとっても専門的キャリアを構築していくためには必要不可欠なものである。この授業では、各種資格試験の計算問題に対応するため、また、さらに高度な数学を学修するために、中学校、高等学校時代に学んだ、数学、特に種々の計算に関する知識をもう一度見直すことを主眼としている。四則演算、比率、割合の計算、単位の計算、方程式、不等式の解法、統計計算などに関する基本的なルールを復習し、実際にこれらの問題が素早く、正確に解ける技術を身に付けることを到達目標とする。	
			物理学		医療の現場では、古くから使われる測定機器に加え、MRIや重粒子線治療、3Dプリンタ、VRなど最先端の科学技術を駆使した装置も活用されている。本講義では、専門分野における高度な専門科目を履修するために必要な物理的なものの見方・考え方を習得する。特に、医用機器の仕組みや医用画像処理について理解する上での基礎を身につける。そして、次の項目を目標とする。①身近な自然現象をモデル化し、物理学と関連付けて説明することができる。②物理法則を基盤として、その知識を医療に応用している事例をあげることができる。③対象とする現象を測定する方法を理解し、表やグラフを用いて考察することができる。	
			基礎化学		栄養を学習する中で、化学的な視点から食品、生体物質を理解することが重要である。講義では、一般化学、無機化合物についての基礎知識を理解できるように原子の構造、周期表と元素、化学結合、物質の量、酸・塩基と酸化・還元について解説をする。医学、医療保健、栄養学を理解するためには化学の知識は必要不可欠であり、管理栄養士養成課程における専門科目で必要とされる化学の基礎について学ぶ。①原子の構造を理解できる。②化学結合を理解できる。③物質の量を理解できる。④溶液の濃度に関する計算ができるようになる。⑤酸・塩基と酸化・還元を理解できる。以上の修得を目指す。	
			スポーツ科学		科学の進歩により、スポーツは人間の生活をより豊かにするための有益な活動であることが明らかにされている。その中でも、とくに注目すべきなのはスポーツは人間のからだ・心・社会それぞれに作用して生活を豊かにするという点である。しかし、日本国民の約6割は定期的なスポーツ経験を有しておらず、その傾向は20代の男女において特に顕著である。本講義は、スポーツがどのようにして人間の生活を豊かにするかという点について学びを深める。	
			スポーツ実習		科学の進歩により、スポーツは人間の生活をより豊かにするための有益な活動であることが明らかにされている。その中でも、とくに注目すべきなのはスポーツは人間のからだ・心・社会それぞれに作用して生活を豊かにするという点である。しかし、日本国民の約6割は定期的なスポーツ経験を有しておらず、その傾向は20代の男女において特に顕著である。本講義は、スポーツがどのようにして人間の生活を豊かにするかという点について学びを深める。からだ・心・社会の視点からスポーツと人間の生活について考える事によって、スポーツに対する問題意識を持つことができること、ライフスタイルにあったスポーツを実践できることを目指す。	
		外国語	英語購読・記述	○	この授業では、医療に関する身近なトピックの英文を読み、基本的英語読解力と記述力の養成を目的とする。大学一般教養レベル（TOEIC400～500点程度）、もしくはそれ以上の英文を読み、内容把握できるようにする。読解力と記述力を促進するために、基本英単語以外にも専門分野の英単語を学習し、実践的な英語を習得する。専門分野に関連するトピックを扱った英文を読み、基本的英語読解力を養成するだけでなく、医療の専門的知識や語句の理解を深める。また、テキストで学習する文法事項や語彙を使って、作文やリスニングの練習を行い、実践的な英語力を身につける。	
			英会話Ⅰ	○	国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。国際社会で知識を共有するために、これまで以上に英語で他者の考えや意思などを理解し、自らの意見を自分の言葉で他者に伝えることが必要とされる。この授業では、医療のトピックを取り扱い、リスニング・スピーキングを中心とした英語力を身につける。テキストで学習する文法項目や語彙を使ったダイアログ、リスニング・アクティビティーを通して、英語による基礎的コミュニケーション能力の養成を目指す。また、医療のトピックに絡めて英語を使い慣れるようにする。英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の立場や意見を交えて英会話ができるように練習する。	
			英会話Ⅱ	○	国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。この授業では、英語で他者の考えや意思などを理解し、自分自身の意見を他者に伝えることができるようになることを目指す。言語と文化の深い関係を理解し、文化事象の違いによる日本語と英語の発想の違いを、医療のトピックに絡めて英語を使い慣れるようにする。英会話Ⅱでは、英会話Ⅰでの学習内容をさらに深め、聴解力と会話力の養成をする。更に、テキストから学ぶ文法項目を、自分自身の立場や意見を交えて自身の言葉で英会話ができるように練習する。英会話Ⅰよりもレベルを高く設定し、医療の現場で英語を使い慣れるための練習を行う。また、上級英会話に必要な大学一般教養以上の英単語を習得する。	
			英会話Ⅲ		国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。国際社会で知識を共有するために、これまで以上に英語で他者の考えや意思などを理解し、自らの意見を発信できるようにすることが求められる。この授業では、英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分自身の意見を英語で他者に発信できるようにすることを旨とする。また、日常の英会話だけでなく、自身の専門分野に関連するトピックについて、ライティングやプレゼンテーションができるようになることを目標とする。大学一般教養以上の英単語を習得し、ライティングやプレゼンテーションで使えるようにする。また、授業で扱うトピックについて、英語による情報の正しい理解、内容の要約、リサーチをライティング、プレゼンテーションに応用できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間の教育分野	外国語	専門英語		この授業は医療関係の様々なトピック・ジャンルの比較的短い英文を精読し、情報を正確に読み取る力を養成する。その中で語彙力・文法力を身につけ、実際に習った事項を使って英語ライティングやスピーキングの練習を行う。1. 専門的な文献が読めるようになりたい。2. 就職試験や大学院入試などの場面で英語が必要。3. 資格試験でよい成績をおさめたい。4. 口語表現をもっと学びたい。5. 基礎的な語彙力を固めたい。このような方が受講にあたって、現在の英語力に依存しない授業内容とする予定である。	
			フランス語		この授業では、フランス語で基本的な表現を用いて、簡単な日常会話ができるように学習する。その他、フランスの地理、習慣、行事を紹介し、異文化を身近に感じてもらう。自己紹介をしたり、家族や知り合いを紹介したりできる。自分の状況や日常生活、動作を相手に説明できる。質問したり、相手の質問に答えたりして、簡単な会話ができる。フランス語圏に関する基本知識を知る。以上の項目の修得を目指す。	
			中国語		この授業では、中国語で頻出の単語やよく出会う表現を使い、日常生活についての実践練習を通じて、その使い方を身につける。発音の基礎から学び始め、中国語で簡単なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。また、中国の歴史や文化、最新の中国事情の紹介や解説も取り入れ、中国入門の講座として提供する。ピンインの発音を習得し、簡単な会話ができるようになることを目指す。	
		情報科学	情報リテラシー	○	数理・データサイエンス・AIの理解と活用は、今後のsociety5.0（超スマート社会）の中、日常生活のみならず、医療・保健・看護の場の基礎的素養として、非常に重要である。本科目では、他教科の学習あるいは研究で必要となる、メール送受信、Web情報検索、ワープロソフト及びプレゼンテーションソフトが使用できるように学習する。単にPC演習だけでなく、基本的な概念、情報倫理や安全性についても学習する。・メールの送受信、ワープロソフト及びプレゼンテーションソフトが使えるようになる。・インターネット上の様々な情報を活用する上での情報倫理や安全性について理解できる。・現代社会におけるAI利活用、メリット、デメリットを理解できる。・アプリケーションソフトの利用によりオープンデータを活用できる。以上の項目の修得を目指す。	
			情報科学	○	情報科学を構成する各種情報技術の基礎的な特徴と原理を理解し、更に社会システムとの関係でそれらを捉えることにより、今後の学習に役立つ情報科学的な発想を獲得する。本科目では、Excelを通じて情報技術の基礎を学び、また、Excelの適応分野としてデータ分析を行う。最終的にはデータ収集のための帳票作成からデータの整理・実際の分析・その可視化等に関し学習する。実践に則した課題を解くことにより、総合的に学習する。表計算ソフト（Excel）を利用して収集したデータを多角度から分析活用できるようになり、データの傾向やデータから予測されることを把握し、操作結果を読み取る力を養うことを目指す。	
			情報通信と保健医療		この科目では、知識社会が実現しつつある現代において、データサイエンスを医療・保健に応用することによって、医療・保健サービスがどのように変化していくか展望するとともに、この変化にあたって医療人が知っておくべきデータ活用法やその留意点に関する知識を獲得することを目的とする。次の項目の修得を目指す。①情報通信技術の発展によってこの十数年間で社会がどのように発展してきたか、Socirty3.0、4.0、5.0の違いを中心に説明できる。②Society5.0の基盤技術であるIoT、ビッグデータ、AIが、どのように社会を支えているか説明できる。③ビッグデータの基本的な概念やその分析・活用の過程を説明できる。④AIの基本的な概念やその活用の過程を説明できる。⑤情報通信技術の発展に伴う諸課題を、「いのち・人間」尊重の観点から考えることができる。⑥情報通信技術の発展に伴い、自らが将来めざす職域がどのように発展していくか考えることができる。	
	管理栄養学専攻科目群	医療の コラボレーション 教育分野	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	○	人体の機能とその調節について理解し知識を得ることは、健康の回復・維持・増進について学習する上で不可欠である。本科目では「体の仕組みと働きⅡ」と連携して、機能を扱う「生理学」と構造を扱う「解剖学」を学ぶ。ここでは呼吸器系、血液循環器系、腎泌尿器系、消化器系の構造と機能を取り上げ、各系の相互作用についても関連させて理解する。授業内容は血液の生理、循環器の構造、循環の生理、消化器の構造、消化吸収の生理、呼吸器の構造、呼吸の生理、腎臓の構造と生理、体液量と浸透圧について学修する。	
				○	人体の機能とその調節について理解し知識を得ることは、健康の回復・維持・増進について学習する上で不可欠である。本科目では「体の仕組みと働きⅠ」と連携して、機能を扱う「生理学」と構造を扱う「解剖学」を学ぶ。ここでは骨格系、筋系、神経系、内分泌系の構造と機能を取り上げ、各系の相互作用についても関連させて理解する。授業内容は骨格の構造、筋の機能、神経組織の構造と機能、末梢神経系と中枢神経系、体温の調節、内分泌臓の構造とホルモンの働きについて学修する。また、骨格系、筋系、神経系による運動機能や感覚情報処理について学修する。	
			公衆衛生学	○	公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学修する。授業内容にはわが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など衛生学の基礎知識に関する内容も含む。また、環境と生活者の健康の観点から環境汚染とその対策や産業中毒と職業性疾患とその対策などを取り上げながら、人間や生活を生態系に位置づけて理解する。	
			栄養学総論 (基礎栄養学)	○	栄養とは生物が活動、成長、増殖のために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象である。したがって、栄養学総論では栄養素の摂取、消化、吸収、代謝、排泄および防御機構等、幅広い分野について学習することになる。講義では、栄養学の定義である「人体と食物の相互作用を明らかにする学問」について解説し、現在の日本の疾病の状況、食生活の実態の概略を講義の導入として報告する。次に、栄養の歴史、栄養状態の判定、空腹と食欲について学ぶ。これらの知識をもとに栄養素である糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンについてその栄養学的機能、消化・吸収、所要量、必要量、欠乏症等について講義する。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
管理栄養学専攻科目群		入門	医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	○	工学の進歩とその医療への応用が進み、新しい医療機器が開発され、それらは疾病の診断や治療にはなくてはならない存在になっている。一方、医療内容の複雑、高度化、社会構造の変化、国際化等により、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。とくに、社会的に注目されている医療事故に対しては、適切なリスクマネジメントが求められ、病院感染及び新しい感染症(MRSA、HIV、SARS等)に対する認識も変容を迫られている。本講義内容は、医療関係者のみならず社会人として必要な知識で、医療安全の基本概念を理解してもらい、医療安全を求めているこれからの社会の要請に応える。	
			応用生物	○	医療従事者が身につける専門的知識および技術は人体を対象としており、その人体は生物学的な特徴の元に成り立っている。したがって、栄養学を学んでいくうえで必要最低限の生物学的知識を身につける必要がある。本科目では、生物の構成単位である細胞に関する内容について、次のテーマを学ぶ。 ・細胞の構造と細胞を構成する物質について ・細胞内におけるエネルギーの産生など、細胞内の化学反応（代謝）について ・人体の構成要素である細胞の増殖と死、組織・器官について	
			応用化学	○	栄養学・食品や生体物質を構成している有機化学物の構造や化学的性質を理解することは、食品学・生化学を学ぶ上で重要である。具体的には、炭化水素の種類と命名法、官能基とその性質、異性体と立体化学、有機物の酸化・還元反応、糖質、脂質、たんぱく質、核酸、ビタミンについて解説する。そして、次の項目の修得を目標とする。①有機化合物の命名ができるようになる。②化学構造式から物質の性質を推定することができるようになる。③立体異性体の働きが理解できる。④糖質・脂質・アミノ酸の種類とたんぱく質の構造がわかる。⑤核酸・ビタミンの種類と性質が理解できる。	
			キャリア教育Ⅰ	○	(概要) 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を学習するために、入学時から将来の職業選択に関わって職業観の形成や生き方そのものについて、計画的に考えていくことを基本とし、幅広い職業意識の形成等を図ることである。学生時代を有意義に過ごすための基本的な考え方や知識を得るとともに、社会で長期的に成長するための素地となる能力を身に付ける。また、これらの応用として、グループディスカッションを通じて人の話を聞き、自己の意見を述べ、議論する能力を養えるようにする。(オムニバス方式／全8回) (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 基本的な読解力、書く力の向上を図るためのトレーニングを行い、小テストで学びの定着につなげる。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 基本的な計算力の向上を図るためのトレーニングを行い、小テストで学びの定着につなげる。 (6 加藤 隆幸・16 酒井 理恵・18 細田 明美・26 宮路 茜／3回) (共同) 自身所属の専攻にて到達目標である医療の現場における高度専門職の理解を深め、その職になるにあたり必要な知識・技術・態度を考える。 (6 加藤 隆幸・16 酒井 理恵・18 細田 明美・26 宮路 茜・7 三村 邦裕・27 藤本 友香・10 嶋津 秀明・12 今泉 一哉・13 瀬戸 僚馬・28 杉田 純一・29 岩上 優美・32 安枝 和哉・33 楠田 佳緒・基幹教員以外の教員(担当者未定)／1回) (共同) 看護学科及び医療保健学科の2学科合同での授業にて、お互いの高度専門職の専門性を知り、チーム医療ができる専門職を目指す基盤づくりを行う。	オムニバス方式・ 共同 (一部)
		発展	医学・医療概論	○	(概要) 近年の医学および医療技術の目覚ましい進歩は、医療ニーズ・医療環境の大きな変化とあいまって、従来の医学・医療に新たな変革と秩序の確立を求めている。医学とは何か、生とは何か、医学の目指すもの等、保健、医療、福祉、栄養と、医療に従事するものとして、正しい医学の基礎知識を学ぶ。また、医療の概要について学び、これからの医療、保健、福祉、栄養、看護との関連をそれぞれ理解する。 (オムニバス方式／全8回) (1 郡司 俊秋／全7回) わが国の医療の動向と医療現場における高度専門職の実際、国際的な視野をもつ医療人を目指すこと、インフォームド・コンセント・医療者の立場と患者の立場について学ぶ。病院見学により、学んだ知識を実際の医療現場で確認し、理解を深める。 (20 齋藤 さな恵／全1回) 病院の仕組み・診療体制を学び、チーム医療の実際と高度専門職の役割を理解する。	オムニバス方式
			臨床薬理学 (薬理学)	○	臨床薬理学は「薬の人体における作用と動態を研究し、合理的薬物治療を確立するための科学(日本臨床薬理学会)」と規定されている。本授業では、臨床薬理学の専門領域である新薬候補物質の有効性と安全性を評価する方法、医薬品として認可された後も、多数の使用例を検討しつつ、適正な薬物治療を確立してゆくために必要な基本的知識、さらに治療対象となる患者(年齢、性別、生理的狀態等)側に立った薬物動態の知識、さらに薬の作用と薬効についても概説する。	
			医療マネジメント論	○	昨今、医療現場における経営の視点の重要性が叫ばれている。理系、文系にかかわらず医療現場に携わるものに対して、それぞれの立場から医療の現場の運営をいかに効率的かつ円滑に遂行していくか、日本における医療経済の現状を踏まえた医療の質を高めるにはどうしたら良いか、個と集団とのかかわりの中で、いかに人間関係を維持していくか等に関して、患者中心のチーム医療の重要性を考慮しながら講義を行う。	
			キャリア教育Ⅱ	○	将来、医療における高度専門職として活躍するために、学生時代に取得が必要な基礎的能力(知識活用力・行動特性)とは何かを学び、卒業後も自らの資質を向上させ、社会的及び職業的に自立できるように、入学時から計画的に幅広く学習する機会を与えることを目的とする。以下の項目の修得を目指す。 ・自分の意見を持って主張することができる。 ・他者の話を相手の意図を汲み取りながら「聴く」ことができる。 ・自分の強みや課題を理解し、言語化できる。 ・基礎的能力の開発目標を具体的に、自分で立てることができる。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
管理栄養学専攻科目群	医療の コラボ レー シ ョ ン 教 育 分 野	実 践	キャリア教育Ⅲ	○	将来、医療における高度専門職として活躍するために、学生時代に取得が必要な基礎的能力（知識活用力・行動特性）とは何かを学び、卒業後も自らの資質を向上させ、社会的及び職業的に自立できるように、入学時から計画的に幅広く学習する機会を与えることを目的とする。以下の項目の修得を目指す。 ・基礎的能力において、自分の成長や要因となったと思う経験を語る（説明する）ことができる。 ・社会人講師の講話という経験の機会をうまくとらえて、自分のものにすることができる。 ・自分の強みが将来においてどのように生きるかを考え、言語化することができる。	
			協働実践演習	○	これからの医療は患者を中心として、医療従事者である、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士等その他多くの職種が協調して、その疾患の治療にあたるが必要となってくる。このことを念頭において、看護学科、医療保健学科の学生が、生活習慣病(糖尿病等)や褥瘡を題材に、それぞれの専門の立場から、その治療やその患者に関わる問題について意見交換し、実際の臨床での各自の役割を認識する。また、この演習を行うことによって、さまざまな専門科目の内容を総合的に理解し、かつ深く理解することをねらいとする。	
			ボランティア論	○	現代の日本においてボランティアはどのような意義があるのかをとらえ直し、共生社会や医療保健の推進におけるボランティアの諸相、活動の実態、意義、課題などについて多角的に考察する。ボランティアに対する理解を深め、その多様性を知る契機としたい。ボランティアの背景、現状、課題など「ボランティアを学ぶ」と同時に多様な事例によって「ボランティアで学ぶ」ボランティア論として、市民社会の担い手としてのボランティアを理解し、共に自己実現を図ることを理解することを目指す。	
			ボランティア活動		学科横断的な混成チームを編成し、いくつかのテーマごとでさらにグループに分かれる。各グループは、どんなボランティア活動を行うか、討議を行うことで決定して、積極的にボランティア活動に参加する。自分たち独自でも良いし、同じテーマの実際のボランティア活動に参加するものでもよい。ボランティア活動を実践することで、「援助し、援助される関係」の体験を通じて、ボランティア活動の意義を理解することを到達目標とする。	
	専門職の 教育分野	専門 基礎	健康管理概論	○	今日、人の環境を取り巻く問題は個人ベースでは生活習慣の問題があり、社会的にはストレスの増大、環境汚染、地球温暖化など多岐にわたっている。また、最近では心の健康問題を持つ人が増加している。この講義は、専門科目を学習する際の基礎となる健康の概念、健康増進や疾病予防の考え方やその取り組み方について、人間の行動特性とその基本的なメカニズムを理解しながら学修する。具体的には、講義の前半では、健康保持・増進という面から健康管理の問題点を理解し、後半においては、専ら疾病予防の観点から健康管理のあり方を考え、将来、自信をもって地域や職場で貢献できるような能力を身に付けることを到達目標とする。	
			社会福祉総論	○	社会福祉は先進工業国に共通する重要な政策であり、人々の生活に密接に関係している。この講義では現代社会における社会福祉の理念と意義についてまず理解する。次に現実の社会システムとしての福祉援助の形態や方法を学び、サービス体系や福祉援助を必要とする人たちについても学ぶ。特に現代日本社会は豊かな社会となり、社会福祉の基本理念や倫理性が問われているので深く理解させ、法体系や国の政策としての財政との関係も学ぶようにする。	
			食育論		将来的に健康を保持増進するために、子どもの幼児期から、食生活上の問題点の理解と、食の様々な役割・幼児を取り巻く食環境の変化や健康に与える影響を教える必要性を理解する。同時に幼児における望ましい食生活はどうあるべきかを教える方法を検討する。このことは、子どもの体と心の充実との両面からのアプローチが必要とされている。実際の指導方法(朝食のあり方とその意義、食事の選択の仕方、給食、間食・飲料の栄養、外食など)とその評価を論じる。	
			食文化論		食環境及び食嗜好が変化している今日、食の問題について多面的、総合的に理解を深め、望ましい食生活のあり方を考えさせる。食生活指針で述べられているように、食文化を理解し、日本型食生活の調書を食生活の変遷と文化を学ぶ事から食の機能と役割を知ingことを目標とする。和食のルーツとなる古代日本の食文化を学び、古代の日本の食文化がどのように成立したかを、奈良・平安時代を中心として学ぶ。そこから古代における天皇・貴族から庶民に至る食事の内容を明らかにし、奈良・平安時代から現代に続く食文化について理解を深める。	
			病理学Ⅰ (病態の系統的理解)	○	これまでに学んだ解剖学・生理学を統合・整理して、身体の構造と機能をよく理解したうえで、多くの疾患の病態を理解する。そして医療の現場での実践において応用が可能になるような病理学を会得する。病理学Ⅰでは、まず総論的にヒトの身体の構造と機能を系統的に学ぶ。引き続き、消化器、呼吸器、血液・造血器、循環器、腎・尿路、アシドーシスとアルカローシス、内分泌、運動器、神経系、免疫・アレルギー、生殖器系、妊娠と分娩、感覚器などについて、基本的な病態を解剖学および生理学と結びつけて理解する。身体を構成している各器官・臓器・組織の構造と機能を理解したうえで、病的状態においてその形態、機能や代謝がどのように変化していくかを学ぶ。そして病気の診断を確定するための検査などについても総合的に理解できることを目指す。	
			病理学Ⅱ (病態の評価・診断)	○	病理学ⅠおよびⅡでは、身体の構造と機能をよく理解したうえで、多くの疾患の病態を理解し、医療の現場での実践において応用が可能になるような知識を会得してもらうことを目的としている。病理学Ⅰ(病態の系統的理解)では、身体の構造と機能の理解のうえに様々な疾患における臓器・組織の変化を学び、病気の本態を理解し、診断を確定するための検査などについて総合的に学んだ。病理学Ⅱ(病態の評価・診断)では、実社会に出て実際に医療に携わったときに、多く遭遇する疾患、生活習慣病や高齢者によくみられる疾患を中心に、広い分野の疾患の病態・予防・診断・治療について学修する。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	専門基礎	生化学Ⅰ (生体物質の構造と機能)	○	正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成するものの中から、遺伝子レベル、細胞レベルの構造や機能を理解する。生化学Ⅰでは生体を構成している糖質、脂質、タンパク質、核酸、酵素等について、その構造と機能を学び、生化学Ⅱで展開されるさまざまな生体物質の代謝の理解につながるようにする。また、食品として摂取する栄養素が生体物質へと変化していく過程を消化・吸収、血液での栄養素の運搬、さまざまな臓器での栄養素の貯蔵などの話題においても理解を深める。	
			生化学Ⅱ (生体物質の代謝)	○	生化学Ⅱでは、生化学Ⅰで学習した生体成分の構造と機能を基に、さまざまな生体物質の代謝について学ぶ。具体的には、エネルギー代謝、糖質代謝、脂質代謝、アミノ酸およびタンパク質の代謝、核酸代謝、代謝調節、代謝の乱れと病気、免疫の生化学について学習する。この講義を通して、さまざまな栄養素がどのように生体で役に立っているのかが理解され、同時に適正な食物摂取とはどのようなものかを、生化学的に理解する。	
			微生物学	○	人体と微生物との相互関係について理解し、病原微生物の感染から発症、その防御の機構を理解する。この講座ではさまざまな病原微生物の種類と特徴について学び、さらに、それらに対する生体の感染防御の仕組みである免疫について学ぶ。具体的には、微生物の概念、細菌学総論において細菌の構造と機能、感染・発症、消毒と滅菌、化学療法剤、細菌学各論では様々な細菌について学習する。また、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、ウイルス、真菌、原虫について学ぶ。また、異常な免疫反応であるアレルギーの仕組みについても学び、食物アレルギーの予防や対処について学ぶ。	
			分子病態学	○	この授業では、生体での栄養素の代謝調節および栄養素そのものの生体代謝調節への関わりを分子生物学的立場から講述する。個人差、体質といったものの中には、遺伝的な素因によるものであることが明確になりつつある。これらの研究がテーラーメイド医療を可能にするが、このテーラーメイドが今後の医療や栄養指導にどのように関わり、生かされていくのかを、主に生活習慣病を取り上げて講述する。分子レベルでの栄養素の代謝について説明でき、遺伝と疾患のなりやすさおよび環境要因との関わりについて説明できるようになることを目指す。	
			解剖生理学実習	○	人々の健康の維持増進・疾病予防などに携わる医療における高度専門職は、人体の構造と機能を十分に理解する必要がある。この授業では、マクロおよびミクロ解剖学実習として各器官の形態や体内での位置観察および正常・病理標本の観察を行う。各器官の正常な組織の機能を理解すると共に、疾患における組織の変化を理解し、疾患の理解を深める。さらに、バイタルサイン測定、スパイロメトリ測定、心電波形の読み取り、感覚機能検査などを実習し、人体の生理機能への理解を深める。	
			生化学実験Ⅰ (生体物質の分析)	○	生化学Ⅰの講義を基に、生体に存在する糖質、脂質、タンパク質の定性実験を行い、生体物質の生化学的性質の理解を深める。具体的には糖質の定性、定量実験、タンパク質の定性、定量実験、脂質の定性実験を行う。また酵素反応実験を通して、生体内での働きやその生化学的特徴について学ぶ。・生化学Ⅰの講義で学修した内容を踏まえ、実験結果について理解ができ考察することができる。・実験を通して修得した知識を、今後さまざまな臨床上の疾患や様々な問題の対処に通ずる学修に活用できる。以上の項目の修得を目指す。	
			生化学実験Ⅱ (生体物質の発現・代謝分析)	○	この授業では、生体内のタンパク質や酵素、並びに代謝を中心に生体内で起こる反応について学修する。生体内で機能している分子（核酸、酵素、代謝産物など）について、定性、定量、機能解析を行いながら、我々が日常摂取している栄養素が細胞内でどのように代謝されどのように生命現象とかかわっているか実験を通して理解を深めていく。生化学Ⅰ、Ⅱの講義、生化学実験Ⅰで学修した内容を踏まえ、実験結果について理解ができ考察することができることを目指す。	
			薬物療法学		疾病の薬物療法に用いられる医薬品を理解するために、医薬品と食品の相違点、薬の作用機序、剤形、投与経路、薬効を表わすまでの生体内での運命と医薬品の開発、保管、医薬品の取り扱いに関する法規などの基本的知識を学ぶ。さまざまな疾患の治療に用いられる医薬品の特徴と患者への適応を理解するために、代表的な疾患の治療指針と治療薬の作用機序、使用方法、副作用、相互作用に関する基本的な知識を修得すると共に、病院の薬剤部の見学を行い、理解を深める。	
			病態生化学		さまざまな疾患の理解を深めるために、生活習慣病を含めた多くの疾患の発症するメカニズムについて生化学的に解説する。具体的には、精神神経疾患、骨・関節疾患、血液・造血器疾患、心臓・血管系疾患、免疫疾患、腎疾患・泌尿生殖器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、感覚器疾患、内分泌・代謝疾患、炎症、腫瘍について学ぶ。この講座を通して、疾患の生化学的な理解を深め、疾患を把握し、その必要性を認識する。	
			臨床検査学		さまざまな疾患の診療・診断に臨床検査が用いられている。この科目では、さまざまな臨床検査（血液、尿、微生物、免疫、輸血、生理学、病理学等）について解説する。具体的には総論で、臨床検査の意義と内容、栄養と臨床検査、各論では、尿・便検査、血液検査、血液生化学検査、免疫・血清検査、病原微生物検査、染色体・遺伝子検査、病理検査、生理機能検査について学ぶ。この授業を通して、検査値で疾患の概要が掴めることを狙いとする。この知識の習得と共に病院の臨床検査部の見学を行い、実際の疾患の理解につなげる。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	専門基礎	食品学Ⅰ (総論・食品の構成・生理および栄養機能)	○	食品は多様な成分を含み、それらが個々の食品の特徴を生み出している。本講義では、食品の栄養に関わる水分、たんばく質、脂質、炭水化物、無機質、ビタミンなどの性質・機能・役割、食品の嗜好に関わる色・味・香り・物性と調理・加工・保存中の成分変化、食品の生体調節に関わる機能性成分について学ぶ。また、食品の歴史的変遷、食物連鎖・食環境問題、食品成分表使用上の留意点と成分値の分析方法について学ぶ。	
			食品学Ⅱ (各論・食品の種類、性状、栄養特性・加工)	○	国民の健康維持や更なる健康増進のためには、食の基本である「食品」に関する正しい知識や情報を知ることが必要である。本講義では、植物性食品、動物性食品、調味料、香辛料、嗜好飲料、油脂食品、発酵食品などに大別し、個々の食品素材の基本的な性状、利用などについて学ぶ。また、食品を長期に保存するための保蔵法や製品に関する品質表示や容器包装、栄養面・安全面・嗜好面の各特性を高めるための食品の加工・調理法を学ぶ。	
			食品衛生学	○	食品衛生とは、食中毒を主体とした食品に関わる危害防止を目的とし、その方策を探り、健全な食生活を営むための手段を構築することである。今日の科学の急速な進歩や産業の発展は食生活の様相を大きく変え、それに伴って新たな食中毒・残留農薬問題等が問題となっている。本科目では食品の安全性および重要性について理解し、微生物制御、異物混入防止、食品添加物の安全性および使用基準などを中心に食品衛生・衛生管理の方法について学ぶ。	
			食安全学		食品素材の栽培・飼育などの一次生産から始まり、製造・加工、流通段階を経て最終消費にいたるまでの食品の流れにおいて、安全な食品の生産・供給を確保しなければならない。この講義では、食生活における安全に関する問題を広く深く追求し、人々の食生活を取り巻く環境に視点を当て、食糧問題、食の安全性とその取り組み、食品衛生、食環境について学ぶ。食品安全の高度化に必要な知識の習得とその手法を学び、食に関する品質管理として必要な知識と技術の修得が到達目標である。	
			調理学	○	調理とは、食材の安全性、嗜好性、栄養性を高め、食べることができるようにすることである。各々の食材の栄養価、特性、機能性等を理解し、具体的にどのような食べ方をしたら良いのかを科学的(調理操作による組織・物性と栄養成分の変化等)に学習し、調理の技術の向上や食生活の実践に役立つ考え方を学ぶことを目標とする。また、新食品素材、真空調理、クックチル、クックフリーズなどの調理方法についても学習する。	
			食品化学実験	○	この授業では、食品学関係の講義や授業で学んだ理論を、実際に実験を行うことで理解することを目的とする。食品成分の定量実験に必要な基礎的な化学知識と基本的な実験操作等について学び、実験レポートのまとめ方、結果の数値の計算・検討、結果から得られた考察までの書き方を修得する。また、機器を用いて食品成分の物理化学分析、五味の識別試験、容量分析、水の硬度についても学ぶ。化学的視点から食品を評価する手法とその原理が理解でき、食品の栄養特性や物性等が解説できるようになることを目指す。	
			食品学実験	○	食品は、種々の化学成分から成り、その含有量の差異がその食品の性質に影響を与える。本実験では、身近な食品を試料として用い、食品および栄養に関わる成分の分析技術、分析原理を修得する。また、水分、たんばく質、脂質、無機質、糖質などの食品材料中の一般成分分析を行なうことにより、食品に対する理解を深める。さらに、食品成分表に記載されている数値は、食品の栄養的価値を判断するための良い指標であることも学ぶ。	
			食品加工学実習	○	食材および食市場の急激な変遷に伴い、生産者が作る種々の加工食品に対して正しい知識が必要とされている。本実習では、食品学・調理学等の講義で学んだ理論に基づき、その応用として食品工業および消費者それぞれの視点から食品の取り扱いを理解し、実際の実習を通じて、物理的・化学的・生化学的原理による食品加工技術を習得する。さらに、食品工場における衛生管理、工程管理、品質管理などの基礎理論も学び、加工食品への理解を深める。	
			食品衛生学実験	○	飲食に起因する健康被害を未然に防ぎ、人々の食生活の安全性を確保することは重要な事柄である。本実験では、食品に関わる危害の防止と原因を明らかにすることによる予防の観点から、微生物学的試験・理化学的試験を通じて、その原因となる物質の検出、食品中の食品添加物・食中毒の原因となる微生物の検査、同定法を身につける。また、食品の性状試験から、規格基準の適合性や良否の判定を行い、品質および安全性に対する評価法についても学ぶ。	
			調理学実習Ⅰ (基本調理・日本食の理解)	○	調理は、栄養学を料理として具現化するために必須の操作である。この調理学実習Ⅰでは、食品の基本的な取扱法および調理法について学ぶことを目的とする。日本料理を通して包丁の使い方(野菜の切り方、魚の下ろし方)、調理技術、配膳、盛り付け等を実習によって習得し、日本的な食事の調理法、栄養・歴史的な面から理解を深める。また、大量調理につながる基本的な食品管理・衛生管理を理解し、献立作成につなげる。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	専門基礎	調理学実習Ⅱ (応用調理・食文化と献立作成)	○	実習Ⅰで習得した基本的な技術の応用展開を図るものとする。具体的には、西洋料理。中華料理をとり入れ、また、行事食や季節感のある献立の実習を行い、国内外の食文化について実践的に学ぶ。さらに、日本料理、西洋料理、中国料理の各種料理様式における調理法の特徴と栄養面の違いを理解する。また、テーブルマナーを身につける。食の専門家としての資質を養い、給食経営管理論や臨床栄養学といった応用科目への基礎的技術を身につける。	
			食品機能学		食品には、栄養機能（一次機能）、嗜好機能（二次機能）に加えて、生体調節機能（三次機能）がある。特に、食品の生体調節機能を知ることがは、生活習慣病などに対する一次予防に重要である。本講義では、主に特定保健用食品に含まれる食品成分の生体調節機能やそのメカニズムについて理解を深める。また、保健機能食品（栄養機能食品、特定保健用食品、機能性表示食品）や特別用途食品の制度についても学習する。	
			サプリメント論		この授業では、サプリメントの需要の高まりを受け、市場動向など食品関連分野での利用状況に関する情報を学ぶ。また科学的視点からは、サプリメントに関するエビデンス・作用機序・注意事項などベネフィットとリスクを学修し、管理栄養士として必要とされる知識を学ぶ。サプリメントの歴史、市場、資格、学会について説明できるようになること、各種疾患（肥満、糖尿病、認知症、アレルギー、がん、関節痛、貧血、脂質異常症等）へのサプリメントの作用や効能について、栄養学的・生化学的に説明できるようになること、スポーツでのサプリメントの摂取に関して、栄養学的・生化学的に説明できるようになること、サプリメントの過剰摂取の影響や、品質の低下が人体に悪影響を与えることを科学的に説明できるようになることが到達目標である。	
			調理科学実験	○	栄養・安全・嗜好面のいずれの特性も、素材段階から一層高めるのが調理である。この授業では、栄養面・安全面・嗜好面の各特性を高める調理の方法を理解するために、食品・調理の科学的解明方法を実践して理解する。栄養士において、再現性のあるおいしい食事をマニュアル化する提供することは重要であり、経験化された調理技術の解明および食事形態・食事提供の最適方法を検討し、安全でおいしく、栄養価の高い調理を理解する。また、新しい食材・食品についての調理特性も検討する。	
			食品流通論		この授業では、食品の流れをフードシステムと捉え、そのフードシステムの構成主体や全体的な特徴を解説する。具体的には、食料を取り巻く国際政治経済的環境や日本の食料需給動向を踏まえ、日本の食生活の変化、食品の生産、製造・加工から卸売・小売に至る各段階の産業状況、ビジネス・マーケティングについて概説する。授業全体を通じて、安全・安心な食生活を確保・維持するために必要な食品流通の知識や考え方を身につけることを目指す。	
			フードスペシャリスト論		食に関する専門知識資格者は、生産分野、調理分野及び栄養分野には存在するが、流通から販売に至る品質の判定やコーディネートの分野には存在しなかった。フードスペシャリストとは、食品の官能検査・鑑別・情報提供、販売、促進、供食時の快適な食事をコーディネートし、消費者のニーズに応える新しい専門職である。国民の食と食生活の向上のため、食のフィールドの発展、充実を推進する専門家・指導者として、さらに、国際交流の進展に寄与する国際人として活躍できる人材を養成するため、食に関しての全般にわたる知識をもち学習することを目指す。	
			フードコーディネート論		食生活において、消費者の安全嗜好、健康志向を包含した食の向上を満足させることを目的に、異文化交流を含めた多様な要素を考慮して食のコーディネートが求められる。この授業では、目的に合わせた献立設定や食器、食空間、食卓の整え方、テーブルマナーをコーディネートし、さらに食文化の知識を学ぶ。食企業における新調理システム、従業員のサービス指導、売り場コーディネート、消費生活のアドバイスまで食事の提供側からも学ぶ。	
			食品の官能評価・鑑別論		食品を選択あるいは提供するためには、食品に関する知識と品質を見抜く能力を持つことが非常に重要である。この授業では、食品の品質を評価する方法について学ぶ。主観的評価として官能評価を、その目的・意義・手法について学ぶ。客観的評価としては化学的評価法と物理的評価方法について学習する。また、食品の鑑別に関する講義により、各食品の種類、選択・保存方法なども学び、理解を深める。	
		基礎栄養学	基礎栄養学特講	○	この授業では、「栄養学総論（基礎栄養学）：医療のコラボレーション教育」で学んだ内容を基に、さらに栄養に関する新たな項目・展開について学修する。具体的には、医療と栄養、代謝と栄養、生活習慣病と栄養、長寿と栄養、栄養補助食品と健康等について学ぶ。この授業を受けることより、一般に流布している栄養に関わる知識に対して、適確に対応する能力を身につけ、今後の栄養管理・栄養指導等への基礎となることを到達目標とする。	
			栄養生理学実験	○	栄養の状態を動物実験によって確認する。主にタンパク質の栄養状態が動物の成長にどのような影響を及ぼすのかを、血液成分や臓器中の栄養素量によって観察する。主にアルブミン/グロブリン比、血清グルコース濃度等を測定し、栄養状態の評価をする。摘出臓器より栄養状態を反映する遺伝子の発現状態についても検討する。動物飼育の最後には、動物の解剖を行い器官・組織の構造についてヒトと動物との相違点を理解する。授業の最終回には、グループ発表を行う。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ (基本的理解・総論)	○	出生から死までの各ライフステージ(妊娠・胎児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期)における身体状況や栄養状況に応じた栄養管理の考え方を理解する。妊娠や発育、加齢などライフステージ別(妊娠・胎児期、幼児期、学童期、思春期)の人体の構造や機能の変化に伴う栄養特性と問題点を十分に理解し、栄養アセスメントの基本的な考え方を習得する。健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能を理解し、健康への影響に関するリスク管理の基本的な考え方やその具体的な方法を理解する。	
			応用栄養学Ⅱ (応用・特殊環境と栄養・実践)	○	応用栄養学Ⅰの講義に続いて、成人期、高齢期の人体の構造や機能の変化に伴う栄養特性と問題点を十分に理解する。これからの高齢化社会に対して、摂食、嚥下障害等の問題を理解し、身体状況の理解・生活活動状況および咀嚼状態に応じた食事のあり方および栄養管理を理解し、健康への影響を学習する。また、特殊環境下(アスリーツ・生活活動など)の栄養状態に応じた栄養管理および栄養アセスメントの考え方を理解する。	
			運動栄養学	○	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的变化の特徴をふまえ、各ライフステージにおける健康づくりのための栄養摂取と身体活動について学修する。具体的には、各ライフステージにおける身体機能や代謝の特徴と身体活動の効果との関連、および、健康増進、疾病予防・重症化予防のための栄養摂取と身体活動との関連について講述する。健康の維持増進や疾病予防、また運動における障害の予防を目的とした栄養指導を行う際の基礎を築くことを到達目標とする。	
			アスリート栄養学		この授業では、スポーツ現場で実際に行われている栄養サポートがどのようなものかを、事例をおりまぜながら講述する。また、アスリートをサポートする際に必要な知識や、種目や身体活動量に応じた食事摂取量やコンディション維持のための実践的な食事摂取法などのスキルについて講述する。スポーツ現場における様々な状況に応じた適切な栄養アセスメントと食事計画をたてることができる能力を養うことを目標とする。	
			栄養学演習	○	喫食者が心身ともににより健康になるよう、栄養面、安全・衛生面、経済面、娯楽性(季節や行事等)を考慮した栄養管理計画を作成することは、管理栄養士・栄養士の技術と技量が求められる重要な業務のひとつである。調理学・調理学実習で得た調理技法、食品学や食品学実験で得た食品の知識を活かして、基本的な栄養管理計画の立案方法を学ぶ。身体状況や栄養状態に応じた栄養管理を理解し、対象となる個人または集団の健康増進、疾病予防・重症化予防を目的とした、身体・栄養状態の評価に応じた栄養目標量・食品構成および献立作成などの栄養管理を計画する能力を養うことを目標とする。	
			応用栄養学実習Ⅰ (ライフステージ別食事管理)	○	各ライフステージ(妊娠期、授乳期、新生児・乳児期、幼児期、学童期)別の個人および集団における身体状況や栄養状態に応じた栄養管理のための食事計画に関する能力を養うことを目的とする。日常食の献立作成の基本(主食、主菜、副菜、汁物)、1食あたりの適切な食品の使用量を学び、一食単位および一日単位の食事設計と調理を実習する。具体的には、妊婦の身体状態に応じた栄養計画や食事計画、発達段階に応じた離乳食・幼児食についてなど、対象者や集団の身体状況や栄養状態に応じた栄養必要量を考慮した栄養管理計画と食事計画ができるよう、症例検討や献立作成、調理、評価を通して理解を深めていく。	
			応用栄養学実習Ⅱ (ライフステージ別栄養管理)	○	応用栄養学で学んだ知識を基に、各ライフステージ(妊娠期、授乳期、乳児期、成長期、成人期、高齢期)および運動・特殊環境下での個人あるいは集団に対し、栄養素等摂取状況を評価し、食事摂取基準を活用した栄養管理を実習する。身体計測や身体活動評価、栄養スクリーニングなど一連の栄養管理の過程で必要となる基礎的栄養評価・診断の実習を含む。対象者や集団の身体状況や栄養状態に応じた栄養必要量を考慮した栄養管理を実施していくために、事例を基にした演習を通して理解を深めていく。	
	栄養教育論		栄養教育論Ⅰ(基礎)	○	ヒトの健康増進、疾病予防・治療、傷病者の社会復帰に役立つ栄養改善施策を実践し、個人あるいは集団、ひいては国民の社会福祉、社会保障、公衆衛生の向上及び増進に寄与する知識・技術を応用する科学である栄養教育の理論を学ぶ。栄養教育の定義・目的に応じた行動科学理論や行動変容モデルと栄養教育活動の計画(plan)、実施(do)、評価法(see、check)の基礎を理解する。そのために必要な健康、栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集と調査法を学ぶ。これらの調査結果の分析と総合的な評価・判定する能力を養う。	
			栄養教育論Ⅱ (応用・ライフステージ別栄養教育)	○	この授業は、栄養教育論Ⅰに基づき、ライフステージ別栄養教育法および集団を対象とした栄養教育法を実践的に学ぶ科目である。対象者のアセスメント結果から実態の把握、栄養教育の計画・立案と実施、評価を通して栄養教育プログラムを総合的にマネジメントできるように理論と方法を講述する。ライフステージ別の栄養教育プログラムを総合的にマネジメントできる理論と方法を習得し、計画立案できるようになることを目指す。	
			栄養教育論Ⅲ (応用・要介護者の栄養管理とカウンセリング)	○	医療・福祉の現場では高齢者や障害者の食習慣や嗜好・食行動・生活環境における栄養状態や健康状態のアセスメント能力が求められる。また、超高齢社会にともない、高齢者の低栄養、認知症の食行動より栄養の課題分析を行う上でのコミュニケーション法やカウンセリング技能も必須である。この授業では、カウンセリングの技法および栄養教育への応用について講述する。また、要支援・介護者や障害者の食習慣・食嗜好・食行動・生活環境および栄養状態・健康状態のアセスメントを理解し、対象者およびその支援者に対する栄養教育プログラムの作成と実施・評価法について修得する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	栄養教育論	栄養教育論実習Ⅰ (基礎・ライフステージ別栄養教育)	○	この授業では、栄養教育理論に基づき、集団あるいは個人を対象とした、栄養状態、食行動、食環境の評価方法を選択・実施したうえで、栄養教育プログラムの計画・立案、実施、評価を実習し、栄養教育法に関するスキルを身につける。対象者の優先課題の特定のために必要な情報収集のスキルを身につけ、栄養教育の計画・立案、実施、評価、改善が実践できるようになることを到達目標とする。	
			栄養教育論実習Ⅱ (応用・症例に基づく栄養教育)	○	傷病者の身体状況・病態、薬剤の服用状況、摂食機能や要介護度等、生活・居住環境、およびその栄養評価と栄養診断に基づいた、栄養教育プログラムの計画・立案、実施、評価を実習し、栄養教育の実践能力を養う。特に、調理を伴う栄養教育や、医療面接や特定保健指導などを想定した模擬患者を導入したカウンセリング・コーチング技法を身につける。傷病者に対する栄養教育プログラム作成に関するスキルを習得し、加えて、カウンセリングの基本的技術を体験的に学習し、実践できるようになることを目指す。	
			カウンセリング論		どの職業に従事するとともに、人間の「心」に関する知識は不可欠である。本講義では、最近色々な分野で関心を集めている、「カウンセリング」という考え方を軸に、特に「人間が健康に生きる」とは、「生きる意味」とは、「人間の幸福」とはというような、人間論的視点より人間の「心」について理解を深め、カウンセリングマインドを背景とした栄養指導が実践できるようになることを目標とする。カウンセリングの理論と技法は、管理栄養士活動、及び日常における栄養指導という職業に携わる上で、広さと奥行きを与えると考える。	
	臨床栄養学		医療栄養学概論	○	(概要) 臨床栄養学Ⅰ・Ⅱの知識を基に、疾病の発症や進行および栄養障害との関連を理解し、臨床診療や病理診断の現場を重視し、病態評価や診断、治療の基本的な考え方を理解する。具体的には、循環器系、腎・尿路系、精神・神経系、呼吸器系の疾患、血液・造血器系、骨格・運動器系、皮膚系、アレルギー・免疫系疾患について講述する。 (オムニバス方式／全15回) (1 郡司 俊秋／全5回) 日本の医療の動向と栄養の重要性、栄養管理に必要な消化器症状、経腸栄養と静脈栄養、食生活とがん予防、栄養管理と医療倫理について学ぶ。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回) 健康増進や疾患予防につながる科学的根拠を提供し、食事や栄養政策の改善につながる栄養学研究について学ぶ。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回) 経腸栄養と静脈栄養は、種々の医療現場で行われている。その手技や問題点について学ぶ。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全2回) 創傷・褥瘡の栄養管理について学ぶ。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回) 検診センターでの栄養指導・栄養管理について学ぶ。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全2回) 肥満と栄養について学ぶ。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回) 救急入院患者の食事管理について学ぶ。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回) 精神疾患・認知症と栄養管理について学ぶ。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回) 味覚や嗅覚は喫食と関連し、健康や生活の質に影響を及ぼす。味覚を感じる舌と嗅覚と脳のしくみについて学ぶ。	オムニバス方式
			臨床栄養学Ⅰ (臨床症候と栄養障害の評価)	○	この授業では、栄養評価と栄養診断に基づいた栄養管理計画を作成・実施・モニタリング・評価に必要な基礎知識として、臨床症候と栄養障害の評価、臨床における客観的栄養評価、疾病・身体状況に対応した栄養補給法、食事と医薬品の相互作用について講述する。①疾病・身体状況に対応した栄養補給方法を説明できる。②栄養アセスメントに必要な項目と栄養状態との関係を説明できる。③栄養アセスメント項目から栄養状態や疾病コントロール状況を把握できる。以上の項目の修得を目指す。	
			臨床栄養学Ⅱ (疾患別・病態別栄養管理)	○	この授業では、疾患・病態時の体内代謝・生理学的・病理学的所見に基づいて、各疾患の栄養評価と栄養診断や疾患の病態をふまえた栄養管理の必要性について講述する。具体的には、栄養・代謝・内分泌系、消化器、循環器、腎・尿路系、呼吸器、血液・造血器系、骨格・運動器系疾患について講述する。①各疾患の病態や栄養状態の特徴を概説できる。②各疾患の発症機序と栄養食事療法との関係を説明できる。以上の項目の修得を目指す。	
			臨床栄養学Ⅲ (チーム医療における栄養管理)	○	他職種との連携が、治療や栄養管理において求められる疾病・病態について、疾患・病態時の体内代謝・生理学的・病理学的所見に基づいて、各疾患の栄養評価と栄養診断や疾患の病態をふまえた栄養管理のありかたについて講述する。具体的には、日腔(摂食嚥下障害)、精神・神経系、皮膚、免疫・アレルギー系の疾患や、周術期、要介護者・障害者について取り上げ、チーム医療における管理栄養士の役割の理解を深める。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	臨床栄養学	臨床栄養学実習Ⅰ (基礎)	○	この授業では、医療施設や保健・介護分野における各種計測による栄養状態判定の方法の実際を学ぶ。特に食事調査、身体計測、エネルギー代謝、握力および血液検査（血糖値、HbA1c、クレアチニン）方法を実践的に学び、データに基づく栄養管理計画と治療食・栄養補給を実践的に習得する。症例検討やPOSの記録法についても学ぶ。①栄養スクリーニングツールの利用ができる。②栄養アセスメントおよびその結果に基づいた栄養評価ができる。③栄養評価に基づき、栄養介入計画を立案し、計画書を作成できる。④栄養介入の経過を記録できる。以上の項目の修得を目指す。	
			臨床栄養学実習Ⅱ (応用と実践)	○	食事療法を必要とする患者に対応した栄養食事計画の技術を学び、調理・給食を通して症例を実践的に修得する。治療食として、一般治療食、タンパク質コントロール食等の成分栄養別治療食と嚥下食および経口摂取が不可能な対象者には経腸栄養法(間歌的营养法、PEGなど)および静脈栄養法の実際について学ぶ。さらに、臨床現場及び福祉施設におけるベッドサイドでの患者の対応の実際についても実践的に学ぶ。	
			臨床栄養実践演習		患者の病態、栄養状態等を把握し、栄養管理計画を立案し、ベッドサイドにおける適切な栄養サポートを実行する方法を、すでに実施した臨地実習Ⅲ（病院実習）での経験や疑似症例の検討を通して具体的に学ぶ。病院実習で体験した多職種による栄養管理の実際を他の受講学生と共に追体験する（チーム医療）。また、各疾患の診療・治療ガイドラインを理解する。経腸栄養剤や治療用特殊食品の性状や利用方法を知り、試飲食等の体験をする。一部、集団栄養食事指導（模擬教室開催）も実施する。学外の学会・研修会等への参加も可能な限り行う。	
		公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ (地域栄養の現状と課題・公衆栄養マネジメント)	○	この授業では、地域の健康・栄養施策の計画策定の基礎知識、PPモデルなどの基本概念について学修する。地域や職域等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの総合的な作成・実施・評価を含む「公衆栄養マネジメント」の理解を深める。また、地域栄養の現状把握と課題解決のための「社会資源の活用」「食環境づくり」について予防医学的な視点から学修する。	
			公衆栄養学Ⅱ (国内外の健康・栄養施策・栄養疫学)	○	この授業では、国内外における「栄養関連の健康問題」や「健康づくり施策」の推移と展開について学修により理解を深める。さらに、公衆栄養活動を取り巻く社会環境、法律・制度、関連組織の役割と連携やコミュニケーション・栄養情報の管理について講述する。また、国民健康・栄養調査などの栄養疫学調査の結果評価を、現状把握や栄養政策へ応用させることが、予防医学的アプローチとなることについて理解を深めることを目標とする。	
			公衆栄養学実習	○	医療・福祉・介護分野での集団(各種保健事業)の特性に応じた適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの計画作成、実施、評価をマネジメントできる知識を実践する。栄養所要量の理解、健康日本21、健康増進、公衆衛生活動と管理栄養士活動を理解し、地域住民の健康問題や食生活の実態を把握する。食環境作り機能、栄養情報やコミュニケーションの管理、連帯・調整・体制作りの機能の活用を学ぶ。ヘルスプロモーションの実践モデル(プリシード。プロシードモデル)も取り入れる。	
			地域栄養学実習		地域における栄養活動の事業計画と策定・実践から報告し発表までを学ぶ。一次、二次、三次予防の視点をもち、管理栄養士として地域全体を考える力を養う。予防栄養学の観点から地域医療について考え、実践する力を身につけることを目標とする。地域住民を対象とした健康教室の企画から評価までの一連のプロセスに参加し、地域活動の実務的な範囲を学ぶ。また、地域栄養の対象の広さや、管理栄養士の社会的役割、事業計画の作成と評価、情報管理と個人情報保護、そしてグループ学習による公衆栄養計画書の作成と発表を行う。地域の健康・栄養活動に関わる多角的な視点とスキルを身につける。	
		給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ (基礎)	○	給食運営や関連の資源(食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等)を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。マーケティングの原理や応用を理解し、組織管理などのマネジメントの考え方や方法を修得する。給食管理は、食事を安全に提供するための衛生管理や、作業効率や安全性を考慮した施設・設備管理、作業員の人事管理、経営的な感覚を必要とする原価管理と多岐にわたるものである。これらの給食経営に必要な基礎的知識および技術を講述する。	
			給食経営管理論Ⅱ (応用・実践・施設別給食管理)	○	給食経営管理者としての素養を身につけるため、具体的な事例(産業給食、学校給食、福祉施設給食および病院給食)をあげる。衛生面に配慮した施設設備の概要、給食部門の組織、給食管理業務、栄養管理業務、給食材料の購入方法や検収方法、衛生管理の状況、調理作業の管理等の実際例について学ぶ。また、病院給食における入院時食事療養についても講述しながら、学内実習、臨地実習の基礎としたい。また、管理者に求められる事故や災害時を想定した準備や対策について講述する。	
			給食経営管理論実習	○	給食経営管理論で得た知識により計画された授業の流れに沿って「給食業務（給食の準備、作成、提供、後処理、評価等）」を具体的に実行する。また、3年次以降の「臨地実習」受講を考慮し、ヒト・モノ・カネ等の資源を駆使しての給食の運営、大量調理の基本などについて実践的に学ぶ。さらに、給食における栄養教育も学ぶ。特に特定給食施設で実施されている給食について、「栄養・食事管理」および「経営管理」を展開するための総合的な能力を養う。各クラス各班でこの実習中において見つかった問題点等を、実習期間を通してグループワークでまとめ、最終授業日に「テーマ発表」としてプレゼンテーション（質疑応答を含む）をする。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	総合演習	総合演習Ⅰ（基礎）	○	臨地実習を充実したものにするための事前・事後学習である。事前学習として、各実習施設と実習内容の理解、課題発見や問題解決などについての知識や技術の習得、社会人としてのマナーを知るなどの学習を行う。事後学習では、学習不足分野の確認や将来の進路検討などをも考慮した実習報告会を行う。学生全員が全施設の実習を経験できないため、報告会によって他施設の実習内容を知り、質疑応答等を通して多くの管理栄養士業務を理解する。また可能な限り、関連する他分野、他職種の業務等も理解する。	
			総合演習Ⅱ（応用・総合）	○	（概要）専門基礎分野である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康の各主要分野担当者、及び専門分野である基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論の各担当者が、様々なライフステージはもとより、多岐にわたる傷病者の病態や栄養状態における栄養評価や管理に対応できる総合力の視点から各分野の科目を関連付けしながら解説することにより、専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （1 郡司 俊秋／全1回） 社会で活躍できる管理栄養士となるために、専門基礎分野である「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」から病理学について学習する。 （15 金田 一秀／全2回） 社会で活躍できる管理栄養士となるために、公衆衛生学、食品衛生学について学ぶ。 （17 清水 雅富／全1回） 専門基礎分野である「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の基礎となる生化学について学ぶ。 （6 加藤 隆幸／全1回） 体の仕組みを理解するために、専門基礎分野である「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」から解剖生理学について学ぶ。 （4 西念 幸恵／全1回） 社会で活躍できる管理栄養士となるために、調理学について学ぶ。 （3 御堂 直樹／全1回） 社会で活躍できる管理栄養士となるために、専門基礎分野である「食べ物と健康」から食品学について学ぶ。 （14 神田 裕子／全1回） 健康増進や疾病予防に役立てるため、基礎栄養学について学ぶ。 （19 北島 幸枝／全1回） 様々なライフステージの栄養状態における栄養評価や管理に対応できる総合力を身につけるため、応用栄養学について学ぶ。 （20 齋藤 さな恵／全1回） 様々な栄養状態における栄養評価や管理に対応できる総合力を身につけるため、栄養教育論について学ぶ。 （18 細田 明美／全2回） 栄養評価や管理が行える総合的な能力の基礎となる、臨床栄養学について学ぶ。 （26 宮路 茜／全1回） 地域社会の健康を栄養学の観点から支援できる能力を身につけるため、公衆栄養学について学ぶ。 （25 草間 大生／全1回） 栄養評価や管理が行える総合的な能力を身に着けるため、給食経営管理論について学ぶ。 （16 酒井 理恵／全1回） 栄養評価や管理が行える総合的な能力を身に着けるため、給食経営管理論について学ぶ。	オムニバス方式
		臨地実習	臨地実習Ⅰ（給食経営管理）	○	特定給食施設(事業所、介護保険施設、病院)において管理栄養士の指導のもと、学内で学んだ知識、技術を基に実践的な給食の運営を学ぶ。なお、定員は75名前後とし、希望者が定員を超える場合には成績などから総合的に判断し、選抜する。履修が叶わなかった場合でも、臨地実習Ⅲにおいて、病院における給食経営管理を実習することができる。また、総合演習Ⅰの中で実施している臨地実習報告会において、実習内容を学ぶことができる。	
			臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	○	保健所・保健センターにおいて、行政栄養士の役割および様々なライフステージを含む地域住民のための公衆栄養の実際を学ぶ。また、地域の特性をふまえた健康・栄養問題や課題を明確にし、課題の解決に向け施策を推進することの重要性を学ぶ。なお、定員は25名とし、希望者が定員を超える場合には成績などから総合的に判断し、選抜する。履修が叶わなかった場合でも、「地域栄養学実習」(選択科目)において、行政や地域施設との連携を含めた栄養活動の計画策定、実践から報告発表までを実習する機会がある。また、総合演習Ⅰの中で実施している臨地実習報告会において、実習内容を学ぶことができる。	
			臨地実習Ⅲ（給食の運営・臨床栄養学・給食経営管理）	○	病院において、管理栄養士の指導のもと、学内で学んだ知識、技術を基に実践的な給食の運営を学ぶ。また、食材および衛生管理、経営分析等の基本的マネジメントをはじめとした給食経営管理について体得する。さらに、傷病者の栄養評価に基づく栄養ケア計画の立案・実施・評価の一連の流れを体験し、医療における栄養管理の意義、チーム医療の実際と管理栄養士の役割や、医療職としての患者との関係のあり方などを学ぶ。	
			総合学習Ⅰ（食べ物・栄養と健康）	○	管理栄養士に必要な基本的な資質・能力の全体像を把握し、「健康管理概論」、「体の仕組みと働きⅠ」、「調理学実習Ⅰ」で学修した知識の統合を目的とする。栄養学や管理栄養士の歴史、社会における管理栄養士の役割や使命、活動分野を理解するための基礎知識を講述および学生主体の課題への取り組みにより、理解を深める。栄養の専門職としての職業倫理を説明できる。人と栄養・食の相互的な関係性について説明できる。栄養管理・食事管理とは何かを理解し、食品成分表をつかいこなし正しく栄養価計算ができる。以上の項目の修得を目指す。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	その他	総合学習Ⅱ (食べ物・栄養と疾病・治療)	○	栄養学の消化・吸収の調節機構、栄養補給法の種類や選択、食事摂取基準の設定根拠、食品の摂取状況と生活習慣病との関連などについて、講述および学生主体の課題への取り組みにより、理解を深める。消化・吸収の調節機構を理解したうえで、栄養補給法の種類や選択を学習し、臨床栄養学への理解へとつなげる準備ができている。また、患者の立場を想定して議論することにより、個々人の考え方の違いを理解し、患者の意見を尊重した栄養管理を意識できるようになる。食品の摂取状況と生活習慣病との関連について説明できる。食事摂取基準の設定根拠について概説できる。以上の項目の修得を目指す。	
			実用国語		(概要) 国語（日本語）の文章を正しく理解し、自分の考えを伝え、表現することは、言語・情報活用能力の質を高め、社会で通用する高度専門職になるために必要な能力である。本科目では、読解力と文章力・表現力を養うことを主眼とする。（オムニバス方式／全8回） (3 御堂 直樹・2 豊田 英敏／1回)（共同） オリエンテーションを実施し、この授業の概要を知る。類義語・対義語・同音異義語等について、演習問題を通し語彙力を養う。 (2 豊田 英敏／2回) グラフ・資料・箇条書きにまとめる能力を高め、情報活用能力を身につける。同音異義語や同訓異字について、意味を理解しながら適切な表現力を身につける。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／4回) グループディスカッションをまじえた講義で、「書くこと」の基本姿勢を身につける。提出された課題作文について個別に検討し、多角的な視点についての理解を深める。学生によるプレゼンテーションやグループディスカッションを通して「わかりやすい文章構成」についての理解を深める。 (26 宮路 茜／1回) これまでの授業を振り返り、語彙力・読解力・表現力を養う方法についての理解を深める。	オムニバス方式・共同（一部）
			卒業研究	○	各教員がその専門分野の中から、研究テーマを考え、そのテーマに添って、学習する。それには必要な資料や論文を収集・選別していくが、その作業から、学生自らの興味に合った研究テーマを見出し、それについて、実験、あるいは実習、情報収集、情報分析、調査など、最適な方法で正しい情報。データを得て、自らの見解を引き出ししていくことを目的とする。この卒業研究を行なうことにより、それまで学習してきた専門知識を統合化し、しかも深い知識と知識を探究するきっかけになると考える。同時に従来の見解に新たな創造力を見出し、将来の社会生活において独自の座標軸を打ち建てることが出来る。	
栄養教諭教職課程（一種免許状）			教育原理		教育の基本的概念とは何か、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように成立してきたかを検討したうえで、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。具体的には、学校、家庭、社会とのかかわりの中で、教育の思想や歴史がどのように発展してきたのかを、教育を成り立たせている要因や、多様な教育の理念や実際の教育及び学校とのかかわりから理解することを目標とする。	
			教職論		教職を志す者は教職に対する深い理解と教育に対する情熱・使命感と同時に、児童生徒理解に基づいた確かな指導力が求められる。適宜教育現場での教育課題を提供し、グループ討議や全体で協議し実践的指導力の基礎を習得する。教師（養護教諭）としての職務内容の理解や求められる資質・能力について学び、教育実践を支える基礎知識や様々な指導対応力（チーム学校含）を理解することができ、更に、たえず自己を顧みる反省的教育実践家としての在り方を習得することができるようになることを目指す。	
			教育制度論		学校や地域の様子を具体的資料をもとに思い浮かべながら、教育に関する制度的・経営的・社会的事項を系統的に学び、内在する課題や政策動向を理解する。学校や地域の様子を具体的資料をもとに思い浮かべながら、教育に関する制度的・経営的・社会的事項を系統的に学び、内在する課題や政策動向を理解する。その際、学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。授業では、毎回、テーマにそったキーワード、基礎的事項、法令等の学習を行い、内容の理解に入る。他の事例や諸外国の教育制度にも言及する。	
			教育心理学		人間発達の過程とその発達の時期に応じた特徴を理解できるようにする。また学校で日々進められる教育活動は、心理学的知見を生かし進められていることも理解を深めることができるようにする。主として子どもの特性（発達の特徴）、子どもへの働きかけ（学級経営や学習指導法）、子どもの学ぶ態度や能力、学びの成果（教育評価に係る内容）などについて講義だけではなく、グループワーク、学生のプレゼンテーションも含めて授業を進める。	
			特別支援教育の基礎		本科目では、特別支援教育の理念や教育課程について学び、通常の学級にも在籍している特別に配慮が必要な幼児・児童・生徒の学習や生活上の困難を理解し、組織的に対応していく支援方法を講義及び演習により学習する。そして、次の項目の修得を目標とする。 ①特殊教育から特別支援教育へと変換した理念について述べることができる。 ②特別な支援を必要とする児童・生徒の障がいの特性について概ね理解し述べることができる。 ③特別な支援を必要とする児童・生徒の教育課程について説明できる。 ④校内支援体制の整備、医療との連携について述べることができる。 ⑤校内支援会議の持ち方について演習し、支援会議の司会ができる。	
			教育課程論		本授業は、次の6つの柱で構成されており、諸側面からの考察活動を通じて、学校教育における教育課程の役割について、理論的・実践的に学ぶ。 ①教育課程とカリキュラム・教育課程編成の目的 ②教育課程編成の基本原理 ③学習指導要領の変遷Ⅰ・Ⅱ ④学習指導要領改訂の趣旨・新しい教育課程Ⅰ・Ⅱ ⑤学習に埋め込まれたアセスメント（指導と評価の一体化） ⑥カリキュラム・マネジメント（内容の配列、R－P D C A活動、教育資源の活用）	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
栄養教諭教職課程（一種免許状）	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法		新教職課程コアカリキュラムの「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の①「道徳教育」、並びに②新設科目「総合的な学習の時間」の学校教育における意義と目標についての理解を深める。また、21世紀に求められる「資質・能力」の育成概念、並びに新学習指導要領を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」に基づく「授業改善」・「カリキュラム・マネジメント」について学修し、オリジナル学習指導案づくり（正案）とグループワーク等による模擬授業を通して確かな実践力・指導力の育成を図る。	
	特別活動の指導法		学校教育における特別活動の指導法を学ぶ集団活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、自主的・実践的な態度を育てると共に、人間としての生き方に対する自覚を深め、自己を生かす能力を高めるのを目標とするのが、特別活動である。この講義では、学校教育における特別活動の意義と実践的な例を挙げて、特別活動のあり方を理解する。この講義を受講することで、学校現場での特別活動の意義を理解することができ、栄養教諭としての実践的なスキルを身につけることができる。	
	教育方法論		本授業は、主に以下の5部構成において展開する。諸側面の理解を通して、学校教育における教育方法の役割と実践について学ぶ。理論を学び、実践を経験しながら、自らの力でオリジナルの学習指導案を作成することができるような資質・能力を形成する。（注：学習指導案については、3学年の「道徳・総合的な学習の時間の指導法」にて課題とするので、その手法をこの講義では学ぶ。） ①近代学校における教育方法の変遷や授業づくりの課題と方法 ②教師力、教室環境の整備 ③個性化教育 ④教材論（教材解釈と教材開発） ⑤探究的なディベートの準備と実践（ブレーン・ストーミングとディベート）	
	生徒指導論		生徒指導では「自己指導能力の育成」を目指しているが、この「自己指導能力」とは何かを理解する。また子どもたちのこころとからだの健康の関連を踏まえ、生徒指導において教師の立場での役割について、自分の考えをまとめる。その上で児童生徒の指導に当たるための基本的知識及び技法を学習し、教師として子どもたちにできる指導について考える。我が国の学校教育の特徴と学校教育における生徒指導について理解すると同時に、教師が学校現場で指導にあたるための基本的知識を学ぶ。また、子どもたちが抱える課題にどのような指導ができるかについて考える。	
	学校教育相談		本講義では、教育相談の総論（定義、目的、歴史、対象、方法など）について解説した後、教育相談の対象として代表的な発達障害、不登校、いじめ、非行、児童虐待などについて理解を深め、これらの問題の一般的な支援方法について具体的な事例を通して学習する。また、近年「チーム学校」と呼ばれているように、教育相談は他の専門家や外部機関と連携を図りながら進めるため、具体的な連携の在り方についても解説する。さらに、保護者の支援の重要性についても理解を深めるとともに、カウンセリングの基本的な考え方や技法などについてもロールプレイを通して学習していく。	
	栄養教育実習事前事後指導		「栄養教育実習」は、大学で学修した栄養教育に関する諸理論を、学校現場における教育実践を通じて主体的に再構成することができ、教育の理論と実践が不可分のものであることを実体験すると同時に、教育実践家として今後の課題を発見する実践的指導力が高めることができる場である。「事前指導」では、教育実習を実りある体験とするために事前準備・事前学習・心の準備等を行うことができる。「事後指導」では、実習体験を基に、実習体験学習から振り返り教育実践家としての新たな学びのための課題を整理することができる。以上の項目の修得を目指す。	
	栄養教育実習		「栄養教育実習」は、4年生を対象とし。事前に決定した教育実習校において、1週間の教育実習を行う。①実習校における学校経営・生徒指導・教育課程などの講話をから教育指導に活かすことができる。②学級経営や教育実践の観察や討議、教材研究や指導案作成をすることができる。③上記①②を通して、学校教育への理解を深め、栄養教諭になるための自覚と責任を高めつつ教育実践の基礎能力を養うことができる。④「食に関する指導」の重要性について、授業参観や研究授業を通して「栄養教諭」の職責について理解・経験することができる。以上の項目の修得を目指す。	
	教職実践演習（栄養教諭）		授業は大きく2つに分けることができる。第1は、「教職に関する科目」で学んだ内容の振り返りである。第2は、「栄養に係る科目」すなわち医療栄養学科の専門課程で学んだ内容の振り返りである。毎回、テーマにそって、既習内容のポイントを学習する。主担当のみならず他の教員が授業に関わり、討論やロールプレイング等も行いながら実践的に学ぶことが特徴である。また、学校の食育と給食の実際を参観し、学校の取り組みを学ぶ機会や実践を知る機会も取り入れた授業である。	
	学校栄養教育論		栄養教諭制度創設の経緯を把握し、食に関する指導に関する職務（教科等における指導、給食の時間の指導、個別的な相談指導）に取り組むために必要な知識を身につけ栄養教諭に期待される使命と役割、食に関する指導の教材となる学校給食の献立等管理の重要性を理解し、職務の指導内容及び指導方法について実践力をつける。栄養教諭が中核となって進める食に関する指導内容及び指導方法について理解しその実践力を身につける。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
栄養教諭教職課程 (一種免許状)	学校栄養教育実践演習		前期で学習した栄養教諭が中核となって取り組む食に関する指導の具体的な指導内容栄養教諭に課せられている食に関する3つの職務（・教科等における食に関する指導・給食の時間における食に関する指導・個別的な相談指導）について実践演習し、その手法を取得する。特に学校給食の献立を教材化して関連教科や教科外の特別活動等の中で取り組む「教科等における食に関する指導」について重点的に実践演習をしてその手法を取得する。	
	日本国憲法		この講義では、日本国憲法の内容とその重要性について学び、次のポイントの理解を目指す。 ・日本国憲法の制定過程（日本国憲法がどのようにして作られたのか、その歴史的背景を学ぶ） ・大日本帝国憲法と日本国憲法の違い（旧憲法と新憲法の違いを比較し、それぞれの特徴を理解する） ・日本国憲法の基本理念（日本国憲法が大切にしている基本的な考え方や価値観について学ぶ） ・日本国憲法の構造（国の統治機構や基本的人権などについて学ぶ） ・憲法改正の手続（憲法を変更するための手続きや条件について学ぶ） ・憲法の存在意義（憲法の目的や役割について学ぶ）	

授業科目の概要						
(医療保健学部医療保健学科 臨床検査学専攻)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間		哲学と宗教	○	多くの日本人は自身の生活にとって、宗教は縁遠いものと考えているようである。しかし、人間は「ホモ・サピエンス（英知人）」、「ホモ・レリギオス（宗教人）」と定義されてきた。人間にとって宗教は欠くことのできない要素であり、深く人間存在を知り、世界のありようを知るには、宗教に目を向ける必要がある。また、自らも無意識のうちに立脚している宗教性に目を向ける必要がある。この講義では、世界の諸宗教について、基本的な知識を身につけるとともに、人間の倫理や道徳を支える宗教性にあらためて目を向ける。	
			心理学		“こころ”とはなにか、心理学の基本概念に沿って解説しながら、人間の心理を理解するための基礎的な知識を学ぶ。自分自身を振り返り、日常生活でいかに心理学的視点を活かしていくか、講義を通して探っていく。心理学の基本概念を理解し、“こころ”について、さまざまな側面から考える視点を持つことができるようになることを目指し、心理学の全体像を見通して体系立てて学ぶ。講義で取り上げたトピックについて、日常生活で起こりうる思考や現象との関係について考え、理解を深めることを目指す。	
			文学		浦島太郎の物語が古代伝承をベースとし、各時代によって変化したことを理解する。日本人にとって、「浦島太郎」の物語は誰もが知っている物語であるが、実はこの物語は中国の神仙思想を基にした不老不死の物語であった。ところがそれが時代とともに、さまざまに変化し、現在の我々が知る、浦島物語に変貌する。この講義は、そもそももととなる浦島説話がどのようなものであったか、その背景にあった不老不死へのあこがれについて言及し、かつその後の浦島説話がどのように変化して、現代の形になったか、その過程を理解する。この授業を受けることによって、身近な物語の中に人々がどのように生死を考えてきたのか、人間の幸福とは何かを考える力がつく。さらに自分の文章を作成することが出来るようになる。	
			生命倫理学		ヒトは肉体を有する存在である。その限りでは、ヒトの身体は「モノ」であると言える。だが、「いのち」とともにある人の身体は、単なる「モノ」として扱われるべきではない。その意味でも、人間のケアが仕事である医療の現場においては、「いのち」ある「人間」という視点に立った「倫理」のあり方に向き合う姿勢が、強く求められることになる。この講義では、パターナリズム、自己決定権、パーソン論、QOLとSOL、人口妊娠中絶、臓器移植の問題など、生命倫理学で扱われる基礎的な議論をひとつとおり押さえたうえで、医療の現場で起きた具体的な事例などをとおして、背後にある倫理的課題を様々な角度から、深く抉り出すことをしたい。また、日本人の死生観に独自の「倫理」のありようについても、随時、触れていきたい。	
			医療と人間		(概要) 現代の医療の根幹とされている「根拠に基づく医療（EBM）」とは、科学的データに基づいた最良の医療を、医療者の経験に基づいた専門的能力と患者さんの人生観・価値観等を統合して患者さんに提供するものである。そのためには根拠を理解できる能力ばかりでなく、寛容な精神と倫理観が強く求められる。医療への入門として、患者さんを中心とした医療を行うために医療人に求められる倫理観、患者さんの権利、医療制度の現状と課題、感染症と人類の歴史、患者さんからの情報の収集の仕方等いわゆるリベラル・アーツを学ぶ。 (オムニバス方式／全8回) (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全2回) ヒポクラテス流のパターナリズム（親権主義）から、近年は医療者と患者との共同意思決定が重視されるようになった背景を学び、医の倫理について考える。医療安全の取り組みや、本学のミッション・ビジョンと皆さんへの期待について学ぶ。 (1 郡司 俊秋／全1回) 病気になった患者さんだけでなく、ご家族のことも考える医療者を目指す上で、グリーフケアについて学ぶことは有益である。グリーフケアとは何かを学び、医療者ができるグリーフケアにはどのようなことがあるか考える。 (11 石原 照夫／全1回) 人類の感染症との闘いの歴史を概観し、新型コロナウイルス感染症の流行によって露呈した我が国の医療をめぐる問題点を考察する。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回) 医療の歴史、インフォームドコンセント、チーム医療などのキーワードを学ぶことにより、医療提供者と患者の関係や患者の権利について考える。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回) 脳卒中とパーキンソン病についての学習を通じ、体を動かす、感じる、認識する、などの機能の障害について、どのような原因でおこり、どのように調べて診断するかを知る。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／全2回) 地域医療構想や全世代型社会保障改革について学ぶことにより、求められる医療サービスと医療構造の大変化ぶりを認識する。プライマリ・ケアや情報リテラシーから、チーム医療における医療関連職種の役割とデジタル活用について考える。	オムニバス方式
	社会科学		コミュニケーション概論		現代の高度情報化社会においては、インターネットやマルチメディアを中心とする文化活動が世界規模で営まれているが、個人に対しては、膨大な情報に流されて自己を見失う危険性が指摘されている。そのような現状において、いかに自分自身で論理的に物事を整理し、デマやフェイクニュースに騙されず、どのように他者とコミュニケーションをとればよいのかを考察する。授業では、現代社会における多種多様な具体的問題を題材に「ロジカルコミュニケーション」を実践する方法のケース・スタディを行う。「論理的思考法」に加えて「自己表現能力」を高め、各自の個性に応じたユニークなコミュニケーション・スタイルを修得する。とくに実際の医療現場において、さまざまな状況でチーム医療の一員として円滑にコミュニケーションするために有効な手段を身につける。	
			経済学		経済学とは、効率性、公平性といった観点から、さまざまな経済現象を分析する学問と考えることができる。具体的には、景気の安定化、雇用の確保といった問題をはじめ、租税、社会保障など私たちの生活に深く関わるさまざまな問題を研究の対象としている。本授業では、そのような経済学の基本的な考え方を身につけると共に、現在のわが国が直面する経済問題を理解し、考え、説明できることを目標とする。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間の教育	社会科学	社会学		社会について考えることは、私たちの日常生活の成り立ちや隠れた意味を明らかにし、相対化していく刺激的な試みである。この講義では、社会学の基本的な概念、歴史および理論について学ぶことで、社会学的なものの見方を養う。代表的な社会学者の議論や概念についての基本的な知識を身につけること、および身近な世界を社会学的視点から観察・分析できる能力を身につけることを目標とする。	
			法学		この講義では、憲法、民法、刑法についての学びを通して「法」とは一体何か、何の為にあるのかを学修することで、社会生活における法の作用や役割について理解を深める。「裁判員制度」について、その制度趣旨や手続の流れやメリットとデメリットについて理解する。日本国憲法の三大基本原理を学び、基本的人権や統治機構について理解を深める。民法、刑法の基本原理について理解できるようになることを目標にする。	
			歴史		和食のルーツとなる古代日本の食文化と歴史を学ぶ。「和食」の原点として、古代の日本人が何を食べてきたかを奈良・平安時代を中心として学ぶことが到達目標である。旧石器～古墳時代にかけて日本人が何を食べてきたのかを理解し、さらに奈良時代における律令制の成立によって、全国各地から税として食料品が中央に送られていたことが宮都出土の木簡や『延喜式』から判明するので、古代における食品加工法や給食体制、さらに天皇・貴族から庶民に至る食事の内容を明らかにし、奈良・平安時代の食生活を明らかにしたい。またその食事と生活習慣病との関係を考える。そのこの授業を受けることで、豊かな教養を身につけることが出来る。	
			国際関係論		文系学部・学科の国際関係論と違い、本講義では将来の医療職に関係の深い、医療をはじめ介護や年金など社会保障制度全般について、国際的な視野に立つ幅広い基礎的な知識を身につけることに目的を絞る。これに沿って、内外の政治、経済情勢などを踏まえながら、先進国共通の社会保障制度の課題、欧米とわが国との比較、わが国の社会保障制度の現状などについて、最近の具体的な報道事例などを織り交ぜながら概説し、今後のわが国の社会保障制度のあり方を探る。また、エイズ、ハンセン病などの医療をめぐる偏見・差別問題を各国との比較で取り上げる。本講義を最後まで受講すれば、新聞、TVなどではしばしば報道されている社会保障制度に関する用語の意味、政府の考えている改革の方向性、その方向性をめぐる与野党の対立点などがおおよそ理解できるようになる。医療、介護、年金など社会保障制度は細かく分かれているが、個々の制度の断片的な知識ではなく、制度の背後にある考え方、なぜその制度が出来たのかなど、根本に遡って理解を深める。	
			認知科学		認知科学は人間の視覚、聴覚、触覚などの感覚情報から、注意、記憶、学習、思考などの脳機能によって、人間を取り巻く環境や外界を理解する学問である。この過程で、脳や心がどのような働きをしているかをとらえ、人間の「知」と「心」の仕組みを理解する。また、医療現場、日常生活、などでの人間の認知活動についてその特徴や要因を考える。これらの知識を踏まえ、ヒューマンエラーや事故防止の工夫など、医療における認知科学の活用について理解を深める。	
			人間関係論		他人と関係を一切持たずに生きている人はいない。良い人間関係を築くことは、良い生活を送ることにともつながる。本講義では心理学系のクリティカルシンキングの知見から人間関係を成立させる要素、深める要素や分析する方法などを学ぶ。それらを通じて自分が保持している人間関係について客観的に考え、問題が起きた際適切に対処できるようになることが最終的な狙いであり、具体的に次の項目を到達目標とする。 ・他人の行動の原因を特定し判断できるようになる。 ・自分自身について考える方法や知識を身につける。 ・人の認知にはどのようなバイアスがかかりやすいか、偏見や思い込みの修正の難しさなどを知りそれらに気づけるようになる。 ・自分が保持している知識を正しく把握しにくい理由を知り、自分が持っている知識や理解度を分析できるようになる。	
			家族社会学		家族社会学の古典的な学説における家族の定義、概念、構造、機能などを概観し、次にライフサイクルの視点から配偶者選択、結婚、子どもの社会化、親の扶養などの各論について検討する。適宜、現代的なトピックや諸説についても触れる。家族をとらえる基本的な概念を理解することができ、個人と家族、家族と外部の関係、家族を支える社会的ネットワークについて理解しようとし、自ら調べ、意見を述べるができるようになることを目標とする。	
			ジェンダー論		ジェンダーとは、社会的・文化的性差を意味する概念として使われているが、本授業では、ジェンダー概念とその歴史的成立過程について学んでいく。これらをふまえ、世界は激動的変動とグローバル化が進行しており、社会変動に対して、ジェンダーを切り口とする分析手法を学んでいく。本授業での学びをもとに、様々な領域における社会問題について、ジェンダー視点から分析考察することが出来るようになる。とりわけ、今後の社会発展をふまえ、国連決議で示された「持続可能な社会発展」に向けたSDGsが掲げる目標達成への取り組み内容を理解し、その基礎に「ジェンダー平等」が据えられること、そのことが持つ意義を理解することが出来るようになる。	
			比較文化論		日本は世界に先駆けて人口遷移を迎える（近代社会を支えてきた人口構成が新たな形態に移行する）。成長型の人口構成を前提にした従来の保健医療の常識が通用しなくなる未来に、何を備えればよいのだろうか。講義では、文化人類学の視点から、近現代の日本社会が創り出した食・健康・保健・医療の「当たり前」を相対化していく。対象を「文化」として捉えることで、社会の変化を丁寧に見定める能力を養い、変貌する社会に沿いうる保健文化のあり方を考える。自らが寄り添う当たり前をも「文化」として捉える方法を学び、人々の多角的な現実に向き合い関わり続けることを可能とする、自己変容をいとわない柔軟な姿勢と洞察力を身につける。	
		自然科学	基礎生物		「基礎生物」は近年、「生命科学」といわれている分野の基本的な事柄（DNA遺伝子の働き等）を内容とする。本講義では、高校で「生物基礎」を履修していることを前提として進めるが、履修していない学生にも配慮する予定である。また、専門科目を学ぶ際に参考になる授業にしたい。履修後は、最近話題になっている遺伝子関係の記事等や生物の基本的な内容を理解できるようになることを到達目標とする。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科 共通科目群	いのち・人間の教育	自然科学	データサイエンス	○	医療に係る高度専門職には、対象者の現状把握を適切に行い、抱えている問題点を認識し、具体的な各種指導・相談・対策を考えていく力が必要である。対象の状態を正しく把握するために、データ収集し、分析し、また結果公表する力を養うことが重要である。本講義では統計学の基礎的な用語を学びながら、統計的推定・検定の基本的な考え方を学ぶ。また、データ演習を通して、データの扱い方の基礎を学ぶ。基礎的統計用語やデータの種類について、理解し、説明できる。データ演習を通して統計ソフトの使用法と、実務能力を身につける。確率論的なものの見方を理解し、統計学的推計（推定と検定）の原理と方法を説明できる。調査や測定により得られた数値・文字データ特性を考察するための適切な集計方法や統計処理方法を選択できる。検定や統計分析を行う際の具体的な注意点や前提について学ぶ。	
			基礎数学		数学はあらゆる学問の基礎となるもので、どの学科の学生にとっても専門的キャリアを構築していくためには必要不可欠なものである。この授業では、各種資格試験の計算問題に対応するため、また、さらに高度な数学を学修するために、中学校、高等学校時代に学んだ、数学、特に種々の計算に関する知識をもう一度見直すことを主眼としている。四則演算、比率、割合の計算、単位の計算、方程式、不等式の解法、統計計算などに関する基本的なルールを復習し、実際にこれらの問題が素早く、正確に解ける技術を身に付けることを到達目標とする。	
			物理学		医療の現場では、古くから使われる測定機器に加え、MRIや重粒子線治療、3Dプリンタ、VRなど最先端の科学技術を駆使した装置も活用されている。本講義では、専門分野における高度な専門科目を履修するために必要な物理的なものの見方・考え方を習得する。特に、医用機器の仕組みや医用画像処理について理解する上での基礎を身につける。そして、次の項目を目標とする。①身近な自然現象をモデル化し、物理学と関連付けて説明することができる。②物理法則を基盤として、その知識を医療に応用している事例をあげることができる。③対象とする現象を測定する方法を理解し、表やグラフを用いて考察することができる。	
			基礎化学		臨床検査学を学修する中で、化学的な視点から食品、生体物質を理解することが重要である。講義では、一般化学、無機化合物についての基礎知識を理解できるように原子の構造、周期表と元素、化学結合、物質の量、酸・塩基と酸化・還元について解説をする。医学、医療保健、臨床検査学を理解するためには化学の知識は必要不可欠であり、化学の基礎について学ぶ。①原子の構造を理解できる。②化学結合を理解できる。③物質の量を理解できる。④溶液の濃度に関する計算ができるようになる。⑤酸・塩基と酸化・還元を理解できる。以上の修得を目指す。	
			スポーツ科学		科学の進歩により、スポーツは人間の生活をより豊かにするための有益な活動であることが明らかにされている。その中でも、とくに注目すべきなのはスポーツは人間のからだ・心・社会それぞれに作用して生活を豊かにするという点である。しかし、日本国民の約6割は定期的なスポーツ経験を有しておらず、その傾向は20代の男女において特に顕著である。本講義は、スポーツがどのようにして人間の生活を豊かにするかという点について学びを深める。	
			スポーツ実習		科学の進歩により、スポーツは人間の生活をより豊かにするための有益な活動であることが明らかにされている。その中でも、とくに注目すべきなのはスポーツは人間のからだ・心・社会それぞれに作用して生活を豊かにするという点である。しかし、日本国民の約6割は定期的なスポーツ経験を有しておらず、その傾向は20代の男女において特に顕著である。本講義は、スポーツがどのようにして人間の生活を豊かにするかという点について学びを深める。からだ・心・社会の視点からスポーツと人間の生活について考える事によって、スポーツに対する問題意識を持つことができること、ライフスタイルにあったスポーツを実践できることを目指す。	
	外国語		英語購読・記述	○	この授業では、医療に関する身近なトピックの英文を読み、基本的英語読解力と記述力の養成を目的とする。大学一般教養レベル（TOEIC400～500点程度）、もしくはそれ以上の英文を読み、内容把握できるようにする。読解力と記述力を促進するために、基本英単語以外にも専門分野の英単語を学習し、実践的な英語を習得する。専門分野に関連するトピックを扱った英文を読み、基本的英語読解力を養成するだけでなく、医療の専門的知識や語句の理解を深める。また、テキストで学習する文法事項や語彙を使って、作文やリスニングの練習を行い、実践的な英語力を身につける。	
			英会話Ⅰ	○	国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。国際社会で知識を共有するために、これまで以上に英語で他者の考えや意思などを理解し、自らの意見を自分の言葉で他者に伝えることが必要とされる。この授業では、医療のトピックを取り扱い、リスニング・スピーキングを中心とした英語力を身につける。テキストで学習する文法項目や語彙を使ったダイアログ、リスニング・アクティビティを通して、英語による基礎的コミュニケーション能力の養成を目指す。また、医療のトピックに絡めて英語を使い慣れるようにする。英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の立場や意見を交えて英会話ができるように練習する。	
			英会話Ⅱ	○	国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。この授業では、英語で他者の考えや意思などを理解し、自分自身の意見を他者に伝えることができるようになることを目指す。言語と文化の深い関係を理解し、文化事象の違いによる日本語と英語の発想の違いを、医療のトピックに絡めて英語を使い慣れるようにする。英会話Ⅱでは、英会話Ⅰでの学習内容をさらに深め、聴解力と会話力の養成をする。更に、テキストから学ぶ文法項目を、自分自身の立場や意見を交えて自身の言葉で英会話ができるように練習する。英会話Ⅰよりもレベルを高く設定し、医療の現場で英語を使い慣れるための練習を行う。また、上級英会話に必要な大学一般教養以上の英単語を習得する。	
			英会話Ⅲ		国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。国際社会で知識を共有するために、これまで以上に英語で他者の考えや意思などを理解し、自らの意見を発信できるようにすることが求められる。この授業では、英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分自身の意見を英語で他者に発信できるようになることを目指す。また、日常の英会話だけでなく、自身の専門分野に関連するトピックについて、ライティングやプレゼンテーションができるようになることを目標とする。大学一般教養以上の英単語を習得し、ライティングやプレゼンテーションで使えるようにする。また、授業で扱うトピックについて、英語による情報の正しい理解、内容の要約、リサーチをライティング、プレゼンテーションに応用できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間の教育	外国語	専門英語		この授業は医療関係の様々なトピック・ジャンルの比較的短い英文を精読し、情報を正確に読み取る力を養成する。その中で語彙力・文法力を身につけ、実際に習った事項を使って英語ライティングやスピーキングの練習を行う。1. 専門的な文献が読めるようになりたい。2. 就職試験や大学院入試などの場面で英語が必要。3. 資格試験でよい成績をおさめたい。4. 口語表現をもっと学びたい。5. 基礎的な語彙力を固めたい。このような方が受講にあたって、現在の英語力に依存しない授業内容とする予定である。	
			フランス語		この授業では、フランス語で基本的な表現を用いて、簡単な日常会話ができるように学習する。その他、フランスの地理、習慣、行事を紹介し、異文化を身近に感じてもらう。自己紹介をしたり、家族や知り合いを紹介したりできる。自分の状況や日常生活、動作を相手に説明できる。質問したり、相手の質問に答えたりして、簡単な会話ができる。フランス語圏に関する基本知識を知る。以上の項目の修得を目指す。	
			中国語		この授業では、中国語で頻出の単語やよく出会う表現を使い、日常生活についての実践練習を通じて、その使い方を身につける。発音の基礎から学び始め、中国語で簡単なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。また、中国の歴史や文化、最新の中国事情の紹介や解説も取り入れ、中国入門の講座として提供する。ピンインの発音を習得し、簡単な会話ができるようになることを目指す。	
		情報科学	情報リテラシー	○	数理・データサイエンス・AIの理解と活用は、今後のsociety5.0（超スマート社会）の中、日常生活のみならず、医療・保健・看護の場の基礎的素養として、非常に重要である。本科目では、他教科の学習あるいは研究で必要となる、メール送受信、Web情報検索、ワープロソフト及びプレゼンテーションソフトが使用できるように学習する。単にPC演習だけでなく、基本的な概念、情報倫理や安全性についても学習する。・メールの送受信、ワープロソフト及びプレゼンテーションソフトが使えるようになる。・インターネット上の様々な情報を活用する上での情報倫理や安全性について理解できる。・現代社会におけるAI利活用、メリット、デメリットを理解できる。・アプリケーションソフトの利用によりオープンデータを活用できる。以上の項目の修得を目指す。	
			情報科学	○	情報科学を構成する各種情報技術の基礎的な特徴と原理を理解し、更に社会システムとの関係でそれらを捉えることにより、今後の学習に役立つ情報科学的な発想を獲得する。本科目では、Excelを通じて情報技術の基礎を学び、また、Excelの適応分野としてデータ分析を行う。最終的にはデータ収集のための帳票作成からデータの整理・実際の分析・その可視化等に関し学習する。実践に則した課題を解くことにより、総合的に学習する。表計算ソフト（Excel）を利用して収集したデータを多角度から分析活用できるようになり、データの傾向やデータから予測されることを把握し、操作結果を読み取る力を養うことを目指す。	
			情報通信と保健医療		この科目では、知識社会が実現しつつある現代において、データサイエンスを医療・保健に応用することによって、医療・保健サービスがどのように変化していくか展望するとともに、この変化にあたって医療人が知っておくべきデータ活用法やその留意点に関する知識を獲得することを目的とする。次の項目の修得を目指す。①情報通信技術の発展によってこの十数年間で社会がどのように発展してきたか、Society3.0、4.0、5.0の違いを中心に説明できる。②Society5.0の基盤技術であるIoT、ビッグデータ、AIが、どのように社会を支えているか説明できる。③ビッグデータの基本的な概念やその分析・活用の過程を説明できる。④AIの基本的な概念やその活用の過程を説明できる。⑤情報通信技術の発展に伴う諸課題を、「いのち・人間」尊重の観点から考えることができる。⑥情報通信技術の発展に伴い、自らが将来めざす職域がどのように発展していくか考えることができる。	
			情報科学	○	情報科学を構成する各種情報技術の基礎的な特徴と原理を理解し、更に社会システムとの関係でそれらを捉えることにより、今後の学習に役立つ情報科学的な発想を獲得する。本科目では、Excelを通じて情報技術の基礎を学び、また、Excelの適応分野としてデータ分析を行う。最終的にはデータ収集のための帳票作成からデータの整理・実際の分析・その可視化等に関し学習する。実践に則した課題を解くことにより、総合的に学習する。表計算ソフト（Excel）を利用して収集したデータを多角度から分析活用できるようになり、データの傾向やデータから予測されることを把握し、操作結果を読み取る力を養うことを目指す。	
臨床検査学専攻科目群	医療のコーポレーション教育	入門	体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）	○	人体の機能とその調節について理解し知識を得ることは、健康の回復・維持・増進について学習する上で不可欠である。本科目では「体の仕組みと働きⅡ」と連携して、機能を扱う「生理学」と構造を扱う「解剖学」を学ぶ。ここでは呼吸器系、血液循環器系、腎泌尿器系、消化器系の構造と機能を取り上げ、各系の相互作用についても関連させて理解する。授業内容は血液の生理、循環器の構造、循環の生理、消化器の構造、消化吸収の生理、呼吸器の構造、呼吸の生理、腎臓の構造と生理、体液量と浸透圧について学修する。	
			体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系）	○	人体の機能とその調節について理解し知識を得ることは、健康の回復・維持・増進について学習する上で不可欠である。本科目では「体の仕組みと働きⅠ」と連携して、機能を扱う「生理学」と構造を扱う「解剖学」を学ぶ。ここでは骨格系、筋系、神経系、内分泌系の構造と機能を取り上げ、各系の相互作用についても関連させて理解する。授業内容は骨格の構造、筋の機能、神経組織の構造と機能、末梢神経系と中枢神経系、体温の調節、内分泌機の構造とホルモンの働きについて学修する。また、骨格系、筋系、神経系による運動機能や感覚情報処理について学修する。	
			公衆衛生学	○	公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学修する。授業内容にはわが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など衛生学の基礎知識に関する内容も含む。また、環境と生活者の健康の観点から環境汚染とその対策や産業中毒と職業性疾患とその対策などを取り上げながら、人間や生活を生態系に位置づけて理解する。	
			栄養学総論 （基礎栄養学）	○	栄養とは生物が活動、成長、増殖のために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象である。したがって、栄養学総論では栄養素の摂取、消化、吸収、代謝、排泄および防御機構等、幅広い分野について学習することになる。講義では、栄養学の定義である「人体と食物の相互作用を明らかにする学問」について解説し、現在の日本の疾病の状況、食生活の実態の概略を講義の導入として報告する。次に、栄養の歴史、栄養状態の判定、空腹と食欲について学ぶ。これらの知識をもとに栄養素である糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンについてその栄養学的機能、消化・吸収、所要量、必要量、欠乏症等について講義する。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床検査学専攻科目群	医療の コ ラ ボ レ ー シ ョ ン 教 育	入 門	医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感 染制御学)		工学の進歩とその医療への応用が進み、新しい医療機器が開発され、それらは疾病の診断や治療にはなくてはならない存在になっている。一方、医療内容の複雑、高度化、社会構造の変化、国際化等により、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。とくに、社会的に注目されている医療事故に対しては、適切なリスクマネジメントが求められ、病院感染及び新しい感染症(MRSA、HIV、SARS等)に対する認識も変容を迫られている。本講義内容は、医療関係者のみならず社会人として必要な知識で、医療安全の基本概念を理解してもらい、医療安全を求めているこれからの社会の要請に応える。	
			応用生物	○	医療従事者が身につける専門的知識および技術は人体を対象としており、その人体は生物学的な特徴の元に成り立っている。したがって、臨床検査学を学んでいく上で必要最低限の生物学的知識を身につける必要がある。本科目では、生物の構成単位である細胞に関する内容について、次のテーマを学ぶ。 ・細胞の構造と細胞を構成する物質について ・細胞内におけるエネルギーの産生など、細胞内の化学反応（代謝）について ・人体の構成要素である細胞の増殖と死、組織・器官について	
			応用化学	○	講義では、炭化水素の種類と命名法、官能基とその性質、異性体と立体化学、有機物の酸化・還元反応、糖質、脂質、たんぱく質、核酸、ビタミンについて解説する。そして、次の項目の修得を目標とする。①有機化合物の命名ができるようになる。②化学構造式から物質の性質を推定することができるようになる。③立体異性体の働きが理解できる。④糖質・脂質・アミノ酸の種類とたんぱく質の構造がわかる。⑤核酸・ビタミンの種類と性質が理解できる。	
			キャリア教育Ⅰ	○	(概要) 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を学習するために、入学時から将来の職業選択に関わって職業観の形成や生き方そのものについて、計画的に考えていくことを基本とし、幅広い職業意識の形成等を図ることである。学生時代を有意義に過ごすための基本的な考え方や知識を得るとともに、社会で長期的に成長するための素地となる能力を身に付ける。また、これらの応用として、グループディスカッションを通じて人の話を聞き、自己の意見を述べ、議論する能力を養えるようにする。(オムニバス方式／全8回) (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 基本的な読解力、書く力の向上を図るためのトレーニングを行い、小テストで学びの定着につなげる。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 基本的な計算力の向上を図るためのトレーニングを行い、小テストで学びの定着につなげる。 (7 三村 邦裕・27 藤本 友香／3回) (共同) 自身所属の専攻にて到達目標である医療の現場における高度専門職の理解を深め、その職になるにあたり必要な知識・技術・態度を考える。 (6 加藤 隆幸・16 酒井 理恵・18 細田 明美・26 宮路 茜・7 三村 邦裕・27 藤本 友香・10 嶋津 秀明・12 今泉 一哉・13 瀬戸 僚馬・28 杉田 純一・29 岩上 優美・32 安枝 和哉・33 楠田 佳緒・基幹教員以外の教員(担当者未定)／1回) (共同) 看護学科及び医療保健学科の2学科合同での授業にて、お互いの高度専門職の専門性を知り、チーム医療ができる専門職を目指す基盤づくりを行う。	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	発 展		医学・医療概論		(概要) 近年の医学および医療技術の目覚ましい進歩は、医療ニーズ・医療環境の大きな変化とあいまって、従来の医学・医療に新たな変革と秩序の確立を求めている。医学とは何か、生とは何か、医学の目指すもの等、保健、医療、福祉、栄養と、医療に従事するものとして、正しい医学の基礎知識を学ぶ。また、医療の概要について学び、これからの医療、保健、福祉、栄養、看護との関連をそれぞれ理解する。 (オムニバス方式／全8回) (1 郡司 俊秋／全7回) わが国の医療の動向と医療現場における高度専門職の実際、国際的な視野をもつ医療人を目指すこと、インフォームド・コンセント・医療者の立場と患者の立場について学ぶ。病院見学により、学んだ知識を実際の医療現場で確認し、理解を深める。 (20 齋藤 さな恵／全1回) 病院の仕組み・診療体制を学び、チーム医療の実際と高度専門職の役割を理解する。	オムニバス方式
			臨床薬理学(薬理学)	○	臨床薬理学は「薬の人体における作用と動態を研究し、合理的薬物治療を確立するための科学(日本臨床薬理学会)」と規定されている。本授業では、臨床薬理学の専門領域である新薬候補物質の有効性と安全性を評価する方法、医薬品として認可された後も、多数の使用例を検討しつつ、適正な薬物治療を確立してゆくために必要な基本的知識、さらに治療対象となる患者(年齢、性別、生理的状态等)側に立った薬物動態の知識、さらに薬の作用と薬効についても概説する。	
			医療マネジメント論		昨今、医療現場における経営の視点の重要性が叫ばれている。理系、文系にかかわらず医療現場に携わるものに対して、それぞれの立場から医療の現場の運営をいかに効率的かつ円滑に遂行していくか、日本における医療経済の現状を踏まえた医療の質を高めるにはどうしたら良いか、個と集団とのかかわりの中で、いかに人間関係を維持していくか等に関して、患者中心のチーム医療の重要性を考慮しながら講義を行う。	
			キャリア教育Ⅱ	○	将来、医療における高度専門職として活躍するために、学生時代に取得が必要な基礎的能力(知識活用力・行動特性)とは何かを学び、卒業後も自らの資質を向上させ、社会的及び職業的に自立できるように、入学時から計画的に幅広く学習する機会を与えることを目的とする。以下の項目の修得を目指す。 ・自分の意見を持って主張することができる。 ・他者の話を相手の意図を汲み取りながら「聴く」ことができる。 ・自分の強みや課題を理解し、言語化できる。 ・基礎的能力の開発目標を具体的に、自分で立てることができる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床検査学専攻科目群	医療の コラボレーション教育	発展	キャリア教育Ⅲ		将来、医療における高度専門職として活躍するために、学生時代に取得が必要な基礎的能力（知識活用力・行動特性）とは何かを学び、卒業後も自らの資質を向上させ、社会的及び職業的に自立できるように、入学時から計画的に幅広く学習する機会を与えることを目的とする。以下の項目の修得を目指す。 ・基礎的能力において、自分の成長や要因となったと思う経験を語る（説明する）ことができる。 ・社会人講師の講話という経験の機会をうまくとらえて、自分のものにすることができる。 ・自分の強みが将来においてどのように活きるかを考え、言語化することができる。	
		実践	協働実践演習	○	これからの医療は患者を中心として、医療従事者である、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士等その他の多くの職種が協調して、その疾患の治療にあたることが必要となってくる。このことを念頭において、看護学科、医療保健学科の学生が、生活習慣病(糖尿病等)や褥瘡を題材に、それぞれの専門の立場から、その治療やその患者に関わる問題について意見交換し、実際の臨床での各自の役割を認識する。また、この演習を行うことによって、さまざまな専門科目の内容を総合的に理解し、かつ深く理解することをねらいとする。	
			ボランティア論	○	現代の日本においてボランティアはどのような意義があるのかをとらえ直し、共生社会や医療保健の推進におけるボランティアの諸相、活動の実態、意義、課題などについて多角的に考察する。ボランティアに対する理解を深め、その多様性を知る契機としたい。ボランティアの背景、現状、課題など「ボランティアを学ぶ」と同時に多様な事例によって「ボランティアで学ぶ」ボランティア論として、市民社会の担い手としてのボランティアを理解し、共に自己実現を図ることを理解することを目指す。	
			ボランティア活動		学科横断的な混成チームを編成し、いくつかのテーマごとでさらにグループに分かれる。各グループは、どんなボランティア活動を行うか、討議を行うことで決定して、積極的にボランティア活動に参加する。自分たち独自でも良いし、同じテーマの実際のボランティア活動に参加するものでもよい。ボランティア活動を実践することで、「援助し、援助される関係」の体験を通じて、ボランティア活動の意義を理解することを到達目標とする。	
	専門基礎分野	社会・環境と健康	健康管理概論		今日、人の環境を取り巻く問題は個人ベースでは生活習慣の問題があり、社会的にはストレスの増大、環境汚染、地球温暖化など多岐にわたっている。また、最近では心の健康問題を持つ人が増加している。この講義は、専門科目を学習する際の基礎となる健康の概念、健康増進や疾病予防の考え方やその取り組み方について、人間の行動特性とその基本的なメカニズムを理解しながら学修する。具体的には、講義の前半では、健康保持・増進という面から健康管理の問題点を理解し、後半においては、専ら疾病予防の観点から健康管理のあり方を考え、将来、自信をもって地域や職場で貢献できるような能力を身に付けることを到達目標とする。	
			社会福祉総論		社会福祉は先進工業国に共通する重要な政策であり、人々の生活に密接に関係している。この講義では現代社会における社会福祉の理念と意義についてまず理解する。次に現実の社会システムとしての福祉援助の形態や方法を学び、サービス体系や福祉援助を必要とする人たちについても学ぶ。特に現代日本社会は豊かな社会となり、社会福祉の基本理念や倫理性が問われているので深く理解させ、法体系や国の政策としての財政との関係も学ぶようにする。	
			食育論		将来的に健康を保持増進するために、子どもの幼児期から、食生活上の問題点の理解と、食の様々な役割・幼児を取り巻く食環境の変化や健康に与える影響を教える必要性を理解する。同時に幼児における望ましい食生活はどうあるべきかを教える方法を検討する。このことは、子どもの体と心の充実との両面からのアプローチが必要とされている。実際の指導方法(朝食のあり方とその意義、食事の選択の仕方、給食、間食・飲料の栄養、外食など)とその評価を論じる。	
		人体の構造と機能及び疾患の成り立ち	食文化論		食環境及び食嗜好が変化している今日、食の問題について多面的、総合的に理解を深め、望ましい食生活のあり方を考えさせる。食生活指針で述べられているように、食文化を理解し、日本型食生活の調書を食生活の変遷と文化を学ぶ事から食の機能と役割を知ingことを目標とする。和食のルーツとなる古代日本の食文化を学び、古代の日本の食文化がどのように成立したかを、奈良・平安時代を中心として学ぶ。そこから古代における天皇・貴族から庶民に至る食事の内容を明らかにし、奈良・平安時代から現代に続く食文化について理解を深める。	
			病理学Ⅰ (病態の系統的理解)	○	これまでに学んだ解剖学・生理学を統合・整理して、身体の構造と機能をよく理解したうえで、多くの疾患の病態を理解する。そして医療の現場での実践において応用が可能になるような病理学を会得する。病理学Ⅰでは、まず総論的にヒトの身体の構造と機能を系統的に学ぶ。引き続き、消化器、呼吸器、血液・造血器、循環器、腎・尿路、アシドーシスとアルカローシス、内分泌、運動器、神経系、免疫・アレルギー、生殖器系、妊娠と分娩、感覚器などについて、基本的な病態を解剖学および生理学と結びつけて理解する。身体を構成している各器官・臓器・組織の構造と機能を理解したうえで、病的状態においてその形態、機能や代謝がどのように変化していくかを学ぶ。そして病気の診断を確定するための検査などについても総合的に理解できることを目指す。	
			病理学Ⅱ (病態の評価・診断)	○	病理学ⅠおよびⅡでは、身体の構造と機能をよく理解したうえで、多くの疾患の病態を理解し、医療の現場での実践において応用が可能になるような知識を会得してもらうことを目的としている。病理学Ⅰ(病態の系統的理解)では、身体の構造と機能の理解のうえに様々な疾患における臓器・組織の変化を学び、病気の本態を理解し、診断を確定するための検査などについて総合的に学んだ。病理学Ⅱ(病態の評価・診断)では、実社会に出て実際に医療に携わったときに、多く遭遇する疾患、生活習慣病や高齢者によくみられる疾患を中心に、広い分野の疾患の病態・予防・診断・治療について学修する。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床検査学専攻科目群	専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾患の成り立ち	生化学Ⅰ (生体物質の構造と機能)		正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成するものの中から、遺伝子レベル、細胞レベルの構造や機能を理解する。生化学Ⅰでは生体を構成している糖質、脂質、タンパク質、核酸、酵素等について、その構造と機能を学び、生化学Ⅱで展開されるさまざまな生体物質の代謝の理解につながるようにする。また、食品として摂取する栄養素が生体物質へと変化していく過程を消化・吸収、血液での栄養素の運搬、さまざまな臓器での栄養素の貯蔵などの話題においても理解を深める。	
			生化学Ⅱ (生体物質の代謝)		生化学Ⅱでは、生化学Ⅰで学習した生体成分の構造と機能を基に、さまざまな生体物質の代謝について学ぶ。具体的には、エネルギー代謝、糖質代謝、脂質代謝、アミノ酸およびタンパク質の代謝、核酸代謝、代謝調節、代謝の乱れと病気、免疫の生化学について学習する。この講義を通して、さまざまな栄養素がどのように生体で役に立っているのかが理解され、同時に適正な食物摂取とはどのようなものかを、生化学的に理解する。	
			微生物学	○	人体と微生物との相互関係について理解し、病原微生物の感染から発症、その防御の機構を理解する。この講座ではさまざまな病原微生物の種類と特徴について学び、さらに、それらに対する生体の感染防御の仕組みである免疫について学ぶ。具体的には、微生物の概念、細菌学総論において細菌の構造と機能、感染・発症、消毒と滅菌、化学療法剤、細菌学各論では様々な細菌について学習する。また、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、ウイルス、真菌、原虫について学ぶ。また、異常な免疫反応であるアレルギーの仕組みについても学び、食物アレルギーの予防や対処について学ぶ。	
			分子病態学		この授業では、生体での栄養素の代謝調節および栄養素そのものの生体代謝調節への関わりを分子生物学的立場から講述する。個人差、体質といったものの中には、遺伝的な素因によるものであることが明確になりつつある。これらの研究がテーラーメイド医療を可能にするが、このテーラーメイドが今後の医療や栄養指導にどのように関わり、生かされていくのかを、主に生活習慣病を取り上げて講述する。分子レベルでの栄養素の代謝について説明でき、遺伝と疾患のなりやすさおよび環境要因との関わりについて説明できるようになることを目指す。	
			解剖生理学実習	○	人々の健康の維持増進・疾病予防などに携わる医療における高度専門職は、人体の構造と機能を十分に理解する必要がある。この授業では、マクロおよびミクロ解剖学実習として各器官の形態や体内での位置観察および正常・病理標本の観察を行う。各器官の正常な組織の機能を理解すると共に、疾患における組織の変化を理解し、疾患の理解を深める。さらに、バイタルサイン測定、スパイロメトリ測定、心電波形の読み取り、感覚機能検査などを実習し、人体の生理機能への理解を深める。	
			生化学実験Ⅰ (生体物質の分析)	○	生化学Ⅰの講義を基に、生体に存在する糖質、脂質、タンパク質の定性実験を行い、生体物質の生化学的性質の理解を深める。具体的には糖質の定性、定量実験、タンパク質の定性、定量実験、脂質の定性実験を行う。また酵素反応実験を通して、生体内での働きやその生化学的特徴について学ぶ。・生化学Ⅰの講義で学修した内容を踏まえ、実験結果について理解ができ考察することができる。・実験を通して修得した知識を、今後さまざまな臨床上の疾患や様々な問題の対処に通ずる学修に活用できる。以上の項目の修得を目指す。	
			生化学実験Ⅱ (生体物質の発現・代謝分析)		この授業では、生体内のタンパク質や酵素、並びに代謝を中心に生体内で起こる反応について学修する。生体内で機能している分子（核酸、酵素、代謝産物など）について、定性、定量、機能解析を行いながら、我々が日常摂取している栄養素が細胞内でどのように代謝されどのように生命現象とかかわっているか実験を通して理解を深めていく。生化学Ⅰ、Ⅱの講義、生化学実験Ⅰで学修した内容を踏まえ、実験結果について理解ができ考察することができることを目指す。	
			薬物療法学		疾病の薬物療法に用いられる医薬品を理解するために、医薬品と食品の相違点、薬の作用機序、剤形、投与経路、薬効を表わすまでの生体内での運命と医薬品の開発、保管、医薬品の取り扱いに関する法規などの基本的知識を学ぶ。さまざまな疾患の治療に用いられる医薬品の特徴と患者への適応を理解するために、代表的な疾患の治療指針と治療薬の作用機序、使用方法、副作用、相互作用に関する基本的な知識を修得すると共に、病院の薬剤部の見学を行い、理解を深める。	
			病態生化学		さまざまな疾患の理解を深めるために、生活習慣病を含めた多くの疾患の発症するメカニズムについて生化学的に解説する。具体的には、精神神経疾患、骨・関節疾患、血液・造血器疾患、心臓・血管系疾患、免疫疾患、腎疾患・泌尿生殖器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、感覚器疾患、内分泌・代謝疾患、炎症、腫瘍について学ぶ。この講座を通して、疾患の生化学的な理解を深め、疾患を把握し、その必要性を認識する。	
			臨床検査学		さまざまな疾患の診療・診断に臨床検査が用いられている。この科目では、さまざまな臨床検査（血液、尿、微生物、免疫、輸血、生理学、病理学等）について解説する。具体的には総論で、臨床検査の意義と内容、栄養と臨床検査、各論では、尿・便検査、血液検査、血液生化学検査、免疫・血清検査、病原微生物検査、染色体・遺伝子検査、病理検査、生理機能検査について学ぶ。この授業を通して、検査値で疾患の概要が掴めることを狙いとする。この知識の習得と共に病院の臨床検査部の見学を行い、実際の疾患の理解につなげる。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床検査学専攻科目群	専門応用分野	病態学	臨床検査生化学	○	生化学とは生命に関する分子の化学反応に基づいた生命現象を解明する学問である。本講では基本概念、機能分子である糖質、脂質、蛋白質の構造および一般的性質、また酵素の特徴、作用機序、反応速度論等について解説する。さらに生体物質の代謝について論じ、エネルギーの産生や保存そして生体物資の同化について論じる。また、生命の維持と再生産のための情報を担っている遺伝子を理解するために、核酸の構造と性状、機能に関する基本的知識を修得する。	
			臨床検査医学総論	○	臨床検査は診断の補助として発展してきた。そのため、疾患の診断において臨床検査の果たす役割と治療効果の判定や後遺症の予防、さらには再発防止に関わる臨床検査を学ぶ。また疾患の病態について臓器別に理解を深めるような講義を行う。具体的には疾病の原因や兆候について、疾病の進展や経過について、そして検査値と症状を照らし合わせて病態の状況を理解できるような講義を行う。またRCPCを通して知識を確実なものにするための訓練を行う。	
			薬理学	○	薬は医療現場になくてはならないものである。薬理学は、そんな薬がどのようにして身体の中で効果を現すのかを解き明かす学問である。授業では、各疾病に対し広く用いられている基本的な薬の紹介をして、さらに理解を深める講義を行う。また臨床検査に関連した薬の解説を行う。具体的には 薬理学の歴史と薬物作用の基本的な仕組み、刺激薬・遮断薬の作用機序について説明する。さらに生体の情報ネットワーク機構を物質や細胞レベルで理解するために、代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構、細胞内情報伝達機構などに関する基本を説明する。また現在種々の疾患に対して使用されている代表的な薬物の作用機序や特徴などを解説する。	
			臨床検査栄養学	○	人間にとっての栄養の意義について理解し、人間の成長発育や生命維持に必要な各種栄養素の種類と代謝について教授する。さらに栄養状態の評価・判定方法、適正な栄養状態を保持し、健康を増進するための食品の栄養的意義や機能、栄養素・食品・食事の摂取方法（経口・経管栄養）、成長発達あるいは加齢による栄養状態の変化と食事・栄養管理、疾病や障害時の治療食についても教授する。特に疾病と栄養の関係について臨床検査値に影響を及ぼす栄養素や薬品などについてもその作用機序も含めて教授する。	
			チーム医療概論	○	チーム医療の目的は種々の医療従事者が対等に連携し、それぞれの知識や技術を活かし安全・安心な医療と患者にとっての良質な医療を提供することにある。臨床検査はあらゆるチーム医療において患者の病気の進行度や治療の適否、再発の可能性などを探るための客観的根拠となるデータを提示し、欠くことのできないものである。チーム医療の概要について解説し、臨床検査技師がかかわるチーム医療について教授する。また高齢者の患者の対応について認知症患者の扱い方や認知症検査についても説明する。	
	公衆衛生		医学概論	○	医学概論は、医学の歴史的背景を学び、医学の発展と動向について学ぶことにより現状と問題点について講義する。また検査技術の歴史や医療従事者としての倫理を学ぶ。さらに医療と臨床検査技師の将来について考察する。具体的には医学の歴史的変遷を説明し、検査技術の歴史を教授する。また医療倫理や医療と臨床検査技師の将来について説明する。臨床検査の変遷について学ぶことはその知識が今後の医学の進歩と発展に大いに役立つことを説明する。さらに日本の保健・医療・福祉の制度と法規についても解説を加える。	
			臨床検査関係法規	○	法とは何かという概念を説明した後、保健医療関係法規について制定から今日にいたるまでを講義する。さらに臨床検査技師に関する法律、また、関連法規 として医療法や保健医療関係者法規を説明し、医療組織についての概要を授業する。他に薬事法、健康増進法、食品衛生法、JAS法、医療過誤などの法規について解説する。具体的には社会規範としての法律体系を教授し、憲法、法律、条例、規則などのまた医療法規について解説する。また臨床検査技師に関する法律や衛生検査所の役割と業務を説明し、臨床検査技師の役割と守らねばならない事項についても解説する。さらに医療法についてその定義と意義を解説する。	
	医用工学概論		医用工学・情報科学概論	○	高度先進医療を支えているのが医療機器である。電気工学、電子工学、情報科学、生体物性、生体計測、治療機器を駆使して臨床現場へと導入されている。医療機器を安全に使用するためにはこれらの知識が必要であるため、その基礎となる知識や技術を解説する。さらにこれらが臨床検査機器に応用されている実際の教授する。また現代の生活の中に情報科学、情報処理は欠くことのできない手法となった。その一方で情報セキュリティの問題も絶えず知識として持っておかねばならない。そのため情報セキュリティの概念と責任について教授する。	
			医用工学実習	○	医療の現場では多くの医療機器を扱う。臨床工学技士や臨床検査技師もその例外ではない。本実習では、検査機器、治療機器などを理解する際に必要な基本的な電気・電子回路について実際に手を動かしながら体験する。また電気・電子回路の素子の特性についてテスター、オシロスコープ、ジェネレーターの操作方法などについて説明する。またCR回路、増幅回路の特性を教授する。これらを実習することにより臨床検査技師として臨床検査機器を扱ううえでもまた危機が故障した場合の初期対処の方法も行うことができるよう実習を行う。	
			検査機器総論	○	今日の臨床検査の飛躍的な発展は、さまざまな分析機器の進歩によるものといっても過言ではない。現在、医療施設における臨床検査部門は迅速化、省力化などが相まって、自動化やコンピュータ化が進んでいる。機器の操作法だけでなく、絶えず正確な値が出ているか判断し、機器の保守管理ができなくてはならない。そのためには、検査に必要な基本的な機器や装置に関する知識の習得は欠くことができない。本講義では、共通機器や専門機器の目的、原理や構造、また運用上の注意点について解説する。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床検査学専攻科目群	専門応用分野	血液検査学	血液検査学総論	○	血液は血球と血漿から構成される。そのうち血球は赤血球・白血球・血小板の三系統からなる。 まず血液の基礎知識として成分や性状そして各血液成分が分担する機能を教授する。また血液成分の発生、分化、成熟など生成と崩壊、そして形態学的特徴について説明する。さらに血液凝固・線溶の機序や凝固因子の生化学的機能について解説する。具体的には、血液の一般的な性質について教授し、血液の生成と崩壊について解説する。次いで赤血球、白血球、血小板の機能について説明し、血液凝固機序・線溶機序について教授する。さらに凝固検査・線溶検査について説明する。	
			血液検査学	○	検査結果から推定される各種血液疾患について病態と検査の関係を結び付けられるように演習を通して教授する。その結果、血液疾患と医学検査との関わりについて理解・評価し、臨床に対して支援する能力を修得できるよう教授する。特に貧血、白血病、出血性疾患、血栓性疾患と血液検査結果との関係を説明し、赤血球系疾患の診断のための検査法や白血球系疾患の診断のための検査法そして血栓・止血系疾患の診断のための検査法について解説する。	
			血液検査学実習	○	血液検査学実習では、生体内で起こる出血と凝固の現象についてその相互作用や凝固・線溶の活性化機構など実際に実習を通して学ぶとともに疾患と検査データの関連、評価について教授する。実習では採血法、凝固止血検査の目的、測定原理、検査方法、検査上の注意点などについてまた形態学として白血病でみられる細胞や貧血で変性する赤血球形態などを実習通して学習し、各項目に各自が実習を行い現場で役立つ基本的な実践技術を身に付ける。	
		病理検査学	病理検査学	○	医療分野における病理組織学的検査法ならびに臨床細胞学検査法を解説して、病理標本作製過程や基礎的な染色法を中心に解説する。また、癌の早期発見に必要な基礎知識と診断法について講義する。 具体的には疾患に関連した特殊染色の選択方法について説明する。また切り出し、固定、包埋、薄切の標本の作製方法や各種染色法の手順と染色結果について解説する。細胞診において正常細胞と悪性細胞の鑑別方法について説明する。さらに最新の病理検査室運営の情報を解説する。	
			病理細胞検査学	○	細胞診断学の概論から婦人科頸部病変に関する総合的知識と出現する細胞の形態学的な特徴を教授する。具体的には臨床細胞学総論の意義と婦人科領域の発生・解剖・病理組織・細胞診断についてまた子宮頸部の良性域・悪性域について、卵巣の良性域・悪性域について説明する。また呼吸器の良性域・悪性域についても説明する。加えて体腔液の良性域・悪性域について、唾液腺・消化器の良性域・悪性域について、乳腺の良性域・悪性域について、甲状腺の良性域・悪性域について、リンパ節の良性域・悪性域について説明する。また非上皮性腫瘍の良性域・悪性域についても解説する。	
			病理検査学実習	○	病理組織標本作製に必要な基本技術であるパラフィン包埋組織の薄切と病理組織染色の代表的染色であるHE染色を中心とした実習を実施する。病理組織検査の意義及び標本作製の技術を習得させる。光学顕微鏡標本における特殊染色の代表的な染色方法の習得と標本観察（スケッチ）を行うことで理解度を深める指導を行う。また、細胞診の代表的なパパニコロウ染色を実施することで、組織診と細胞診の利点と欠点について説明できるように教授する。実習する組織標本は学生自身がパラフィン包埋し、ミクロトームにて薄切した標本を使用する。	
		尿・糞便等一般検査学	一般検査学・寄生虫検査学	○	生体の諸機能の偏りを病態として捉え、最先端の科学技術を応用して解明する臨床検査の技術について採血、尿、便、その他の体液の分析から講義する。実際に臨床検査とはどういう仕事であるか、大学で学習した知識をどのようにして臨床検査に応用するか考えられる能力を養うよう、医学的知識の基礎について解説する。具体的には一般検査や寄生虫検査の項目について生理的意義を解説する。また種々の検査の臨床的意義を説明する。さらにそれぞれの分析法について反応原理や実施方法を説明する。測定結果と基準範囲について説明し、検査成績と病態との関係を教授する。	
			一般検査学・寄生虫検査学実習	○	尿定性試験において試験紙法ならびに試験管法が実施できるよう実習指導する。また尿有形成分検査が自ら実施できるよう実習指導する。 糞便、髄液その他の体液についての一般検査の主項目が実施できるよう実習指導する。検査基準範囲の設定、ROC曲線が作成できるよう実習指導する。尿訂正試験（試験紙法並びに試験管法）について、尿蛋白定量検査について、尿有形成分の尿沈渣検査の方法について身に付ける。検査基準範囲やRCC曲線が作成できるように実習を行う。	
		生化学検査学・免疫検査学	生化学検査学	○	生化学検査は、生体成分の化学的情報を的確にとらえ、疾病の診断、経過観察、予後の判定及び病態解明の資料を提供する重要な検査であり、今日の医療に欠くことの出来ない重要な検査であることを理解すると共に、検査結果の評価について習得する。具体的には生体成分の生理的・生化学的意義と臨床的意義を説明する。 生体成分の分析法について説明し、基準値、測定に及ぼす影響因子について解説する。 また基準範囲を外れた場合の病態や人為的な異常値についてを教授する。	
			免疫検査学	○	私たちの生命維持には生体外から侵入する病原体や生体内で生じる異常細胞を排除する免疫システムは必須である。本講義では、「免疫学」で学んだ内容を確認するとともに、それらが臨床現場でどのように応用されているかを解説する。なかでも、ほとんどの免疫学的測定法の基本原理となっている抗原抗体反応は最も重要な要素であり、抗原と抗体の反応原理と最適な条件、各種抗原抗体反応の特徴と応用を学ぶと共に、臨床にかかわる免疫学的疾患についても解説する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床検査学専攻科目群	専門応用分野	生化学検査学・免疫検査学	生化学検査学実習	○	分析化学の手法により生体試料の測定を通して生物化学分析検査の基本的な技術を身につけ、その検査値の示す臨床的意義を理解して臨床の現場で役に立つ技術を習得する。また基礎的な試薬の調製、共通機器をはじめ特殊な分析機器の使用手法、データの分析方法についても学ぶ。さらに自ら基礎的な試薬の調製方法や実習書に沿った実験ができるような知識や技術を身に付けたり、分光分析機器の使用、未知試料の濃度を検量線から求めることができることを目標に実習を行う。	
			免疫検査学実習	○	実習を通して免疫学が扱う基礎的な実験手技や原理、臨床検査現場で利用されている免疫学的検査法の一部を、後半は病院での実習を行う。これにより、基礎的な学問がどのように臨床応用されているかを学ぶ。具体的には免疫検査の基礎技術（検体採取と保存）、免疫化学的定量法、感染症の検査、炎症と炎症マーカーの検査、自己免疫疾患の検査、免疫グロブリン異常症の検査、補体系の検査実施が実施できるように実習を行う。また各検査法における検査結果の解析と評価について実習を通して学ぶ。	
		遺伝子関連・染色体検査学	遺伝子関連・染色体検査学	○	遺伝子関連検査、染色体検査の役割と現状を教授する。核酸や染色体の構造など、基礎的事項から検査の実際まで、診療における遺伝子関連検査の役割、疾患と遺伝子異常、染色体検査および疾患と染色体異常について総合的に教授する。遺伝子・染色体の構造・役割・性質について解説し、核酸の抽出原理、遺伝子検査の基礎となるPCR、遺伝子・染色体検査技術について教授する。遺伝子・染色体検査の応用と結果の解釈について解説する。代表的な遺伝子・染色体異常の原因と疾患との関係について説明する。また代表的な染色体異常を列挙できるように、染色体検査の進め方について説明する。	
			遺伝子関連・染色体検査学実習	○	日常の臨床検査に導入可能な遺伝子検査の基本的技術を習得できるよう指導する。具体的には①RNA・DNAの取扱い②細胞からRNA・DNAを抽出する方法③遺伝子の増幅方法④遺伝子の電気泳動法⑤遺伝子検査で用いる試薬の作製などを教授する。遺伝子検査の基本的技術を身につけることを目標とする。また遺伝子検査で用いる実験器具を正確に安全に使用できるように実習を通して学修する。遺伝子検査実習における実験結果の判定・評価を正しく行うために実習から学ぶ。遺伝子検査に関する専門知識を説明できるようまた遺伝子検査測定装置などの仕組みを理解するために実習を行う。	
		輸血・移植検査学	輸血・移植検査学	○	輸血の目的と特性について、輸血の種類やインフォームドコンセントについて説明する。また病因・生体防御機能である免疫の仕組み、輸血、移植、遺伝子関連に関する検査の理論を解説する。さらに静脈路への成分採血装置の接続および操作の修得、および結果の意義、評価について教授する。輸血療法・輸血検査と輸血用血液製剤について学ぶ。輸血検査法について、母児免疫と検査について、臓器・細胞移植検査と免疫反応について、そして臓器・細胞関連検査について解説する。	
			輸血・移植検査学実習	○	病因・生体防御機能である免疫の仕組みを理解し、輸血、移植、遺伝子関連に関する検査の理論と実際を修得し、結果の意義および評価について学習する。具体的には輸血検査の基本技術について、赤血球血液型検査について、不規則抗体検査について、交差適合試験について、直接抗グロブリン試験について、抗体解離試験についてそして各検査法における検査結果の解析と評価が身に付けられよう実習を行う。輸血の適合を誤ると直接、医療過誤に繋がり重大なインシデント、アクシデントを招く。臨床検査技師として十分な技能を身に付ける必要があり、全員が一定水準に達することができるよう実習を行う。	
			輸血・移植検査学演習	○	輸血・移植検査に関する演習を行う。問題を解きながら知識の整理を行う。また国家試験の問題解説も行う。血液型とその検査ではABO血液型、Rh血液型、MNS血液型、Lewise血液型、Kell血液型などまたまれな血液型についての解釈、赤血球不規則抗体検査の解釈、また自己血輸血の利点と問題点や適応と禁忌について、血小板抗体検査について、血液型不適合妊娠について、臓器移植に関する検査を説明できるようになるために演習を行う。知識の整理と確認のために問題を解く作業を行う。	
		微生物検査学	微生物検査学Ⅰ	○	病原微生物による細菌感染症やウイルス感染症などの感染要因や経路、病原体の侵入を阻止し排除する免疫応答反応や発症に関わる宿主要因、感染症の予防について解説する。また病原微生物と感染症との関連を理解できるよう説明する。加えて肉眼で見えない病原微生物の検査法の原理を習得させる。ヒトに病原性を持つ微生物による感染症の病態、診断、治療と予防について説明する。また起炎病原体の検出手法、診断法の選択について説明する。新興感染症や再興感染症については詳細な感染ルートや検査方法の種類、鑑別同定方法の仕方についても教授する。	
			微生物検査学Ⅱ	○	微生物学の概要と医学微生物学の基礎を復習として解説し、細菌感染症を中心に、真菌、原虫、ウイルスなどの各種感染症の診断目的に実施する様々な臨床検査法について教授する。細菌においてはその生化学的性状による菌種同定法、薬剤感受性検査法、最新の同定法や遺伝子技術や免疫学的手法を利用した検査法についても解説し、その結果の解釈についても教授する。またウイルスの取り扱いや電子顕微鏡での観察、遺伝子関連検査の方法についても教授する。	
			微生物検査学実習	○	滅菌、消毒、無菌操作といった微生物を扱うための基礎操作を修得した上で、実際に微生物を用いて、臨床微生物検査の手法と進め方の実際を行う。同時に病原微生物が含まれる材料を取り扱う上で必須な感染防止に対する意識と技術を学習する。消毒・滅菌法を理解し実施できるように細菌同定法の戦略を考えることができるようにグラム染色法、チーネルゼン染色を適切な標本作成を行うことができるように薬剤感受性試験の標準法を理解できるように、また臨床検査における微生物の取り扱いの基礎技術を実践できるように実習を通して学修する。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床検査学専攻科目群	専門応用分野	生理検査学	生理検査学Ⅰ	○	生理検査学とは被験者と直接に接して、生体活動における諸現象を観察し、客観的な医療情報を得る検査である。呼吸・循環・代謝・神経・筋の生理機能等の基礎的知識を学習するとともにどのような検査を行うべきかや臨床生理学的検査の特異性について解説する。生理検査学分野の検査の目的と業務範囲、注意事項、患者の心理を理解した対応、機器の構造と取扱いについて説明する。生理検査の役割と測定意義・安全対策・感染対策について説明する。心電図における波形の意味と名称、心電図の正常波形と異常波形の違いを説明する。また心電図、心音図、脈波の波形とそれらの関係について解説する。	
			生理検査学Ⅱ	○	各種生理機能検査の原理、用いられる機器の有用性と限界を理解すると共に検査施行の手順と意点を学んで得られた検査結果からどのように解析を行っていくかについて解説する。神経・筋系の検査（脳波、筋電図）運動誘発電位検査・生体感覚誘発電位検査、呼吸器系の役割と検査項目、呼吸器系と血液ガスの関係、呼吸機器と酸塩基平衡の関係を教授する。換気機能検査、肺胞機能検査、血液ガス、エネルギー代謝と呼気ガス分析について解説する。	
			生理検査学Ⅲ	○	生理機能検査は被験者と直接接して、生体活動における諸現象を観察し、客観的な医療情報を得る検査である。患者を直接検査するためには検査する側の心構え、患者に対する接し方などを十分理解したうえで検査に望む必要がある。そのための生理検査に必要な手順や安全管理について解説する。また生理機能を知るための検査法や生理学的検査の特性について講義する。各対象の臓器の超音波検査、聴覚検査・味覚検査・嗅覚検査、睡眠時無呼吸症候群検査、直腸肛門機能検査、消化管内視鏡検査について教授する。	
			生理検査学実習Ⅰ	○	講義で学んだ種々の生理学的検査法を自ら体験し、検査の手技や機器の取扱い等に習熟する。また、被験者と直接接触して行うものであるから被験者の安全を確保し信頼できる記録を得るためには機器の構造や動作原理、保守管理などにつて精通する必要がある。被検者、被検者を体験することで、検者の配慮すべきことがらを説明できるように実習を行う。心電図の誘導法と得られた波形の意味を説明できるように実習を行う。また脈波の波形の特徴とその意味を説明できるように実習を行う。	
			生理検査学実習Ⅱ	○	講義で学んだ種々の生理検査法を自ら体験し検査の手技や機器の取り扱い等に習熟できるよう指導する。また、被検者と直接接触して行うものであるから、被検者の安全を確保し信頼できる記録を得るためには機器の構造や動作原理、保守管理などについて精通できるよう指導する。神経・筋系の検査について説明できるように、脳波検査の方法について実施できるように、睡眠時無呼吸症候群検査について実施できるように実習を行う。また呼吸機能検査についてそして呼吸器系の役割と検査項目を理解するために実習を行う。さらに呼吸器系と血液ガスの関係、呼吸機器と酸塩基平衡の関係を説明できるように実習を通して学習する。	
			生理検査学実習Ⅲ	○	講義で学んだ種々の生理検査法を自ら体験し検査の手技や機器の取り扱い等に習熟できるよう指導する。また、被検者と直接接触して行うものであるから、被検者の安全を確保し信頼できる記録を得るためには機器の構造や動作原理、保守管理などについて精通できるよう指導する。具体的には自ら被検者を体験することで、検者の配慮すべきことがらを学習するために実習を行う。超音波診断装置によって描出される心臓の各描出画像を理解するために実習を行う。超音波診断装置によって描出される頸動脈の各描出画像を説明できるように実習を行う。聴覚検査の基本となる検査法を行い、その際の注意事項を説明できるように実習を行う。嗅覚検査について検査が行え、注意事項を説明できるように実習を行う。それぞれの結果の解析と評価を行えることができるように実習を行う。	
			生理検査学演習	○	循環器系の検査(心電図、心音図・脈管系検査)、神経・筋系検査(脳波、筋電図)の各検査検査結果が示す病態について解説する。呼吸系の検査（換気機能検査、肺胞機能検査、血液ガス・酸塩基平衡）、超音波検査の各検査結果が示す病態について教授する。具体的には心電図の異常波形が説明できるように心音図・脈管系検査の異常所見が説明できるように脳波の異常波形が説明できるように筋電図検査から異常所見が説明できるように換気機能検査、肺胞機能検査の結果から異常について説明できるように血液ガス、酸塩基平衡の結果から異常が説明できるように超音波の検査結果から異常所見を説明できるように演習を通して学習する。	
		臨床検査総合管理学	検査管理総論	○	臨床検査の意義及び検査部門の役割について教授する。また、検査の倫理についても解説する。また医療機関における検査の役割を紹介し、機器管理、情報管理、安全・危機管理について説明する。病院組織の各部門の役割について解説する。我が国の医療制度の仕組みについて説明する。また医療における危機管理と医療過誤防止対策について説明する。臨床検査室の管理と臨床検査技師の職業倫理について説明する。さらに衛生検査所について解説し、病院との違いや外注やブランチラボ、FMS方式について解説する。	
			検査精度管理学	○	現代の医療において臨床検査の質保証は、重要な位置づけとなっている。各医療施設において質の担保は内部精度管理や外部精度管理を十分に行うことが求められている。そのためには、教育の中に精度管理方法を入れ、十分な知識や技能を習得する必要がある。そのために臨床検査の検体の採取から前処理、検査の実施、そして検査結果の報告の一連にわたる検査管理方法を教授する。また精度管理の方法として内部精度管理の実際を紹介し、自らが現場で精度管理ができるように講義を行う。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床検査学専攻科目群	専門応用分野	臨床検査総合管理学	臨床検査総合演習Ⅰ	○	(概要) 臨床検査技師に必要な知識な整理および疾病と関連する臨床検査について総合的な学習を行う。臨床検査総論、病理検査、生化学検査学、生理検査学、臨床検査医学総論を中心に教授する。また国家試験に対応できる知識が獲得できているかの確認を行う。 (オムニバス方式/全8回) (8 横田 浩充／2回) 臨床検査医学総論について演習を通して解説を行う。演習問題を通して問題が解けなかったり理解していない場合には、復習を十分行うよう指導する。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 生化学検査学について演習を行う。演習問題を通して問題が解けなかったり理解していない場合には、復習を十分行うよう指導する。 (22 板橋 匠美／2回) 病理検査学について演習を行う。演習問題を通して問題が解けなかったり理解していない場合には、復習を十分行うよう指導する。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 生理検査学について演習を行う。演習問題を通して問題が解けなかったり理解していない場合には、復習を十分行うよう指導する。	オムニバス方式
			臨床検査総合演習Ⅱ	○	(概要) 臨床検査技師に必要な知識な整理および疾病と関連する臨床検査について総合的な学習を行う。血液検査学、微生物検査、免疫検査学、輸血・移植検査学、公衆衛生学、医用工学中心に教授する。また国家試験に対応できる知識が獲得できているかの確認を行う。 (オムニバス方式/全8回) (7 三村 邦裕／2回) 血液検査学について演習を行う。演習問題を通して問題が解けなかったり理解していない場合には、復習を十分行うよう指導する。 (9 大島 利夫／2回) 微生物検査学について演習を行う。演習問題を通して問題が解けなかったり理解していない場合には、復習を十分行うよう指導する。 (27 藤本 友香／3回) 免疫検査学、輸血・輸血移植検査学について演習を行う演習問題を通して問題が解けなかったり理解していない場合には、復習を十分行うよう指導する。 (21 松村 聡／1回) 医用工学について演習を行う。演習問題を通して問題が解けなかったり理解していない場合には、復習を十分行うよう指導する。	オムニバス方式
		医療安全	臨床検査医療安全管理学	○	医療の質の向上と安全の確保は国民の願いであり、医療機関が最優先に取り組むべき課題のひとつである。医療安全とは何か、対策として何をしなければならないかを教授する。また、医療事故予防、安全システム、(リスクマネジメント、インシデントレポートなど)安全管理と予防及び運営について解説する。医療におけるリスクマネジメント、インシデント、アクシデントの概要を説明し病院という組織の特性を解説する。リスクマネジメント・システムの基盤作りについて解説する。さらに事例分析から医療の質を意図した業務改善について学習し、医療の安全・安心の構築について説明する。	
			臨床検査医療安全管理学実習	○	今日の医療現場における臨床検査技師の役割は、大きく変わってきている。近年法律の改正とともに、医師や看護師、その他の医療スタッフとの連携において、検体採取などの要望が高まっており、患者のいる外来や病棟の現場で依頼を受けて検体の採取や生理検査を行うことが求められている。この実習では、患者と接する接遇を含め、医療安全に対する理解および必要とされるスキルを身につけた有能な人材を教育することを目的として指導する。	
		上記の科目における臨地実習	臨地実習前評価	○	(概要) 臨地実習前に臨地実習に必要な技能・態度を備えていることを確認するための評価試験を行う。評価試験はこれまでにやってきた講義・実習・演習を通して学んだことや臨地実習で身につけるべき、医療人としての倫理観や接遇について改めて講義を行った後、評価試験を行う。(オムニバス/全12回) (8 横田 浩充／1回) 臨地実習について解説する。実習あたっての心構えや注意点、態度などについて解説する (7 三村 邦裕／3回) 事前説明と試験の方法を解説する。試験についてはその科目の特性に応じた方法で行うことを解説する。血液検査学の実技試験を実施し、評価を行う。採血、スライドテスト、プロトロンビン時間などを正確に実施できるかを確認する。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 免疫検査の実技試験を実施し、評価を行う。検査キットを使用して抗原検査やCRP検査などが間違いなく実施できるかを確認する。 (9 大島 利夫／1回) 微生物検査の実技試験を実施し、評価を行う。細菌のグラム染色ができるか、染色の状態の良し悪しを確認する。 (27 藤本 友香／1回) 一般検査学の実技試験を実施し、評価を行う。尿試験紙を用いた尿定性検査を実施し技能を確認する。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 生理検査学について実技試験を実施し、評価を行う。心電図検査を実際に実施し技能の正確さを確認する。 (21 松村 聡／2回) 検体採取について実技試験を実施し、評価を行う。採血、鼻腔咽頭ぬぐい液について正確に採取ができるかを確認する。	オムニバス方式
			生理検査学に関する臨地実習	○	臨地実習では臨床検査技師として基礎的な実践能力を身につけ臨床検査の重要性を理解し、患者様本位の医療を提供することの重要性を認識させ、他の医療職種の業務を理解させるとともにチーム医療の一員として臨床検査技師の役割と責任を学ばせ、医療人としての自覚を持たせることを目的とする。生理検査学に関する臨地実習は患者を直接検査する項目になるため患者への接遇や話し方、態度などを学ぶ重要な機会となることを教授する。	

科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床検査学専攻科目群	専門応用分野	上記の科目における臨地実習	生理検査学以外の臨地実習	○	臨地実習では臨床検査技師として基礎的な実践能力を身につけ臨床検査の重要性を理解し、患者様本位の医療を提供することの重要性を認識させ、他の医療職種の業務を理解させるとともにチーム医療の一員として臨床検査技師の役割と責任を学ばせ、医療人としての自覚を持たせることを目的とする。生理検査学以外の臨地実習は、検体検査であり、生化学検査、免疫検査、血液検査、尿糞便等一般検査、病理検査、微生物検査、遺伝子関連・染色体検査がある。知識や技術を学ぶばかりか患者検体の大切や臨床検査の重要性などの情意を教授する。	
		その他	実用国語		(概要) 国語（日本語）の文章を正しく理解し、自分の考えを伝え、表現することは、言語・情報活用能力の質を高め、社会で通用する高度専門職になるために必要な能力である。本科目では、読解力と文章力・表現力を養うことを主眼とする。（オムニバス方式／全8回） (3 御堂 直樹・2 豊田 英敏／1回)（共同） オリエンテーションを実施し、この授業の概要を知る。類義語・対義語・同音異義語等について、演習問題を通し語彙力を養う。 (2 豊田 英敏／2回) グラフ・資料・箇条書きにまとめる能力を高め、情報活用能力を身につける。同音異義語や同訓異字について、意味を理解しながら適切な表現力を身につける。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／4回) グループディスカッションをまじえた講義で、「書くこと」の基本姿勢を身につける。提出された課題作文について個別に検討し、多角的な視点についての理解を深める。学生によるプレゼンテーションやグループディスカッションを通して「わかりやすい文章構成」についての理解を深める。 (26 宮路 茜／1回) これまでの授業を振り返り、語彙力・読解力・表現力を養う方法についての理解を深める。	オムニバス方式・共同（一部）
			卒業研究		各教員がその専門分野の中から、研究テーマを考え、そのテーマに添って、学習する。それには必要な資料や論文を収集・選別していくが、その作業から、学生自らの興味に合った研究テーマを見出し、それについて、実験、あるいは実習、情報収集、情報分析、調査など、最適な方法で正しい情報。データを得て、自らの見解を引き出していくことを目的とする。この卒業研究を行なうことにより、それまで学習してきた専門知識を統合化し、しかも深い知識と知識を探究するきっかけになると考える。同時に従来の見解に新たな創造力を見出し、将来の社会生活において独自の座標軸を打ち建てる事が出来る。	

授業科目の概要						
(医療保健学部医療保健学科 臨床工学専攻)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間の教育	いのち・人間	哲学と宗教	○	多くの日本人は自身の生活にとって、宗教は縁遠いものと考えているようである。しかし、人間は「ホモ・サピエンス（英知人）」、「ホモ・レリギオス（宗教人）」と定義されてきた。人間にとって宗教は欠くことのできない要素であり、深く人間存在を知り、世界のありようを知るには、宗教に目を向ける必要がある。また、自らも無意識のうちに立脚している宗教性に目を向ける必要がある。この講義では、世界の諸宗教について、基本的な知識を身につけるとともに、人間の倫理や道徳を支える宗教性にあらためて目を向ける。	
			心理学		“こころ”とはなにか、心理学の基本概念に沿って解説しながら、人間の心理を理解するための基礎的な知識を学ぶ。自分自身を振り返り、日常生活でいかに心理学的視点を活かしていくか、講義を通して探っていく。心理学の基本概念を理解し、“こころ”について、さまざまな側面から考える視点を持つことができるようになることを目指し、心理学の全体像を見通して体系立てて学ぶ。講義で取り上げたトピックについて、日常生活で起こりうる思考や現象との関係について考え、理解を深めることを目指す。	
			文学		浦島太郎の物語が古代伝承をベースとし、各時代によって変化したことを理解する。日本人にとって、「浦島太郎」の物語は誰もが知っている物語であるが、実はこの物語は中国の神仙思想を基にした不老不死の物語であった。ところがそれが時代とともに、さまざまに変化し、現在の我々が知る、浦島物語に変貌する。この講義は、そもそももととなる浦島説話がどのようなものであったか、その背景にあった不老不死へのあこがれについて言及し、かつその後の浦島説話がどのように変化して、現代の形になったか、その過程を理解する。この授業を受けることによって、身近な物語の中に人々がどのように生死を考えてきたのか、人間の幸福とは何かを考える力がつく。さらに自分の文章を作成することが出来るようになる。	
			生命倫理学		ヒトは肉体を有する存在である。その限りでは、ヒトの身体は「モノ」とであると言える。だが、「いのち」とともにある人の身体は、単なる「モノ」として扱われるべきではない。その意味でも、人間のケアが仕事である医療の現場においては、「いのち」ある「人間」という視点に立った「倫理」のあり方に向き合う姿勢が、強く求められることになる。この講義では、パターナリズム、自己決定権、パーソン論、QOLとSOL、人口妊娠中絶、臓器移植の問題など、生命倫理学で扱われる基礎的な議論をひとつとおり押さえたうえで、医療の現場で起きた具体的な事例などをとおして、背後にある倫理的課題を様々な角度から、深く抉り出すことをしたい。また、日本人の死生観に独自の「倫理」のありようについても、随時、触れていきたい。	
			医療と人間		（概要）現代の医療の根幹とされている「根拠に基づく医療（EBM）」とは、科学的データに基づいた最良の医療を、医療者の経験に基づいた専門的能力と患者さんの人生観・価値観等を統合して患者さんに提供するものである。そのためには根拠を理解できる能力ばかりでなく、寛容な精神と倫理観が強く求められる。医療への入門として、患者さんを中心とした医療を行うために医療人に求められる倫理観、患者さんの権利、医療制度の現状と課題、感染症と人類の歴史、患者さんからの情報の収集の仕方等いわゆるリベラル・アーツを学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） （基幹教員以外の教員(担当者未定)／全2回） ヒポクラテス流のパターナリズム（親権主義）から、近年は医療者と患者との共同意思決定が重視されるようになった背景を学び、医の倫理について考える。医療安全の取り組みや、本学のミッション・ビジョンと皆さんへの期待について学ぶ。 （1 郡司 俊秋／全1回） 病気になった患者さんだけでなく、ご家族のことも考える医療者を目指す上で、グリーフケアについて学ぶことは有益である。グリーフケアとは何かを学び、医療者ができるグリーフケアにはどのようなことがあるか考える。 （11 石原 照夫／全1回） 人類の感染症との闘いの歴史を概観し、新型コロナウイルス感染症の流行によって露呈した我が国の医療をめぐる問題点を考察する。 （基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回） 医療の歴史、インフォームドコンセント、チーム医療などのキーワードを学ぶことにより、医療提供者と患者の関係や患者の権利について考える。 （基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回） 脳卒中とパーキンソン病についての学習を通じ、体を動かす、感じる、認識する、などの機能の障害について、どのような原因でおこり、どのように調べて診断するかを知る。 （基幹教員以外の教員(担当者未定)／全2回） 地域医療構想や全世代型社会保障改革について学ぶことにより、求められる医療サービスと医療構造の大変化ぶりを認識する。プライマリ・ケアや情報リテラシーから、チーム医療における医療関連職種の役割とデジタル活用について考える。	オムニバス方式
			コミュニケーション概論		現代の高度情報化社会においては、インターネットやマルチメディアを中心とする文化活動が世界規模で営まれているが、個人に対しては、膨大な情報に流されて自己を見失う危険性が指摘されている。そのような現状において、いかに自分自身で論理的に物事を整理し、デマやフェイクニュースに騙されず、どのように他者とコミュニケーションをとればよいのかを考察する。授業では、現代社会における多種多様な具体的問題を題材に「ロジカルコミュニケーション」を実践する方法のケース・スタディを行う。「論理的思考法」に加えて「自己表現能力」を高め、各自の個性に応じたユニークなコミュニケーション・スタイルを修得する。とくに実際の医療現場において、さまざまな状況でチーム医療の一員として円滑にコミュニケーションするために有効な手段を身につける。	
			経済学		経済学とは、効率性、公平性といった観点から、さまざまな経済現象を分析する学問と考えることができる。具体的には、景気の安定化、雇用の確保といった問題をはじめ、租税、社会保障など私たちの生活に深く関わるさまざまな問題を研究の対象としている。本授業では、そのような経済学の基本的な考え方を身につけると共に、現在のわが国が直面する経済問題を理解し、考え、説明できることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間の教育	社会科学	社会学		社会について考えることは、私たちの日常生活の成り立ちや隠れた意味を明らかにし、相対化していく刺激的な試みである。この講義では、社会学の基本的な概念、歴史および理論について学ぶことで、社会学的なものの見方を養う。代表的な社会学者の議論や概念についての基本的な知識を身につけること、および身近な世界を社会学的視点から観察・分析できる能力を身につけることを目標とする。	
			法学		この講義では、憲法、民法、刑法についての学びを通して「法」とは一体何か、何の為にあるのかを学修することで、社会生活における法の作用や役割について理解を深める。「裁判員制度」について、その制度趣旨や手続の流れやメリットとデメリットについて理解する。日本国憲法の三大基本原理を学び、基本的人権や統治機構について理解を深める。民法、刑法の基本原理について理解できるようになることを目標にする。	
			歴史		和食のルーツとなる古代日本の食文化と歴史を学ぶ。「和食」の原点として、古代の日本人が何を食べてきたかを奈良・平安時代を中心として学ぶことが到達目標である。旧石器～古墳時代にかけて日本人が何を食べてきたのかを理解し、さらに奈良時代における律令制の成立によって、全国各地から税として食料品が中央に送られていたことが宮都出土の木簡や『延喜式』から判明するので、古代における食品加工法や給食体制、さらに天皇・貴族から庶民に至る食事の内容を明らかにし、奈良・平安時代の食生活を明らかにしたい。またその食事と生活習慣病との関係を考える。そのこの授業を受けることで、豊かな教養を身につけることが出来る。	
			国際関係論		文系学部・学科の国際関係論と違い、本講義では将来の医療職に関係の深い、医療をはじめ介護や年金など社会保障制度全般について、国際的な視野に立つ幅広い基礎的な知識を身につけることに目的を絞る。これに沿って、内外の政治、経済情勢などを踏まえながら、先進国共通の社会保障制度の課題、欧米とわが国との比較、わが国の社会保障制度の現状などについて、最近の具体的な報道事例などを織り交ぜながら概説し、今後のわが国の社会保障制度のあり方を探る。また、エイズ、ハンセン病などの医療をめぐる偏見・差別問題を各国との比較で取り上げる。本講義を最後まで受講すれば、新聞、TVなどでしばしば報道されている社会保障制度に関する用語の意味、政府の考えている改革の方向性、その方向性をめぐる与野党の対立点などがおおよそ理解できるようになる。医療、介護、年金など社会保障制度は細かく分かれているが、個々の制度の断片的な知識ではなく、制度の背後にある考え方、なぜその制度が出来たのかなど、根本に遡って理解を深める。	
			認知科学		認知科学は人間の視覚、聴覚、触覚などの感覚情報から、注意、記憶、学習、思考などの脳機能によって、人間を取り巻く環境や外界を理解する学問である。この過程で、脳や心がどのような働きをしているかをとらえ、人間の「知」と「心」の仕組みを理解する。また、医療現場、日常生活、などでの人間の認知活動についてその特徴や要因を考える。これらの知識を踏まえ、ヒューマンエラーや事故防止の工夫など、医療における認知科学の活用について理解を深める。	
			人間関係論		他人と関係を一切持たずに生きている人はいない。良い人間関係を築くことは、良い生活を送ることにもつながる。本講義では心理学系のクリティカルシンキングの知見から人間関係を成立させる要素、深める要素や分析する方法などを学ぶ。それらを通じて自分が保持している人間関係について客観的に考え、問題が起きた際適切に対処できるようになることが最終的な狙いであり、具体的に次の項目を到達目標とする。 ・他人の行動の原因を特定し判断できるようになる。 ・自分自身について考える方法や知識を身につける。 ・人の認知にはどのようなバイアスがかかりやすいか、偏見や思い込みの修正の難しさなどを知りそれらに気づけるようになる。 ・自分が保持している知識を正しく把握しにくい理由を知り、自分が持っている知識や理解度を分析できるようになる。	
			家族社会学		家族社会学の古典的な学説における家族の定義、概念、構造、機能などを概観し、次にライフサイクルの視点から配偶者選択、結婚、子どもの社会化、親の扶養などの各論について検討する。適宜、現代的なトピックや諸説についても触れる。家族をとらえる基本的な概念を理解することができ、個人と家族、家族と外部の関係、家族を支える社会的ネットワークについて理解しようとし、自ら調べ、意見を述べるができるようになることを目標とする。	
			ジェンダー論		ジェンダーとは、社会的・文化的性差を意味する概念として使われているが、本授業では、ジェンダー概念とその歴史的成立過程について学んでいく。これらをふまえ、世界は激動的変動とグローバル化が進行しており、社会変動に対して、ジェンダーを切り口とする分析手法を学んでいく。本授業での学びをもとに、様々な領域における社会問題について、ジェンダー視点から分析考察することが出来るようになる。とりわけ、今後の社会発展をふまえ、国連決議で示された「持続可能な社会発展」に向けたSDGsが掲げる目標達成への取り組み内容を理解し、その基礎に「ジェンダー平等」が据えられること、そのことが持つ意義を理解することが出来るようになる。	
			比較文化論		日本は世界に先駆けて人口遷移を迎える（近代社会を支えてきた人口構成が新たな形態に移行する）。成長型の人口構成を前提にした従来の保健医療の常識が通用しなくなる未来に、何を備えればよいのだろうか。講義では、文化人類学の視点から、近現代の日本社会が創り出した食・健康・保健・医療の「当たり前」を相対化していく。対象を「文化」として捉えることで、社会の変化を丁寧に見定める能力を養い、変貌する社会に沿いうる保健文化のあり方を考える。自らが寄り添う当たり前をも「文化」として捉える方法を学び、人々の多面的な現実に向き合い関わり続けることを可能とする、自己変容をいとわない柔軟な姿勢と洞察力を身につける。	
	自然科学	基礎生物		「生物Ⅰ」は近年、「生命科学」といわれている分野の基本的な事柄（DNA遺伝子の働き等）を内容とする。本講義では、高校で「生物基礎」を履修していることを前提として進めるが、履修していない学生にも配慮する予定である。また、専門科目を学ぶ際に参考になる授業にしたい。履修後は、最近話題になっている遺伝子関係の記事等や生物の基本的な内容を理解できるようになることを到達目標としてる。		

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間の教育	自然科学	データサイエンス	○	医療に係る高度専門職には、対象者の現状把握を適切に行い、抱えている問題点を認識し、具体的な各種指導・相談・対策を考えていく力が必要である。対象の状態を正しく把握するために、データ収集し、分析し、また結果公表する力を養うことが重要である。本講義では統計学の基礎的な用語を学びながら、統計的推定・検定の基本的な考え方を学ぶ。また、データ演習を通して、データの扱い方の基礎を学ぶ。基礎的統計用語やデータの種類について、理解し、説明できる。データ演習を通して統計ソフトの使用法と、実務能力を身につける。確率論的なものの見方を理解し、統計学的推計（推定と検定）の原理と方法を説明できる。調査や測定により得られた数値・文字データ特性を考察するための適切な集計方法や統計処理方法を選択できる。検定や統計分析を行う際の具体的な注意点や前提について学ぶ。	
			基礎数学		数学はあらゆる学問の基礎となるもので、どの学科の学生にとっても専門的キャリアを構築していくためには必要不可欠なものである。この授業では、各種資格試験の計算問題に対応するため、また、さらに高度な数学を学修するために、中学校、高等学校時代に学んだ、数学、特に種々の計算に関する知識をもう一度見直すことを主眼としている。四則演算、比率、割合の計算、単位の計算、方程式、不等式の解法、統計計算などに関する基本的なルールを復習し、実際にこれらの問題が素早く、正確に解ける技術を身に付けることを到達目標とする。	
			物理学		医療の現場では、古くから使われる測定機器に加え、MRIや重粒子線治療、3Dプリンタ、VRなど最先端の科学技術を駆使した装置も活用されている。本講義では、専門分野における高度な専門科目を履修するために必要な物理的なものの見方・考え方を習得する。特に、医用機器の仕組みや医用画像処理について理解する上での基礎を身につける。そして、次の項目を目標とする。①身近な自然現象をモデル化し、物理学と関連付けて説明することができる。②物理法則を基盤として、その知識を医療に応用している事例をあげることができる。③対象とする現象を測定する方法を理解し、表やグラフを用いて考察することができる。	
			基礎化学		医療を学習する中で、化学的な視点から食品、生体物質を理解することが重要である。講義では、一般化学、無機化合物についての基礎知識を理解できるように原子の構造、周期表と元素、化学結合、物質の量、酸・塩基と酸化・還元について解説をする。医学、医療保健を理解するためには化学の知識は必要不可欠である。①原子の構造を理解できる。②化学結合を理解できる。③物質の量を理解できる。④溶液の濃度に関する計算ができるようになる。⑤酸・塩基と酸化・還元を理解できる。以上の修得を目指す。	
			スポーツ科学		科学の進歩により、スポーツは人間の生活をより豊かにするための有益な活動であることが明らかにされている。その中でも、とくに注目すべきなのはスポーツは人間のからだ・心・社会それぞれに作用して生活を豊かにするという点である。しかし、日本国民の約6割は定期的なスポーツ経験を有しておらず、その傾向は20代の男女において特に顕著である。本講義は、スポーツがどのようにして人間の生活を豊かにするかという点について学びを深める。	
			スポーツ実習		科学の進歩により、スポーツは人間の生活をより豊かにするための有益な活動であることが明らかにされている。その中でも、とくに注目すべきなのはスポーツは人間のからだ・心・社会それぞれに作用して生活を豊かにするという点である。しかし、日本国民の約6割は定期的なスポーツ経験を有しておらず、その傾向は20代の男女において特に顕著である。本講義は、スポーツがどのようにして人間の生活を豊かにするかという点について学びを深める。からだ・心・社会の視点からスポーツと人間の生活について考える事によって、スポーツに対する問題意識を持つことができること、ライフスタイルにあったスポーツを実践できることを目指す。	
	外国語		英語購読・記述	○	この授業では、医療に関する身近なトピックの英文を読み、基本的英語読解力と記述力の養成を目的とする。大学一般教養レベル（TOEIC400～500点程度）、もしくはそれ以上の英文を読み、内容把握できるようにする。読解力と記述力を促進するために、基本英単語以外にも専門分野の英単語を学習し、実践的な英語を習得する。専門分野に関連するトピックを扱った英文を読み、基本的英語読解力を養成するだけでなく、医療の専門的知識や語句の理解を深める。また、テキストで学習する文法事項や語彙を使って、作文やリスニングの練習を行い、実践的な英語力を身につける。	
			英会話Ⅰ	○	国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。国際社会で知識を共有するために、これまで以上に英語で他者の考えや意思などを理解し、自らの意見を自分の言葉で他者に伝えることが必要とされる。この授業では、医療のトピックを取り扱い、リスニング・スピーキングを中心とした英語力を身につける。テキストで学習する文法項目や語彙を使ったダイアログ、リスニング・アクティビティーを通して、英語による基礎的コミュニケーション能力の養成を目指す。また、医療のトピックに絡めて英語を使い慣れるようにする。英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の立場や意見を交えて英会話ができるように練習する。	
			英会話Ⅱ	○	国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。この授業では、英語で他者の考えや意思などを理解し、自分自身の意見を他者に伝えることができるようになることを目指す。言語と文化の深い関係を理解し、文化事象の違いによる日本語と英語の発想の違いを、医療のトピックに絡めて英語を使い慣れるようにする。英会話Ⅱでは、英会話Ⅰでの学習内容をさらに深め、聴解力と会話力の養成をする。更に、テキストから学ぶ文法項目を、自分自身の立場や意見を交えて自身の言葉で英会話ができるように練習する。英会話Ⅰよりもレベルを高く設定し、医療の現場で英語を使い慣れるための練習を行う。また、上級英会話に必要な大学一般教養以上の英単語を習得する。	
			英会話Ⅲ		国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。国際社会で知識を共有するために、これまで以上に英語で他者の考えや意思などを理解し、自らの意見を発信できるようにすることが求められる。この授業では、英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分自身の意見を英語で他者に発信できるようになることを目指す。また、日常の英会話だけでなく、自身の専門分野に関連するトピックについて、ライティングやプレゼンテーションができるようになることを目標とする。大学一般教養以上の英単語を習得し、ライティングやプレゼンテーションで使えるようにする。また、授業で扱うトピックについて、英語による情報の正しい理解、内容の要約、リサーチをライティング、プレゼンテーションに応用できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群		外国語	専門英語		この授業は医療関係の様々なトピック・ジャンルの比較的短い英文を精読し、情報を正確に読み取る力を養成する。その中で語彙力・文法力を身につけ、実際に習った事項を使って英語ライティングやスピーキングの練習を行う。1. 専門的な文献が読めるようになりたい。2. 就職試験や大学院入試などの場面で英語が必要。3. 資格試験でよい成績をおさめたい。4. 口語表現をもっと学びたい。5. 基礎的な語彙力を固めたい。このような方が受講にあたって、現在の英語力に依存しない授業内容とする予定である。	
			フランス語		この授業では、フランス語で基本的な表現を用いて、簡単な日常会話ができるように学習する。その他、フランスの地理、習慣、行事を紹介し、異文化を身近に感じてもらう。自己紹介をしたり、家族や知り合いを紹介したりできる。自分の状況や日常生活、動作を相手に説明できる。質問したり、相手の質問に答えたりして、簡単な会話ができる。フランス語圏に関する基本知識を知る。以上の項目の修得を目指す。	
			中国語		この授業では、中国語で頻出の単語やよく出会う表現を使い、日常生活についての実践練習を通じて、その使い方を身につける。発音の基礎から学び始め、中国語で簡単なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。また、中国の歴史や文化、最新の中国事情の紹介や解説も取り入れ、中国入門の講座として提供する。ピンインの発音を習得し、簡単な会話ができるようになることを目指す。	
		情報科学	情報リテラシー	○	数理・データサイエンス・AIの理解と活用は、今後のsociety5.0（超スマート社会）の中、日常生活のみならず、医療・保健・看護の場の基礎的素養として、非常に重要である。本科目では、他教科の学習あるいは研究で必要となる、メール送受信、Web情報検索、ワープロソフト及びプレゼンテーションソフトが使用できるように学習する。単にPC演習だけでなく、基本的な概念、情報倫理や安全性についても学習する。・メールの送受信、ワープロソフト及びプレゼンテーションソフトが使えるようになる。・インターネット上の様々な情報を活用する上での情報倫理や安全性について理解できる。・現代社会におけるAI利活用、メリット、デメリットを理解できる。・アプリケーションソフトの利用によりオープンデータを活用できる。以上の項目の修得を目指す。	
			情報科学	○	情報科学を構成する各種情報技術の基礎的な特徴と原理を理解し、更に社会システムとの関係でそれらを捉えることにより、今後の学習に役立つ情報科学的な発想を獲得する。本科目では、Excelを通じて情報技術の基礎を学び、また、Excelの適応分野としてデータ分析を行う。最終的にはデータ収集のための帳票作成からデータの整理・実際の分析・その可視化等に関し学習する。実践に則した課題を解くことにより、総合的に学習する。表計算ソフト（Excel）を利用して収集したデータを多角度から分析活用できるようになり、データの傾向やデータから予測されることを把握し、操作結果を読み取る力を養うことを目指す。	
			情報通信と保健医療		この科目では、知識社会が実現しつつある現代において、データサイエンスを医療・保健に応用することによって、医療・保健サービスがどのように変化していくか展望するとともに、この変化にあたって医療人が知っておくべきデータ活用法やその留意点に関する知識を獲得することを目的とする。次の項目の修得を目指す。①情報通信技術の発展によってこの十数年間で社会がどのように発展してきたか、Socirty3.0、4.0、5.0の違いを中心に説明できる。②Society5.0の基盤技術であるIoT、ビッグデータ、AIが、どのように社会を支えているか説明できる。③ビッグデータの基本的な概念やその分析・活用の過程を説明できる。④AIの基本的な概念やその活用の過程を説明できる。⑤情報通信技術の発展に伴う諸課題を、「いのち・人間」尊重の観点から考えることができる。⑥情報通信技術の発展に伴い、自らが将来めざす職域がどのように発展していくか考えることができる。	
臨床工学専攻科目群		入門	体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）	○	医療に関係する職種全般にひつようとなる基本的な知識として、人体の構造と機能について理解することである。ここでは呼吸器系、血液循環器系、腎泌尿器系、消化器系の構造と機能を取り上げ、各系の相互作用についても関連させて理解する。授業内容は血液の生理、循環器の構造、循環の生理、消化器の構造、消化吸収の生理、呼吸器の構造、呼吸の生理、腎臓の構造と生理、体液量と浸透圧について学修する。	
			体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系）	○	人体の構造と機能についてを理解することである。ここでは骨格系、筋系、神経系、内分泌系の構造と機能を取り上げ、各系の相互作用についても関連させて理解する。授業内容は骨格の構造、筋の機能、神経組織の構造と機能、末梢神経系と中枢神経系、体温の調節、内分泌機の構造とホルモンの働きについて学修する。また、骨格系、筋系、神経系による運動機能や感覚情報処理について学修する。	
			公衆衛生学	○	公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学修する。授業内容にはわが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など衛生学の基礎知識に関する内容も含む。また、環境と生活者の健康の観点から環境汚染とその対策や産業中毒と職業性疾患とその対策などを取り上げながら、人間や生活を生態系に位置づけて理解する。	
			栄養学総論 （基礎栄養学）		栄養とは生物が活動、成長、増殖のために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象である。したがって、栄養学総論では栄養素の摂取、消化、吸収、代謝、排泄および防御機構等、幅広い分野について学習することになる。講義では、栄養学の定義である「人体と食物の相互作用を明らかにする学問」について解説し、現在の日本の疾病の状況、食生活の実態の概略を講義の導入として報告する。次に、栄養の歴史、栄養状態の判定、空腹と食欲について学ぶ。これらの知識をもとに栄養素である糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンについてその栄養学的機能、消化・吸収、所要量、必要量、欠乏症等について講義する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床工学専攻科目群	医療の コラボレーション 教育	入門	医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)		工学の進歩とその医療への応用が進み、新しい医療機器が開発され、それらは疾病の診断や治療にはなくてはならない存在になっている。一方、医療内容の複雑、高度化、社会構造の変化、国際化等により、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。とくに、社会的に注目されている医療事故に対しては、適切なリスクマネジメントが求められ、病院感染及び新しい感染症(MRSA、HIV、SARS等)に対する認識も変容を追られている。本講義内容は、医療関係者のみならず社会人として必要な知識で、医療安全の基本概念を理解してもらい、医療安全を求めているこれからの社会の要請に応える。	
			応用生物	○	医療従事者が身につける専門的知識および技術は人体を対象としており、その人体は生物学的な特徴の元に成り立っている。したがって、臨床工学を学んでいくうえで必要最低限の生物学的知識を身につける必要がある。本科目では、生物の構成単位である細胞に関する内容について、次のテーマを学ぶ。 ・細胞の構造と細胞を構成する物質について ・細胞内におけるエネルギーの産生など、細胞内の化学反応（代謝）について ・人体の構成要素である細胞の増殖と死、組織・器官について	
			応用化学		栄養や食品、生体物質を構成している有機化学物の構造や化学的性質を理解することは、生化学を学ぶ上で重要である。具体的には、炭化水素の種類と命名法、官能基とその性質、異性体と立体化学、有機物の酸化・還元反応、糖質、脂質、たんぱく質、核酸、ビタミンについて解説する。そして、次の項目の修得を目標とする。①有機化合物の命名ができるようになる。②化学構造式から物質の性質を推定することができるようになる。③立体異性体の働きが理解できる。④糖質・脂質・アミノ酸の種類とたんぱく質の構造がわかる。⑤核酸・ビタミンの種類と性質が理解できる。	
			キャリア教育Ⅰ	○	(概要) 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を学習するために、入学時から将来の職業選択に関わって職業観の形成や生き方そのものについて、計画的に考えていくことを基本とし、幅広い職業意識の形成等を図ることである。学生時代を有意義に過ごすための基本的な考え方や知識を得るとともに、社会で長期的に成長するための素地となる能力を身に付ける。また、これらの応用として、グループディスカッションを通じて人の話を聞き、自己の意見を述べ、議論する能力を養えるようにする。(オムニバス方式／全8回) (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 基本的な読解力、書く力の向上を図るためのトレーニングを行い、小テストで学びの定着につなげる。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 基本的な計算力の向上を図るためのトレーニングを行い、小テストで学びの定着につなげる。 (10 嶋津 秀明・12 今泉 一哉／3回) (共同) 自身所属の専攻にて到達目標である医療の現場における高度専門職の理解を深め、その職になるにあたり必要な知識・技術・態度を考える。 (6 加藤 隆幸・16 酒井 理恵・18 細田 明美・26 宮路 茜・7 三村 邦裕・27 藤本 友香・10 嶋津 秀明・12 今泉 一哉・13 瀬戸 僚馬・28 杉田 純一・29 岩上 優美・32 安枝 和哉・33 楠田 佳緒・基幹教員以外の教員(担当者未定)／1回) (共同) 看護学科及び医療保健学科の2学科合同での授業にて、お互いの高度専門職の専門性を知り、チーム医療ができる専門職を目指す基盤づくりを行う。	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	発展		医学・医療概論		(概要) 近年の医学および医療技術の目覚ましい進歩は、医療ニーズ・医療環境の大きな変化とあいまって、従来の医学・医療に新たな変革と秩序の確立を求めている。医学とは何か、生とは何か、医学の目指すもの等、保健、医療、福祉、栄養と、医療に従事するものとして、正しい医学の基礎知識を学ぶ。また、医療の概要について学び、これからの医療、保健、福祉、栄養、看護との関連をそれぞれ理解する。 (オムニバス方式／全8回) (1 郡司 俊秋／全7回) わが国の医療の動向と医療現場における高度専門職の実際、国際的な視野をもつ医療人を目指すこと、インフォームド・コンセント・医療者の立場と患者の立場について学ぶ。病院見学により、学んだ知識を実際の医療現場で確認し、理解を深める。 (20 齋藤 さな恵／全1回) 病院の仕組み・診療体制を学び、チーム医療の実際と高度専門職の役割を理解する。	オムニバス方式
			臨床薬理学(薬理学)	○	臨床薬理学は「薬の人体における作用と動態を研究し、合理的薬物治療を確立するための科学(日本臨床薬理学会)」と規定されている。本授業では、臨床薬理学の専門領域である新薬候補物質の有効性と安全性を評価する方法、医薬品として認可された後も、多数の使用例を検討しつつ、適正な薬物治療を確立してゆくために必要な基本的知識、さらに治療対象となる患者(年齢、性別、生理的狀態等)側に立った薬物動態の知識、さらに薬の作用と薬効についても概説する。	
			医療マネジメント論		昨今、医療現場における経営の視点の重要性が叫ばれている。理系、文系にかかわらず医療現場に携わるものに対して、それぞれの立場から医療の現場の運営をいかに効率的かつ円滑に遂行していくか、日本における医療経済の現状を踏まえた医療の質を高めるにはどうしたら良いか、個と集団とのかかわりの中で、いかに人間関係を維持していくか等に関して、患者中心のチーム医療の重要性を考慮しながら講義を行う。	
			キャリア教育Ⅱ	○	将来、医療における高度専門職として活躍するために、学生時代に取得が必要な基礎的能力(知識活用力・行動特性)とは何かを学び、卒業後も自らの資質を向上させ、社会的及び職業的に自立できるように、入学時から計画的に幅広く学習する機会を与えることを目的とする。以下の項目の修得を目指す。 ・自分の意見を持って主張することができる。 ・他者の話を相手の意図を汲み取りながら「聴く」ことができる。 ・自分の強みや課題を理解し、言語化できる。 ・基礎的能力の開発目標を具体的に、自分で立てることができる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床工学専攻科目群	医療の コラボレーション教育	発展	キャリア教育Ⅲ		将来、医療における高度専門職として活躍するために、学生時代に取得が必要な基礎的能力（知識活用力・行動特性）とは何かを学び、卒業後も自らの資質を向上させ、社会的及び職業的に自立できるように、入学時から計画的に幅広く学習する機会を与えることを目的とする。以下の項目の修得を目指す。 ・基礎的能力において、自分の成長や要因となったと思う経験を語る（説明する）ことができる。 ・社会人講師の講話という経験の機会をうまくとらえて、自分のものにすることができる。 ・自分の強みが将来においてどのように生きるかを考え、言語化することができる。	
		実践	協働実践演習	○	これからの医療は患者を中心として、医療従事者である、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士等その他の多くの職種が協調して、その疾患の治療にあたることが必要となってくる。このことを念頭において、看護学科、医療保健学科の学生が、生活習慣病(糖尿病等)や褥瘡を題材に、それぞれの専門の立場から、その治療やその患者に関わる問題について意見交換し、実際の臨床での各自の役割を認識する。また、この演習を行うことによって、さまざまな専門科目の内容を総合的に理解し、かつ深く理解することをねらいとする。	
			ボランティア論	○	現代の日本においてボランティアはどのような意義があるのかをとらえ直し、共生社会や医療保健の推進におけるボランティアの諸相、活動の実態、意義、課題などについて多角的に考察する。ボランティアに対する理解を深め、その多様性を知る契機としたい。ボランティアの背景、現状、課題など「ボランティアを学ぶ」と同時に多様な事例によって「ボランティアで学ぶ」ボランティア論として、市民社会の担い手としてのボランティアを理解し、共に自己実現を図ることを理解することを目指す。	
			ボランティア活動		学科横断的な混成チームを編成し、いくつかのテーマごとでさらにグループに分かれる。各グループは、どんなボランティア活動を行うか、討議を行うことで決定して、積極的にボランティア活動に参加する。自分たち独自でも良いし、同じテーマの実際のボランティア活動に参加するものでもよい。ボランティア活動を実践することで、「援助し、援助される関係」の体験を通じて、ボランティア活動の意義を理解することを到達目標とする。	
	専門基礎分野	解剖学・生理学	解剖生理学実習	○	人々の健康の維持増進・疾病予防などに携わる医療における高度専門職は、人体の構造と機能を十分に理解する必要がある。この授業では、マクロおよびミクロ解剖学実習として各器官の形態や体内での位置観察および正常・病理標本の観察を行う。各器官の正常な組織の機能を理解すると共に、疾患における組織の変化を理解し、疾患の理解を深める。さらに、バイタルサイン測定、スパイロメトリ測定、心電波形の読み取り、感覚機能検査などを実習し、人体の生理機能への理解を深める。	
			臨床工学演習Ⅱ	○	（概要）臨床工学技士に必要な知識の整理と業務に関係する総合的な学習を行う。基礎的な生理学と工学的な基礎を統合した臨床工学の基本的な考え方を中心に講義する。臨床工学技士として医療現場等で活動するために必要な知識の確認が主な目的であり、これまでに異なる科目として学んだ知識の総合的な理解を確認するための講義であり、理解の水準が過去の国家試験を始めとして関連学会などで行われた試験問題などに適切に対応できる知識レベルに到達していることを確認する。 （オムニバス方式／全8回） （10 嶋津 秀昭／全4回） 循環生理学及び代謝生理学、呼吸生理と体温、その調整に係る臨床工学技士の関わりについて学ぶ。 （12 今泉 一哉／全2回） 医用治療機器の考え方、医用治療機器の運用に関する重要ポイントについて学ぶ。 （31 大貫 雅也／全2回） 医用治療機器と安全工学及び医用治療機器の信頼性について学ぶ。	オムニバス方式
		生化学	生化学（臨床工学）	○	医療に関わる者に必須となる生化学とは生命に関する分子の化学反応に基づいた生命現象を解明する学問である。本講では基本概念、機能分子である蛋白質の構造および一般的性質、特に酵素の特徴、作用機作、反応速度論等について解説する。さらに生体物質の代謝について論じる。また、生命の維持と再生産のための情報を担っている遺伝子を理解するために、核酸の構造と性状、機能に関する基本的知識を修得する。	
		医学概論	医学概論	○	医学概論では医学の発展がもたらされた歴史的背景を学び、現代医学の発展と動向について学ぶことにより現状と今後の問題点などについて講義する。また医療関連職種としての検査技術や臨床工学技士などの歴史や医療従事者に必要な倫理の重要性について学ぶ。さらに医療が医師や看護師だけでなく、様々な医療関連職種と連携して成り立っていることを踏まえ、これら職種の将来について考察する。	
		病理学	臨床工学病理学	○	臨床工学病理学では、身体の構造と機能をよく理解したうえで、多くの疾患の病態を理解し、医療の現場での実践において応用が可能なような知識を会得してもらうことを目的としている。身体の構造と機能の理解のうえに様々な疾患における臓器・組織の変化、病気の本態を理解し、診断を確定するための検査などについて総合的に学んだ。病態の評価・診断の分野も、実社会に出て実際に医療に携わったときに、臨床工学技士が多く遭遇する疾患、生活習慣病や高齢者によくみられる疾患を中心に、広い分野の疾患の病態・予防・診断・治療について学修する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床工学専攻科目群	専門基礎分野	免疫学	免疫検査学	○	私たちの生命維持には生体外から侵入する病原体や生体内で生じる異常細胞を排除する免疫システムは必須である。本講義では、「免疫学」で学んだ内容を確認するとともに、それらが臨床現場でどのように応用されているかを解説する。なかでも、ほとんどの免疫学的測定法の基本原理となっている抗原抗体反応は最も重要な要素であり、抗原と抗体の反応原理と最適な条件、各種抗原抗体反応の特徴と応用を学ぶと共に、臨床にかかわる免疫学的疾患についても解説する。	
			輸血・移植検査学	○	輸血の目的と特性について、輸血の種類やインフォームドコンセントについて説明する。また病因・生体防御機能である免疫の仕組み、輸血、移植、遺伝子関連に関する検査の理論を解説する。さらに静脈路への成分採血装置の接続および操作の修得、および結果の意義、評価について教授する。輸血療法・輸血検査と輸血用血液製剤について学ぶ。輸血検査法について、母児免疫と検査について、臓器・細胞移植検査と免疫反応について、そして臓器・細胞関連検査について解説する。	
		チーム医療概論	チーム医療概論	○	チーム医療の目的は種々の医療従事者が対等に連携し、それぞれの知識や技術を活かし安全・安心な医療と患者にとっての良質な医療を提供することにある。臨床検査はあらゆるチーム医療において患者の病気の進行度や治療の適否、再発の可能性などを探るための客観的根拠となるデータを提示し、欠くことのできないものである。チーム医療の概要について解説し、臨床検査技師がかかわるチーム医療について教授する。また高齢者の患者の対応について認知症患者の扱い方や認知症検査についても説明する。	
		関係法規	関係法規	○	我が国における法の体系の概念を説明した後、保健医療に関係する法規について法の趣旨と制定の目的を制定から今日にいたるまで体系的に講義する。さらに医療関係職種の中で比較的新しく加えられた臨床工学技士に関する法律の趣旨と概要、特徴を講義し、また、関連法規として医療法や保健医療関係者法規を説明し、医療組織についての概要を授業する。他に薬事法、健康増進法、食品衛生法、JAS法、医療過誤などの法規について解説する。	
		応用数学	情報数学	○	本講義では、プログラミングのために必要となる、「数学的な考え方」が自然に身につくよう分かりやすく教授する。特に、①条件分枝と論理、②繰り返しと数学的帰納法、③場合分けと数え上げの法則、を主体に取り上げ、基本事項の理解を進めてゆく。コンピュータ科学をよりよく理解するために、さらには優れたプログラムを作成するために必要不可欠な数学的な思考力を身につけて、しっかりしたプログラムを書けるようになる。	
			基礎数学Ⅱ	○	数理・データサイエンス・AIに関する理論や技術を習得して様々な分野へ応用・活用する上で、数学の知識は不可欠である。本科目では、数理・データサイエンス・AIで必要となる微分積分、線形代数の基礎を習得する。微分積分については、関数の微分と積分に関する基本的な概念を理解する。多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数の微分を計算できる。線形代数については、ベクトルと行列に関する基本的な概念を理解し、基本的な演算ができる。線形変換と固有値・固有ベクトルの基本的な概念を理解し、2次正方行列の固有値と固有ベクトルを計算できる。	
		電気工学・電子工学	電気工学Ⅰ	○	電気工学は現代の工学を支える基盤的な技術として全ての科学技術に必要である。幅広い知識体系をもっているが、この講義では医療技術に必要な電気工学の基礎である受動回路素子、直流回路、交流回路（正弦波交流）、電圧・電流、などの基本的知識について学ぶ。ここでの講義は極めて電気技術に関する極めて基礎的な内容ではあるが、繰り返しの学習と計算練習などで確実な知識の習得が望まれる。	
			電気工学Ⅱ	○	医電気工学は現代の工学を支える基盤的な技術として全ての科学技術に必要である。幅広い知識体系をもっているが、この講義では医療技術に必要な電気工学の基礎である受動回路素子、直流回路、交流回路（正弦波交流）、電圧・電流、などの基本的知識の理解を前提に学習する。極めて基礎的な内容ではあるが、電気工学Ⅰの内容を踏まえて、発展的に講義が進められるので、繰り返しの学習と計算練習などで確実な知識の習得が望まれる。	
			電気磁気学	○	電気工学は現代の工学を支える基盤的な技術として全ての科学技術に必要である。現代の医療では医療機器や、医療治療機器の多くに電気が使用されており、これらは電流、電場、磁場、誘電体、電磁誘導などの電磁気現象に基づいて作られている。この講義では、電気工学の基礎である受動回路素子、直流回路、交流回路（正弦波交流）、電圧・電流、などの基本的知識を再確認し、電磁気学の基本からその内容を理解する。	
			電子工学Ⅰ	○	医療技術に必要な電子工学の基礎として、医療情報の抽出に必要な電子回路素子の理解に欠かせない基本的知識を習得する。生体信号や検査機器等では、入力された信号を電子回路を介してコンピュータに入力し、これらが診断につながる意味のある情報となって出力される。これらの医療情報の活用には電子工学技術によって検出、加工された各種生体情報の計測や制御の理解が不可欠であり、また講義には基礎として重要な内容が多く含まれるので、必ず理解できるようわかりやすく説明する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床工学専攻科目群	専門基礎分野	電気工学・電子工学	電子工学Ⅱ	○	医療技術に必要な電子工学の基礎として、電子回路素子の理解に欠かせない基本的知識を習得する。生体信号や検査機器等は、入力された信号を電子回路を介してコンピュータに入力し、これらが診断につながる意味のある情報となって出力されるので、生体報の計測や制御の基礎として重要な内容を含んでいるので、すでに学習した電子工学Ⅰの理解度を確認した上でさらに複雑な回路などについて理解を深めるよう講義する。	
			電気・電子工学実習	○	生体計測装置や医療治療機器など、多くの医療機器は電気工学の知識に基づいた電気回路が多用されている。安定した生体計測や安全な医療機器の使用には電気工学や電子工学の基礎的な知識に加え、ME機器に使用されている回路の意味を理解する必要がある。電気・電子工学実習では、電気工学Ⅰ・Ⅱ、電子工学Ⅰ・Ⅱで学んだ基本的な内容を理解し、実際に回路を組み立てることで具体的な電気回路の知識の確認および組み立てに際する様々な技術を習得する。	
		機械工学	医用機械工学	○	既に物理学や生体物理学で学んだ基礎知識を発展させて、医療に関連する機械工学的事象をできるだけ工学的な視点で説明し、記憶としてではなく、理論的に考える力を養う。機械工学的な考え方が機器の運用対象としての生体の物性にも強く関係しているので、正確な知識を身につけることが望まれる。また、医療機器の動作原理にも大きく関わるので、十分な知識が得られるようにわかりやすく講義する。	
		計測工学	計測工学	○	医療に限らず、情報として意味のある量を抽出することが必要であり、これを計測という。計測の基礎となる生体信号の性質・種類と電気磁気現象、振動、温度、物理量の計測方法及び測定差と測定値の処理を理解する。これらの理解には物理学や化学の知識を応用した基本的な工学の考え方が必要になるので、この科目を学びながら工学のセンスも身につけ、臨床工学への発展的な応用に結びつけるような講義内容となる。	
		医用工学①	システム工学	○	システムは非常に幅広い概念であるが、単に機器の構成を指すのではなく、色々な要素が組み合わさって全体が存在するといった概念を、医療に携わるものにとって必要な知識として示し、制御システムをうまく運用するために利用されている制御の概念を説明し、医療機器などに用いられている様々な制御手法を理解する。講義ではシステム工学の発展の過程から各種システムの特徴、安全な運用につながる関連知識についてもわかりやすく講義する。	
	医用工学・情報科学概論		○	高度先進医療を支えているのが医療機器である。これらの機器の開発には電気工学、電子工学、情報科学、生体物性、生体計測などの基礎的な工学知識が不可欠であり、治療機器を駆使し臨床現場へと導入されている。これら医療機器を安全に使用するためには電気工学、電子工学、情報科学、生体物性、生体計測、治療機器の知識を正しく理解することが必要であるため、この講義ではこれらの基礎となる知識・技術について解説する		
	コンピュータシステム		○	コンピュータとその周辺機器まで含めたコンピュータシステムの仕組みと働きについて、ハード・ソフトの両面から理解する。ハードについては、コンピュータとは何か、何ができるのか、どうやって動くのかを学習する。コンピュータの種類や構成する機械、処理の仕組みなど、コンピュータ・ハードウェアの基礎を学習する。さらにソフトウェアとその種類、ネットワークとの関連についても学習する。 ソフトについては、オペレーティングシステムから見たコンピュータシステムの動作を学習する。オペレーティングシステムの歴史および、オペレーティングシステムの各種機能（「メモリ管理」、「入出力管理」、「ファイル管理」、「ネットワーク管理」、「セキュリティ管理」、「各種言語」等）に關しての学習をする。		
	専門応用分野	生体物性工学・医用材料工学	生体物性工学	○	多くの医療機器では生体情報の計測や治療に際して、各種の物理的エネルギーを生体への作用として利用している。生体物性では生体に物理エネルギーを加えた場合に各種エネルギーに対する生体の組織・器官の特性を理解し、反応の大きさやその生理的な意味を理解する。 医療機器の正確な理解や安全な運用において、特に、生体物性と生理学、生体物性と人体の安全に関係する項目が重要となるので、これらについて科学的に理解することを目的としている。	
			医用材料工学	○	医療機器は多くの素材を利用して構築されている。これらの材料が生体と接触するとき、材料と生体間で生じる様々な事象の検討は、医療の安全に必須の条件であり、確実な知識の習得が望まれる。医用材料工学では人工臓器や医療デバイスに用いられる生体材料の基礎である、医療に用いられる各種材料の種類を理解し、生体適合性、生体由来材料、金属材料、医用材料の安全性評価と安全対策などを理解する。	
			生体物性・材料工学	○	生体物性では生体に物理エネルギーを加えた場合に各種エネルギーに対する生体の組織・器官の特性を理解し、反応の大きさやその生理的な意味を理解する。また、材料工学では人工臓器や医療デバイスに用いられる生体材料の基礎である、人工材料の生体適合性、生体由来材料、金属材料、医用材料の安全性評価と安全対策などを理解する。内容はすでの個別の科目としても講義されているが、本講義ではこれらの知識の総合的な理解を確認するための講義であり、過去の国家試験を始めとして関連学会などで行われた試験問題などに適切に対応できる知識レベルを確認する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床工学専攻科目群	専門応用分野	医用工学②	臨床工学演習Ⅰ	○	(概要) 個別の科目の学習到達度を前提として臨床工学に必要な医療安全等に関連する基礎知識と応用技術を総合的に解説する。臨床工学技士として活動するために必要な知識の確認が主な目的であり、これまでに、これまでに異なる科目として学んだ知識の総合的な理解を確認するための講義であり、過去の国家試験を始めとして関連学会などで行われた試験問題などに適切に対応できる知識レベルを確認する。 (オムニバス方式／全8回) (10 嶋津 秀昭／全4回) 臨床工学技士に必要な生体情報、医療情報の計測と情報処理における関連技術、医療情報システムの現状から見る臨床工学技士の関わりについて学ぶ。 (12 今泉 一哉／全2回) 工学応用の治療技術について学ぶ。 (31 大貫 雅也／全2回) レーザー光学とその臨床応用について及び放射線技術と臨床工学技士について学ぶ。	オムニバス方式
		医用機器学概論	医用機器学概論	○	生体の特性を理解しながら医療機器の原理、特徴、および使用方法の基本的知識を身につける。治療に用いる物理エネルギーの種類や特徴を学び、電磁気治療機器、機械的治療機器、光治療機器、熱治療機器、内視鏡の5つ機器項目から使用頻度の高い医療機器を取り上げ使用における対象や使用目的、効果、副作用、有害作用について理解する。医療機器の歴史や開発に至る背景、治療の発展や展望、在宅医療への応用、医療機器を通して起こり得る事故事例や対処について理解する。	
		医用治療機器学①	医用治療機器学Ⅰ	○	臨床現場で利用されている様々な医療機器中から、治療を目的として運用されている機器のうち、は電磁気治療機器、機械的治療機器、光治療機器、超音波治療機器、内視鏡、熱治療機器の6つの機器項目及び在宅で使用される使用頻度の高い医療機器を取り上げ、医療機器使用の適応となる疾患と機器の関係性を学ぶ。また、使用方法、効果、副作用を理解し、臨床での安全な運用に必要な基本的知識・技術を身につける。	
			医用治療機器学実習	○	治療を目的として運用されている機器には電磁気治療機器、機械的治療機器、光治療機器、超音波治療機器、内視鏡、熱治療機器などがあるが、この実習では医療現場で使用頻度の高い医用治療機器について基本的操作、保守・管理技術を身につけ、安全な運用を行うための基本を学ぶ。また、医療機器安全管理責任者の役割として必要となる医療機器の点検計画の作成や研修資料（マニュアル等）の作成方法を学ぶ。	
		生体計測装置学	生体計測装置学Ⅰ	○	個別の科目の学習到達度を前提として臨床工学に必要な医療安全等に関連する基礎知識と応用技術を総合的に解説する。臨床工学技士として活動するために必要な知識の確認が主な目的であり、これまでに、これまでに異なる科目として学んだ知識の総合的な理解を確認するための講義であり、過去の国家試験を始めとして関連学会などで行われた試験問題などに適切に対応できる知識レベルを確認する。	
			生体計測装置学Ⅱ	○	臨床の場で必要となる生体計測装置の基本として、生体情報の神経・筋系の検査、感覚器系検査の生理機能変化について計測法と評価法、および呼吸器系検査について、生体電気現象の計測技術の工学的な基礎と臨床的な装置との関連性を学ぶ。さらに生体物理情報、生体科学情報の計測技術を基本として学習し、生理機能変化、計測法、評価法、血液ガス、酸塩基平衡の計測原理・検査法の臨床的意義を理解する。	
			生体計測学基礎	○	医療の場で必須となる生体情報の物理・化学現象の計測、循環器系、呼吸器系を中心とした生理機能について、主な計測法と評価法を学ぶ。計測技術の基本となる物理的、科学的な知識も必要となるので、それぞれの基礎科目の内容についても復習を兼ねた講義を行って実習課題を組み立てるので、幅広い内容が理解できる。さらに、計測の原理や実際の運用時に生ずるリスクをまなび、安全な運用法を学習する。	
			生体計測装置学実習	○	生体情報の物理・化学現象の計測、循環器系、呼吸器系を中心とした生理機について、主な計測法と評価法を学ぶ。計測技術の基本となる物理的、科学的な知識も必要となるので、それぞれの基礎科目の内容についても復習を兼ねた講義を行って実習課題を組み立てるので、幅広い内容が理解できる。さらに、それぞれの計測で活用されている科学的な原理や実際の運用時に生ずるリスクをまなび、安全な運用法を学習する。	
			画像診断学	○	診療画像機器の原理、基本構成、特徴を理解できるように講義する。画像診断の対象となる疾患と診断・治療および患者管理に関する能力を養い、これらの診断・治療装置の特徴を理解し、安全管理、保守・点検の方法について説明する。臨床工学技士が直接操作しない装置が多く含まれるが、機器を操作する上で、生体の状態や機能を把握する上で重要であり、医療チームの中で活動する上で必要となる内容を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床工学専攻科目群	専門応用分野	臨床支援技術学	臨床支援技術学	○	臨床工学を臨床現場に活用するために必要となる生体計測の基礎、生体電気計測、生体の物理・化学現象計測などについて臨床との関連性を中心に教示する。基本的な内容は個別の科目で講義されているが、この講義では特に臨床の場で医療と密接に関係する様々な技術について講義し、生体機能代行装置を用いた治療に必要な画像診断法や在宅医療などで用いられる生体機能計測器についてその臨床応用・安全管理について教示する。	
		生体機能代行技術学	生体機能代行装置学概論	○	臨床工学技士の業務で主要な位置づけとされている呼吸・循環・代謝に関わる生体機能代行装置（人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置）およびこれらに関係する疾患を理解し、機器の意義や基本的な原理について学ぶ。この講義では機器の必要性や仕組みの概要についてわかりやすく説明し、これ以降に行われる個別の詳細な講義に対する導入として利用する。また、これらの生命維持管理装置などを把握した上で、チーム医療において果たす臨床工学技士の役割を理解する。	
			生体機能代行装置学Ⅰ	○	代謝に関わる生体機能代行装置（血液浄化装置）を使用するにあたり、関係する疾患の理解とともに機器の基本的な原理と操作方法、保守点検について理解する。また、これらに付属する関連機器及び在宅で使用する医療機器についても同様に理解する。さらに、生体代行機能装置を使用している患者の病態や治療中の身体反応、モニタリング、合併症について学修し、患者の心身への管理や機器の安全管理に関する知識を身につける。	
			生体機能代行装置学Ⅱ	○	呼吸に関わる生体機能代行装置（人工呼吸器、酸素療法、在宅人工呼吸器、高圧酸素療法）の運用に関係する疾患を理解し、機器の原理と操作方法、保守点検について理解する。付属する関連機器と在宅で使用する医療機器についても理解する。生体代行機能装置を使用している患者の病態を適切に把握するためのモニタリングや合併症について学修し、機器の安全な運用と管理に関する知識を身につける。	
			生体機能代行装置学Ⅲ	○	心臓手術などで必須となる人工心肺装置やその運用に関連する様々な医療技術、ECMOをはじめとする各種補助循環装置、人工心臓などについての原理を理解し、それぞれの危機の構造、適応疾患、機器作動中の病態生理、機器操作の実際、トラブル時の対応を理解、安全な運用と管理等についての理解を深める。それぞれの機器がどのように構成され、医療現場で適切な組み立てなどが行われるので、個別の技術や保守管理技術など幅広い内容の講義が行われる。	
			生体機能代行装置学Ⅳ	○	生体代行装置を運用するための実践的な技術を学ぶ。特に、臨床実習に向けて、生体機能代行装置（呼吸療法装置、血液浄化装置、体外循環装置など）に関連する応用的知識の習得、関連スキルの獲得おこない、臨床の場での適応力や問題解決能力の向上を目指す。それぞれの機器がどのように構成され、医療現場で適切な組み立てなどが行われるので、個別の技術や保守管理技術など幅広い内容の講義が行われる。	
			生体機能代行装置学実習Ⅰ	○	代謝に関わる生体機能代行装置（血液浄化装置）の基本的な原理と操作、保守点検を実技により修得する。生命維持管理装置における事故事例を知り、トラブルシューティングについて具体的な安全対策を身につける。実習に当たっては実習室内のベッドやモニターなどを使って、実際の患者管理を理解する。機器使用後、保守管理に使用する工具の取り扱いや機器の清掃、消耗品などの交換を実際に行う。	
			生体機能代行装置学実習Ⅱ	○	呼吸器系に関わる生体機能代行装置（呼吸療法）の基本的な原理と操作、保守点検を実際に行い、基本的な技術を修得する。生命維持管理装置に関する事故事例とトラブルシューティングについて具体的な安全対策を身につける。実習室内のベッドやモニターを使用して患者管理の手法を理解する。機器使用後の保守管理で使用する工具の取り扱いや機器の清掃、消耗品などの交換をおこなう。	
			生体機能代行装置学実習Ⅲ	○	呼吸器系に関わる生体機能代行装置（呼吸療法）の基本的な原理と操作、保守点検を実際に行い、基本的な技術を修得する。生命維持管理装置に関する事故事例とトラブルシューティングについて具体的な安全対策を身につける。実習室内のベッドやモニターを使用して患者管理の手法を理解する。機器使用後の保守管理で使用する工具の取り扱いや機器の清掃、消耗品などの交換をおこなう。	
		医療安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	○	病院設備や医療機器の安全管理に必要な基礎知識として、各種エネルギーと生体反応、病院電気設備の安全基準、医療ガスに関する安全基準、システム安全に関する基礎を学ぶ。また、医療機器安全管理責任者など病院組織における医療技術者の役割や院内感染における基礎知識と制御、医療機器安全にまつわる関係法規について理解する。さらに医療事故分析の手法について教示し、実事例を基にグループワーク、発表形式による演習を実施することにより他者の意見を聞き、自身の意見を発言できるチームを意識した能力を身につける。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床工学専攻科目群	専門応用分野	医療安全管理学	医用機器安全管理学Ⅱ	○	手術症例の高齢化により手術対象患者の高い併存疾患有病率が高まり、基礎疾患や慢性疾患を抱えた患者に対し、適切な対応が求められる。その中で、周術期の環境を整え患者目線で手術前後の経過をフォローするのは看護師や薬剤師、臨床工学技士など複数の職種が連携・協働する「チーム医療」により成り立つ。チームとして機能するためには、各自が「問題を見つけ」、「解決法を探し」、「実現させるための仕組みを提案する」ことである。各職種がその専門性を活かし、リスクの高い手術室の安全を支えていく。 本講では、周術期チームとしての臨床工学技士の役割と安全管理について学ぶ。このことは、清潔な環境を強いるカテーテル室や鏡視下手術室における治療にも適応する内容となる。	
			医療安全管理学 (臨床工学)	○	工学の進歩とその医療への応用が進み、新しい医療機器が開発され、それらは疾病の診断や治療にはなくてはならない存在になっている。一方、医療内容の複雑、高度化、社会構造の変化、国際化等により、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。とくに、社会的に注目されている医療事故に対しては、適切なリスクマネジメントが求められ、病院感染及び新しい感染症(MRSA、HIV、SARS等)に対する認識も変容を迫られている。本講義内容は、医療関係者のみならず社会人として必要な知識で、医療安全の基本概念を理解してもらい、医療安全を求めているこれからの社会の要請に応える。	
			医用機器安全管理学実習	○	医療現場で使用頻度の高い医用治療機器や生命維持管理装置を中心に、保守・管理方法の実技を身につける。 医療機器安全管理責任者の役割として必要となる医療機器の点検計画の作成や研修資料（マニュアル等）の作成方法を身につける。 ICUをモデルとした実習室などを利用し、病院の電気設備や医療ガス配管を含め、機器が安全に使用できる環境の整備やトラブル対応について理解する。	
		医用治療機器学②	医療治療機器学Ⅱ	○	工学技術を利用した多くの医療治療機器の中から、電磁気治療機器、機械的治療機器、光治療機器、超音波治療機器、内視鏡、熱治療機器の6つの機器項目および在宅で使用される使用頻度の高い医療機器を中心にして、それぞれの機器に対する医療機器の動作原理の基礎、導入されている工学技術を理解した上で、保守管理、安全管理、トラブル時の対応、関連医療事故事例等についての理解を深める。	
		臨床医学総論	臨床医学総論Ⅰ	○	医療技術者として接することの多い疾患に関する病態、診断、治療について理解する。 内科学概論、外科学概論を学んだ上で、各種臓器別に疾患を理解し、医学検査、臨床工学の及び治療に必要な臨床医学的基礎知識を身につける。 周術期に関する患者の心身の変化を理解するため術前・後の治療や合併症、フィジカルアセスメントについて理解する。 近年の医学や治療の進歩について学習し、医療人として自らの役割を思考できる力を修得する。	
			臨床医学総論Ⅱ	○	医療技術者として接することの多い疾患に関する病態、診断、治療について理解する。 内科学概論、外科学概論を学んだ上で、各種臓器別に疾患を理解し、医学検査、臨床工学の及び治療に必要な臨床医学的基礎知識を身につける。 周術期に関する患者の心身の変化を理解するため術前・後の治療や合併症、フィジカルアセスメントについて理解する。 近年の医学や治療の進歩について学習し、医療人として自らの役割を思考できる力を修得する。	
			手術・集中治療学	○	臨床工学技士は手術室、集中治療室での業務も重要である。従って、手術医学、麻酔科学、集中治療医学、救急医学についての基礎的知識を身につける必要があり、実際の治療でどのようなことが行われているかを正しく理解することが大切である。この講義では、それぞれに関連する医療機器技術や患者管理の実際、感染管理についても学ぶ。さらに、チーム医療の中でコ・メディカルスタッフが果たす役割についても理解を深める。	
			生理検査学Ⅰ	○	生理検査学とは被験者と直接に接して、生体活動における諸現象を観察し、客観的な医療情報を得る検査である。呼吸・循環・代謝・神経・筋の生理機能等の基礎的知識を学習するとともにどのような検査を行うべきかや臨床生理学的検査の特異性について解説する。生理検査学分野の検査の目的と業務範囲、注意事項、患者の心理を理解した対応、機器の構造と取扱いについて説明する。生理検査の役割と測定意義・安全対策・感染対策について説明する。心電図における波形の意味と名称、心電図の正常波形と異常波形の違いを説明する。また心電図、心音図、脈波の波形とそれらの関係について解説する。	
			生理検査学Ⅱ	○	各種生理機能検査の原理、用いられる機器の有用性と限界を理解すると共に検査施行の手順と意点を学んで得られた検査結果からどのように解析を行っていくかについて解説する。神経・筋系の検査（脳波、筋電図）運動誘発電位検査・生体感覚誘発電位検査、呼吸器系の役割と検査項目、呼吸器系と血液ガスの関係、呼吸機器と酸塩基平衡の関係を教授する。換気機能検査、肺胞機能検査、血液ガス、エネルギー代謝と呼気ガス分析について解説する。	
			技術・知識の到達度評価 (臨床工学)	○	臨床実習を履修するにあたり、実習前技能習得度として「実技試験」および知識習得度を客観的に評価する。また、臨床実習終了後の技能修得度について評価する。この評価に当たっては、既に学習が行われている医療計測技術、治療器器に対する技術、生体機能代行装置機の操作や運用能力が評価されるので、これら全ての内容を正しく理解できているか確認しておくことが重要であり、各科目の実習で作成したノートや資料を整備しておくことが望ましい。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
臨床工学専攻科目群	専門応用分野	臨床実習	臨床実習	○	臨床実習では、医療技術者として備えていなければならない技術、技能を身に付けさせるだけではなく、学内授業では学ぶことのできない実践的な理論、技術を修得させる。臨床工学技師として必須となる基本的・実践的技術を修得し、さらに、医用治療機器の原理、構成、運用、医療機器管理業務など臨床工学部門の役割や運営に関する基礎知識を学ぶ。同時に、患者との接し方、マナーを学習し、医療チームの一員としての責任感と自覚、倫理観を修得する。	
		その他	実用国語		(概要) 国語（日本語）の文章を正しく理解し、自分の考えを伝え、表現することは、言語・情報活用能力の質を高め、社会で通用する高度専門職になるために必要な能力である。本科目では、読解力と文章力・表現力を養うことを主眼とする。（オムニバス方式／全8回） (3 御堂 直樹・2 豊田 英敏／1回)（共同） オリエンテーションを実施し、この授業の概要を知る。類義語・対義語・同音異義語等について、演習問題を通し語彙力を養う。 (2 豊田 英敏／2回) グラフ・資料・箇条書きにまとめる能力を高め、情報活用能力を身につける。同音異義語や同訓異字について、意味を理解しながら適切な表現力を身につける。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／4回) グループディスカッションをまじえた講義で、「書くこと」の基本姿勢を身につける。提出された課題作文について個別に検討し、多角的な視点についての理解を深める。学生によるプレゼンテーションやグループディスカッションを通して「わかりやすい文章構成」についての理解を深める。 (26 宮路 茜／1回) これまでの授業を振り返り、語彙力・読解力・表現力を養う方法についての理解を深める。	オムニバス方式・共同（一部）
			卒業研究		各教員がその専門分野の中から、研究テーマを考え、そのテーマに添って、学習する。それには必要な資料や論文を収集・選別していくが、その作業から、学生自らの興味に合った研究テーマを見出し、それについて、実験、あるいは実習、情報収集、情報分析、調査など、最適な方法で正しい情報。データを得て、自らの見解を引き出していくことを目的とする。この卒業研究を行なうことにより、それまで学習してきた専門知識を統合化し、しかも深い知識と知識を探究するきっかけになると考える。同時に従来の見解に新たな創造力を見出し、将来の社会生活において独自の座標軸を打ち建てる事が出来る。	

授業科目の概要					
（医療保健学部医療保健学科 医療情報学専攻）					
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容
学科共通科目群	いのち・人間		哲学と宗教	○	多くの日本人は自身の生活にとって、宗教は縁遠いものと考えているようである。しかし、人間は「ホモ・サピエンス（英知人）」、「ホモ・レリギオス（宗教人）」と定義されてきた。人間にとって宗教は欠くことのできない要素であり、深く人間存在を知り、世界のありようを知るには、宗教に目を向ける必要がある。また、自らも無意識のうちに立脚している宗教性に目を向ける必要がある。この講義では、世界の諸宗教について、基本的な知識を身につけるとともに、人間の倫理や道徳を支える宗教性にあらためて目を向ける。
			心理学		“こころ”とはなにか、心理学の基本概念に沿って解説しながら、人間の心理を理解するための基礎的な知識を学ぶ。自分自身を振り返り、日常生活でいかに心理学的視点を活かしていくか、講義を通して探っていく。心理学の基本概念を理解し、“こころ”について、さまざまな側面から考える視点を持つことができるようになることを目指し、心理学の全体像を見通して体系立てて学ぶ。講義で取り上げたトピックについて、日常生活で起こりうる思考や現象との関係について考え、理解を深めることを目指す。
			文学		浦島太郎の物語が古代伝承をベースとし、各時代によって変化したことを理解する。日本人にとって、「浦島太郎」の物語は誰もが知っている物語であるが、実はこの物語は中国の神仙思想を基にした不老不死の物語であった。ところがそれが時代とともに、さまざまに変化し、現在の我々が知る、浦島物語に変貌する。この講義は、そもそもとどんな浦島説話がどのようなものであったか、その背景にあった不老不死へのあこがれについて言及し、かつその後の浦島説話がどのように変化して、現代の形になったか、その過程を理解する。この授業を受けることによって、身近な物語の中に人々がどのように生死を考えてきたのか、人間の幸福とは何かを考える力がつく。さらに自分の文章を作成することが出来るようになる。
			生命倫理学		ヒトは肉体を有する存在である。その限りでは、ヒトの身体は「モノ」であると言える。だが、「いのち」とともにある人の身体は、単なる「モノ」として扱われるべきではない。その意味でも、人間のケアが仕事である医療の現場においては、「いのち」ある「人間」という視点に立った「倫理」のあり方に向き合う姿勢が、強く求められることになる。この講義では、パターナリズム、自己決定権、パーソン論、QOLとSOL、人口妊娠中絶、臓器移植の問題など、生命倫理学で扱われる基礎的な議論をひとつお押しさえたうえで、医療の現場で起きた具体的な事例などをとおして、背後にある倫理的課題を様々な角度から、深く抉り出すことをしたい。また、日本人の死生観に独自の「倫理」のあり方についても、随時、触れていきたい。
			医療と人間		（概要）現代の医療の根幹とされている「根拠に基づく医療（EBM）」とは、科学的データに基づいた最良の医療を、医療者の経験に基づいた専門的能力と患者さんの人生観・価値観等を統合して患者さんに提供するものである。そのためには根拠を理解できる能力ばかりでなく、寛容な精神と倫理観が強く求められる。医療への入門として、患者さんを中心とした医療を行うために医療人に求められる倫理観、患者さんの権利、医療制度の現状と課題、感染症と人類の歴史、患者さんからの情報の収集の仕方等いわゆるリベラル・アーツを学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） （基幹教員以外の教員(担当者未定)／全2回） ヒポクラテス流のパターナリズム（親権主義）から、近年は医療者と患者との共同意思決定が重視されるようになった背景を学び、医の倫理について考える。医療安全の取り組みや、本学のミッション・ビジョンと皆さんへの期待について学ぶ。 （1 郡司 俊秋／全1回） 病気になった患者さんだけでなく、ご家族のことも考える医療者を目指す上で、グリーフケアについて学ぶことは有益である。グリーフケアとは何かを学び、医療者ができるグリーフケアにはどのようなことがあるか考える。 （11 石原 照夫／全1回） 人類の感染症との闘いの歴史を概観し、新型コロナウイルス感染症の流行によって露呈した我が国の医療をめぐる問題点を考察する。 （基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回） 医療の歴史、インフォームドコンセント、チーム医療などのキーワードを学ぶことにより、医療提供者と患者の関係や患者の権利について考える。 （基幹教員以外の教員(担当者未定)／全1回） 脳卒中とパーキンソン病についての学習を通じ、体を動かす、感じる、認識する、などの機能の障害について、どのような原因でおこり、どのように調べて診断するかを知る。 （基幹教員以外の教員(担当者未定)／全2回） 地域医療構想や全世代型社会保障改革について学ぶことにより、求められる医療サービスと医療構造の大変化ぶりを認識する。プライマリ・ケアや情報リテラシーから、チーム医療における医療関連職種との役割とデジタル活用について考える。
	社会科学		コミュニケーション概論		現代の高度情報化社会においては、インターネットやマルチメディアを中心とする文化活動が世界規模で営まれているが、個人に対しては、膨大な情報に流されて自己を見失う危険性が指摘されている。そのような現状において、いかに自分自身で論理的に物事を整理し、デマやフェイクニュースに騙されず、どのように他者とコミュニケーションをとればよいのかを考察する。授業では、現代社会における多様な具体的な問題を題材に「ロジカルコミュニケーション」を実践する方法のケース・スタディを行う。「論理的思考法」に加えて「自己表現能力」を高め、各自の個性に応じたユニークなコミュニケーション・スタイルを修得する。とくに実際の医療現場において、さまざまな状況でチーム医療の一員として円滑にコミュニケーションするために有効な手段を身につける。
			経済学		経済学とは、効率性、公平性といった観点から、さまざまな経済現象を分析する学問と考えることができる。具体的には、景気の安定化、雇用の確保といった問題をはじめ、租税、社会保障など私たちの生活に深く関わるさまざまな問題を研究の対象としている。本授業では、そのような経済学の基本的な考え方を身につけると共に、現在のわが国が直面する経済問題を理解し、考え、説明できることを目標とする。

オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間の教育分野	社会科学	社会学		社会について考えることは、私たちの日常生活の成り立ちや隠れた意味を明らかにし、相対化していく刺激的な試みである。この講義では、社会学の基本的な概念、歴史および理論について学ぶことで、社会学的なものの見方を養う。代表的な社会学者の議論や概念についての基本的な知識を身につけること、および身近な世界を社会学的視点から観察・分析できる能力を身につけることを目標とする。	
			法学		この講義では、憲法、民法、刑法についての学びを通して「法」とは一体何か、何の為にあるのかを学修することで、社会生活における法の作用や役割について理解を深める。「裁判員制度」について、その制度趣旨や手続の流れやメリットとデメリットについて理解する。日本国憲法の三大基本原理を学び、基本的人権や統治機構について理解を深める。民法、刑法の基本原理について理解できるようになることを目標にする。	
			歴史		和食のルーツとなる古代日本の食文化と歴史を学ぶ。「和食」の原点として、古代の日本人が何を食べてきたかを奈良・平安時代を中心として学ぶことが到達目標である。旧石器～古墳時代にかけて日本人が何を食べてきたのかを理解し、さらに奈良時代における律令制の成立によって、全国各地から税として食料品が中央に送られていたことが宮都出土の木簡や『延喜式』から判明するので、古代における食品加工法や給食体制、さらに天皇・貴族から庶民に至る食事の内容を明らかにし、奈良・平安時代の食生活を明らかにしたい。またその食事と生活習慣病との関係を考える。そのこの授業を受けることで、豊かな教養を身につけることが出来る。	
			国際関係論		文系学部・学科の国際関係論と違い、本講義では将来の医療職に関係の深い、医療をはじめ介護や年金など社会保障制度全般について、国際的な視野に立つ幅広い基礎的な知識を身につけることに目的を絞る。これに沿って、内外の政治、経済情勢などを踏まえながら、先進国共通の社会保障制度の課題、欧米とわが国との比較、わが国の社会保障制度の現状などについて、最近の具体的な報道事例などを織り交ぜながら概説し、今後のわが国の社会保障制度のあり方を探る。また、エイズ、ハンセン病などの医療をめぐる偏見・差別問題を各国との比較で取り上げる。本講義を最後まで受講すれば、新聞、TVなどでしばしば報道されている社会保障制度に関する用語の意味、政府の考えている改革の方向性、その方向性をめぐる与野党の対立点などがおおよそ理解できるようになる。医療、介護、年金など社会保障制度は細かく分かれているが、個々の制度の断片的な知識ではなく、制度の背後にある考え方、なぜその制度が出来たのかなど、根本に遡って理解を深める。	
			認知科学		認知科学は人間の視覚、聴覚、触覚などの感覚情報から、注意、記憶、学習、思考などの脳機能によって、人間を取り巻く環境や外界を理解する学問である。この過程で、脳や心がどのような働きをしているかをとらえ、人間の「知」と「心」の仕組みを理解する。また、医療現場、日常生活、などでの人間の認知活動についてその特徴や要因を考える。これらの知識を踏まえ、ヒューマンエラーや事故防止の工夫など、医療における認知科学の活用について理解を深める。	
			人間関係論		他人と関係を一切持たずに生きている人はいない。良い人間関係を築くことは、良い生活を送ることにもつながる。本講義では心理学系のクリティカルシンキングの知見から人間関係を成立させる要素、深める要素や分析する方法などを学ぶ。それらを通じて自分が保持している人間関係について客観的に考え、問題が起きた際適切に対処できるようになることが最終的な狙いであり、具体的に次の項目を到達目標とする。 ・他人の行動の原因を特定し判断できるようになる。 ・自分自身について考える方法や知識を身につける。 ・人の認知にはどのようなバイアスがかかりやすいか、偏見や思い込みの修正の難しさなどを知りそれらに気づけるようになる。 ・自分が保持している知識を正しく把握しにくい理由を知り、自分が持っている知識や理解度を分析できるようになる。	
			家族社会学		家族社会学の古典的な学説における家族の定義、概念、構造、機能などを概観し、次にライフサイクルの視点から配偶者選択、結婚、子どもの社会化、親の扶養などの各論について検討する。適宜、現代的なトピックや諸説についても触れる。家族をとらえる基本的な概念を理解することができ、個人と家族、家族と外部の関係、家族を支える社会的ネットワークについて理解しようとし、自ら調べ、意見を述べるができるようになることを目標とする。	
			ジェンダー論		ジェンダーとは、社会的・文化的性差を意味する概念として使われているが、本授業では、ジェンダー概念とその歴史的成立過程について学んでいく。これらをふまえ、世界は激動の変動とグローバル化が進行しており、社会変動に対して、ジェンダーを切り口とする分析手法を学んでいく。本授業での学びをもとに、様々な領域における社会問題について、ジェンダー視点から分析考察することが出来るようになる。とりわけ、今後の社会発展をふまえ、国連決議で示された「持続可能な社会発展」に向けたSDGsが掲げる目標達成への取り組み内容を理解し、その基礎に「ジェンダー平等」が据えられること、そのことが持つ意義を理解することが出来るようになる。	
			比較文化論		日本は世界に先駆けて人口遷移を迎える（近代社会を支えてきた人口構成が新たな形態に移行する）。成長型の人口構成を前提にした従来の保健医療の常識が通用しなくなる未来に、何を備えればよいのだろうか。講義では、文化人類学の視点から、近現代の日本社会が創り出した食・健康・保健・医療の「当たり前」を相対化していく。対象を「文化」として捉えることで、社会の変化を丁寧に見定める能力を養い、変貌する社会に沿いうる保健文化のあり方を考える。自らが寄り添う当たり前をも「文化」として捉える方法を学び、人々の多元的な現実に向き合い関わり続けることを可能とする、自己変容をいとわない柔軟な姿勢と洞察力を身につける。	
		自然科学	基礎生物		近年、「生命科学」といわれている分野の基本的な事柄（DNA遺伝子の働き等）を内容とする。本講義では、高校で「生物基礎」を履修していることを前提として進めるが、履修していない学生にも配慮する予定である。また、専門科目を学ぶ際に参考になる授業にしたい。履修後は、最近話題になっている遺伝子関係の記事等や生物の基本的な内容を理解できるようになることを到達目標としている。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科 共通科目群		自然科学	データサイエンス	○	医療に係る高度専門職には、対象者の現状把握を適切に行い、抱えている問題点を認識し、具体的な各種指導・相談・対策を考えていく力が必要である。対象の状態を正しく把握するために、データ収集し、分析し、また結果公表する力を養うことが重要である。本講義では統計学の基礎的な用語を学びながら、統計的推定・検定の基本的な考え方を学ぶ。また、データ演習を通して、データの扱い方の基礎を学ぶ。基礎的統計用語やデータの種類について、理解し、説明できる。データ演習を通して統計ソフトの使用法と、実務能力を身につける。確率論的なものの見方を理解し、統計学的推計（推定と検定）の原理と方法を説明できる。調査や測定により得られた数値・文字データ特性を考察するための適切な集計方法や統計処理方法を選択できる。検定や統計分析を行う際の具体的な注意点や前提について学ぶ。	
			基礎数学		数学はあらゆる学問の基礎となるもので、どの学科の学生にとっても専門的キャリアを構築していくためには必要不可欠なものである。この授業では、各種資格試験の計算問題に対応するため、また、さらに高度な数学を学修するために、中学校、高等学校時代に学んだ、数学、特に種々の計算に関する知識をもう一度見直すことを主眼としている。四則演算、比率、割合の計算、単位の計算、方程式、不等式の解法、統計計算などに関する基本的なルールを復習し、実際にこれらの問題が素早く、正確に解ける技術を身に付けることを到達目標とする。	
			物理学		医療の現場では、古くから使われる測定機器に加え、MRIや重粒子線治療、3Dプリンタ、VRなど最先端の科学技術を駆使した装置も活用されている。本講義では、専門分野における高度な専門科目を履修するために必要な物理的なものの見方・考え方を習得する。特に、医用機器の仕組みや医用画像処理について理解する上での基礎を身につける。そして、次の項目を目標とする。①身近な自然現象をモデル化し、物理学と関連付けて説明することができる。②物理法則を基盤として、その知識を医療に応用している実例をあげることができる。③対象とする現象を測定する方法を理解し、表やグラフを用いて考察することができる。	
			基礎化学		講義では、一般化学、無機化合物についての基礎知識を理解できるように原子の構造、周期表と元素、化学結合、物質の量、酸・塩基と酸化・還元について解説をする。医学、医療保健を理解するためには化学の知識は必要不可欠である。①原子の構造を理解できる。②化学結合を理解できる。③物質の量を理解できる。④溶液の濃度に関する計算ができるようになる。⑤酸・塩基と酸化・還元を理解できる。以上の修得を目指す。	
			スポーツ科学		科学の進歩により、スポーツは人間の生活をより豊かにするための有益な活動であることが明らかにされている。その中でも、とくに注目すべきなのはスポーツは人間のからだ・心・社会それぞれに作用して生活を豊かにするという点である。しかし、日本国民の約6割は定期的なスポーツ経験を有しておらず、その傾向は20代の男女において特に顕著である。本講義は、スポーツがどのようにして人間の生活を豊かにするかという点について学びを深める。	
			スポーツ実習		科学の進歩により、スポーツは人間の生活をより豊かにするための有益な活動であることが明らかにされている。その中でも、とくに注目すべきなのはスポーツは人間のからだ・心・社会それぞれに作用して生活を豊かにするという点である。しかし、日本国民の約6割は定期的なスポーツ経験を有しておらず、その傾向は20代の男女において特に顕著である。本講義は、スポーツがどのようにして人間の生活を豊かにするかという点について学びを深める。からだ・心・社会の視点からスポーツと人間の生活について考える事によって、スポーツに対する問題意識を持つことができること、ライフスタイルにあったスポーツを実践できることを目指す。	
		外国語	英語購読・記述	○	この授業では、医療に関する身近なトピックの英文を読み、基本的英語読解力と記述力の養成を目的とする。大学一般教養レベル（TOEIC400～500点程度）、もしくはそれ以上の英文を読み、内容把握できるようにする。読解力と記述力を促進するために、基本英単語以外にも専門分野の英単語を学習し、実践的な英語を習得する。専門分野に関連するトピックを扱った英文を読み、基本的英語読解力を養成するだけでなく、医療の専門的知識や語句の理解を深める。また、テキストで学習する文法事項や語彙を使って、作文やリスニングの練習を行い、実践的な英語力を身につける。	
			英会話Ⅰ	○	国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。国際社会で知識を共有するために、これまで以上に英語で他者の考えや意思などを理解し、自らの意見を自分の言葉で他者に伝えることが必要とされる。この授業では、医療のトピックを取り扱い、リスニング・スピーキングを中心とした英語力を身につける。テキストで学習する文法項目や語彙を使ったダイアログ、リスニング・アクティビティーを通して、英語による基礎的コミュニケーション能力の養成を目指す。また、医療のトピックに絡めて英語を使い慣れるようにする。英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の立場や意見を交えて英会話ができるように練習する。	
			英会話Ⅱ	○	国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。この授業では、英語で他者の考えや意思などを理解し、自分自身の意見を他者に伝えることができるようになることを目指す。言語と文化の深い関係を理解し、文化事象の違いによる日本語と英語の発想の違いを、医療のトピックに絡めて英語を使い慣れるようにする。英会話Ⅱでは、英会話Ⅰでの学習内容をさらに深め、聴解力と会話力の養成をする。更に、テキストから学ぶ文法項目を、自分自身の立場や意見を交えて自身の言葉で英会話ができるように練習する。英会話Ⅰよりもレベルを高く設定し、医療の現場で英語を使い慣れるための練習を行う。また、上級英会話に必要な大学一般教養以上の英単語を習得する。	
			英会話Ⅲ		国際語としての英語運用能力は、グローバル社会においては欠くことのできないものである。国際社会で知識を共有するために、これまで以上に英語で他者の考えや意思などを理解し、自らの意見を発信できるようになることが求められる。この授業では、英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分自身の意見を英語で他者に発信できるようになることを目指す。また、日常の英会話だけでなく、自身の専門分野に関連するトピックについて、ライティングやプレゼンテーションができるようになることを目標とする。大学一般教養以上の英単語を習得し、ライティングやプレゼンテーションで使えるようにする。また、授業で扱うトピックについて、英語による情報の正しい理解、内容の要約、リサーチをライティング、プレゼンテーションに応用できるようにする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科共通科目群	いのち・人間の教育分野	外国語	専門英語		この授業は医療関係の様々なトピック・ジャンルの比較的短い英文を精読し、情報を正確に読み取る力を養成する。の中で語彙力・文法力を身につけ、実際に習った事項を使って英語ライティングやスピーキングの練習を行う。1. 専門的な文献が読めるようになりたい。2. 就職試験や大学院入試などの場面で英語が必要。3. 資格試験でよい成績をおさめたい。4. 口語表現をもっと学びたい。5. 基礎的な語彙力を固めたい。このような方が受講にあたって、現在の英語力に依存しない授業内容とする予定である。	
			フランス語		この授業では、フランス語で基本的な表現を用いて、簡単な日常会話ができるように学習する。その他、フランスの地理、習慣、行事を紹介し、異文化を身近に感じてもらう。自己紹介をしたり、家族や知り合いを紹介したりできる。自分の状況や日常生活、動作を相手に説明できる。質問したり、相手の質問に答えたりして、簡単な会話ができる。フランス語圏に関する基本知識を知る。以上の項目の修得を目指す。	
			中国語		この授業では、中国語で頻出の単語やよく出会う表現を使い、日常生活についての実践練習を通じて、その使い方を身につける。発音の基礎から学び始め、中国語で簡単なコミュニケーションが取れるようになることを目指す。また、中国の歴史や文化、最新の中国事情の紹介や解説も取り入れ、中国入門の講座として提供する。ピンインの発音を習得し、簡単な会話ができるようになることを目指す。	
		情報科学	情報リテラシー	○	数理・データサイエンス・AIの理解と活用は、今後のsociety5.0（超スマート社会）の中、日常生活のみならず、医療・保健・看護の場の基礎的素養として、非常に重要である。本科目では、他教科の学習あるいは研究で必要となる、メール送受信、Web情報検索、ワープロソフト及びプレゼンテーションソフトが使用できるように学習する。単にPC演習だけでなく、基本的な概念、情報倫理や安全性についても学習する。・メールの送受信、ワープロソフト及びプレゼンテーションソフトが使えるようになる。・インターネット上の様々な情報を活用する上での情報倫理や安全性について理解できる。・現代社会におけるAI利活用、メリット、デメリットを理解できる。・アプリケーションソフトの利用によりオープンデータを活用できる。以上の項目の修得を目指す。	
			情報科学	○	情報科学を構成する各種情報技術の基礎的な特徴と原理を理解し、更に社会システムとの関係でそれらを捉えることにより、今後の学習に役立つ情報科学的な発想を獲得する。本科目では、Excelを通じて情報技術の基礎を学び、また、Excelの適応分野としてデータ分析を行う。最終的にはデータ収集のための帳票作成からデータの整理・実際の分析・その可視化等に関し学習する。実践に則した課題を解くことにより、総合的に学習する。表計算ソフト（Excel）を利用して収集したデータを多角度から分析活用できるようになり、データの傾向やデータから予測されることを把握し、操作結果を読み取る力を養うことを目指す。	
			情報通信と保健医療		この科目では、知識社会が実現しつつある現代において、データサイエンスを医療・保健に応用することによって、医療・保健サービスがどのように変化していくか展望するとともに、この変化にあたって医療人が知っておくべきデータ活用法やその留意点に関する知識を獲得することを目的とする。次の項目の修得を目指す。①情報通信技術の発展によってこの十数年間で社会がどのように発展してきたか、Society3.0、4.0、5.0の違いを中心に説明できる。②Society5.0の基盤技術であるIoT、ビッグデータ、AIが、どのように社会を支えているか説明できる。③ビッグデータの基本的な概念やその分析・活用の過程を説明できる。④AIの基本的な概念やその活用の過程を説明できる。⑤情報通信技術の発展に伴う諸課題を、「いのち・人間」尊重の観点から考えることができる。⑥情報通信技術の発展に伴い、自らが将来めざす職域がどのように発展していくか考えることができる。	
	医療情報学専攻科目群	入門	体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）	○	疾病の理解には、人体の構造（解剖学）と働き（生理学）の知識が不可欠であるため、それぞれの機能を整理しながら学習する。特に、生命維持に関わる消化・吸収系、代謝系、血液循環系、呼吸系、循環系、泌尿器系（腎臓）の働きを重点的に学ぶ。これらは、単に知識を覚えるのではなく、効率的に短時間で理解することが重視され、各システムの役割と相互作用についての基礎的な理解を深めることを目指す。	
			体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系）	○	疾病理解の基礎には、人体の構造を扱う解剖学と、各機能の働きを理解する生理学の知識が欠かせない。これらを機能別に整理し、学習を進める。具体的には、生命維持に不可欠な植物機能、つまり消化・吸収系、代謝系、血液循環系、呼吸系、循環系、泌尿器系（腎臓）について学び、それぞれの役割や相互作用を把握する。ここでは、単に専門知識を暗記することではなく、人体機能の仕組みを効率的かつ短時間で理解することが重視される。このアプローチにより、実践的な基礎知識が身につき、疾病の診断や治療への理解が深まる。	
			公衆衛生学		公衆衛生は、医療情報と強い繋がりがあり、医療情報技術者にとって公衆衛生学の知識は重要である。本講義では公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について医療情報技術者の立場で授業する。授業内容にはわが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など環境衛生の知識も含む。また、医療情報と密接な関係がある疫学統計方法について重点的に学ぶ。	
			栄養学総論 （基礎栄養学）		栄養とは生物が活動、成長、増殖のために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象である。したがって、栄養学総論では栄養素の摂取、消化、吸収、代謝、排泄および防御機構等、幅広い分野について学習することになる。講義では、栄養学の定義である「人体と食物の相互作用を明らかにする学問」について解説し、現在の日本の疾病の状況、食生活の実態の概略を講義の導入として報告する。次に、栄養の歴史、栄養状態の判定、空腹と食欲について学ぶ。これらの知識をもとに栄養素である糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンについてその栄養学的機能、消化・吸収、所要量、必要量、欠乏症等について講義する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
医療情報学専攻科目群		入門	医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	○	保健医療サービスは人の生命や生活に大きくかかわるものであり、そこに一定の品質が求められることは言うまでもない。この品質には様々な考え方があがるが、生命にかかわる以上、少なくとも「安全」が重視されることは当然であり、対象者にとっては「安心」や「安楽」も大切な要素といえる。それでは「安全」とは何を指すのであろうか。そもそも医療には不確実が伴う。事故が起こる可能性の極小化を優先するのであれば、手術も投薬、あるいは検査すら行えないことになる。よって保健医療サービスは一定のリスクを許容しながら提供するものであり、どのようなリスクが存在し、それらのリスクをどう回避、低減、移転あるいは受容するのか整理することが重要でる。これらの基本的概念を学び、対応にあたって情報技術がどのように貢献できるのか講義する。	
			応用生物		医療従事者が身につける専門的知識および技術は人体を対象としており、その人体は生物学的な特徴の元に成り立っている。したがって、医療を学んでいくうえで必要最低限の生物学的知識を身につける必要がある。本科目では、生物の構成単位である細胞に関する内容について、次のテーマを学ぶ。 ・細胞の構造と細胞を構成する物質について ・細胞内におけるエネルギーの産生など、細胞内の化学反応（代謝）について ・人体の構成要素である細胞の増殖と死、組織・器官について	
			応用化学		講義では、炭化水素の種類と命名法、官能基とその性質、異性体と立体化学、有機物の酸化・還元反応、糖質、脂質、たんぱく質、核酸、ビタミンについて解説する。そして、次の項目の修得を目標とする。①有機化合物の命名ができるようになる。②化学構造式から物質の性質を推定することができるようになる。③立体異性体の働きが理解できる。④糖質・脂質・アミノ酸の種類とたんぱく質の構造がわかる。⑤核酸・ビタミンの種類と性質が理解できる。	
			キャリア教育Ⅰ	○	(概要) 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を学習するために、入学時から将来の職業選択に関わって職業観の形成や生き方そのものについて、計画的に考えていくことを基本とし、幅広い職業意識の形成等を図ることである。学生時代を有意義に過ごすための基本的な考え方や知識を得るとともに、社会で長期的に成長するための素地となる能力を身に付ける。また、これらの応用として、グループディスカッションを通じて人の話を聞き、自己の意見を述べ、議論する能力を養えるようにする。(オムニバス方式／全8回) (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 基本的な読解力、書く力の向上を図るためのトレーニングを行い、小テストで学びの定着につなげる。 (基幹教員以外の教員(担当者未定)／2回) 基本的な計算力の向上を図るためのトレーニングを行い、小テストで学びの定着につなげる。 (13 瀬戸 僚馬・28 杉田 純一・29 岩上 優美・32 安枝 和哉・33 楠田 佳緒／3回) (共同) 自身所属の専攻にて到達目標である医療の現場における高度専門職の理解を深め、その職になるにあたり必要な知識・技術・態度を考える。 (6 加藤 隆幸・16 酒井 理恵・18 細田 明美・26 宮路 茜・7 三村 邦裕・27 藤本 友香・10 嶋津 秀明・12 今泉 一哉・13 瀬戸 僚馬・28 杉田 純一・29 岩上 優美・32 安枝 和哉・33 楠田 佳緒・基幹教員以外の教員(担当者未定)／1回) (共同) ~~看護学科及び医療保健学科の2学科合同での授業にて、お互いの高度専門職の専門性を知~~	オムニバス方式・共同 (一部)
		発展	医学・医療概論	○	~~看護学科及び医療保健学科の2学科合同での授業にて、お互いの高度専門職の専門性を知~~ 多職種が協働する医療現場において、円滑に協働作業に参加できる基礎知識を身につける。まず、医学が自然科学としてどのような学問であるかを理解し、医学と医療の違いを明確にする。また、医療の専門分化がもたらす利点と課題に触れ、医学や医療の発展過程や倫理的側面も学習する。さらに、医療制度や社会保障制度の基本的な仕組みを理解し、健康問題に対する国の施策や政策についても概説する。これらの知識を通して、医療現場での役割意識を深め、他職種と連携しながら活動するための基盤を築く。	
			臨床薬理学 (薬理学)		薬がどのようにして効果を発揮するのか、また特定の薬が特定の疾病に対して効果的である理由を理解するための学習を行う。これにより、疾病のメカニズムや原因を把握し、治療への理解を深める。生活習慣病など一般的な疾患について、診断方法や病因（原因）を学び、適切な治療方法の知識も習得する。これらの学びを通して、薬の作用機序や治療における役割を理解し、臨床薬理学の基本的な教養を身につけ、電子カルテシステムなどの情報実務における判断力と応用力を高める。	
			医療マネジメント論		本授業では、医療サービスを支える組織運営という視点から経営組織に必要なマネジメントについて学ぶ。マネジメントとは、経営組織が保有する様々な資源を管理し、経営上の効果を最適化するための概念や仕組みを指し、仕事経験の少ない大学生が経営組織のマネジメントをイメージすることは難しい。しかし、経営組織とは個人が集まって活動しているため、個人活動と共通する部分がある。またコラボレーションを簡単に言い表すと、「幅広い知識と教養を身に付けるとともに、社会人としての基礎になる力を養うこと」となる。すなわち、組織人として働くだけではなく、より良い社会人になって欲しいという願いがこめられてる。この点を踏まえ、我々の身近な活動と対比させながら、マネジメントが私たちの身近なものであり役に立つ考え方であるという認識をもてるように学修する。	
			キャリア教育Ⅱ	○	医療情報学科で培った専門知識を活かせる職業について理解を深め、将来の進路を見据えた職業観やキャリア形成の基盤を築く。具体的には、専門職や研究職、アントレプレナー（起業家）としてのキャリア形成を自身で行うための理論と技法を学び、実際の職業生活に必要な知識を習得する。これにより、卒業後には自らのスキルを高め、職業人としての自立を目指すための能力を身につける。最終的には、医療情報学を活かして社会に貢献できる人材として成長することを目指す。	
			キャリア教育Ⅲ	○	キャリア教育ⅠおよびⅡで学んだ内容をさらに発展させ、医療系企業や医療機関が新入社員に求める期待や要望を理解し、自分自身の適性やスキルを客観的に分析する。これに基づき、企業や医療機関のニーズと自分の特性を総合的に判断し、具体的なキャリア計画を作成する。さらに、このキャリア計画や自己分析の結果をもとに、面接やプレゼンテーションの場での自己表現に関する演習を行い、適切に自分をアピールする力を養う。こうして、社会人としての基礎力を高め、将来のキャリア形成に役立てりる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
医療情報学専攻科目群	医療の コラボレーション 教育分野	実践	協働実践演習	○	これからの医療は患者を中心として、医療従事者である、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士等その他多くの職種が協調して、その疾患の治療にあたるが必要となってくる。このことを念頭において、看護学科、医療保健学科の学生が、生活習慣病(糖尿病等)や褥瘡を題材に、それぞれの専門の立場から、その治療やその患者に関わる問題について意見交換し、実際の臨床での各自の役割を認識する。また、この演習を行うことによって、さまざまな専門科目の内容を総合的に理解し、かつ深く理解することをねらいとする。	
			ボランティア論		現代の日本においてボランティアはどのような意義があるのかをとらえ直し、共生社会や医療保健の推進におけるボランティアの諸相、活動の実態、意義、課題などについて多角的に考察する。ボランティアに対する理解を深め、その多様性を知る契機としたい。ボランティアの背景、現状、課題など「ボランティアを学ぶ」と同時に多様な事例によって「ボランティアで学ぶ」ボランティア論として、市民社会の担い手としてのボランティアを理解し、共に自己実現を図ることを理解することを目指す。	
			ボランティア活動		学科横断的な混成チームを編成し、いくつかのテーマごとでさらにグループに分かれる。各グループは、どんなボランティア活動を行うか、討議を行うことで決定して、積極的にボランティア活動に参加する。自分たち独自でも良いし、同じテーマの実際のボランティア活動に参加するものでもよい。ボランティア活動を実践することで、「援助し、援助される関係」の体験を通じて、ボランティア活動の意義を理解することを到達目標とする。	
	専門職の 教育分野	医療情報	医療情報システム開発論		この科目では、どのようにシステムやソフトウェアの構築を進めるべきであるかを学ぶ。特に、効率的なソフトウェアの構築方法についてを中心とし、ソフトウェア工学の観点から学ぶ。また、システムに組み込むためのソフトウェアを構築するには、システム開発全般に対する理解が必須である。この科目では、SLCP に基づいたシステム開発手法や、近年活用されているアジャイルソフトウェア開発についても学ぶ。また、ユーザの要求仕様のまとめ方、業務のモデル化技法、ドキュメントとレビュー技法、テスト技法などの基礎技術に関して講義する。	
			医療情報基礎演習A	○	医療情報基礎演習Aは、コンピュータネットワークとデータベースの二つのテーマに関するワークショップ形式の授業である。毎回特定のテーマで演習等の課題が示され、課題解決を目指す。 【ネットワーク】 コンピュータネットワークの運用・構築の基本となる、TCP/IP階層モデルのネットワークインタフェース層とインターネット層に関する演習を行う。Cisco Packet Tracerというネットワークシミュレーションソフトウェアを使用して、ソフトウェア上でネットワークの構築を行う。 【データベース】 患者管理、病名管理、医師管理、診療予約のためのデータベースの設計および開発を通して、関係データベースの基礎・基本を学習する。データベース基礎で学んだ基礎知識を活用して、Microsoft Accessを用いて自らデータベースを作れるようになることを到達目標とする。	
			医療情報基礎演習B		患者管理、病名管理、医師管理、診療予約等に用いるための情報システム構築あるいは運用に伴う基礎的な知識と技術を実験により修得する。主として、情報システムの基盤となっているOSおよびそれに関する諸技術を理解し、Webサーバ等の構築方法を身に付ける。対象OSは、一般企業で多く使用されているWindows Server OSとLinux (Ubuntu) OSとする。 ○ 到達目標 A) Windows Server OSの導入や各サービスの設定ができるようになること。 B) Linux (Ubuntu) 0 OSの導入や各サービスの設定ができるようになること。	
			医療情報応用演習		本科目では、これらの技術と理論を駆使し、実際にデータベース連携型ウェブアプリケーション開発に取り組む。これにより、一つのアプリケーションを完成させるための包括的技術の会得を目指す。なおアプリケーション開発は自主開発であるから、受講者には目的とするアプリケーションをより良いものとするために、積極的に工夫されることを求める。本科目では、医療情報システムを広くとらえ、人々の生活やその支援業務を支援するためのシステムを、学生の自主性に基づき考案することを目指すている。	
			診療情報論Ⅰ		診療(記)録は、医療従事者が患者をどのように理解し、どのような介入を行ったかを記録したものであり、医療従事者の思考過程を文字という形式で具体化するものである。そのため、診療(記)録は医療の意思決定や判断の流れを最も端的に示す重要な媒体と言える。本科目では、診療の体験や診療(記)録への記載を通じて、実際に診療情報が生成されるプロセスを学ぶ。さらに、診療内容を要約するサマリー作成などの実践を通じて、診療情報の統合的な理解を深め、適切な記録方法や情報整理のスキルを身につけることを目指す。	
			診療情報論Ⅱ		医療情報学科の学生として必ず習得が期待される医療情報システムについて、講義および実践的な演習を通じて学ぶ。教育用の電子カルテを実際に操作し、電子カルテやオーダエントリシステムの基本的な機能や使い方を体験する。また、これに付随する検査、薬剤、画像診断など各部門システムの概要についても理解を深め、医療現場での情報管理の流れを把握する。さらに、電子的に保存される診療記録の構造や機能の意義、医療情報の正確な管理とその重要性について学習し、実務での応用に役立つ基礎的な知識を身につける。	
			疾病分類演習Ⅰ		疾病や手術分類は診療情報管理士の専門的業務の一環であり、その精度が医療データの管理や統計に大きく影響する。本講義では、国際疾病分類 (ICD-10) の概念、種類、目的について学び、診療録に記載された情報に基づき、規定のルールに従って適切な分類コードを付与する技法を習得する。また、ICD-10の特徴や使用方法を理解し、腫瘍に特化した分類 (ICD-OやMコード) に関する理論や知識を深める。これにより、複雑な分類システムの理解を通して、精度の高いデータ処理ができる能力を養う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
医療情報学専攻科目群	専門職の教育分野	医療情報	疾病分類演習Ⅱ		臨床医学各論で学んだことを基礎にして、国際疾病分類（ICD-10）の仕組みを理解し、使用に際しての各章の特徴や留意事項を理解し、各章ごとのコーディングの技術を習得し、活用能力の向上を目指す。また、腫瘍の分類（ICD-0、Mコード）や手術および処置の医療行為の抽出、その他の主要病態・原死因のコーディングのコーディング演習も同時に実施し、より正確なコーディングの技術を取得する。更に、退院時要約、死亡診断書からの情報を用いた演習も行ない、傷病名についての応用的なコーディング能力を向上させる。	
			医療情報学概論	○	本講義では、医療情報学を学ぶために必要な基礎的な知識と素養を養成する。多様な視点から医療情報学の意義とその社会的価値を学び、医療の現場でデータを活用し、情報技術を通じて社会に貢献できるスキルを身につけることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （基幹教員以外の教員(担当者未定)／全7回） 医療情報の基本的な概念とその標準化の重要性、診療プロセスにおける意思決定支援や、患者と医療者の関係性を含む支援のあり方に焦点を当てている。また、AI技術の活用による臨床情報の処理や、医療現場における倫理、プライバシー、個人情報保護も取り上げ、情報技術がもたらす医療の可能性と課題について理解を深める。 （基幹教員以外の教員(担当者未定)／全8回） 医療情報システムの構成や機能、情報管理と法制度についての理解を深める。また、医療機関での経営的な視点を踏まえた情報管理のあり方や、意思決定支援システムの活用もテーマに含まれる。さらに、日本の医療制度内での情報システムの役割や、地域医療連携システム、パーソナル・ヘルス・レコード（PHR）の重要性についても触れ、情報技術が地域医療やデータの連携に果たす役割について学ぶ。	
			医療情報システム論		医療情報は医療施設内での活用に加えて、地域医療連携、医学研究、医療政策立案などへの利活用も期待されており、医療情報システムの重要性が高まっている。一方、医療情報システムでは診療情報などの要配慮個人情報扱うため、厳格なシステム運用とセキュリティ管理が求められる。本科目ではこのような特性を持つ医療情報システムの企画・開発・運用に必要となる情報システム技術を習得する。	
			生体情報演習	○	医学・医療に欠かせない体温、血圧、心電図、筋電図、脳波といった生体情報について、信号が発生するメカニズムや計測の原理、そしてそれぞれが示す生理学的意義を学ぶ。講義では、これらの情報を基にした計測実験やデータ解析を通じ、各生体情報の正確な収集と解釈を実践する。また、新たな医療情報の活用方法についても考察し、理論だけでなく、実際にデータを収集し解析することで、生体信号の性質と医療現場での応用可能性を深く理解し、応用力を養う。	
			ワークショップC （人間科学）		本講義ではヒトの視覚・聴覚とコンピュータの関係を体験的に学ぶ。具体的には2つのテーマに関する基礎技術を学習し、自由制作課題を通して、モノづくりを体験をする。 (1)3D CAD（Computer Aided Design）・3Dプリンタによる自助具等製作 3Dモデルをデザインするための3D CADソフトウェアを用いて、3Dモデルを作成する。作成した3Dデータを3Dプリンタで印刷する。グループでディスカッションを行い、身体が不自由な人の生活を助ける自助具や日常生活での不便を解消するような制作物を作成する。 (2)人間行動への影響を踏まえた音メディア処理 音の物理的・心理的な特徴について解説を行った後、音声分析ソフトを用いて様々な音の分析を行う。後半はいくつかのテーマの中から1つを選びグループワークを行う。	
			ワークショップD （ヘルスプロモーション）		健康寿命を延伸するためには、住民一人ひとりが積極的に健康づくりに取り組むことが重要である。政府が進める「医療DX」においても将来的には住民が健康情報を自己管理するとともに、その情報を活用して健康に望ましいライフスタイルを確立していくことが重視されている。その一方、2020年代に流行した新型コロナウイルス感染症への対応で見られたように、偏った情報源に基づき、望ましくない生活行動に走る住民が一定程度いることも事実である。こうした背景の中で、健康に関わる住民の生活行動を理解しつつ、情報技術の専門職として貢献できることを模索し、実践していくことが本科目のねらいである。	
			医用画像処理工学		X線透過画像などの医用画像は診断に欠かせない存在であり、画像処理技術により画像に含まれる情報を有効活用することができる。本講義では、医用画像の性質およびその処理方法について学習する。また、講義中の演習を通して理解を深める。近年、VR(Virtual Reality：仮想現実)、AR(Augmented Reality：拡張現実)、3Dプリンタなどの普及により、医療現場における医用画像の活用の幅が広がりつつある。また、深層学習の台頭により、画像処理の精度が飛躍的に向上している。これらの技術についても概観する。	
			基礎ゼミⅠ	○	大学では、授業や自学自習によって得られた知識をもとに、自らの考えや意見を正しく表現し、他者に伝えられる能力が必要となる。そのためには、問題意識を持って物事を観察し、その解決のために必要な情報を探索し、整理・分析・理解・活用することが重要となる。そこで、この授業では、文章表現の基礎を習得し、客観的視点を持って自らの考えを論述できるようになることを目指す。そして、医療やITに関係する雑誌記事やビデオをもとに、情報を整理しまとめる力、まとめた内容をレポートとして記述する能力を養う。文章表現法やレポートの書き方を理解し、大学生活のみならず、社会においても通用する基礎的な文章力を身につけることを到達目標とする。また、グループワークによって他者の考えを理解しコミュニケーション能力を向上させることも目標である。	
			基礎ゼミⅡ	○	医療・福祉・健康分野への興味を深めることを主観点として、産業界との連携により企業活動の現場を知ることを通じて、社会的・職業的自立に向け、必要な知識、技能、態度をはぐくむことを目標とする演習科目である。同時に大学生としてのレポートの書き方についても学習する。 医療系企業の実務者による講義と、討論による意見の多様性の理解、文章によるまとめなどを行う。講義8回と、それに対応する少人数単位の実践4回、およびキャリアアセスメントで構成する。	
			応用ゼミⅠ	○	2年次までに習得したヘルスケア、情報科学、コンピュータ科学、そしてそれらを統合した医療情報学の基礎知識を土台とし、自らの進路に沿った専門分野の知識や技術を深めていく。具体的には、卒業までに目指す専門性を明確化するために、複数のゼミに短期間所属し、各分野の実践的な活動や課題に触れながら、実際の研究テーマや方向性を探る。この経験を通じて、自らの興味や適性に合った進路を明確にし、今後の学習やキャリア形成に役立つ指針を得ることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
医療情報学専攻科目群	医療情報		応用ゼミⅡ	○	各ゼミに所属し、それぞれの研究課題に取り組むために必要な基礎知識を学ぶ。具体的には、文献抄読の技法、社会調査法、システム開発プロセスなど、研究遂行に不可欠なスキルを補い、課題の明確化を図る。さらに、ゼミ指導教員の職種や経験、学問的背景が異なることを活かし、報告会で他ゼミの学生と意見交換を行うことで、多様な視点や方法論に触れ、研究におけるアプローチの幅を広げる。これにより、各分野の理解を深め、課題解決に向けた柔軟な思考力を養う。	
			応用ゼミⅢ	○	各ゼミに所属し、まず自分の問題意識に基づいて研究課題を設定し、その解決方法を科学的なアプローチで検討する。この過程で、ゼミごとの方針や専門分野に応じて、システム開発や社会調査といった異なる方法論が用意されているため、研究の目的に応じた最適な方法論を選択することも重要な学習要素とする。こうした学びを通して、自らの課題設定能力と適切な解決策を選ぶ力を養い、実践的な研究スキルを習得することを目指す。	
			卒業研究	○	3年次までに履修した医療・健康・福祉の専門領域から興味のあるテーマを研究課題として選び、卒業研究指導教員の指導のもと、研究企画を立てる。さらに、自ら調査や実験を行い、その結果を考察して、最終的に論文としてまとめるという一連の研究手順を実践する。この過程を通して、選択した課題に関する専門的な知識を深めるとともに、研究の実施方法やデータの分析、論理的な考察力を養う。これにより、実践的な研究スキルと専門領域への理解を高め、卒業研究の成果としてまとめる。	
	専門職の教育分野	ヘルスケア	臨床医学総論	○	本講義では、多職種が協働する医療現場で有効に活動できるよう、臨床医学の概要を学習する。具体的には、病気の原因や病気によって生じる生体の変化、病気の診断方法や検査所見の解釈、治療方針の立て方など、臨床医学の基本的な流れを理解する。また、先天性疾患、損傷、中毒などの外因による疾患や病態についても取り上げ、幅広い疾患の基礎知識を身につける。これにより、多様な職種と連携しながら医療チームの一員として適切な役割を果たせる力を養い、実践的な知識を深める。	
			臨床医学各論A		この授業では、診療情報管理士テキスト「診療情報管理I」の第4章および第5章を中心に学ぶ。感染症に関する総論と各論、新生物（腫瘍）に関する総論と各論について、体系的に理解を深める。また、この科目は、がん登録など診療情報管理関連の他の科目にも接続しており、診療情報管理士として必要な知識を統合的に習得することを目指している。感染症や新生物の概念を基礎から学ぶことで、診療情報管理業務における正確なデータ記録や管理に貢献できる力を養う。	
			臨床医学各論B		この授業では、診療情報管理士テキスト「診療情報管理I」の第6章と第8章を中心に解説し、血液・代謝・内分泌系疾患および循環器・呼吸器系疾患についての総論と各論を学ぶ。特に糖尿病などの生活習慣病は、パーソナルヘルスレコード（PHR）などの医療情報の実務においても重要な知識であり、これらの病態の理解は不可欠である。さらに、各疾患に関する詳細な知識を深めることで、診療情報管理士として必要な記録や情報管理の技能を強化し、他の関連科目にも応用できる実践的な知識を習得することを目指す。	
			臨床医学各論C		この授業では、診療情報管理士に必要な基礎的な医学知識を習得することを目指し、消化器系、腎尿路生殖器官系、および産褥期・周産期疾患の総論と各論を学ぶ。消化器疾患は患者数が多く、臨床医学各論Bで学ぶ循環器や呼吸器疾患と並び、重要な学習内容となっている。こうした疾患に関する理解を深めることで、今後の病院実習や協働実践演習に役立てるとともに、これらの場面で必要とされる知識を確実に身につけることを目指している。診療情報管理士としての実践力を高めるための基礎を築く授業である。	
			臨床医学各論D		この授業では、診療情報管理士に必要な基礎的な医学知識の習得を目指し、精神・脳神経・感覚器・皮膚・筋骨格系の疾患について総論と各論を学ぶ。特に感覚器疾患は、マン・マシン・インターフェースの理解に必要な基礎知識にもなり、その点も学びの一つの目標だ。各疾患の特徴や診療情報に関する知識を深めることで、診療情報管理士としての実践的なスキルを高めるとともに、データ管理や医療機器の活用にも役立つ幅広い医学知識を身につけることを目指す。	
			診療プロセス論A	○	保健・医療・福祉サービスは、人のライフコースごとに発生する健康問題に対して、一定の関連性を持って提供されるものである。医療情報の専門家としては、こうしたライフコースを理解した上で、サービスを提供する多様な職種の業務プロセスと、その業務に必要な情報の概要を理解していることが重要である。本科目では、画像を用いた診療および医療機器を用いた治療のプロセスとして、その背景となる医学的根拠やそこで用いられる医療機器について学習する。	
			診療プロセス論B		保健・医療・福祉サービスは、人のライフステージごとに発生する健康問題に対して、一定の関連性を持って提供されるものである。医療情報の専門家としては、こうしたライフステージを理解した上で、サービスを提供する多様な職種の業務プロセスと、その業務に必要な情報の概要を理解していることが重要である。本科目では、疾患を予防および早期発見するためのサービス、疾患または加齢によって損なわれた機能を回復するためのリハビリテーションや生活機能を支援するためのサービスなど、急性期医療の前後に生じる総合的な健康支援に重点を置いて概説する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
医療情報学専攻科目群		ヘルスケア	医療制度論	○	医療の成立における社会資源の必要性を理解し、医療関連職種の人的資源、医療施設や設備、機器、薬剤、医療資材などの物的資源、医療の経済基盤である医療保険制度を中心とした財的資源、そして情報資源を具体的に理解することを目標とする。また、診療情報管理と診療情報管理士とのかかわり、診療情報管理士とはどのような職業なのか、医療機関の中で何を担っていくのかを、診療情報管理士の視点で考える習慣をつけることが大切なことを理解する。	
			病院管理概論	○	医療管理総論を基礎として、病院管理・診療情報管理に求められる姿を理解し、さらに医療サービスの提供に関連する組織、運営の実態を理解することによって、病院経営に必要な診療情報の活用に関する考察を深めることを目的とする。また、医療の質と保証の概要、医療の質の評価における歴史や実際の評価方法及びDRG・DPCなど診断群分類を含めたケースミックス区分法について学習する。なお、これらを十分に機能させるためには、診療情報から正確でしかも有用な医療統計や疾病統計を作成する必要があることを理解する。	
			診療情報管理論		診療情報管理の意義や役割、診療情報管理士が把握しておくことが望ましい法令や諸規則の基本事項、診療情報管理士の業務、DPC・医師事務作業補助者・がん登録の実務の概要について学修する。他の科目で学修した医療制度に関する知識をもとに授業を進め、臨床データ分析などの応用科目に接続する。診療情報管理士以外の進路を目指す学生においても、診療情報の流れを把握し、それぞれの専門性に活かすことを目指す。	
			インターンシップ		インターンシップでは、病院やヘルスケア産業の現場でヘルスデータがどのように生成され、活用されるかを直接体験することで、医療情報の種類やその役割、適切な取り扱い方法についての理解を深める。また、現場での専門職の役割や業務内容を学ぶことで、大学で学んだ理論を実際の医療現場で確認し、知識をより確かなものにする。さらに、実務を通じて医療現場で求められる専門職としての倫理観や責任感を養い、今後のキャリアに必要な実践的なスキルや価値観を身につけることを目指す。	
		専門職の教育分野	コンピュータシステム	○	本講義では、コンピュータシステムの理解を深めることを目的としている。コンピュータと聞くとパーソナルコンピュータを思い浮かべる方が多いかもしれないが、実際には家電やスマートフォンなど、私たちの日常生活の中に数多く存在している。例えば、冷蔵庫や洗濯機、自動車のシステムにもコンピュータが組み込まれており、これらは生活の利便性を高める重要な役割を担っている。本講義では、さまざまな種類のコンピュータについて学ぶとともに、その内部構成や処理の流れについても基礎から解説する。このような基礎知識を習得することにより、今後のコンピュータ活用の土台を築き、効率的に活用できるようになることを目指す。	
			ワークショップA (マンマシンインターフェース)	○	情報技術分野の基本となるプログラミングおよびハードウェアの構造と機能について、今後の専門学習の準備となる基礎的な学習を演習を通して学修する。 演習は以下の4つのテーマで構成する。 ・mBlock mBlockプログラミングを通してプログラミングの基礎を学ぶ。 ・mBot 車型ロボットであるmBotを用いてハードウェア扱いや動作を学ぶ。 ・MESH 小型のIoTデバイスであるMESHを用いて、無線通信によるハードウェア制御を学ぶ。 自由制作課題を通して情報系モノづくりの基礎を学ぶ。 ・PC演習 コンピュータを構成する部品や装置についての講義を行う。 デスクトップPCのパーツ交換を行い、性能の変化について測定する。その結果をレポートにまとめる。	
			ワークショップB (Web構築)		www (World Wide Web) の発達とインターネット接続可能な環境の普及により、今日ではWeb上から情報を入手することが増えてきている。また、ネットワーク回線の高速化やコンピュータの高性能化により静的なページのみでなく、インタラクティブなプログラムも普及している。 本講義では、2部構成で前半は静的なWebサイトの作成を設定したテーマについてHTML5によるWebサイトを制作する。後半はプログラミングの基礎的な技術を学習して、演習課題を通してインタラクティブなプログラムの制作を行う。	
			プログラミング演習Ⅰ	○	ITやデータサイエンスの分野で活躍するためには、プログラミングの基礎を理解することが欠かせない。プログラミングの知識は、データの処理や分析、システム開発など、幅広い応用が可能であり、基盤となるスキルの一つである。本科目では、C#というプログラミング言語を用いた実践的な演習を通じて、プログラミングの基本的な概念やテクニックの習得を目指す。また、本科目は高等学校の「情報」などで得たプログラミングの基本知識を前提としており、その内容を復習しつつ、さらに理解を深めることができるように設計されている。初心者にも分かりやすく段階的に学べる内容であり、実践を通じて応用力も養成することを目標としている。	
			プログラミング演習Ⅱ		医療情報システムにおいて使用される主要なプログラミング言語の多くには、オブジェクト指向の概念が組み込まれている。オブジェクト指向は、データや機能を「オブジェクト」という単位で整理し、複雑なシステムを構築する際に役立つ方法論である。そのため、医療情報の分野でプログラミング技術を身につける際には、オブジェクト指向の考え方をしっかりと理解することが重要といえる。本科目では、プログラミング言語C#を使って実際の演習を通じ、オブジェクト指向プログラミングの基礎的な概念と技法を学ぶ。具体的には、クラスやインスタンス、継承、ポリモーフィズムといった基本概念を習得し、それらを活用したプログラムの構築方法を体験的に理解する。これにより、医療情報システムの開発や保守に必要な応用力を高めることを目指す。	
		情報科学				
			情報セキュリティ		本科目の目的は、病院等の医療・福祉施設にランサム攻撃が続いていることを踏まえて、情報セキュリティの意味を理解し、組織における情報セキュリティ対策を策定・定着させるノウハウを習得することにある。 近年インターネットの発達とともに生活の利便性が向上したが、サイバー攻撃は増加の一途をたどり、情報の流出も後を絶たない。この様な事故を防ぐため、本講義を通して、情報資産の安全性を確保するための情報セキュリティ対策の策定法とそれを維持管理する方策を理解する。授業の方法は、テキスト及び補足資料をもちいた講義により基本知識を学び、全員参加によるディスカッションで応用力を養成する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
医療情報学専攻科目群	専門職の教育分野	情報科学	情報数学		本講義では、プログラミングを学ぶ際に欠かせない「数学的な考え方」を自然に習得できるよう、分かりやすく教授する。特に、以下の3つのテーマに重点を置く。まず、①条件分枝と論理により、プログラムの分岐処理と論理構造の理解を深め。次に、②繰り返し構造を学び、数学的帰納法を使って再帰的な処理を考える力を養う。最後に、③場合分けと数え上げの法則により、異なる条件下でのパターン認識や組み合わせ数の計算方法を学び、プログラミングの基礎的な思考法を身につける。	
			基礎数学Ⅱ		数理・データサイエンス・AIの分野で理論や技術を応用・活用するには、数学の基礎知識が不可欠である。本科目では、特に数理・データサイエンスやAIにおいて重要な微分積分や線形代数の基礎的な理論を中心に学ぶ。微分積分はデータ解析やモデル構築における変化量や最適化に用いられ、線形代数は多次元データの処理や機械学習アルゴリズムの基盤となるため、これらの知識は不可欠である。基礎から学ぶことで、今後の応用分野での活用を支える数学的な素養を身につける。	
			データ構造とアルゴリズム		本講義では、コンピュータプログラムの構築において広く必要とされる基本的なアルゴリズムを、演習を通じて学習する。具体的には、プログラミング言語C#を用いて、検索、ソート、再帰といったさまざまなアルゴリズムを実装しながらその構造や動作を理解する。演習を重ねることで、単なる知識の習得に留まらず、実際に手を動かすことでアルゴリズムの原理を体験的に把握し、プログラム設計の基礎スキルを身につけることを目指す。これにより、プログラミングにおける問題解決力を養う。	
			AIと医療		本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルに相当するモデルカリキュラムに沿って、AIの基礎知識を習得し、医療や保健分野のさまざまな課題への理解を深めることを目的としている。このカリキュラムは、数理・データサイエンスおよびAI分野における応用基礎レベルの知識を求めるため、リテラシーレベル科目「情報通信と保健医療」を先に履修することを推奨する。これにより、AI技術が医療や保健の現場でどのように活用されるかを理解する土台を築き、データに基づいた判断力と実践的なAI活用スキルを身につけることを目指す。	
			データベースと医療Ⅰ (基礎)	○	データベース・システムの基本的モデルである関係データベースの基礎を学ぶ。本講義では、正規化の基本をしっかりとマスターし、実際にデータベース・システムを開発する演習形式の授業である。この科目の到達目標は、関係データベースの概念および正規化を理解してデータベースを設計できるようになることである。また、本科目は同じく 2 年次科目の「情報基礎演習A」および「データベース応用」につながる科目であり、医療分野のシステムや機器の開発・管理・運用に必要となる ICT の基礎的な知識・技術を習得し、医療分野に応用できる力の習得を目指す。※医療情報学科ヘルスデータサイエンスプログラム認定科目	
			データベースと医療Ⅱ (応用)		データベースは、企業や病院で稼働する業務システムの根幹をなす技術であり、システムエンジニアにはもちろんのこと、電子カルテなどの情報を管理・二次利用する診療情報管理士にとっても重要な技術である。本科目では、リレーショナルデータベースおよびそれを扱うための言語であるSQLについて学習する。実際に、SQLを用いて下記の演習を行う。 ・データの定義：テーブルの作成、削除、更新 ・データの操作：テーブルに対するデータの問合せ、登録、更新、削除 ・データの制御：データベースに対して行った変更の確定や取り消し ・トランザクション管理：トランザクション処理に必要なACID特性	
			臨床データ分析Ⅰ		社会においても臨床の現場においても、現状を捉え、測り、知り、行動するためには様々なデータに基づく意思決定が求められる。様々なタイプや大きさのデータを適切に扱える能力が重要である。本講義では表計算ソフト（Microsoft Excel）や統計ソフト（JMP）を用いて、調査や実験などで得られるデータを処理、分析する知識やスキルの習得を踏まえ、多様な現場での即戦力育成を目指す。	
			臨床データ分析Ⅱ		「臨床データ分析Ⅰ」で取り扱ったランダム化比較研究は、質の高いEvidenceを導出することができる研究方法だが、医療の現場において実施するには様々な障壁を乗り越える必要がある。研究や調査の実施可能性を考えると、集団の様子をありのままに観察するタイプの研究方法（観察研究）の方が有用な場合が多い。本講義では、観察研究におけるデータ収集およびその分析を疑似体験することで、エビデンス生成に必要な手続き、その基本になる疫学理論、データ分析の方法の修得を目指す。	

<作成例>

学校法人青葉学園 設置認可等に関わる組織の移行表

学部等の設置，収容定員変更の場合

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東京医療保健大学				東京医療保健大学				
医療保健学部				医療保健学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	120	-	480	定員変更(20)
医療栄養学科	100	-	400		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
管理栄養学専攻	(68)	-	(272)		(0)	-	(0)	
臨床検査学専攻	-	-	-		-	-	-	
医療情報学科	80	-	320		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
				医療保健学科	160	-	640	学部の学科の設置(認可申請又は届出)
				管理栄養学専攻	(68)	-	(272)	
				臨床検査学専攻	-	-	-	
				医療情報学専攻	-	-	-	
				臨床工学専攻	-	-	-	
東が丘看護学部				東が丘看護学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
立川看護学部				立川看護学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
千葉看護学部				千葉看護学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
和歌山看護学部				和歌山看護学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
計	680	-	2720	計	680	-	2720	
東京医療保健大学大学院				東京医療保健大学大学院				
医療保健学研究科				医療保健学研究科				
医療保健学専攻(M)	33	-	66	医療保健学専攻(M)	33	-	66	
医療保健学専攻(D)	4	-	12	医療保健学専攻(D)	4	-	12	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(M)	40	-	80	看護学専攻(M)	40	-	80	
看護学専攻(D)	2	-	6	看護学専攻(D)	2	-	6	
和歌山看護学研究科				和歌山看護学研究科				
看護学専攻(M)	12	-	24	看護学専攻(M)	12	-	24	
千葉看護学研究科				千葉看護学研究科				
看護学専攻(M)	8	-	16	看護学専攻(M)	8	-	16	
計	99	-	204	計	99	-	204	
東京医療保健大学専攻科				東京医療保健大学専攻科				
助産学専攻科	15	-	15	助産学専攻科	15	-	15	
和歌山助産学専攻科	10	-	10	和歌山助産学専攻科	10	-	10	
計	25	-	25	計	25	-	25	

校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面
対象は世田谷キャンパスです。

① 東京都内における
既存キャンパス位置関係図



東京都地図: googleマップより

②千葉県内における
既存キャンパス位置関係図



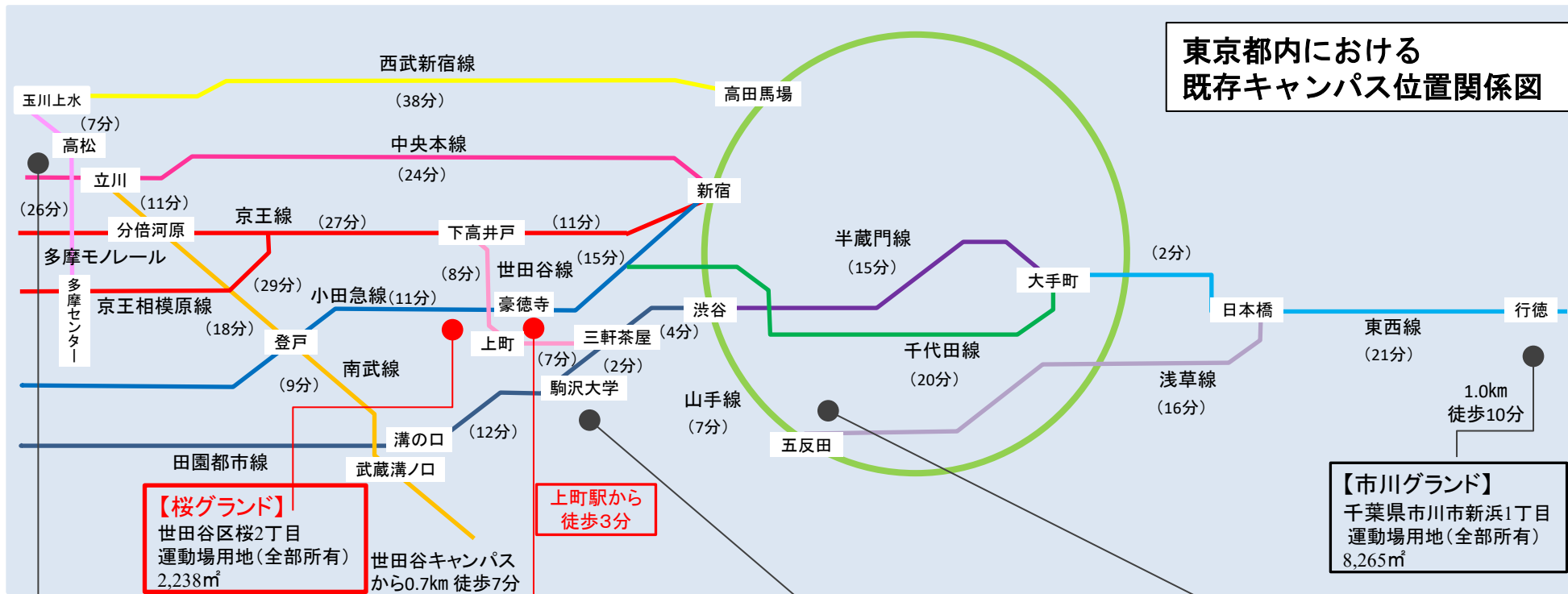
千葉県地図:googleマップより

③和歌山県内における
既存キャンパス位置関係図



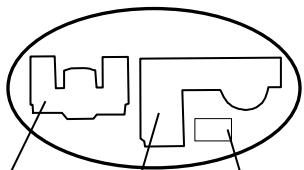
和歌山県地図：googleマップより

(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面（世田谷キャンパス）



【立川キャンパス】

立川市緑町3256番
校地面積(借用) 4,030.24m²
(平成28年4月1日より20年間借用)



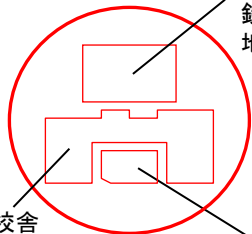
本館:校舎、
図書館、体育館等
鉄筋コンクリート造
3階建 4,384 m²

第一別館:校舎、
鉄筋コンクリート造
5階建 2.587 m²

第二別館:校舎、
鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき
2階建 460 m²

【世田谷キャンパス】

世田谷区世田谷3丁目11番3号
校地面積(全部所有)3,760m²

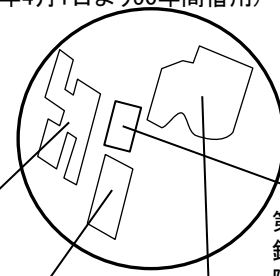


別館:校舎
鉄筋コンクリート造
陸屋根5階建地下1階付 3,914m²

学生ホール:校舎
鉄骨・鉄筋コンクリート造
陸屋根地下1階付平屋建 602m²

【国立病院機構キャンパス】

目黒区東が丘2丁目5番1号
校地面積(借用)12,098㎡
(平成24年4月1日より50年間借用)



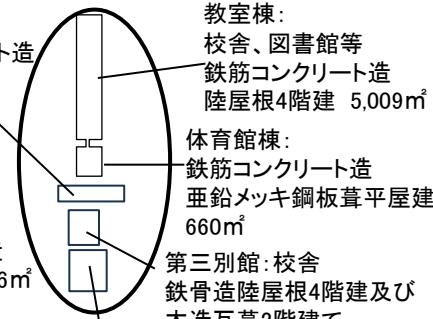
第二別館:校舎
鉄筋コンクリート造
陸屋根4階建 3,289m²

旧本館:校舎
鉄筋コンクリート造
陸屋根2階建 1,532m²

本館及び研究棟:校舎、
図書館、体育館等
鉄筋コンクリート造 10階建 10,151m²

【五反田キャンパス】

品川区東五反田4丁目1番17号
校地面積(全部借用)5,548m²
(平成16年3月12日より21年間借用)



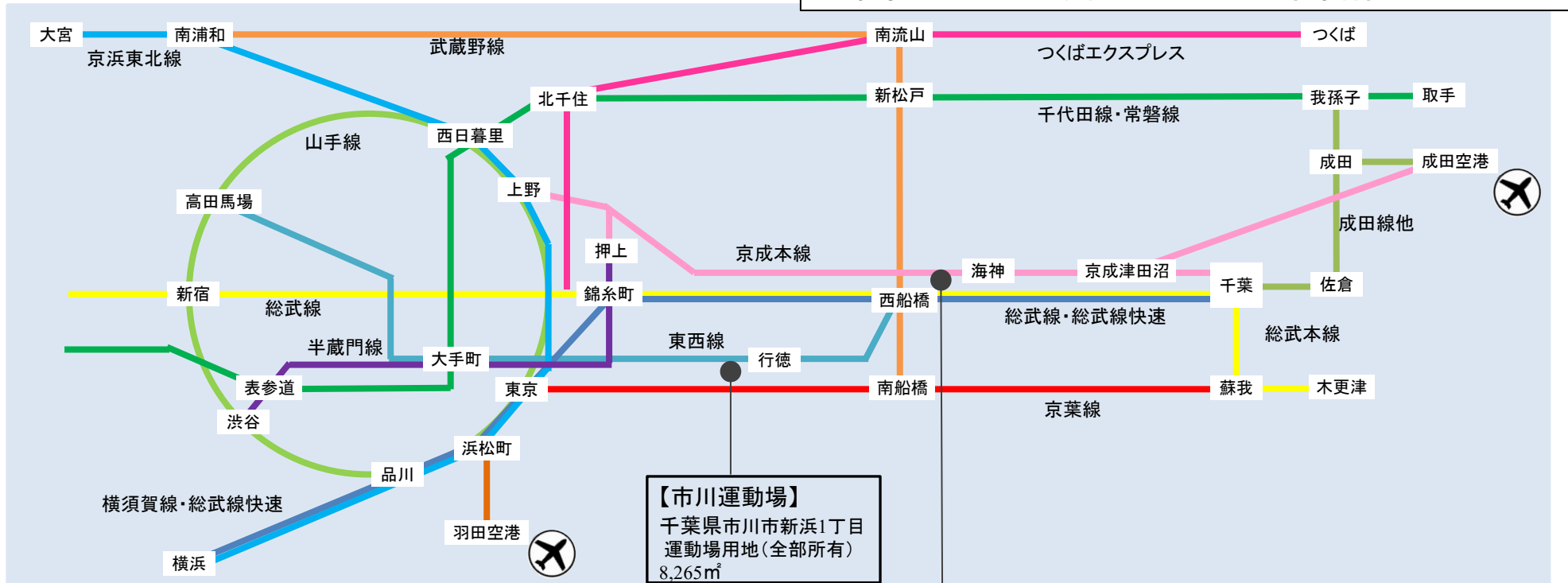
第二別館:校舎
鉄筋コンクリート造
陸屋根6階建
904m²

教室棟：
校舎、図書館等
鉄筋コンクリート造
陸屋根4階建 5,009㎡

体育館棟：
鉄筋コンクリート造
亜鉛メッキ鋼板葺平屋建
660㎡

第三別館：校舎
鉄骨造陸屋根4階建及び
木造瓦葺2階建て
418㎡

千葉県における 既存キャンパス位置関係図

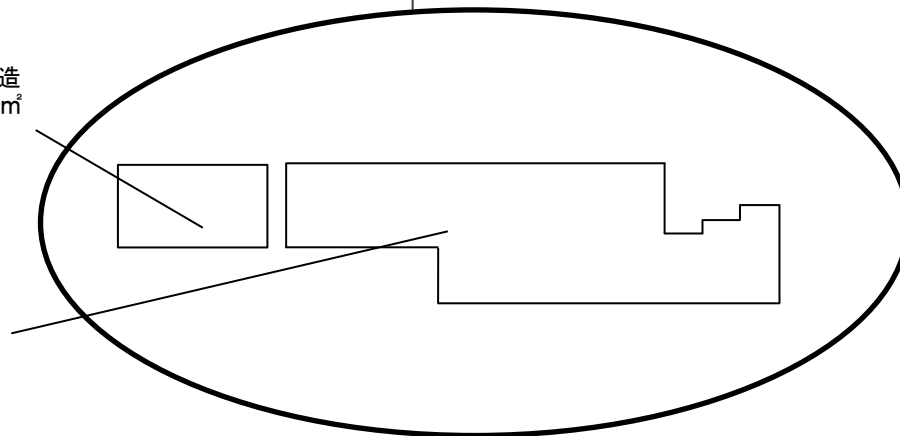


【船橋キャンパス】

千葉県船橋市海神町西1丁目1042番地2
校地面積(借用) 8,809 ㎡
(平成30年4月1日より20年間借用)

体育館
鉄筋コンクリート造
3階建 2,016 ㎡

本館:校舎、図書館等
鉄筋コンクリート造
6階建 10,676 ㎡



和歌山市内における キャンパス位置関係図

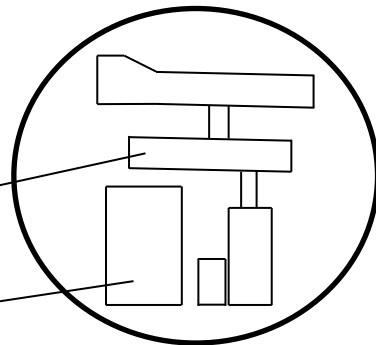


【雄湊キャンパス】

和歌山市東坂ノ上丁3番地
校地面積(借用) 5,830.41 ㎡
(平成30年4月1日より20年間借用)

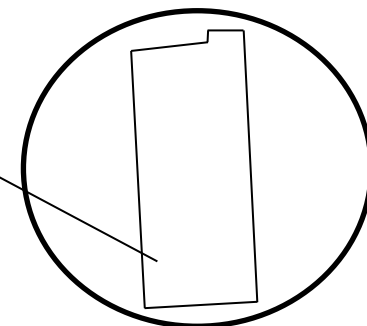
本館他: 校舎、図書館等
鉄筋コンクリート造
3,724.68㎡

体育館: 鉄筋コンクリート造
932.27㎡



【日赤和歌山医療センターキャンパス】

和歌山市小松原通四丁目20番地
本館: 校舎、図書館等
鉄筋コンクリート造
5階建 3,365.20㎡
(平成32年4月1日より20年間借用)



(3) 校舎、運動場等の配置（医療保健学科の専用校舎）



校地（桜グラウンド）面積：2,238㎡

校地（本館・別館）面積：3,760㎡

校地（市川グラウンド）
千葉県市川市新浜1丁目
面積：8,265㎡

校舎（本館）
地階1階地上3階建
面積：3,284㎡

校舎（別館）
地上4階建
面積：3,914㎡

校舎（学生ホール）
地下1階地上1階建
面積：602㎡

東京医療保健大学学則

第1章 総則

(本学の建学の精神・理念・目的)

第1条 本学は、教育基本法に基づき学校教育法の定める大学として、また私立学校法に従い、知識社会が実現すると予想される21世紀において、建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、医療分野において特色ある教育研究を実践することで、時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決することの出来る人材の育成を目的とする。

(医療保健学部理念・目的)

第1条の2 医療保健学部看護学科、医療栄養学科及び医療情報学科を設置し、医療保健学部においては「ますます高度化する医療保健活動に対応し、グローバルな視点で活動できる高度な知識・技術を持った専門職の育成」、「医療保健活動のチーム化を踏まえ、他の専門職と協調して医療保健活動を遂行できる人材の育成」及び「医療保健活動の原点とも言うべき「現場」に興味を持ち、「現場」を愛する専門職の育成」を図るとともに、「教育研究成果のエッセンスを相互に提供し合うことで幅広い視野を持った専門職及びチーム医療人として協調・協力出来る人材の育成」を図る。

(医療保健学部看護学科の理念・目的)

第1条の3 医療保健学部看護学科においては、「新しい時代のニーズに対応した看護師及び保健師の養成」、「本学の教育環境を活かした、医療現場におけるチーム医療の中核として活躍できる人材の育成」及び「看護師に必要不可欠な幅広い人間観を有する専門職の養成」を図る。

(医療保健学部医療栄養学科の理念・目的)

第1条の4 医療保健学部医療栄養学科においては、「新しい時代のニーズに合った医療を意識した高度専門職の養成」、「栄養学分野の高度専門職として、チーム医療において他の関連専門職とともに的確に責務を果たせる栄養サポートチームの中核として活躍できる人材の育成」及び「人間存在の根源的問題である「食」に取り組むために必要不可欠な幅広い人間観を有する専門職の養成」を図る。

(医療保健学部医療情報学科の理念・目的)

第1条の5 医療保健学部医療情報学科においては、「医療現場を理解することで、病院等の現場及び医療・健康に関する企業等で、情報技術の専門職として活躍できる人材の育成」及び「医療保健の専門職に必要な幅広い人間観を有する専門職の養成」を図る。

(医療保健学部医療保健学科の理念・目的)

第1条の6 医療保健学部医療保健学科においては「社会や医療保健の高度化を踏まえ、多様なニーズに対応できる医療保健専門職の育成」、「健康に関わる社会課題を俯瞰し、医療保健の現場を含むあらゆるフィールドにおいて、他の専門職と協調して自らの専門性を発揮できる人材の育成」を図る。

(東が丘・立川看護学部の理念・目的)

第1条の7 <削除>

(東が丘看護学部の理念・目的)

第1条の8 東が丘看護学部看護学科を設置し、変化する時代を幅広く見据えながら、専門職として自律性を持ち、確かな看護の実践能力をもって将来の看護を発展的に創造しうる看護職の育成を図るとともに、寛容と温かみのある人間性と看護実践能力を中心に自己啓発能力、キャリア開発能力を養い、将来の日本の医療保健福祉を支える実践力を備えた看護師＝“tomorrow’s Nurse”の育成を図る。

(立川看護学部の理念・目的)

第1条の9 立川看護学部看護学科を設置し、寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神を持ち、変化する時代を幅広く見据えながら、専門職として自律性を持ち、確かな看護の実践能力をもって将来の看護を発展的に創造しうる看護職を育成するとともに、人々の健康を支援することができる看護の実践力、災害時の健康危機に対応することができる災害対応能力及び看護を探究する能力を兼ね備えた、地域社会の医療・保健・福祉の将来を専門職として支えていく“地域から信頼される Nurse”の育成を図る。

(千葉看護学部の理念・目的)

第1条の10 千葉看護学部看護学科を設置し、「確かな情報収集力と倫理観をもとに創造力を伸張」し、「高度な看護アセスメント能力と看護技術を持ちながら自己研さんし続ける」ことができ、「地域で暮らす人々の生活を見すえた看護ケアを提供しうる看護職」の育成を図る。

(和歌山看護学部の理念・目的)

第1条の11 和歌山看護学部看護学科を設置し、変化する時代、社会を幅広く見据えながら、自律した専門職として、豊かな人間性と倫理観、高い看護実践能力をもち、発展的に地域社会の看護を創造しうる看護職の育成を図る。

(名称)

第2条 本学は、東京医療保健大学と称する。

(位置)

第3条 本学は、東京都品川区東五反田四丁目1番17号、東京都世田谷区世田谷三丁目11番3号、東京都目黒区東が丘二丁目5番1号、東京都立川市緑町3256番地、千葉県船橋市海神町西1丁目1042番地2及び和歌山県和歌山市東坂ノ上丁3番地に設置する。

第2章 自己評価及び第三者評価等

(自己点検・評価)

第4条 本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 本学に自己点検・評価を行うため、東京医療保健大学自己点検・評価委員会を独立した特別委員会として設置する。

3 自己点検・評価に関する事項は別に定める。

(第三者評価)

第5条 自己点検・評価報告書を、一定の期間ごとに作成し、文部科学大臣の認証を受けた「認証評価機関」の評価を受ける。

(情報の積極的な公開)

第6条 本学は、大学経営の透明性を高め社会に対する説明責任を果たすため、学内における教育研究活動の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を公開する。

第3章 学科、定員及び修業年限

(学部及び学科)

第7条 本学に医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部を設け、次の学科を置く。

医療保健学部	看護学科、医療栄養学科、医療情報学科、医療保健学科。
東が丘看護学部	看護学科。
立川看護学部	看護学科。
千葉看護学部	看護学科。
和歌山看護学部	看護学科。

(学生定員)

第8条 本学の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部及び学科名		入学定員	収容定員
医療保健学部	看護学科	<u>120</u> 名	<u>480</u> 名
	医療栄養学科 (うち管理栄養学専攻)	<u>0</u>	<u>0</u>
	医療情報学科	<u>0</u>	<u>0</u>
	医療保健学科 (うち管理栄養学専攻)	<u>160</u> (68)	<u>640</u>
	計	280	1,120
東が丘看護学部	看護学科	100	400
立川看護学部	看護学科	100	400
千葉看護学部	看護学科	100	400
和歌山看護学部	看護学科	100	400
合 計		680	2,720

(修業年限及び在学年限)

第9条 本学の修業年限は4年とする。在学期間は、8年を超えることはできない。
ただし、編入学、転入学及び再入学した者はその者が在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第4章 教育課程及び授業科目の設置等

(教育課程)

第10条 教育課程は、本学の教育上の目標を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

(副専攻)

第10条の2 前条により編成する教育課程として、特定の分野または課題の授業科目で構成する副専攻を設置し、その学修成果を認定することができる。

2 副専攻に関して必要な事項は別に定める。

(授業科目の設置等)

第10条の3 医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部に教育上の目的を達成するために必要な授業科目を置く。

2 医療保健学部の授業科目は、「いのち・人間の教育分野(全学科共通)」、「医療のコラボレーション教育分野(全学科共通)」、「専門職の教育分野(各学科毎)」、「養護教諭教職課程(看護学科)」及び「栄養教諭教職課程(医療栄養学科、医療保健学科)」で構成する。

3-(1) 東が丘・立川看護学部(平成23年度入学生まで適用) <削除>

3-(2) 東が丘・立川看護学部(平成24年度入学生から適用) <削除>

3-(3) 東が丘・立川看護学部(平成27年度入学生から適用) <削除>

4 東が丘看護学部(令和2年度入学生から適用)

東が丘看護学部の授業科目は、「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」、「統合分野」で構成する。

5-(1) 立川看護学部(令和2年度入学生から適用)

立川看護学部の授業科目は、「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」、「統合分野」で構成する。

5-(2) 立川看護学部(令和4年度入学生から適用)

立川看護学部の授業科目は、「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」で構成する。

6 千葉看護学部(平成30年度入学生から適用)

千葉看護学部の授業科目は、「いのち・人間の教育分野」、「専門職の教育分野」及び「養護教諭教職課程」で構成する。

7-(1) 和歌山看護学部(平成30年度入学生から適用)

和歌山看護学部の授業科目は、「豊かな人間性を育む分野」、「看護の基盤をつくる分野」、「看護実践能力を高める分野」及び「養護教諭教職課程」で構成する。

7-(2) 和歌山看護学部(令和4年度入学生から適用)

和歌山看護学部の授業科目は、「教養分野」、「専門分野」及び「養護教諭教職課程」で構成する。

(授業科目の種類及び単位等)

第11条 前条の授業科目の種類及び単位等は、別表第1、別表第2、別表第3、別表第4、別表第5及び別表第6のとおりとする。

2 前項のほか、学部を横断して開講する授業科目の種類及び単位等は別に定める。

(授業の方法)

第12条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業については、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(単位の算定基準)

第13条 1 単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業における教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、おおむね15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験及び実習については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることがある。

(授業期間)

第14条 各授業科目の授業は、十分な教育効果を上げることができるよう、学長が別に定める適切な期間（以下「学事歴」という。）を単位として行う。

(履修単位の認定)

第15条 授業科目を履修し、その試験その他の学長が定める適切な方法により学修の成果の評価に合格した者には、所定の単位を与える。

(成績の評価)

第16条 授業科目の試験の成績は、S、A、B、C、Dの評価で表し、C以上を合格とし、Dは不合格とする。

第5章 履修・卒業・国家試験受験資格

(医療保健学部の卒業要件)

第17条 医療保健学部学生の卒業要件は、授業科目の区分ごとに定める最低履修単位数を満たすとともに、別に定める履修規程に従って履修し、合計126単位以上を修得しなければならない。

2 卒業要件として修得すべき単位数のうち、第12条2項に定める授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

3 医療栄養学科に履修上の区分として、管理栄養学専攻及び臨床検査学専攻を置く。

- 4 第1項の授業科目の区分ごとに最低履修単位数は、各学科により、以下のとおりとする。

(1)-1 看護学科（平成20年度入学生まで適用）＜削除＞

(2)-2 看護学科（平成21年度入学生及び平成22年度入学生限り適用）

＜削除＞

(1)-3 看護学科（平成23年度入学生限り適用）＜削除＞

(1)-4 看護学科（平成24年度入学生から適用）

「いのち・人間の教育分野」については12単位、「医療のコラボレーション教育分野」については18単位、「専門職の教育分野」については83単位、上記3分野からの選択科目13単位の合計126単位以上とする。

(2)-1 医療栄養学科（平成22年度入学生限り適用）＜削除＞

(2)-2 医療栄養学科（平成23年度入学生限り適用）＜削除＞

(2)-3 医療栄養学科（平成24年度入学生から平成27年度入学生まで適用）

＜削除＞

(2)-4 医療栄養学科（平成28年度入学生から令和5年度入学生まで適用）

「いのち・人間の教育分野」については14単位、「医療のコラボレーション教育分野」については20単位、「専門職の教育分野」については80単位、上記3分野からの選択科目12単位の合計126単位以上とする。

(2)-5 医療栄養学科（令和6年度入学生から適用）

○管理栄養学専攻

「いのち・人間の教育分野」については14単位、「医療のコラボレーション教育分野」については20単位、「専門職の教育分野」については80単位、上記3分野からの選択科目12単位の合計126単位以上とする。

○臨床検査学専攻

「いのち・人間の教育分野」については16単位、「医療のコラボレーション教育分野」については13単位、「専門職の教育分野」については88単位、上記3分野からの選択科目9単位の合計126単位以上とする。

(3)-1 医療情報学科（平成18年度及び平成20年度入学生に適用）＜削除＞

(3)-2 医療情報学科（平成19年度入学生に適用）＜削除＞

(3)-3 医療情報学科（平成21年度入学生及び平成22年度入学生限り適用）

＜削除＞

(3)-4 医療情報学科（平成23年度入学生限り適用）＜削除＞

(3)-5 医療情報学科（平成24年度入学生から平成27年度入学生まで適用）

＜削除＞

(3)-6 医療情報学科（平成28年度入学生から平成31年度入学生まで適用）

「いのち・人間の教育分野」については12単位、「医療のコラボレーション教育分野」については20単位、「専門職の教育分野」については70単位、上記3分野からの選択科目24単位以上の合計126単位以上とする。

(3)-7 医療情報学科（令和2年度入学生から令和4年度入学生まで適用）

「いのち・人間の教育分野」については12単位、「医療のコラボレーション教育分野」については20単位、「専門職の教育分野」については68単位、

上記3分野からの選択科目 26 単位以上の合計 126 単位以上とする。

(3)-8 医療情報学科（令和5年度入学生から適用）

「いのち・人間の教育分野」については12単位、「医療のコラボレーション教育分野」については13単位、「専門職の教育分野」については41単位、上記3分野からの選択科目 60 単位以上の合計 126 単位以上とする。

(4)-1 医療保健学科（令和8年度入学生から適用）

○管理栄養学専攻

「いのち・人間の教育分野」については14単位、「医療のコラボレーション教育分野」については22単位、「専門職の教育分野」については79単位、上記3分野からの選択科目 11 単位の合計 126 単位以上とする。

なお、専門職の教育の選択科目のうち「臨地実習Ⅰ」及び「臨地実習Ⅱ」から1単位を選択必修とする。

○臨床検査学専攻

「いのち・人間の教育分野」については14単位、「医療のコラボレーション教育分野」については15単位、「専門職の教育分野」については88単位、上記3分野からの選択科目 9 単位の合計 126 単位以上とする。

○臨床工学専攻

「いのち・人間の教育分野」については14単位、「医療のコラボレーション教育分野」については12単位、「専門職の教育分野」については92単位、必修科目と選択科目 8 単位の合計 126 単位以上とする。

○医療情報学専攻

必修科目を57単位、及び選択科目を専門職の教育分野「医療情報」「ヘルスケア」「情報科学」から各8単位以上修得した上で、合計124単位以上とする。

（東が丘・立川看護学部学生の卒業要件）

第17条の2 <削除>

（東が丘看護学部の卒業要件）

第17条の3 東が丘看護学部学生の卒業要件は、授業科目の区分ごとに定める最低履修単位数を満たすとともに、別に定める履修規程に従って履修し、合計124単位以上を修得しなければならない。

- 2 卒業要件として修得すべき単位数のうち、第12条2項に定める授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。
- 3 第1項の授業科目の区分ごとの最低履修単位数は、以下のとおりとする。

(1)-1 看護学科（令和3年度入学生まで適用）

「基礎分野」については16単位、「専門基礎分野」については30単位、「専門分野」については54単位、「統合分野」については23単位、上記4分野からの選択科目 6 単位の合計 129 単位以上とする。

(1)-2 看護学科（令和4年度入学生から適用）

「基礎分野」については14単位、「専門基礎分野」については29単位、「専門分野」については59単位、「統合分野」については14単位、上記4分野からの選択科目 8 単位の合計 124 単位以上とする。

(立川看護学部卒業要件)

第17条の4 立川看護学部学生卒業要件は、授業科目の区分ごとに定める最低履修単位数を満たすとともに、別に定める履修規程に従って履修し、合計130単位以上を修得しなければならない。

2 卒業要件として修得すべき単位数のうち、第12条2項に定める授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

3 第1項の授業科目の区分ごとの最低履修単位数は、以下のとおりとする。

(1) - 1 看護学科(令和3年度入学生まで適用)

「基礎分野」については15単位、「専門基礎分野」については30単位、「専門分野」については53単位、「統合分野」については25単位、上記4分野からの選択科目6単位の合計129単位以上とする。

(1) - 2 看護学科(令和4年度入学生から適用)

「基礎分野」については16単位、「専門基礎分野」については32単位、「専門分野」については77単位、上記3分野からの選択科目5単位の合計130単位以上とする。

(千葉看護学部卒業要件)

第17条の5 千葉看護学部学生卒業要件は、授業科目の区分ごとに定める最低履修単位数を満たすとともに、別に定める履修規程に従って履修し、合計126単位以上を修得しなければならない。

2 卒業要件として修得すべき単位数のうち、第12条2項に定める授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

3 第1項の授業科目の区分ごとの最低履修単位数は、以下のとおりとする。

看護学科(平成30年度入学生から適用)

「いのち・人間の教育分野」については15単位、「専門職の教育分野」については100単位、上記2分野からの選択科目11単位の合計126単位以上とする。

4 第1項の授業科目の区分ごとの最低履修単位数は、以下のとおりとする。

看護学科(令和4年度入学生から適用)

「いのち・人間の教育分野」については15単位、「専門職の教育分野」については101単位、上記2分野からの選択科目10単位の合計126単位以上とする。

(和歌山看護学部卒業要件)

第17条の6 和歌山看護学部学生卒業要件は、授業科目の区分ごとに定める最低履修単位数を満たすとともに、別に定める履修規程に従って履修し、合計126単位以上を修得しなければならない。

2 卒業要件として修得すべき単位数のうち、第12条2項に定める授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

3 第1項の授業科目の区分ごとの最低履修単位数は、以下のとおりとする。

(1) - 1 看護学科(平成30年度入学生から適用)

「豊かな人間性を育む分野」については14単位、「看護の基盤をつくる分野」については33単位、「看護実践能力を高める分野」については66単位、上記3分野からの選択科目13単位の合計126単位以上とする。

(1) - 2 看護学科(令和 4 年度入学生から適用)

「教養分野」については 18 単位、「専門分野」については 91 単位、上記 2 分野からの選択科目 17 単位の合計 126 単位以上とする。

(国家試験受験資格)

第 18 条 医療保健学部看護学科、東が丘看護学部看護学科、立川看護学部看護学科、千葉看護学部看護学科、和歌山看護学部看護学科並びに医療保健学部医療栄養学科の卒業要件を満たした者は、次の国家試験の受験資格を取得できるものとする。

(1) 医療保健学部看護学科

看護師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者

看護師

保健師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者

保健師

(2) <削除>

(3) 東が丘看護学部看護学科

看護師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者

看護師

(4) 立川看護学部看護学科

看護師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者

看護師

(5) 千葉看護学部看護学科

看護師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者

看護師

保健師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者

保健師

(6) 和歌山看護学部看護学科

看護師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者

看護師

保健師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者

保健師

(7) 医療保健学部医療栄養学科

管理栄養士国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者

管理栄養士

臨床検査技師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者

臨床検査技師

(教育職員免許状の資格取得)

第 18 条の 2 第 10 条及び第 11 条に定める単位を修得した上、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所定の科目を履修し、その単位を修得した者は、次の教育職員免許状の資格を取得することができる。

学部	学科	教育職員免許状の種類
医療保健学部	看護学科	養護教諭一種免許状 養護教諭二種免許状
	医療栄養学科 管理栄養学専攻	栄養教諭一種免許状
	<u>医療保健学科</u> <u>管理栄養学専攻</u>	<u>栄養教諭一種免許状</u>
千葉看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状
		養護教諭二種免許状
和歌山看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状
		養護教諭二種免許状

(他の大学又は短期大学等における授業科目の履修等)

- 第19条 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学等において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。
- 2 前項に基づき、本学と単位互換協定を結んだ他の大学で単位互換履修生等として授業科目を履修し修得した単位について、前項の60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすものとする。
- 3 第1項の規定は、外国の大学へ留学する場合についても準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

- 第20条 教育上有益と認めるときは、学生が行う大学以外の教育施設等における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。
- 2 前項により与えることができる単位数は、前条により大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

- 第21条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学等において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。
- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に前条第1項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。
- 3 前2項により修得したものとみなし、別に定めるところにより単位を与えることのできる単位数は、編入学・転入学等の場合を除き、本学において取得した単位以外のものについては、第15条及び第16条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(卒業及び学位授与)

- 第22条 本学に4年以上在学し、第14条による所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者を卒業とし、学士の学位を授与する。

(学位の種類)

第23条 本学を卒業した者には、学士の学位を授与し、学位記に専攻分野を次のとおり付記する。

- (1) 医療保健学部看護学科、東が丘看護学部看護学科、立川看護学部看護学科、千葉看護学部看護学科、和歌山看護学部看護学科：学士（看護学）。
- (2) 医療保健学部医療栄養学科：学士（医療栄養学）。
- (3) 医療保健学部医療情報学科：学士（医療情報学）。
- (4) 医療保健学部医療保健学科：学士（医療保健学）

第6章 学年・学期・休業

(学年)

第24条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(学期)

第25条 学年を分けて次の2学期とし、さらに各学期を前半と後半に分けて運用する。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第26条 本学における休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日。
 - (2) 土曜日。
 - (3) 国民の祝日に関する法律に規定する休日。
 - (4) その他理事長が指定した日。
- 2 必要であると認める場合は、前項の定めにかかわらず、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することがある。

第7章 入学・休学等

(入学の時期)

第27条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第28条 入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者。
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者。
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
- (5) 文部科学大臣の指定した者。
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）。

(7) 本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。

(入学志願手続き)

第29条 入学志願者は、本学所定の入学願書に所定の検定料及び別に定める書類を添え、願い出ねばならない。

(入学者の選考)

第30条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き)

第31条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、直ちに保証人を定め、別に定める所定の手続きをしなければならない。

(入学許可)

第32条 前条の入学手続きを完了した者には学長が入学を許可する。

(休学)

第33条 学生が疾病その他やむを得ない事由によって2ヶ月以上修学することができないときは、その事由を示す書面を添え、保証人と連署して学長に願い出ることとし、学長の許可を得て休学することができる。

2 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、新たに休学願いを提出し、学長の許可を得て休学期間を延長することができる。

3 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

4 休学期間は、第9条の在学期間には算入しない。

5 休学期間については、別に定めるところにより学費を減額する。

(復学)

第34条 休学者が復学しようとするときは、保証人と連署の復学願を学長に提出し、許可を受けなければならない。

(留学)

第35条 外国の大学で学修することを希望する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学期間に含めることができる。

(編入・転入学・再入学)

第36条 次の各号に該当する者で、本学への入学を志望する者があるときは、選考のうえ、学長が相当年次に入学を許可することができる。

(1) 大学を卒業した者又は退学した者。

(2) 短期大学、高等専門学校等を卒業した者。

(3) 本学の退学者又は卒業生で再び入学を願い出た者。

2 前項により入学を許可された者のすでに履修した授業科目及び単位数並びに在学すべき年数については、その取り扱いを別に定めることとする。

(転学科)

第37条 本学の他学科への転学科を志望する者があるときは、選考のうえ、学長が相当年次に転学科を許可することができる。

2 前項により転学科を許可された者のすでに履修した授業科目及び単位数並びに在学すべき年数については、その取り扱いを別に定めることとする。

(他大学への転学)

第38条 本学から他大学に転学しようとする者は、事由を記して学長に願い出て許可を得なければならない。

(退学)

第39条 疾病その他の事由により退学しようとするときは、保証人と連署の退学願いを学長に提出し、許可を受けなければならない。

(除籍)

第40条 次の各号の一に該当するものは学長が除籍する。

- (1) 学費を滞納し督促を受けても納入しない者。
- (2) 在学年数8年を超えた者。
- (3) 休学期間満了になっても復学願を提出しない者。
- (4) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者。

(休学等の手続き)

第40条の2 第33条(休学)～第40条(除籍)に係る手続きについては、学長が別に定める。

第8章 検定料・学費及び諸納金

(学費及び諸納金)

第41条 医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部の検定料は別表第9、医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部の入学金、授業料、施設費、維持費、実験実習費及び諸納金は別表第10に定めるとおりとする。なお、その納入については、別に定める規程によるものとする。

- 2 助産学専攻科の検定料、学費及び諸納金は、別表第11、和歌山助産学専攻科の検定料、学費及び諸納金は、別表第12に定めるとおりとする。
- 3 医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部の科目等履修生及び研究生の学費については、別表第13及び別表第14に定めるとおりとする。
- 4 休学・復学・停学等の場合の授業料等については別に定めるものとする。

(学費等の返還制限)

第42条 一度納入した検定料、学費及び諸納金はこれを返還しない。

第9章 助産学専攻科

(目的及び構成)

第43条 本学に、助産学専攻科(以下「専攻科」という。)を置く。

- 2 専攻科に専攻科長を置き、医療保健学部看護学科長をもって充てる。
- 3 専攻科は、助産師として周産期のみならずライフサイクル全般にある女性、乳幼児、家族、地域社会を対象に、全ての女性に寄り添い、女性の内なる力を信じ、人間性を重視したケア・支援を行う専門職の育成を行うとともに、特に、問題解決能力、判断力及び実践力を基盤にし、そのスキルをもって母子保健の向上に貢献できる助産師の育成を目的とする。

4 専攻科の入学定員は、次のとおりとする。

専 攻 科	入 学 定 員
助 産 学 専 攻 科	15名

第43条の2 本学に、和歌山助産学専攻科（以下「和歌山専攻科」という。）を置く。

- 2 和歌山専攻科に専攻科長を置く。
- 3 和歌山専攻科長は、学部長の命を受け、当該専攻科の運営に関し、総括し、調整する。
- 4 和歌山専攻科長に関し必要な事項は、別に定める。
- 5 和歌山専攻科は、寛容と温かみのある豊かな人間性と生命に対する畏敬の念を涵養し、リプロダクティブヘルス/ライツの観点で女性と母子の well-being を促進し、優れた臨床判断能力と根拠に基づいた助産実践能力を有することで、地域母子保健の向上に寄与し、時代の変化に応じて助産を創造できる助産師の育成を目的とする。
- 6 和歌山専攻科の入学定員は、次のとおりとする。

専 攻 科	入 学 定 員
和歌山助産学専攻科	10名

（修業年限及び在学年限）

第44条 専攻科の修業年限は、1年とする。

- 2 専攻科の学生は、2年を超えて在学することができない。

第44条の2 和歌山専攻科の修業年限は、1年とする。

- 2 和歌山専攻科の学生は、2年を超えて在学することができない。

（入学資格）

第45条 専攻科及び和歌山専攻科に入学することができる者は、第1号に規定する者で、第2号以下のいずれかに該当する者とする。

- (1) 看護師資格を有する女子。
- (2) 大学を卒業した者。
- (3) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者。
- (4) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者。
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者。
- (6) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設にあって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者。
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者。
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）。

(編入学、転入学及び再入学)

第46条 専攻科及び和歌山専攻科への編入学、転入学及び再入学は、これを認めない。

(教育課程及び履修方法等)

第47条 専攻科の授業科目及びその単位数並びに履修方法等については、別表第7のとおりとする。ただし、特別の必要がある場合は、臨時に授業科目を開設することができる。

2 前項に規定するものの他、履修方法等について、第13条(単位の算定基準)第1項、第15条(履修単位の認定)及び第16条(成績の評価)を準用する。

第47条の2 和歌山専攻科の授業科目及びその単位数並びに履修方法等については、別表第8のとおりとする。ただし、特別の必要がある場合は、臨時に授業科目を開設することができる。

(修了)

第48条 本学の専攻科に1年以上在学し、別に定めるところにより34単位以上を修得した学生については、学長が修了を認定する。

第48条の2 (令和4年度入学生から適用) 本学の和歌山専攻科に1年以上在学し、別に定めるところにより38単位以上を修得した学生については、学長が修了を認定する。

(令和6年度入学生から適用) 本学の和歌山専攻科に1年以上在学し、別に定めるところにより37単位以上を修得した学生については、学長が修了を認定する。

(修了の認定等)

第49条 学長は、前条の規定により、修了を認定された者に、修了証書を授与する。

(助産師国家試験受験資格)

第50条 専攻科及び和歌山専攻科の修了を認定された者は、助産師国家試験の受験資格を取得できるものとする。

(規定の準用)

第51条 専攻科及び和歌山専攻科については、この章に定めるもののほか、第24条(学年)、第25条(学期)、第26条(休業日)、第27条(入学の時期)、第29条(入学志願手続き)、第30条(入学者の選考)、第31条(入学手続き)、第32条(入学許可)、第33条(休学)、第34条(復学)、第39条(退学)、第40条(除籍)、第41条(学費及び諸納金)及び第42条(学費等の返還制限)の規定を準用する。ただし、第33条第2項から第4項及び第40条第2号は、準用しない。

2 前項により規定を準用する条文中「本学」とあるのは「本学助産学専攻科」及び「本学和歌山助産学専攻科」と、「学生」とあるのは「本学助産学専攻科学学生」及び「本学和歌山助産学専攻科学学生」と読み替えるものとする。

第10章 職員組織

(職員構成)

第52条 本学職員の構成は、次のとおりとする。

学長、副学長、学部長、学科長、図書館長。

大学経営会議室長、事務局長、部長、センター長、次長、課長、係長、主任。
教育職員（教授、准教授、講師、助教、助手）。
事務職員。
その他、必要に応じて役職者を置く。

（学長）

第52条の2 学長は、学校教育法(昭和22年法律第26号)第92条第3項に基づき校務をつかさどり、職員を統督する。

2 学長に関し必要な事項は、別に定める。

（副学長）

第52条の3 本学に、副学長を置く。

2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

3 副学長に関し必要な事項は、別に定める。

（学部長）

第52条の4 学部に、学部長を置く。

2 学部長は、学長の命を受け、当該学部の運営に関する校務をつかさどる。

3 学部長に関し必要な事項は、別に定める。

（学科長）

第52条の5 学科に、学科長を置く。

2 学科長は、学部長の命を受け、当該学科の運営に関し、総括し、調整する。

3 学科長に関し必要な事項は、別に定める。

（図書館長）

第52条の6 図書館に、館長を置く。

2 図書館長は、学長の命を受け、図書館の運営に関する校務をつかさどる。

3 図書館長に関し必要な事項は、別に定める。

（大学経営会議室長）

第52条の7 本学に、大学経営会議室長を置く。

2 大学経営会議室長は、大学経営会議室の事務を総括する。

（事務局長）

第52条の8 本学に、事務局長を置く。

2 事務局長は、事務局の事務を掌理する。

第11章 大学経営会議

（大学経営会議の設置及び組織）

第53条 大学経営に関する重要な事項を審議するため大学経営会議を置く。

2 大学経営会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 理事長。

(2) 理事及び評議員の中から理事長が指名する者10名。

(3) 教授会構成員の中から及び学長・副学長を含め理事長が指名する者11名。

3 理事長は大学経営会議議長となる。

4 大学経営会議の事務局として、大学経営会議室を置く。

- 5 大学経営会議の運営は、これを別に定める。
- 6 大学経営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。
 - (1) 中長期計画の策定に関する事項。
 - (2) 学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項。
 - (3) 大学予算案の作成及び決算処理の方針に関する事項。
 - (4) 教員人事に関する事項。
 - (5) 学部・学科その他重要な施設・組織の設置改廃に関する事項。
 - (6) 学生の定員に関する事項。
 - (7) その他、全学に関する重要な事項及び理事会の諮問に関する事項。

(学長選考委員会の設置と組織)

第54条 大学に大学経営会議の諮問機関として学長選考委員会を置く。

- 2 学長選考委員会は、大学経営会議の諮問を受け学長の選考・解任について審議し、理事長に答申する。
- 3 学長選考委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 理事・評議員の中から選出された者3名
 - (2) 教授会構成員の中から選出された者2名

第12章 学部長等会議

(学部長等会議の設置及び組織等)

第55条 大学の教学上の重要事項の企画・審議並びに連絡調整を行い大学経営会議に提案するために学部長等会議を置く。

- 2 学部長等会議は、学長、副学長、学部長、学科長、研究科長、大学経営会議室長、事務局長等をもって組織する。
- 3 学部長等会議の運営は、これを別に定める。
- 4 学部長等会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。
 - (1) 年度計画に関する事項のうち、教育研究に関するもの。
 - (2) 学則(教育研究に関する部分に限る)その他教育研究に係る重要な規程の制定又は改廃に関する事項。
 - (3) 学生の円滑な就学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項。
 - (4) 学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項。
 - (5) 各学部学科・研究科間の教育研究に係る連絡及び調整。
 - (6) 学長選考委員の選出に関する事項。
 - (7) その他教育研究に関する重要事項。

(人事委員会の設置及び組織等)

第55条の2 医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部、助産学専攻科、大学院医療保健学研究科、大学院看護学研究科及び大学院和歌山看護学研究科に係る教員人事に関する事項について選考・審議を行い、大学経営会議に提案するため東京医療保健大学人事委員会(以下「人事委員会」という。)を置く。

- 2 人事委員会は学長、各学部長、各学科長、助産学専攻科長、各研究科長、大学経営会議室長及び事務局長をもって組織する。
- 3 人事委員会の運営等は、これを別に定める。

第13章 教授会

(教授会の設置等)

第56条 大学に、教授会を置く。

- 2 教授会は、学部長、学科長、専任の教授をもって組織し、学長及び副学長は必要に応じて出席することができる。
- 3 教授会には、准教授その他の教員を加えることができる。
- 4 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了。
 - (2) 学位の授与。
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。
- 5 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長(以下「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 6 教授会の組織、運営等は、これを別に定める。

第14章 図書館

(図書館)

第57条 本学に図書館を置き、学生、職員、卒業生及び特に許可したものに利用させる。

- 2 図書館の組織及び運営に関し必要な事項は、これを別に定める。

第15章 研究所、センター

(研究所)

第58条 本学に東京医療保健大学総合研究所を置く。

- 2 東京医療保健大学総合研究所の組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(国際交流センター)

第58条の2 本学に東京医療保健大学国際交流センターを置く。

- 2 東京医療保健大学国際交流センターの組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(感染制御学教育研究センター)

第58条の3 本学に東京医療保健大学感染制御学教育研究センターを置く。

- 2 東京医療保健大学感染制御学教育研究センターの組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(メディテーションセンター)

第58条の4 本学に東京医療保健大学メディテーションセンターを置く。

- 2 東京医療保健大学メディテーションセンターの組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(放射線看護研修センター)

第58条の5 本学に東京医療保健大学放射線看護研修センターを置く。

- 2 東京医療保健大学放射線看護研修センターの組織及び運営に関し必要な事項

は別に定める。

(総合教育センター)

第58条の6 本学に東京医療保健大学総合教育センターを置く。

2 東京医療保健大学総合教育センターの組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(産後ケア研究センター)

第58条の7 本学に東京医療保健大学産後ケア研究センターを置く。

2 東京医療保健大学産後ケア研究センターの組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(和歌山看護実践研究センター)

第58条の8 本学に東京医療保健大学和歌山看護実践研究センターを置く。

2 東京医療保健大学和歌山看護実践研究センターの組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(保健センター)

第58条の9 本学に東京医療保健大学保健センターを置く。

2 東京医療保健大学保健センターの組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

第16章 学長戦略本部

(学長戦略本部)

第59条 本学に東京医療保健大学学長戦略本部を置く。

2 東京医療保健大学学長戦略本部の組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

第17章 厚生施設

(保健室及び厚生施設)

第60条 本学に保健室その他の厚生施設を設ける。

第18章 科目等履修生、外国人留学生、研究生

(科目等履修生)

第61条 本学は、本大学の学生以外の者が授業科目の履修を願い出たときは、当該学部等の教育に支障のない限り、選考の上、科目等履修生として許可することがある。

2 科目等履修生に関する規程は、これを別に定める。

(外国人留学生)

第62条 外国人で大学における教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として、入学を許可することがある。

(研究生)

第63条 本学において、特定の専門事項について研究することを希望する者があるときは、各学部の教育研究に支障のない限り、選考の上、これを許可することがある。

2 研究生に関する規程は、これを別に定める。

(準用)

第64条 本章に定めるほか、科目等履修生、外国人留学生及び研究生については

本学則の規定を準用する。ただし、第 9 条(修業年限及び在学年限)、第 17 条(医療保健学部の卒業要件)、第 17 条の 3(東が丘看護学部の卒業要件)、第 17 条の 4(立川看護学部の卒業要件)、第 17 条の 5(千葉看護学部の卒業要件)、第 17 条の 6(和歌山看護学部の卒業要件)、第 18 条(国家試験受験資格)及び第 19 条(他の大学又は短期大学等における授業科目の履修等)は、適用しない。

第 19 章 賞罰

(表彰)

第 65 条 学業優秀、品行方正、課業精勤な者に対しては、卒業に際し、理事長賞、学長賞を授与する。また、学生の模範とするに足る者があるときは、これを表彰する。

(懲戒)

第 66 条 学長は、本学の学則または訓育の主旨に違背した学生に対し必要があると認めたときは、懲戒する。

2 前項に規定する懲戒の種類は、訓戒、停学及び退学とする。

3 前項に規定する退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者。

(2) 学業成績不良で改善の見込みがないと認められた者。

(3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者。

第 20 章 公開講座

(公開講座の設置等)

第 67 条 本学に公開講座を設けることがある。公開講座についてはその都度細目を定めてこれを実施する。

第 21 章 大学開放及び生涯学習事業等

(大学開放)

第 68 条 本学は、教育研究の成果及び知的財産を広く社会に還元する。

2 本学は、教育研究上の支障のない限りにおいて、その教育研究施設及び設備を積極的に開放する。

(生涯学習事業)

第 69 条 本学は医療・健康・保健に関する公開講座・公開講演会等を開催し、それを広く社会に公開し、また本学が保持している情報の提供により地域社会への貢献を積極的に行う。

(学生の課外活動)

第 69 条の 2 学生は、社会貢献・社会活動に関する意識の涵養に努めるとともに幅広い人間性を養い健全な心身の発達を図るため、正課の授業の他、課外活動に積極的に参加することとする。

第 22 章 細則

(細則)

第 70 条 本学則施行についての細則その他必要な事項は別に定める。

附則

本学則は平成17年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成17年5月26日から施行する。

附則

本学則は平成17年11月9日から施行する。

附則

本学則は平成18年3月24日から施行する。

附則

本学則は平成18年5月29日から施行する。

附則

本学則は平成19年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成20年4月1日から施行する。

附則

1. 本学則第11条に定める別表第1のうち、「1-1. 医療保健学部 看護学科（平成20年度入学生まで適用）」及び第17条第3項のうち「(1)-1 看護学科（平成20年度学生まで適用）」については、平成20年度入学生の卒業をもって削除する。
2. 本学則は平成21年4月1日から施行する。

附則

1. 本学則第11条に定める別表第1のうち、「2-1. 医療保健学部 医療栄養学科（平成18年度及び19年度入学生に適用）」「2-2. 医療保健学部 医療栄養学科（平成20年度入学生に適用）」については、各年度の入学生の卒業をもって削除する。
2. 本学則第11条に定める別表第1のうち、「医療保健学部 医療情報学科の3-1. 3-2. 3-3. 」については、各適用年度の学生の卒業をもって削除する。
また、第17条第3項(3)-1（平成18年度及び20年度入学生に適用）、(3)-2（平成19年度入学生に適用）については、各適用年度の学生の卒業をもって削除する。
3. 本学則は平成21年4月1日から施行する。

附則

1. 本学則は平成22年4月1日から施行する。
2. 第3条（位置）中、「東京都目黒区東が丘二丁目5番23号」は、平成24年3月31日までとし、平成24年4月1日以降は「東京都目黒区東が丘二丁目5番1号」とする。

附則

1. 本学則第11条に定める別表第1のうち、「1-2. 医療保健学部 看護学科（平成21年度入学生限り適用）」については、平成21年度入学生の卒業をもって削除する。
2. 本学則第11条に定める別表第1のうち、「2-3. 医療保健学部 医療栄養学科（平成21年度入学生限り適用）」については、平成21年度入学生の卒業をもって削除する。

3. 本学則第11条に定める別表第1のうち、「3-4. 医療保健学部 医療情報学科(平成21年度入学生限り適用)」については、平成21年度入学生の卒業をもって削除する。

4. 本学則は平成22年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成22年10月20日から施行する。

附則

1. 本学則第11条に定める別表第1のうち、「1-3. 医療保健学部 看護学科(平成22年度入学生限り適用)」については、平成22年度入学生の卒業をもって削除する。

2. 本学則は平成23年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成23年10月1日から施行する。

附則

1. 本学則は平成24年4月1日から施行する。

2. 本学則第18条(国家試験受験資格)(2)に定める東が丘・立川看護学部看護学科のうち、平成23年度までの入学生については、次のとおり読み替えるものとする。

看護師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者 看護師
保健師国家試験受験資格取得のために必要となる単位を取得した者 保健師

3. 本学則第48条(修了)に定める助産学専攻科の単位数のうち、平成23年度入学生については、次のとおり読み替えるものとする。

本学の専攻科に1年以上在学し、別に定めるところにより39単位以上を修得した学生については、学長が修了を認定する。

附則

本学則は平成25年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成25年5月29日から施行する。

附則

本学則は平成25年7月17日から施行する。

附則

本学則は平成25年12月4日から施行する。

附則

本学則は平成26年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成26年10月15日から施行する。

附則

本学則は平成27年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成28年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成29年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成30年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成31年4月1日から施行する。

附則

本学則は令和2年4月1日から施行する。

附則

本学則は令和3年4月1日から施行する。

附則

本学則は令和4年4月1日から施行する。

附則

本学則は令和4年6月1日から施行する。

附則

本学則は令和5年4月1日から施行する。

附則

本学則は令和5年5月10日から施行する。

附則

本学則は令和6年4月1日から施行する。

附則

本学則は令和7年4月1日から施行する。

附則

本学則は令和8年4月1日から施行する。

別表第 1

1－1．医療保健学部 看護学科（平成 20 年度入学生まで適用）～

1－5．医療保健学部 看護学科（平成 24 年度入学生から平成 26 年度入学生まで適用）
 ＜削除＞

1－6．医療保健学部 看護学科（平成 27 年度入学生から平成 29 年度入学生まで適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学	2		2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文学		1		1			15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2	2				15
		社会学		2	2				15
		法学		2	2				15
		歴史		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1		1			15
		家族社会学		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		比較文化論		1		1			15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ		1	1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ		1	1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療のコラボレーション教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液・循環器・消化器・呼吸器・泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格・筋・神経・内分泌・感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論（基礎栄養学）	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学（薬理学）	2		2				15
		医療マネジメント論		2			2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の教育分野	専門支持	病原微生物学	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		治療学総論	1		1				15
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・腎泌尿器系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		生活健康科学		2	2				15
		社会福祉論	2			2			15
		保健医療福祉行政学	2			2			15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		解剖生理学演習		1			1		30
		リラクゼーション論		1			1		15
		医用機器概論		1			1		15
		代替医療論		1			1		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門基幹	看護学概論	3		3				15/30
		生涯発達ケア論	2			2			15
		基礎看護援助方法Ⅰ (身体と生活機能の観察と援助技術の基本－バイタルサインの測定と日常生活の援助①)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅱ (身体と生活機能の観察と援助技術の基本－フィジカルアセスメントと日常生活の援助②)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅲ (治療・診療を受ける対象への援助)	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅳ (健康が障害された対象への援助とチーム活動－基礎)	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅴ (健康が障害された対象への援助とチーム活動－発展)	1				1		30
		クリティカル・シンキングⅠ (論理的アプローチの基礎)	1		1				30
		クリティカル・シンキングⅡ (看護における論理的アプローチ)	1			1			30
		クリティカル・シンキングⅢ (批判的思考の展開)	1				1		15
		チーム活動論	1				1		15
		基礎看護援助実習Ⅰ (生活援助実習)	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ (看護過程実習)	2			2			45
		機能看護学Ⅰ (セルフマネジメント)	2		2				15
		機能看護学Ⅱ (キャリアマネジメント)	1			1			15
		機能看護学Ⅲ (組織とマネジメント)	1				1		30
		機能看護学Ⅳ (トップマネジメント)		1				1	15
	専門展開	母性看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		母性看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		小児看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		小児看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5				5		45
		急性期看護援助論	2			2			15
		慢性期看護援助論	2			2			15
		終生期看護援助論	2				2		15
		急性期・慢性期看護学実習	5				5		45
		老年看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		老年看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		在宅看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	1			1			30
		在宅看護援助論Ⅱ (療養生活援助論)	1				1		30
		老年・在宅看護学実習	5				5		45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門展開	精神看護援助論Ⅰ (精神保健)	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ (精神看護)	1			1			30
		精神看護学実習	3				3		45
		公衆衛生看護援助論Ⅰ (対象別公衆衛生看護活動論)	2		2				15
		公衆衛生看護援助論Ⅱ (公衆衛生看護技術論)		2			2		15
		公衆衛生看護援助論Ⅲ (公衆衛生看護展開論)		3				3	15/30
		保健指導演習	1			1			30
		地域保健活動演習	1			1			30
		公衆衛生看護学実習		4				4	45
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15
	実践統合	国際看護論		1			1		15
		災害看護援助論	1					1	15
		看護の統合実習	2					2	45

1－7. 医療保健学部 看護学科（平成30年度入学生限り適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学	2		2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文学		1		1			15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2	2				15
		社会学		2	2				15
		法学		2	2				15
		歴史		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1		1			15
		家族社会学		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		比較文化論		1		1			15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ		1	1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ		1	1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2		2				15
		医療マネジメント論		2			2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の 教育分野	専門 支持	病原微生物学	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		治療学総論	1		1				15
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・腎泌尿器系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		生活健康科学		2	2				15
		社会福祉論	2			2			15
		保健医療福祉行政学	2			2			15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		解剖生理学演習		1			1		30
		リラクゼーション論		1			1		15
		医用機器概論		1			1		15
		代替医療論		1			1		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専門職 の 教育分野	専門 基幹	看護学概論	3		3				15/30
		生涯発達ケア論	2			2			15
		基礎看護援助方法Ⅰ (身体と生活機能の観察と援助技術の基本－バイタルサインの測定と日常生活の援助①)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅱ (身体と生活機能の観察と援助技術の基本－フィジカルアセスメントと日常生活の援助②)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅲ (治療・診療を受ける対象への援助)	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅳ (健康が障害された対象への援助とチーム活動－基礎)	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅴ (健康が障害された対象への援助とチーム活動－発展)	1				1		30
		クリティカル・シンキングⅠ (論理的アプローチの基礎)	1		1				30
		クリティカル・シンキングⅡ (看護における論理的アプローチ)	1			1			30
		クリティカル・シンキングⅢ (批判的思考の展開)	1				1		15
		チーム活動論	1				1		15
		基礎看護援助実習Ⅰ (生活援助実習)	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ (看護過程実習)	2			2			45
		機能看護学Ⅰ (セルフマネジメント)	2		2				15
		機能看護学Ⅱ (キャリアマネジメント)	1			1			15
		機能看護学Ⅲ (組織とマネジメント)	1				1		30
		機能看護学Ⅳ (トップマネジメント)		1				1	15
	専門 展開	母性看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		母性看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		小児看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		小児看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5				5		45
		急性期看護援助論	2			2			15
		慢性期看護援助論	2			2			15
		終生期看護援助論	2				2		15
		急性期・慢性期看護学実習	5				5		45
		老年看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		老年看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		在宅看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	1			1			30
		在宅看護援助論Ⅱ (療養生活援助論)	1				1		30
		老年・在宅看護学実習	5				5		45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門展開	精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1			1			30
		精神看護学実習	3				3		45
		公衆衛生看護援助論Ⅰ （対象別公衆衛生看護活動論）	2		2				15
		公衆衛生看護援助論Ⅱ （公衆衛生看護技術論）		2			2		15
		公衆衛生看護援助論Ⅲ （公衆衛生看護展開論）		3				3	15/30
		保健指導演習	1			1			30
		地域保健活動演習	1			1			30
		公衆衛生看護学実習		4				4	45
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15
	実践統合	国際看護論		1			1		15
		災害看護援助論	1					1	15
		看護の統合実習	2					2	45
養護教諭教職課程（一種免許状）	教職に関する科目	教職への道※1	2			2			15
		教育原理	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育課程論	1			1			15
		道德教育の理論と方法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	2				2		15
		学校教育相談	2				2		15
		養護実習 事前事後指導	1					1	15
		養護実習	4					4	45
		教職実践演習（養護教諭）	2					2	15
	養護に関する科目	疫学・保健統計学	2			2			15
		保健医療福祉行政学	2			2			15
		公衆衛生学	2			2			15
		公衆衛生看護援助論Ⅰ （対象別公衆衛生看護活動論）	2		2				15
		小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助論）	2			2			15
		養護概論	2				2		15
		学校健康相談	2				2		15
		栄養学総論（基礎栄養学）	2		2				15
		体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）	2		2				15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護に関する科目	体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		病原微生物学	2		2				15
		臨床薬理学（薬理学）	2		2				15
		精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1			1			30
		看護学概論	3		3				15/30
		生涯発達ケア論	2			2			15
		基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ（看護過程実習）	2			2			45
		看護の統合実習	2					2	45
		小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助論）	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5				5		45
		急性期看護援助論	2			2			15
		急性期・慢性期看護学実習	5				5		45
	養護又は教職に関する科目	ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
		クリティカル・シンキングⅡ (看護における論理的アプローチ)	1			1			30
	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		情報リテラシー	2		2				15
許状課程（二種免許状）	養護教諭教職課程	スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		日本国憲法	2				2		15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

1－8.医療保健学部 看護学科（平成31年度入学生から適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学	2		2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文学		1		1			15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2	2				15
		社会学		2	2				15
		法学		2	2				15
		歴史		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1		1			15
		家族社会学		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		比較文化論		1		1			15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ		1	1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ		1	1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2		2				15
		医療マネジメント論		2			2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の 教育分野	専門 支持	病原微生物学	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		治療学総論	1		1				15
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・腎泌尿器系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		生活健康科学		2	2				15
		社会福祉論	2			2			15
		保健医療福祉行政学	2			2			15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		解剖生理学演習		1			1		30
		リラクゼーション論		1			1		15
		医用機器概論		1			1		15
		代替医療論		1			1		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専門職 の 教育分野	専門 基幹	看護学概論	3		3				15/30
		生涯発達ケア論	2			2			15
		基礎看護援助方法Ⅰ (身体と生活機能の観察と援助技術の基本－バイタルサインの測定と日常生活の援助①)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅱ (身体と生活機能の観察と援助技術の基本－フィジカルアセスメントと日常生活の援助②)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅲ (治療・診療を受ける対象への援助)	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅳ (健康が障害された対象への援助とチーム活動－基礎)	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅴ (健康が障害された対象への援助とチーム活動－発展)	1				1		30
		クリティカル・シンキングⅠ (論理的アプローチの基礎)	1		1				30
		クリティカル・シンキングⅡ (看護における論理的アプローチ)	1			1			30
		クリティカル・シンキングⅢ (批判的思考の展開)	1				1		15
		チーム活動論	1				1		15
		基礎看護援助実習Ⅰ (生活援助実習)	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ (看護過程実習)	2			2			45
		機能看護学Ⅰ (セルフマネジメント)	2		2				15
		機能看護学Ⅱ (キャリアマネジメント)	1			1			15
		機能看護学Ⅲ (組織とマネジメント)	1				1		30
		機能看護学Ⅳ (トップマネジメント)		1				1	15
	専門 展開	母性看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		母性看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		小児看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		小児看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5				5		45
		急性期看護援助論	2			2			15
		慢性期看護援助論	2			2			15
		終生期看護援助論	2				2		15
		急性期・慢性期看護学実習	5				5		45
		老年看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		老年看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		在宅看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	1			1			30
		在宅看護援助論Ⅱ (療養生活援助論)	1				1		30
		老年・在宅看護学実習	5				5		45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の 教育分野	専門 展開	精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1			1			30
		精神看護学実習	3				3		45
		公衆衛生看護援助論Ⅰ （対象別公衆衛生看護活動論）	2		2				15
		公衆衛生看護援助論Ⅱ （公衆衛生看護技術論）		2			2		15
		公衆衛生看護援助論Ⅲ （公衆衛生看護展開論）		3				3	15/30
		保健指導演習	1			1			30
		地域保健活動演習	1			1			30
		公衆衛生看護学実習		4				4	45
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15
	実践 統合	国際看護論		1			1		15
		災害看護援助論	1					1	15
		看護の統合実習	2					2	45
養護教諭教職課程（一種免許状）	教育の基礎的 理解に 関する科目	教育原理	1			1			15
		教職論※1	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		特別支援教育の基礎	1				1		15
		教育課程論	1			1			15
	道徳、総合的な学習の時間等の 内容及び生徒指導、教育相談等 に関する科目	道徳教育/総合的な学習の時間の 指導法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	1				1		15
		学校教育相談	2				2		15
	教育実践に 関する科目	養護実習 事前事後指導	1					1	15
		養護実習	4					4	45
		教職実践演習（養護教諭）	2					2	15
	養護に 関する科目	疫学・保健統計学	2			2			15
		保健医療福祉行政学	2			2			15
		公衆衛生学	2			2			15
		公衆衛生看護援助論Ⅰ （対象別公衆衛生看護活動論）	2		2				15
		小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助論）	2			2			15
		養護概論	2				2		15
		学校健康相談	2				2		15
		栄養学総論（基礎栄養学）	2		2				15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護に関する科目	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		病原微生物学	2		2				15
		臨床薬理学（薬理学）	2		2				15
		精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1			1			30
		看護学概論	3		3				15/30
		生涯発達ケア論	2			2			15
		基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ（看護過程実習）	2			2			45
		看護の統合実習	2					2	45
		小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助論）	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5				5		45
		急性期看護援助論	2			2			15
		急性期・慢性期看護学実習	5				5		45
	科目に設定する科目	ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
	第66条の6に定める科目	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		情報リテラシー	2		2				15
許状） 課程（二種免	養護教諭教職	スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		日本国憲法	2				2		15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

1－9.医療保健学部 看護学科（令和4年度入学生から適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学	2		2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文学		1		1			15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2	2				15
		社会学		2	2				15
		法学		2	2				15
		歴史		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1		1			15
		家族社会学		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		比較文化論		1		1			15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ		1	1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ		1	1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2		2				15
		医療マネジメント論		2			2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の 教育分野	専門 支持	病原微生物学	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		治療学総論	1		1				15
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・腎泌尿器系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		生活健康科学		2	2				15
		社会福祉論	2			2			15
		保健医療福祉行政学	2			2			15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		解剖生理学演習		1			1		30
		リラクゼーション論		1			1		15
		医用機器概論		1			1		15
		代替医療論		1			1		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職 の 教育分野	専門 基幹	看護学概論	3		3				15/30
		生涯発達ケア論	2			2			15
		基礎看護援助方法Ⅰ (身体と生活機能の観察と援助技術の基本－バイタルサインの測定と日常生活の援助①)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅱ (身体と生活機能の観察と援助技術の基本－フィジカルアセスメントと日常生活の援助②)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅲ (治療・診療を受ける対象への援助)	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅳ (健康が障害された対象への援助とチーム活動－基礎)	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅴ (健康が障害された対象への援助とチーム活動－発展)	1				1		30
		クリティカル・シンキングⅠ (論理的アプローチの基礎)	1		1				30
		クリティカル・シンキングⅡ (看護における論理的アプローチ)	1			1			30
		クリティカル・シンキングⅢ (批判的思考の展開)	1				1		15
		チーム活動論	1				1		15
		基礎看護援助実習Ⅰ (生活援助実習)	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ (看護過程実習)	2			2			45
		機能看護学Ⅰ (セルフマネジメント)	2		2				15
		機能看護学Ⅱ (キャリアマネジメント)	1			1			15
		機能看護学Ⅲ (組織とマネジメント)	1				1		30
		機能看護学Ⅳ (トップマネジメント)		1				1	15
	専門 展開	母性看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		母性看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		小児看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		小児看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5				5		45
		急性期看護援助論	2			2			15
		慢性期看護援助論	2			2			15
		終生期看護援助論	2				2		15
		急性期・慢性期看護学実習	5				5		45
		老年看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		老年看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		在宅看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	1			1			30
		在宅看護援助論Ⅱ (療養生活援助論)	1				1		30
		老年・在宅看護学実習	5				5		45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門展開	精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1			1			30
		精神看護学実習	3				3		45
		公衆衛生看護援助論Ⅰ （対象別公衆衛生看護活動論）	2		2				15
		公衆衛生看護援助論Ⅱ （公衆衛生看護活動展開論）		2			2		15
		公衆衛生看護援助論Ⅲ （公衆衛生看護管理論）		3			1		15
		保健指導演習	1			1			30
		地域保健活動演習	1			1			30
		公衆衛生看護学演習Ⅰ （健康危機管理演習）		1		1			30
		公衆衛生看護学演習Ⅱ （家庭訪問演習）		1			1		30
		公衆衛生看護学演習Ⅲ （地域組織活動演習）		1			1		30
		公衆衛生看護学演習Ⅳ （公衆衛生看護展開演習）		2				2	30
		公衆衛生看護学実習		4				4	45
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15
	実践統合	国際看護論		1			1		15
		災害看護援助論	1					1	15
		看護の統合実習	2					2	45
		看護研究		1				1	15
養護教諭教職課程（一種免許状）	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	1			1			15
		教職論※1	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		特別支援教育の基礎	1				1		15
		教育課程論	1			1			15
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	1				1		15
		学校教育相談	2				2		15
		養護実習 事前事後指導	1					1	15
	教育実践に関する科目	養護実習	4					4	45
		教職実践演習（養護教諭）	2					2	15
		疫学・保健統計学	2			2			15
	養護に関する科目	保健医療福祉行政学	2			2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護に関する科目	公衆衛生学	2			2			15
		公衆衛生看護援助論Ⅰ (対象別公衆衛生看護活動論)	2		2				15
		小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助論）	2			2			15
		養護概論	2				2		15
		学校健康相談	2				2		15
		栄養学総論（基礎栄養学）	2		2				15
		体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		病原微生物学	2		2				15
		臨床薬理学（薬理学）	2		2				15
		精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1			1			30
		看護学概論	3		3				15/30
		生涯発達ケア論	2			2			15
		基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ（看護過程実習）	2			2			45
		看護の統合実習	2					2	45
		小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助論）	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5				5		45
		急性期看護援助論	2			2			15
		急性期・慢性期看護学実習	5				5		45
	大学が独自に設定する科目	ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
	第66条の6に定める科目	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		情報リテラシー	2		2				15
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護教諭教職課程（二種免許状）	スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		日本国憲法	2				2		15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

1－10. 医療保健学部 看護学科（令和5年度入学生から適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学	2		2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文学		1		1			15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2	2				15
		社会学		2	2				15
		法学		2	2				15
		歴史		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1		1			15
		家族社会学		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		比較文化論		1		1			15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ		1	1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ		1	1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療のコラボレーション教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2		2				15
		医療マネジメント論		2			2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の教育分野	専門 支持	病原微生物学	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		治療学総論	1		1				15
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・腎泌尿器系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		生活健康科学		2	2				15
		社会福祉論	2			2			15
		保健医療福祉行政学	2			2			15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		解剖生理学演習		1			1		30
		リラクゼーション論		1			1		15
		医用機器概論		1			1		15
		代替医療論		1			1		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職 の教育分野	専門基幹	看護学概論	3		3				15/30
		生涯発達ケア論	2			2			15
		基礎看護援助方法Ⅰ (身体と生活機能の観察と援助技術の基本－バイタルサインの測定と日常生活の援助①)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅱ (身体と生活機能の観察と援助技術の基本－フィジカルアセスメントと日常生活の援助②)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅲ (治療・診療を受ける対象への援助)	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅳ (健康が障害された対象への援助とチーム活動－基礎)	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅴ (健康が障害された対象への援助とチーム活動－発展)	1				1		30
		クリティカル・シンキングⅠ (論理的アプローチの基礎)	1		1				30
		クリティカル・シンキングⅡ (看護における論理的アプローチ)	1			1			30
		クリティカル・シンキングⅢ (批判的思考の展開)	1				1		15
		チーム活動論	1				1		15
		基礎看護援助実習Ⅰ (生活援助実習)	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ (看護過程実習)	2			2			45
		機能看護学Ⅰ (セルフマネジメント)	2		2				15
		機能看護学Ⅱ (キャリアマネジメント)	1			1			15
		機能看護学Ⅲ (組織とマネジメント)	1				1		30
		機能看護学Ⅳ (トップマネジメント)		1				1	15
	専門展開	母性看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		母性看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		小児看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		小児看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5				5		45
		急性期看護援助論	2			2			15
		慢性期看護援助論	2			2			15
		終生期看護援助論	2				2		15
		急性期・慢性期看護学実習	5				5		45
		老年看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	2			2			15
		老年看護援助論Ⅱ (臨床看護援助論)	1				1		30
		在宅看護援助論Ⅰ (健康生活援助論)	1			1			30
		在宅看護援助論Ⅱ (療養生活援助論)	1				1		30
		老年・在宅看護学実習	5				5		45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門展開	精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1			1			30
		精神看護学実習	3				3		45
		公衆衛生看護援助論Ⅰ （対象別公衆衛生看護活動論）	2		2				15
		公衆衛生看護援助論Ⅱ （公衆衛生看護活動展開論）		2			2		15
		公衆衛生看護援助論Ⅲ （公衆衛生看護管理論）		3			1		15
		保健指導演習	1			1			30
		地域保健活動演習	1			1			30
		公衆衛生看護学演習Ⅰ （健康危機管理演習）		1		1			30
		公衆衛生看護学演習Ⅱ （家庭訪問演習）		1			1		30
		公衆衛生看護学演習Ⅲ （地域組織活動演習）		1			1		30
		公衆衛生看護学演習Ⅳ （公衆衛生看護展開演習）		2				2	30
		公衆衛生看護学実習		4				4	45
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15
	実践統合	国際看護論		1	1	1	1		15
		災害看護援助論	1					1	15
		看護の統合実習	2					2	45
		看護研究		1				1	15
養護教諭教職課程（一種免許状）	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	1			1			15
		教職論※1	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		特別支援教育の基礎	1				1		15
		教育課程論	1			1			15
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	1				1		15
		学校教育相談	2				2		15
		養護実習 事前事後指導	1					1	15
	教育実践に関する科目	養護実習	4					4	45
		教職実践演習（養護教諭）	2					2	15
		疫学・保健統計学	2			2			15
	養護に関する科目	保健医療福祉行政学	2			2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護に関する科目	公衆衛生学	2			2			15
		公衆衛生看護援助論Ⅰ (対象別公衆衛生看護活動論)	2		2				15
		小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助論）	2			2			15
		養護概論	2				2		15
		学校健康相談	2				2		15
		栄養学総論（基礎栄養学）	2		2				15
		体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		病原微生物学	2		2				15
		臨床薬理学（薬理学）	2		2				15
		精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1			1			30
		看護学概論	3		3				15/30
		生涯発達ケア論	2			2			15
		基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ（看護過程実習）	2			2			45
		看護の統合実習	2					2	45
		小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助論）	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5				5		45
		急性期看護援助論	2			2			15
		急性期・慢性期看護学実習	5				5		45
	大学が独自に設定する科目	ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
	第66条の6に定める科目	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		情報リテラシー	2		2				15
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護教諭教職課程（二種免許状）	スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		日本国憲法	2				2		15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

- 2-1. 医療保健学部 医療栄養学科（平成 18 年度及び平成 19 年度入学生限り適用）～
 2-7. 医療保健学部 医療栄養学科（平成 27 年度入学生限り適用）＜削除＞
 2-8. 医療保健学部 医療栄養学科（平成 28 年度入学生及び平成 29 年度入学生に限り適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学		2	2				15
		哲学と宗教	2		2				15
		文学		1		1			15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2	2				15
		社会学		2	2				15
		法学		2	2				15
		歴史		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1		1			15
		家族社会学		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		比較文化論		1		1			15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ	1		1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ	1		1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2				2		15
		医療マネジメント論	2				2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の 教育分野	専門基礎	健康管理概論	2		2				15
		社会福祉総論	2		2				15
		食育論		1	1				15
		食文化論		1	1				15
		病理学Ⅰ (病態の系統的理解)	2			2			15
		病理学Ⅱ (病態の評価・診断)	2				2		15
		生化学Ⅰ (生体物質の構造と機能)	2			2			15
		生化学Ⅱ (生体物質の代謝)	2			2			15
		微生物学	2			2			15
		分子病態学	2				2		15
		解剖生理学実習	1			1			45
		生化学実験Ⅰ (生体物質の分析)	1			1			45
		生化学実験Ⅱ (生体物質の発現・代謝分析)	1				1		45
		薬物療法学		1				1	15
		病態生化学		1				1	15
		臨床検査学		2				2	15
		食品学Ⅰ (総論・食品の構成・生理および栄養機能)	2		2				15
		食品学Ⅱ (各論・食品の種類、性状、栄養特性・加工)	2			2			15
		食品衛生学	2			2			15
		食安全学		2				2	15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門基礎	調理学	2		2				15
		食品化学実験	1		1				45
		食品学実験	1		1				45
		食品加工学実習	1				1		45
		食品衛生学実験	1			1			45
		調理学実習Ⅰ（基本調理・日本食の理解）	1		1				45
		調理学実習Ⅱ（応用調理・食文化と献立作成）	1		1				45
		食品機能学		1			1		15
		サプリメント論		1				1	15
		調理科学実験	1			1			45
		食品流通論		2			2		15
		フードスペシャリスト論		2			2		15
		フードコーディネーター論		2			2		15
		食品の官能評価・鑑別論		1		1			15
	基礎栄養学	基礎栄養学特講	1			1			15
		栄養生理学実験	1				1		45
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ（基本的理解・総論）	2			2			15
		応用栄養学Ⅱ（応用・特殊環境と栄養・実践）	2			2			15
		運動栄養学	1				1		15
		アスリート栄養学		1			1		15
		栄養学演習	1		1				30
		応用栄養学実習Ⅰ （ライフステージ別食事管理）	1			1			45
		応用栄養学実習Ⅱ （ライフステージ別栄養管理）	1			1			45
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ（基礎）	2			2			15
		栄養教育論Ⅱ （応用・ライフステージ別栄養教育）	2			2			15
		栄養教育論Ⅲ （応用・要介護者の栄養管理とカウンセリング）	2				2		15
		栄養教育論実習Ⅰ （基礎・ライフステージ別栄養教育）	1			1			45
		栄養教育論実習Ⅱ （応用・症例に基づく栄養教育）	1				1		45
		カウンセリング論		1				1	15
	臨床栄養学	医療栄養学概論	2				2		15
		臨床栄養学Ⅰ（臨床症候と栄養障害の評価）	2			2			15
		臨床栄養学Ⅱ（疾患別・病態別栄養管理）	2				2		15
		臨床栄養学Ⅲ（チーム医療における栄養管理）	2				2		15
		臨床栄養学実習Ⅰ（基礎）	1				1		45
		臨床栄養学実習Ⅱ（応用と実践）	1				1		45
		臨床栄養実践演習		1				1	30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職 の教育分野	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ (地域栄養の現状と課題・公衆栄養マネジメント)	2				2		15
		公衆栄養学Ⅱ (国内外の健康・栄養施策・栄養疫学)	2				2		15
		公衆栄養学実習	1				1		45
		地域栄養学実習		1			1		45
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ (基礎)	2			2			15
		給食経営管理論Ⅱ (応用・実践・施設別給食管理)	2			2			15
		給食経営管理論実習	1			1			45
	総合演習	総合演習Ⅰ (基礎)	1					1	30
		総合演習Ⅱ (応用・総合)	1					1	30
	臨地実習	臨地実習Ⅰ (給食経営管理)	1	選択 必修			1		45
		臨地実習Ⅱ (公衆栄養学)	1				1		45
		臨地実習Ⅲ (給食の運営・臨床栄養学・給食経営管理)	3					3	45
		総合学習Ⅰ (食べ物・栄養と健康)	1		1				15
		総合学習Ⅱ (食べ物・栄養と疾病・治療)	1			1			15
		卒業研究		4				4	30

※選択必修:「臨地実習Ⅰ(給食経営管理)」及び「臨地実習Ⅱ(公衆栄養学)」
については、どちらか一方を必ず選択し、単位を取得しなければならぬ。

2－9．医療保健学部 医療栄養学科（平成30年度入学生限り適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学		2	2				15
		哲学と宗教	2		2				15
		文学		1		1			15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2	2				15
		社会学		2	2				15
		法学		2	2				15
		歴史		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1		1			15
		家族社会学		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		比較文化論		1		1			15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ	1		1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ	1		1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療の コラボ レー ション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2				2		15
		医療マネジメント論	2				2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の 教育分野	専門基礎	健康管理概論	2		2				15
		社会福祉総論	2		2				15
		食育論		1	1				15
		食文化論		1	1				15
		病理学Ⅰ (病態の系統的理解)	2			2			15
		病理学Ⅱ (病態の評価・診断)	2				2		15
		生化学Ⅰ (生体物質の構造と機能)	2			2			15
		生化学Ⅱ (生体物質の代謝)	2			2			15
		微生物学	2			2			15
		分子病態学	2				2		15
		解剖生理学実習	1			1			45
		生化学実験Ⅰ (生体物質の分析)	1			1			45
		生化学実験Ⅱ (生体物質の発現・代謝分析)	1				1		45
		薬物療法学		1				1	15
		病態生化学		1				1	15
		臨床検査学		2				2	15
		食品学Ⅰ (総論・食品の構成・生理および栄養機能)	2		2				15
		食品学Ⅱ (各論・食品の種類、性状、栄養特性・加工)	2			2			15
		食品衛生学	2			2			15
		食安全学		2				2	15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門基礎	調理学	2		2				15
		食品化学実験	1		1				45
		食品学実験	1		1				45
		食品加工学実習	1				1		45
		食品衛生学実験	1			1			45
		調理学実習Ⅰ（基本調理・日本食の理解）	1		1				45
		調理学実習Ⅱ（応用調理・食文化と献立作成）	1		1				45
		食品機能学		1			1		15
		サプリメント論		1				1	15
		調理科学実験	1			1			45
		食品流通論		2			2		15
		フードスペシャリスト論		2			2		15
		フードコーディネーター論		2			2		15
		食品の官能評価・鑑別論		1		1			15
	栄養基礎	基礎栄養学特講	1			1			15
		栄養生理学実験	1				1		45
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ（基本的理解・総論）	2			2			15
		応用栄養学Ⅱ（応用・特殊環境と栄養・実践）	2			2			15
		運動栄養学	1				1		15
		アスリート栄養学		1			1		15
		栄養学演習	1		1				30
		応用栄養学実習Ⅰ （ライフステージ別食事管理）	1			1			45
		応用栄養学実習Ⅱ （ライフステージ別栄養管理）	1			1			45
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ（基礎）	2			2			15
		栄養教育論Ⅱ （応用・ライフステージ別栄養教育）	2			2			15
		栄養教育論Ⅲ （応用・要介護者の栄養管理とカウンセリング）	2				2		15
		栄養教育論実習Ⅰ （基礎・ライフステージ別栄養教育）	1			1			45
		栄養教育論実習Ⅱ （応用・症例に基づく栄養教育）	1				1		45
		カウンセリング論		1				1	15
	臨床栄養学	医療栄養学概論	2				2		15
		臨床栄養学Ⅰ（臨床症候と栄養障害の評価）	2			2			15
		臨床栄養学Ⅱ（疾患別・病態別栄養管理）	2				2		15
		臨床栄養学Ⅲ（チーム医療における栄養管理）	2				2		15
		臨床栄養学実習Ⅰ（基礎）	1				1		45
		臨床栄養学実習Ⅱ（応用と実践）	1				1		45
		臨床栄養実践演習		1				1	30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の 教育分野	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ (地域栄養の現状と課題・公衆栄養マネジメント)	2				2		15
		公衆栄養学Ⅱ (国内外の健康・栄養施策・栄養疫学)	2				2		15
		公衆栄養学実習	1				1		45
		地域栄養学実習		1			1		45
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ (基礎)	2			2			15
		給食経営管理論Ⅱ (応用・実践・施設別給食管理)	2			2			15
		給食経営管理論実習	1			1			45
	総合演習	総合演習Ⅰ (基礎)	1					1	30
		総合演習Ⅱ (応用・総合)	1					1	30
	臨地実習	臨地実習Ⅰ (給食経営管理)	1	選択 必修			1		45
		臨地実習Ⅱ (公衆栄養学)	1				1		45
		臨地実習Ⅲ (給食の運営・臨床栄養学・給食経営管理)	3					3	45
		総合学習Ⅰ (食・食べ物・栄養と健康)	1		1				15
		総合学習Ⅱ (食・食べ物・栄養と疾病・治療)	1			1			15
		卒業研究		4				4	30

※選択必修：「臨地実習Ⅰ（給食経営管理）」及び「臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）」については、どちらか一方を必ず選択し、単位を取得しなければならない。

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
栄養教諭 教職課程（二種免許状）	教職に関する科目	教職への道※1	2			2			15
		教育原理	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育課程論	1			1			15
		道德教育の理論と方法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	2				2		15
		学校教育相談	2				2		15
		栄養教育実習 事前事後指導	1					1	15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
栄養教諭教職課程（一種免許状）	教職に関する科目	栄養教育実習	1					1	45
		教職実践演習（栄養教諭）	2					2	15
	栄養に係る教育に関する科目	学校栄養教育論	2				2		15
		学校栄養教育実践演習	2				2		15
	第66条の6に定める科目	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		情報リテラシー	2		2				15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

2-10. 医療保健学部 医療栄養学科（平成31年度入学生から令和5年度入学生まで適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学		2	2				15
		哲学と宗教	2		2				15
		文学		1		1			15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2	2				15
		社会学		2	2				15
		法学		2	2				15
		歴史		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1		1			15
		家族社会学		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		比較文化論		1		1			15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ	1		1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ	1		1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療の コラボ レー ション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2				2		15
		医療マネジメント論	2				2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の 教育分野	専門基礎	健康管理概論	2		2				15
		社会福祉総論	2		2				15
		食育論		1	1				15
		食文化論		1	1				15
		病理学Ⅰ (病態の系統的理解)	2			2			15
		病理学Ⅱ (病態の評価・診断)	2				2		15
		生化学Ⅰ (生体物質の構造と機能)	2			2			15
		生化学Ⅱ (生体物質の代謝)	2			2			15
		微生物学	2			2			15
		分子病態学	2				2		15
		解剖生理学実習	1			1			45
		生化学実験Ⅰ (生体物質の分析)	1			1			45
		生化学実験Ⅱ (生体物質の発現・代謝分析)	1				1		45
		薬物療法学		1				1	15
		病態生化学		1				1	15
		臨床検査学		2				2	15
		食品学Ⅰ (総論・食品の構成・生理および栄養機能)	2		2				15
		食品学Ⅱ (各論・食品の種類、性状、栄養特性・加工)	2			2			15
		食品衛生学	2			2			15
		食安全学		2				2	15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門基礎	調理学	2		2				15
		食品化学実験	1		1				45
		食品学実験	1		1				45
		食品加工学実習	1				1		45
		食品衛生学実験	1			1			45
		調理学実習Ⅰ（基本調理・日本食の理解）	1		1				45
		調理学実習Ⅱ（応用調理・食文化と献立作成）	1		1				45
		食品機能学		1			1		15
		サプリメント論		1				1	15
		調理科学実験	1			1			45
		食品流通論		2			2		15
		フードスペシャリスト論		2			2		15
		フードコーディネーター論		2			2		15
		食品の官能評価・鑑別論		1		1			15
	栄養基礎	基礎栄養学特講	1			1			15
		栄養生理学実験	1				1		45
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ（基本的理解・総論）	2			2			15
		応用栄養学Ⅱ（応用・特殊環境と栄養・実践）	2			2			15
		運動栄養学	1				1		15
		アスリート栄養学		1			1		15
		栄養学演習	1		1				30
		応用栄養学実習Ⅰ （ライフステージ別食事管理）	1			1			45
		応用栄養学実習Ⅱ （ライフステージ別栄養管理）	1			1			45
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ（基礎）	2			2			15
		栄養教育論Ⅱ （応用・ライフステージ別栄養教育）	2			2			15
		栄養教育論Ⅲ （応用・要介護者の栄養管理とカウンセリング）	2				2		15
		栄養教育論実習Ⅰ （基礎・ライフステージ別栄養教育）	1			1			45
		栄養教育論実習Ⅱ （応用・症例に基づく栄養教育）	1				1		45
		カウンセリング論		1				1	15
	臨床栄養学	医療栄養学概論	2				2		15
		臨床栄養学Ⅰ（臨床症候と栄養障害の評価）	2			2			15
		臨床栄養学Ⅱ（疾患別・病態別栄養管理）	2				2		15
		臨床栄養学Ⅲ（チーム医療における栄養管理）	2				2		15
		臨床栄養学実習Ⅰ（基礎）	1				1		45
		臨床栄養学実習Ⅱ（応用と実践）	1				1		45
		臨床栄養実践演習		1				1	30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職 の教育分野	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ (地域栄養の現状と課題・公衆栄養マネジメント)	2				2		15
		公衆栄養学Ⅱ (国内外の健康・栄養施策・栄養疫学)	2				2		15
		公衆栄養学実習	1				1		45
		地域栄養学実習		1			1		45
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ (基礎)	2			2			15
		給食経営管理論Ⅱ (応用・実践・施設別給食管理)	2			2			15
		給食経営管理論実習	1			1			45
	総合演習	総合演習Ⅰ (基礎)	1					1	30
		総合演習Ⅱ (応用・総合)	1					1	30
	臨地実習	臨地実習Ⅰ (給食経営管理)	1	選択 必修			1		45
		臨地実習Ⅱ (公衆栄養学)	1				1		45
		臨地実習Ⅲ (給食の運営・臨床栄養学・給食経営管理)	3					3	45
		総合学習Ⅰ (食・食べ物・栄養と健康)	1		1				15
		総合学習Ⅱ (食・食べ物・栄養と疾病・治療)	1			1			15
		卒業研究		4				4	30

※選択必修：「臨地実習Ⅰ（給食経営管理）」及び「臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）」については、どちらか一方を必ず選択し、単位を取得しなければならない。

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
栄養教諭教職課程 (二種免許状)	教育の基礎的理解に 関する科目	教育原理	1			1			15
		教職論※1	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		特別支援教育の基礎	1				1		15
		教育課程論	1			1			15
	道徳、総合的な学習の時間等の 内容及び生徒指導、教育相談等に 関する科目	道徳教育/総合的な学習の時間 の指導法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	1				1		15
		学校教育相談	2				2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
栄養教諭教職課程 (一種免許状)	教育実践に関する 科目	栄養教育実習事前事後指導	1					1	15
		栄養教育実習	1					1	45
		教職実践演習（栄養教諭）	2					2	15
	栄養に係る教育 に関する科目	学校栄養教育論	2				2		15
		学校栄養教育実践演習	2				2		15
	第66条の6に定める科目 教育職員免許法施行規則	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		情報リテラシー	2		2				15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

2-1-1. 医療保健学部 医療栄養学科（令和6年度入学生から適用）

○管理栄養学専攻

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学		2	2				15
		哲学と宗教	2		2				15
		文学		1		1			15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2	2				15
		社会学		2	2				15
		法学		2	2				15
		歴史		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1		1			15
		家族社会学		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		比較文化論		1		1			15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ	1		1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ	1		1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療の コラボ レー ション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2				2		15
		医療マネジメント論	2				2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の 教育分野	専門基礎	健康管理概論	2		2				15
		社会福祉総論	2		2				15
		食育論		1	1				15
		食文化論		1	1				15
		病理学Ⅰ (病態の系統的理解)	2			2			15
		病理学Ⅱ (病態の評価・診断)	2				2		15
		生化学Ⅰ (生体物質の構造と機能)	2			2			15
		生化学Ⅱ (生体物質の代謝)	2			2			15
		微生物学	2			2			15
		分子病態学	2				2		15
		解剖生理学実習	1			1			45
		生化学実験Ⅰ (生体物質の分析)	1			1			45
		生化学実験Ⅱ (生体物質の発現・代謝分析)	1				1		45
		薬物療法学		1				1	15
		病態生化学		1				1	15
		臨床検査学		2				2	15
		食品学Ⅰ (総論・食品の構成・生理および栄養機能)	2		2				15
		食品学Ⅱ (各論・食品の種類、性状、栄養特性・加工)	2			2			15
		食品衛生学	2			2			15
		食安全学		2				2	15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門基礎	調理学	2		2				15
		食品化学実験	1		1				45
		食品学実験	1		1				45
		食品加工学実習	1				1		45
		食品衛生学実験	1			1			45
		調理学実習Ⅰ（基本調理・日本食の理解）	1		1				45
		調理学実習Ⅱ（応用調理・食文化と献立作成）	1		1				45
		食品機能学		1			1		15
		サプリメント論		1				1	15
		調理科学実験	1			1			45
		食品流通論		2			2		15
		フードスペシャリスト論		2			2		15
		フードコーディネーター論		2			2		15
		食品の官能評価・鑑別論		1		1			15
	栄養基礎	基礎栄養学特講	1			1			15
		栄養生理学実験	1				1		45
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ（基本的理解・総論）	2			2			15
		応用栄養学Ⅱ（応用・特殊環境と栄養・実践）	2			2			15
		運動栄養学	1				1		15
		アスリート栄養学		1			1		15
		栄養学演習	1		1				30
		応用栄養学実習Ⅰ （ライフステージ別食事管理）	1			1			45
		応用栄養学実習Ⅱ （ライフステージ別栄養管理）	1			1			45
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ（基礎）	2			2			15
		栄養教育論Ⅱ （応用・ライフステージ別栄養教育）	2			2			15
		栄養教育論Ⅲ （応用・要介護者の栄養管理とカウンセリング）	2				2		15
		栄養教育論実習Ⅰ （基礎・ライフステージ別栄養教育）	1			1			45
		栄養教育論実習Ⅱ （応用・症例に基づく栄養教育）	1				1		45
		カウンセリング論		1				1	15
	臨床栄養学	医療栄養学概論	2				2		15
		臨床栄養学Ⅰ（臨床症候と栄養障害の評価）	2			2			15
		臨床栄養学Ⅱ（疾患別・病態別栄養管理）	2				2		15
		臨床栄養学Ⅲ（チーム医療における栄養管理）	2				2		15
		臨床栄養学実習Ⅰ（基礎）	1				1		45
		臨床栄養学実習Ⅱ（応用と実践）	1				1		45
		臨床栄養実践演習		1				1	30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ (地域栄養の現状と課題・公衆栄養マネジメント)	2				2		15
		公衆栄養学Ⅱ (国内外の健康・栄養施策・栄養疫学)	2				2		15
		公衆栄養学実習	1				1		45
		地域栄養学実習		1			1		45
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ (基礎)	2			2			15
		給食経営管理論Ⅱ (応用・実践・施設別給食管理)	2			2			15
		給食経営管理論実習	1			1			45
	総合演習	総合演習Ⅰ (基礎)	1					1	30
		総合演習Ⅱ (応用・総合)	1					1	30
	臨地実習	臨地実習Ⅰ (給食経営管理)	1	選択 必修			1		45
		臨地実習Ⅱ (公衆栄養学)	1				1		45
		臨地実習Ⅲ (給食の運営・臨床栄養学・給食経営管理)	3					3	45
		総合学習Ⅰ (食べ物・栄養と健康)	1		1				15
		総合学習Ⅱ (食べ物・栄養と疾病・治療)	1			1			15
		卒業研究		4				4	30
		実用国語		1	1				15

※選択必修：「臨地実習Ⅰ（給食経営管理）」及び「臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）」については、どちらか一方を必ず選択し、単位を取得しなければならない。

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
栄養教諭教職課程（一種免許状）	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	1			1			15
		教職論※1	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		特別支援教育の基礎	1				1		15
		教育課程論	1			1			15
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	1				1		15
		学校教育相談	2				2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
栄養教諭教職課程 (一種免許状)	教育実践に関する 科目	栄養教育実習事前事後指導	1					1	15
		栄養教育実習	1					1	45
		教職実践演習（栄養教諭）	2					2	15
	栄養に係る教育 に関する科目	学校栄養教育論	2				2		15
		学校栄養教育実践演習	2				2		15
	第66条の6に定める科目 教育職員免許法施行規則	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		情報リテラシー	2		2				15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

2-12. 医療保健学部 医療栄養学科（令和6年度入学生から適用）

○臨床検査学専攻

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学		2	2				15
		哲学と宗教	2		2				15
		文学		1		1			15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2	2				15
		社会学		2	2				15
		法学		2	2				15
		歴史		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1		1			15
		家族社会学		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		比較文化論		1		1			15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ	1		1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ	1		1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学	2		2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療の コラボレ ーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)		2		2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論		1	1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2				2		15
		医療マネジメント論		2			2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ		1			1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論		1	1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門基礎 分野	社会・環境と健康	健康管理概論		2	2				15
		社会福祉総論		2	2				15
		食育論		1	1				15
		食文化論		1	1				15
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	病理学Ⅰ	2			2			15
		病理学Ⅱ	2				2		15
		生化学Ⅰ		2		2			15
		生化学Ⅱ		2		2			15
		微生物学	2			2			15
		分子病態学		2			2		15
		解剖生理学実習	1			1			45
		生化学実験Ⅰ	1			1			45
		生化学実験Ⅱ		1			1		45
		薬物療法学		1				1	15
		病態生化学		1				1	15
		臨床検査学		1				1	15
専門応用 分野	病態学	臨床検査生化学	2			2			15
		臨床検査医学総論	2				2		15
		薬理学	2		2				15
		臨床検査栄養学	2			2			15
		チーム医療概論	1					1	15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門応用分野	公衆衛生	医学概論	1		1				15
		臨床検査関係法規	1			1			15
	医用工学概論	医用工学・情報科学概論	2			2			15
		医用工学実習	1			1			45
		検査機器総論	2			2			15
	血液検査	血液検査学総論	2			2			15
		血液検査学	2			2			15
		血液検査学実習	1				1		45
	病理検査	病理検査学	2			2			15
		病理細胞検査学	2				2		15
		病理検査学実習	1				1		45
	尿・糞便等 一般検査学	一般検査学・寄生虫検査学	2			2			15
		一般検査学・寄生虫検査学実習	1			1			45
	生化学検査学・ 免疫検査学	生化学検査学	2			2			15
		免疫検査学	2			2			15
		生化学検査学実習	1				1		45
		免疫検査学実習	1				1		45
	遺伝子関 連・染色体 検査学	遺伝子関連・染色体検査学	2			2			15
		遺伝子関連・染色体検査学実習	1				1		45
	輸血・移植検査	輸血・移植検査学	2				2		15
		輸血・移植検査学実習	1				1		45
		輸血・移植検査学演習	1				1		15
	微生物検査学	微生物検査学Ⅰ	2			2			15
		微生物検査学Ⅱ	2				2		15
		微生物検査学実習	2				2		45
	生理検査学	生理検査学Ⅰ	2				2		15
		生理検査学Ⅱ	2				2		15
		生理検査学Ⅲ	2				2		15
		生理検査学実習Ⅰ	1				1		45
		生理検査学実習Ⅱ	1				1		45
		生理検査学実習Ⅲ	1					1	45
		生理検査学演習	2					2	15
	臨床検査総合管理学	検査管理総論	2				2		15
		検査精度管理学	2					2	15
		臨床検査総合演習Ⅰ	1					1	15
		臨床検査総合演習Ⅱ	1					1	15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門 応用 分野	医療 安全	臨床検査医療安全管理学実習	1					1	45
		臨床検査医療安全学	2				2		15
	その他上記科目に おける臨地実習	臨地実習前評価	1					1	45
		生理検査学に関する臨地実習	3					3	45
		生理検査学以外の臨地実習	8					8	45
		卒業研究		4				4	30
		実用国語		1	1				15

3-1. 医療保健学部 医療情報学科（平成 18 年度入学生限り適用）～

3-10. 医療保健学部 医療情報学科（平成 27 年度入学生限り適用）＜削除＞

3-11. 医療保健学部 医療情報学科（平成 28 年度入学生から平成 31 年度入学生まで適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学		2	2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文学		1				1	15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2			2		15
		経済学		2			2		15
		社会学		2			2		15
		法学		2			2		15
		歴史		2				2	15
		国際関係論		1				1	15
		認知科学		1				1	15
		人間関係論		1				1	15
		家族社会学		1				1	15
		ジェンダー論		1				1	15
		比較文化論		1				1	15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ		1	1				15
		データサイエンス	2			2			15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ		1	1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2		2			15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学	2		2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2				2		15
		医療マネジメント論	2				2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の 教育分野	情報 技術 系	コンピュータシステムⅠ (ハードウェア)	2		2				15
		コンピュータシステムⅡ (ソフトウェア)	2		2				15
		IT 入門Ⅰ (ストラテジおよびマネジメント)	1		1				30
		IT 入門Ⅱ (テクノロジー)	1		1				30
		情報ワークショップⅠ (ハードウェア)	1		1				45
		情報ワークショップⅡ (ソフトウェア)	1		1				45
		通信ネットワーク	2		2				15
		情報数学		2	2				15
		プログラミング演習Ⅰ (C#初級)	2		2				30
		プログラミング演習Ⅱ (C#中級)	2			2			30
		プログラミング演習Ⅲ (C#上級)	2			2			30
		データ構造とアルゴリズム	1			1			30
		情報基礎実験Ⅰ (情報システム基盤)	1			1			45
		情報基礎実験Ⅱ (サーバ構築)	1			1			45
		データベース演習Ⅰ (RDB)	1			1			30
		データベース演習Ⅱ (SQL)	2			2			30
		情報応用演習Ⅰ	択一 選択	2			2		30
		情報応用演習Ⅱ		2			2		30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の 教育分野	情報技術系	情報セキュリティ	2				2		15
		情報システム開発論Ⅰ		2			2		15
		情報システム開発論Ⅱ		2			2		15
		情報処理技術Ⅰ（基盤の情報処理技術）		1			1		30
		情報処理技術Ⅱ（実践的アルゴリズム）		1			1		30
		情報システム運用管理論		2			2		15
		医用画像処理工学		2			2		15
		マルチメディア工学		2			2		15
	医学医療系	臨床医学総論	1		1				15
		臨床医学各論Ⅰ（感染症および寄生虫症）	1		1				15
		臨床医学各論Ⅱ（新生物）	1		1				15
		臨床医学各論Ⅲ（血液・代謝・内分泌等）	1		1				15
		臨床医学各論Ⅳ（脳神経・感覚器等）	1		1				15
		臨床医学各論Ⅴ（循環器・呼吸器系）	1			1			15
		臨床医学各論Ⅵ（消化器・泌尿器系）	1			1			15
		臨床医学各論Ⅶ（周産期系）	1			1			15
		臨床医学各論Ⅷ（筋骨格系）	1			1			15
		医学用語	1			1			15
		応用臨床医学Ⅰ		1		1			30
		応用臨床医学Ⅱ		1			1		30
		応用臨床医学Ⅲ		1			1		30
		診療情報論演習Ⅰ（診療録の臨床的理解）	1			1			30
		診療情報論演習Ⅱ（病院情報システム）	1			1			30
		医療管理総論（病院管理）	1			1			15
		医療管理各論（医療制度と医療評価）	2			2			15
		診療情報管理論	2			2			15
		医療管理演習（診療報酬制度）	1			1			30

※「情報応用演習Ⅰ・情報応用演習Ⅱ」及び「応用国際疾病分類法Ⅰ・応用国際疾病分類法Ⅱ」については、どちらか一方を必ず選択し、単位を取得しなければならない。

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の 教育分野	医学医療系	国際疾病分類法演習Ⅰ		1		1			30
		国際疾病分類法演習Ⅱ		2		2			30
		応用国際疾病分類法Ⅰ	択一 選択	2			2		30
		応用国際疾病分類法Ⅱ		2			2		30
		応用医療管理学		1			1		30
		社会福祉総論	2			2			15
		看護概論	1				1		15
		診療プロセス論Ⅰ（診断支援）	2				2		15
		診療プロセス論Ⅱ（治療支援）	2				2		15
		診療プロセス論Ⅲ（総合支援）	2					2	15
		医療関係法規	2					2	15
	統合系	生体情報演習Ⅰ	2		2				30
		生体情報演習Ⅱ		2		2			30
		医療情報学	1		1				30
		医療情報システム論Ⅰ	1			1			30
		医療情報システム論Ⅱ	1			1			30
		臨床データ分析Ⅰ（臨床研究支援）	1			1			30
		臨床データ分析Ⅱ（疫学研究支援）		1			1		30
		意思決定論		2			2		15
		応用医療情報技術		1			1		30
		医療情報総合演習Ⅰ （文書読解・作文技術）	1		1				30
		医療情報総合演習Ⅱ （医療産業）	1		1				30
		医療情報総合演習Ⅲ （医療情報基礎用語）	1			1			30
		医療情報総合演習Ⅳ （卒業試験）	2					2	30
		医療情報ゼミⅠ（医療情報入門）	2				2		30
		医療情報ゼミⅡ（医療情報応用）	2				2		30
		病院実習		2			2		45
		インターンシップ	2				2		45
		卒業研究		8				8	30

3-1-2. 医療保健学部 医療情報学科（令和2年度入学生から令和4年度入学生まで適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学		2	2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文学		1				1	15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2			2		15
		経済学		2			2		15
		社会学		2			2		15
		法学		2			2		15
		歴史		2				2	15
		国際関係論		1				1	15
		認知科学		1				1	15
		人間関係論		1				1	15
		家族社会学		1				1	15
		ジェンダー論		1				1	15
		比較文化論		1				1	15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ		1	1				15
		データサイエンス	2			2			15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ		1	1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2		2			15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学	2		2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		栄養学総論 (基礎栄養学)	2		2				15
		医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学 (薬理学)	2				2		15
		医療マネジメント論	2				2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の 教育分野	情報 技術系	コンピュータシステムⅠ (ハードウェア)	2		2				15
		コンピュータシステムⅡ (ソフトウェア)	2		2				15
		IT 入門Ⅰ (ストラテジおよびマネジメント)	1		1				30
		IT 入門Ⅱ (テクノロジー)	1		1				30
		情報ワークショップⅠ (ハードウェア)	1		1				45
		情報ワークショップⅡ (ソフトウェア)	1		1				45
		通信ネットワーク	2		2				15
		情報数学		2	2				15
		プログラミング演習Ⅰ (C#初級)	2		2				30
		プログラミング演習Ⅱ (C#中級)	2			2			30
		プログラミング演習Ⅲ (C#上級)	2			2			30
		データ構造とアルゴリズム	1			1			30
		情報基礎実験Ⅰ (情報システム基盤)	1			1			45
		情報基礎実験Ⅱ (サーバ構築)	1			1			45
		データベース演習Ⅰ (RDB)	1			1			30
		データベース演習Ⅱ (SQL)	2			2			30
		情報応用演習Ⅰ	択一 選択	2			2		30
		情報応用演習Ⅱ		2			2		30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の 教育分野	情報技術系	情報セキュリティ	2				2		15
		情報システム開発論Ⅰ		2			2		15
		情報システム開発論Ⅱ		2			2		15
		情報処理技術Ⅰ（基盤的情報処理技術）		1			1		30
		情報処理技術Ⅱ（実践的アルゴリズム）		1			1		30
		情報システム運用管理論		2			2		15
		医用画像処理工学		2			2		15
		マルチメディア工学		2			2		15
	医学医療系	臨床医学総論	1		1				15
		臨床医学各論Ⅰ（感染症および寄生虫症）	1		1				15
		臨床医学各論Ⅱ（新生物）	1		1				15
		臨床医学各論Ⅲ（血液・代謝・内分泌等）	1		1				15
		臨床医学各論Ⅳ（脳神経・感覚器等）	1		1				15
		臨床医学各論Ⅴ（循環器・呼吸器系）	1			1			15
		臨床医学各論Ⅵ（消化器・泌尿器系）	1			1			15
		臨床医学各論Ⅶ（周産期系）	1			1			15
		臨床医学各論Ⅷ（筋骨格系）	1			1			15
		医学用語	1			1			15
		応用臨床医学Ⅰ		1		1			30
		応用臨床医学Ⅱ		1			1		30
		応用臨床医学Ⅲ		1			1		30
		診療情報論演習Ⅰ（診療録の臨床的 理解）	1			1			30
		診療情報論演習Ⅱ（病院情報シス テム）	1			1			30
		医療管理総論（病院管理）	1			1			15
		医療管理各論（医療制度と医療評価）	2			2			15
		診療情報管理論	2			2			15
		医療管理演習（診療報酬制度）	1			1			30

※「情報応用演習Ⅰ・情報応用演習Ⅱ」及び「応用国際疾病分類法Ⅰ・応用国際疾病分類法Ⅱ」については、どちらか一方を必ず選択し、単位を取得しなければならない。

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専門職の 教育分野	医学医療系	国際疾病分類法演習Ⅰ		1		1			30
		国際疾病分類法演習Ⅱ		2		2			30
		応用国際疾病分類法Ⅰ	択一 選択	2			2		30
		応用国際疾病分類法Ⅱ		2			2		30
		応用医療管理学		1			1		30
		社会福祉総論	2			2			15
		看護概論	1				1		15
		診療プロセス論Ⅰ（診断支援）	2				2		15
		診療プロセス論Ⅱ（治療支援）	2				2		15
		診療プロセス論Ⅲ（総合支援）	2					2	15
		医療関係法規	2					2	15
	統合系	生体情報演習Ⅰ	2		2				30
		生体情報演習Ⅱ		1		1			30
		医療情報学	1		1				30
		医療情報システム論	2			2			15
		臨床データ分析Ⅰ（臨床研究支援）	1			1			30
		臨床データ分析Ⅱ（疫学研究支援）		1			1		30
		意思決定論		2			2		15
		応用医療情報技術		1			1		30
		医療情報総合演習Ⅰ （文書読解・作文技術）	1		1				30
		医療情報総合演習Ⅱ （医療産業）	1		1				30
		医療情報総合演習Ⅲ （医療情報基礎用語）	1			1			30
		医療情報総合演習Ⅳ （卒業試験）	2					2	30
		医療情報ゼミⅠ（医療情報入門）	2				2		30
		医療情報ゼミⅡ（医療情報応用）	2				2		30
		病院実習		2			2		45
		インターンシップ		2			2		45
		卒業研究		8				8	30

3-1-3. 医療保健学部 医療情報学科（令和5年度入学生から適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野	いのち・人間	心理学		2	2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文学		1				1	15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
	社会科学	コミュニケーション概論		2			2		15
		経済学		2			2		15
		社会学		2			2		15
		法学		2			2		15
		歴史		2				2	15
		国際関係論		1				1	15
		認知科学		1				1	15
		人間関係論		1				1	15
		家族社会学		1				1	15
		ジェンダー論		1				1	15
		比較文化論		1				1	15
	自然科学	生物Ⅰ		1	1				15
		生物Ⅱ		1	1				15
		データサイエンス	2			2			15
		基礎数学		1	1				15
		物理学		1	1				15
		化学Ⅰ		1	1				15
		化学Ⅱ		1	1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		英会話Ⅲ		2		2			15
		専門英語		2		2			15
		フランス語		2	2				15
		中国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学	2		2				15
		情報通信と保健医療		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ	2		2				15
		公衆衛生学		2		2			15
		栄養学総論	2			2			15
		医療安全管理学	2			2			15
		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
	発展	医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学		2			2		15
		医療マネジメント論		2			2		15
		キャリア教育Ⅱ	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ	1				1		15
	実践	協働実践演習	1					1	30
		ボランティア論		1	1				15
		ボランティア活動		1	1				30
専門職の 教育分野	コンピュータ 科学	コンピュータシステム	2		2				15
		ワークショップ A	2		2				30
		ワークショップ B		2	2				30
		プログラミング演習Ⅰ	2			2			30
		プログラミング演習Ⅱ		2		2			30
		プログラミング演習Ⅲ		2			2		30
		情報基礎演習 A	2			2			30
		情報基礎演習 B		2			2		30
		情報応用演習		2			2		30
		Web デザイン		2			2		30
		マルチメディア工学		2			2		15
		通信ネットワーク	2			2			15
		情報セキュリティ	2				2		15
		情報システム開発論		2			2		15
		情報システム運用管理論		2			2		15
	情報 科学	情報数学		2	2				15
		基礎数学Ⅱ		2	2				15
		データ構造とアルゴリズム		2		2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	情報科学	AI 基礎		2			2		15
		データベース基礎	2			2			15
		データベース応用		2		2			30
		臨床データ分析Ⅰ	2			2			15
		臨床データ分析Ⅱ		2			2		15
		意思決定論		2			2		15
	医療情報	診療情報論Ⅰ	2			2			15
		診療情報論Ⅱ		2		2			15
		疾病分類演習Ⅰ		1		1			30
		疾病分類演習Ⅱ		2		2			30
		応用疾病分類演習Ⅰ		2			2		30
		応用疾病分類演習Ⅱ		2			2		30
		医療情報学概論	2		2				15
		医療情報システム論	2			2			15
		生体情報演習	2		2				30
		ワークショップC		2		2			30
		ワークショップD		2		2			30
		医療シミュレーション		1		1			30
		医用画像処理工学		2			2		15
		企業実習		2			2		45
		基礎ゼミⅠ	1		1				30
		基礎ゼミⅡ	1		1				30
		応用ゼミⅠ	1				1		30
		応用ゼミⅡ	2				2		30
		応用ゼミⅢ	2					2	30
		卒業研究		4				4	30
	ヘルスケア	看護概論	1				1		15
		社会福祉総論		2			2		15
		臨床医学総論	2		2				15
		臨床医学各論A		2		2			15
		臨床医学各論B		2		2			15
		臨床医学各論C		2			2		15
		臨床医学各論D		2			2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専門職の 教育分野	ヘルスケア	診療プロセス論 A	2		2				15
		診療プロセス論 B		2		2			15
		臨床検査概論		2			2		15
		医療関係法規		2			2		15
		医療制度論	1		1				15
		医事会計論		2		2			15
		病院管理概論	2			2			15
		診療情報管理論	2			2			15
		病院実習		2			2		45

4-1. 医療保健学部 医療保健学科（令和8年度入学生から適用）

○管理栄養学専攻

科目群	分類	区分	科目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療保健学科共通科目群	いのち・人間の教育分野	いのち・人間	哲学と宗教	2		2				15
			心理学		2	2				15
			文学		1		1			15
			生命倫理学		1	1				15
			医療と人間		1	1				15
		社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
			経済学		2	2				15
			社会学		2	2				15
			法学		2	2				15
			歴史		2	2				15
			国際関係論		1		1			15
			認知科学		1	1				15
			人間関係論		1		1			15
			家族社会学		1		1			15
			ジェンダー論		1		1			15
			比較文化論		1		1			15
		自然科学	基礎生物		1	1				15
			データサイエンス	2		2				15
			基礎数学		1	1				15
			物理学		1	1				15
			基礎化学		1	1				15
			スポーツ科学		1	1	1	1		15
			スポーツ実習		1	1	1	1		30

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療保健学科共通科目群	いのち・人間の教育分野	外国語	英語講読・記述	2		2				15
			英会話Ⅰ	2		2				15
			英会話Ⅱ	2		2				15
			英会話Ⅲ		2		2			15
			専門英語		2			2		15
			フランス語		2	2				15
			中国語		2	2				15
		情報科学	情報リテラシー	2		2				15
			情報科学	2		2				15
			情報通信と保健医療		2		2			15
管理栄養学専攻科目群	医療のコラボレーション教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
			体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
			公衆衛生学	2			2			15
			栄養学総論（基礎栄養学）	2		2				15
			医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
			応用生物	1		1				15
			応用化学	1		1				15
			キャリア教育Ⅰ	1		1				15
		発展	医学・医療概論	1		1				15
			臨床薬理学（薬理学）	2				2		15
			医療マネジメント論	2				2		15
			キャリア教育Ⅱ	1			1			15
			キャリア教育Ⅲ	1				1		15

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
管理栄養学専攻科目群	医療の コラボレーション 教育分野	実践	協働実践演習	1					1	30
			ボランティア論	1		1				15
			ボランティア活動		1	1				30
	専門職の 教育分野	専門基礎	健康管理概論	2		2				15
			社会福祉総論	2		2				15
			食育論		1	1				15
			食文化論		1	1				15
			病理学Ⅰ (病態の系統的理解)	2			2			15
			病理学Ⅱ (病態の評価・診断)	2				2		15
			生化学Ⅰ (生体物質の構造と機能)	2			2			15
			生化学Ⅱ (生体物質の代謝)	2			2			15
			微生物学	2			2			15
			分子病態学	2				2		15
			解剖生理学実習	1			1			45
			生化学実験Ⅰ (生体物質の分析)	1			1			45
			生化学実験Ⅱ (生体物質の発現・代謝分析)	1				1		45
			薬物療法学		1				1	15
			病態生化学		1				1	15
			臨床検査学		2				2	15
			食品学Ⅰ (総論・食品の構成・生理および栄養機能)	2		2				15
			食品学Ⅱ (各論・食品の種類、性状、栄養特性・加工)	2			2			15
			食品衛生学	2			2			15
			食安全学		2				2	15

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	専門基礎	調理学	2		2				15
			食品化学実験	1		1				45
			食品学実験	1		1				45
			食品加工学実習	1				1		45
			食品衛生学実験	1			1			45
			調理学実習Ⅰ (基本調理・日本食の理解)	1		1				45
			調理学実習Ⅱ (応用調理・食文化と献立作成)	1		1				45
			食品機能学		1			1		15
			サプリメント論		1				1	15
			調理科学実験	1			1			45
			食品流通論		2			2		15
			フーズスペシャリスト論		2			2		15
			フードコーディネート論		2			2		15
			食品の官能評価・鑑別論		1		1			15
		基礎栄養学	基礎栄養学特講	1			1			15
			栄養生理学実験	1				1		45
		応用栄養学	応用栄養学Ⅰ (基本的理解・総論)	2			2			15
			応用栄養学Ⅱ (応用・特殊環境と栄養・実践)	2			2			15
			運動栄養学	1				1		15
			アスリート栄養学		1			1		15
			栄養学演習	1		1				30
			応用栄養学実習Ⅰ (ライフステージ別食事管理)	1			1			45
			応用栄養学実習Ⅱ (ライフステージ別栄養管理)	1			1			45

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ（基礎）	2			2			15
			栄養教育論Ⅱ （応用・ライフステージ別栄養教育）	2			2			15
			栄養教育論Ⅲ （応用・要介護者の栄養管理とカウンセリング）	2				2		15
			栄養教育論実習Ⅰ （基礎・ライフステージ別栄養教育）	1			1			45
			栄養教育論実習Ⅱ （応用・症例に基づく栄養教育）	1				1		45
			カウンセリング論		1			1		15
		臨床栄養学	医療栄養学概論	2				2		15
			臨床栄養学Ⅰ （臨床症候と栄養障害の評価）	2			2			15
			臨床栄養学Ⅱ （疾患別・病態別栄養管理）	2				2		15
			臨床栄養学Ⅲ （チーム医療における栄養管理）	2				2		15
			臨床栄養学実習Ⅰ（基礎）	1				1		45
			臨床栄養学実習Ⅱ （応用と実践）	1				1		45
			臨床栄養実践演習		1				1	30
		公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ （地域栄養の現状と課題・公衆栄養マネジメント）	2				2		15
			公衆栄養学Ⅱ （国内外の健康・栄養施策・栄養疫学）	2				2		15
			公衆栄養学実習	1				1		45
			地域栄養学実習		1			1		45
		給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ（基礎）	2			2			15
			給食経営管理論Ⅱ （応用・実践・施設別給食管理）	2			2			15
			給食経営管理論実習	1			1			45
		総合演習	総合演習Ⅰ（基礎）	1					1	30
			総合演習Ⅱ（応用・総合）	1					1	30
		臨地実習	臨地実習Ⅰ（給食経営管理）	選択必修	1			1		45
			臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）		1			1		45

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
管理栄養学専攻科目群	専門職の教育分野	実 習 地	臨地実習Ⅲ (給食の運営・臨床栄養学・給食経営管理)	3					3	45
		そ の 他	総合学習Ⅰ (食べ物・栄養と健康)	1		1				15
			総合学習Ⅱ (食べ物・栄養と疾病・治療)	1			1			15
			卒業研究		4				4	30
			実用国語		1	1				15

※選択必修：「臨地実習Ⅰ（給食経営管理）」及び「臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）」については、どちらか一方を必ず選択し、単位を取得しなければならない。

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
栄養教諭教職課程（一種免許状）	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	1			1			15
		教職論 ※1	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		特別支援教育の基礎	1				1		15
		教育課程論	1			1			15
	内容及び生徒指導、総合的な学習の時間等の科目	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論※1	1			1			15
		生徒指導論	1				1		15
		学校教育相談	2				2		15
	教育実践に関する科目	栄養教育実習事前事後指導	1					1	15
		栄養教育実習	1					1	45
		教職実践演習（栄養教諭）	2					2	15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
栄養教諭教職課程（一種免許状）	栄養に係る教育に関する科目	学校栄養教育論	2				2		15
		学校栄養教育実践演習	2				2		15
	第66条の6に定める科目 教育職員免許法施行規則	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		英会話Ⅰ	2		2				15
		英会話Ⅱ	2		2				15
		情報リテラシー	2		2				15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

4-2. 医療保健学部 医療保健学科（令和8年度入学生から適用）

○臨床検査学専攻

科目群	分類	区分	科目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療保健学科共通科目群	いのち・人間の教育分野	いのち・人間	哲学と宗教	2		2				15
			心理学		2	2				15
			文学		1		1			15
			生命倫理学		1	1				15
			医療と人間		1	1				15
		社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
			経済学		2	2				15
			社会学		2	2				15
			法学		2	2				15
			歴史		2	2				15
			国際関係論		1		1			15
			認知科学		1	1				15
			人間関係論		1		1			15
			家族社会学		1		1			15
			ジェンダー論		1		1			15
			比較文化論		1		1			15
		自然科学	基礎生物		1	1				15
			データサイエンス	2		2				15
			基礎数学		1	1				15
			物理学		1	1				15
			基礎化学		1	1				15
			スポーツ科学		1	1	1	1		15
			スポーツ実習		1	1	1	1		30

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療保健学科共通科目群	いのち・人間の教育分野	外国語	英語講読・記述	2		2				15
			英会話Ⅰ	2		2				15
			英会話Ⅱ	2		2				15
			英会話Ⅲ		2		2			15
			専門英語		2			2		15
			フランス語		2	2				15
			中国語		2	2				15
		情報科学	情報リテラシー	2		2				15
			情報科学	2		2				15
			情報通信と保健医療		2		2			15
臨床検査学専攻科目群	医療のコラボレーション教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
			体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
			公衆衛生学	2			2			15
			栄養学総論（基礎栄養学）	2		2				15
			医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)		2		2			15
			応用生物	1		1				15
			応用化学	1		1				15
			キャリア教育Ⅰ	1		1				15
		発展	医学・医療概論		1	1				15
			臨床薬理学（薬理学）	2				2		15
			医療マネジメント論		2			2		15
			キャリア教育Ⅱ	1			1			15
			キャリア教育Ⅲ		1			1		15

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
臨床検査学専攻科目群	医療の コラボレ ーション 教育分野	実践	協働実践演習	1					1	30
			ボランティア論		1	1				15
			ボランティア活動		1	1				30
	専門基礎分野	社会・ 環境と健康	健康管理概論		2	2				15
			社会福祉総論		2	2				15
			食育論		1	1				15
			食文化論		1	1				15
		人体の 構造と機能 及び疾病の 成り立ち	病理学Ⅰ (病態の系統的理解)	2			2			15
			病理学Ⅱ (病態の評価・診断)	2				2		15
			生化学Ⅰ (生体物質の構造と機能)		2		2			15
			生化学Ⅱ (生体物質の代謝)		2		2			15
			微生物学	2			2			15
			分子病態学		2			2		15
			解剖生理学実習	1			1			45
			生化学実験Ⅰ (生体物質の分析)	1			1			45
			生化学実験Ⅱ (生体物質の発現・代謝分析)		1			1		45
			薬物療法学		1				1	15
			病態生化学		1				1	15
			臨床検査学		1				1	15
	専門応用分野	病態学	臨床検査生化学	2			2			15
			臨床検査医学総論	2				2		15
			薬理学	2		2				15
			臨床検査栄養学	2			2			15
			チーム医療概論	1					1	15

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
臨床検査学専攻科目群	専門応用分野	公衆衛生	医学概論	1		1				15
			臨床検査関係法規	1			1			15
		医用工学概論	医用工学・情報科学概論	2			2			15
			医用工学実習	1			1			45
			検査機器総論	2			2			15
		血液検査	血液検査学総論	2			2			15
			血液検査学	2			2			15
			血液検査学実習	1				1		45
		病理検査学	病理検査学	2			2			15
			病理細胞検査学	2				2		15
			病理検査学実習	1				1		45
		尿・糞便等一般検査学	一般検査学・寄生虫検査学	2			2			15
			一般検査学・寄生虫検査学実習	1			1			45
		生化学検査学・免疫検査学	生化学検査学	2			2			15
			免疫検査学	2			2			15
			生化学検査学実習	1				1		45
			免疫検査学実習	1				1		45
		遺伝子関連・染色体検査学	遺伝子関連・染色体検査学	2			2			15
			遺伝子関連・染色体検査学実習	1				1		45
		輸血・移植検査学	輸血・移植検査学	2				2		15
			輸血・移植検査学実習	1				1		45
			輸血・移植検査学演習	1				1		15
		微生物検査学	微生物検査学Ⅰ	2			2			15
			微生物検査学Ⅱ	2				2		15
			微生物検査学実習	2				2		45

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
臨床検査学専攻科目群	専門応用分野	生理検査学	生理検査学Ⅰ	2				2		15
			生理検査学Ⅱ	2				2		15
			生理検査学Ⅲ	2				2		15
			生理検査学実習Ⅰ	1				1		45
			生理検査学実習Ⅱ	1				1		45
			生理検査学実習Ⅲ	1					1	45
			生理検査学演習	2					2	15
		臨床検査総合管理学	検査管理総論	2				2		15
			検査精度管理学	2					2	15
			臨床検査総合演習Ⅰ	1					1	15
			臨床検査総合演習Ⅱ	1					1	15
		医療安全	臨床検査医療安全管理学	2				2		15
			臨床検査医療安全管理学実習	1					1	45
		その他上記科目に おける臨地実習	臨地実習前評価	1					1	45
			生理検査学に関する臨地実習	3					3	45
			生理検査学以外の臨地実習	8					8	45
		その他	卒業研究		4				4	30
			実用国語		1	1				15

4－3．医療保健学部 医療保健学科（令和8年度入学生から適用）

○臨床工学専攻

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療保健学科共通科目群	いのち・人間の教育	いのち・人間	哲学と宗教	2		2				15
			心理学		2	2				15
			文学		1		1			15
			生命倫理学		1	1				15
			医療と人間		1	1				15
		社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
			経済学		2	2				15
			社会学		2	2				15
			法学		2	2				15
			歴史		2	2				15
			国際関係論		1		1			15
			認知科学		1	1				15
			人間関係論		1		1			15
			家族社会学		1		1			15
			ジェンダー論		1		1			15
			比較文化論		1		1			15
		自然科学	基礎生物		1	1				15
			データサイエンス	2		2				15
			基礎数学		1	1				15
			物理学		1	1				15
			基礎化学		1	1				15
			スポーツ科学		1	1	1	1		15
			スポーツ実習		1	1	1	1		30

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療保健学科共通科目群	いのち・人間の教育	外国語	英語購読・記述	2		2				15
			英会話Ⅰ	2		2				15
			英会話Ⅱ	2		2				15
			英会話Ⅲ		2		2			15
			専門英語		2			2		15
			フランス語		2	2				15
			中国語		2	2				15
		情報科学	情報リテラシー	2		2				15
			情報科学	2		2				15
			情報通信と保健医療		2		2			15
臨床工学専攻科目群	医療の コラボレーション教育	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
			体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
			公衆衛生学	2			2			15
			栄養学総論（基礎栄養学）		2	2				15
			医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)		2		2			15
			応用生物	1		1				15
			応用化学		1	1				15
			キャリア教育Ⅰ	1		1				15
		発展	医学・医療概論		1	1				15
			臨床薬理学(薬理学)	2				2		15
			医療マネジメント論		2			2		15
			キャリア教育Ⅱ	1			1			15
			キャリア教育Ⅲ		1			1		15

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
臨床工学専攻科目群	医療の シヨソ教育	実践	協働実践演習	1					1	30
			ボランティア論	1		1				15
			ボランティア活動		1	1				30
	専門基礎分野	解剖生理学・ 生理学	解剖生理学実習	1			1			45
			臨床工学演習Ⅱ	1					1	30
		生化学	生化学（臨床工学）	1			1			15
		概論医学	医学概論	1		1				15
		病理学	臨床工学病理学		2		2			15
		免疫学	免疫検査学	2			2			15
			輸血・移植検査学	2				2		15
		概論医療チーム	チーム医療概論	1					1	15
		法関係	関係法規	1			1			15
		応用数学	情報数学	2		1				15
			基礎数学Ⅱ	2		1				15
		電気工学・電子工学	電気工学Ⅰ	2			2			15
			電気工学Ⅱ	2			2			15
			電気磁気学	1					1	15
			電子工学Ⅰ	2			2			15
			電子工学Ⅱ	2			2			15
			電気・電子工学実習	1				1		45
		工機 学械	医用機械工学	2		2				15
		工計 学測	計測工学	2			2			15
		医用工学①	システム工学	2			2			15
			医用工学・情報科学概論	2			2			15
			コンピュータシステム	2		1				15

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
臨床工学専攻科目群	専門応用分野	生体物性工学・ 医用材料工学	生体物性工学	2			2			15
			医用材料工学	1			1			15
			生体物性・材料工学	1					1	15
		工学② 医用	臨床工学演習Ⅰ	1					1	30
		概論 医用 機器学	医用機器学概論	2		2				15
		機器学① 医用治療	医用治療機器学Ⅰ	2			2			15
			医用治療機器学実習	1			1			45
		生体計測装置学	生体計測装置学Ⅰ	2			2			15
			生体計測装置学Ⅱ	2			2			15
			生体計測学基礎	1		1				15
			生体計測装置学実習	1				1		45
			画像診断学	1					1	15
		技術学 臨床 支援学	臨床支援技術学	2				2		15
		生体機能代行装置学	生体機能代行装置学概論	1		1				15
			生体機能代行装置学Ⅰ	2			2			15
			生体機能代行装置学Ⅱ	2			2			15
			生体機能代行装置学Ⅲ	2				2		15
			生体機能代行装置学Ⅳ	2				2		15
			生体機能代行装置学実習Ⅰ	1			1			45
			生体機能代行装置学実習Ⅱ	1			1			45
			生体機能代行装置学実習Ⅲ	1				1		45
		医療安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	2				2		15
			医用機器安全管理学Ⅱ	2				2		15
			医療安全管理学（臨床工学）	1					1	15
			医用機器安全管理学実習	1				1		45

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
臨床工学専攻科目群	専門応用分野	② 医療機器学	医療治療機器学Ⅱ	2			2			15
		臨床医学総論	臨床医学総論Ⅰ	2			2			15
			臨床医学総論Ⅱ	2				2		15
			手術・集中治療学	2				2		15
			生理検査学Ⅰ	2				2		15
			生理検査学Ⅱ	2				2		15
		臨床実習	技術・知識の到達度評価（臨床工学）	1					1	30
			臨床実習	6					6	45
		その他	実用国語		1	1				15
			卒業研究		4				4	30

4－4．医療保健学部 医療保健学科（令和8年度入学生から適用）

○医療情報学専攻

科目群	分類	区分	科目	単位数		配当年次および単位数				1単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
医療保健学科共通科目群	いのち・人間の教育	いのち・人間	哲学と宗教	2		2				15
			心理学		2	2				15
			文学		1		1			15
			生命倫理学		1	1				15
			医療と人間		1	1				15
		社会科学	コミュニケーション概論		2	2				15
			経済学		2	2				15
			社会学		2	2				15
			法学		2	2				15
			歴史		2	2				15
			国際関係論		1		1			15
			認知科学		1	1				15
			人間関係論		1		1			15
			家族社会学		1		1			15
			ジェンダー論		1		1			15
			比較文化論		1		1			15
		自然科学	基礎生物		1	1				15
			データサイエンス	2		2				15
			基礎数学		1	1				15
			物理学		1	1				15
			基礎化学		1	1				15
			スポーツ科学		1	1	1	1		15
			スポーツ実習		1	1	1	1		30

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次および単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療保健学科共通科目群	いのち・人間の教育	外国語	英語購読・記述	2		2				15
			英会話Ⅰ	2		2				15
			英会話Ⅱ	2		2				15
			英会話Ⅲ		2		2			15
			専門英語		2			2		15
			フランス語		2	2				15
			中国語		2	2				15
		情報科学	情報リテラシー	2		2				15
			情報科学	2		2				15
			情報通信と保健医療		2		2			15
医療情報学専攻科目群	医療の コラボレーション 教育分野	入門	体の仕組みと働きⅠ (血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系)	2		2				15
			体の仕組みと働きⅡ (骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系)	2		2				15
			公衆衛生学		2		2			15
			栄養学総論（基礎栄養学）		2		2			15
			医療安全管理学 (臨床工学・危機管理学・感染制御学)	2			2			15
			応用生物		1	1				15
			応用化学		1	1				15
			キャリア教育Ⅰ	1		1				15
		発展	医学・医療概論	1		1				15
			臨床薬理学（薬理学）		2			2		15
			医療マネジメント論		2			2		15
			キャリア教育Ⅱ	1			1			15
			キャリア教育Ⅲ	1				1		15

科目群	分類	区分	科 目	単位数		配当年次および単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療情報学専攻科目群	医療の コラボレ ーション 教育分野	実践	協働実践演習	1					1	30
			ボランティア論		1	1				15
			ボランティア活動		1	1				30
	専門職の 教育分野	医療情報	医療情報システム開発論		2			2		15
			医療情報基礎演習 A	2			2			30
			医療情報基礎演習 B		2			2		30
			医療情報応用演習		2			2		30
			診療情報論 I		2		2			15
			診療情報論 II		2		2			15
			疾病分類演習 I		1		1			30
			疾病分類演習 II		1		1			30
			医療情報学概論	2		2				15
			医療情報システム論		2		2			15
			生体情報演習	2		2				30
			ワークショップ C (人間科学)		2		2			30
			ワークショップ D (ヘルスプロモーション)		2		2			30
			医用画像処理工学		2			2		15
			基礎ゼミ I	2		2				30
			基礎ゼミ II	2			2			30
			応用ゼミ I	2				2		30
			応用ゼミ II	2				2		30
			応用ゼミ III	2					2	30
			卒業研究		6				2	30

科目群	分類	区分	科目	単位数		配当年次および単位数				1 単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
医療情報学専攻科目群	専門職の教育分野	ヘルスケア	臨床医学総論	2		2				15
			臨床医学各論 A		2		2			15
			臨床医学各論 B		2		2			15
			臨床医学各論 C		2			2		15
			臨床医学各論 D		2			2		15
			診療プロセス論 A	2		2				15
			診療プロセス論 B		2		2			15
			医療制度論	2		2				15
			病院管理概論	2			2			15
			診療情報管理論		2		2			15
			インターンシップ		2			2		45
		情報科学	コンピュータシステム	2		2				15
			ワークショップ A (マンマシンインターフェース)	2		2				30
			ワークショップ B (Web 構築)		2	2				30
			プログラミング演習 I	2			2			30
			プログラミング演習 II		2		2			30
			情報セキュリティ		2			2		15
			情報数学		2	2				15
			基礎数学 II		2	2				15
			データ構造とアルゴリズム		2		2			15
			AI と医療		2			2		15
			データベースと医療 I (基礎)	2			2			15
			データベースと医療 II (応用)		2		2			30
			臨床データ分析 I		2		2			15
			臨床データ分析 II		2			2		15

別表第2

1－1．東が丘・立川看護学部	看護学科（平成23年度入学生まで適用）＜削除＞
1－2．東が丘・立川看護学部 適用）＜削除＞	看護学科（平成24年度及び平成25年度入学生限り
1－3．東が丘・立川看護学部	看護学科（平成26年度入学生限り適用）＜削除＞
1－4．東が丘・立川看護学部	看護学科（平成27年度入学生から適用）＜削除＞

別表第3

1-1. 東が丘看護学部 看護学科 (令和2年度入学生から適用)

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
基礎分野	人間尊重と人間関係の形成	人間関係論	1		1				15
		心理学	1		1				15
		哲学		1	1				15
		倫理学		1	1				15
		社会学		1	1				15
		文化人類学		1	1				15
		法学		1	1				15
	健康問題の解決	論理学	2		2				15
		自然科学の基礎	1		1				15
		スポーツ科学		2	2				15
	看護場面のコーディネート	社会保障制度概論		1		1			15
		ボランティア論		1		1			15
	自己啓発能力	統計学	2			2			15
		情報リテラシー	1		1				15
	キャリア開発能力	教育学	2			2			15
		実用英語Ⅰ	2		2				15
		実用英語Ⅱ	2		2				15
		実用英語Ⅲ	2			2			15
		中国語		1	1				15
		スペイン語		1	1				15
専門基礎分野	人間関係の形成	医療と法 (看護関係法規)	1			1			15
	健康問題の解決／看護技術力	医学概論	1		1				15
		解剖生理学Ⅰ	2		2				15
		解剖生理学Ⅱ	2		2				15
		病理学	2		2				15
		生化学	1		1				15
		微生物学	1		1				15
		薬理学	1		1				15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門基礎分野	健康問題の解決／看護技術力	疾病と治療Ⅰ（呼吸器系・消化器系）	2		2				15
		疾病と治療Ⅱ（血液系・循環器系）	2		2				15
		疾病と治療Ⅲ（神経系・骨筋系）	2			2			15
		疾病と治療Ⅳ（泌尿器系・生殖器系・内分泌系）	2			2			15
		疾病と治療Ⅴ（感覚器系・統合）	2			2			15
		疾病と治療Ⅵ（精神系）	1			1			15
		臨床検査学演習	1			1			30
		臨床栄養学演習	1			1			30
		臨床薬理学演習	1			1			30
		公衆衛生学	2			2			15
		人間工学		1		1			15
	自己啓発能力	医療・看護情報学の基礎	1			1			15
	キャリア開発能力	実用医療英語	1			1			15
		政策医療論	1			1			15
		保健医療福祉システム論		1		1			15
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1		1				15
		看護倫理	1		1				15
		看護理論	1			1			15
		看護教育学	1					1	15
		看護学体験実習	1		1				45
	基礎看護技術学	看護実践技術論Ⅰ （日常生活における援助技術と判断）	2		2				30
		看護実践技術論Ⅱ （治療・処置における援助技術と判断）	1		1				30
		看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合）	1		1				30
		ヘルスアセスメント	1		1				15
		フィジカルアセスメント	1		1				30
		看護過程と看護方法論	1		1				30
		日常生活援助展開実習	1		1				45
		看護過程展開実習	2			2			45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門分野	臨床実践看護学	成人看護学概論	1		1				15
		急性期看護論	1				1		30
		慢性期看護論	1			1			30
		終末期看護論	1				1		30
		成人看護実践論	1				1		30
		成人看護の探求	1				1		15
		急性期看護学実習	2				2		45
		慢性期看護学実習	2				2		45
		終末期看護学実習	2				2		45
		老年看護学概論	1		1				15
		老年看護実践論	2			2			30
		家族看護学	1			1			15
		老年生活支援実習	2			2			45
		老年看護学実習	2				2		45
		母性看護学概論	2			2			15
		母性看護実践論	2				2		30
		母性看護学実習	2				2		45
		小児看護学概論	2			2			15
		小児看護実践論	2				2		30
		小児看護学実習	2				2		45
		精神看護学概論	1			1			15
		精神看護実践論	2				2		30
		精神看護学実習	2				2		45
		臨床コミュニケーション論	1			1			15
		障害者看護論	1				1		15
統合分野	在宅看護学	在宅看護学概論	2				2		15
		在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理)	1				1		30
		在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携)	1					1	30
		在宅看護学実習	2					2	45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
統合分野	地域看護学	地域看護学概論	1			1			15
		自立支援教育論	1			1			15
		疾病予防看護学	1			1			15
	研究	看護研究の基礎	1				1		15
		英語論文のクリティーク	1				1		30
		卒業研究	3					3	30
	看護マネジメント	看護管理学	1				1		15
		医療安全学	1				1		15
		災害看護学	1			1			15
		看護学統合実習	3					3	45
	キャリア開発	国際看護学Ⅰ	1			1			15
		国際看護学Ⅱ		2			2		15
		チーム医療論	1					1	15
		看護職とキャリア形成	1					1	15
		N P 論		1				1	15
		看護政策論		1				1	15

1－2．東が丘看護学部 看護学科（令和4年度入学生から適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
基礎分野	人間尊重と人間関係の形成	人間関係論	1		1				15
		心理学	1		1				15
		哲学		1	1				15
		倫理学		1	1				15
		社会学		1	1				15
		文化人類学		1	1				15
		法学		2	2				15
	健康問題の解決	論理学	2		2				15
		自然科学の基礎	1		1				15
		スポーツ科学		2	2				15
	自己啓発能力	情報リテラシー	1		1				30
	キャリア開発能力	教育学	2			2			15
		実用英語Ⅰ	2		2				15
		実用英語Ⅱ	2		2				15
		実用英語Ⅲ	2			2			15
		中国語		1	1				15
		スペイン語		1	1				15
専門基礎分野	人間関係の形成	医療と法(看護関係法規)	1			1			15
	人間関係の形成	カウンセリングの基礎		1		1			15
	健康問題の解決・看護技術力	医学概論	1		1				15
		解剖生理学Ⅰ	2		2				15
		解剖生理学Ⅱ	2		2				15
		病理学	2		2				15
		微生物学	1		1				15
		薬理学	2		2				15
		栄養学	1			1			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門基礎分野	健康問題の解決・看護技術	疾病と治療Ⅰ（呼吸器系・消化器系）	2		2				15
		疾病と治療Ⅱ（血液系・循環器系）	2		2				15
		疾病と治療Ⅲ（神経系・筋骨系）	2			2			15
		疾病と治療Ⅳ（泌尿器系・生殖器系・内分泌系）	2			2			15
		疾病と治療Ⅴ（感覚器系・統合）	1			1			15
		疾病と治療Ⅵ（精神系）	1			1			15
		臨床検査学演習	1			1			30
		公衆衛生学	2			2			15
	看護場面のコーディネート	人間工学		1		1			15
		ボランティア論		1		1			15
	自己啓発能力	看護情報学・統計学演習	1			1			30
	キャリア開発能力	実用医療英語	1			1			15
		政策医療論	1			1			15
		保健医療福祉システム論	1			1			15
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1		1				15
		看護倫理	1		1				15
		看護理論	1			1			15
		看護教育学	1					1	15
		看護学体験実習	1		1				45
	基礎看護技術学	看護実践技術論Ⅰ （日常生活における援助技術と判断）	2		2				30
		看護実践技術論Ⅱ （治療・処置における援助技術と判断）	1		1				30
		看護実践技術論Ⅲ （看護技術の統合）	1		1				30
		ヘルスアセスメント	1		1				15
		フィジカルアセスメント	1			1			30
		看護過程と看護方法論	1		1				30
		日常生活援助展開実習	1		1				45
		看護過程展開実習	2			2			45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門分野	地域・在宅看護学	地域看護学概論	1		1				15
		自立支援教育論	1		1				15
		疾病予防看護論	1			1			15
		在宅看護学概論	2			2			15
		在宅看護実践論	1				1		30
		在宅看護学実習	2				2		45
	臨床実践看護学	成人看護学概論	1		1				15
		急性期看護論	1				1		30
		慢性期看護論	1			1			30
		終末期看護論	1				1		30
		成人看護実践論	1				1		30
		成人看護の探求	1					1	15
		老年看護学概論	1		1				15
		老年看護実践論	2			2			30
		家族看護学	1			1			15
		急性期看護学実習	2				2		45
		慢性期看護学実習	3			3			45
		終末期看護学実習	2				2		45
		小児看護学概論	2			2			15
		小児看護実践論	2				2		30
		小児看護学実習	2				2		45
		母性看護学概論	2			2			15
		母性看護実践論	2				2		30
		母性看護学実習	2				2		45
		精神看護学概論	1			1			15
		精神看護実践論	2				2		30
		精神看護学実習	2				2		45
		臨床コミュニケーション論	1			1			15
		障害者看護論	1				1		15
統合分野	研究	看護研究の基礎	1				1		15
		英語論文のクリティーク	1				1		30
		卒業研究	3					3	30
	看護マネジメント	災害看護学	1			1			15
		医療安全学	1				1		15
		看護管理学	1				1		15
		国際看護学Ⅰ	1			1			15
		国際看護学Ⅱ		2			2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
統合分野	看護マネジメント	チーム医療論	1					1	15
		看護政策論		1				1	15
		看護学統合演習	1					1	30
		看護学統合実習	2					2	45
	キャリアマネジメント	看護職とキャリア形成	1					1	15
		N P 論		1				1	15
		キャリア開発実習：クリティカルケア		2				2	45
		キャリア開発実習：がん看護		2				2	45
		キャリア開発実習：認知症患者のケア		2				2	45
		キャリア開発実習：重症心身障害者のケア		2				2	45
		キャリア開発実習：マタニティケア		2				2	45
		キャリア開発実習：精神疾患患者のケア		2				2	45
		キャリア開発実習：地域保健行政・在宅ケア		2				2	45
		キャリア開発実習：国際感染症患者のケア		2				2	45

別表第4

1-1. 立川看護学部 看護学科 (令和2年度入学生から適用)

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	
基礎分野	人間を尊重し人権を擁護する能力	文化人類学		1	1				15
		哲学		1	1				15
		倫理学		1	1				15
		社会学		1	1				15
		法学		1	1				15
	人間関係を形成する能力	人間関係論	1		1				15
		心理学	1		1				15
		実用英語Ⅰ	2		2				15
		実用英語Ⅱ	2		2				15
		実用医療・看護英語	2			2			15
		中国語		1	1				15
		スペイン語		1	1				15
	健康問題の解決能力	スポーツ科学		2	2				15
		教育学	2			2			15
		社会保障制度概論		1		1			15
	災害対応能力	災害ボランティア論		1		1			15
	看護探究能力	情報リテラシー	1		1				15
		論理学	1		1				15
		自然科学の基礎	1		1				15
		統計学	2			2			15
専門基礎分野	人間を尊重し人権を擁護する能力	医療と法(看護関係法規)	1			1			15
		医学概論	1		1				15
		解剖生理学Ⅰ	2		2				15
		解剖生理学Ⅱ	2		2				15
		病理学	2		2				15
		生化学	1		1				15
		微生物学	1		1				15
		薬理学	1		1				15
		疾病と治療Ⅰ (呼吸器系・消化器系)	2		2				15
		疾病と治療Ⅱ (血液系・循環器系)	2		2				15
		疾病と治療Ⅲ (神経系・骨筋系)	2			2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門基礎分野	健康問題の解決	疾病と治療Ⅳ (泌尿器系・生殖器系・内分泌系)	2			2			15
		疾病と治療Ⅴ (感覚器系・統合)	2			2			15
		疾病と治療Ⅵ (精神系)	1			1			15
		臨床検査学演習	1			1			30
		臨床栄養学演習	1			1			30
		臨床薬理学演習	1			1			30
		公衆衛生学	2			2			15
		人間工学		1		1			15
	連携・協働・努力	保健医療福祉システム論		1		1			15
		政策医療論	1			1			15
	看護能力探究	医療・看護情報学の基礎	1			1			15
		医療・看護論文の講読	1			1			15
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1		1				15
		看護倫理	1		1				15
		看護理論	1			1			15
		看護学体験実習	1		1				45
	基礎看護技術学	看護実践技術論Ⅰ (日常生活における援助技術と判断)	2		2				30
		看護実践技術論Ⅱ (治療・処置における援助技術と判断)	1		1				30
		看護実践技術論Ⅲ (看護技術の統合)	1		1				30
		ヘルスアセスメント	1		1				15
		フィジカルアセスメント	1		1				30
		看護過程と看護方法論	1		1				30
		日常生活援助展開実習	1		1				45
		看護過程展開実習	2			2			45
	臨床実践看護学	成人看護学概論	1		1				15
		急性期看護論	2				2		15
		慢性期看護論	2			2			15
		成人・老年看護実践論	2				2		30
		成人看護学実習Ⅰ(急性期)	2				2		45
		成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	2				2		45
		成人看護学実習Ⅲ(終末期)	2				2		45
		老年看護学概論	1		1				15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門分野	臨床実践看護学	老年期看護論	1			1			15
		老年看護実践論	1			1			30
		老年看護学実習Ⅰ (地域で暮らす高齢者の看護)	2			2			45
		老年看護学実習Ⅱ (病と生きる高齢者の看護)	2				2		45
		母性看護学概論	2			2			15
		母性看護実践論	2				2		30
		母性看護学実習	2				2		45
		小児看護学概論	2			2			15
		小児看護実践論	2				2		30
		小児看護学実習	2				2		45
		精神看護学概論	1			1			15
		精神看護実践論	2				2		30
		精神看護学実習	2				2		45
		臨床コミュニケーション論	1			1			15
		障害者看護論	1				1		15
統合分野	在宅看護学	家族看護学	1			1			15
		在宅看護学概論	2				2		15
		在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理)	1				1		30
		在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携)	1					1	30
		在宅看護学実習	2					2	45
	地域看護学	地域看護学概論	1			1			15
		自立支援教育論	1			1			15
		疾病予防看護学	1			1			15
	災害看護学	災害看護学Ⅰ	1		1				15
		災害看護学Ⅱ	1			1			15
		災害看護学Ⅲ	2				2		15
		災害看護学実習	1					1	45
	看護研究	看護研究の基礎	1				1		15
		英語論文のクリティーク	1				1		30
		災害看護学に関する卒業研究	3					3	30
	統合看護学	看護管理学	1				1		15
		医療安全学	1				1		15
		国際看護学	1				1		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
統合分野	統合看護学	看護学統合実習	2					2	45
		コミュニティ形成論		1				1	15
		チーム医療論		1				1	15
		看護職とキャリア形成		1				1	15
		看護教育学		1				1	15
		看護政策論		1				1	15

1－2．立川看護学部 看護学科（令和4年度入学生から適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
基礎分野	人間を尊重し人権を擁護する能力	文化人類学		1	1				15
		哲学		1	1				15
		倫理学		1	1				15
		社会学		1	1				15
		法学		1	1				15
		死生学	1		1				15
	人間関係を形成する能力	人間関係論	1		1				15
		心理学	1		1				15
		実用英語Ⅰ	2		2				15
		実用英語Ⅱ	2		2				15
		実用医療・看護英語	2			2			15
		中国語		1	1				15
		スペイン語		1	1				15
	健康問題の解決能力	スポーツ科学		2	2				15
		教育学	2			2			15
		社会保障制度概論		1		1			15
	災害対応能力	災害ボランティア論		1		1			15
	看護探求能力	情報リテラシー	1		1				15
		論理学	1		1				15
		自然科学の基礎	1		1				15
		実践統計学	2		2				15
専門基礎分野	人間を尊重し人権を擁護する能力	医療と法（看護関係法規）	1			1			15
	健康問題の解決能力	医学概論	1		1				15
		解剖生理学Ⅰ	2		2				15
		解剖生理学Ⅱ	2		2				15
		病理学	2		2				15
		生化学	1		1				15
		微生物学	1		1				15
		薬理学	1		1				15
		疾病と治療Ⅰ （呼吸器系・消化器系）	2		2				15
		疾病と治療Ⅱ （血液系・循環器系）	2		2				15
		疾病と治療Ⅲ （神経系・骨筋系）	2			2			15
		疾病と治療Ⅳ （泌尿器系・生殖器系・内分泌系）	2			2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門基礎分野	健康問題の解決	疾病と治療Ⅴ (感覚器系・統合)	2			2			15
		疾病と治療Ⅵ (精神系)	1			1			15
		臨床検査学演習	1			1			30
		臨床栄養学演習	1			1			30
		臨床薬理学演習	1			1			30
		疫学・保健統計	1		1				15
		公衆衛生学	2			2			15
		人間工学		1		1			15
	連携・協働する力	保健医療福祉システム論	1			1			15
		政策医療論	1			1			15
	看護能力の探究	医療・看護情報学の基礎	1			1			15
		医療・看護論文の講読	1			1			30
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1		1				15
		看護倫理	1		1				15
		看護理論	1			1			15
		看護学体験実習	1		1				45
	基礎看護技術学	看護実践技術論Ⅰ (日常生活における援助技術と判断)	2		2				30
		看護実践技術論Ⅱ (治療・処置における援助技術と判断)	1		1				30
		看護実践技術論Ⅲ (看護技術の統合)	1		1				30
		ヘルスアセスメント	1		1				15
		コミュニケーション技法	1		1				30
		フィジカルアセスメント	1			1			30
		看護過程と看護方法論	1		1				30
		日常生活援助展開実習	1		1				45
		看護過程展開実習	2			2			45
	地域・在宅看護学	家族看護学	1			1			15
		地域・在宅看護学概論	1		1				15
		地域・在宅看護支援論	2			2			15
		地域・在宅看護実践論Ⅰ (在宅における看護技術と危機管理)	1				1		30
		地域・在宅看護実践論Ⅱ (地域におけるケアシステムと連携)	1					1	30
		地域・在宅看護学実習	2					2	45
		自律支援教育論	1			1			15
		疾病予防看護学	1			1			30
	臨床実践看護学	成人看護学概論	1		1				15
		急性期看護論	2				2		15
		慢性期看護論	2			2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専門分野	臨床実践看護学	成人・看護/老年看護実践 (A 成人看護編・B 老年看護編)	2				2		30
		老年看護学概論	1		1				15
		成人看護学実習Ⅰ（急性期）	2				2		45
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期）	2				2		45
		老年期看護論	1			1			15
		老年看護実践論	1			1			30
		老年看護学実習Ⅰ (地域で暮らす高齢者の看護)	2			2			45
		老年看護学実習Ⅱ (病と生きる高齢者の看護)	2				2		45
		母性看護学概論	2			2			15
		母性看護実践論	2				2		30
		母性看護学実習	2				2		45
		小児看護学概論	2			2			15
		小児看護実践論	2				2		30
		小児看護学実習	2				2		45
		精神保健	1			1			15
		精神看護学概論	1			1			15
		精神看護実践論	2				2		30
		精神看護学実習	2				2		45
		障害者看護論	1				1		15
専門分野	(災害対応能力 災害看護学)	災害看護学Ⅰ	1		1				15
		災害看護学Ⅱ	1			1			15
		災害看護学Ⅲ	2				2		15
		災害看護学実習	1					1	45
	看護探求 能力	看護研究の基礎	1				1		15
		英語論文のクリティーク	1				1		30
		災害看護学に関する卒業研究	3					3	30
	統合看護学	看護管理学	1				1		15
		医療安全学	1				1		15
		国際看護学	1				1		15
		看護学統合実習	2					2	45
		コミュニティ形成論		1				1	15
		チーム医療論		1				1	15
		看護職とキャリア形成		1				1	15
		看護教育学		1				1	15
		看護政策論		1				1	15

別表第 5

1-1 千葉看護学部 看護学科 (平成 30 年度入学生限り適用)

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
いのち・人間の教育分野		心理学	2		2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文化人類学		1	1				15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
		コミュニケーション概論	2		2				15
		経済学		2		2			15
		社会学		2	2				15
		教育学		1	1				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1	1				15
		家族社会学		1	1				15
		ダイバーシティ		1	1				15
		生物		1	1				15
		遺伝学		1	1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		看護物理		1	1				15
		スポーツ科学		1	1				15
		スポーツ実習		1		1			30
		ボランティア論	1			1			15
		ボランティア活動		1		1			30
		英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ(ベーシックⅠ)	2		2				15
		英会話Ⅱ(ベーシックⅡ)	2		2				15
		英会話Ⅲ(アドバンス)		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		中国語		2	2				15
		ICT リテラシーⅠ(ベーシック)	2		2				15
		ICT リテラシーⅡ(アドバンス)		2	2				15
		情報通信と保健医療		1		1			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当 た り の 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専門職 の 教育分野	専門 支 持	体の仕組みと働きⅠ (概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、 神経系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維 持、生殖系)	2		2				15
		体の仕組みと働き演習	1		1				30
		公衆衛生学	2		2				15
		栄養学総論	2		2				15
		医療における質の保証Ⅰ (概論、医療安全)	1			1			15
		医療における質の保証Ⅱ (情報管理、感染制御)	1				1		15
		医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学	2			2			15
		協働実践演習	1					1	30
		病原微生物学	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		治療学総論	1		1				15
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌・生殖系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		生活健康科学		2		2			15
		社会福祉論	2			2			15
		保健医療福祉行政学	2			2			15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		解剖生理学演習		1			1		30
		リラクゼーション論		1	1				15
		医用機器概論		1			1		15
		代替医療論		1			1		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門基幹	看護学概論	3		3				20
		生涯発達ケア論	2			2			15
		終生期看護援助論	2				2		15
		基礎看護援助方法Ⅰ（看護技術の基本）	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅱ（日常生活の援助）	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅲ （治療を受ける患者の援助）	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅳ （対象の個性に応じた援助）	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅴ （基礎看護技術の統合）	1				1		30
		クリティカルシンキングⅠ （論理的思考の形成）	1		1				30
		クリティカルシンキングⅡ （論理的思考の展開）	1			1			30
		クリティカルシンキングⅢ （批判的思考の発展）	1				1		15
		看護研究	1					1	30
		チーム活動論（チームビルディング）	1				1		15
		基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ （クリティカルシンキング実習）	2			2			45
		機能看護学Ⅰ（セルフマネジメント）	2		2				15
		機能看護学Ⅱ（キャリアマネジメント）	1			1			15
		機能看護学Ⅲ（組織とマネジメント）	1				1		30
		機能看護学Ⅳ（トップマネジメント）		1				1	15
	専門展開	母性看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2			2			15
		母性看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	1				1		30
		小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2			2			15
		小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5					5	45
		臨床看護援助論Ⅰ（急性期）	2			2			15
		臨床看護援助論Ⅱ（慢性期）	2			2			15
		臨床看護学実習（急性期・慢性期）	5				5		45
		老年看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2			2			15
		老年看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	1				1		30
		在宅看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	1			1			30
		在宅看護援助論Ⅱ（療養生活援助）	1				1		30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門展開	老年・在宅看護学実習	5					5	45
		精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1				1		30
		精神看護学実習	3				3		45
		公衆衛生看護援助論Ⅰ （対象別公衆衛生看護活動）	2		2				15
		公衆衛生看護援助論Ⅱ （公衆衛生看護技術）		2			2		15
		公衆衛生看護援助論Ⅲ （公衆衛生看護展開）		3				3	25
		保健指導演習	1			1			30
		地域保健活動演習	1			1			30
		公衆衛生看護学実習		4				4	45
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15
		学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）		1	1				15
	実践統合	地域保健・医療の推進	1					1	30
		国際看護論		1	1				15
		災害看護援助論	1					1	15
		看護の統合実習	2					2	45
養護教諭教職課程（一種免許状）	教職に関する科目	教職への道※1	2			2			15
		教育原理	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育課程論	1			1			15
		道德教育の理論と方法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	2				2		15
		学校教育相談	2				2		15
		養護実習事前・事後指導	1					1	15
		養護実習	4					4	45
		教職実践演習（養護教諭）	2					2	15
	養護に関する科目	疫学・保健統計論	2			2			15
		公衆衛生学	2		2				15
		学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）	1		1				15
		学校保健Ⅱ（学校保健の発展的展開）	1		1				15
		養護概論	2				2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護に関する科目	学校健康相談	2				2		15
		栄養学総論	2		2				15
		体の仕組みと働きⅠ (概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、神経系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維持、生殖器系)	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		病原微生物学	2		2				15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		臨床薬理学	2			2			15
		精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		看護学概論	3		3				20
		臨床看護援助論Ⅰ（急性期）	2			2			15
		臨床看護学実習（急性期・慢性期）	5				5		45
	養護又は教職に関する科目	クリティカルシンキングⅡ (論理的思考の展開)	1			1			30
	第66条の6に定める科目	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1				15
		スポーツ実習	1			1			30
		英会話Ⅰ（ベーシックⅠ）	2		2				15
		ICTリテラシーⅠ（ベーシック）	2		2				15
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護教諭教職課程（二種免許状）	スポーツ科学	1		1				15
		スポーツ実習	1			1			30
		日本国憲法	2				2		15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

1-2 千葉看護学部 看護学科 (平成 31 年度入学生から適用)

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
いのち・人間の教育分野		心理学	2		2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文化人類学		1	1				15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
		コミュニケーション概論	2		2				15
		経済学		2		2			15
		社会学		2	2				15
		教育学		1	1				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1	1				15
		家族社会学		1	1				15
		ダイバーシティ		1	1				15
		生物		1	1				15
		遺伝学		1	1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		看護物理		1	1				15
		スポーツ科学		1	1				15
		スポーツ実習		1		1			30
		ボランティア論	1			1			15
		ボランティア活動		1		1			30
		英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ(ベーシックⅠ)	2		2				15
		英会話Ⅱ(ベーシックⅡ)	2		2				15
		英会話Ⅲ(アドバンス)		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		中国語		2	2				15
		ICT リテラシーⅠ(ベーシック)	2		2				15
		ICT リテラシーⅡ(アドバンス)		2	2				15
		情報通信と保健医療		1		1			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専門職の教育分野	専門支持	体の仕組みと働きⅠ (概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、神経系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維持、生殖系)	2		2				15
		体の仕組みと働き演習	1		1				30
		公衆衛生学	2		2				15
		栄養学総論	2		2				15
		医療における質の保証Ⅰ (概論、医療安全)	1			1			15
		医療における質の保証Ⅱ (情報管理、感染制御)	1				1		15
		医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学	2			2			15
		協働実践演習	1					1	30
		病原微生物学	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		治療学総論	1		1				15
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌・生殖系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		生活健康科学		2		2			15
		社会福祉論	2			2			15
		保健医療福祉行政学	2			2			15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		解剖生理学演習		1			1		30
		リラクゼーション論		1	1				15
		医用機器概論		1			1		15
		代替医療論		1			1		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門基幹	看護学概論	3		3				20
		生涯発達ケア論	2			2			15
		終生期看護援助論	2				2		15
		基礎看護援助方法Ⅰ（看護技術の基本）	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅱ（日常生活の援助）	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅲ （治療を受ける患者の援助）	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅳ （対象の個性に応じた援助）	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅴ （基礎看護技術の統合）	1				1		30
		クリティカルシンキングⅠ （論理的思考の形成）	1		1				30
		クリティカルシンキングⅡ （論理的思考の展開）	1			1			30
		クリティカルシンキングⅢ （批判的思考の発展）	1				1		15
		看護研究	1					1	30
		チーム活動論（チームビルディング）	1				1		15
		基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ （クリティカルシンキング実習）	2			2			45
		機能看護学Ⅰ（セルフマネジメント）	2		2				15
		機能看護学Ⅱ（キャリアマネジメント）	1			1			15
		機能看護学Ⅲ（組織とマネジメント）	1				1		30
		機能看護学Ⅳ（トップマネジメント）		1				1	15
	専門展開	母性看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2			2			15
		母性看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	1				1		30
		小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2			2			15
		小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5					5	45
		臨床看護援助論Ⅰ（急性期）	2			2			15
		臨床看護援助論Ⅱ（慢性期）	2			2			15
		臨床看護学実習（急性期・慢性期）	5				5		45
		老年看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2			2			15
		老年看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	1				1		30
		在宅看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	1			1			30
		在宅看護援助論Ⅱ（療養生活援助）	1				1		30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門展開	老年・在宅看護学実習	5					5	45
		精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1				1		30
		精神看護学実習	3				3		45
		公衆衛生看護援助論Ⅰ （対象別公衆衛生看護活動）	2		2				15
		公衆衛生看護援助論Ⅱ （公衆衛生看護技術）		2			2		15
		公衆衛生看護援助論Ⅲ （公衆衛生看護展開）		3				3	25
		保健指導演習	1			1			30
		地域保健活動演習	1			1			30
		公衆衛生看護学実習		4				4	45
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15
		学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）		1	1				15
	実践統合	地域保健・医療の推進	1					1	30
		国際看護論		1	1				15
		災害看護援助論	1					1	15
		看護の統合実習	2					2	45
養護教諭教職課程（一種免許状）	教育の基礎的理解に関する項目	教育原理	1			1			15
		教職論※1	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		特別支援教育の基礎	1				1		15
		教育課程論	1			1			15
	道徳、総合的な学習の時間等の 内容及び生徒指導、教育相談等 に関する科目	道徳教育／総合的な学習の時間の指導法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	1				1		15
		学校教育相談	2				2		15
	教育実践に関する科目	養護実習事前・事後指導	1					1	15
		養護実習	4					4	45
		教職実践演習（養護教諭）	2					2	15
	養護に関する科目	疫学・保健統計論	2			2			15
		公衆衛生学	2		2				15
		学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）	1		1				15
		学校保健Ⅱ（学校保健の発展的展開）	1		1				15
		養護概論	2				2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護に関する科目	学校健康相談	2				2		15
		栄養学総論	2		2				15
		体の仕組みと働きⅠ (概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、神経系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維持、生殖器系)	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		病原微生物学	2		2				15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		臨床薬理学	2			2			15
		精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		看護学概論	3		3				20
		臨床看護援助論Ⅰ（急性期）	2			2			15
		臨床看護学実習（急性期・慢性期）	5				5		45
	大学が独自に設定する科目	クリティカルシンキングⅡ (論理的思考の展開)	1			1			30
	第66条の6に定める科目	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1				15
		スポーツ実習	1			1			30
		英会話Ⅰ（ベーシックⅠ）	2		2				15
		ICTリテラシーⅠ（ベーシック）	2		2				15
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護教諭教職課程（二種免許状）	スポーツ科学	1		1				15
		スポーツ実習	1			1			30
		日本国憲法	2				2		15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

1-3 千葉看護学部 看護学科 (令和4年度入学生から適用)

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
いのち・人間の教育分野		心理学	2		2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		文化人類学		1	1				15
		生命倫理学		1	1				15
		医療と人間		1	1				15
		コミュニケーション概論	2		2				15
		経済学		2		2			15
		社会学		2	2				15
		教育学		1	1				15
		国際関係論		1		1			15
		認知科学		1	1				15
		人間関係論		1	1				15
		家族社会学		1	1				15
		ダイバーシティ		1	1				15
		生物		1	1				15
		遺伝学		1	1				15
		データサイエンス	2		2				15
		基礎数学		1	1				15
		看護物理		1	1				15
		スポーツ科学		1	1				15
		スポーツ実習		1		1			30
		ボランティア論	1			1			15
		ボランティア活動		1		1			30
		英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ(ベーシックⅠ)	2		2				15
		英会話Ⅱ(ベーシックⅡ)	2		2				15
		英会話Ⅲ(アドバンス)		2		2			15
		専門英語		2			2		15
		中国語		2	2				15
		ICT リテラシーⅠ(ベーシック)	2		2				15
		ICT リテラシーⅡ(アドバンス)		2	2				15
		情報通信と保健医療		1		1			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専門職 の 教育分野	専門 支 持	体の仕組みと働きⅠ (概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、 神経系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維 持、生殖系)	2		2				15
		体の仕組みと働き演習	1		1				30
		公衆衛生学	2		2				15
		栄養学総論	2		2				15
		医療における質の保証Ⅰ (概論、医療安全)	1			1			15
		医療における質の保証Ⅱ (情報管理、感染制御)	1				1		15
		医学・医療概論	1		1				15
		臨床薬理学	2			2			15
		協働実践演習	1					1	15
		病原微生物学	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		治療学総論	1		1				15
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌・生殖系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		生活健康科学		2		2			15
		社会福祉論	2			2			15
		保健医療福祉行政学	2			2			15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		解剖生理学演習		1			1		30
		リラクゼーション論		1	1				15
		医用機器概論		1			1		15
		代替医療論		1			1		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門基幹	看護学概論	3		3				20
		生涯発達ケア論	2			2			15
		終生期看護援助論	2				2		15
		基礎看護援助方法Ⅰ（看護技術の基本）	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅱ（日常生活の援助）	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅲ （治療を受ける患者の援助）	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅳ （対象の個別性に応じた援助）	1			1			30
		基礎看護援助方法Ⅴ （基礎看護技術の統合）	1				1		30
		クリティカルシンキングⅠ （論理的思考の形成）	1		1				30
		クリティカルシンキングⅡ （論理的思考の展開）	1			1			30
		クリティカルシンキングⅢ （批判的思考の発展）	1				1		15
		看護研究	1					1	30
		チーム活動論（チームビルディング）	1				1		15
		基礎看護援助実習Ⅰ（生活援助実習）	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ （クリティカルシンキング実習）	2			2			45
		機能看護学Ⅰ（セルフマネジメント）	2		2				15
		機能看護学Ⅱ（キャリアマネジメント）	1			1			15
		機能看護学Ⅲ（組織とマネジメント）	1				1		30
		機能看護学Ⅳ（トップマネジメント）		1				1	15
	専門展開	母性看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2			2			15
		母性看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	1				1		30
		小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2			2			15
		小児看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	1				1		30
		母性・小児看護学実習	5					5	45
		臨床看護援助論Ⅰ（急性期）	2			2			15
		臨床看護援助論Ⅱ（慢性期）	2			2			15
		臨床看護学実習（急性期・慢性期）	5				5		45
		老年看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2			2			15
		老年看護援助論Ⅱ（臨床看護援助）	1				1		30
		在宅看護援助論Ⅰ（健康生活援助）	2			2			30
		在宅看護援助論Ⅱ（療養生活援助）	1				1		30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
専門職の教育分野	専門展開	老年・在宅看護学実習	5					5	45
		精神看護援助論Ⅰ（精神保健）	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ（精神看護）	1				1		30
		精神看護学実習	3				3		45
		公衆衛生看護援助論Ⅰ （対象別公衆衛生看護活動）	2		2				15
		公衆衛生看護援助論Ⅱ （公衆衛生看護技術）		2			2		15
		公衆衛生看護援助論Ⅲ （公衆衛生看護展開）		3				3	25
		地域の健康危機管理と施策化・事業化		1			1		30
		保健指導演習	1			1			30
		地域保健活動演習	1			1			30
		公衆衛生看護学実習		4				4	45
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15
		学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）		1	1				15
	実践統合	地域保健・医療の推進	1					1	30
		国際看護論		1	1				15
		災害看護援助論	1					1	15
		看護の統合実習	2					2	45
養護教諭教職課程（二種免許状）	教育の基礎的理解に関する項目	教育原理	1			1			15
		教職論※1	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		特別支援教育の基礎	1				1		15
		教育課程論	1			1			15
	道徳、総合的な学習の時間等 の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育／総合的な学習の時間の指導法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	1				1		15
		学校教育相談	2				2		15
	教育実践に関する科目	養護実習事前・事後指導	1					1	15
		養護実習	4					4	45
		教職実践演習（養護教諭）	2					2	15
	養護に関する科目	疫学・保健統計論	2			2			15
		公衆衛生学	2		2				15
		学校保健Ⅰ（学校保健の基礎的理解）	1		1				15
		学校保健Ⅱ（学校保健の発展的展開）	1		1				15
		養護概論	2				2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護に関する科目	学校健康相談	2				2		15
		栄養学総論	2		2				15
		体の仕組みと働きⅠ (概論、血液と免疫系、循環器系、呼吸器系、神経系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維持、生殖器系)	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		病原微生物学	2		2				15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		臨床薬理学	2			2			15
		精神看護援助論Ⅰ (精神保健)	2			2			15
		看護学概論	3		3				20
		臨床看護援助論Ⅰ (急性期)	2			2			15
		臨床看護学実習 (急性期・慢性期)	5				5		45
	大学が独自に設定する科目	クリティカルシンキングⅡ (論理的思考の展開)	1			1			30
	第66条の6に定める科目	日本国憲法	2				2		15
		スポーツ科学	1		1				15
		スポーツ実習	1			1			30
		英会話Ⅰ (ベーシックⅠ)	2		2				15
		ICT リテラシーⅠ (ベーシック)	2		2				15
養護教諭教職課程（二種免許状）	養護教諭教職課程（二種免許状）	スポーツ科学	1		1				15
		スポーツ実習	1			1			30
		日本国憲法	2				2		15

※1 医療保健学部看護学科・医療保健学部医療栄養学科・医療保健学部医療保健学科・千葉看護学部看護学科の共通開設科目

別表第6

1-1 和歌山看護学部 看護学科（平成30年度入学生限り適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
		スタディスキル	1		1				30
豊かな人間性を育む分野	いのち・人間	心理学	2		2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		芸術		1		1			15
		教育心理学		2		2			15
		生命倫理学		1	1				15
	社会参加	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2		2			15
		社会学		2	2				15
		日本国憲法		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		文化人類学		1		1			15
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
	自然科学	生物学		1	1				15
		化学		1	1				15
		データサイエンス	2		2				15
		物理学		1	1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ（入門）	2		2				15
		英会話Ⅱ（基礎）	2		2				15
		英会話Ⅲ（発展）		2		2			15
		医療英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		韓国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
看護の基盤をつくる分野	人のからだと健康	体の仕組みと働きⅠ (呼吸・循環・血液・消化器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格・筋・神経・腎・内分泌・生殖系)	2		2				15
		解剖生理学演習		1			1		30
		生活健康科学		2	2				15
		リラクゼーション論		1			1		15
		医学・医療概論	1		1				15
		病原微生物学	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		治療学総論	1		1				15
		栄養学	2		2				15
		臨床薬理学	2		2				15
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌・生殖系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		医用機器概論		1			1		15
	地域の健康	わかやま学	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		社会福祉論	2			2			15
		保健医療福祉行政論	2			2			15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		学校保健Ⅰ (学校保健の概要)	1			1			15
		学校保健Ⅱ (学校保健と学習指導要領)	1				1		15
	チーム医療と専門職	キャリア教育Ⅰ (仕事と職業)	1		1				15
		キャリア教育Ⅱ (専門職と倫理)	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ (看護職のキャリア)	1				1		15
		医療マネジメント論		2			2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
看護実践能力を高める分野	看護の基礎	看護学概論	2		2				15
		基礎看護援助方法Ⅰ (看護技術の基本)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅱ (生命兆候と体の観察)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅲ (快適な環境と清潔)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅳ (食事と排泄)	1			1			30
		臨床看護技術	1			1			30
		クリティカル・シンキングⅠ (論理的思考)	1		1				30
		クリティカル・シンキングⅡ (看護過程演習)	1			1			30
		クリティカル・シンキングⅢ (研究計画演習)	1				1		30
		看護倫理	1				1		15
		基礎看護援助実習Ⅰ (看護観察・体験実習)	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ (看護展開実習)	2			2			45
	地域成育支援	母性看護学概論	1			1			30
		母性看護援助論Ⅰ (ウィメンズヘルスと看護)	2			2			15
		母性看護援助論Ⅱ (周産期の看護)	1				1		30
		母性看護学実習	2				2		45
		小児看護学概論	1			1			30
		小児看護援助論Ⅰ (子どもの成長発達と看護)	2			2			15
		小児看護援助論Ⅱ (健康障害をもつ子どもの看護)	1				1		30
		小児看護学実習	2				2		45
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
看護実践能力を高める分野	地域療養生活支援	成人看護学概論	1		1				30
		急性期看護援助論	2			2			15
		慢性期・回復期看護援助論	2			2			15
		終末期看護援助論	1				2		15
		健康教育演習		1			1		15
		急性期看護学実習	3				3		45
		慢性期・回復期看護学実習	3				3		45
		老年看護学概論	1		1				30
		老年看護援助論Ⅰ (高齢者の健康生活を支える看護)	2			2			15
		老年看護援助論Ⅱ (健康障害を持つ高齢者の看護)	1			1			30
		老年看護学実習	3				3		45
		精神看護学概論	1			1			30
		精神看護援助論Ⅰ (心の健康を維持・増進する看護)	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ (心の健康障害をもつ対象の看護)	1				1		30
		精神看護学実習	2				2		45
	看護の統合と発展	地域看護学概論	2		2				15
		地域看護活動論	1			1			15
		地域看護活動実習	1			1			30
		在宅看護援助論Ⅰ (在宅看護における基本技術)	2			2			15
		在宅看護援助論Ⅱ (在宅における看護過程)	1				1		30
		在宅看護学実習	2				2		45
		公衆衛生看護活動論		2			2		15
		国際看護論	1				1		15
		災害看護援助論Ⅰ (災害医療・看護の基礎)	1					1	30
		災害看護援助論Ⅱ (災害看護活動)		1				1	30
		看護マネジメント		2			2		15
		医療安全管理学	2			2			15
		看護統合実習	2					2	45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
関連科目	公衆衛生看護	公衆衛生看護活動展開論		3				3	15
		公衆衛生看護管理論		1				1	15
		産業保健		1			1		15
		公衆衛生看護学実習		5				5	45
養護教諭教職課程（一種免許状）	教職に関する科目	教職への道	2			2			15
		教育原理	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育課程論	1			1			15
		道徳教育の理論と方法	1			1			15
		特別活動の指導法	1			1			15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	2				2		15
		学校教育相談	2				2		15
		養護実習 事前事後指導	1					1	15
		養護実習	4					4	45
		教職実践演習（養護教諭）	2					2	15
	養護に関する科目	疫学・保健統計学	2			2			15
		保健医療福祉行政論	2			2			15
		公衆衛生学	2			2			15
		学校保健Ⅰ（学校保健の概要）	1			1			15
		学校保健Ⅱ（学校保健と学習指導要領）	1				1		15
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15
		栄養学	2		2				15
		体の仕組みと働きⅠ （呼吸・循環・血液・消化器系）	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ （骨格・筋・神経・腎・内分泌・生殖器系）	2		2				15
		病原微生物学	2		2				15
		臨床薬理学	2		2				15
		精神看護学概論	1			1			30
		精神看護援助論Ⅰ （心の健康を維持・増進する看護）	2			2			15
		看護学概論	2		2				15
		基礎看護援助実習Ⅰ（看護観察・体験実習）	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ（看護展開実習）	2			2			45
		看護統合実習	2					2	45
		小児看護学概論	1			1			30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
養護教諭教職課程（一種免許状）	養護に関する科目	小児看護援助論Ⅱ (健康障害をもつ子どもの看護)	1				1		30
		小児看護学実習	2				2		45
		精神看護援助論Ⅱ (心の健康障害をもつ対象の看護)	1				1		30
		急性期看護援助論	2			2			15
		急性期看護学実習	3				3		45
	養護又は教職に関する科目	クリティカル・シンキングⅡ (看護過程演習)	1			1			30
	教育職員免許法施行規則第66の6に規定する科目	日本国憲法		2	2				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
		英会話Ⅰ（入門）	2		2				15
		英会話Ⅱ（基礎）	2		2				15
		情報リテラシー	2		2				15
	養護教諭教職課程（二種免許状）	スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		日本国憲法	2				2		15

1 - 2 和歌山看護学部 看護学科（平成 31 年度入学生から適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
		スタディスキル	1		1				30
豊かな人間性を育む分野	いのち・人間	心理学	2		2				15
		哲学と宗教		2	2				15
		芸術		1		1			15
		教育心理学		2		2			15
		生命倫理学		1	1				15
	社会参加	コミュニケーション概論		2	2				15
		経済学		2		2			15
		社会学		2	2				15
		日本国憲法		2	2				15
		国際関係論		1		1			15
		ジェンダー論		1		1			15
		文化人類学		1		1			15
		ボランティア論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
	自然科学	生物学		1	1				15
		化学		1	1				15
		データサイエンス	2		2				15
		物理学		1	1				15
		スポーツ科学		1	1	1	1		15
		スポーツ実習		1	1	1	1		30
	外国語	英語講読・記述	2		2				15
		英会話Ⅰ（入門）	2		2				15
		英会話Ⅱ（基礎）	2		2				15
		英会話Ⅲ（発展）		2		2			15
		医療英語		2			2		15
		フランス語		2	2				15
		韓国語		2	2				15
	情報科学	情報リテラシー	2		2				15
		情報科学		2	2				15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
看護の基盤をつくる分野	人のからだと健康	体の仕組みと働きⅠ (呼吸・循環・血液・消化器系)	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ (骨格・筋・神経・腎・内分泌・生殖系)	2		2				15
		解剖生理学演習		1			1		30
		生活健康科学		2	2				15
		リラクゼーション論		1			1		15
		医学・医療概論	1		1				15
		病原微生物学	2		2				15
		病態生理学	2		2				15
		治療学総論	1		1				15
		栄養学	2		2				15
		臨床薬理学	2		2				15
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・血液・腎・泌尿器系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅱ (骨格・筋・神経・内分泌・生殖系)	2			2			15
		疾病治療論Ⅲ (感覚・免疫・消化器系)	2			2			15
		医用機器概論		1			1		15
	地域の健康	わかやま学	2		2				15
		公衆衛生学	2			2			15
		社会福祉論	2			2			15
		保健医療福祉行政論	2			2			15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		学校保健Ⅰ (学校保健の概要)	1			1			15
		学校保健Ⅱ (学校保健と学習指導要領)	1				1		15
	チーム医療と専門職	キャリア教育Ⅰ (仕事と職業)	1		1				15
		キャリア教育Ⅱ (専門職と倫理)	1			1			15
		キャリア教育Ⅲ (看護職のキャリア)	1				1		15
		医療マネジメント論		2			2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
看護実践能力を高める分野	看護の基礎	看護学概論	2		2				15
		基礎看護援助方法Ⅰ (看護技術の基本)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅱ (生命兆候と体の観察)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅲ (快適な環境と清潔)	1		1				30
		基礎看護援助方法Ⅳ (食事と排泄)	1			1			30
		臨床看護技術	1			1			30
		クリティカル・シンキングⅠ (論理的思考)	1		1				30
		クリティカル・シンキングⅡ (看護過程演習)	1			1			30
		クリティカル・シンキングⅢ (研究計画演習)	1				1		30
		看護倫理	1				1		15
		基礎看護援助実習Ⅰ (看護観察・体験実習)	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ (看護展開実習)	2			2			45
	地域成育支援	母性看護学概論	1			1			30
		母性看護援助論Ⅰ (ウィメンズヘルスと看護)	2			2			15
		母性看護援助論Ⅱ (周産期の看護)	1				1		30
		母性看護学実習	2				2		45
		小児看護学概論	1			1			30
		小児看護援助論Ⅰ (子どもの成長発達と看護)	2			2			15
		小児看護援助論Ⅱ (健康障害をもつ子どもの看護)	1				1		30
		小児看護学実習	2				2		45
		養護概論		2			2		15
		学校健康相談		2			2		15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
看護実践能力を高める分野	地域療養生活支援	成人看護学概論	1		1				30
		急性期看護援助論	2			2			15
		慢性期・回復期看護援助論	2			2			15
		終末期看護援助論	1				2		15
		健康教育演習		1			1		15
		急性期看護学実習	3				3		45
		慢性期・回復期看護学実習	3				3		45
		老年看護学概論	1		1				30
		老年看護援助論Ⅰ (高齢者の健康生活を支える看護)	2			2			15
		老年看護援助論Ⅱ (健康障害を持つ高齢者の看護)	1			1			30
		老年看護学実習	3				3		45
		精神看護学概論	1			1			30
		精神看護援助論Ⅰ (心の健康を維持・増進する看護)	2			2			15
		精神看護援助論Ⅱ (心の健康障害をもつ対象の看護)	1				1		30
		精神看護学実習	2				2		45
	看護の統合と発展	地域看護学概論	2		2				15
		地域看護活動論	1			1			15
		地域看護活動実習	1			1			30
		在宅看護援助論Ⅰ (在宅看護における基本技術)	2			2			15
		在宅看護援助論Ⅱ (在宅における看護過程)	1				1		30
		在宅看護学実習	2				2		45
		公衆衛生看護活動論		2			2		15
		国際看護論	1				1		15
		災害看護援助論Ⅰ (災害医療・看護の基礎)	1					1	30
		災害看護援助論Ⅱ (災害看護活動)		1				1	30
		看護マネジメント		2			2		15
		医療安全管理学	2			2			15
		看護統合実習	2					2	45
関連科目	公衆衛生看護	公衆衛生看護活動展開論		3				3	15
		公衆衛生看護管理論		1				1	15
		産業保健		1			1		15
		公衆衛生看護学実習		5				5	45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
養護教諭教職課程（二種免許状）	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	1			1			15
		教職論	2			2			15
		教育制度論	1			1			15
		教育心理学	2			2			15
		特別支援教育の基礎	1				1		15
		教育課程論	1			1			15
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生活指導、教育相談等に関する科目	道徳教育/総合的な学習の時間の指導法	1				1		15
		特別活動の指導法	1				1		15
		教育方法論	1			1			15
		生徒指導論	1				1		15
		学校教育相談	2				2		45
	教育実践に関する科目	養護実習事前・事後指導	1					1	15
		養護実習	4					4	45
		教職実践演習（養護教諭）	2					2	15
	養護に関する科目	疫学・保健統計学	2			2			15
		保健医療福祉行政論	2			2			15
		公衆衛生学	2			2			15
		学校保健Ⅰ（学校保健の概要）	1			1			15
		学校保健Ⅱ（学校保健と学習指導要領）	1				1		15
		養護概論	2				2		15
		学校健康相談	2				2		15
		栄養学	2		2				15
		体の仕組みと働きⅠ （呼吸・循環・血液・消化器系）	2		2				15
		体の仕組みと働きⅡ （骨格・筋・神経・腎・内分泌・生殖系）	2		2				15
		病原微生物学	2		2				15
		臨床薬理学	2		2				15
		精神看護学概論	1			1			30
		精神看護援助論Ⅰ （心の健康を維持・増進する看護）	2			2			15
		看護学概論	2		2				15
		基礎看護援助実習Ⅰ（看護観察・体験実習）	1		1				45
		基礎看護援助実習Ⅱ（看護展開実習）	2			2			45
		看護統合実習	2					2	45
		小児看護学概論	1			1			30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
養護教諭教職課程（一種免許状）	養護に関する科目	小児看護援助論Ⅱ （健康障害をもつ子どもの看護）	1				1		30
		小児看護学実習	2				2		45
		精神看護援助論Ⅱ （心の健康障害をもつ対象の看護）	1				1		30
		急性期看護援助論	2			2			15
		急性期看護学実習	3				3		45
	大学が独自に設定する科目	クリティカル・シンキングⅡ （看護過程演習）	1			1			30
	教育職員免許法施行規則第66の6に規定する科目	日本国憲法	2		2				15
		スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		英会話Ⅰ（入門）	2		2				15
		英会話Ⅱ（基礎）	2		2				15
		情報リテラシー	2		2				15
	養護教諭教職課程（二種免許状）	スポーツ科学	1		1	1	1		15
		スポーツ実習	1		1	1	1		30
		日本国憲法	2				2		15

1－3. 和歌山看護学部 看護学科（令和4年度入学生から適用）

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
教養分野	アカデミック・スキル 統計 言語	アカデミックスキル	1		1				15
		パーソナル・コンピューター入門		1	1				15
		情報リテラシー	1		1				30
		情報科学概論		1	1				15
		看護学研究基礎	1				1		15
		データサイエンス	2		2				15
		疫学・保健統計論	2			2			15
		論理的表現法	1		1				30
		英語	2		2				15
		英語講読・記述		2				2	15
	外国語	フランス語		2	2				15
		韓国語		2	2				15
		英会話Ⅰ（基礎）	2		2				15
		英会話Ⅱ（発展）		2		2			15
		医療英語		2				2	15
	人文・社会 自然科学	心理学	1		1				15
		ボランティア論		1	1				15
		医学・医療概論	1		1				15
		哲学と宗教		2	2				15
		日本国憲法		2	2				15
		コミュニケーション論	1		1				15
		ボランティア活動		1	1				30
		生命倫理学		1	1				15
		社会学		2	2				15
		教育心理学		2		2			15
		ジェンダー論		1		1			15
		文化人類学		1		1			15
		芸術		1		1			15
		経済学		2		2			15
		国際関係論		1		1			15
		生物学		1	1				15
		化学		1	1				15
		物理学		1	1				15

分類	区分		科 目	単位数		配当年次及び単位数				1単位 当たりの 時間数
				必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
教養分野	教養一般	身体科学	スポーツ科学		1	1				15
			スポーツ実習		1	1				30
	キャリア教育		キャリア教育Ⅰ	1		1				15
			キャリア教育Ⅱ	1			1			15
			キャリア教育Ⅲ	1					1	15
専門分野	人体の構造と機能		体の仕組みと働きⅠ	1		1				15
			体の仕組みと働きⅡ	1		1				15
			体の仕組みと働きⅢ	1		1				15
			体の仕組みと働きⅣ	1		1				15
			解剖生理学演習		1		1			30
	疾病の成り立ちと回復の促進		治療学総論	1		1				15
			疾病治療論Ⅰ	1		1				15
			疾病治療論Ⅱ	1		1				15
			疾病治療論Ⅲ	1			1			15
			疾病治療論Ⅳ	1			1			15
			疾病治療論Ⅴ	1			1			15
			疾病治療論Ⅵ	1			1			15
			栄養学	2		2				15
			病原微生物学	2		2				15
			病態生理学	2		2				15
			臨床薬理学	2			2			15
			リラクゼーション論		1			1		15
			医用機器概論		1			1		15
	健康支援と社会（保障制度）		わかやま学	1		1				15
			公衆衛生学	2		2				15
			生活環境科学		1	1				15
			保健医療福祉行政論	2			2			15
			社会福祉論		2		2			15
			学校保健Ⅰ		1		1			15
			学校保健Ⅱ		1		1			15
	看護学	看護汎用全般、 general、一般	看護理論	1		1				15
			看護マネジメント	2					2	15
			看護倫理	1				1		15
			わかやま生活健康探索実習	2			2			45
			医療安全管理学	1					1	15
			総合看護学演習		1				1	30

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専門分野	基礎看護	基礎看護学概論	1		1				15
		基礎看護学実践論Ⅰ	1		1				30
		基礎看護学実践論Ⅱ	1		1				30
		基礎看護学実践論Ⅲ	1		1				30
		基礎看護学実践論Ⅳ	1			1			30
		基礎看護学実践論Ⅴ	1			1			30
		基礎看護学実践方法論	2			2			15
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1				45
		基礎看護学実習Ⅱ	2			2			45
	看護学 領域別看護Ⅰ	地域・在宅看護学概論	1		1				15
		地域看護活動論	2			2			15
		在宅看護学実践論Ⅰ	2			2			15
		在宅看護学実践論Ⅱ	1				1		30
		在宅看護学実習	2				2		45
		成人看護学概論	1		1				15
		急性期看護学実践論	1			1			15
		急性期・回復期看護学実践論	1			1			30
		周術期看護過程実践演習	1				1		30
		慢性期看護学実践論	1				1		30
		エンド・オブ・ライフ・ケア 看護学実践論	1				1		15
		急性期看護学実習	2				2		45
		慢性期看護学実習	2				2		45
		老年看護学概論	1			1			15
		老年看護学実践論Ⅰ	2			2			15
		老年看護学実践論Ⅱ	1				1		30
		老年看護学実習	2				2		45
		小児看護学概論	1			1			30
		小児看護学実践論Ⅰ	2			2			15
		小児看護学実践論Ⅱ	1				1		30
		小児看護学実習	2				2		45
		母性看護学概論	1			1			15
		母性看護学実践論Ⅰ	2			2			15
		母性看護学実践論Ⅱ	1				1		30
		母性看護学実習	2				2		45
		精神看護学概論	1			1			30
		精神看護学実践論Ⅰ	2			2			15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専門分野	看護学	領域別看護	精神看護学実践論Ⅱ	1			1		30
		領域別看護	精神看護学実習	2			2		45
		領域別看護Ⅱ	災害看護学実践論Ⅰ		2			2	15
			災害看護学実践論Ⅱ		1			1	15
			国際看護学		1			1	15
		公衆衛生看護	公衆衛生看護学概論	1		1			15
			公衆衛生看護活動論		2		2		15
			産業保健		1		1		15
			公衆衛生看護活動展開論		4			4	15
			公衆衛生看護管理論		1			1	15
			公衆衛生看護学実習		5			5	45
		看護統合実践	看護統合実習 A	2				2	45
			看護統合実習 B	2				2	45
		看護研究	看護研究	2				2	30
養護教諭教職課程（一種免許状）	科目	教育の基礎的理解に関する	教育原理	1		1			15
			教職論	2		2			15
			教育制度論	1		1			15
			教育心理学	2		2			15
			特別支援教育の基礎	1			1		15
			教育課程論	1		1			15
養護教諭教職課程（一種免許状）	の道徳、総合的な学習の時間等 内容及び生活指導、教育相談等に関する科目		道徳教育/総合的な学習の時間の指導法	1			1		15
			特別活動の指導法	1		1			15
			教育方法論	1		1			15
			生徒指導論	1			1		15
			学校教育相談	2		2			45
	教育実践に関する科目		養護実習事前・事後指導	1				1	15
			養護実習	4				4	45
			教職実践演習（養護教諭）	2				2	15

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
養護教諭教職課程（一種免許状）	養護に関する科目	疫学・保健統計論	2			2			15
		保健医療福祉行政論	2			2			15
		公衆衛生学	2		2				15
		学校保健Ⅰ	1			1			15
		学校保健Ⅱ	1			1			15
		養護概論	2				2		15
		学校健康相談	2				2		15
		栄養学	2		2				15
		体の仕組みと働きⅠ	1		1				15
		体の仕組みと働きⅡ	1		1				15
		体の仕組みと働きⅢ	1		1				15
		体の仕組みと働きⅣ	1		1				15
		病原微生物学	2		2				15
		臨床薬理学	2			2			15
		精神看護学概論	1			1			30
		精神看護学実践論Ⅰ	2			2			15
		基礎看護学概論	1		1				15
		基礎看護学実習Ⅰ	1		1				45
		基礎看護学実習Ⅱ	2			2			45
		看護統合実習 A	2					2	45
		小児看護学概論	1			1			30
		小児看護学実践論Ⅱ	1				1		30
		小児看護学実習	2				2		45
		精神看護学実践論Ⅱ	1				1		30
		急性期看護学実践論	1			1			15
		急性期看護学実習	2				2		45

分類	区分	科 目	単位数		配当年次及び単位数				1 単位 当たりの 時間数
			必修	選択	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
養護教諭教職課程（一種免許状）	大学が独自に 設定する科目	基礎看護学実践方法論	2			2			15
	第66の6に規定する科目 教育職員免許法施行規則	日本国憲法	2		2				15
		スポーツ科学	1		1				15
		スポーツ実習	1		1				30
		英語	2		2				30
		英会話Ⅰ（基礎）	2		2				30
		パーソナル・コンピューター入門※		1	1				15
		情報リテラシー	1		1				30
		情報科学概論※		1	1				15
養護教諭教職課程 （二種免許状）		スポーツ科学	1		1				15
		スポーツ実習	1		1				30
		日本国憲法	2		2				15
		パーソナル・コンピューター入門※		1	1				15
		情報科学概論※		1	1				15
		学校保健Ⅱ	1			1			15

※「パーソナル・コンピューター入門」「情報科学概論」については、どちらか一方を必ず選択し、単位を取得しなければならない。

別表第 7

1－1．助産学専攻科（平成 23 年度入学生まで適用）＜削除＞

1－2．助産学専攻科（平成 24 年度入学生から適用）

区分	授業科目	単位数		1 単位 当たりの 時間数
		必修	選択	
助産学基礎・ 関連領域	助産学概論	2		15
	生殖の形態と機能	2		15
	母子と栄養	1		15
	家族支援論	1		15
	ウイメンズヘルス	1		15
助産学実践領域	助産診断・技術学Ⅰ	3		30
	助産診断・技術学Ⅱ	3		30
	周産期の生理と病態	2		15
	健康教育論	1		15
	地域母子保健学	2		15
	助産管理学	2		15
助産学実習	助産学実習Ⅰ（分娩介助実習）	6		45
	助産学実習Ⅱ（長期継続実習）	2		45
	助産学実習Ⅲ（NICU・GCU 見学実習）	1		45
	助産学実習Ⅳ（集団への健康教育）	1		45
	助産学実習Ⅴ（助産管理学実習）	1		45
助産学発展領域	助産学研究	1		30
	生命倫理学	1		15
	医療安全管理学	1		15
	代替医療論		1	15
	リラクゼーション論		1	15
計		34	2	

1－3．助産学専攻科（令和4年度入学生から適用）

区分	授業科目	単位数		1単位 当たりの 時間数
		必修	選択	
助産学基礎・ 関連領域	助産学概論	1		15
	生殖の形態と機能	2		15
	母子と栄養	1		15
	家族支援論	1		15
	ウイメンズヘルス	1		15
助産学実践領域	助産診断・技術学Ⅰ	3		30
	助産診断・技術学Ⅱ	3		30
	周産期の生理と病態	2		15
	健康教育論	1		15
	地域母子保健学	2		15
	乳幼児の発育・発達とケア	1		15
	助産管理学	2		15
助産学実習	助産学実習Ⅰ（分娩介助実習）	6		45
	助産学実習Ⅱ（長期継続実習）	2		45
	助産学実習Ⅲ（NICU・GCU 見学実習）	1		45
	助産学実習Ⅳ（集団への健康教育）	1		45
	助産学実習Ⅴ（助産管理学実習）	1		45
助産学 発展領域	助産学研究	1		30
	生命倫理学	1		15
	医療安全管理学	1		15
	リラクゼーション論		1	15
計		34	1	

別表第 8

1－1．和歌山助産学専攻科（令和4年度入学生から適用）

区分	授業科目	単位数		1 単位 当たりの 時間数
		必修	選択	
助産学基礎領域	助産学概論	1		15
	ウイメンズヘルス総論	1		15
	マタニティヘルス総論（周産期の生理と病態）	2		15
	乳幼児の成長・発達	1		15
	母子と家族の心理社会学	1		15
	生殖医療と生命倫理学	1		15
助産学実践領域	助産診断・技術学Ⅰ（妊娠準備期から妊娠期）	2		15
	助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）	2		15
	助産診断・技術学Ⅲ（産褥期）	1		30
	助産診断・技術学Ⅳ（新生児・乳幼児）	1		30
	助産診断技術学演習（分娩介助）	2		30
	周産期の救命救急演習	1		30
	健康教育演習	1		30
	カウンセリング論	1		15
	地域母子保健学	2		15
	助産管理学	2		15
	助産学実習Ⅰ	2		45
	助産学実習Ⅱ	7		45
	助産学実習Ⅲ	1		45
	助産学実習Ⅳ	2		45
助産学発展領域	助産学研究	1		30
	災害と助産	1		15
	英語文献講読	1		15
	遠隔診療技術の基礎		1	15
	国際母子保健活動論		1	15
計		37	2	

1－2．和歌山助産学専攻科（令和6年度入学生から適用）

区分	授業科目	単位数		1単位 当たりの 時間数
		必修	選択	
助産学基礎領域	助産学概論	1		15
	ウイメンズヘルス総論	1		15
	マタニティヘルス総論（周産期の生理と病態）	2		15
	乳幼児の成長・発達	1		15
	母子と家族の心理社会学	1		15
	生殖医療と生命倫理学	1		15
助産学実践領域	助産診断・技術学Ⅰ（妊娠準備期から妊娠期）	2		15
	助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）	2		15
	助産診断・技術学Ⅲ（産褥期）	1		30
	助産診断・技術学Ⅳ（新生児・乳幼児）	1		30
	助産診断技術学演習（分娩介助）	2		30
	周産期の救命救急演習	1		30
	女性と家族の健康教育	1		15
	カウンセリング論	1		15
	地域母子保健学	2		15
	助産管理学	1		15
	助産学実習Ⅰ（基礎助産実習）	2		45
	助産学実習Ⅱ（分娩介助と継続事例の実習）	7		45
	助産学実習Ⅲ（ハイリスク実習）	1		45
	助産学実習Ⅳ（地域母子保健助産管理実習）	2		45
助産学発展領域	助産学研究	1		30
	災害と助産	1		15
	英語文献講読	1		15
	遠隔診療技術の基礎		1	15
	国際母子保健活動論		1	15
計		36	2	

別表第9 医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部
検定料 (単位 円)

学部 学科 費目	各学部看護学科	医療保健学部 医療栄養学科	医療保健学部 医療情報学科	医療保健学部 医療保健学科
検定料	35,000	35,000	35,000	35,000

別表第10 医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部
学費、諸納金 (単位 円)

学部学科 費目	各学部看護学科	医療保健学部 医療栄養学科	医療保健学部 医療情報学科	医療保健学部 医療保健学科
学 費	入学金	300,000	300,000	300,000
	授業料	1,000,000	800,000	800,000
	施設費	300,000	300,000	300,000
	維持費	150,000	150,000	150,000
	実験実習 費	別に定めるところによる	参加実習毎に 個別徴収	参加実習毎に 個別徴収
	① 授業料、施設費は4月と10月に1/2ずつ納入。 ② 入学金は、入学時のみの納入とし、翌年度以降は納入不要。 ③ 在学中の学費は経済情勢の変動により改定することがある。 諸納金については別に定めるところによる。			

別表第11 助産学専攻科 検定料、学費及び諸納金 (単位 円)

検定料	入学金	授業料	実験実習費	維持運営費
35,000	210,000	600,000	550,000	250,000

※諸納金については別に定めるところによる。

別表第 12 和歌山助産学専攻科 検定料、学費及び諸納金 (単位 円)

検定料	入学金	授業料	施設維持費
35,000	210,000	1,150,000	250,000

※諸納金については別に定めるところによる。

別表第 13 医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部
科目等履修生の学費 (単位 円)

学部学科 費目	各学部看護学科	医療保健学部 医療栄養学科	医療保健学部 医療情報学科	医療保健学部 医療保健学科
選考料	35,000			
在籍料	別に定める			
受講料	別に定める			

別表第 14 医療保健学部、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部
研究生の学費 (単位 円)

学部学科 費目	各学部看護学科	医療保健学部 医療栄養学科	医療保健学部 医療情報学科	医療保健学部 医療保健学科
在籍料	別に定める			

東京医療保健大学医療保健学部各学科教授会規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、東京医療保健大学学則第56条の規定に基づき、東京医療保健大学医療保健学部に置く各学科教授会(以下「教授会」という)について必要事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1)学生の入学、卒業及び課程の修了

(2)学位の授与

(3)前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長、学部長及び学科長が(以下「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(組 織)

第3条 教授会の組織については各学科において定めるものとする。

(招 集)

第4条 教授会は学科長が招集する。

2 学科長は、教授会構成員の3分の1以上から請求のあった場合には、速やかに教授会を招集しなければならない。

(専門委員会)

第5条 教授会はその構成員の一部の者をもって構成する専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会は教授会で審議すべき事項の中で、教授会で必要と認められた事項を取り扱うものとする。

(事 務)

第6条 教授会に関する事務は議長の指示に基づき行う。

附 則

1. この規程は、平成27年4月1日から施行する。

2. この規程施行前に、医療保健学部各学科の学科会議において行われた教育研究に関する事項に係る審議については、各学科教授会において行われた教育研究に関する事項に係る審議とみなす。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する

附 則

1. この規程は、令和7年3月10日から施行する。
2. この規程施行前に、医療保健学部各学科の学科会議において行われた教育研究に関する事項に係る審議については、各学科教授会において行われた教育研究に関する事項に係る審議とみなす。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	2
2. 学部・学科の特色	6
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	7
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	7
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	19
6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画 ..	22
7. 実習の具体的計画	23
8. 企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画 ..	28
9. 取得可能な資格	29
10. 入学者選抜の概要	29
11. 教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色	38
12. 研究の実施についての考え方、体制、取組	40
13. 施設、設備等の整備計画	42
14. 管理運営	43
15. 自己点検・評価	44
16. 情報の公開	45
17. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	46
18. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	47

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 東京医療保健大学の理念・目的

東京医療保健大学は、「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を建学の精神及び教育理念とし、医療分野において特色ある教育研究を実践することで、時代の求める高い専門性及び豊かな人間性と幅広い教養並びに高い倫理性を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に探究し解決することのできる人材の育成を目的として定め、平成17年に開学した。

現代においてますます高度化する医療保健活動に対応し、グローバルな視点で活動できる高度な知識・技術を持った専門職の育成を図ることを目標に、病院の持つ教育力を活用し専門職教育を行うことを本学の特徴として位置付け、開学時にはN T T 東日本関東病院、東京通信病院との連携による教育をはじめ、その後も、独立行政法人国立病院機構、独立行政法人地域医療機能推進機構並びに日本赤十字社和歌山医療センター等いずれも地域の中核を担う病院組織と密接に連携する体制を構築し、地域社会に適合した最先端の医療現場を教育することで、優れた医療人を輩出し、現在では我が国における1学年当たりの看護職の養成数は最大規模の大学となっている。

(2) 医療保健学部の理念・目的

医療保健学部では、看護学科、医療栄養学科及び医療情報学科を開学時に設置し、現在に至るまで「医療保健活動の原点とも言うべき「現場」に興味を持ち、「現場」を愛する専門職の育成」、「教育研究成果のエッセンスを相互に提供し合うことで幅広い視野を持った専門職及びチーム医療人として協調・協力が出来る人材の育成」を目的として、看護職の他、医療栄養学科においては、管理栄養士国家試験受験資格や栄養教諭等の資格取得ができる教育課程を、医療情報学科では診療情報管理士国家試験受験資格や情報に係る各種資格取得ができる教育課程を整備し、チーム医療で活躍できる医療人を輩出してきた。

この動きは、「チーム医療の推進について」(厚生労働省, 2010)に示されるように、高度専門化や先進化に伴い、医師と共に看護職、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士などの職種がそれぞれ持つ専門性を活かし、協働して取り組むチーム医療の実践が国策として推進されることを予見し、早期に本学において実践してきたものであり、本学において高度医療専門職の養成が社会的需要に合致していたと評価している。

(3) 医療保健学部医療保健学科の設置の必要性

我が国は、少子高齢化の進行に伴い、医療・福祉分野における人材確保と質の高いサービス提供が喫緊の課題となっている。中でも、急速に進展する医療技術や情報化への対応、地域包括ケアの深化、医療安全対策の強化など、医療現場が抱える課題は多岐にわたり、それに応えるための多様な専門職の養成が求められている(厚生労働省, 2024a)。

東京医療保健大学はこれまで、看護学、栄養学、医療情報学等の分野において、実践力を備えた専門職の育成を通じて地域医療に貢献してきた。今般、これまでの教育実績と学内資源を活かし、医療・保健・福祉分野の中核的職種である「管理栄養士」「臨床検査技師」「診療情報管理士」に加えて、新たに「臨床工学技士」を養成する1学科4専攻の新学部を設置するものである。

本学部では、医療現場で協働する機会の多い4職種を一つの学科に集約し、相互理解とチーム医療の基礎を涵養する教育体制を構築する。これにより、専門性の深化とともに、多職種連携の観点から広い視野と倫理観を備えた人材を育成し、今後の地域医療および高度医療の発展に資することを目的とする。

（４）医療人材の供給と偏在の是正

厚生労働省の「医療従事者の需給に関する検討会」によれば、今後の高齢化の進展と医療の高度化に伴い、臨床検査技師や臨床工学技士といった高度な技能を持つ医療技術職の需要は一層高まるとされている（厚生労働省，2024b）。特に臨床工学技士は、人工心肺装置や人工呼吸器、血液浄化装置など生命維持管理装置の操作・保守を担う専門職であり、急性期病院を中心に配置が進んでいるものの、依然として地域間・施設間での偏在が課題である（一般社団法人日本臨床工学技士会，2023）。

また、管理栄養士や診療情報管理士についても、生活習慣病対策や医療DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進といった社会的要請が高まりを見せており、単なる資格取得にとどまらず、科学的根拠に基づいた判断と実践ができる人材の育成が急務である。

（５）医療DXと臨床工学技士の役割

政府は2022年に「医療DX推進本部」を設置し、保健医療情報の利活用促進や電子カルテの標準化等を掲げる「医療DX令和ビジョン2030」を策定した（内閣官房，2023）。この中で、診療情報管理士はもちろん、医療機器の情報管理や医工連携分野の進展に対応できる臨床工学技士への期待が高まっている。

臨床工学技士は従来の「操作技師」から、機器管理の情報化・可視化、医療チームにおける技術支援、さらには災害医療や在宅医療への参画など、多様な役割を担いつつある。とりわけ、人工呼吸器やECMO等の高度医療機器の操作・トラブル対応は、COVID-19パンデミック時にその必要性が再認識された。

（６）1学科4専攻とする教育的意義

医療現場において、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、診療情報管理士は、互いに密接に連携しながら患者のQOL向上に貢献する。1学科4専攻とすることで、初年次から共通科目やPBL（課題解決型学習）を通じて多職種の役割理解を深め、協働教育(IPE)の実践によりチーム医療の基礎を涵養する。また、臨床現場に即したカリキュラム設計により、各専攻における専門性を確保しつつ、医療の現場力を身につけた人材を輩出できる。これにより、資格取得にとどまらず、即戦力として地域医療や急性期医療の現場で活躍しうる人材を計画的に養成することが可能となる。

（７）医療保健学科で養成する人材像

医療保健学部医療保健学科においては「社会や医療保健の高度化を踏まえ、多様なニーズに対応できる医療保健専門職の育成」、「健康に関わる社会課題を俯瞰し、医療保健の現場を含むあらゆるフィールドにおいて、他の専門職と協調して自らの専門性を発揮できる人材の育成」を図る。

（８）医療保健学科における3つの方針

【医療保健学科 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

医療保健学科においては、本学の建学の精神に基づき、以下の能力を修得したと認められる者に学士（医療保健学）の学位を授与します。

1. 医療保健の専門職として必要な知識と技術を修得し、「医療の現場」や「食をはじめとする健康な生活づくり」に関わる場面で活用できる能力
2. 高い倫理性と人間性を兼ね備え、医療保健分野に貢献できる能力
3. グローバルな教養を身に付け、医療保健の専門職との協働はもとより、多様な文化や背景を持つ人々を理解し協調できる能力
4. 未知の課題に対して多様な情報を収集し、科学的根拠に基づいた思考と判断により解決に向けて創造的に取り組むことができる能力

【医療保健学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

医療保健学科においては、学位授与の方針を実行・達成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 高い倫理性と人間性を兼ね備え、教養ある医療保健の専門職を育成するため、「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設します。
2. 「いのち・人間の教育分野」では、医療保健の専門職として欠かせない「思いやり」、「人の絆」、「愛」の心を涵養するため、人文・社会科学および自然科学の双方から人間に対する理解を深める科目を開設します。
3. 「医療のコラボレーション教育分野」では、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士及び医療保健分野の情報処理技術者（以下、各職種という）に共通する基礎医学および社会医学に関する科目を配置し、医療保健の現場や生活を支える上での基礎となる医学的知識の修得とともに、職種間の協働・連携を図るスキルの獲得を図ります。
4. 「専門職の教育分野」では、各職種の国家資格等を得るために必要な知識及び技術を修得するための科目を設置するとともに、それらの知識や技術を活かし職種を超えて社会課題の解決を図るための統合的科目を設置し、幅広いフィールドで活躍できる人材の育成を目指します。

なお、上記の相関は【資料1】で示す。

また、本学において学習成果の評価方針は下記のとおり定めている。

アセスメントプランは、本学の学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、学位プログラム共通の考え方や評価指標、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針です。（令和5年1月11日 内部質保証推進会議決定）

---- 学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー） ----

大学及び学部・学科並びに大学院及び研究科・専攻が掲げる卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポ

リシー)(以下「DP」という。)の達成状況、また、DP を達成するための教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)の適切性を評価するため、学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)を制定し、次の方法により検証する。

1. 大学・大学院

卒業(修了)率、就職率、進学率、資格・免許取得状況、卒業予定者対象アンケート等から学修成果の達成状況を検証する。

2. 学部・学科、研究科・専攻

進級率、留年率、退学率、休学率、留学率、単位修得状況、GPA、TUS ルーブリックを用いた自己評価・客観評価等から学修成果の達成状況を検証する。

3. 授業科目

授業改善のためのアンケート、シラバスに提示した授業科目の到達目標と学生の単位修得状況、成績分布状況等から、学修成果の達成状況を検証する。

【医療保健学科 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

医療保健学科においては、本学の建学の精神及び本学科の教育研究の目的を理解し、下記のような志を持った学生を求めます。

1. 医療保健分野への意欲や関心が高く、学修に対する熱意を有している人
2. 医療保健に携わる者として、生命を尊重し他者を思いやる心を有している人
3. 多様な人々を尊重し、協調性を以て意思疎通を図り、それらの人々と協働・連携することができる人
4. 健康に関わる社会課題に対応できる専門知識や技術を身につけるための基礎学力を有している人
5. 様々な現象に関心・興味を示し、科学的根拠に基づいて課題の解決に取り組むことができる人

（7）組織として研究対象とする学問分野

医療保健学科が組織として研究対象とする学問分野は、医療栄養学、臨床検査学、臨床工学、医療情報学とする。

<参考資料一覧（出典）>

1. 厚生労働省（2010）『チーム医療の推進について』

URL：<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf>

2. 厚生労働省（2024a）『令和6年版厚生労働白書』

URL：<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/index.html>

3. 厚生労働省（2024b）『医療従事者の需給に関する検討会 第21回 資料』

URL：https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei_537292.html

4. 内閣官房（2023）『医療 DX 令和ビジョン 2030（中間とりまとめ）』

URL：https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/iryou_dx/

5. 一般社団法人日本臨床工学技士会（2023）『臨床工学技士の実態調査報告書』

URL：<https://www.ja-ces.or.jp/statistics/>

6. 日本栄養士会（2023）『管理栄養士の活動と課題』

URL：<https://www.dietitian.or.jp>

7. 医療情報システム開発センター（MEDIS-DC）（2023）『診療情報管理士の新たな役割』

URL：<https://www.medis.or.jp/publication/>

8. 東京医療保健大学アセスメントプラン

URL：<https://www.thcu.ac.jp/about/pdf/disclosure/1/assessment.pdf>

2. 学部・学科の特色

医療保健学部医療保健学科では、「社会や医療保健の高度化を踏まえ、多様なニーズに対応できる医療保健専門職の育成」、「健康に関わる社会課題を俯瞰し、医療保健の現場を含むあらゆるフィールドにおいて、他の専門職と協調して自らの専門性を発揮できる人材の育成」を理念としており、本学が開学来取り組んできたチーム医療で活躍できる医療人材の養成を重点的な役割・機能として担う。

（1）1 学科 4 専攻体制での高度医療専門職の養成

医療保健学部医療保健学科では、個々の専門職単位の質の高さは担保した上で、1 学科 4 専攻体制という複数の医療専門職を同学科で養成する強みを最大限に活用し、多職種連携のチーム医療の基本である“協働”の基盤を持った医療人を養成する。

医療保健学部には、医療保健学科の他、看護学科も設置されており、学部単位では看護職、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、医療情報技師の養成を行っている。このメリットを活かし、教育課程において、一部の授業を看護学科も含めた学部単位での共通開講をすることとしており、初年次より他の医療専門職の職業を知る機会を設けている他、2 年次以降各々の医療専門職に求められる能力の修得を行った上で、4 年次には学部合同授業として「協働実践演習」を設置している。

本授業は看護学科、医療保健学科の学生が、糖尿病等の生活習慣病や健康障害を題材に、問題解決や援助計画について意見交換し、各専門職の役割を認識するとともに、今まで学んだ専門科目の内容を総合的かつ深く理解することをねらいとしており、4 年間の取り組みの集大成として自身の専門性を理解した上でチーム医療の基本である“協働”の意義を学ぶ機会とする。

また、飛躍的な進歩を遂げるデジタル情勢を鑑み、デジタルに強い医療人材養成についても、文部科学省より認定を受けている数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを改組後も教育課程に組み込み、継続して行っていく。

これらの専攻の枠を超えた本コラボレーション教育は複数の医療専門職を養成している本学ならではの

の特色ある教育であり、複数の高度医療専門職を養成する大学としての個性を一層明確にしていきたいと考えている。

（２）学科共通科目群と専攻別科目群の設定

医療保健学科では、入学時に専攻別に課程が分かれるものの、初年次には医療人において特に重要である人間力教育を実施すべく、リベラルアーツ教育分野を中心とした学科共通科目群を専攻横断教育プログラム（「いのち・人間の教育分野」）として設定している。このプログラムには、倫理観、語学、哲学、社会科学等の幅広い教養と技能を身に着けることを目的としている他、キャリア教育等の社会的・職業的自立支援の科目を看護学科も含めた学部共通科目として設定している。他学科学生との交流を通して他の医療専門職を理解し、多職種連携の必要性やその在り方を習得できるプログラムであり、学科の理念である「他の専門職と協調して自らの専門性を発揮できる人材の育成」の実現につなげている。

その後２年次以降は各専攻の専門科目を中心とし、基礎から臨床にわたる階層知識を積み上げ、実習の場で実践することで、高い倫理観とコミュニケーション能力を持ち、医療保健の担い手として主体的に考え行動することができる能力を養うとともに、その知識・技術を実践の場で生かすことができる能力を涵養している。

（３）大学と連携した医療機関との広範なネットワークを活かした質の高い臨地・臨床実習

本学は、NTT 東日本関東病院をはじめ、独立行政法人国立病院機構、独立行政法人地域医療機能推進機構等、最先端医療、地域医療、災害医療、ICT の活用などの分野で国内有数の実績を誇る連携医療機関と強固なつながりがある。

これらの連携医療機関を中心に臨地・臨床実習施設を設定しており、学生の利便性を考慮の上、高い臨床実績のある実習施設を十分に確保するとともに、実習施設との密な連携及び豊富な臨床経験を有する実習指導者により実践力のある質の高い知識・技術の修得を目指す。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

（１）学部・学科の名称

学部の名称は「医療保健学部」、英文名「Faculty of Healthcare」のまま変更は行わない。新学科については、「管理栄養学専攻」「臨床検査学専攻」「臨床工学専攻」「医療情報学専攻」の４つの専攻を設置し、医療保健の現場を含むあらゆるフィールドにおいて多様なニーズに対応できる医療専門職を養成することから「医療保健学科」とし、英文名は「Division of Healthcare」とする。

（２）学位の名称

医療保健学科の学位授与方針及び卒業要件を満たしたものに対して授与する学位の名称は、人材養成の目的に従い「学士（医療保健学）」とし、英文名は、「Bachelor of Healthcare」とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程の基本構成と方針

大学全体に共通する教育課程の編成として、1 年次ではリベラルアーツ教育を中心とした教養教育科目を中心に基本的な知識と人間力の基礎を含む汎用能力を幅広く修得し、2 年次では基礎的な専門知識を学び、3 年次では更に専門的かつ実践的な知識と技術を身につけ、4 年次ではそれまでに学んだ教養教育科目・専門教育科目での取り組みの集大成として、臨地・臨床実習などの現場における実践力教育の場を設ける他、卒業研究など自主的な課題解決型の学修を行うこととしている。

医療保健学科では、学科が掲げる養成する人材像及び特色の趣旨を踏まえて、ディプロマ・ポリシーを実現するために、教育課程において各専攻別に体系的に科目を配置している。

この科目の構成は、平成 14 年 2 月に中央教育審議会答申の「新しい時代における教養教育の在り方について」において「大学に求められる教養教育について新たに構築される教養教育は、学生に、グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるものでなければならない。また専門教育への単なる入門教育ではなく、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養など、新しい時代に求められる教養教育の制度設計に全力で取り組む必要がある。」とされていることを踏まえ、医療保健専門職としての必要な素養を育成するとともに、専門知識と技能を確実に修得させるだけでなく、本学の建学の精神である「時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探究し解決することのできる人材の育成」という目的も達成するよう編成している。

（2）医療保健学科における教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医療保健学科では、「社会や医療保健の高度化を踏まえ、多様なニーズに対応できる医療保健専門職の育成」および「健康に関わる社会課題を俯瞰し、医療保健の現場を含むあらゆるフィールドにおいて、他の専門職と協調して自らの専門性を発揮できる人材の育成」を目指し、ディプロマ・ポリシーを次のように定めている。

- DP1 医療保健の専門職として必要な知識と技術を修得し、「医療の現場」や「健康な生活づくりに関わる実践場面」で活用できる能力
- DP2 高い倫理性と人間性を兼ね備え、医療保健分野に貢献できる能力
- DP3 グローバルな教養を身に付け、医療保健の専門職との協働はもとより、多様な文化や背景を持つ人々を理解し協調できる能力
- DP4 未知の課題に対して多様な情報を収集し、科学的根拠に基づいた思考と判断により解決に向けて創造的に取り組むことができる能力

こうした能力を育成し、上述の人材を育てるために以下のカリキュラム・ポリシーを定めている。

- CP1 高い倫理性と人間性を兼ね備え、教養ある医療保健の専門職を育成するため、「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設する。
- CP2 「いのち・人間の教育分野」では、医療保健の専門職として欠かせない「思いやり」、「人の絆」、「愛」の心を涵養するため、人文・社会科学および自然科学の双方から人間に対する理解を深める科目を開設する。

- CP3 「医療のコラボレーション教育分野」では、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士及び医療保健分野の情報処理技術者（以下、各職種という）に共通する基礎医学および社会医学に関する科目を配置し、医療保健の現場や生活を支える上での基礎となる医学的知識の修得とともに、職種間の協働・連携を図るスキルの獲得を図る。
- CP4 「専門職の教育分野」では、各職種の国家資格等を得るために必要な知識及び技術を修得するための科目を設置するとともに、それらの知識や技術を活かし職種を超えて社会課題の解決を図るための統合的科目を設置し、幅広いフィールドで活躍できる人材の育成を目指す。

（３）カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応

医療保健学科ではカリキュラム・ポリシーに対応するため、各項目について以下のとおり教育課程を体系的に編成している。

- CP1 高い倫理性と人間性を兼ね備え、教養ある医療保健の専門職を育成するため、「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設する。

科目を、「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」「専門職の教育分野」に区分することで、倫理教育の強化、多職種連携の能力強化、専門性の深化、包括的な教育の提供が可能となり、効果的な学修および実践的なスキルの修得となる。

- CP2 「いのち・人間の教育分野」では、医療保健の専門職として欠かせない「思いやり」、「人の絆」、「愛」の心を涵養するため、人文・社会科学および自然科学の双方から人間に対する理解を深める科目を開設する。

「いのち・人間の教育分野」はその特徴から医療保健学科共通科目群とし、５つに区分し、必要に応じて科目の履修により、人間に対する理解を深める。

「いのち・人間」は、「哲学と宗教」「心理学」「文学」「生命倫理学」「医療と人間」で構成され、生命を尊重する態度、倫理的な判断力、思考力、感受性の豊かさ、多様な視点を尊重する態度について学ぶ。

「社会科学」は、「コミュニケーション概論」「経済学」「社会学」「法学」「歴史」「国際関係論」「認知科学」「人間関係論」「家族社会学」「ジェンダー論」「比較文化論」で構成され、コミュニケーション能力をはじめ、社会の構造と機能、歴史、国際的視野、文化的多様性を尊重する態度を学ぶ。

「自然科学」は、「基礎生物」「データサイエンス」「基礎数学」「物理学」「基礎化学」「スポーツ科学」「スポーツ実習」で構成され、基礎科学や科学技術、論理的思考力、スポーツについて学ぶ。

「外国語」は、「英語購読・記述」「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」「英会話Ⅲ」「専門英語」「フランス語」「中国語」で構成され、言語能力や自己表現力、異文化理解について学ぶ。「情報科学」は、「情報リテラシー」

「情報科学」「情報通信と保健医療」で構成され、数理・データサイエンス・AIの基礎、データ分析、医療保健におけるデータ活用、ITスキルや倫理的な態度を学ぶ。

- CP3 「医療のコラボレーション教育分野」では、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士及び医療保健分野の情報処理技術者（以下、各職種という）に共通する基礎医学および社会医学に関する科目

を配置し、医療保健の現場や生活を支える上での基礎となる医学的知識の修得とともに、職種間の協働・連携を図るスキルの獲得を図る。

「医療のコラボレーション教育分野」に配置される科目は、「入門」「発展」「実践」に区分し、1年生から4年生にかけて履修する。

「入門」は、「体の仕組みと働きⅠ（血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系）」「体の仕組みと働きⅡ（骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系）」「公衆衛生学」「栄養学総論（基礎栄養学）」「医療安全管理学（臨床工学・危機管理学・感染制御学）」「キャリア教育Ⅰ」で構成され、人体の構造と機能、公衆衛生、栄養学、医療安全や職業意識について学ぶ。

「発展」は、「医学・医療概論」「臨床薬理学（薬理学）」「医療マネジメント論」「キャリア教育Ⅱ」「キャリア教育Ⅲ」で構成され、医学・医療技術の基礎知識、医療経営、チーム医療について学ぶ。

また、病院見学や社会人講師の講話を通じて実践的な知識とスキルを身につける。専門職としての資質向上と社会的自立を目指す。「実践」は、「協働実践演習」「ボランティア論」「ボランティア活動」で構成され、専門職としての実践能力を学ぶ。

特に「協働実践演習」は医療保健学部の各学科の4年生が合同で演習に取組み、学科の枠を超えて相互に学修する。

CP4 「専門職の教育分野」では、各職種の国家資格等を得るために必要な知識及び技術を修得するための科目を設置するとともに、それらの知識や技術を活かし職種を超えて社会課題の解決を図るための統合的科目を設置し、幅広いフィールドで活躍できる人材の育成を目指す。

専門職の教育分野は、各専攻における専門的知識と技能を修得することをねらいとし、科学に基づく正確な技術、医療保健における学問的な理解を深め、研究及び実践活動に活かせる能力を育成するための科目設定をしており、各専攻別に高度医療専門職の養成に必要となる指定科目を中心に配置している。

（４）各専攻における専門科目配置の考え方

①管理栄養学専攻

ア「専門基礎」（必修22科目、選択12科目）

管理栄養士がカバーする領域は実に広範囲にわたる。日常の食をはじめ、医療・食安全・食育にかかわること、加えて近年急速に進む国際化による諸外国の食文化への理解も求められている。専門職の基礎となる科目を「専門基礎」で学ぶ。（「健康管理概論」「社会福祉総論」「食育論」「食文化論」「病理学Ⅰ（病態の系統的理解）」「病理学Ⅱ（病態の評価・診断）」「生化学Ⅰ（生体物質の構造と機能）」「生化学Ⅱ（生体物質の代謝）」「微生物学」「分子病態学」「解剖生理学実習」「生化学実験Ⅰ（生体物質の分析）」「生化学実験Ⅱ（生体物質の発現・代謝分析）」「薬物療法学」「病態生化学」「臨床検査学」「食品学Ⅰ（総論・食品の構成・生理および栄養機能）」「食品学Ⅱ（各論・食品の種類、性状、栄養特性・加工）」「食品衛生学」「食安全学」「調理学」「食品化学実験」「食品学実験」「食品加工学実習」「食品衛生学実験」「調理学実習Ⅰ（基本調理・日本食の理解）」「調理学実習Ⅱ（応用調理・食文化と献立作成）」「食品機能学」「サプリメント論」「調理科学実験」「食品流通論」「フードスペシャリスト

論」「フードコーディネート論」「食品の官能評価・鑑別論」)

イ「基礎栄養学」(必修 2 科目)

食と生活習慣病や長寿の関係に代表される栄養学と医療の深い関係性の理解や、一般的に知られている栄養情報への適切な対応能力を身につけ、今後の栄養管理や栄養指導等への基礎を築く。(「基礎栄養学特講」「栄養生理学実験」)

ウ「応用栄養学」(必修 6 科目、選択 1 科目)

これまでに学んだ栄養学に関する知識を基に、様々な状況下での栄養の役割を学ぶ。病気やライフステージ、運動等における栄養の重要性を理解し、個々の状況に合わせた栄養指導や食事計画を立てる能力を養う。(「応用栄養学Ⅰ(基本的理解・総論)」「応用栄養学Ⅱ(応用・特殊環境と栄養・実践)」「運動栄養学」「アスリート栄養学」「栄養学演習」「応用栄養学実習Ⅰ(ライフステージ別食事管理)」「応用栄養学実習Ⅱ(ライフステージ別栄養管理)」)

エ「栄養教育論」(必修 5 科目、選択 1 科目)

人々に栄養学に関する正しい知識を効果的に浸透させる方法や、食生活の改善を促す方法を学ぶ。栄養学の知識を基とした、様々な対象者に合わせた栄養教育プログラムの作成や、効果的なコミュニケーション方法を修得し、人々の健康増進に貢献できる能力を培う。(「栄養教育論Ⅰ(基礎)」「栄養教育論Ⅱ(応用・ライフステージ別栄養教育)」「栄養教育論Ⅲ(応用・要介護者の栄養管理とカウンセリング)」「栄養教育論実習Ⅰ(基礎・ライフステージ別栄養教育)」「栄養教育論実習Ⅱ(応用・症例に基づく栄養教育)」「カウンセリング論」)

オ「臨床栄養学」(必修 6 科目、選択 1 科目)

傷病者の栄養状態を評価し、適切な食事療法を計画し実施するための知識と技術を学ぶ。様々な疾患と栄養の関係性、栄養アセスメント、食事療法の立案、傷病者への栄養指導などについて学び、対象者の QOL 向上に貢献できる能力を培う。(「医療栄養学概論」「臨床栄養学Ⅰ(臨床症候と栄養障害の評価)」「臨床栄養学Ⅱ(疾患別・病態別栄養管理)」「臨床栄養学Ⅲ(チーム医療における栄養管理)」「臨床栄養学実習Ⅰ(基礎)」「臨床栄養学実習Ⅱ(応用と実践)」「臨床栄養実践演習」)

カ「公衆栄養学」(必修 3 科目、選択 1 科目)

集団の食生活や栄養状態を改善するための知識や、栄養調査の実施、健康教育プログラムの作成、地域における栄養改善のための政策提言などの方法について学び、地域社会の健康課題を解決し、地域住民全体の健康増進に貢献できる能力を培う。(「公衆栄養学Ⅰ(地域栄養の現状と課題・公衆栄養マネジメント)」「公衆栄養学Ⅱ(国内外の健康・栄養施策・栄養疫学)」「公衆栄養学実習」「地域栄養学実習」)

キ「給食経営管理論」(必修 3 科目)

献立作成、食材調達、調理、衛生管理、人材育成など、給食に関わるあらゆる業務について体系的に学ぶことで、学校や病院などでの給食運営に必要な知識とスキルを修得し、質の高い給食サービス

スを提供するための企画力、マネジメント能力、問題解決能力などを身につける。（「給食経営管理論Ⅰ（基礎）」「給食経営管理論Ⅱ（応用・実践・施設別給食管理）」「給食経営管理論実習」）

ク「総合演習」（必修2科目）

様々なライフステージや、多種多様な傷病者の病態や栄養状態における栄養評価や管理に対応できる総合力を培うことを目的とし、臨地実習の事前・事後学習と各専門分野を関連付けしながら分野横断的な知識を教授する科目を配置する。（「総合演習Ⅰ（基礎）」「総合演習Ⅱ（応用・総合）」）

ケ「臨地実習」（必修1科目、選択必修2科目）

管理栄養士の指導のもと、特定給食施設（事業所、介護保険施設、病院）において学内で学んだ知識、技術を基に実践的な給食の運営を学ぶ。保健所・保健センターにおいて、行政栄養士の役割および様々なライフステージを含む地域住民のための公衆栄養の実践を学ぶ。（「臨地実習Ⅰ（給食経営管理）」「臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）」「臨地実習Ⅲ（給食の運営・臨床栄養学・給食経営管理）」）

コ「その他」（必修2科目、選択2科目）

1年生で管理栄養士に必要な基本的な資質・能力の全体像を把握し、社会における管理栄養士の役割や使命、活動分野を理解するための基礎知識を学ぶ。また、4年生で研究テーマに添って、実験あるいは実習、情報収集、情報分析、調査などを行い、それまで学習してきた専門知識を統合化し、しかも深い知識と知識を探究する。（「総合学習Ⅰ（食べ物・栄養と健康）」「総合学習Ⅱ（食べ物・栄養と疾病・治療）」「実用国語」「卒業研究」）

サ「栄養教諭教職課程（一種免許状）」（選択17科目）

栄養教諭教職課程では、学校で子どもたちを対象とした食育を行い、健全な食生活をサポートできる能力を培う。そのため、栄養学の基礎、学校給食の管理や食育方法、教育学など、幅広い分野を学修する。（「教育原理」「教職論」「教育制度論」「教育心理学」「特別支援教育の基礎」「教育課程論」「道徳教育/総合的な学習の時間の指導法」「特別活動の指導法」「教育方法論」「生徒指導論」「学校教育相談」「栄養教育実習事前事後指導」「栄養教育実習」「教職実践演習（栄養教諭）」「学校栄養教育論」「学校栄養教育実践演習」「日本国憲法」）

②臨床検査学専攻

ア「社会・環境と健康」（選択4科目）

健康の概念、健康増進や疾病予防の考え方や家族形態や地域社会の変化による現状を把握し、日本の社会福祉の理念や歴史を概観しながら、社会福祉の目的である自立支援を学修する。（「健康管理概論」「社会福祉総論」「食育論」「食文化論」）

イ「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」（必修5科目、選択7科目）

人体の構造と機能を系統的に学び、生命現象を総合的に理解し、専門の関連科目を修得するための基礎能力を養う。（「病理学Ⅰ」「病理学Ⅱ」「生化学Ⅰ」「生化学Ⅱ」「微生物」「分子病態学」「解剖生理学実習」「生化学実験Ⅰ」「生化学実験Ⅱ」「薬物療法学」「病態生化学」「臨床検査学」）

ウ「病態学」(必修5科目)

各種疾患の病態を体系的に学び、疾患と臨床検査との関わりについて理解し、各種検査データから、患者の病態を把握、評価することにより、適切で信頼性のある検査データを提供することによりチーム医療の一員として臨床に対して支援する能力を養う。 (「臨床検査生化学」、「臨床検査医学総論」、「薬理学」、「臨床検査栄養学」、「チーム医療概論」)

エ「公衆衛生」(必修2科目)

医療のコラボレーション教育にある「公衆衛生学」を補完しさらに発展させるものである。保健・医療・福祉の制度を学び、臨床検査技師として、予防医学、在宅医療、地域包括ケアシステムや多職種連携について学修し、疫学的分析法の理論と技術及び臨床検査との関連について理解するとともに、医療チームの一員としての自覚を養う。さらにそれらの基盤となっている法律や規程について学ぶ。 (「医療概論」、「臨床検査関係法規」)

オ「医用工学概論」(必修3科目)

医療分野における工学的手法の基礎と概要及び安全性対策を理解・実践できる能力を養うとともに、医療情報科学の理論と実感を修得する。 (「医療工学・情報科学概論」、「医用工学実習」、「検査機器総論」)

カ「血液検査学」(必修3科目)

血液成分の生体への生理的な役割や血液検査結果と疾病との関係を学ぶとともに血液細胞等の形態学的検査方法及び遺伝子関連・染色体検査についての知識と技術を修得し、結果の解析と評価について学修する。 (「血液検査総論」、「血液検査学」、「血液検査学実習」)

キ「病理検査学」(必修3科目)

身体の構造、特に疾病時の臓器・組織・細胞等の形態学的検査及び遺伝子関連・染色体検査について、病理学的検査の観点からの知識と技術を修得し、結果の解析と評価について学修する。 (「病理検査学」、「病理細胞検査学」、「病理検査学実習」)

ク「尿・糞便等一般検査学」(必修2科目)

身体の構造、特に疾病時の臓器・組織・細胞等の形態学的検査及び寄生虫学とその検査について学び、各種生体試料について、尿・糞便等一般検査の観点からの生物化学的分析の理論と実感を修得し、結果の解析と評価について学修する。 (「一般検査・寄生虫検査学」、「一般検査学・寄生虫検査学実習」)

ケ「生化学検査学・免疫検査学」(必修2科目)

各種生体試料に含まれる成分について、生化学的検査・免疫学的検査の観点から生物化学的分析の理論と実感を修得し、結果の解析と評価について学修する。また新たな業務となった持続皮下グルコース測定の原理、手技及び患者接遇について修得し、結果の解析と評価について学修する。 (「生

化学検査学」、「免疫検査学」、「生化学検査学実習」、「免疫検査学実習」)

コ「遺伝子関連・染色体検査学」(必修2科目)

遺伝子、染色体、ゲノムの概念と基礎知識を学び、遺伝子検査の観点から各種分析法の理論と実際を修得し、結果の解析と評価について学修する。('遺伝子関連・染色体検査学'、'遺伝子関連・染色体検査学実習')

サ「輸血・移植検査学」(必修3科目)

病因・生体防御機能のひとつである免疫の仕組みを理解し、輸血、移植、遺伝子関連に関する検査の理論と実際、静脈路への成分採血装置の接続及び操作を修得し、結果の意義及び評価について学修する。('輸血・移植検査学'、'輸血・移植検査学実習'、'輸血・移植検査学演習')

シ「微生物検査学」(必修3科目)

微生物の病原性と感染の仕組みを理解し、病原性と遺伝子、感染症治療薬に関する検査の理論と実際を修得し、結果の意義及び評価について学修する。('微生物検査学Ⅰ'、'微生物検査学Ⅱ'、'微生物検査学実習')

ス「生理検査学」(必修7科目)

人体からの生体機能情報を収集するための理論、新たに臨床検査技師の生理学的検査の業務に加わった運動誘発電位検査・体性感覚誘発電位検査に係る電極装着(針電極含む)・脱着、超音波検査における静脈路からの造影剤注入、直腸肛門機能検査、消化管内視鏡検査(組織検体の採取手技を含む)を含む手技及び患者接遇について修得し、結果の解析と評価について学修する。また、外来、手術室など医療現場における多様なニーズに対応できる技術を修得する。さらに検査時の急変の対応についても学ぶ。('生理検査学Ⅰ'、'生理検査学Ⅱ'、'生理検査学Ⅲ'、'生理検査学実習Ⅰ'、'生理検査学実習Ⅱ'、'生理検査学実習Ⅲ'、'生理検査学演習')

セ「臨床検査管理学」(必修4科目)

医療機関等における臨床検査の意義を理解し、臨床検査の精度管理・品質保証及び人材・業務・機器・情報・運営・安全に関する管理法を修得するとともに、職業倫理を高める。また、予防医学における臨床検査(健康診断)の重要性、衛生検査所(検診センター)の役割と業務について理解を深めるとともに、臨床検査室および衛生検査所に対する認証制度の重要性を理解する。('検査管理総論'、'検査精度管理学'、'臨床検査総合演習Ⅰ'、'臨床検査総合演習Ⅱ')

ソ「医療安全」(必修2科目)

臨床検査技師の責任及び業務の範囲を理解し、感染管理及び医療安全と患者接遇に配慮して、適切に採血(静脈路確保、電解質輸液の注入を含む)、静脈路への成分採血装置の接続並びに操作、運動誘発電位検査・体性感覚誘発電位検査に係る電極装着(針電極含む)・脱着、超音波検査における静脈路からの造影剤注入、直腸肛門機能検査、持続皮下グルコース測定、検体採取(経口、経鼻又は気管カニューレ内部からの喀痰吸引、消化管内視鏡検査による組織検体の採取を含む)が現場で実施

できる実践的知識・技術を身につける。また採血・検体採取に伴う危険因子を認識し、合併症の発生時に適切に対処できる能力を身につける。医療事故等発生の要因分析とその対策について学ぶ。
（「臨床検査医療安全管理学」、「臨床検査医療安全管理学実習」）

タ「臨地実習」（必修 3 科目）

臨床検査技師としての基本的な実践技術及び施設における検査部門の役割を理解し、患者との適切な対応を学ぶ。また、臨床現場（救急、病棟、在宅等）や臨地実習施設のチーム（栄養サポートチーム、糖尿病療養指導チーム、感染制御チーム、抗菌薬適正使用支援チーム等）の役割と実施内容を理解するとともに、医療チームの一員としての責任と自覚を養い、適切な接遇マナーを身につける。（「臨地実習前評価」、「生理検査学に関する臨地実習」、「生理検査学以外の臨地実習」）

チ「その他の科目」（選択 2 科目）

社会で通用する臨床検査技師になるために必要な言語・情報活用能力について、国語（日本語）の文章を正しく理解し、自分の考えを伝え、表現することを「実用国語」を通じて学び、「卒業研究」では学内で学んだ専門科目に対して卒業研究を行うことで高度な知識と技術を学ぶ。卒業研究を行なうことにより、それまで学習してきた専門知識を統合化し、しかも深い知識と知識を探究するきっかけになる同時に従来の見解に新たな創造力を見出し、将来の社会生活において独自の座標軸を打ち建てること出来る。（「実用国語」、「卒業研究」）

③臨床工学専攻

ア「人体の構造および機能」（必修 5 科目）

人体の構造と機能を系統的に学び、生命現象を総合的に理解し、専門の関連科目を修得するための基礎能力を養う。（「解剖学・生理学Ⅰ」「解剖学・生理学Ⅱ」「解剖生理学実習」「生物学Ⅱ」「臨床工学演習Ⅱ」）

イ「臨床工学に必要な医学的基礎」（必修 7 科目）

各種疾患の病態を体系的に学び、疾患と臨床工学との関わりについて理解し、患者の病態の把握、評価および適切な治療などの概念を学び、適切で信頼性のある臨床工学技士としてチーム医療の一員として臨床支援を行う能力を養う。また、医療のコラボレーション教育にある「公衆衛生学」を補完しさらに発展させるものである。保健・医療・福祉の制度を学び、臨床工学技士として、予防医学、在宅医療、地域包括ケアシステムや多職種連携について学修し、疫学的分析法の理論と技術及び臨床検査との関連について理解するとともに、医療チームの一員としての自覚を養う。さらにそれらの基盤となっている法律や規程について学ぶ。（「医学概論」「公衆衛生学」「臨床工学病理学」「生化学」「臨床薬理学」「免疫検査学」「チーム医療概論」「関係法規」）

ウ「臨床工学に必要な理工学的基礎」（必修 3 科目）

臨床工学技士として医療機器の考え方やデータ分析の理論と方法を体系的に理解するために必要な基礎事項を学ぶ。（「情報数学」「基礎数学Ⅱ」「データサイエンス」）

エ「臨床工学に必要な電気・電子工学的知識」（必修 3 科目）

臨床工学技士に関係する高度な医療機器の原理や構造を理解する上で必要となる電気工学、および電子工学の基本概念を学び、電気回路の動作理論や機器と人体との両者に共通する基本的な電気現象を学び、医療電気機器の安全な運用に通じる知識体系を身につける。（「電気工学Ⅰ」「電気工学Ⅱ」「電子工学Ⅰ」「電子工学Ⅱ」「電気磁気学」）

オ「臨床工学に必要な基礎工学的知識」（必修 3 科目）

臨床工学技士に関係する高度な医療機器の原理や構造を理解する上で必要となる医用機械工学の基礎を学とともに、人体や機器のシステム論的理解を行い、制御論的な考え方やその解析法の基礎を学ぶ。さらに、医用計測で必要となる基礎的な計測理論とその技術を学習し、医療の場で操作・運用する機器を理解するための基礎知識を学ぶ。（「医用機械工学」「システム工学」「計測工学」）

カ「臨床工学に必要な物性工学的知識」（必修 4 科目）

高度な医療機器で使用される各種のエネルギーと生体作用との関連を生理学的知識および電気工学、機械工学などの工学的な知識とを関連付けて学び、医療機器の原理や安全な運用に関する知識を学ぶ。これに加え、医療の場で使用される様々な医用材料の物理的な構造と特徴および製法などを学び、医用材料の安全性の確保の現状とその運用法を理解する。（「生体物性工学」「医用材料工学」「生体物性・材料工学」「臨床工学演習Ⅰ」）

キ「医用機器および臨床支援機器」（必修 4 科目）

臨床工学技士が操作、運用、保守、点検を行う各種の医用機器を理解する上で必要となる基本的な知識を学び、具体的な機器の原理、構造および安全な運用法を学習し、それらの機器の適切な運用に関わる技術を習得する。（「医用機器学概論」「医用治療機器学Ⅰ」「医用治療機器学実習」「臨床工学演習Ⅱ」）

ク「生体計測および臨床支援に関わる医療機器」（必修 6 科目）

臨床工学技士が操作、運用、保守、点検を行う各種の生体計測機器の原理・構造を学び、正しい運用と機器の操作法、および安全管理の技術を学ぶ。また、臨床の場で技士の働く環境で使用される各種の画像診断装置の基礎を理解し、画像の描出原理および診断の方法を理解する。また、これらの運用される医療現場における臨床支援に関わる技術の基本を学ぶ。（「生体計測学基礎」「生体計測装置学Ⅰ」「生体計測装置学Ⅱ」「生体計測装置学実習」「画像診断学」「臨床支援技術学」）

ケ「生体機能代行技術学」（必修 8 科目）

高度な生命維持管理装置である血液浄化装置、人工呼吸装置および体外循環装置の原理、構造、運用および保守点検技術を学ぶ。とくにこれらの機器が生命の維持に直結することから安全な操作法だけでなく、機器の安全性を維持する方法と機器のトラブルに即時に対応できる技術を学習し、実習を通じて実践的な技術を身につける。（「生体機能代行装置学概論」「生体機能代行装置学Ⅰ」「生体機能代行装置学Ⅱ」「生体機能代行装置学Ⅲ」「生体機能代行装置学Ⅳ」「生体機能代行装置学実習Ⅰ」「生体機能代行装置学実習Ⅱ」「生体機能代行装置学実習Ⅲ」）

コ「医療安全管理学」(必修 4 科目)

臨床工学技士の責任及び業務の範囲を理解し、医療機器を臨床の場で安全に運用するための基本的な技術を学ぶ。とくに血液浄化装置の運用で行われる血管への穿刺については感染管理及び医療安全と患者接遇に配慮して、適切に穿刺できる技術を身につける。また、人工呼吸器など、呼吸管理における機器の操作に追加される喀痰吸引についても現場で実施できる実践的知識・技術を身につける。さらに様々な原因で発生する医療事故等の要因分析とその対策方法について学ぶ。〔「医用機器安全管理学Ⅰ」「医用機器安全管理学Ⅱ」、「医療安全管理学」「医用機器安全管理学実習」〕

サ「臨床医学総論」(必修 5 科目)

臨床工学技士が医療の場で接する様々な疾患の原因を理解し、診断や治療法に関する基礎的な知識を学ぶ。内科系の疾患および外科系の疾患を把握し、各種の生理学検査の基本を理解する。さらに基本的な治療の考え方を学ぶとともに、様々な医用計測機器および治療機器がどのような適用され、各種の疾患治療に役立つことができるかを理解する。また、重篤患者の治療と管理、術後の管理などを行う手術、集中治療室における治療の具体的方法を学習し、各種機器の役割と運用法について学ぶ。これらを通して疾患の治療に関わる各種専門医療職の役割とチーム医療との関係性を理解する。〔「臨床医学総論Ⅰ」「臨床医学総論Ⅱ」「手術・集中治療学」「生理検査学Ⅰ」「生理検査学Ⅱ」〕

シ「臨床実習」(必修 2 科目)

臨床工学技士を目指す学生としてこれまでに学習した基礎知識が実際の臨床の場でどのように実践されているかを、実習施設となる医療機関の場で業務としての活動を通じて学習し、基本的な実践技術及び施設における臨床工学技士の役割を理解し、また、患者との適切な対応を学ぶ。また、臨床現場(救急、病棟等)における臨床実習施設のチーム(栄養サポートチーム、糖尿病療養指導チーム、感染制御チーム、抗菌薬適正使用支援チーム等)の役割と実施内容を理解し、医療チームの一員としての責任と自覚を養い、適切な接遇マナーを身につける。〔「技術・知識の到達度評価」「臨床実習」〕

ス「その他」(選択 2 科目)

社会で通用する臨床工学技師になるために必要な言語・情報活用能力について、国語(日本語)の文章を正しく理解し、自分の考えを伝え、表現することを「実用国語」を通じて学び、「卒業研究」では学内で学んだ専門科目に対して卒業研究を行うことで高度な知識と技術を学ぶ。卒業研究を行なうことにより、それまで学習してきた専門知識を統合化し、しかも深い知識と知識を探究するきっかけになる同時に従来の見解に新たな創造力を見出し、将来の社会生活において独自の座標軸を打ち建てること出来る。〔「実用国語」、「卒業研究」〕

④医療情報学専攻

ア「医療情報」(必修 8 科目、選択 12 科目)

医療情報学専攻については、DPを満たすための学びを幅広い科目群から行えるようにすることが基本方針であり、よって選択科目を多く配置している。他方、学びの選択のためには、選択するための

基礎知識を得ることが必要であるため、1 学年に必修科目として「医療情報基礎演習 A」「医療情報学概論」「生体情報演習」を配置し、講義、演習、実験科目それぞれを通じて、医療情報学に関するスタディ・スキルを獲得させる。その上で、幅広い学びを統合する場として 1～4 学年に必修科目として「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」「応用ゼミⅠ」「応用ゼミⅡ」「応用ゼミⅢ」「卒業研究」を配置し、絶え間なくアウトプット活動の場を設け、DP に近づいていることを各自に確認させる科目編成としている。

イ「ヘルスケア」(必修 4 科目、選択 7 科目)

ヘルスケア分野においては、管理栄養学専攻、臨床検査学専攻、臨床工学専攻の学生と学科共通科目等において共通した知識体系のもとで ICT の活用方法について議論できるようになることを目標に、基礎医学・臨床医学・社会医学の最低限の知識を網羅できるよう「臨床医学総論」「診療プロセス論 A」「医療制度論」「病院管理概論」を必修とし、それ以外の科目は学生の関心に合わせて自由に選択できることとした。

ウ「情報科学」(必修 4 科目、選択 10 科目)

情報科学分野においては、文部科学省の「数理データサイエンス・AI 教育プログラム(応用基礎レベル)」の範囲を網羅できることを目標に、「コンピュータシステム」「ワークショップ A」「プログラミング演習Ⅰ」「データベースと医療Ⅰ」を必修とし、情報科学の学修に書くことができないプログラミング、ネットワーク、データベース、それらの統合を学ぶ科目構成とし、それ以外の科目は学生の関心に合わせて自由に選択できることとした。

(5) 主要授業科目及び各科目区分の構成

医療保健学科では、社会や医療保健の高度化を踏まえ、多様なニーズに対応できる医療保健専門職の育成を目指しているため、各種専門職教育において国家試験受験資格を有するために必要な指定科目及び、養成する人材像やディプロマ・ポリシーに示した人材の養成に欠かせない科目を中心に必修科目とし、主要授業科目として設定の上、主に基幹教員が授業を担当することとしている。

選択科目は、学生自らが興味や意欲を持てる分野で主体的に学ぶことにより、ディプロマ・ポリシーを達成できるようにしている。

管理栄養学専攻においては、実習科目で一部選択必修を設けており、「臨地実習Ⅰ(給食経営管理)」と「臨地実習Ⅱ(公衆栄養学)」は学生が管理栄養士としてキャリアを描く中で、事業所実習(臨地実習Ⅰ)又は保健所実習(臨地実習Ⅱ)を選択できる環境を用意し、学生の社会的自立を支援する仕組みに組み込んでいる。また、教育職員免許状取得のための科目は、栄養教諭の教員免許状取得の専門分野に関する基礎知識の修得のために設置され、卒業単位に含まれない自由科目としている。

(6) 履修順序(配当年次)の考え方

科目の配当年次については、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の科目区分を考慮して決定した。医療保健の専門職として欠かせない思いやり、「人の絆」、「愛」の心を涵養する「いのち・人間の教育分野」では、人間に対する理解を深める科目が含まれ、主に 1～2 年次に配当する。「医療のコラボレーション教育分野」では、各職種に共通する基礎医学および社会医学に関する科目を学び、医療保健の現場

や生活を支える上での基礎となる医学的知識の修得とともに、職種間の協働・連携のスキル獲得を図る。そのため、4年間で入門から実践へと段階的、体系的な学びとなるよう、1年次から4年次にかけて配当する。

各専攻における専門科目は、上記の統合的発展的な学修になるよう、3年次を中心に4年次まで配当し、臨地・臨床実習及び卒業研究は4年次に配当し、有機的且つ体系的に学修が積み上がるように構成した。

また、管理栄養学専攻内に置く「栄養教諭教職課程(一種免許状)」では、学校で子どもたちを対象とした食育を行い、健全な食生活をサポートできる能力を培うため、栄養学の基礎、学校給食の管理や食育方法、教育学など幅広い分野を学修する科目を2～4年次に配当する。

(7) 科目の設定単位数、単位時間数の考え方

各授業科目の単位数は、学則第13条に規定するとおり、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、科目の内容、取り扱う対象領域の範囲、学修内容の難易度、授業形式、教育効果などから判断し、個別に科目の単位数を設定する。講義・演習については、15～30時間の授業をもって1単位とし、実技・実験・実習については、30～45時間の授業をもって1単位とする。その他、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることがある。

(8) 授業期間の設定

東京医療保健大学では、学則第25条及び学部履修通則第4条に規定するとおり、学年を前期と後期の2期に分けた後、更に細分化して前期前半、前期後半、後期前半、後期後半のクォーター制で運用している。また、授業科目によっては、夏季及び春季休業日に集中して授業を開講できるようにしており、連続した授業が好ましい授業科目の他、教職課程等の自由科目を学生が負担なく履修できるようにしている。

授業時間は、原則として90分間の授業時間をもって1時限とし、シラバスに予め記載する事前事後学修を行うことで、単位上の計算は2時間の学修を行ったものとする。この適切な授業期間に加え、授業期間外の時間も確保し、学生の自主的な学修が可能となるよう配慮することで、十分な教育効果を上げること図る。

<参考資料一覧(出典)>

1. 「新しい時代における教養教育の在り方について(答申)」

発出：中央教育審議会(文部科学省)

日付：平成14年2月7日

URL：https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/020301.htm

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業方法等の設定

医療保健学科の授業は、講義、演習、実験・実習から構成する。講義形式により必要な知識を系統的かつ理論的に学び、演習・実験・実習形式によりにより知識・技術を修得し、さらに臨地・臨床実習の

場において知識・技術・態度を統合し実践力を養う。専門基礎科目と専門科目の多くでは、講義と実習を同一学期ないし同一年次に開講し、講義と実習等を一体化した形で学修させることにより、知識と技術の定着の促進を図る。

授業の学生数は、各授業科目の教育目的や授業形態に即し、適切な受講人数を設定する。講義はオンライン授業も併用の上、学年単位での実施を原則とし、演習・実験は40名、臨地・臨床実習は2～6名程度(グループ編成)、卒業研究は少人数から10名で設定する。また、語学系の科目については、習熟度等にも配慮し、学習効果が上がるクラス編成とする。

なお、医療保健学科の主キャンパスである世田谷キャンパスの講義室・実験室・実習室はプロジェクター、大型スクリーン、音響設備等を完備しているほか、全館Wi-fi環境を整備し、学生は館内のいかなる場所からもWeb環境へのアクセスが可能であり、本学の導入する学修管理システム(LMS)を活用し、オンライン授業を任意の場所で受講できるほか、講義資料等は事前配布等を行い、学修の効率化と指導方法の多様化を図る。

(2) 卒業要件

医療保健学科学生の卒業要件は4年以上在籍し、各専攻で定める最低履修単位数を満たす必要がある。

管理栄養学専攻では、必修科目は、「いのち・人間の教育」から14単位、「医療のコラボレーション教育」から22単位、「専門職の教育」から80単位(なお、「臨地実習Ⅰ」及び「臨地実習Ⅱ」については、どちらか一方を必ず選択し、単位を取得しなければならない)を修得。選択科目は、上記3分野から10単位以上修得。合計126単位以上修得することとしている。

臨床検査学専攻では、必修科目は「いのち・人間の教育」から14単位、「医療のコラボレーション教育」から15単位、「専門科目」から88単位の必修科目と選択科目9単位以上の合計126単位以上を修得することとしている。

臨床工学専攻では、必修科目は「いのち・人間の教育」から14単位、「医療のコラボレーション教育」から12単位、「専門科目」から89単位の必修科目と選択科目11単位以上の合計126単位以上を修得することとしている。

医療情報学専攻では、必修科目を57単位、及び選択科目を専門職の教育分野「医療情報」「ヘルスケア」「情報科学」から各8単位以上修得した上で、合計124単位以上修得することとしている。

卒業要件の設定にあたっては、国の定める大学設置基準における単位数を超えることその他、ディプロマ・ポリシーで定める能力を適切に修得できるよう必修科目と選択科目の配置をしており、管理栄養学専攻、臨床検査学専攻、臨床工学専攻においては、それぞれの専攻を卒業することが各種専門職の国家試験受験資格の取得につながるよう卒業要件における必修科目と、各種専門職養成に係る指定科目が一致するよう策定している。

(3) 各専攻における履修モデル

履修モデルは【資料2】を参照のこと。

(4) 履修指導方法

①アドバイザー制度

医療保健学科では、学生一人一人にきめ細かく学習面と生活面の支援や指導を行うため、アドバイザ

一制度を導入している。アドバイザー教員は、学生の科目履修にあたり、「履修モデル（カリキュラムマップ）」等を提示しながら、履修計画・学修目的・科目選択のアドバイスを行うほか、学生生活全般に関する個別相談や就職。進学相談等を行う。

また、学生の学修面での質問や、生活面の相談に応じるため、専任教員は週1回以上のオフィスアワーを設定し、指定時間に学生の相談に乗る他、学生へ貸与するノートPCに付与されている office 機能内の outlook メールや LMS のメッセージ機能を活用し、対面外でも相談に乗れる環境を整備している。

②履修ガイダンス等の実施、シラバスの作成

履修に対する理解のために、新入生を対象に入学時にオリエンテーションを実施する。学生に配布する「履修案内」に基づいて、教育課程の考え方、1 年次から 4 年次までの履修について履修モデルを示しながら説明する。選択科目については科目設置の目的を説明し、履修に関する助言を行う。

履修登録に際し、学生はシラバスを参照するが、シラバスにはカリキュラム編成と教育課程を踏まえて、開講授業科目の授業概要の他、授業の目的と到達目標、ディプロマ・ポリシーとの関連、授業計画、事前事後学修、成績評価の基準・方法、教科書・参考書、オフィスアワーなどを示しており、学生はシラバスを Web 上で任意の環境で閲覧することができる。

履修登録は教務システムからオンラインで行うため、そのシステムへのアクセス方法や登録方法を指導する他、図書館、保健室・学生相談室の利用など学生生活全般についても説明を行う。2 年次以降についても各年次において行うガイダンスにて履修指導を行い、学生の学修が計画的、体系的になるように支援する。

③履修科目の年間登録上限（CAP 制）

医療保健学科では、学生の学修時間を確保し、単位制度の実質化を図るため、履修科目として登録することができる単位数の上限を1年間で45単位に定める。これは、学生の1日当たりの学修時間を9～12時間と考え、大学設置基準で定める1単位当たりの時間数を週単位に換算して設定した。

なお、教職課程科目の他、大学で定める一部の科目については、上記の年間登録上限の単位数に算入せず、学生の学修機会を損なうことの無いようにしている。

④科目における評価及びディプロマ・ポリシーに対する評価

各科目の成績は学期末に実施される科目試験等にて評価する。各科目における学修の成果を評価するために、授業内での小テストや中間テスト、レポート、発表(プレゼンテーション)や学期末に実施する科目試験(筆記・実技・レポート)等を利用する。学期末には全体的な評価を行う。成績評価はこれらの評価を組み合わせる多面的・総合的に行う。成績評価に関して、卒業時における質の担保の観点から、学期・年次を通して長期的な学修成果を図る指標として GPA(Grade Point Average)を導入する。学修の成果の評価、履修及び学修指導等に活用する。半期に一度、GPA、学修ポートフォリオの作成等を基に、ディプロマ・ポリシーに掲げた資質・能力の到達度について自己評価を行い、アドバイザーと面談の上、自己成長を確認するとともに課題を確認し、改善と成長に繋げる。

本学では、functional GPA を採用しており、算出方法と成績の評価は以下のとおりである。

<fGPA 算出方法>

$GP = (\text{成績素点} - 55 \text{ 点}) / 10$ ※ただし GP が 0.5 未満は 0.00 とする

$GPA = \Sigma (\text{科目の GP} \times \text{科目の単位数}) / \Sigma (\text{履修登録単位数})$

GPA は小数第三位を四捨五入し、小数第二位までを表記する。

<成績の評価>

評価	得点	GP
S	90 点以上	3.50～
A	80 点以上 90 点未満	2.50～3.50 未満
B	70 点以上 80 点未満	1.50～2.50 未満
C	60 点以上 70 点未満	0.50～1.50 未満
D(不可)	59 点以下	0.00

(5) 他大学における授業科目の履修等

大学設置基準第 28 条、29 条並びに 30 条に則り、学長は、本学における課程実施において教育上有益と認めるときは、その単位を本学において修得した単位として認定することを本学学則第 20 条、21 条に規定している。その際、他の大学または短期大学における授業科目の履修等、大学以外の教育施設等における学修並びに入学前の既修得単位等の認定を合わせて 60 単位を超えないものとする。

(6) 多様なメディアを利用して行う授業

医療保健学科では、講義だけではなく演習や実習といった授業形態を持つ科目が多いことから、対面による授業の実施を原則とする。しかしながら、一部の講義授業等、オンライン授業を活用する方が、教育効果が高い授業においては、学則第 12 条 2 項に則り、多様なメディアを高度に利用した遠隔授業を実施する。その場合は、文部科学省の告示の要件等に基づき適切に実施の上、当該授業方法により修得する単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち 60 単位を超えないものとする。

<学則第 12 条抜粋>

(授業の方法)

第 12 条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業については、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学における多様なメディアを利用した授業（以降、メディア授業という。）としては、対面授業と同等の授業（映像・音声等による）を予め収録し、指定の期間中（配信期間は 1 週間程度）、学生がいつでも授業を視聴できる「オンデマンド方式」並びに、web 会議システム(zoom 等)を活用し、映像・音声の

やり取りを、同時双方向的に指定された時間に授業を行う「リアルタイム方式」の2つの方式を採用しており、学生は予め指示された授業方式にて受講している。

(1) 実施場所

自宅等でインターネット環境を利用し、パソコンやタブレット、スマートフォン上で、受講する。通信手段は学生個人の通信環境で行う為、受講場所は自宅等各々学生の通信可能な場所となる。

(2) 実施方法

学生はweb カメラの付いたパソコン、スマートフォン、タブレット等の端末を用意し受講する。本学では全学生に対し在学期間中は、入学から卒業に至るまで1人1台同一規格のノートパソコンを貸与しており、受講に必要な環境を整えている。

受講するにあたっては、併せて導入をしている学修管理システム(LMS: Learning Management System)を活用し、本人認証を行った上で受講できる仕組みを取っており、且つログイン記録が残る方法により受講の有無等を確認している。

(3) メディア授業実施のための学則等整備

本学においてメディア授業を実施することについては「東京医療保健大学学則 第12条第2項」で明記し、併せて運用等必要な事項について「東京医療保健大学授業運営ガイドライン」並びに「情報倫理ガイドライン」を定め実施しており、メディア授業における倫理的配慮について、学生に対し、ガイダンス等の機会を活用して情報倫理ガイドラインの解説動画を視聴させるなど、適切な運用に努めている。

なお、これらは、告示(平成13年3月30日文部科学省告示第51号「大学設置基準第25号第2項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件」)の要件を満たすよう定めている。

(4) 告示の要件を満たすものであることの説明

本学において実施するメディア授業は先述のとおり毎回の授業コンテンツ受講(視聴)のほか、設問(回答入力後、その場の画面で正解・不正解が確認できる。)やリアクションペーパーや課題レポートを課す非同時双方向性のいわゆるオンデマンド方式と、web 会議システム(zoom 等)を活用し、映像・音声のやり取りを、同時双方向的に指定された時間に授業を行うリアルタイム方式の2つの方式を採用し、授業の教育の質の担保を前提に対面授業含め最も学修効果の高い方法にて実施している。

また、学生は任意のタイミングで授業担当教員に対し、疑問や質問をLMS上のメッセージ機能を活用して行うことができ、提出された質問等には随時授業担当教員が答える他、設問解答や提出される課題レポートに対しても、採点・添削等を行い、インターネットを開始受講者にフィードバックできる環境を整えている。

7. 実習の具体的計画

(1) 臨地実習・臨床実習の目的とディプロマ・ポリシーとの関係

臨地実習・臨床実習では、学内で3年間学んだ専門科目の講義、演習、実習で培った管理栄養学、臨

床検査学、臨床工学の知識と技術が実際の医療現場でどのように用いられ、また応用されているかを学ぶ。この実習により保健医療の中核を担う高度医療専門職として必要な知識や技術の定着と向上を図り、知識や技術を実践に活かすことができる能力を身に着ける。また、現場にてチーム医療の一員として専門的技術を活用する態度を身につけるとともに、実習指導者をロールモデルとして職業倫理観や人間の尊厳を学ぶ心を養う。これらの学びにより、ディプロマ・ポリシーで掲げている「医療保健の専門職として必要な知識と技術を修得し、『医療の現場』や『健康な生活づくりに関わる実践場面』で活用できる能力」及び「高い倫理性と人間性を兼ね備え、医療保健分野に貢献できる能力」の修得を図る。

（２）実習先の確保の状況

必要な臨地実習・臨床実習施設として、本学と連携している NTT 東日本関東病院を始めとした独立行政法人国立病院機構、独立行政法人地域医療機能推進機構等、連携医療機関を中心に高い臨床実績のある実習施設を確保している。各施設の所在地についてもキャンパスの所在する東京都を主として、施設数を担保しており、学生の利便性や教員の巡回指導、緊急対応のしやすさも配慮して配置する。

臨地実習先及び臨床実習先は「管理栄養士養成施設における臨地実習及び栄養士養成施設における校外実習について（平成 14 年 4 月 1 日 14 文科高第 27 号、健発第 0401009 号、文部科学省高等教育局長、厚生労働省健康局長通知）」、「臨床検査技師養成所指導ガイドライン（医政発 0331 第 27 号平成 27 年 3 月 31 日厚生労働省医政局長通知）」、「臨床工学技士養成所指導ガイドライン（医政発 0331 第 31 号平成 27 年 3 月 31 日厚生労働省医政局長通知）」に関する事項に示されている基準を満たす施設とし、大学病院、総合病院などの地域基幹病院を中心に実習承諾を得ている。

実習科目	養成人数(1 学年)	実習施設承諾数	受け入れ可能人数
臨地実習（管理栄養学専攻）	68 名	36 施設	143 名
臨地実習（臨床検査学専攻）	32 名	16 施設	45 名
臨床実習（臨床工学専攻）	30 名	7 施設	38 名
インターンシップ（医療情報学専攻）	30 名	9 施設	30 名

※「実習施設一覧表」及び「実習受け入れ承諾書」は【資料 3】、【資料 4】を参照

（３）実習先との契約内容

① 実習契約

大学と実習施設の間で、実習に関する契約書を締結する。契約書の内容は、実習の期間、実習の内容、実習謝礼金、学生の規則遵守、法人機密情報の保護、保険加入、実習中の負傷・疾病、事故発生時の対応等である。実習施設に所定の契約書や実習要項がある場合には、それに準ずる。

② 個人情報保護の契約内容

個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号（以下、「個人情報保護法」という））に則り、実習中に知り得た情報を漏洩・私的利用してはならないこと、SNS 等への投稿も含め厳しく管理する旨を契約に明記する。

合わせて大学は学生に対し、個人情報等の保護に関する取扱いについての説明文書をもって十分に説明し、学生の了解のもとに、個人情報等の保護に関する誓約書を提出させる。

③ 事故対応の契約内容

実習中のインシデント・アクシデント等について予め大学と実習施設の間で十分に対応を協議した上、事故発生時から事後処理までの連絡、報告体制を構築し、責任の所在を明確化し一貫した対応をとる。

これらの内容を付した契約書【資料5】を実習先と結ぶこととする。

（４）実習水準の確保の方策

本学では、実習水準を確保するために、下記に示す事項について実施する。

① 実習先との事前調整

実習水準の確保を主な目的として実習先の実習指導者と事前打ち合わせを行う。この打ち合わせによって、臨地実習先との密なる連携強化を図るとともに、実習の目的や実習内容及び方法について確認する。同時に実習先での事故などを防止することを優先した対策と、不測の事態への対応についても話し合う。

② 学生に対する事前指導

学生に対し学内において、臨地実習・臨床実習に臨むにふさわしい総合的知識及び基本的技能・態度を予め身につけさせることを目的に、実習科目の履修要件として、関連の深い科目を修得することとしている他、課題等により学生が実習に臨める状況にあることを評価・確認を行っている。

また、実習前に学内ガイダンスを開催し、臨地実習・臨床実習に対する心構えや患者対応、個人情報の取り扱いについて周知徹底を図る。

③ 臨地・臨床実習期間中の対応

臨地・臨床実習期間中は、実習担当教員等による巡回を行い実習の状況把握に努めるとともに、実習先の実習指導者とも連携を図り、状況に応じた適切な指導を行う。

（５）実習先との連携体制

実習先と、実習目的、達成目標、実習計画、実習の心構え、諸注意、実習指導方法、実習評価基準について相互に確認する。実習中は、実習担当教員等が、巡回指導や定期的な連絡により学生の状況を把握する。実習終了後は、実習担当教員が実習施設における指導者と、反省点や達成目標の到達度について協議する。

また、医療保健学科に臨地実習事務局を設置、職員を配置し各実習施設と本学との連絡窓口とすることで、実習実施に伴う各種書類のやり取りを円滑にするとともに、緊急時担当教員不在による事故を防ぎ、円滑な実習運営ができる体制を整え、連携体制を構築する。

（６）実習前の準備状況

① 個人情報の取り扱いについて

臨地・臨床実習に臨む学生には、実習開始までに個人情報保護や守秘義務、人権尊重の考え方に関して具体例を示してガイダンス等で教授し、ソーシャルネットワークへの投稿が禁止であることも厳重に注意する。東京医療保健大学で定める「個人情報保護に関する規程」に則り、実習で知りえた個人情報及び実習記録物の取り扱いについて十分に指導する。指導時は、個人情報等の保護に関する取扱いについてガイダンスを実施し、個人情報等の保護に関する誓約書【資料6】を提出させることとする。

② 事故防止について

その詳細を共通実習要項【資料7】に記し、学生に対し事前指導を行う。

③ 実習中の保険について

また、全員が「学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険」や総合補償制度 Will [ウィル] に加入する。学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）は、入学時に全員が加入する。正課、学校行事、課外活動及びその往復における学生自身の傷害事故や賠償事故に対応している。医療関連の実習にあたる臨地実習Ⅲにおいては、対象外となるため、Will に別途加入する。Will は学生自身の傷害事故に加えて、実習先を含む 24 時間の賠償事故、さらに学生自身の感染症罹患や二次感染にも対応している。

④ 感染予防策について

臨地・臨床実習の際に必要な感染予防策として、通常健康管理は本学で全学年対象に年 1 回実施している定期健康診断を受診させ、学生の健康状況の把握を行い、必要により保健室が個別の健康相談などを行う他、B 型肝炎ウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、水痘ウイルス、ムンプスウイルスの抗原・抗体価検査と必要に応じてワクチン接種を必須とし、各実習施設が定める抗体価の状況についても適切に管理する。また、インフルエンザ等についても適宜予防接種を学生に勧める。

（7）事前・事後における指導計画

① 実習前評価の実施

臨地・臨床実習前の学生に対して課題等の評価により、臨地・臨床実習に臨むにふさわしい総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。支援が必要な学生に対しては、補講等を行い臨地実習に向けて臨床技能を高めるための指導を行う。

② 事前の指導計画

実習担当教員は、実習の意義と目標、方法、留意点等を学生に指導する。さらに、実習前オリエンテーションにおいて必要な知識や情報の再確認を行うとともに、学生からの質問や相談に適切に応じられるように複数の実習担当教員による指導体制を整える。

③ 事後の指導計画

教員は各学生の実習の成果や問題点について、個人面談、実習時の記録や報告資料を通して状況を把握し、必要な指導を行う。

(8) 教員の配置並びに巡回指導計画

実習担当教員は管理栄養士・臨床検査技師・臨床工学技士の資格を有する専任教員として、定期的に実習施設へ訪問し、実習指導者と面談の上、学生の実習状況を把握する。更に学生とも面談を行い、実習項目の実施状況を把握するとともに、直面する課題や問題があれば適切な指導を行う。実習担当教員を含む専任教員全員については、教育及び研究活動に係る時間を十分に確保している。

(9) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設の選定においては、十分な実務経験を持つ指導者が担当可能であることを条件として依頼し、その条件を満たす施設を決定した。臨床検査学専攻並びに臨床工学専攻の実習にあたっては、実習指導者について各指導内容に対する専門的な知識に優れ、医師、臨床検査技師、臨床工学技士又はこれと同等以上の学識経験を有するものとして5年以上の実務経験、業績を有し、十分な指導能力を有するものとし、「臨地(臨床)実習指導者講習会」を修了した者が担当する。

各実習施設における指導者の配置計画は、それぞれの実習施設の環境や業務体制に従い実施いただくよう要請する。

(10) 成績評価体制及び単位認定方法

評価は、実習施設の実習指導者からの評価(実習担当教員からの巡回指導報告を含む)、学生の実習記録等を総合して成績判定し単位認定を行う。

① 実習指導者からの評価(実習担当教員からの巡回指導報告を含む)

実習状況、学修評価(実践的技術・技能の修得状況)、実習態度について総合的に評価する。

② 実習記録、個人テーマの成果評価

学生は、実習で学修した内容を日々実習記録に記し、翌日に実習指導者に提出する。また、記載した実習記録の内容について実習指導者から課題が出された場合は遅滞なく提出する。また、学生は、実習開始前に設定する個人テーマの成果のまとめを、実習記録に記載する。実習担当教員は、実習記録から取り組みを評価する。

③ 総合評価

成績評価は100点法により行い、評点が60点以上を合格とし単位が与えられる。評点と評価は、100-90点(S)、89-80点(A)、79-70点(B)、69-60点(C)、59-0点(D)とする。

<参考資料一覧(出典)>

1. 「管理栄養士養成施設における臨地実習及び栄養士養成施設における校外実習について」

発出：文部科学省高等教育局長、厚生労働省健康局長(14文科高第27号、健発第0401009号)

日付：平成14年4月1日

URL：https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/034/toushin/02060401.html

2. 「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」

発出：厚生労働省医政局長通知（医政発 0331 第 27 号）

日付：平成 27 年 3 月 31 日

URL：https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tc6531&dataType=1&pageNo=1

3. 「臨床工学技士養成所指導ガイドライン」

発出：厚生労働省医政局長通知（医政発 0331 第 31 号）

日付：平成 27 年 3 月 31 日

URL：https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tc6535&dataType=1&pageNo=1

4. 「個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）」

公布：平成 15 年法律第 57 号

URL：<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=415AC0000000057>

5. 東京医療保健大学個人情報保護に関する規程

URL：<https://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0501006.pdf>

6. 学生教育研究災害傷害保険・付帯賠償保険（学研災）制度概要（日本国際教育支援協会）

URL：<https://www.jees.or.jp/gakkensai/daigaku/>

7. Will（ウィル）総合補償制度（東京海上日動火災保険株式会社）

URL：<https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/service/student/will.html>

8. 企業実習（インターンシップ^oを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

企業実習や海外研修等を包含した科目として「インターンシップ」を開講し、学生の多様な関心に対応できるよう「国内型」「海外型」「自己開拓型」等の多様な形態を準備している。

なお、医療関係の現場に即した学修環境を整えるため、海外については、窓口機関として医療法人若しくは大学と包括提携を結んだ上で、当該機関を通じて地元企業等の見学等を行えるよう配慮した。

なお、下記の施設については、総合研究所の活動を通じて既に大学との交流実績があるため、医療情報学専攻の授業においても緊密な連携が可能である。

このため成績評価においては、シラバスにおいて、①学生によるインターンシップ報告会、②学生による実習レポートを各 50%とする旨を告知し、実習先の指導者においては報告会にオンライン参加いただく等により①の評価に参画いただくこととしている。

施設名	所在地	授業科目ごとの受け入れ人数
株式会社ケアコム 株式会社ヘルスケアリレーションズ 株式会社ケア環境研究所	[本社] 東京都調布市多摩川 3-35-4 [東京オフィス] 東京都千代田区岩本町 2-3-3 [群馬工場] 群馬県佐波郡玉村町箱石 419-1	インターンシップ 10 名程度

秀傳醫療體系 (台湾・ 秀傳医療グループ)	[Omni Health Group Inc] 台北市中正區紹興北街 5 號 8 樓 [秀傳紀念醫院] 彰化県彰化市中山路一段 542 号	インターンシップ 10 名程度
メコン大学 (ベトナム)	Quốc Lộ 1A, Huyện Long Hồ, Phú Quốc, Long Hồ, Vĩnh Long,	インターンシップ 10 名程度

9. 取得可能な資格

専攻	取得可能な資格	資格の種類	資格取得要件
管理栄養学専攻	管理栄養士国家試験 受験資格	国家資格	必修科目として設定されている指定科目を受講の上、所定の単位を修得し、卒業すること
	栄養士資格	国家資格	必修科目として設定されている指定科目を受講の上、所定の単位を修得し、卒業すること
	栄養教諭一種免許状	国家資格	必修科目及び、選択科目として開講されている教職課程指定科目を受講の上、所定の単位を修得すること
臨床検査学専攻	臨床検査技師国家試験 受験資格	国家資格	必修科目として設定されている指定科目を受講の上、所定の単位を修得すること
臨床工学専攻	臨床工学技士国家試験 受験資格	国家資格	必修科目として設定されている指定科目を受講の上、所定の単位を修得すること
医療情報学専攻	診療情報管理士認定試験 受験資格	認定資格	必修科目及び、選択科目として開講されている指定科目を受講の上、所定の単位を修得すること
	医業経営管理能力検定 受験資格	認定資格	必修科目として設定されている指定科目を受講の上、所定の単位を修得すること

10. 入学者選抜の概要

(1) 入学者受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

本学は、教育基本法に基づき学校教育法の定める大学として、また私立学校法に従い、知識社会が実現すると予想される 21 世紀において、建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、医療分野において特色ある教育研究を実践することで、時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点

から総合的に探求し解決することの出来る人材の育成を目的としており、その実現のため、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえたアドミッション・ポリシーを以下のとおり定めている。

東京医療保健大学は、医療の現場に強く、豊かな国際感覚を備え、医療の情報化に対応し、他の専門職と協働してチーム医療を実現できる人材を育成いたしますが、入学者には次のような資質が求められます。

1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。
2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。
3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとすること。
4. 何事にも積極的に取り組むことができること。
5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。
6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする事。
7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。

本学では、以上のような資質を有する学生を選抜するために、一般選抜試験の他に、総合型選抜、学校推薦型選抜、大学入学共通テスト利用入学試験などの実施により多様な入学者選抜を行います。

これらの入学者選抜においては、①「知識・技能」②「思考力・判断力・表現力」③「主体性・多様性・協働性」という「確かな学力」を把握するとともに、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性等を判断するため、試験種別ごとに個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、小論文、課題レポート、面接などを組み合わせ、多面的・総合的に評価を行います。

1) 医療保健学部医療保健学科入学者受け入れの方針

医療保健学科においては、本学の建学の精神及び本学科の教育研究の目的を理解し、以下のような学生を求めます。

1. 医療保健分野への関心が高く、学修に対する熱意を有している人
2. 医療保健に携わる者として、生命を尊重し他者を思いやる心を有している人
3. 多様な人々を尊重し、協調性を以て意思疎通を図り、それらの人々と協働・連携することができる人
4. 健康に関わる社会課題に対応できる専門知識や技術を身につけるための基礎学力を有している人
5. 様々な現象に関心・興味を示し、科学的根拠に基づいて課題の解決に取り組むことができる人

(2) 入学者選抜の概要

医療保健学部医療保健学科では、「入学者受け入れの方針」に定めるとおり、学力を構成する3要素である、①知識・技能②思考力・判断力・表現力③主体性・多様性・協働性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に基づき、意欲と能力のある学生を受け入れるため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用入学試験を実施している。

1) 募集人員

		医療保健学部医療保健学科	
		管理栄養学専攻	臨床検査学専攻 医療情報学専攻 臨床工学専攻
総合型選抜		28 名(41%)	45 名(49%)
学校推薦型選抜	指定校	7 名(10%)	12 名(13%)
	公募制	7 名(10%)	9 名(10%)
一般選抜	A 日程	8 名(12%)	26 名(28%)
	B 日程	8 名(12%)	
	C 日程	7 名(10%)	
	特別日程	若干名	
大学入学共通テスト利用入学試験		3 名(5%)	
学科募集人員計		68 名	92 名

※()内は、学科募集人員に対する各選抜の募集人員の割合

2) 総合型選抜

ア 医療保健学部医療保健学科の出願資格（学部共通）

本学を第一志望（専願）とし、下記の入学資格に該当する者

1. 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和8年3月修了見込みの者
3. 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和8年3月31日までにこれに該当する見込みの者

- ① 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び令和8年3月31日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和8年3月31日までに修了見込みの者
- ③ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であること）を修了した者及び令和8年3月31日までに修了見込みの者（文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る）
- ④ 文部科学大臣の指定した者
- ⑤ 文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧制度による大学入学資格検定に合格した者を含む）及び令和8年3月31日までに合格見込みの者で、令和8年3月31日までに18歳に達する者
- ⑥ 本学において、個別の出願資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和8年3月31日までに18歳に達する者。

イ 選抜方法

1. 医療保健学科管理栄養学専攻

アドミッション・ポリシーに共鳴し、かつ管理栄養学専攻で学ぶことを強く希望する、意欲のある者を選抜することを目的として自己推薦書、課題探究型レポート（事前課題）、面接を組み合わせ総合的に評価する。

自己推薦書	予め提示するテーマに沿って自己推薦書を記述させ、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点をおいた評価を行う。
課題探究型レポート	事前に提示する課題に対して、知識・能力を活用して、その解決に向けて探究した結果をとりまとめたレポートにより、専門分野に対する探究心と積極性をもち、自ら問題や課題を見つけ、主体的に学び、自分の考えを適切に表現できる力があるかを評価する。
面接	目的意識や大学選択の明確な理由、学修を継続する意欲、計画性、人間に対する関心、情緒・協調性、論理性や表現力、専門性の追求・探究心について評価する。

2. 医療保健学科臨床検査学専攻

アドミッション・ポリシーに共鳴し、かつ臨床検査学専攻で学ぶことを強く希望する、意欲のある者を選抜することを目的として自己推薦書、課題探究型レポート（事前課題）、面接を組み合わせ総合的に評価する。

自己推薦書	予め提示するテーマに沿って自己推薦書を記述させ、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点をおいた評価を行う。
課題探究型レポート	事前に提示する課題に対して、知識・能力を活用して、その解決に向けて探究した結果をとりまとめたレポートにより、専門分野に対する探究心と積極性をもち、自ら問題や課題を見つけ、主体的に学び、自分の考えを適切に表現できる力があるかを評価する。
面接	目的意識や大学選択の明確な理由、学修を継続する意欲、計画性、人間に対する関心、情緒・協調性、論理性や表現力、専門性の追求・探究心について評価する。

3. 医療保健学科医療情報学専攻

アドミッション・ポリシーに共鳴し、かつ医療情報学専攻で学ぶことを強く希望する、意欲のある者を選抜することを目的として自己推薦書、面接を組み合わせ総合的に評価する。

自己推薦書	予め提示する課題または資格取得等の学びの実績に基づく自己推薦書を記述させ、大学での学びの計画や意欲、将来のビジョン等を中心に評価を行う。
面接	自己推薦書に基づいた面接を行い、自己推薦書作成の過程、大学での学びや将来の職業に対するビジョンの広がりを中心に質疑を行い、多面的に評価する。

4. 医療保健学科臨床工学専攻

アドミッション・ポリシーに共鳴し、かつ臨床工学専攻で学ぶことを強く希望する、意欲のある者を選抜することを目的として自己推薦書、課題探究型レポート（事前課題）、面接を組み合わせ総合的に評価する。

自己推薦書	予め提示するテーマに沿って自己推薦書を記述させ、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点をおいた評価を行う。
課題探究型レポート	事前に提示する課題に対して、知識・能力を活用して、その解決に向けて探究した結果をとりまとめたレポートにより、専門分野に対する探究心と積極性をもち、自ら問題や課題を見つけ、主体的に学び、自分の考えを適切に表現できる力があるかを評価する。
面接	目的意識や大学選択の明確な理由、学修を継続する意欲、計画性、人間に対する関心、情緒・協調性、論理性や表現力、専門性の追求・探究心について評価する。

3) 学校推薦型選抜

ア 医療保健学部医療保健学科の出願資格（指定校）

本学を第一志望（専願）とし、下記に該当する者

- ① 令和8年3月高等学校卒業見込みの者
- ② 大学教育を受けるために必要な基礎学力を持ち、心身ともに健康である者
- ③ 高等学校の最終学年の第1学期又は前期までの全体の評定平均値が、管理栄養学専攻、臨床検査学専攻及び臨床工学専攻「3.5」以上、医療情報学専攻「3.0」以上である者

イ 医療保健学部医療保健学科の出願資格（公募制）

本学を第一志望（専願）とし、下記に該当する者

- ① 令和8年3月に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）を卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者
- ② 高等学校における全体の評定平均値が管理栄養学専攻、臨床検査学専攻及び臨床工学専攻「3.2」以上、医療情報学専攻「3.0」以上の者

ウ 選抜方法

学校推薦型選抜は、小論文、面接及び調査書について総合的に判定する。

小論文	小論文においては、大学教育を受けるに値する能力を有しているかを判断することを目的とし、意欲・思考力・判断力・表現力・主体性・人間性などに重点をおいた評価を行う。
面接	当該学科を志願する明確な目的及び専門職に要求される適性を判断することを目的とし、意欲・思考力・判断力・表現力・主体性・人間性などに重点をおいた評価を行う。
調査書	受験者の知識・技能の修得状況、特別活動における主体性や協働性、特定分野での卓越した能力などを評価する。

4) 一般選抜

一般選抜A日程、B日程、C日程は、個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行い、受験者の特性に応じた学習能力を判定する。

一般選抜特別日程は、記述式による個別学力検査により高等学校教育で培われた知識・思考力・判

断力及び表現力を重点的に評価する。面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点をおいた評価を行う。また、調査書では、高等学校での修学状況や学内外の活動状況等に基づき多面的な評価を行い、個別学力検査、面接とあわせて多面的・総合的に判定する。

一般選抜の試験区分ごとの試験科目等は以下のとおり。

試験区分	学部／学科	試験科目	必須／選択
A日程	医療保健学部 医療保健学科	英語	必須
		国語 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、 化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎	1科目選択
B日程	医療保健学部共通	英語	必須
		国語 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、 化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎	1科目選択
C日程	医療保健学部共通	英語	必須
		国語 数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、 化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎	2科目選択 ※
特別日程	医療保健学部共通	英語（記述式）、国語（記述式）、 面接、調査書	必須

※ 理科を2科目選択する場合は、「生物基礎、生物」「化学基礎、化学」の組み合わせのみ。

5) 大学入学共通テスト利用入学試験

大学入学共通テストの得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点をおいて選抜を行う。各学科の選抜方式は以下のとおりとし、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定する。

大学入学共通テスト利用入学試験の試験科目等は、以下のとおり。

学部／学科／専攻	試験科目	必須／選択
医療保健学部 医療保健学科 管理栄養学専攻	英語（リスニングを含む）	必須
	国語（近代以降の文章）、数学Ⅰ・数学A、 生物、化学、生物基礎・化学基礎	2科目選択 ※1
医療保健学部 医療保健学科 臨床検査学専攻 臨床工学専攻	英語（リスニングを含む）	必須
	国語（近代以降の文章）、数学Ⅰ・数学A、 物理、生物、化学、生物基礎・化学基礎、 物理基礎・生物基礎、物理基礎・化学基礎	2科目選択 ※2
医療保健学部 医療保健学科 医療情報学専攻	英語（リスニングを含む）、 国語（近代以降の文章）、数学Ⅰ・数学A、 数学Ⅱ・数学B・数学C、情報Ⅰ、生物、化学、 生物基礎・化学基礎	2科目選択 ※1

- ※1 3科目以上受験している場合は高得点の2科目を採用。ただし、理科を2科目以上選択している場合は、「生物」「化学」の組み合わせのみ採用。
- ※2 3科目以上受験している場合は高得点の2科目を採用。ただし、理科を2科目以上選択している場合は、以下のいずれかの組み合わせを採用。
- 「物理」「生物」、「物理」「化学」、「生物」「化学」、「物理」「生物基礎／化学基礎」、「生物」「物理基礎／化学基礎」、「化学」「物理基礎／生物基礎」

(3) アドミッション・ポリシーと入学者選抜における評価項目

選抜区分	選抜方法	評価項目 (アドミッション・ポリシーとの対応)
総合型選抜 (管理栄養学専攻 臨床検査学専攻 臨床工学専攻)	自己推薦書	1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 4. 何事にも積極的に取り組むことができること。 5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする事。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。
	課題探究型 レポート	1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。 3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとすること。 4. 何事にも積極的に取り組むことができること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする事。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。
	面接	1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。 3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとすること。 4. 何事にも積極的に取り組むことができること。 5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする事。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。
(医療情報学専攻)	自己推薦書	1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有

		すること。 4. 何事にも積極的に取り組むことができること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。
	面接	1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。 3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとする。 4. 何事にも積極的に取り組むことができること。 5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。
学校推薦型選抜 (学科共通)	小論文	1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。 5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。
	面接	1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。 3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとする。 4. 何事にも積極的に取り組むことができること。 5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。
	調査書	1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。 4. 何事にも積極的に取り組むことができること。 5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調

		して物事を達成できること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。
一般選抜 A・B・C日程	個別学力試験	2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。
一般選抜特別日程	個別学力試験 (筆記試験)	2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。
	面接	1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。 3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとすること。 4. 何事にも積極的に取り組むことができること。 5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。
	調査書	1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。 2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。 4. 何事にも積極的に取り組むことができること。 5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。 6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする。 7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。
大学入学共通テスト 利用入学試験	大学入学共通 テスト	2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。

(4) アドミッション・ポリシーで示す「学力の3要素」の評価方法

選抜区分	知識・技能	思考力・判断力・表現 力	主体性を持って多様な 人々と協働して学ぶ態度
総合型選抜	自己推薦書 課題探究型レポート	自己推薦書 課題探究型レポート 面接	自己推薦書 課題探究型レポート 面接
学校推薦型選抜	小論文 調査書	小論文 面接	小論文 面接 調査書
一般選抜	個別学力試験	個別学力試験	
一般選抜特別日程	個別学力試験 調査書	個別学力試験 面接	面接 調査書

大学入学共通テスト 利用入学試験	個別学力試験	個別学力試験	

（５）入学者選抜体制

入学試験の運営の実務は、本学入試事務部が中心となり、全学アドミッション委員会及び各学部入試委員会と協力し、公正かつ妥当に実施している。

入学試験の日程、実施体制及び選考方法等は、入試事務部が原案を策定し、各学部入試委員会及び教授会の審議を経て、大学経営会議の承認後、学長が決定する。

入学試験の可否判定に関しては、学長を中心とする可否判定委員会を設置し、個人情報を含まない成績資料に基づき、公平・公正に審議し、判定を行っている。

11. 教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色

（１）教員配置の考え方

医療保健学科においては、「社会や医療保健の高度化を踏まえ、多様なニーズに対応できる医療保健専門職」「健康に関わる社会課題を俯瞰し、医療保健の現場を含むあらゆるフィールドにおいて、他の専門職と協調して自らの専門性を発揮できる人材」を育成するために「いのち・人間の教育分野」、「医療のコラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設していることから、次の①もしくは②のいずれかを満たす基幹教員を配置する。

- ① いずれかの専攻の「専門職の教育分野」を担当できる十分な教育研究業績若しくは資格を有するとともに、「医療のコラボレーション分野」に参画できること。
- ② 「医療のコラボレーション分野」に関係する十分な教育研究業績若しくは資格を有するとともに、いずれかの専攻の「専門職の教育分野」に属する複数の主要授業科目を担当できること。

（２）教員の負担軽減と学生への指導

東京医療保健大学では「東京医療保健大学学部履修通則」を定め、同通則第２条第３項においてハイブリッド型授業を推進することとしている。医療保健学科においても、対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリット型授業を適宜活用することで、基幹教員の負担軽減及び公平性の確保を図るとともに、研究活動を行う体制を確保している。また、学生への指導についても、教務システム及び Learning Management System を活用することにより、教員間及び事務職員との連携を密にし、教育上の支援はもとより、学生生活支援や就職指導等を効率よく行うこととしている。

（３）実務経験の豊富な教員の活用

医療保健学科においては、「専門職の教育」を行うために、基幹教員の半数以上は、当該分野の関連資格（管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、診療情報管理士若しくは医療情報技師）またはこれらの資格に関する高度の指導経験（国または職能団体における委員歴等）を有する者を配置する。他方で、研究機能を果たすため、教授、准教授及び講師においては博士の学位、助教及び助手においては修士の学位と、いずれかの「専門職の教育」と関係する研究業績を有することを原則とする。

また、専門職のタスク・シフト／シェアが進む中で、各職種の業務に関係する研究は日進月歩であることから、各専攻を代表する教授（以下、専攻長という）は当該分野において、日本学術振興会科学研

究費助成事業若しくは厚生労働科学研究等における研究事業を経験しているものを配置し、専攻長の指導のもので、専門職の役割拡大及びその基盤技術の開発に資する研究を遂行する。

（４）各専攻の教員研究実施組織の編成の考え方等

これらの「専門職の教育」を行う観点から、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士の各養成施設の指定規則に則り、専攻別の教員配置を行うこととする。特に、管理栄養士養成施設の指定規則に基づき、医療栄養学科 100 名うち管理栄養学専攻の定員と 68 名と定めていることから、管理栄養学専攻においては 17 名（うち教授 6 名）を配置することとしている。また他専攻についても、臨床検査学専攻においては 6 名（うち教授 3 名）、臨床工学専攻においては 6 名（うち教授 3 名）、医療情報学専攻においては 5 名（うち教授 1 名）の教員を配置することとしている。ただし、専攻別の教員定員及び管理栄養学専攻においては学生定員を定めることはしているものの、いずれの専攻においても医療保健学科の学生として幅広い学修を担保することが学科の理念であることから、学科としての意思決定は 4 専攻で分散することなく「医療保健学科教授会」において行うこととしている。

（５）教員の年齢構成

基幹教員の完成年度までの年齢構成は、30 歳代 2 人、40 歳代 7 人、50 歳代 9 人、60 歳～64 歳が 5 人、65 歳～69 歳が 3 人、70 歳以上が 6 人となっている。本学の定める定年年齢（満 65 歳）を超える教員が 32 人中 9 人いるものの、専門職のタスク・シフト／シェアが進む中では、専門職の教育に関して豊富な教育研究経験を有するだけでなく、国や職能団体で委員歴を有するなど教員の先導者としての役割を果たす基幹教員を配置することも必要であり、いずれの教員もそれぞれの分野・領域において実績・経験・指導力の面から十分な実績がある。学部等の設置における教育の質の維持・向上を図るため、4 年間については極力基幹教員の異動を行わず、教育の質確保の方策を採り、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、今後教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行していく。

仮に退職することとなった場合、後任者については従前どおり業績及び年齢等を考慮した教員採用計画に基づき、計画的な人事（例えば、50 歳代の准教授のうちから 4 年間の業績等について厳格な審査を実施し教授への昇任、学外公募による教授採用）を行っていく。

基幹教員年齢構成比（完成年度）

職位・年齢	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70 歳～	小計(人)
教授			4	2	1	6	13
准教授		2	4	3	2		11
講師		3	1				4
助教	2	2					4
小計(人)	2	7	9	5	3	6	32
構成比率	6.3%	21.9%	28.1%	15.6%	9.4%	18.8%	

< 参考 東京医療保健大学 就業規則 ～ 抜粋 ～ >

第 1 章 総 則

第 1 条 （規則の目的等）

1. この規則は、学校法人青葉学園（以下「法人」という。）の経営する東京医療保健大学（以下「本学」という。）に勤務する職員（以下「職員」という。）の就業に関する条件等を定め、職員の就業条件の確保と効率的な本学の運営に資することを目的とする。

（略）

第51条（定年）

1. 職員は、定年に達したときは、定年に達した日以後における最初の3月31日（定年退職日）に退職するものとする。
2. 職員の定年は満65歳とする。

（略）

附 則

1. この規則は、平成17年4月1日から施行する。

以上

その他、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化の観点から、教授、准教授、講師、助教若しくは助手を、その均衡に考慮しつつ配置する。また、「東京医療保健大学教員選考基準第4条第2項」に基づく昇格要件を満たせないことにより在位年数が極端に長い基幹教員については、教育研究能力を開拓する必要性も高いことから、学科長からの勧奨により休職等による中長期の研修体制を確保する。

（6）教員及び事務職員の連携体制

なお、これらの教員の教育研究活動を支援するとともに、学生の厚生補導を主導するため、校地に「世田谷事務部」を設置し、専任の事務部長及びその他の事務職員を配置する。事務部長は医療保健学科教授会に陪席して教学事項についての意思疎通を図るとともに、厚生補導を強化する必要がある学生（出席率が極端に低い学生等）の指導を教職協働で行うこととしている。

<参考資料一覧（出典）>

1. 東京医療保健大学就業規則

URL：<https://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0701001.pdf>

2. 東京医療保健大学学部履修通則

URL：<https://www.thcu.ac.jp/about/pdf/regulations/0301002.pdf>

12. 研究の実施についての考え方、体制、取組

（1）研究の実施についての考え方

① 研究実施の方針

本学は2005年度（平成17年度）に開学した保健・医療・福祉の分野に特化した大学であり、今後ますます高度化する医療保健活動に対応し、建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究活動」を行っている。

高度化・複雑化する医療保健分野を支えさらに発展させるため、現在及び未来の社会が抱える諸課題

を克服し、世界の医療保健をリードできるよう、先進的な研究活動を推進している。さらに学部・大学院の教育・研究成果を生かし、地域社会との共生が推進できるよう、保健・医療・福祉分野における地域支援・協働の中核となり、積極的に社会に貢献していくことを「東京医療保健大学ビジョン」に掲げている。研究の推進によって教育の質を高めるための基盤を強化するとともに、外部資金獲得を増加させ、研究力強化にもつなげる。

② 研究の実施体制

研究の実施体制として令和2年10月に「東京医療保健大学総合研究所の組織及び運営に関する要綱」を制定、総合研究所の活動理念として、建学の理念及び東京医療保健大学のビジョンに則り、全学横断的な体制で先進的な研究活動を行うこととし、本学教員の研究活動、外部資金獲得活動、産学連携を念頭に置いた地域との連携活動を支援するための体制を強化している。所長に学長を置き、大学組織として連携・協働しながら研究を推進していく体制が整っている。

③ 研究環境の整備

教員の研究活動については、その振興と円滑化を促進していくこととし教員個人 研究費を措置するとともに、研究成果の発表を行うため「東京医療保健大学紀要」を毎年度作成・公表しており、ホームページの教員データベースの研究業績等の更新を行うことで研究活動の取組状況を公表している。

さらに研究に専念する時間の確保に向けた取組として、教員の教育研究活動に必要な研修機会の確保のため、勤務時間の特例として授業等公務に支障がない場合や 夏季休業期間等に各種学会・研究会等に参加する場合に出張届又は研修届により許可しており、教員の研究活動を積極的に推進している。

また、世田谷キャンパスの臨床検査学専攻、臨床工学専攻については学生実習室の整備とともに必要な機材を準備しており、それに伴い最新の機器の導入もされており、教員の研究にも寄与でき、五反田キャンパスや東が丘キャンパスの研究施設を共同利用することも可能であり他学科との共同研究も促進する体制がとられている。

④ 本学大学院との連携

本学大学院には感染制御学領域、滅菌供給管理学領域、医療保健情報領域、医療栄養学領域などが設置されており、それぞれの連携を図ることで社会に貢献できる人材の育成が可能である。さらに教員の研究力の向上にも寄与できる。

⑤ 研究倫理・不正防止

研究倫理を遵守するとともに、研究活動の不正を防止するための措置として、「東京医療保健大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」、「東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会規程」、「東京医療保健大学動物実験規程」等整備しており、審理・判定・措置などに関する手続きを詳細に定めている。

(2) 研究をサポートする技術職員や URA の配置状況

本学では URA の配置は行っていないが、研究協力部に科学研究費助成金や産学連携に伴う業務を担

当する事務職員は配置されている。

13. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

医療保健学科が設置される世田谷キャンパス（校地・運動場面積：14,263.58 m²）は、既存の医療栄養学科および医療情報学科が所在しており、1 学科 4 専攻・定員 160 名に対する教育を行う上で適切な規模と機能を備えた環境である。

学生間および教職員との交流・休憩スペースとしては、カレッジコートおよびトスカーナを活用しており、校舎内の中庭や運動場も課外活動や余暇活動の場として利用可能としている。また、講義で使用しない教室は、学生の自学自習やグループ活動に活用できるよう開放している。

学生の学修支援および厚生補導の観点から、学生食堂、売店、体育館、運動場、学生寮などの施設も適切に配置されている。

(2) 校舎等施設の整備計画

校舎は既存の 3 棟（延床面積 6,799 m²）を活用し、用途ごとに以下のように施設を配置している。

本館：臨床工学専攻（実習室 2 室）、臨床検査学専攻（実習室 3 室）、講義室 1 室、演習室 2 室

別館：管理栄養学専攻（実習室 9 室）、医療情報学専攻（実習室 1 室）、講義室 8 室、演習室 4 室

新館：学生食堂、講義室 1 室

教員研究室については、教授は個室、准教授・講師は原則として個室（合計 25 室）、助教・助手は共同研究室（2 室、13 席）を配置し、基幹教員及び専ら本学で勤務する教員の研究業務に対応している。加えて、実験を担当する教員の研究室内に実験設備を配置している。

教育 ICT 環境としては、校舎全体を大学 LAN に接続可能とし、全教室に視聴覚機器を設置している。さらに一部の教室にはサテライト授業対応設備を導入し、アクティブラーニングに対応した専用教室も設け、多様な学修形態に対応可能な教育環境を整えている。

専攻別の実習室と機器レイアウトは以下のとおりである。（詳細は【資料 8】に記載）

管理栄養学実習室：給食経営管理実習室、実習食堂、調理実習室、臨床栄養実習室、
栄養教育実習室、理化学実習室、生理学実習室、
食品加工実習室、精密機器室

臨床検査学実習室：臨床検査実習室、微生物実習室、生理学実習室

臨床工学実習室：呼吸器・心肺・透析実習室、基礎実習室

医療情報学実習室：情報実習室

実習時に更衣が必要な管理栄養学、臨床検査学、臨床工学の各専攻については、専用のロッカー室を設置しており、医療情報学専攻の学生に対しては、校舎内に個人ロッカーを配置して対応している。

なお、各校舎の平面図および施設のレイアウト、臨床検査学専攻（年度進行中）および新設の臨床工学専攻に関する実習室のレイアウトおよび器具配置は別紙に示している。

（３）図書等の資料及び図書館の整備計画

本学では、各専攻の専門分野に対応する図書に加え、一般教養書も整備し、教育課程における幅広い学修ニーズに対応している。国家試験対策に必要な図書は、逐次最新版へ更新している。

また、学術雑誌（和・洋）に加え、電子ジャーナルおよびデジタルデータベースの導入も進めており、ICTを活用した学修支援体制の整備にも注力している（内容は別紙参照）。

図書館（面積：622 m²）は、次のとおりの機能を備えており、学生・教職員の主体的な学修および研究活動を支える拠点となっている。

（閲覧席：88 席、所蔵図書：55,459 冊、所蔵学術雑誌：408 種、電子ジャーナル：4,541 種）

14. 管理運営

東京医療保健大学では教学面における管理運営を行うために、学科における「医療保健学科教授会」の他、大学全体の教学全般を審議、マネジメントを行う機関として、「学部長等会議」及び「東京医療保健大学教務委員会」を設置している。

さらに、学長のもとに教学マネジメント・質保証向上のための組織として「内部質保証推進会議」を設置し、全学的に取り組むべき教育改革等を推進するための事業を行うための組織としている。

（１）学部長等会議

学部長等会議は「東京医療保健大学学則」第 55 条に規定されており、教育研究に関する事項を審議すると同時に各学科教授会及び各委員会組織からの案件を集約し、学長へ上申する最終決定機関である。学部長等会議の招集は学長が行い、議長は学長があたる。

本会議は学長の他、副学長、学部長、学科長、研究科長、大学経営会議室長、事務局長をもって組織され、大学全体の意見が反映された審議が行われるよう、学長が必要と認める際は構成員以外の教職員等も出席させることができる。

（２）東京医療保健大学教務委員会

東京医療保健大学教務委員会は全学単位における教務・カリキュラム全般に関する基本事項及びカリキュラム改定・実施に関する事項を協議するために設置されており、東京医療保健大学教務委員会で協議された教学面の事項については、学部長等会議に上申される。

本委員会は大学経営会議で任命する専任教員の他、事務局長、教務部長、学生支援センター長をもって構成されており、委員長は大学経営会議で任命される。

各学部等に、各学部等における教務に関する事項を審議するための小委員会を設置することができ、その小委員会において審議立案した事項は、東京医療保健大学教務委員会に報告するものとしている。

（３）内部質保証推進会議

内部質保証推進会議は本学の建学の精神、理念・目的を踏まえ、全学的な連携協力のもと、内部質保証の方針に基づき、教育研究等における質の保証とその向上に資する活動を継続して推進するために設置されており、本会議の招集は学長が行い、議長は学長があたる。

本会議は学長の他、副学長、大学経営会議室長、事務局長、IR推進室長をもって構成されており、本会議が定める教学マネジメントチェックリスト等への各部局の報告を受け、外部評価委員会の提言等も踏まえ全学的見地から必要に応じて調整し、部局に対し意見及び具体的な措置を講じることができる。

（４）医療保健学科教授会

医療保健学科教授会（以降、教授会という。）は「東京医療保健大学学則」第56条に規定されている「教授会」に属する機関であり、医療保健学科における教育研究に関する事項の他、学科運営組織として設けられている教学に係る事項、学生生活に係る事項、広報に係る事項、国家試験対策に係る事項等の各種委員会で企画・立案された事項を協議、審議するために設置されている。

教授会は、学部長、学科長、専任の教授をもって組織し、学長が掲げる次の事項「①学生の入学、卒業及び課程の修了」「②学位の授与」「③その他教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの。」について決定を行うにあたり意見を述べることができる。なお、学長及び副学長は必要に応じて出席することができる。

教授会は学科長が招集し、年11回以上の開催（8月は休会）を原則とするが、教授会構成員の3分の1以上から請求のあった場合には速やかに教授会を招集し開催しなければならないこととする。

なお、医療保健学部各学科教授会規程では、第5条第1項に「その構成員の一部の者をもって構成する専門委員会を置くことができる」と定めていることから、各専攻において特に専門的な検討等を要する事項については、同規程に基づく専門委員会として「各専攻教員会議」を設置して検討等を行うこととする。

15. 自己点検・評価

（１）東京医療保健大学における自己点検・評価の実施

東京医療保健大学では、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検・評価を行い、その結果を公表することとして、「自己点検・評価委員会」を設置して毎年度自己点検・評価を実施してきたが、更にその上位組織として、学長を議長とし、副学長等をメンバーとする「内部質保証推進会議」を設置して、「自己点検・評価委員会」が取りまとめた「点検・評価報告書」の結果等に基づき、教育研究活動等の適切性、有効性を検証し、その検証結果を基に更なる改善・向上について審議の上、必要に応じ、各部局に対し助言や支援等を講じるとともに、各部局における改善結果等を新たな計画の策定等にフィードバックし、大学全体の教育研究活動等の更なる改善・向上を継続して推進することとしている。

現在では、「第3期中期目標・計画」の年度計画並びに「教学マネジメントチェックリスト」及び「アセスメントプラン」に基づく自己点検・評価を実施している。

（２）外部評価委員会

本学に、教育研究活動等にかかる点検・評価活動の客観性・妥当性を確保するために、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させるなど、本学における教育研究活動等の改善充実及び管理運営に資することを目的して、「外部評価委員会」を設置し、現在では医療系分野の学外有識者4名にご参加いただき、毎年度、①自己点検・評価活動の評価に関する事項、②本学の教育研究

活動等のうち大学が評価を依頼した事項、③その他外部評価委員会が必要と判断した事項に関し、検証をしていただいている。

（３）中期目標・計画

本学では、教育研究の質の向上及び充実・発展を図るとともに、社会への説明責任を果たすため、5年ごとの中期目標・計画を策定し教育研究活動を実施しており、現在、令和４年度を初年度とする「第３期中期目標・計画」（令和４年度～令和８年度）を推進している。

第３期中期目標・計画の特徴として、各中期計画毎に、定量的又は定性的な三者が検証可能な「評価指標」を設定している。また、中期計画を達成するために、新たに年度計画を設定し、毎年度、この年度計画について、自己点検・評価を実施している。

<参考資料一覧（出典）>

1. 東京医療保健大学 HP 内 自己点検・評価ページ

URL：<https://www.thcu.ac.jp/about/jikotenken/>

16. 情報の公開

開かれた大学運営や社会的な責任の履行が求められている現状に鑑み、大学の理念・教育目標及びそれに伴う教育研究活動等に関する情報を公開し、社会からの一層の理解と支持を得ることは極めて重要であり、財務状況等についても広く情報を提供することが大学の社会的責務であると認識している。

（１）規程の整備他

このことを踏まえ、平成 20 年度において大学が保有する文書等の積極的な公開に関して、その手続き等を定める「情報公開規程」及び学内文書の保有期間等に関して定める「文書管理規程」を整備するとともに、併せて、学校法人として社会に対する説明責任を果たすため、財務書類の公開に関する細則を定めている。

（２）本学ホームページでの公開

また、本学ホームページにおいては学校教育法施行規則に基づく教育情報や財務情報及び法令に基づく情報等を掲載し、積極的に公開している。主な内容は次のとおりである。

ア 大学の教育研究上の目的及び３つのポリシーに関すること

（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）

イ 教育研究上の基本組織に関すること

ウ 教育研究実施組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

オ 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

<参考資料一覧（出典）>

1. 東京医療保健大学 HP 内 寄付行為・学則・規程ページ

URL：<https://www.thcu.ac.jp/about/regulations.html>

2. 東京医療保健大学 HP 内 設置認可等申請書類・設置計画履行状況報告ページ

URL：<https://www.thcu.ac.jp/about/rikojokyo.html>

3. 東京医療保健大学 HP 内 自己点検・評価ページ

URL：<https://www.thcu.ac.jp/about/jikotenken/>

4. 東京医療保健大学 HP 内 大学の評価結果に係るページ

URL：<https://www.thcu.ac.jp/about/nintei.html>

17. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、FD・SD 活動に対する全学の組織的取り組みとして、学生による授業評価の実施及びFD・SD研修会の実施を行っており、これを通して教職員の資質の維持向上に努めている。

（１）「学生による授業評価」の実施

本学では、「学生による授業評価」を実施し、その結果を分析・評価することにより、カリキュラムの見直し、教員の教育力の向上及び授業内容・方法等の改善・充実に資するため、全学FD・SD委員会の主催により、毎年度全授業科目について「学生による授業評価」を実施しており、委員には医療保健学部医療保健学科の教員も含まれる。

この授業評価結果については、当該担当教員にフィードバックし学生の記述内容を確認した後、各教員から調査結果に対する授業内容・方法への改善などを記述したレポートを所属長に直接提出することとしている。各所属長はこれを受けて「考察」をまとめ、学内の「内部質保証推進会議」で報告した後、授業評価結果と併せて公表している。

また、授業の改善を図るための制度的取組として、「学生による授業評価」の各学科の講義・演習科目と実習・実験科目毎において評価が最も高得点であった各学科教員１名に、学長顕彰を授与することとしている。

【第3期中期目標・計画 年度計画 34】

1. FD 活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態 調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。

(2) FD・SD 研修会の実施

FD 研修としては、平成 17 年度以降、全学 FD・SD 委員会の主催により、全教職員が参加による、本学の教育に係る課題と将来展望をテーマとして「東京医療保健大学を語る会」を実施している。令和 5 年度においては、10 月 25 日（水）に理事長講話及び学科発表（医療保健学部看護学科、東が丘看護学部看護学科）の内容で開催した。教職員が参加しやすいよう、対面、Zoom 及び後日オンデマンド配信で実施し、各参加数の合計は 100%であった。

また、医療保健学部においては、医療保健学部 FD 委員会の委員が主催し、それぞれの実施計画に基づき、実践的な研修を実施する。

【第3期中期目標・計画 年度計画 34】

2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科における FD 活動の推進を図る。

また、SD 研修としても、平成 30 年度以降、全学 FD・SD 委員会の主催により、建学の理念及び教育目的を踏まえ、事務職員一人ひとりが事務遂行専門能力、例えば戦略的な企画能力やマネジメント能力等を身に着けるために実施方針を定めた上で、全職員が参加し事務職員研修会を年 2 回(9 月及び 3 月の各 1 日)開催している。

【第3期中期目標・計画 年度計画 76】

年々高度化・複雑化する大学の教育研究活動等に適切に対応するため、教職協働による業務遂行は不可欠となっていることから、教員と事務職員等が協働して業務に当たっていけるよう、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図る ことが出来る知識や技能を習得させ、更にその能力・資質を向上させるため、SD等の研修内容の充実を図る。

<参考資料一覧（出典）>

1. 東京医療保健大学第3期中期目標・計画

URL：[medium target1.pdf](#)

18. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取り組み

医療保健学部では、キャリア教育の入口として、1 年次に必修科目「キャリア教育Ⅰ」、「医療と人間」及び「医学・医療概論」を設置している。この科目は、複数の医療専門職の養成を行っている医療保健学部のメリットを活かし、看護学科と一部共通の授業を展開することとしており、社会において必要とされる基礎知識の他、他の医療専門職の職業を知り、将来を見据えた業界の体験を行うことにより、専

門課程での学びのイメージを拡げることが目的としている。

また、2 年次以降においても各専攻にて「キャリア教育Ⅱ」及び「キャリア教育Ⅲ」を設置し、社会的・職業的自立を支援するとともに、専門科目においても各医療専門職の具体的な職種・業務内を理解させた上で、学外実習等の機会を通して、専門職の役割や機能、医療専門職に求められる能力の修得を図る。4 年次には、学部合同授業として「協働実践演習」を設置している。本授業は看護学科、医療保健学科の学生が、糖尿病等の生活習慣病や健康障害を題材に、問題解決や援助計画について意見交換し、各専門職の役割を認識するとともに、今まで学んだ専門科目の内容を総合的かつ深く理解することをねらいとしており、4 年間の取り組みの集大成として自身の専門性を理解した上でチーム医療の基本である“協働”の意義を学ぶ機会を設ける。

（２）教育課程外の取り組み

東京医療保健大学では、学生のキャリア支援、進路指導、就職支援等を全学で総合的に推進する業務は学生支援センターが担当しており、医療保健学科が通う世田谷キャンパスにおいても、当該キャンパスに設置の世田谷事務部が学生の窓口となり各種支援を企画・運営している。

1 年次より学生生活を有意義に過ごすことができるよう、入学直後からキャリアガイダンスを実施し、2 年次以降も学年ごとに開催している。3 年次からは本格的に各種就職支援講座を課外講座として設定し、学生が自らのキャリア形成をより具体的にイメージできるように、就職情報サービス会社とも連携し、講話の機会を設けている。

また、過去の卒業生が多く在籍する企業等を中心とした学内説明会や卒業生との交流の機会を定期的で開催し、学生のキャリア支援、就職支援に取り組んでいる。

上記のようなイベントに加え、日常的な相談業務等を通じて学生のキャリア支援や進路指導、就職支援に取り組んでいる他、具体性の高い適切な助言が必要といった場合には、世田谷事務部の相談窓口にて学生一人一人の多様な希望進路先に合わせた助言を行う機会を設けるとともに新卒応援ハローワークへキャリアアドバイザーとも連携して対応している。

以上の取り組みに加えて、医療保健学科においても学科独自の支援を行うこととしており、学生生活の支援を行うためにアドバイザーグループ制度を設け、1 年次より卒業まで学生一名に対し、担当教員が卒業まで付き、学修支援に加えて進路やキャリア形成についても相談、助言を行うこととしている。

（３）適切な体制の整備について

東京医療保健大学では、学生支援に関する基本方針を定めており、この方針では本学の建学の精神及び教育目標に基づき、時代の求める高い専門性、豊かな人間性及び教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に解決することのできる人材の育成を図るとともに、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うことができるよう、修学・生活全般を総合的に支援する環境を整備することを目的としている。

先述した事務局と学科等が連携して対応を行うことで、組織の効果的な活用を通じて、学生に対する修学支援、生活支援、及び進路支援を行う。

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料目次

資料 1	養成する人材像と 3 ポリシーの相関図	1
資料 2	各専攻における履修モデル	2
資料 3	実習施設一覧表	6
資料 4	実習受け入れ承諾書	(略)
資料 5	実習における契約書	11
資料 6	個人情報等保護に関する誓約書	12
資料 7	共通実習要項	13
資料 8	校舎平面図と機器一覧	(略)

医療保健学科 養成する人材像と3つのポリシーの相関図

【東京医療保健大学 建学の精神】

本学は、教育基本法に基づき学校教育法の定める大学として、また私立学校法に従い、知識社会が実現すると予想される21世紀において、建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、医療分野において特色ある教育研究を实践することで、時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決することの出来る人材の育成を目的としています

【医療保健学科にて要請する人材像】

医療保健学部医療保健学科においては「社会や医療保健の高度化を踏まえ、多様なニーズに対応できる医療保健専門職の育成」、「健康に関わる社会課題を俯瞰し、医療保健の現場を含むあらゆるフィールドにおいて、他の専門職と協調して自らの専門性を発揮できる人材の育成」を図る。

- 【養成する人材が持つ能力】
- 1.医療保健の専門職として必要な知識と技術を修得し、「医療の現場」や「健康な生活づくりに関わる実践場面」で活用できる能力。
 - 2.高い倫理性と人間性を兼ね備え、医療保健分野に貢献できる能力。
 - 3.グローバルな教養を身に付け、医療保健の専門職との協働はもとより、多様な文化や背景を持つ人々を理解し協調できる能力。
 - 4.未知の課題に対して多様な情報を収集し、科学的根拠に基づいた思考と判断により解決に向けて創造的に取り組むことができる能力。



管理栄養学専攻 履修モデル

【医療保健学科 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】 医療保健学科においては、本学の建学の精神に基づき、以下の能力を修得したと認められる者に学士(医療保健学)の学位を授与します。 1.医療保健の専門職として必要な知識と技術を修得し、「医療の現場」や「食をはじめとする健康な生活づくり」に関わる場面で活用できる能力 2.高い倫理性と人間性を兼ね備え、医療保健分野に貢献できる能力 3.グローバルな教養を身に付け、医療保健の専門職との協働はもとより、多様な文化や背景を持つ人々を理解し協調できる能力 4.未知の課題に対して多様な情報を収集し、科学的根拠に基づいた思考と判断により解決に向けて創造的に取り組むことができる能力		【凡例】 ●選択科目 ◎1～3年次選択科目 【卒業要件】 必修科目は、「いのち・人間の教育」から14 単位、「医療のコラボレーション教育」から 22 単位、「専門職の教育」から 79 単位を修得する。選択科目は、上記 3 分野から 11 単位以上修得する。合計 126 単位以上修得する。 (履修科目の登録上限:45単位(年間)) なお、専門職の教育の選択科目のうち「臨地実習Ⅰ」及び「臨地実習Ⅱ」から1単位を選択必修とする。

1年次 栄養と健康の関連を学び、幅広い教養と知識を身につける		2年次 専門的な栄養学の知識を修得し、教育や医学、給食への活用も学修	3年次 実践を通して医療・福祉分野での管理栄養士の役割を考える	4年次 栄養のプロとして「チーム医療」に貢献する素地を固める	
いのち・人間の教育	いのち・人間	心理学● 哲学と宗教 生命倫理学● 医療と人間●	文学●		
	社会科学	コミュニケーション概論● 社会学● 歴史● 経済学● 認知科学● 法学●	国際関係論● 家族社会学● 比較文化論● 人間関係論● ジェンダー論●		
	自然科学	基礎生物 スポーツ科学◎ 基礎化学 スポーツ実習◎ 基礎数学● 物理学● データサイエンス			
	外国語	英語講読・記述 英会話Ⅰ 英会話Ⅱ フランス語● 中国語●	英会話Ⅲ●	専門英語●	
	情報科学	情報リテラシー 情報科学	情報通信と保健医療●		
医療のコラボレーション教育	入門	体の仕組みと働きⅠ(血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系) 体の仕組みと働きⅡ(骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系) 栄養学総論(基礎栄養学) 応用生物 応用化学 キャリア教育Ⅰ	公衆衛生学 医療安全管理学(臨床工学・危機管理学・感染制御学)		
	発展	医学・医療概論	キャリア教育Ⅱ	臨床薬理学(薬理学) 医療マネジメント論 キャリア教育Ⅲ	
	実践	ボランティア論 ボランティア活動●		協働実践演習	
専門職の教育	専門基礎	健康管理概論 社会福祉総論 食育論● 食文化論● 食品学Ⅰ(総論・食品の構成・生理および栄養機能) 食品化学実験 食品学実験 調理学 調理学実習Ⅰ(基本調理・日本食の理解) 調理学実習Ⅱ(応用調理・食文化と献立作成)	病理学Ⅰ(病態の系統的理解) 生化学Ⅰ(生体物質の構造と機能) 生化学Ⅱ(生体物質の代謝) 生化学実験Ⅰ(生体物質の分析) 微生物学 解剖生理学実習 食品学Ⅱ(各論・食品の種類、性状、栄養特性・加工) 食品衛生学 食品衛生学実験 調理科学実験 食品の官能評価・鑑別論●	病理学Ⅱ(病態の評価・診断) 分子病態学 生化学実験Ⅱ(生体物質の発現・代謝分析) 食品加工学実習 食品機能学● 食品流通論● フードスペシャリスト論● フードコーディネート論●	薬物療法学● 病態生化学● 臨床検査学● 食安全学● サプリメント論●
	基礎栄養学		基礎栄養学特講	栄養生理学実験	
	応用栄養学	栄養学演習	応用栄養学Ⅰ(基礎的理解・総論) 応用栄養学Ⅱ(応用・特殊環境と栄養・実践) 応用栄養学実習Ⅰ(ライフステージ別食事管理) 応用栄養学実習Ⅱ(ライフステージ別栄養管理)	運動栄養学 アスリート栄養学●	
	栄養教育論		栄養教育論Ⅰ(基礎) 栄養教育論Ⅱ(応用・ライフステージ別栄養教育) 栄養教育論実習Ⅰ(基礎・ライフステージ別栄養教育)	栄養教育論Ⅲ(応用・要介護者の栄養管理とカウンセリング) 栄養教育論実習Ⅱ(応用・症例に基づく栄養教育) カウンセリング論●	
	臨床栄養学		臨床栄養学Ⅰ(臨床症候と栄養障害の評価)	医療栄養学概論 臨床栄養学Ⅱ(疾患別・病態別栄養管理) 臨床栄養学Ⅲ(チーム医療における栄養管理) 臨床栄養学実習Ⅰ(基礎) 臨床栄養学実習Ⅱ(応用と実践)	臨床栄養実践演習●
	公衆栄養学			公衆栄養学Ⅰ(地域栄養の現状と課題・公衆栄養マネジメント) 公衆栄養学Ⅱ(国内外の健康・栄養施設・栄養疫学) 公衆栄養学実習 地域栄養学実習●	
	給食経営管理論		給食経営管理論Ⅰ(基礎) 給食経営管理論Ⅱ(応用・実践・施設別給食管理) 給食経営管理論実習		
	総合演習			臨地実習Ⅰ(給食経営管理) 臨地実習Ⅱ(公衆栄養学)	総合演習Ⅰ(基礎) 総合演習Ⅱ(応用・総合)
	臨地実習				臨地実習Ⅲ(給食の運営・臨床栄養学・給食経営管理)
	その他	総合学習Ⅰ(食べ物・栄養と健康) 実践国語●	総合学習Ⅱ(食べ物・栄養と疾病・治療)		卒業研究●
1年次必修科目 修得単位数: 39単位		2年次必修科目 修得単位数: 41単位	3年次必修科目 修得単位数: 29単位	4年次必修科目 修得単位数: 6単位	

臨床検査学専攻 履修モデル

【医療保健学科 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】 医療保健学科においては、本学の建学の精神に基づき、以下の能力を修得したと認められる者に学士(医療保健学)の学位を授与します。 1.医療保健の専門職として必要な知識と技術を修得し、「医療の現場」や「食をはじめとする健康な生活づくり」に関わる場面で活用できる能力 2.高い倫理性と人間性を兼ね備え、医療保健分野に貢献できる能力 3.グローバルな教養を身に付け、医療保健の専門職との協働はもとより、多様な文化や背景を持つ人々を理解し協調できる能力 4.未知の課題に対して多様な情報を収集し、科学的根拠に基づいた思考と判断により解決に向けて創造的に取り組むことができる能力	【凡例】 ●選択科目 ◎1～3年次選択科目 【卒業要件】 必修科目は「いのち・人間の教育」から14単位、「医療のコラボレーション教育」から15単位、「専門科目」から88単位の必修科目と選択科目9単位以上の合計126単位以上を修得する。 (履修科目の登録上限:45単位(年間))

		1年次 医学的基礎知識と健康そして栄養との関連を学び幅広い教養と知識を学び医療人としての素養を身につける	2年次 臨床検査学を学ぶための基礎医学と検体検査を中心とする知識や技能を修得する	3年次 生理学的検査の知識と技能をそして患者に対する接し方など学内実習を通して身につける	4年次 臨地実習を通して医療における臨床検査技師の役割とチーム医療における責任を学修する
いのち・人間の教育	いのち・人間	心理学● 哲学と宗教 生命倫理学● 医療と人間●	文字●		
	社会科学	コミュニケーション概論● 社会学● 歴史● 経済学● 認知科学● 法学●	国際関係論● 家族社会学● 比較文化論● 人間関係論● ジェンダー論●		
	自然科学	基礎生物● スポーツ科学◎ 基礎化学● スポーツ実習◎ 基礎数学● 物理学● データサイエンス			
	外国語	英語講読・記述 英会話Ⅰ 英会話Ⅱ フランス語● 中国語●	英会話Ⅲ●	専門英語●	
	情報科学	情報リテラシー 情報科学	情報通信と保健医療●		
医療のコラボレーション教育	入門	体の仕組みと働きⅠ(血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系) 体の仕組みと働きⅡ(骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系) 栄養学総論(基礎栄養学) 応用生物 応用化学 キャリア教育Ⅰ	公衆衛生学 医療安全管理学(臨床工学・危機管理・感染制御)●		
	発展	医学・医療概論●	キャリア教育Ⅱ	臨床薬理学(薬理学) 医療マネジメント論● キャリア教育Ⅲ●	
	実践	ボランティア論● ボランティア活動●			協働実践演習
専門基礎分野	社会・環境と健康	健康管理概論● 社会福祉総論● 食育論● 食文化論●			
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち		病理学Ⅰ(病態の系統的理解) 生化学Ⅰ(生体物質の構造と機能)● 生化学Ⅱ(生体物質の代謝)● 生化学実験Ⅰ(生体物質の分析) 微生物学 解剖生理学実習	病理学Ⅱ(病態の評価・診断) 分子病態学● 生化学実験Ⅱ(生体物質の発現・代謝分析)●	薬物療法学● 病態生化学● 臨床検査学●
専門応用分野	病態学	薬理学	臨床検査生化学 臨床検査栄養学	臨床検査医学総論	チーム医療概論
	公衆衛生学	医学総論	臨床検査関係法規		
	医用工学概論		医用工学・情報科学概論 医用工学実習 検査機器総論		
	血液検査学		血液検査学総論 血液検査学	血液検査学実習	
	病理検査学		病理検査学	病理細胞検査学 病理検査学実習	
	尿・糞便等一般検査学		一般検査学・寄生虫検査学 一般検査学・寄生虫検査学実習		
	生化学検査学・免疫検査学		生化学検査学 免疫検査学	生化学検査学実習 免疫検査学実習	
	遺伝子関連・染色体検査学		遺伝子関連・染色体検査学	遺伝子関連・染色体検査学実習	
	輸血・移植検査学			輸血・移植検査学 輸血・移植検査学実習 輸血・移植検査学演習	
	微生物検査学		微生物検査学Ⅰ	微生物検査学Ⅱ 微生物検査学実習	
	生理検査学			生理検査学Ⅰ 生理検査学Ⅱ 生理検査学Ⅲ 生理検査学実習Ⅰ 生理検査学実習Ⅱ	生理検査学実習Ⅲ 生理検査学演習
	臨床検査総合管理学			検査管理総論	検査精度管理学 臨床検査総合演習Ⅰ 臨床検査総合演習Ⅱ
	医療安全管理学			臨床検査医療安全管理学	臨床検査医療安全管理学実習
	その他上記科目における臨地実習				臨地実習前評価 生理検査学に関する臨地実習 生理検査学以外の臨地実習
	その他	実用国語●			卒業研究●
		1年次必修科目 修得単位数: 26単位	2年次必修科目 修得単位数: 36単位	3年次必修科目 修得単位数: 33単位	4年次必修科目 修得単位数: 22単位

臨床工学専攻 履修モデル

【医療保健学科 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】 医療保健学科においては、本学の建学の精神に基づき、以下の能力を修得したと認められる者に学士(医療保健学)の学位を授与します。 1.医療保健の専門職として必要な知識と技術を修得し、「医療の現場」や「食をはじめとする健康な生活づくり」に関わる場面で活用できる能力 2.高い倫理性と人間性を兼ね備え、医療保健分野に貢献できる能力 3.グローバルな教養を身に付け、医療保健の専門職との協働はもとより、多様な文化や背景を持つ人々を理解し協働できる能力 4.未知の課題に対して多様な情報を収集し、科学的根拠に基づいた思考と判断により解決に向けて創造的に取り組むことができる能力		【凡例】 ●選択科目 ◎1～3年次選択科目 【卒業要件】 必修科目は「いのち・人間の教育」から14単位、「医療のコラボレーション教育」から13単位、「専門科目」から92単位の必修科目と選択科目7単位以上の合計126単位以上を修得する。 (履修科目の登録上限:45単位(年間))	

		1年次 将来医療人を目指す学生として必要となる幅広い基礎的な教養を身に付け、臨床工学専攻に必要な工学や医学の基礎を学ぶ	2年次 高度な医療機器や医療安全について科学的に理解するために必要となる工学分野および医療機器の専門分野の知識を習得する	3年次 専門分野に関係する高度な医療知識と、医療機器の操作、運用、管理の全般を学習し、実習を通じて活用できる能力を身につける	4年次 国家試験に向けてこれまで学んだ知識を再確認し、病院実習を通して実践的な能力を習得する
いのち・人間の教育	いのち・人間	心理学● 哲学と宗教 生命倫理学● 医療と人間●	文学●		
	社会科学	コミュニケーション概論● 社会学● 歴史● 経済学● 認知科学● 法字●	国際関係論● 家族社会学● 比較文化論● 人間関係論● ジェンダー論●		
	自然科学	基礎生物● スポーツ科学◎ 基礎化学● スポーツ実習◎ 基礎数学● 物理学● データサイエンス			
	外国語	英語講読・記述 英会話Ⅰ 英会話Ⅱ フランス語● 中国語●	英会話Ⅲ●	専門英語●	
	情報科学	情報リテラシー 情報科学	情報通信と保健医療●		
医療のコラボレーション教育	入門	体の仕組みと働きⅠ(血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系) 体の仕組みと働きⅡ(骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系) 栄養学総論(基礎栄養学)● 応用生物 応用化学● キャリア教育Ⅰ	公衆衛生学 医療安全管理学(臨床工学・危機管理学・感染制御学)●		
	発展	医学・医療概論●	キャリア教育Ⅱ	臨床薬理学(薬理学) 医療マネジメント論● キャリア教育Ⅲ●	
	実践	ボランティア論 ボランティア活動●			協働実践演習
専門基礎分野	解剖学・生理学		解剖生理学実習		臨床工学演習Ⅱ
	生化学		生化学(臨床工学)		
	医学概論	医学概論			
	病理学		臨床工学病理学		
	免疫学		免疫検査学	輸血・移植検査学	
	チーム医療概論				チーム医療概論
	関係法規		関係法規(臨床工学)		
	応用数学	情報数学 基礎数学Ⅱ			
	電気工学・電子工学		電気工学Ⅰ 電気工学Ⅱ 電子工学Ⅰ 電子工学Ⅱ	電気・電子工学実習	電気磁気学
	機械工学	医用機械工学			
	計測工学		計測工学		
	医用工学①	コンピュータシステム	システム工学 医用工学・情報科学概論		
専門応用分野	生体物性工学・医用材料工学		生体物性工学 医用材料工学		生体物性・材料工学
	医用工学②				臨床工学演習Ⅰ
	医用機器学概論	医用機器学概論			
	医用治療機器学①		医用治療機器学Ⅰ 医用治療機器学実習		
	生体計測装置学	生体計測学基礎	生体計測装置学Ⅰ 生体計測装置学Ⅱ	生体計測装置学実習	画像診断学
	臨床支援技術学			臨床支援技術学	
	生体機能代行技術学	生体機能代行装置学概論	生体機能代行装置学Ⅰ 生体機能代行装置学Ⅱ 生体機能代行装置学実習Ⅰ 生体機能代行装置学実習Ⅱ	生体機能代行装置学Ⅲ 生体機能代行装置学Ⅳ 生体機能代行装置学実習Ⅲ	
	医療安全管理学			医用機器安全管理学Ⅰ 医用機器安全管理学Ⅱ 医用機器安全管理学実習	医療安全管理学(臨床工学)
	医用治療機器学②		医療治療機器学Ⅱ		
	臨床医学総論		臨床医学総論Ⅰ	臨床医学総論Ⅱ 手術・集中治療学 生理検査学Ⅰ 生理検査学Ⅱ	
	臨床実習				技術・知識の到達度評価(臨床工学) 臨床実習
	その他	実用国語●			卒業研究●

1年次必修科目 修得単位数: 34単位

2年次必修科目 修得単位数: 44単位

3年次必修科目 修得単位数: 26単位

4年次必修科目 修得単位数: 15単位

医療情報学専攻 履修モデル

【医療保健学科 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】 医療保健学科においては、本学の建学の精神に基づき、以下の能力を修得したと認められる者に学士(医療保健学)の学位を授与します。 1.医療保健の専門職として必要な知識と技術を修得し、「医療の現場」や「食をはじめとする健康な生活づくり」に関わる場面で活用できる能力 2.高い倫理性と人間性を兼ね備え、医療保健分野に貢献できる能力 3.グローバルな教養を身に付け、医療保健の専門職との協働はもとより、多様な文化や背景を持つ人々を理解し協調できる能力 4.未知の課題に対して多様な情報を収集し、科学的根拠に基づいた思考と判断により解決に向けて創造的に取り組むことができる能力	【凡例】 ●選択科目 ◎1～3年次選択科目 【卒業要件】 必修科目を57単位、及び選択科目を専門職の教育分野「医療情報」「ヘルスケア」「情報科学」から各8単位以上修得した上で、合計 124単位以上修得する。 (履修科目の登録上限:45単位(年間))

		1年次 医療と情報の基礎を学び、少人数グループで学びの方向性を考える	2年次 医療現場の課題を理解し、演習や実験の実践を通して情報技術・診療データ分析を身につける	3年次 実習を活かして、応用的な学びを自ら組み立てる	4年次 卒業研究で自分なりの医療情報学を探索する
いのち・人間の教育	いのち・人間	心理学● 哲学と宗教 生命倫理学● 医療と人間●	文学●		
	社会科学	コミュニケーション概論● 社会学● 歴史● 経済学● 認知科学● 法学●	国際関係論● 家族社会学● 比較文化論● 人間関係論● ジェンダー論●		
	自然科学	基礎生物● スポーツ科学◎ 基礎化学● スポーツ実習◎ 基礎数学● 物理学● データサイエンス			
	外国語	英語講読・記述 英会話Ⅰ 英会話Ⅱ フランス語● 中国語●	英会話Ⅱ●	専門英語●	
	情報科学	情報リテラシー 情報科学	情報通信と保健医療●		
医療のコラボレーション教育	入門	体の仕組みと働きⅠ(血液、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器系) 体の仕組みと働きⅡ(骨格、筋、神経、内分泌、感覚器系) 応用生物● 応用化学● キャリア教育Ⅰ	公衆衛生学● 医療安全管理学(臨床工学・危機管理学・感染制御学) 栄養学総論(基礎栄養学)		
	発展	医学・医療概論●	キャリア教育Ⅱ	臨床薬理学(薬理学)● 医療マネジメント論● キャリア教育Ⅲ	
	実践	ボランティア論● ボランティア活動●			協働実践演習
専門職の教育	ヘルスケア	臨床医学総論 診療プロセス論A 医療制度論	臨床医学各論A● 臨床医学各論B● 診療プロセス論B● 医事会計論● 診療情報管理論● 病院管理概論	臨床医学各論C● 臨床医学各論D● インターンシップ●	
	医療情報	医療情報学概論 生体情報演習 基礎ゼミⅠ	診療情報論Ⅰ● 診療情報論Ⅱ● 疾病分類演習Ⅰ● 疾病分類演習Ⅱ● 医療情報システム論● ワークショップC● ワークショップD● 医療シミュレーション● 医療情報基礎演習A 基礎ゼミⅡ	応用疾病分類演習Ⅰ● 応用疾病分類演習Ⅱ● 医用画像処理工学● 応用ゼミⅠ 応用ゼミⅡ 医療情報システム開発論 医療情報基礎演習B 医療情報応用演習	卒業研究● 応用ゼミⅢ
	情報科学	情報数学● 基礎数学Ⅱ● コンピュータシステム ワークショップA ワークショップB●	データベースと医療Ⅰ(基礎) 臨床データ分析Ⅰ● データ構造とアルゴリズム● データベースと医療Ⅱ(応用)● プログラミング演習Ⅰ プログラミング演習Ⅱ●	臨床データ分析Ⅱ● AIと医療● 情報セキュリティ	
		1年次必修科目 修得単位数: 36単位	2年次必修科目 修得単位数: 13単位	3年次必修科目 修得単位数: 5単位	4年次必修科目 修得単位数: 3単位

実習施設一覧 管理栄養学専攻

No	実習施設名	所在地	受け入れ可能人数
臨地実習Ⅰ			
1	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都港区西新橋3-19-18	4名
2	医療法人社団相和会 澁野辺総合病院	神奈川県相模原市中央区淵野辺3-2-8	4名
3	社会福祉法人江戸川豊生会 特別養護老人ホーム第二みどりの郷	東京都江戸川区江戸川2-29-5	2名
4	社会福祉法人三徳会 品川区立戸越台特別養護老人ホーム	東京都品川区戸越1-15-23	4名
5	医療法人社団永生会 介護老人保健施設 イマジン	東京都八王子市栢田町583-15	2名
6	社会福祉法人新生寿会 ジロール麹町	東京都千代田区麹町2-14-3	4名
7	社会福祉法人パール 特別養護老人ホーム・パール代官山	東京都渋谷区鉢山町3-27	6名
8	社会福祉法人あそか会 特別養護老人ホーム あそか園	東京都江東区住吉1-9-5	2名
9	社会福祉法人若竹大寿会 介護老人福祉施設 わかたけ青葉	神奈川県横浜市青葉区奈良4-6-1	2名
10	社会福祉法人若竹大寿会 介護老人福祉施設 わかたけ南	神奈川県横浜市南区山谷115-5	2名
11	社会福祉法人若竹大寿会 介護老人福祉施設 わかたけ富岡	神奈川県横浜市金沢区富岡東2-1-5	2名
12	社会福祉法人若竹大寿会 介護老人福祉施設 わかたけ鶴見	神奈川県横浜市鶴見区矢向1-4-20	4名
13	社会福祉法人和光会 駒沢わこう保育園	東京都世田谷区駒沢5-2-7	3名
14	社会福祉法人東京育成園 児童養護施設 東京育成園	東京都世田谷区上馬4-12-3	4名
小 計			45名
臨地実習Ⅱ			
15	世田谷保健所	東京都世田谷区世田谷4-24-1	25名
16	公益財団法人 世田谷区保健センター	東京都世田谷区松原6-37-10	5名
小 計			25名

実習施設一覧 管理栄養学専攻

No	実習施設名	所在地	受け入れ可能人数
臨地実習Ⅲ			
17	NTT東日本関東病院	東京都品川区東五反田5-9-22	3名
18	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター	東京都目黒区東が丘2-5-1	8名
19	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	東京都立川市緑町3256	12名
20	独立行政法人国立病院機構 相模原病院	神奈川県相模原市南区桜台18-1	4名
21	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	東京都中央区築地5-1-1	2名
22	慶應義塾大学病院	東京都新宿区信濃町35	4名
23	学校法人慈恵大学 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター	東京都葛飾区青戸6-41-2	2名
24	東邦大学医療センター大橋病院	東京都目黒区大橋2-22-36	2名
25	東京女子医科大学病院	東京都新宿区河田町8-1	4名
26	東京女子医科大学附属足立医療センター	東京都足立区江北4-33-1	4名
27	東海大学医学部附属病院	神奈川県伊勢原市下糟屋143	2名
28	東海大学医学部附属八王子病院	東京都八王子市石川町1838	2名
29	公益財団法人がん研究会有明病院	東京都江東区有明3-8-31	1名
30	公益財団法人日産厚生会 玉川病院	東京都世田谷区瀬田4-8-1	6名
31	社会医療法人財団石心会 川崎幸病院	神奈川県川崎市幸区大宮町31-27	3名
32	医療法人財団アドベンチスト会 東京衛生アドベンチスト病院	東京都杉並区天沼3-17-3	2名
33	医療法人社団永生会 永生病院	東京都八王子市櫛田町583-15	2名
34	医療法人社団筑波記念会 筑波記念病院	茨城県つくば市要1187-299	6名
35	国家公務員共催組合連合会 三宿病院	東京都目黒区上目黒5丁目33番12号	2名
36	高度・急性期医療センター 公立昭和病院	東京都小平市花小金井8丁目1-1	2名
小 計			73名
合 計			143名

実習施設一覧 臨床検査学専攻

No	実習施設名	所在地	受け入れ可能人数
臨床検査臨床実習			
1	NTT東日本関東病院	東京都品川区東五反田5-9-22	3名
2	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター	東京都目黒区東が丘2-5-1	3名
3	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	東京都立川市緑町3256	3名
4	独立行政法人国立病院機構 東京病院	東京都清瀬市竹丘3-1-1	3名
5	独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター	神奈川県横浜市戸塚区原宿3-60-2	3名
6	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	千葉県千葉市中央区椿森4-1-2	2名
7	独立行政法人国立病院機構 西埼玉中央病院	埼玉県所沢市若狭2-1671	3名
8	独立行政法人地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター	東京都新宿区津久戸町5-1	3名
9	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院	東京都新宿区戸山1-21-1	3名
10	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	東京都中央区築地5-1-1	3名
11	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	千葉県柏市柏の葉6-5-1	3名
12	慶應義塾大学病院	東京都新宿区信濃町35	3名
13	東邦大学医療センター大森病院	東京都大田区大森西6-11-1	3名
14	東京女子医科大学病院	東京都新宿区河田町8-1	3名
15	北里大学病院	神奈川県相模原市南区北里1-15-1	1名
16	公益財団法人ライフ・エクステンション研究所 付属 永寿総合病院	東京都台東区東上野2-23-16	3名
小 計			45名

実習施設一覧 臨床工学専攻

No	実習施設名	所在地	受け入れ可能人数
臨床工学臨床実習			
1	NTT東日本関東病院	東京都品川区東五反田5-9-22	6名
2	独立行政法人国立病院機構 東京医療センター	東京都目黒区東が丘2-5-1	6名
3	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	東京都立川市緑町3256	6名
4	独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター	神奈川県横浜市戸塚区原宿3-60-2	6名
5	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	千葉県千葉市中央区椿森4-1-2	2名
6	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院	東京都新宿区戸山1-21-1	6名
7	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	東京都中央区築地5-1-1	6名
小 計			38名

実習施設一覧 医療情報学専攻

No	実習施設名	所在地	受け入れ可能人数
インターンシップ			
1	NTT東日本関東病院	東京都品川区東五反田5-9-22	6名
2	社会福祉法人恩賜財団済生会 千葉県済生会習志野病院	千葉県習志野市泉町1-1-1	3名
3	社会医療法人河北医療財団 河北総合病院	東京都杉並区阿佐谷北1-7-3	3名
4	東京都済生会中央病院	東京都港区三田1丁目4番17号	3名
5	東邦大学医療センター 大森病院	東京都大田区大森西6-11-1	3名
6	国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院	神奈川県横浜市栄区桂町132番地	3名
7	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院	千葉県市原市辰巳台東2-16	3名
8	自治医科大学附属さいたま医療センター	埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847	3名
9	日本赤十字社 さいたま赤十字病院	埼玉県さいたま市中央区新都心1-5	3名
小 計			30名

実習に関する契約書（雛型）

東京医療保健大学(以下「甲」という。)と〇〇〇〇（以下「乙」という。）とは、次のとおり実習生に関する契約を締結する。

（目的）

第1条 甲は、在籍の学生の臨地実習を乙に委託し、乙は、これを受け入れるものとする。

（実習内容及び実習方法等）

第2条 実習内容及び実習方法等については、次のとおりとする。

- （1）実習内容は、甲と乙で事前協議の上、決定する。
- （2）乙の提示する実習予定に沿って実習を行い、実習生の自主的な実習課題については、乙及び甲がこれを指導する。
- （3）実習時間は、乙の定める実習日程に基づき実施し、45分を1時間として換算するものとする。

（実習期間）

第3条 この契約に基づき実習を実施する期間は、令和〇年〇月〇日から令和〇年〇月〇日までとする。ただし、甲乙協議により変更することができる。

（実習生）

第4条 実習の対象は、甲の医療保健学部医療保健学科に所属する学生とする。
実習者名簿については、実習前に甲が乙に送付するものとする。

（実習協力費）

第5条 実習協力費は、1人1日当たり〇〇〇〇円（税込）とし、実習終了後、乙の指定する口座に振込により支払うものとする。

（秘密保持）

第6条 甲及び実習生は、実習中に知り得た秘密を第三者に対して漏洩してはならない。実習終了後も同様とする。

2 甲および実習生は、乙の許可なく、実習に関連する書類等を使用し、複製・複写・転載またはSNS等インターネット上に公開してはならない。

（遵守義務）

第7条 実習生は、実習中は関係法規を遵守し、かつ実習担当者の指示に従わなければならない。

（疾病、傷害等）

第8条 甲は、実習生の健康状態を確認し、実習開始前に健康診断書（またはこれに準ずる書面）を乙に提出する。

- 2 実習期間中に実習生が疾病または負傷した場合、甲はその責任を負う。ただし、実習生の故意または重大な過失によらない場合には、甲乙協議の上、責任の所在を定める。
- 3 甲は、実習生が実習中に第三者に損害を与えた場合に備え、学生教育研究災害傷害保険および付帯賠償責任保険等、必要な保険に加入させるものとする。
- 4 甲は、乙が定める感染症対策に基づき、実習生に対して必要なワクチン接種および抗体検査等を実施し、乙の求めに応じてその記録を提出する。

（損害の賠償）

第9条 実習期間中に、実習生の責に帰すべき事由により乙の建物設備、職員、患者等に損害を与えた場合は、甲は、その損害を賠償する責任を負う。

- 2 前項の実習生の責に帰すべき事由が明らかに実習生の故意又は過失によるものではないと認められる場合については、前条第3項に準ずるものとする。

（契約の解除）

第10条 乙は、甲がこの契約条項に違反し、又は虚偽の申告その他信頼に背反する行為があった場合は、契約期間に関係なく直ちにこの契約を解除することができる。

第11条 この契約に定めのない事項、若しくは解釈に疑義が生じた場合は、甲乙協議の上問題の解決に当たるものとする。

この契約の証として本契約書2通を作成し、甲乙双方記名押印のうえ、各自1通を保有する。

令和〇年〇月〇日

【甲】

〒154-0001 東京都世田谷区世田谷3丁目11番3号
学校法人 青葉学園
東京医療保健大学
理事長 田村 聡明

【乙】

（相手方医療機関名）
（所在地・代表者等を記載）

個人情報保護等に関する誓約書

令和 年 月 日

学校法人青葉学園
東京医療保健大学
学長 殿

所属学科 医療保健学部 医療保健学科

学籍番号

氏 名

私は、東京医療保健大学外の施設で実習または演習を行うにあたり、次の各号を遵守します。

SINCE 2005
— 記 —

1. 実習または演習を行う施設において個人情報保護規程がある場合は、それを遵守します。
2. 東京医療保健大学個人情報保護規程ならびに実習要項または演習要項等を遵守します。
3. 実習または演習を行う施設において知り得た個人情報をはじめ、その他の情報を第三者へ漏らす行為は行いません。
4. 本誓約は、退学、卒業等により東京医療保健大学の学生でなくなった場合も遵守します。

以上

医療保健学科 学外実習要項（学科共通事項）

【1. 実習の概要】

本学科の学外実習は、医療専門職として必要な知識・技能・態度を修得し、実践に活かす能力を身に付けることを目的に実施される。管理栄養学、臨床検査学、臨床工学、医療情報学の各専攻において、学内での講義・演習・学内実習を経た上で、臨床現場における臨地実習・臨床実習を行う。

学生は、医療保健の専門職として必要な知識と技術を応用的に活用し、チーム医療の一員としての自覚を深めるとともに、職業倫理観、人間の尊厳への理解、医療安全に対する感受性を高める。

【2. 実習前の準備】

(1) 保険加入

全学生は、「学生教育研究災害傷害保険」「学研災付帯賠償責任保険」、および「総合補償制度 Will」へ加入する。実習中の負傷、疾病、物損、感染症等に備えるための保険であり、担当教員が事前確認を行う。

(2) 感染対策・健康管理

抗体価検査（HBV、麻疹、風疹、水痘、ムンプス等）および必要に応じたワクチン接種を義務づける。加えて、インフルエンザ等についても適宜予防接種を推奨し、健康診断を通じて学生の健康状態を確認する。

(3) オリエンテーション・事前指導

実習に先立ち、目的・実施方法・心構え・個人情報の取扱い・緊急時対応等について、実習担当教員がオリエンテーションを実施する。加えて、課題等により総合的知識・技能・態度の確認を行い、必要に応じて補講や面談を実施する。

(4) 実習施設との事前調整

実習の目的・内容・方法・評価基準について、大学と実習施設で事前打合せを行い、学生の受け入れ体制と実習水準の確保を図る。

【3. 実習期間中の心得と行動指針】

(1) 守秘義務・個人情報の保護

- ・患者・利用者等に関する情報は、法令および大学規程に則り厳重に取り扱い、SNS 等への投稿は禁止する。
- ・実習記録には匿名化処理（例：A 氏、B 病院）を行い、記録物・メモは適切に保管し、実習終了後にシュレッダー等で廃棄する。
- ・学生は「個人情報保護に関する誓約書」を提出し、情報漏洩・誤用等を未然に防ぐ体制を整える。

(2) 医療安全・事故対応

- ・機器・器材の操作は必ず指導者の指示を受け、事故防止マニュアルを遵守する。
- ・事故・インシデント・ヒヤリハット発生時には、施設指導者と大学教員へ速やかに報告し、大学事務局と連携のうえで保険請求を含めた対応を行う。

(3) 感染対策

- ・標準予防策（スタンダード・プリコーション）に基づき、手指衛生、PPE の適切な使用、感染経路遮断に留意する。

(4) 言動・態度・服装

- ・礼儀正しく、清潔感のある身だしなみで実習に臨む。
- ・時間厳守と規則遵守を徹底し、無断遅刻・早退は原則認められない。
- ・実習施設内外においても学生として節度ある態度を維持し、携帯電話・SNS 等の使用は禁止する。

(5) ハラスメント防止

- ・実習中も学内と同様にハラスメントを防止する。「ハラスメントに関する取扱細則」に則り、問題があれば大学に報告する。

【4. 実習施設との連携体制】

- ・実習施設とは、実習計画、目的、内容、指導方法、評価、緊急時対応等について相互に確認し合意する。
- ・実習期間中は、実習担当教員が施設を巡回し、学生の状況や課題について指導者と情報共有を行う。
- ・実習終了後には、学生の成果・課題について振り返り、実習水準の継続的改善を図る。
- ・大学内に臨地実習事務局を設置し、連絡・書類送付・緊急対応の一元管理を行う。

【5. 実習評価と記録】

- ・評価は、①実習指導者による指導評価、②学生による記録・レポート・テーマ成果、③大学教員による総合評価により、100点法で実施する（60点以上を合格）。
- ・学生の学修成果は、単位認定に反映されるとともに、今後の専門職養成に資する指導の基礎資料とする。

【6. 実習中の事故・トラブル対応】

- ・事故およびインシデント発生時は、以下の手順で対応を行うとし詳細は実習前オリエンテーションで提示する。
 - 1) 学生本人からの報告
 - 2) 施設内での応急対応と責任者への連絡
 - 3) 大学教員による対処指示と報告書提出
 - 4) 必要に応じた保険請求・再発防止策の実施
- ・通学途上も含め、すべての事案に迅速・一貫した対応ができる体制を整備している。

【7. 基本遵守事項】

- ・実習施設では、無断行動・私語・スマートフォンの使用は禁止する。
- ・休憩室・更衣室等の私物管理、清掃、ごみの持ち帰りを徹底する。
- ・昼食は指定場所でとり、他者への配慮を欠かさない。

【8. 通学方法】

- ・原則、公共交通機関を利用し、自家用車・バイクでの通学は禁止する。
- ・集合・解散時刻を厳守し、遅刻・欠席・早退時は大学へ速やかに連絡する。

【9. 連絡体制】

- ・実習期間中の連絡は、専攻ごとに指定された実習担当教員または事務局が対応する。
- ・夜間・休日等の緊急時には、事前に指定した緊急連絡先により対応する。

その他、各実習において必要事項を別途提示するので、学生においてはそちらも併せて確認の上、実習に臨むこと。

以上

東京医療保健大学医療保健学科
臨地実習事務局

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目次

(1) 学科統合及び再編する組織の概要	・・・2
①学科統合及び再編する組織の概要	・・・2
② 学科統合及び再編する組織の特色	・・・2
(2) 人材需要の社会的な動向等	・・・3
①学科統合及び再編する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	・・・3
ア 人口推移による医療ニーズの状況	・・・3
② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	・・・4
③学科統合及び再編する組織の主な学生募集地域	・・・5
ア 直近 5 カ年の志願・入学動向	・・・5
④ 既設組織の定員充足の状況	・・・5
(3) 学生確保の見通し	・・・7
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	・・・7
ア 既設組織における取組とその目標	・・・7
(ア) オープンキャンパスの魅力アップ	・・・7
(イ) 高等学校内ガイダンスや進学相談会等、直接高校生へ PR できる機会を増加	・・・7
(ウ) 教育連携事業の強化	・・・7
(エ) インターネット、SNS を活用した広報の強化	・・・7
(オ) 多彩な入試制度	・・・8
イ 学科統合及び再編する組織における取組とその目標	・・・8
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員の増加する組織での入学者の見込み数	・・・8
② 競合校の状況分析	・・・9
ア 競合校の選定理由と収容定員の増加する組織との比較分析、優位性	・・・9
イ 競合校の入学志願動向等	・・・9
ウ 学科統合及び再編する組織において定員を充足できる根拠等	・・・10
エ 学生納付金等の金額設定の理由	・・・11
③先行事例分析	・・・11
④学生確保に関するアンケート調査の実施	・・・11
⑤人材需要に関するアンケート調査等	・・・14
(4) 学科統合及び再編する組織の定員設定の理由	・・・16

(1) 学科統合及び再編する組織の概要

① 学科統合及び再編する組織の概要

医療保健学部(3学科)		定員	
		280名	
看護学科		100名	
医療栄養学科 (学位:医療栄養学)	管理栄養学専攻	68名	100名
	臨床検査学専攻	(32名)	
医療情報学科(学位:医療情報学)		80名	

医療保健学部(2学科)		定員	
		280名	
看護学科		120名	
医療保健学科 (学位:医療保健学)	管理栄養士(国家資格)を目指す 管理栄養学専攻	68名	160名
	臨床検査技師(国家資格)を目指す 臨床検査学専攻	(92名)	
	エンジニアや診療情報管理士を目指す 医療情報学専攻		
	臨床工学技士(国家資格)を目指す 臨床工学専攻		

※統合・再編時期は2026(令和8)年4月を予定

看護学科 (五反田キャンパス) 所在地: 東京都品川区東五反田4-1-17

医療保健学科(世田谷キャンパス) 所在地: 東京都世田谷区世田谷3-11-3

② 学科統合及び再編する組織の特色

東京医療保健大学(以下、本学という。)は、教育基本法に基づき学校教育法の定める大学として、また私立大学法に従い、知識社会が実現すると予測される21世紀において、建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、医療分野において特色ある教育研究を実践することで、時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探究し解決できる人材の育成を目的としている。

2005年4月に開学、設置した本学(医療保健学部看護学科、医療栄養学科、医療情報学科)は、2年後の2007年4月には、大学院医療保健学研究科(修士課程)を設置し、2009年4月には助産学専攻科と大学院医療保健学研究科(博士課程)を設置した。2010年4月には、東が丘看護学部と大学院看護学研究科(修士課程)を設置し、2014年4月に東が丘看護学部を東が丘・立川看護学部に変更し、大学院看護学研究科(博士課程)を設置。また2018年4月には千葉看護学部と和歌山看護学部をそれぞれ設置し、2020年4月には東が丘・立川看護学部を東が丘看護学部と立川看護学部に変更し、大学院和歌山看護学研究科(修士課程)を設置した。2021年4月には大学院千葉看護学研究科(修士課程)を設置し、翌年の2022年4月には和歌山助産学専攻科を設置。合計5学部7学科、2専攻科、4研究科(修士課程・博士課程)体制となった。

今般、学科統合及び再編の申請を行う医療保健学部(以下、本学部という。)は、2005年の開学以降、設置計画を着実に履行し、看護職の他、医療栄養学科においては、管理栄養士国家試験受験資格や栄養教諭等の資格取得ができる教育課程を、2024年には臨床検査学専攻を設置し臨床検査技師国家試験受験資格を取得できる教育課程を整備した。また、医療情報学科では診療情報管理士国家試験受験資格や情報に係る各種資格取得ができる教育課程を整備し、特色ある教育活動を展開し、医療専門職養成の教育実績を向上させ、チーム医療で活

躍できる医療人を輩出してきた。

今回の再編後の医療保健学科においては、「社会や医療保健の高度化を踏まえ、多様なニーズに対応できる医療保健専門職の育成」、「健康に関わる社会課題を俯瞰し、医療保健の現場を含むあらゆるフィールドにおいて、他の専門職と協調して自らの専門性を発揮できる人材の育成」を図る。と新たに教育理念を定め、豊かな教養と科学的な専門的知識・技術を有し、寛容で心温かい医療人の育成という本学の社会的責務を永続的に果たすことをより確実とすべく、高度医療専門職の養成について、一体的に改組転換を行うとともに、医療・健康・保健面における社会連携・社会貢献を積極的に推進する。

また、ディプロマ・ポリシーにおいては、1.医療保健の専門職として必要な知識と技術を修得し、「医療の現場」や「健康な生活づくりに関わる実践場面」で活用できる能力。2.高い倫理性と人間性を兼ね備え、医療保健分野に貢献できる能力。3.グローバルな教養を身に付け、医療保健の専門職との協働はもとより、多様な文化や背景を持つ人々を理解し協調できる能力。4.未知の課題に対して多様な情報を収集し、科学的根拠に基づいた思考と判断により解決に向けて創造的に取り組むことができる能力。と定め、卒業認定・学位授与方針として示している。

我が国においては、近年、超高齢化、少子化、高学歴化、情報化、国際化が著しく進展しており、これに伴い医療も高度化し、医療の実践内容も複雑多岐にわたっている。

これらのことを踏まえ、これまで培ってきた医療保健活動のチーム化を踏まえた他の専門職と協調して医療保健活動を遂行できる人材の育成に一層邁進すべく、新たに臨床工学技士の養成を加え、既存学部の学科統合及び再編を行う。

(2) 人材需要の社会的な動向等

① 学科統合及び再編する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

ア 人口推移による医療ニーズの状況

我が国における、近年の少子高齢化の進展状況において、総人口における15歳未満の割合は、2022年度では11.6%、65歳以上の割合は29.0%（【資料1】厚生統計要覧(令和5年度, 厚生労働省)）となっている。また本学部が設置されている東京都においても、2022年度では10.9%、65歳以上の割合は22.8%（【資料2-1,2-2】年齢(3区分),男女別人口）となっており、少子高齢化が進展している。このような状況の中、高度急性期医療の発展や医療機関の機能分化により早期に在宅への移行が可能となったことから、住み慣れた地域社会において自分らしく安心して生きることへのニーズも高まっている。また、国民の健康や生活に対する認識は変化していることから、健康の保持・増進並びに健康課題の解決に向けた保健医療福祉の取り組みに対するニーズは多様化している。看護職者が求められる能力として、保健師は多岐にわたる健康課題に多職種と協働しながら対応できる専門的能力及び行政的能力、助産師はニーズの多様化を踏まえた実践力、看護師は医療の高度化・専門化、在宅医療の普及等に対応できる知識や技術が必要となっており、看護職者の養成校においても、自己教育力を基盤とし、看護実践力を高めながら看護専門職としてのプロフェッショナリズムを醸成し続けられる自律した看護専門職者を養成していくことを求められていると考える。また、臨床工学技士が求められる能力として、責任感の強さや正確さ、そして慎重さとともに病院内だけではなく今

後は在宅医療分野でのIoT技術を利用した在宅医療機器の管理や保守も臨床工学技士の新たな業務となる。テクノロジーが進歩し新しい医療機器が次々と誕生する中で正確に操作する専門的知識と技術が求められている。

<参考：平成28年版厚生労働白書－人口高齢化を乗り越える社会モデルを考える－、令和5年度保健師中央会議資料12 地域における保健活動の推進に向けて、地域包括ケアシステムを支える助産所のあり方に関する研究(公益社団法人日本助産師会2021年3月)、臨床工学技士になるには(一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会)>

② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

この度学科統合及び再編する本学部の定員充足について、文部科学省の学校基本調査をもとにした令和5（2023）年度調査における全国の18歳人口の推移予測は【図表1】のとおりである。令和5（2023）年度調査における学科統合及び再編する令和8（2026）年の18歳人口予測は、1,092,664人であり、完成年度となる令和12（2030）年の18歳人口予測は、1,048,971人と約4%減少しており、学科統合及び再編する令和8（2026）年から9年間の推移でも、毎年1~2%減少していき、2035年の全国の18歳人口予測は970,429人と2025年より12%少ない人口予測になっている。

次に、地域的な18歳人口の推移予想について確認する。本学部の立地する東京都が属する関東1都6県の令和5（2023）年度調査における18歳人口の推移予測より、収容定員を変更する令和8（2026）年の関東1都6県の18歳人口予測は、359,686人であり、完成年度となる令和12（2030）年の18歳人口予測は、346,287人と約4%減少している。収容定員を変更する令和8（2026）年から9年間の推移でも、毎年1~2%減少しており、2035年の関東1都6県の18歳人口予測は、329,934人と2026年より8.3%少ない人口予測になっている。

また、本学部の立地する東京都の令和5（2023）年度調査における18歳人口の推移予測より、収容定員を変更する令和8（2026）年の東京都の18歳人口予測は、106,251人であり、完成年度となる令和12（2030）年の18歳人口予測は、103,741人と約2.4%減少している。収容定員を変更する令和8（2026）年から9年間の推移でも減少しており、2034年の東京都の18歳人口予測は、103,968人と2025年より2.2%少ない人口予測になっている。

本学部が立地する東京都は、全国の人口推移や関東6県の人口推移予測と比べると人口の減少が比較的緩やかと予測されているが、看護師の全国的な人材需要の動向について、「医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会 中間とりまとめ」（厚生労働省）において2025年の全国における看護職員供給数の約175~182万人に対して、需要数は約188~202万人と推計がされており、供給不足であると推計している。また、公益社団法人日本看護協会において各年度の看護職求人数・求職数が報告されており、2023年までの5カ年の報告書から求人倍率をみると、2021年度以降、17万人台で推移している。【図表2】本学部所在地の東京都の看護職求人数・求職数についてもコロナ過を経て、回復傾向にあることを示している。【図表3】供給不足である推計からも、地域的に見ても今後も需要は続くと考えられる。

臨床工学技士の全国的な人材需要の動向については、「職業情報提供サイト」（厚生労働省）において2023年度の全国の有効求人倍率は1.6倍となっており、全職種の平均有効求人倍率(厚生労働省発表)は1.31倍なのでそれと比較しても高い数値を示している。これらの

数値から見ても今後も需要は続くと考えられる。

以上のことより、本学部の進学需要に合わせて学科統合及び再編をすることは問題ないと思う。また看護師の供給不足であることから、現在の志願者数から入学者選抜機能を維持しながら、入学定員(20名定員増の120名)に見合う入学者を確保することは十分に可能であると思う。

③ 学科統合及び再編する組織の主な学生募集地域

ア 直近 5 カ年の志願・入学動向

本学部が立地している東京都からの入学生が中心であるが、神奈川県、千葉県、埼玉県及び北関東エリアも学生募集エリアとしていることから、関東1都6県からの入学者が安定して在籍している。【図表 4】

看護学科においては、直近 5 カ年の志願状況は平均志願倍率が10倍を超えており、今回の収容定員増加により入学定員は 120 名となるが、過去の志願者数はこれを大きく上回っており、変更後の入学定員は継続して充足できると考えている。また、合格者の入学歩留まり率(入学者数/合格者数)は、2021 年度 33%、2022 年度 37%、2023 年度 37%、2024 年度 32%、2025 年度 38%と平均 35%と入学者数も安定して確保していることが分かる。

【図表5】

受験の傾向として、第一志望としている受験生のうち、一定数が合格するまで複数回入試を受験している。また、第2,3志望としている受験数も一定数入学していることから、国公立及び大学付属病院を持つ大学の併願校としての側面も併せ持っている。このような点を踏まえ、合格者数は過去 5 年間を見ても一定数を維持し、入学者数についても安定していることから【図表5】、問題なく変更後の入学定員は充足できると考えている。18歳人口の減少等少子化の傾向がある中でも、本学部が志願者及び入学者を確保しているのは、社会のニーズに応え、専門職者等人材を輩出してきた積み重ねの結果であり、今後も引き続いて本学へ期待が寄せられるものと考えている。

④ 既設組織の定員充足の状況

本学において、2025 年 5 月 1 日現在で収容定員充足率が 0.7倍を下回る学科は、医療保健学部医療栄養学科及び医療情報学科の 2 学科となっており、前者の充足率は 0.64、後者の充足率は 0.48 である。その他の学部学科は収容定員充足率が 0.7倍を下回っていない。医療保健学部看護学科については、収容定員充足率が1.27である。【図表 6】

医療保健学部看護学科は、募集定員100名に対し、2021 年度入学者数114名(志願者数1,368名)、2022 年度入学者数124名(志願者数 1,128名)、2023 年度入学者数115名(志願者数 969名)、2024 年度入学者数120名(志願者数 961名) 2025年度入学者数154名(志願者数973名)と推移してきた。

医療保健学部医療栄養学科は、募集定員 100 名に対し、2021 年度入学者数 101 名(志願者数 244 名)であったが、その後、2022 年度入学者数 65 名(志願者数 178 名)、2023 年度入学者数 54 名(志願者数145 名)と推移し、急速かつ大幅な入学者減となった。主な学部別の志願者・入学者動向【資料 3-1,3-2,3-3】においても栄養学部の入学定員充足は、令和2年度90.97%、令和3年度85.36%、令和4年度89.90%、令和5年度94.09%となっており、私立大学全体的に入学定員未充足の状況が続いている。また 18 歳人口が継続的に減少する

ことが確実なことからも、医療栄養学科の改善策を早急に講じる必要があると考え、2024年4月に、医療の専門家の連携による「チーム医療」の一員として参画できる高度専門職の養成を目指して、医療栄養学科に管理栄養学専攻と臨床検査学専攻の2専攻を設置したことにより、2024年度入学者数80名（志願者数184名）と前年までに比べて入学者数と志願者数を増加させ、2025年度は入学者数92名（志願者数269名）となった。

また医療情報学科においては、募集定員80名に対して、2021年度入学者数85名（志願者数149名）であったが、2022年度入学者数53名（志願者数98名）、2023年度入学者数48名（志願者数98名）、2024年度入学者数33名（志願者数64名）、2025年度入学者数26名（志願者数45名）と推移し、2022年以降急激な入学者減という課題に直面している。

この課題に対処するため、この間、医療情報学科では、定員充足の取り組みとして、ヘルスケア業界の動向と受験生のニーズを見据え、学科の意識改革やカリキュラム見直しなどを行ってきた。2020年度から2021年度にかけてPlus-DX（デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン）と産業DX（デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業）補助金の支援を受けると共に、2022年度には、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に認定いただく等、IT・データサイエンス教育を強化してきた。それらを踏まえ、医療情報学科は、学科の再編を図るべく、2023年7月21日に文部科学省支援事業「大学・高専機能強化支援事業」に選定され、「デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲のある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行う」という新たな試みにもチャレンジしている。しかし、医療情報学科を取り巻く外部環境は想定以上に変化している。本学でも「医療と情報をつなぐIT人材の養成」という学科主旨、教育内容等について高校に赴いての学校説明及び医療系教養講座、大学全体でのオープンキャンパスに加え、学科独自の説明会を3～11月の間に毎月1回（土日開催）を開き説明を尽くしてきた。また、多くの大学でデータサイエンス系の学部学科が新設されることもあり、学生募集は依然厳しい状況になっていることから、医療情報学科単独ではなく医療保健学部各学科のシナジー効果を最大限に引き出せる学科改組による再編プラン（リバイバルプラン）が今回の学科統合及び再編である。

今後は、医療保健学部入学定員280名のうち、社会的人材需要が見込まれ且つこれまで安定して志願者を確保している看護学科の定員を20名増やし120名としたうえ、近年の医療栄養学科及び医療情報学科の入学者数の減少を総合的に勘案した結果、臨床工学専攻を新たに設置し、医療保健学科160名（うち医療栄養学専攻68名、臨床検査学専攻、臨床工学専攻、医療情報学専攻の3専攻において92名）に再編し、収容定員充足を図っていく。

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学部では、入試広報部が中心となり学生募集活動に当たっており、高校訪問を始め高校生や保護者、高等学校教員への情報発信等を専門的に行っている。なお、継続的な学生確保を目的として、オープンキャンパスの内容を充実すること、学内外での学生・教員の活動を積極的に広報することを重点としており、今後さらに強化していく。

(ア) オープンキャンパスの魅力アップ

本学部では、オープンキャンパスでの大学情報発信に取り組んできた。それにより本学部のオープンキャンパスへは毎年多くの高校生に会場してもらっている。

【図表 7】

2026年度入学者への本学部のアピールとなる 2025年度のイベントは、全学的なオープンキャンパス（3月、6月、8月の年3回）に加え、医療保健学科見学会（3～11月まで月1回）を開催し、大学理解・職業理解を促す体験授業や大学概要説明のほか、教育内容の特色等を受験生、保護者に明確に説明している。また同じ方が何度もイベントに参加して頂ける傾向にあり、高校生が直接在学生と話ができる企画を行うなど、毎回プログラムを変更して高校生に興味・関心を抱いていただけるよう配慮しながら実施している。

(イ) 高等学校内ガイダンスや進学相談会等、直接高校生へ PR できる機会を増加

本学部の PR 機会を持つために、高等学校内で開催される出前授業や進学説明会に力を入れてきた。東京都を始めとする関東 1 都 6 県の高等学校の進路指導担当者への直接訪問を行い、各高等学校で独自の大学説明会や進学相談会を実施している。

2024 年度実績として、学生募集担当者が関東 1 都 6 県の高等学校 635 校へ約 1,900 回の高校訪問をし、高等学校での大学説明会、進路説明会、入試説明会を 120 校におおよそ 154 回実施。また、高校生が本学部に来校して実施する体験講義や本学部教員が各高等学校で行う出前授業を 13 校に合計 13 回実施している。

(ウ) 教育連携事業の強化

関東 1 都 6 県に所在する高等学校 11 校（新渡戸文化高等学校、品川翔英高等学校、緑ヶ丘女子高等学校、藤村女子高等学校、新島学園中学校高等学校、藤沢翔陵高等学校、橘学苑高等学校、クラーク記念国際高等学校、千葉県立袖ヶ浦高等学校、埼玉栄中学・高等学校、相模女子大学高等部）と教育連携協定を結んでおり、高校教諭と本学教員との協議会を開催し、本学部での授業の見学を定期的で開催している。また本学部教員による出前授業などを実施し、大学での学びの理解と本学の教員・学生の様子を高校生が知る機会を提供している。今後も積極的な活動に努める。【図表 8】

(エ) インターネット、SNS を活用した広報の強化

本学部では、インターネットにおける広報活動に力を入れている。本学 HP に加え、本学部では特設サイトを運営しており、本学部の特化した情報を発信している。また Instagram では、本学部のイベント情報や演習風景の他、学内情報の発信などを行っている。

(オ) 多彩な入試制度

本学部では多彩な入試制度を実施しており、多様な学習歴をもつ高校生に広く門戸を開いている。2025年度入試では、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜では、A日程、B日程、C日程、特別日程、大学入学共通テスト利用入学試験の7入試を実施している。

【図表 9】学科統合及び再編の次年度入試でも、上記と同様の7入試を予定している。

試験内容は、総合型選抜で自己推薦書・小論文若しくは課題探究型レポート・面接での総合評価。(医療情報学専攻は、自己推薦書及び面接の総合評価。)

学校推薦型選抜では、調査書・小論文・面接での総合評価。一般選抜では、4科目(英語・国語・数学・理科)を用意し、日程によって2科目もしくは3科目受験としている。これらの入試を実施することで、本学部の学士課程教育で培う能力・素養に応じて、多様な知識・技能、目的意識・意欲を備えた受験生を、アドミッション・ポリシーに基づき、幅広く受け入れている。

イ 学科統合及び再編する組織における取組とその目標

学科統合及び再編した後も定員を充足させていくため、主として学校訪問などを行う学生募集担当者を継続して雇用し、収容定員を変更する年度以降も学生募集活動に力を入れていく。また、本学部の卒業生が病院等で活躍している姿を見てもらうため、オープンキャンパス等のイベントに招聘し、卒業生の声を高校生に届ける機会を設定している。

教育連携事業についても、毎年5月に教育連携協定を結んでいる高校教諭と本学教員との連絡会議を実施しており、今後も続けて実施していく。

またインターネットやSNSを活用した広報については、継続して情報発信を行っていく。

なお、学科により多少の隔たりはあるもののイベントの参加者数と受験率には関連があることが分かっている。【図表10】今後もこれまでの取組みを基に来年度は関東1都6県の高等学校635校からさらに対象校を増やし、2,500回の高校訪問を目標として高校教員との信頼関係を強固に構築することを推進する。またイベントについては、全学的なオープンキャンパスとともに学科独自の見学会を継続して年10回以上実施する。それにより参加希望者が参加しやすい機会を創出できると考えている。また、HPや特設サイト、SNS等を用いて本学の情報の取得しやすさを追求し、イベント参加者数の増加、引いては受験率に結びつけることに努め、医療保健学部全体の入学定員を確保する。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員の増加する組織での入学者の見込み数

オープンキャンパス等のイベントへ参加した受験対象者のうち、30~40%程度の高校生が受験に繋がっており、入学率もおおよそ30%以上を保持していることから、継続して学生募集イベントを実施していくことで、同程度以上の受験率と入学率を確保できると考えている。これらの現状を鑑み、学科統合及び再編後の看護学科においては、イベント参加者からの入学率を定員の半数程度と見込んでいる。また、医療保健学科においては、定員の8割以上を見込んでおり、両学科とも入学者確保のためイベント参加者数の増加を図っていく。【図表10】

また、教育連携協定を結ぶ高等学校との連携を継続して保ち学生募集担当者による高校訪問等で高校教員、高校生への本学部を知る機会を増やし入学者確保に繋げることに
より、各校数名程度の入学者数を見込んでいる。

前述の本学部志願者数推移からも看護学科の定員の増加を行っても、継続して定員を
満たせるものと考えている。【図表5,8】

② 競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と収容定員の増加する組織との比較分析、優位性

本学部の立地条件と看護・医療系専門職養成大学であること、また過去に入学した学生
の出身高校所在地から、看護学科については、看護学科を設置する都内26校の大学を、医
療保健学科については、関東1都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）に所在する
医療職養成の私立大学7校を競合校として選定した。

本学部は、看護師国家試験受験資格の他に、専攻別に管理栄養士国家試験受験資格、臨
床検査技師国家試験受験資格、臨床工学技士国家試験受験資格を取得できる。

また、修学支援制度として、成績優秀者を特待生として授業料を免除するスカラシップ
制度を設定している。他にも病院奨学金制度として、卒業後の就職を前提とした、病院が
学生を支援する奨学金制度も設定している。

なお、本学部では、チーム医療の実現に向けて学科の枠を超えて相互に学習することの
できる、学科合同の「医療コラボレーション教育（協働実践演習）」を導入している。チ
ーム医療は、医師、看護職、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、医療情報技師、
薬剤師などの医療の専門職がそれぞれの専門知識を活かし、協働しながらそれぞれの役割
を果たすことであるが、今日、医療の現場ではこうした「チーム医療の充実」が重要なテ
ーマとなっている。同じ学部内に看護師、保健師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学
技士、診療情報管理士養成を行う学科(専攻)があり、他の専門職と協働して優れたチーム
医療を実現できる人材を育成していること、また、開学以来継続してNTT東日本関東病院、
国立病院機構東京医療センター、災害医療センター、地域医療機能推進機構船橋中央病院
等各地域の基幹病院との強い教育連携体制を築いていることは競合校に対しての優位性で
あると言える。

イ 競合校の入学志願動向等

2024年度における私立看護系大学（都内26校）について、大多数の大学が入学定員を満
たしている。【図表11】また、臨床工学専攻についても上記で選定した競合校7校において、
都内の大学はほぼ入学定員を満たしている。【図表12】また、前述のとおり、本看護学科
の志願倍率は10倍を超えていることから、収容定員増加の後も継続して学生確保は可能
であると考えている。また東京都内の看護・医療系大学の入学状況から見ても、入学定員
の確保は可能であると考えられる。

ウ 学科統合及び再編する組織において定員を充足できる根拠等

看護学科において、受験倍率は2021年度13.68、2022年度11.28、2023年度9.69、2024年度9.61、2025年度9.73と競争率を保持している。また、直近の入学者数は2021年度114名、2022年度124名、2023年度115名、2024年度120名、2025年度154名と安定して確保できていることから入学定員を20名増やし120名としても十分に定員を確保できると考えている。【図表5】医療保健学科においては、定員を160名とし、内訳は、管理栄養学専攻68名、臨床検査学専攻、医療情報学専攻、臨床工学専攻の3専攻合計で92名とした。先に高校生の進学需要等を把握するため実施したアンケート結果について、医療保健学科への進学需要は第一志望のみで入学定員 160 人の 0.3 倍、第二志望を含めると入学定員 160 人の 0.8 倍、第三志望以降まで含めると入学定員 160 人の 2.7 倍となる。以上のことから、医療保健学部 医療保健学科に対する一定の進学需要はある。継続して大学全体のオープンキャンパスに加え学科独自の見学会も3月から11月まで毎月開催しイベント集客数を伸ばし、受験率引いては入学率を増加させる。本学の強みである「多様な医療職の育成」を生かし、志望する職業・専攻の企画だけでなく多職種の学びも体験することができる企画を用意することで、職業理解・分野理解の観点から医療系志望者に対し広く集客をおこなう。各専攻に紐づいた職業志望の高校生はもちろん、医療系他職種志望の高校生にもアプローチを行い、医療保健学科各専攻への興味関心、受験へと誘導する。在学生や卒業生にも協力を仰ぎ、少人数教育ならではの教員と学生の距離の近さ、指導の手厚さを知っていただく機会とする。また、初めての方も何度も参加いただいている方も満足を得られるよう毎回プログラムを変更し、魅力度アップを図り、新鮮さを保ちつつ個々の興味・関心に応えられるよう配慮しながら実施する。今後も継続して高校訪問を行い、高校生や高校教員との信頼関係を積み重ねていくことが重要であると考えている。また、インターネット及びSNSを活用した広報も行い高校生や保護者、高校教員を始め世間一般への情報発信を丁寧に行っていく。教育連携事業については、現在の11校との協定を継続しつつ新規開拓に努める。今後も高校教諭と本学教員との協議会を開催し、相互理解を深め受験者獲得を図る。【図表8】入学者選抜に当たっては、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜及び大学入学共通テスト利用入学試験など多様な入試を実施しているが、医療保健学部医療栄養学科及び医療情報学科の志願者の減少や近年の社会の動向も踏まえつつ入試改革を行い、2026年度入学者選抜では、総合型選抜において、アドミッション・ポリシーに共鳴し、かつ各専攻で学ぶことを強く希望する、意欲のある者を選抜することを目的として自己推薦書、課題探究型レポート、面接を実施する。（医療情報学専攻は自己推薦書、面接を実施とする。）一般選抜では、A日程について、競合校との重複を避けること、受験の幅を広げること、何より志願者の一層の獲得を目的として、首都圏で2日間を通して実施する。さらに、大学入学共通テスト利用入学試験では、受験生が受験しやすい科目とするため、引き続き医療情報学専攻の受験科目においては英語を含めて全科目選択科目とし、高得点科目重視方式で実施する。これらの入試改革を継続し、より適切な入学者選抜を実施できるよう努める。これら多角的な面から受験生にアプローチし学生確保に努め、入学定員充足を図る。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

医療保健学部看護学科の学生納付金の変更は行わない。なお、今回新たに設置する医療保健学科臨床工学専攻の学生納付金は、臨床検査学専攻と同等に1,603,610円（4年間の合計 5,514,440円）とした。なお、競合する近隣の私立大学の学納金は、【図表13】「競合する近隣同分野の初年度学生納付金」のとおりである。近隣の同分野を有する7大学（私立大学）の4年間の学納金は平均6,475,087円であり、本学部は平均を下回っていることから、他大学との競争力を十分に維持できる金額である。

③ 先行事例分析

本学において、学科統合及び再編は先行事例がないため該当はないが、前述した学生納付金等の金額設定の理由により、再編後も学納金の変更は行わない予定のため引き続き他大学との学納金面での競争力を維持できるものと考えている。

④ 学生確保に関するアンケート調査の実施

医療保健学部看護学科の収容定員増及び臨床工学専攻の新たな設置に当たり、客観的なデータに基づき学生確保の見通しを検討するため、関東1都6県の高等学校に在籍する2年生を対象にアンケート調査を行った。

アンケート調査の概要およびアンケート調査結果は以下のとおりである。【資料4】

<アンケート調査の概要>

(1)調査目的

医療保健学部改組計画検討のため、本アンケート調査により高校生の進学需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする。

(2)調査対象

医療保健学部看護学科及び医療保健学科(仮称)への進学ターゲット層等を参考に選定した高等学校に在籍する2年生。なお、本調査に際し、調査対象校としてこれまでに入学実績のある高校を事前に訪問し主旨を説明した上、調査に協力の意を得られた198校とした。【図表14】

(3)実施時期

2024年11月1日～2025年1月10日

(4)回収状況

本調査では198校43,018人を対象に調査票を配布し、その結果165校27,887件の調査票を回収することができた。(回収率64.8%)

(5)調査方法

調査票による定量調査。(アンケート調査)

(6)利用調査票

添付アンケート調査票参照。

<アンケート調査の結果>

○看護学科

回答総数 27,887 人のうち 24,641 人が「Q3)高校卒業後の進路」として「大学」を選択

しており、そのうち 21,365 人は「Q4)進学志望設置者」として「私立」を選択している。
さらにそのうちの 1,494 人が、「Q5)進学希望分野」として当該学科の専門分野に関連する「看護学」を選択している。

看護学科

項目	人数
回答者数	27,887
Q3)1 大学	24,641
Q4)3 私立	21,365
Q5)10 看護学	1,494

上記、進学希望分野の合致している回答層 1,494 人のうち、「Q7)医療保健学部 看護学科の受験意向」で「第一志望として受験する」を選択し、かつ、「Q8)医療保健学部 看護学科への進学意向」で「入学する」を選択した人数は 121 人となっている。

Q7) 第一志望として受験する	人数
Q8) 入学する	121
Q8) 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	24
Q8) 入学しない	5
Q8) 無回答・無効回答	0
計	150

また、進学希望分野の合致している回答層 1,494 人のうち、「Q7)医療保健学部 看護学科の受験意向」で「第二志望として受験する」を選択し、かつ、「Q8)医療保健学部 看護学科への進学意向」で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した人数は 109 人、「Q7)医療保健学部 看護学科の受験意向」で「第三志望以降として受験する」を選択し、かつ、「Q8)医療保健学部 看護学科への進学意向」で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した人数は 387 人となっている。

Q7) 第二志望として受験する	人数
Q8) 入学する	32
Q8) 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	109
Q8) 入学しない	3
Q8) 無回答・無効回答	4
計	148

Q7) 第三志望以降として受験する	人数
Q8) 入学する	19
Q8) 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	387
Q8) 入学しない	43
Q8) 無回答・無効回答	6
計	455

医療保健学部看護学科への進学需要は、第一志望のみで入学定員 120 人の 1.0 倍、第二志望を含めると入学定員 120 人の 1.9 倍、第三志望以降まで含めると入学定員 120 人の 5.1 倍となる。

以上のことから、医療保健学部看護学科に対する一定の需要があることが分かる。今後は、継続して当該学科の教育研究内容の特色を広く丁寧に周知していくことにより、進学層の拡大を推し進めていく。

また、オープンキャンパス等のイベントへ参加した受験対象者のうち、およそ 28

～31%程度の高校生が受験に繋がっており、入学率もおおよそ28～30%を保持していることから、継続して学生募集イベントを実施し参加者数を伸ばしていくことで、同程度以上の受験率と入学率を確保できると考えている。【図表10】近年の受験倍率は、令和3年度13.68、令和4年度11.28、令和5年度9.69、令和6年度9.61となっており高い競争率を保持していることから定員を充足できると考えている。

○医療保健学科

回答総数 27,887 人のうち 24,641 人が「Q3)高校卒業後の進路」として「大学」を選択しており、そのうち 21,365 人は「Q4)進学志望設置者」として「私立」を選択している。さらにそのうちの 1,624 人が、「Q5)進学希望分野」として当該新学科の専門分野に関連する「医療保健（管理栄養学、臨床検査学、臨床工学、医療情報学等）」を選択している。

医療保健学科

項目	人数
回答者数	27,887
Q3)1 大学	24,641
Q4)3 私立	21,365
Q5)11 医療保健（管理栄養学、臨床検査学、臨床工学、医療情報学等）	1,624

上記、進学希望分野の合致している回答層 1,624 人のうち、「Q7)医療保健学部 医療保健学科の受験意向」で「第一志望として受験する」を選択し、かつ、「Q8)医療保健学部 医療保健学科への進学意向」で「入学する」を選択した人数は 46 人となっている。

Q7) 第一志望として受験する	人数
Q8) 入学する	※46
Q8) 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	13
Q8) 入学しない	1
Q8) 無回答・無効回答	0
計	60

また、進学希望分野の合致している回答層 1,624 人のうち、「Q7)医療保健学部 医療保健学科の受験意向」で「第二志望として受験する」を選択し、かつ、「Q8)医療保健学部 医療保健学科への進学意向」で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した人数は 78 人、「Q7)医療保健学部 医療保健学科の受験意向」で「第三志望以降として受験する」を選択し、かつ、「Q8)医療保健学部 医療保健学科への進学意向」で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した人数は 311 人となっている。

Q7) 第二志望として受験する	人数
Q8) 入学する	24
Q8) 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	78
Q8) 入学しない	5
Q8) 無回答・無効回答	8
計	115

Q7) 第三志望以降として受験する	人数
Q8) 入学する	9
Q8) 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	311
Q8) 入学しない	46
Q8) 無回答・無効回答	4
計	370

医療保健学部 医療保健学科への進学需要は、第一志望のみで入学定員 160 人の 0.3 倍、

第二志望を含めると入学定員 160 人の 0.8 倍、第三志望以降まで含めると入学定員 160 人の 2.7 倍となる。

以上のことから、医療保健学部 医療保健学科に対する一定の進学需要があることが分かる。今後も継続して当該学科の教育研究内容の特色を広く丁寧に周知していくことにより、進学層の拡大を推し進めていく。

なお、オープンキャンパス等のイベントへ参加した受験対象者のうち、およそ 25~40%程度の高校生が受験に繋がっており、入学率も80%以上と非常に高い水準を保持していることから、継続して学生募集イベントを実施し参加者数を伸ばしていくことで、同程度以上の受験率と入学率を確保し定員充足を達成できると考えている。【図表10】また、近年の受験の傾向として、医療栄養学科の年内に実施している総合型選抜及び学校推薦型選抜の志願者数は、直近5年間の平均でそれぞれ47名及び17名となっており、対して入学者数の平均は42名及び17名となっている。一方で年明けに実施している一般選抜及び共通テスト利用入学試験の志願者は、直近5年間の平均でそれぞれ81名及び60名となっており、対して入学者数の平均は16名及び4名となっている。【別紙2-2】同様に医療情報学科においては、総合型選抜及び学校推薦型選抜の志願者数は、それぞれ37名及び14名となっており、対して入学者数は35名及び14名となっている。一般選抜及び共通テスト利用入学試験の志願者は、それぞれ41名及び23名となっており、対して入学者数は10名及び3名となっている。【別紙2-4】

以上のことから、志望度が高い受験生は、年内で実施される総合型選抜及び学校推薦型選抜を受験し、早期に入学を決定する傾向があり、それに伴い入学率も高いことが分かる。対して、志望度が低い受験生は、年明けの一般選抜及び共通テスト利用入学試験を受験し、他大学との併願により本学より志望度が高い大学に合格すると辞退することから入学率が低いことが分かる。本学では多彩な入試制度を実施しているが、各入試制度及びその結果を十分理解した上、継続して本学に直接触れられる各イベントの参加者を増やし本学への理解を深めてもらうよう努めていくことが重要と考えている。その結果、総合型選抜及び学校推薦型選抜の志願者を伸ばし、その上今回の改組により従来の定員180名から160名に変更していること、アンケートを回答し且つ入学希望者が存在する高校については指定校に加え志願者の選択肢を増やすこと、新設する臨床工学専攻においては他大学でも入学定員を満たしており、本学についてもアンケート結果において志願者が見込めることから、十分に定員を確保することができると考えている。

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

<調査概要>

(1)調査目的

医療保健学部看護学科の収容定員増及び臨床工学専攻の新たな設置に当たり、本アンケート調査により事業所の人材需要等を把握し、改組設置計画の基礎資料とすることを目的とする。

(2)調査対象

医療保健学部看護学科及び医療保健学科(仮称)卒業生の就職先として想定される病院・事業所及び既設学部等の卒業生の就職実績等を参考に選定した病院・事業所。

(3)実施時期

2024 年11 月1 日～2024 年12 月2 日

(4)回収状況

本調査では305 事業所を対象にアンケート調査票を配布し、98 件のアンケートを回収することができた。(回収率32.1%)

(5)調査方法

調査票による定量調査。(アンケート調査)

(6)利用調査票

添付アンケート調査票参照。

<アンケート調査の結果>

○看護学科

看護学科卒業生の採用需要は下記のとおり。

Q9)看護学科 採用需要	採用希望人数内訳 (人)	
採用したい	38事業所→計192人	内、11事業所→未回答
採用を検討したい	17事業所→計64人	内、3事業所→未回答
合計	256人	

実際に採用に至るか否かについては就職希望者個人の人格や能力が大きく影響すると思われるが、ここでは「採用したい」に加えて、「採用を検討したい」までを採用需要として定義する。上記の採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1 事業所当たり1 人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記のとおりとなる。

Q9)看護学科 採用需要	推計採用意向人数内訳 (人)
採用したい 38事業所	38事業所192人+11事業所11人=203人
採用を検討したい 17事業所	17事業所64人+3事業所3人=67人
合計	270人

看護学科卒業生の採用需要は「採用したい」のみで203 人、「採用を検討したい」まで含めると270 人で、「採用したい」が入学定員(120 人)の1.7 倍、「採用を検討したい」まで含めると2.3 倍となり、看護学科卒業生に対する一定の採用需要があるといえる。

○医療保健学科

医療保健学科卒業生の採用需要は下記のとおり。

Q9)医療保健学科 採用需要	採用希望人数内訳 (人)	
採用したい	38事業所→計121人	内、12事業所→未回答
採用を検討したい	18事業所→計38人	内、2事業所→未回答
合計	159人	

実際に採用に至るか否かについては就職希望者個人の人格や能力が大きく影響すると思われるが、ここでは「採用したい」に加えて、「採用を検討したい」までを採用需要として定義する。上記の採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1 事業所当たり1 人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記のとおりとなる。

Q9)医療保健学科 採用需要	推計採用意向人数内訳 (人)
採用したい 38事業所	38事業所121人+12事業所12人=133人
採用を検討したい 18事業所	18事業所38人+2事業所2人=40人
合計	173人

医療保健学科卒業生の採用需要は「採用したい」のみで 133 人、「採用を検討したい」まで含めると 173 人で、「採用したい」が東京医療保健大学 医療保健学部 医療保健学科の入学定員(160 人)の 0.8 倍、「採用を検討したい」まで含めると 1.1 倍となり、東京医療保健大学 医療保健学部 医療保健学科卒業生に対する一定の採用需要があるといえる。

(4) 学科統合及び再編する組織の定員設定の理由

「私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共催事業団）」の調査によると、2020 年から 2023 年の 4 年間で看護学部は 100 学部から 110 学部に増加しているが、入学者数約 1 万人に対し、約 5 万人の志願者数で推移しており、全国的に看護学部が増えた現状にあっても看護職者を志す学生は多い。【資料 3-1,3-2,3-3】

また、本学部の志願動向を見ると、過去 5 年間の志願倍率は減少傾向で推移しているが、2024 年度でも 9.53 倍と高い倍率を確保していることがわかる。【図表5】

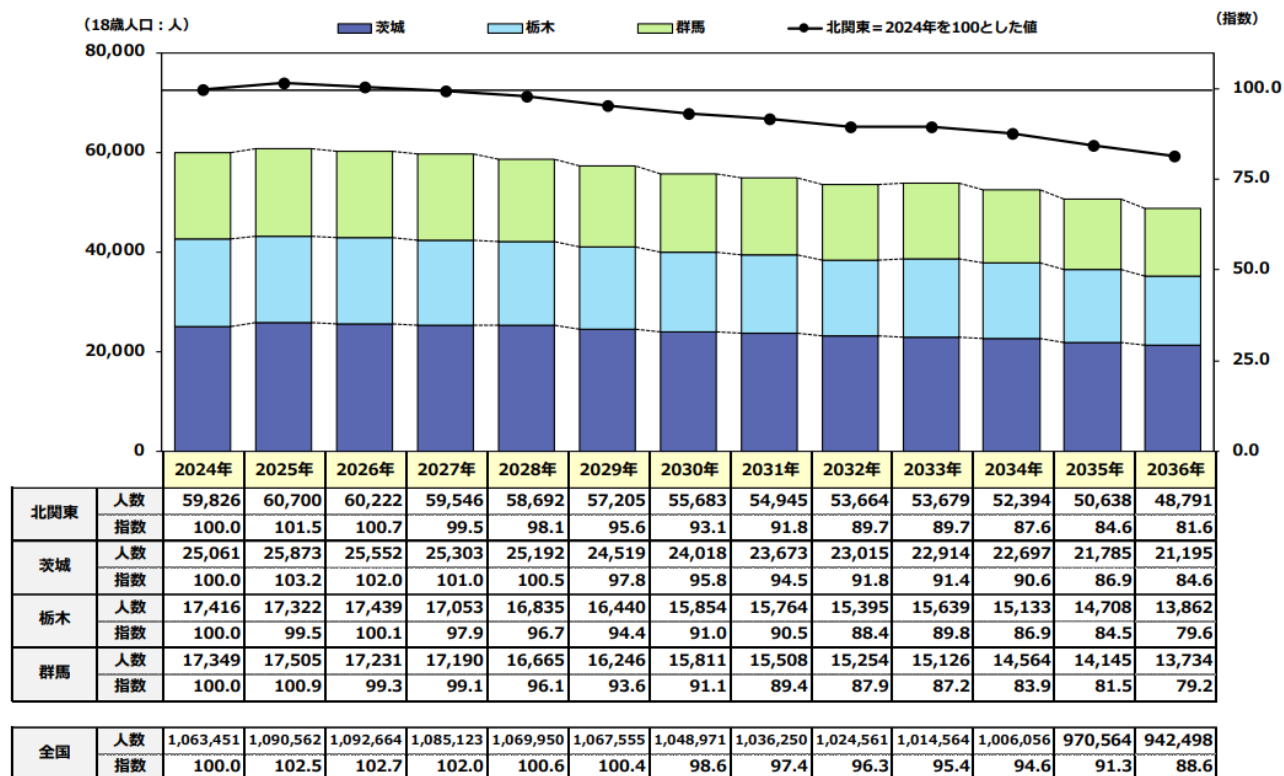
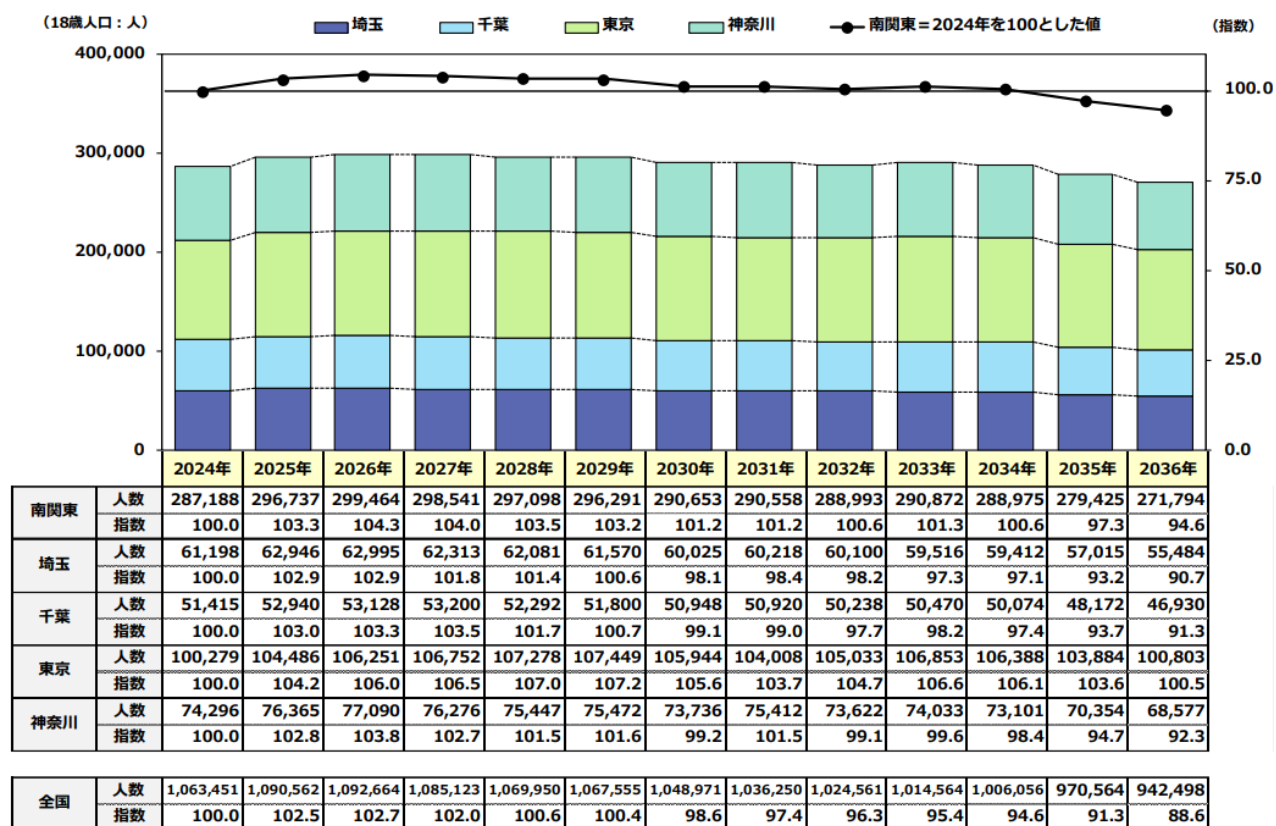
以上、全国的な看護学部の志願状況、本学部の志願状況及び看護師の不足状況を踏まえた上で、教育の質を担保しながら提供可能な本学部の教育体制などを総合的に判断し、本学部看護学科の定員を 120 名と設定する。

また、医療栄養学科及び医療情報学科を統合した医療保健学科を設置し、管理栄養学専攻、臨床検査学専攻、医療情報学専攻とともに今後ますます発展する医療機器の進化に伴う需要、在宅医療で医療機器の使用が増え社会的ニーズが見込まれる臨床工学技士を養成する専攻を設置し、これまで培ってきた医療保健活動のチーム化を踏まえた他の専門職と協調して医療保健活動を遂行できる人材の育成に一層邁進していく。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料目次）

図表 1	18 歳人口の推移	・・・ P2
図表 2	全国看護職求人・求職・求人倍率（2019 年～2023 年）	・・・ P3
図表 3	東京都看護職求人・求職・求人倍率推移（2019 年～2023 年）	・・・ P3
図表 4	都道府県別入学者数（出身高校所在地別）	・・・ P4
図表 5	直近5カ年の医療保健学部3学科の志願・入学者推移	・・・ P5
図表 6	各学部学科の収容定員の充足状況	・・・ P7
図表 7	オープンキャンパス来場者数推移（高校生のみ集計）	・・・ P7
図表 8	教育連携協定校からの入学者数推移（2022 年度～2024 年度入学者数）	・・・ P8
図表 9	入学者選抜（2024 年度入試）	・・・ P8
図表 10	イベントの参加者数と受験率、入学率	・・・ P9
図表 11	2024年度 東京都内の看護系私立大学入学者数、定員充足率の状況	・・・ P10
図表 12	2024年度 競合校7校の入学者数、定員充足率	・・・ P11
図表 13	2024年度 競合校7校の同系統学部学費一覧	・・・ P12
図表 14	調査対象校リスト	・・・ P13
資料 1	総人口・将来推計人口・構成割合	・・・ P15
資料 2-1	総人口・構成割合（令和 4 年 10 月 1 日現在）	・・・ P16
資料 2-2	総人口・構成割合（平成 27 年 10 月 1 日現在）	・・・ P17
資料 3-1	主な学部別の志願者・入学者動向（大学）R2～R3	・・・ P18
資料 3-2	主な学部別の志願者・入学者動向（大学）R3～R4	・・・ P19
資料 3-3	主な学部別の志願者・入学者動向（大学）R4～R5	・・・ P20
資料 4	人材需要に関するアンケート調査等資料一式	・・・ P21
別紙 1	新設組織が置かれる都道府県への入学状況	・・・ P23
別紙 2-1	既設学科等の入学定員の充足状況 医療保健学部看護学科	・・・ P25
別紙 2-2	既設学科等の入学定員の充足状況 医療保健学部医療栄養学科	・・・ P26
別紙 2-3	既設学科等の入学定員の充足状況 医療保健学部医療栄養学科 管理栄養学専攻	・・・ P27
別紙 2-4	既設学科等の入学定員の充足状況 医療保健学部医療情報学科	・・・ P28
別紙 2-5	既設学科等の入学定員の充足状況 東が丘看護学部看護学科	・・・ P29
別紙 2-6	既設学科等の入学定員の充足状況 立川看護学部看護学科	・・・ P30
別紙 2-7	既設学科等の入学定員の充足状況 千葉看護学部看護学科	・・・ P31
別紙 2-8	既設学科等の入学定員の充足状況 和歌山看護学部看護学科	・・・ P32
別紙 3	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績	・・・ P33

(図表1) 18歳人口の推移



【文部科学省 学校基本調査、リクルート進学総研より】

(図表 2) 全国看護職求人・求職・求人倍率 (2019 年～2023 年)

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
求人	158,602	156,263	176,334	176,797	175,964
求職	67,710	76,244	132,938	96,302	79,151
求人倍率	2.34	2.04	1.32	1.83	2.22

出典：「ナースセンター登録データに基づく看護職の求職・求人に関する分析報告書」(2019
～2023) 公益社団法人 日本看護協会 広報部より

(図表 3) 東京都看護職求人・求職・求人倍率推移 (2019 年～2023 年)

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
求人	15,944	15,510	18,956	19,808	18,530
求職	8,654	11,400	24,380	17,674	13,588
求人倍率	1.84	1.36	0.77	1.12	1.36

出典：「ナースセンター登録データに基づく看護職の求職・求人に関する分析報告書」(2019
～2023) 公益社団法人 日本看護協会 広報部より

(図表 4) 都道府県別入学者数（出身高校所在地別）

医療保健学部 看護学科

都道府県	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度		2025 年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
茨城県	3	3%	2	2%	3	3%	2	2%	8	5%
栃木県	—	—	1	1%	—	—	1	1%	2	1%
群馬県	—	—	1	1%	—	—	1	1%	1	1%
埼玉県	9	8%	16	13%	10	9%	11	9%	13	8%
千葉県	6	5%	7	6%	2	2%	7	6%	7	5%
東京都	60	53%	54	44%	58	50%	53	44%	82	53%
神奈川県	27	24%	26	21%	32	28%	28	23%	26	17%
その他	9	8%	17	14%	10	9%	17	14%	15	10%
計	114		124		115		120		154	

医療保健学部 医療栄養学科

都道府県	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度		2025 年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
茨城県	4	4%	3	5%	1	2%	5	6%	—	—
栃木県	1	1%	—	—	—	—	1	1%	2	2%
群馬県	—	—	2	3%	—	—	—	—	—	—
埼玉県	10	10%	8	12%	6	11%	7	9%	7	8%
千葉県	7	7%	6	9%	3	6%	10	13%	10	11%
東京都	47	47%	28	43%	23	43%	34	43%	42	46%
神奈川県	21	21%	6	9%	9	17%	9	11%	14	15%
その他	11	10%	12	18%	12	22%	14	18%	17	18%
計	101		65		54		80		92	

医療保健学部 医療情報学科

都道府県	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度		2025 年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
茨城県	1	1%	1	2%	3	6%	1	3%	1	4%
栃木県	1	1%	—	—	—	—	1	3%	—	—
埼玉県	10	12%	6	11%	9	19%	7	21%	2	8%
千葉県	7	8%	2	4%	4	8%	2	6%	6	23%
東京都	34	40%	25	47%	13	27%	7	21%	4	15%
神奈川県	16	19%	12	23%	7	15%	7	21%	4	15%
その他	16	19%	7	13%	12	25%	8	24%	9	35%
計	85		53		48		33		26	

(図表 5) 直近5カ年の医療保健学部3学科の志願・入学者推移(各年5/1現在)

学部学科	項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
医療保健学部 看護学科	入学定員	100	100	100	100	100
	志願者数	1368	1128	969	961	973
	受験者数	1279	1047	888	885	914
	合格者数	342	337	313	375	410
	入学者数	114	124	115	120	154
	志願倍率	13.68	11.28	9.69	9.61	9.73
	在学生数	447	454	456	469	511
	収容定員充足率	1.11	1.13	1.14	1.17	1.27
	合格者入学歩留率	0.33	0.37	0.37	0.32	0.38
医療保健学部 医療栄養学科	入学定員	100	100	100	100	100
	志願者数	244	178	145	184	269
	受験者数	220	163	131	168	243
	合格者数	207	158	122	150	228
	入学者数	101	65	54	80	92
	志願倍率	2.44	1.78	1.45	1.84	2.69
	在学生数	382	343	288	266	259
	収容定員充足率	0.95	0.85	0.72	0.66	0.64
	合格者入学歩留率	0.49	0.41	0.44	0.53	0.40
医療保健学部 医療栄養学科 管理栄養学専攻	入学定員				68	68
	志願者数				142	118
	受験者数				130	109
	合格者数				115	100
	入学者数				66	52
	志願倍率				2.09	1.74
	在学生数				252	205
	収容定員充足率				0.68	0.61
	合格者入学歩留率				0.57	0.52

(図表 5) 直近 5 カ年の医療保健学部3学科の志願・入学者推

学部学科	項目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
医療保健学部 医療情報学科	入学定員	80	80	80	80	80
	志願者数	149	98	98	64	45
	受験者数	141	88	90	62	44
	合格者数	141	84	88	55	41
	入学者数	85	53	48	33	26
	志願倍率	1.86	1.23	1.23	0.8	0.56
	在学生数	276	280	268	216	154
	収容定員充足率	0.86	0.87	0.83	0.67	0.48
	合格者入学歩留率	0.60	0.63	0.55	0.60	0.63

【5 カ年志願者受験者合格者入学者より】

(図表 6) 各学部学科の収容定員の充足状況

大学・学部等名	入学 定員	収容 定員	学生数 (令和 7 年 5 月 1 日現在)	収容定員 充足率	備考
東京医療保健大学 医療保健学部 (合計)	280	1120	923	0.82	
看護学科	100	400	510	1.27	
医療栄養学科	100	400	259	0.64	
医療情報学科	80	320	154	0.48	
東が丘看護学部 看護学科	100	400	443	1.10	
立川看護学部 看護学科	100	400	475	1.18	
千葉看護学部 看護学科	100	400	448	1.12	
和歌山看護学部 看護学科	100	370	401	1.08	令和 7 月 4 月収容定員変更 変更前収容定員：360 変更後収容定員：400

【各学部学科 収容定員の充足状況】

(図表 7) オープンキャンパス来場者数推移（高校生のみ集計）

	2024 年度入試			
	看護学科	医療栄養学科 管理栄養学専攻	医療栄養学科 臨床検査学専攻	医療情報学科
参加者数	794	241	25	80

	2025 年度入試			
	看護学科	医療栄養学科 管理栄養学専攻	医療栄養学科 臨床検査学専攻	医療情報学科
参加者数	589	207	178	61

【オープンキャンパス来場者数推移（高校生のみ：2024年～2025年）より】

(図表 8) 教育連携協定校からの入学実績

高校名	入学実績
新渡戸文化	1
品川翔英	10
緑ヶ丘女子	5注
藤村女子	6
新島学園中・高	2
藤沢翔陵	4
橘学苑	5
クラーク記念国際	22
袖ヶ浦	5
埼玉栄中学・高	21
相模女子大学	5
合計	86

※：東が丘・立川看護学部、東が丘看護学部入学のみ

【教育連携協定校からの入学実績より】

(図表 9) 入学者選抜

総合型選抜	学校推薦型選抜		一般選抜				大学入学共通 テスト利用入試
9,10,12月	指定校	公募制	A日程	B日程	C日程	特別日程	

【東京医療保健大学医療保健学部 入学者選抜区分より】

(図表 10) イベントの参加者数と受験率、入学率

	2024 年度入試			
	看護学科	医療栄養学科 管理栄養学専攻	医療栄養学科 臨床検査学専攻	医療情報学科
参加者数	794	241	25	80
うち受験対象者数	586	159	14	53
うち受験者数	206	64	6	19
うち入学者数	83	55	6	19
受験率	35.15%	40.25%	42.86%	35.85%
入学率	40.29%	85.94%	100.00%	100.00%

	2025 年度入試			
	看護学科	医療栄養学科 管理栄養学専攻	医療栄養学科 臨床検査学専攻	医療情報学科
参加者等数	589	207	178	61
うち受験対象者数	399	137	100	31
うち受験者数	187	44	21	13
うち入学者数	88	40	17	13
受験率	46.87%	32.12%	21.00%	41.94%
入学率	47.06%	90.91%	80.95%	100.00%

【東京医療保健大学医療保健学部 イベント参加者と受験率、入学率】

(図表 11) 2024 年度 東京都内の看護系私立大学入学者数、定員充足率の状況

大学名	学部	学科	入学 定員	入学者数			定員充 足率
				2022 年度	2023 年度	2024 年度	
東京医療保健大学	医療保健学部	看護学科	100	124	115	120	1.17
三育学院大学	看護学部	看護学科	50	31	29	23	0.63
東京有明医療大学	看護学部	看護学科	50	64	60	60	1.21
東邦大学	看護学部	看護学科	102	108	111	110	1.06
東京医療学院大学	保健医療学部	看護学科	80	85	87	80	1.06
文京学院大学	保健医療技術学部	看護学科	100	106	112	130	1.19
東京純心大学	看護学部	看護学科	80	72	78	90	0.97
東京医科大学	医学部	看護学科	80	84	82	83	1.05
東京女子医科大学	看護学部	看護学科	90	92	91	90	1.00
慶應義塾大学	看護医療学部	看護学科	100	108	111	104	1.08
共立女子大学	看護学部	看護学科	100	104	110	97	1.04
武蔵野大学	看護学部	看護学科	125	129	117	142	0.99
帝京科学大学	医療科学学部	看護学科	80	89	94	95	1.11
帝京平成大学	ヒューマンケア学部	看護学科	129	122	138	132	1.00
杏林大学	保健学部	看護学科	150	157	164	160	1.01
東京工科大学	医療保健学部	看護学科	80	88	83	83	1.02
創価大学	看護学部	看護学科	80	77	78	81	1.00
上智大学	総合人間科学部	看護学科	70	70	70	70	1.00
昭和大学	保健医療学部	看護学科	95	103	101	101	1.07
帝京大学	医療技術学部	看護学科	130	160	143	131	1.03
駒沢女子大学	看護学部	看護学科	80	84	85	74	0.99
東海大学	医学部	看護学科	95	105	92	93	1.00
北里大学	看護学部	看護学科	125	125	136	137	1.03
順天堂大学	医療看護学部	看護学科	220	212	221	221	0.99
日本赤十字看護大学	看護学部	看護学科	130	144	134	152	1.10
東京慈恵会医科大学	医学部	看護学科	60	60	60	60	1.00

【2024 年度 東京都内の看護系私立大学入学者数、定員充足率の状況より】

(図表 12) 2024 年度 競合校7校の入学者数、定員充足率

大学名	学部	学科	入学 定員	入学者数			定員充 足率
				2022 年度	2023 年度	2024 年度	
北里大学	医療衛生学部	医療工学科 臨床工学専攻	45	47	46	47	1.03
順天堂大学	医療科学部	臨床工学科	70	70	71	75	1.00
杏林大学	保健学部	臨床工学科	60	63	60	65	1.01
東京工科大学	医療保健学部	臨床工学科	80	79	85	74	1.00
東海大学	工学部	医工学科	80	82	74	78	0.97
帝京平成大学	健康メディカル学部	医療科学科 臨床工学コース	180(40)	※187	※172	※139	※0.91
埼玉医科大学	保健医療学部	臨床工学科	40	28	24	18	0.63

※学科単位で算出の為、臨床工学コースのみの値が算出不可。()内は臨床工学コースの値。

【2024 年度 競合校7校の入学者数、定員充足率の状況より】

(図表 13) 2024 年度 競合校7校の同系統学部学費一覧

大学名	学部	学科	初年度納付金	4 年間総額
東京医療保健大学	医療保健学部	医療保健学科 臨床工学専攻	¥1,603,610	¥5,514,440
北里大学	医療衛生学部	医療工学科 臨床工学専攻	¥1,800,000	¥7,050,000
順天堂大学	医療科学部	臨床工学科	¥1,750,000	¥7,090,000
杏林大学	保健学部	臨床工学科	¥1,988,370	¥6,938,370
東京工科大学	医療保健学部	臨床工学科	¥1,923,300	¥7,581,300
東海大学	工学部	医工学科	¥1,554,000	¥5,748,200
帝京平成大学	健康メディカル学部	医療科学科 臨床工学コース	¥1,503,300	¥5,403,300
7 大学平均額				¥6,475,087

【各大学ホームページより】

(図表 14) 調査対象校リスト

1	茨城県立藤代高等学校	31	武蔵越生高等学校	61	千葉県立千葉北高等学校	91	安田学園高等学校
2	茨城県立古河第一高等学校	32	東京成徳大学深谷高等学校	62	千葉県立我孫子高等学校	92	駒澤大学高等学校
3	群馬県立高崎北高等学校	33	花咲徳栄高等学校	63	千葉県立君津高等学校	93	日本大学鶴ヶ丘高等学校
4	東京農業大学第二高等学校	34	秋草学園高等学校	64	千葉県立袖ヶ浦高等学校	94	淑徳高等学校
5	共愛学園高等学校	35	国際学院高等学校	65	千葉県立千葉商業高等学校	95	日本大学豊山女子高等学校
6	高崎健康福祉大学高崎高等学校	36	神奈川県立横浜国際高等学校	66	千葉県立四街道高等学校	96	八王子学園八王子高等学校
7	埼玉県立越ヶ谷高等学校	37	神奈川県立麻溝台高等学校	67	千葉県立千城台高等学校	97	拓殖大学第一高等学校
8	埼玉県立杉戸高等学校	38	神奈川県立横浜瀬谷高等学校	68	千葉県立松戸六実高等学校	98	目白研心高等学校
9	埼玉県立浦和北高等学校	39	神奈川県立住吉高等学校	69	千葉県立八千代東高等学校	99	京華女子高等学校
10	埼玉県立大宮光陵高等学校	40	川崎市立橘高等学校	70	習志野市立習志野高等学校	100	東京成徳大学高等学校
11	埼玉県立久喜高等学校	41	横須賀学院高等学校	71	柏市立柏高等学校	101	文教大学付属高等学校
12	埼玉県立草加南高等学校	42	横浜創英高等学校	72	国府台女子学院高等部	102	多摩大学目黒高等学校
13	埼玉県立朝霞西高等学校	43	捜真女学校高等学部	73	昭和学院高等学校	103	佼成学園女子高等学校
14	埼玉県立草加東高等学校	44	相模女子大学高等部	74	千葉英和高等学校	104	帝京高等学校
15	埼玉県立大宮南高等学校	45	横浜創学館高等学校	75	二松学舎大学附属柏高等学校	105	明星高等学校
16	埼玉県立羽生第一高等学校	46	三浦学苑高等学校	76	八千代松陰高等学校	106	国立音楽大学附属高等学校
17	埼玉県立所沢中央高等学校	47	藤沢翔陵高等学校	77	和洋国府台女子高等学校	107	錦城学園高等学校
18	埼玉県立新座総合技術高等学校	48	橘学苑高等学校	78	敬愛学園高等学校	108	麹町学園女子高等学校
19	星野高等学校	49	英理女子学院高等学校	79	翔凜高等学校	109	二松学舎大学附属高等学校
20	栄北高等学校	50	緑ヶ丘女子高等学校	80	日本体育大学柏高等学校	110	品川翔英高等学校
21	細田学園高等学校	51	相洋高等学校	81	西武台千葉高等学校	111	立正大学付属立正高等学校
22	本庄東高等学校	52	立花学園高等学校	82	千葉黎明高等学校	112	トキワ松学園高等学校
23	武南高等学校	53	横浜女学院高等学校	83	東洋高等学校	113	玉川聖学院高等部
24	本庄第一高等学校	54	千葉県立鎌ヶ谷高等学校	84	國學院高等学校	114	和光高等学校
25	山村学園高等学校	55	千葉県立国府台高等学校	85	桐朋女子高等学校	115	東亜学園高等学校
26	山村国際高等学校	56	千葉県立検見川高等学校	86	青稜高等学校	116	工学院大学附属高等学校
27	埼玉栄高等学校	57	千葉県立国分高等学校	87	日本大学櫻丘高等学校	117	八王子実践高等学校
28	西武台高等学校	58	千葉県立千葉西高等学校	88	駒込高等学校	118	啓明学園高等学校
29	叡明高等学校	59	千葉県立柏の葉高等学校	89	順天高等学校	119	正則高等学校
30	浦和学院高等学校	60	千葉県立千葉女子高等学校	90	日本大学第一高等学校	120	帝京八王子高等学校

(図表 14) 調査対象校リスト

121	昭和第一高等学校	151	東京都立墨田川高等学校	181	東京都立杉並総合高等学校
122	東洋女子高等学校	152	東京都立豊島高等学校	182	東京都立竹台高等学校
123	上野学園高等学校	153	東京都立広尾高等学校	183	東京都立千歳丘高等学校
124	北豊島高等学校	154	東京都立深川高等学校	184	東京都立永山高等学校
125	中村高等学校	155	東京都立目黒高等学校	185	東京都立小平西高等学校
126	駒沢学園女子高等学校	156	東京都立調布南高等学校	186	東京都立若葉総合高等学校
127	東京女子学院高等学校	157	東京都立東大和南高等学校	187	東京都立総合工科高等学校
128	神田女学園高等学校	158	東京都立南平高等学校	188	東京都立赤羽北桜高等学校
129	中央学院大学中央高等学校	159	東京都立翔陽高等学校	189	東京都立深沢高等学校
130	貞静学園高等学校	160	東京都立江北高等学校	190	栃木県立宇都宮中央高等学校
131	潤徳女子高等学校	161	東京都立鷺宮高等学校	191	栃木県立佐野東高等学校
132	修徳高等学校	162	東京都立東高等学校	192	神奈川学園高等学校
133	東京実業高等学校	163	東京都立東大和高等学校	193	文化学園大学杉並高等学校
134	日本女子体育大学附属二階堂高等学校	164	東京都立日野高等学校	194	日本工業大学駒場高等学校
135	堀越高等学校	165	東京都立富士森高等学校	195	聖ヨゼフ学園高等学校
136	昭和第一学園高等学校	166	東京都立本所高等学校	196	栃木県立宇都宮南高等学校
137	立川女子高等学校	167	東京都立向丘高等学校	197	東野高等学校
138	文華女子高等学校	168	東京都立武蔵丘高等学校	198	東京都立八王子北高等学校
139	三輪田学園高等学校	169	東京都立成瀬高等学校		
140	和洋九段女子高等学校	170	東京都立晴海総合高等学校		
141	実践女子学園高等学校	171	東京都立青梅総合高等学校		
142	東京女学館高等学校	172	東京都立片倉高等学校		
143	跡見学園高等学校	173	東京都立忍岡高等学校		
144	女子聖学院高等学校	174	東京都立府中東高等学校		
145	田園調布学園高等部	175	東京都立府中西高等学校		
146	東京都立豊多摩高等学校	176	東京都立福生高等学校		
147	東京都立文京高等学校	177	東京都立松原高等学校		
148	東京都立城東高等学校	178	東京都立田無高等学校		
149	東京都立小金井北高等学校	179	東京都立飛鳥高等学校		
150	東京都立江戸川高等学校	180	東京都立つばさ総合高等学校		

第 1－4 表 総人口・将来推計人口・構成割合，年齢 3 区分×年次別

年 次	人 口（単位：千人）				構 成 割 合（％）			
	総 数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総 数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
大正 9 年(1920)	55 963	20 416	32 605	2 941	100.0	36.5	58.3	5.3
14 (1925)	59 737	21 924	34 792	3 021	100.0	36.7	58.2	5.1
昭和 5 年(1930)	64 450	23 579	37 807	3 064	100.0	36.6	58.7	4.8
10 (1935)	69 254	25 545	40 484	3 225	100.0	36.9	58.5	4.7
25 (1950)	83 200	29 430	49 661	4 109	100.0	35.4	59.7	4.9
30 (1955)	89 276	29 798	54 730	4 747	100.0	33.4	61.3	5.3
35 (1960)	93 419	28 067	60 002	5 350	100.0	30.0	64.2	5.7
40 (1965)	98 275	25 166	66 928	6 181	100.0	25.6	68.1	6.3
45 (1970)	103 720	24 823	71 566	7 331	100.0	23.9	69.0	7.1
50 (1975)	111 940	27 232	75 839	8 869	100.0	24.3	67.7	7.9
55 (1980)	117 060	27 524	78 884	10 653	100.0	23.5	67.4	9.1
60 (1985)	121 049	26 042	82 535	12 472	100.0	21.5	68.2	10.3
平成 2 年(1990)	123 611	22 544	86 140	14 928	100.0	18.2	69.7	12.1
7 (1995)	125 570	20 033	87 260	18 277	100.0	16.0	69.5	14.6
12 (2000)	126 926	18 505	86 380	22 041	100.0	14.6	68.1	17.4
17 (2005)	127 768	17 585	84 422	25 761	100.0	13.8	66.1	20.2
22 (2010)	128 057	16 839	81 735	29 484	100.0	13.1	63.8	23.0
27 (2015)	127 095	15 945	77 282	33 868	100.0	12.5	60.8	26.6
令和 2 年(2020)	126 146	15 032	75 088	36 027	100.0	11.9	59.5	28.6
3 (2021)	125 502	14 784	74 504	36 214	100.0	11.8	59.4	28.9
4 (2022)	124 947	14 503	74 208	36 236	100.0	11.6	59.4	29.0
将 来 推 計 人 口								
2025	123 262	13 633	73 101	36 529	100.0	11.1	59.3	29.6
2030	120 116	12 397	70 757	36 962	100.0	10.3	58.9	30.8
2035	116 639	11 691	67 216	37 732	100.0	10.0	57.6	32.3
2040	112 837	11 419	62 133	39 285	100.0	10.1	55.1	34.8
2045	108 801	11 027	58 323	39 451	100.0	10.1	53.6	36.3
2050	104 686	10 406	55 402	38 878	100.0	9.9	52.9	37.1
2055	100 508	9 659	53 070	37 779	100.0	9.6	52.8	37.6
2060	96 148	8 930	50 781	36 437	100.0	9.3	52.8	37.9
2065	91 587	8 360	48 093	35 134	100.0	9.1	52.5	38.4
2070	86 996	7 975	45 350	33 671	100.0	9.2	52.1	38.7

資料：総務省統計局「人口推計」「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口，令和 5 年推計」の中間推計値

注：1）大正 9 年から平成 27 年及び令和 2 年は国勢調査による実績値である。

2）昭和 50 年以降の総数には年齢不詳を含む。

第 1－7 表 総人口・構成割合，年齢 3 区分×都道府県別

令和 4 年（2022）10 月 1 日現在

都道府県	総人口（単位：千人）				構成割合（％）			
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
全 国	124 947	14 503	74 208	36 236	100.0	11.6	59.4	29.0
北 海 道	5 140	530	2 924	1 686	100.0	10.3	56.9	32.8
青 森	1 204	123	663	419	100.0	10.2	55.0	34.8
岩 手	1 181	125	648	408	100.0	10.6	54.9	34.6
宮 城	2 280	258	1 363	659	100.0	11.3	59.8	28.9
秋 田	930	86	484	359	100.0	9.3	52.1	38.6
山 形	1 041	113	566	362	100.0	10.9	54.3	34.8
福 島	1 790	197	1 007	586	100.0	11.0	56.3	32.7
茨 城	2 840	321	1 655	864	100.0	11.3	58.3	30.4
栃 木	1 909	217	1 121	572	100.0	11.4	58.7	29.9
群 馬	1 913	216	1 108	589	100.0	11.3	57.9	30.8
埼 玉	7 337	847	4 483	2 007	100.0	11.5	61.1	27.4
千 葉	6 266	717	3 796	1 753	100.0	11.4	60.6	28.0
東 京	14 038	1 535	9 301	3 202	100.0	10.9	66.3	22.8
神 奈 川	9 232	1 053	5 797	2 383	100.0	11.4	62.8	25.8
新 潟	2 153	235	1 195	722	100.0	10.9	55.5	33.5
富 山	1 017	111	570	335	100.0	10.9	56.1	33.0
石 川	1 118	132	648	338	100.0	11.8	57.9	30.3
福 井	753	92	426	235	100.0	12.2	56.6	31.2
山 梨	802	89	460	252	100.0	11.1	57.4	31.5
長 野	2 020	235	1 129	657	100.0	11.6	55.9	32.5
岐 阜	1 946	231	1 111	604	100.0	11.9	57.1	31.0
静 岡	3 582	417	2 064	1 101	100.0	11.7	57.6	30.7
愛 知	7 495	948	4 628	1 920	100.0	12.6	61.7	25.6
三 重	1 742	204	1 008	531	100.0	11.7	57.9	30.5
滋 賀	1 409	186	845	378	100.0	13.2	60.0	26.8
京 都	2 550	282	1 512	755	100.0	11.1	59.3	29.6
大 阪	8 782	1 002	5 349	2 432	100.0	11.4	60.9	27.7
兵 庫	5 402	644	3 151	1 608	100.0	11.9	58.3	29.8
奈 良	1 306	148	735	423	100.0	11.4	56.3	32.4
和 歌 山	903	101	495	307	100.0	11.2	54.8	34.0
鳥 取	544	66	298	180	100.0	12.2	54.8	33.1
島 根	658	79	350	229	100.0	12.0	53.3	34.7
岡 山	1 862	225	1 063	574	100.0	12.1	57.1	30.8
広 島	2 760	340	1 594	826	100.0	12.3	57.7	29.9
山 口	1 313	147	704	462	100.0	11.2	53.6	35.2
徳 島	704	75	382	246	100.0	10.7	54.3	35.0
香 川	934	110	522	302	100.0	11.8	55.8	32.4
愛 媛	1 306	147	716	443	100.0	11.3	54.8	33.9
高 知	676	72	360	244	100.0	10.6	53.3	36.1
福 岡	5 116	654	3 013	1 449	100.0	12.8	58.9	28.3
佐 賀	801	105	444	251	100.0	13.2	55.4	31.4
長 崎	1 283	158	690	435	100.0	12.3	53.8	33.9
熊 本	1 718	223	943	552	100.0	13.0	54.9	32.1
大 分	1 107	131	600	376	100.0	11.8	54.2	33.9
宮 崎	1 052	136	565	352	100.0	12.9	53.7	33.4
鹿 児 島	1 563	201	838	523	100.0	12.9	53.6	33.5
沖 縄	1 468	240	884	344	100.0	16.3	60.2	23.5

資料：総務省統計局「人口推計（令和 4 年10 月 1 日現在）」

資料 2 - 2

第 1－7 表 総人口・構成割合，年齢 3 区分×都道府県別

平成27年（2015）10月 1 日現在

都道府県	総 人 口（単位：千人）				構 成 割 合（％）			
	総 数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総 数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
全 国	127 095	15 887	76 289	33 465	100.0	12.6	60.7	26.6
北 海 道	5 382	608	3 191	1 558	100.0	11.4	59.6	29.1
青 森	1 308	148	758	391	100.0	11.4	58.4	30.1
岩 手	1 280	151	735	387	100.0	11.9	57.8	30.4
宮 城	2 334	286	1 410	588	100.0	12.5	61.7	25.7
秋 田	1 023	106	565	343	100.0	10.5	55.7	33.8
山 形	1 124	136	639	344	100.0	12.1	57.1	30.8
福 島	1 914	229	1 120	542	100.0	12.1	59.2	28.7
茨 城	2 917	364	1 747	772	100.0	12.6	60.6	26.8
栃 木	1 974	253	1 204	508	100.0	12.9	61.3	25.9
群 馬	1 973	251	1 166	540	100.0	12.8	59.6	27.6
埼 玉	7 267	911	4 507	1 789	100.0	12.6	62.5	24.8
千 葉	6 223	762	3 780	1 584	100.0	12.4	61.7	25.9
東 京	13 515	1 518	8 734	3 006	100.0	11.5	65.9	22.7
神 奈 川	9 126	1 141	5 744	2 158	100.0	12.6	63.5	23.9
新 潟	2 304	276	1 333	685	100.0	12.0	58.1	29.9
富 山	1 066	129	606	323	100.0	12.2	57.3	30.5
石 川	1 154	148	673	317	100.0	13.0	59.1	27.9
福 井	787	103	451	222	100.0	13.3	58.1	28.6
山 梨	835	102	489	235	100.0	12.4	59.2	28.4
長 野	2 099	270	1 187	626	100.0	13.0	57.0	30.1
岐 阜	2 032	267	1 186	568	100.0	13.2	58.7	28.1
静 岡	3 700	478	2 175	1 021	100.0	13.0	59.2	27.8
愛 知	7 483	1 023	4 619	1 761	100.0	13.8	62.4	23.8
三 重	1 816	234	1 062	501	100.0	13.0	59.1	27.9
滋 賀	1 413	203	858	338	100.0	14.5	61.3	24.2
京 都	2 610	314	1 540	703	100.0	12.3	60.2	27.5
大 阪	8 839	1 093	5 342	2 278	100.0	12.5	61.3	26.1
兵 庫	5 535	707	3 280	1 482	100.0	12.9	60.0	27.1
奈 良	1 364	169	797	389	100.0	12.5	58.8	28.7
和 歌 山	964	116	546	296	100.0	12.1	57.0	30.9
鳥 取	573	74	326	169	100.0	12.9	57.3	29.7
島 根	694	86	377	223	100.0	12.6	55.0	32.5
岡 山	1 922	248	1 098	541	100.0	13.1	58.2	28.7
広 島	2 844	376	1 663	774	100.0	13.4	59.1	27.5
山 口	1 405	170	778	448	100.0	12.2	55.7	32.1
徳 島	756	87	428	231	100.0	11.7	57.4	31.0
香 川	976	122	548	286	100.0	12.8	57.3	29.9
愛 媛	1 385	169	776	417	100.0	12.4	57.0	30.6
高 知	728	84	401	237	100.0	11.6	55.5	32.8
福 岡	5 102	676	3 058	1 305	100.0	13.4	60.7	25.9
佐 賀	833	116	483	229	100.0	14.0	58.3	27.7
長 崎	1 377	178	785	405	100.0	13.0	57.4	29.6
熊 本	1 786	241	1 024	511	100.0	13.6	57.6	28.8
大 分	1 166	146	657	352	100.0	12.7	56.9	30.4
宮 崎	1 104	150	623	323	100.0	13.7	56.8	29.5
鹿 児 島	1 648	221	930	480	100.0	13.5	57.0	29.4
沖 縄	1 434	247	892	278	100.0	17.4	62.9	19.6

資料：総務省統計局「人口推計（平成27年10月 1 日現在）」

5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

R2～R3

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

系 統 区 分	集計学部数			入学定員(人)			志願者数(人)			入学者数(人)			入学定員充足率(%)			
	学 部 名	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減	R2年度	R3年度	増減
医学		31	31	0	4,084	4,091	7	108,429	98,563	△ 9,866	4,092	4,099	7	100.20	100.20	0.00
歯学		17	17	0	2,039	2,015	△ 24	9,187	7,564	△ 1,623	1,692	1,528	△ 164	82.98	75.83	△ 7.15
薬学		59	60	1	11,451	11,501	50	82,668	73,580	△ 9,088	10,629	10,191	△ 438	92.82	88.61	△ 4.21
保健系		244	254	10	37,221	38,143	922	200,366	188,155	△ 12,211	37,721	38,130	409	101.34	99.97	△ 1.37
看護学部		100	101	1	9,150	9,203	53	54,346	50,733	△ 3,613	9,406	9,453	47	102.80	102.72	△ 0.08
保健医療学部		35	35	0	6,780	7,050	270	32,529	31,094	△ 1,435	7,121	7,149	28	105.03	101.40	△ 3.63
リハビリテーション学部		12	15	3	1,395	1,705	310	6,943	6,767	△ 176	1,374	1,711	337	98.49	100.35	1.86
医療保健学部		8	8	0	1,815	1,820	5	9,269	8,163	△ 1,106	1,889	1,887	△ 2	104.08	103.68	△ 0.40
保健科学部		5	5	0	1,130	1,070	△ 60	5,780	5,409	△ 371	1,246	1,196	△ 50	110.27	111.78	1.51
医療学部		5	5	0	470	470	0	1,020	1,009	△ 11	481	433	△ 48	102.34	92.13	△ 10.21
栄養学部		4	5	1	897	977	80	3,734	3,395	△ 339	816	834	18	90.97	85.36	△ 5.61
医療技術学部		4	5	1	1,655	1,735	80	11,472	10,575	△ 897	1,552	1,586	34	93.78	91.41	△ 2.37
医療科学部		4	5	1	840	854	14	4,391	4,817	426	866	876	10	103.10	102.58	△ 0.52
看護福祉学部		3	3	0	600	600	0	2,644	2,426	△ 218	570	579	9	95.00	96.50	1.50
保健福祉学部		3	3	0	715	715	0	1,610	1,405	△ 205	648	616	△ 32	90.63	86.15	△ 4.48
医療福祉学部		3	3	0	846	716	△ 130	1,495	1,245	△ 250	730	629	△ 101	86.29	87.85	1.56
健康医療科学部		3	3	0	590	590	0	4,158	3,750	△ 408	574	581	7	97.29	98.47	1.18
看護栄養学部		3	3	0	455	455	0	1,582	1,575	△ 7	445	490	45	97.80	107.69	9.89
保健看護学部		3	3	0	330	330	0	2,652	2,232	△ 420	349	360	11	105.76	109.09	3.33
ヒューマンケア学部		3	3	0	657	657	0	5,277	4,826	△ 451	668	643	△ 25	101.67	97.87	△ 3.80
リハビリテーション学部 (専門職)		3	3	0	430	430	0	351	542	191	270	343	73	62.79	79.77	16.98
その他		43	46	3	8,466	8,766	300	51,113	48,192	△ 2,921	8,716	8,764	48	102.95	99.98	△ 2.97
理・工学系		157	162	5	62,107	62,626	519	842,140	751,179	△ 90,961	63,949	63,192	△ 757	102.97	100.90	△ 2.07
工学部		48	51	3	22,010	22,649	639	265,197	238,695	△ 26,502	23,507	23,120	△ 387	106.80	102.08	△ 4.72
理工学部		30	29	△ 1	18,581	18,040	△ 541	292,296	253,201	△ 39,095	18,496	18,055	△ 441	99.54	100.08	0.54
理学部		13	14	1	4,354	4,534	180	49,849	46,650	△ 3,199	4,255	4,361	106	97.73	96.18	△ 1.55
建築学部		8	9	1	1,655	1,787	132	28,648	28,424	△ 224	1,806	1,883	77	109.12	105.37	△ 3.75
生命科学部		8	8	0	1,911	1,867	△ 44	29,165	23,380	△ 5,785	1,857	1,890	33	97.17	101.23	4.06
情報科学部		4	4	0	1,046	1,090	44	27,781	29,130	1,349	1,136	1,237	101	108.60	113.49	4.89
デザイン工学部		4	4	0	1,070	1,089	19	15,974	15,550	△ 424	1,104	1,100	△ 4	103.18	101.01	△ 2.17
その他		42	43	1	11,480	11,570	90	133,230	116,149	△ 17,081	11,788	11,546	△ 242	102.68	99.79	△ 2.89
農学系		23	25	2	8,784	9,042	258	87,982	78,039	△ 9,943	8,973	8,717	△ 256	102.15	96.41	△ 5.74
農学部		10	10	0	3,671	3,661	△ 10	52,530	45,327	△ 7,203	3,562	3,472	△ 90	97.03	94.84	△ 2.19
獣医学部		4	4	0	970	970	0	11,910	10,635	△ 1,275	1,037	961	△ 76	106.91	99.07	△ 7.84
その他		9	11	2	4,143	4,411	268	23,542	22,077	△ 1,465	4,374	4,284	△ 90	105.58	97.12	△ 8.46
人文科学系		245	245	0	68,104	68,184	80	608,854	520,901	△ 87,953	70,067	67,710	△ 2,357	102.88	99.30	△ 3.58
文学部		83	83	0	32,703	32,768	65	318,865	271,768	△ 47,097	33,471	32,676	△ 795	102.35	99.72	△ 2.63
人文学部		32	31	△ 1	6,765	6,470	△ 295	45,370	41,377	△ 3,993	7,076	6,473	△ 603	104.60	100.05	△ 4.55
外国語学部		29	28	△ 1	9,833	9,706	△ 127	91,083	73,790	△ 17,293	10,098	9,646	△ 452	102.70	99.38	△ 3.32
心理学部		21	22	1	2,968	3,053	85	29,548	24,990	△ 4,558	3,098	3,146	48	104.38	103.05	△ 1.33
人間学部		11	11	0	2,260	2,270	10	9,273	6,946	△ 2,327	2,302	2,144	△ 158	101.86	94.45	△ 7.41
国際文化学部		10	11	1	1,735	1,990	255	13,868	11,892	△ 1,976	1,782	1,827	45	102.71	91.81	△ 10.90
神学部		6	6	0	181	181	0	1,030	728	△ 302	177	164	△ 13	97.79	90.61	△ 7.18
仏教学部		5	5	0	487	487	0	2,167	1,803	△ 364	480	458	△ 22	98.56	94.05	△ 4.51
人間関係学部		5	5	0	1,060	1,045	△ 15	3,792	3,103	△ 689	1,217	1,142	△ 75	114.81	109.28	△ 5.53
グローバル・コミュニ ケーション学部（群）		5	5	0	888	888	0	8,006	5,978	△ 2,028	873	788	△ 85	98.31	88.74	△ 9.57
文芸学部		3	3	0	1,240	1,240	0	19,713	19,560	△ 153	1,325	1,343	18	106.85	108.31	1.46
現代文化学部		3	3	0	445	445	0	1,262	1,111	△ 151	436	382	△ 54	97.98	85.84	△ 12.14
その他		32	32	0	7,539	7,641	102	64,877	57,855	△ 7,022	7,732	7,521	△ 211	102.56	98.43	△ 4.13
社会科学系		520	526	6	170,182	171,506	1,324	1,576,350	1,379,159	△ 197,191	176,402	174,183	△ 2,219	103.65	101.56	△ 2.09
経済学部		91	91	0	38,695	39,013	318	391,925	350,241	△ 41,684	39,733	39,567	△ 166	102.68	101.42	△ 1.26
経営学部		88	89	1	27,861	27,966	105	292,165	252,916	△ 39,249	29,329	28,882	△ 447	105.27	103.28	△ 1.99
法学部		79	79	0	30,803	30,870	67	276,032	243,558	△ 32,474	31,574	31,638	64	102.50	102.49	△ 0.01
商学部		29	29	0	14,296	14,341	45	132,978	117,896	△ 15,082	14,638	14,314	△ 324	102.39	99.81	△ 2.58
社会学部		24	26	2	8,313	8,580	267	96,310	89,572	△ 6,738	8,410	8,652	242	101.17	100.84	△ 0.33
社会福祉学部		21	21	0	3,684	3,649	△ 35	11,735	10,181	△ 1,554	3,811	3,548	△ 263	103.45	97.23	△ 6.22
人間社会学部		13	13	0	3,570	3,570	0	17,964	14,837	△ 3,127	3,764	3,522	△ 242	105.43	98.66	△ 6.77
現代社会学部		12	13	1	2,741	2,931	190	28,055	21,295	△ 6,760	2,805	2,983	178	102.33	101.77	△ 0.56
総合政策学部		13	12	△ 1	3,005	2,840	△ 165	25,450	21,761	△ 3,689	3,096	2,839	△ 257	103.03	99.96	△ 3.07
経営情報学部		10	10	0	2,102	2,122	20	8,373	7,510	△ 863	2,300	2,283	△ 17	109.42	107.59	△ 1.83

※日本私立学校振興・共済事業団 私学振興事業本部

私立大学・短期大学等入学志願動向：令和3年度～令和5年度

主な学部別の志願者：入学者動向（大学）より

※次のページに続く

5. 主な学部別の志願者・入学者動向 (大学)

R3~R4

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

系 統 区 分	集計学部数			入学定員(人)			志願者数(人)			入学者数(人)			入学定員充足率(%)		
	学部名	R3年度	R4年度	増減	R3年度	R4年度	増減	R3年度	R4年度	増減	R3年度	R4年度	増減	R3年度	R4年度
医学		31	31	0	4,091	4,125	34	98,563	97,957	△ 606	4,099	4,146	47	100.20	100.51
歯学		17	17	0	2,015	2,015	0	7,564	7,773	209	1,528	1,534	6	75.83	76.13
薬学		60	60	0	11,501	11,391	△ 110	73,580	76,635	3,055	10,191	10,798	607	88.61	94.79
保健系		254	266	12	38,143	39,789	1,646	188,155	184,961	△ 3,194	38,130	39,444	1,314	99.97	99.13
看護学部		101	107	6	9,203	9,723	520	50,733	51,399	666	9,453	9,894	441	102.72	101.76
保健医療学部		35	34	△ 1	7,050	6,700	△ 350	31,094	26,850	△ 4,244	7,149	6,623	△ 526	101.40	98.85
リハビリテーション学部		15	16	1	1,705	1,845	140	6,767	6,811	44	1,711	1,794	83	100.35	97.24
医療保健学部		8	8	0	1,820	1,820	0	8,163	7,124	△ 1,039	1,887	1,756	△ 131	103.68	96.48
医療技術学部		5	7	2	1,735	2,185	450	10,575	12,788	2,213	1,586	2,196	610	91.41	100.50
医療科学部		5	7	2	854	1,180	326	4,817	5,540	723	876	1,147	271	102.58	97.20
栄養学部		5	6	1	977	1,257	280	3,395	5,317	1,922	834	1,130	296	85.36	89.90
医療学部		5	5	0	470	470	0	1,009	901	△ 108	433	437	4	92.13	92.98
保健科学部		5	4	△ 1	1,070	910	△ 160	5,409	3,382	△ 2,027	1,196	1,016	△ 180	111.78	111.65
リハビリテーション学部(専門職)		3	4	1	430	510	80	542	602	60	343	448	105	79.77	87.84
看護福祉学部		3	3	0	600	600	0	2,426	2,446	20	579	563	△ 16	96.50	93.83
保健福祉学部		3	3	0	715	715	0	1,405	1,537	132	616	618	2	86.15	86.43
医療福祉学部		3	3	0	716	716	0	1,245	1,000	△ 245	629	524	△ 105	87.85	73.18
健康医療科学部		3	3	0	590	550	△ 40	3,750	3,042	△ 708	581	570	△ 11	98.47	103.64
看護栄養学部		3	3	0	455	455	0	1,575	1,372	△ 203	490	489	△ 1	107.69	107.47
保健看護学部		3	3	0	330	340	10	2,232	1,977	△ 255	360	368	8	109.09	108.24
ヒューマンケア学部		3	3	0	657	657	0	4,826	5,527	701	643	680	37	97.87	103.50
その他		46	47	1	8,766	9,156	390	48,192	47,346	△ 846	8,764	9,191	427	99.98	100.38
理・工学系		162	166	4	62,626	62,294	△ 332	751,179	777,971	26,792	63,192	65,001	1,809	100.90	104.35
工学部		51	51	0	22,649	21,834	△ 815	238,695	243,538	4,843	23,120	22,887	△ 233	102.08	104.82
理工学部		29	29	0	18,040	17,870	△ 170	253,201	252,100	△ 1,101	18,055	18,621	566	100.08	104.20
理学部		14	14	0	4,534	4,364	△ 170	46,650	48,211	1,561	4,361	4,415	54	96.18	101.17
建築学部		9	11	2	1,787	2,137	350	28,424	32,233	3,809	1,883	2,389	506	105.37	111.79
生命科学部		8	9	1	1,867	2,032	165	23,380	25,634	2,254	1,890	2,091	201	101.23	102.90
情報科学部		4	4	0	1,090	1,100	10	29,130	35,040	5,910	1,237	1,165	△ 72	113.49	105.91
デザイン工学部		4	4	0	1,089	1,089	0	15,550	16,431	881	1,100	1,118	18	101.01	102.66
工科学部(専門職)		3	3	0	480	480	0	1,179	1,109	△ 70	508	553	45	105.83	115.21
その他		40	41	1	11,090	11,388	298	114,970	123,675	8,705	11,038	11,762	724	99.53	103.28
農学系		25	25	0	9,042	8,875	△ 167	78,039	79,742	1,703	8,717	9,110	393	96.41	102.65
農学部		10	10	0	3,661	3,661	0	45,327	46,938	1,611	3,472	3,727	255	94.84	101.80
獣医学部		4	4	0	970	970	0	10,635	10,936	301	961	1,033	72	99.07	106.49
その他		11	11	0	4,411	4,244	△ 167	22,077	21,868	△ 209	4,284	4,350	66	97.12	102.50
人文科学系		245	250	5	68,184	68,634	450	520,901	498,562	△ 22,339	67,710	67,898	188	99.30	98.93
文学部		83	84	1	32,768	32,856	88	271,768	270,070	△ 1,698	32,676	33,262	586	99.72	101.24
人文学部		31	32	1	6,470	6,605	135	41,377	37,552	△ 3,825	6,473	6,454	△ 19	100.05	97.71
外国語学部		28	27	△ 1	9,706	9,588	△ 118	73,790	59,645	△ 14,145	9,646	9,455	△ 191	99.38	98.61
心理学部		22	25	3	3,053	3,528	475	24,990	28,259	3,269	3,146	3,740	594	103.05	106.01
国際文化学部		11	11	0	1,990	1,950	△ 40	11,892	11,883	△ 9	1,827	1,720	△ 107	91.81	88.21
人間学部		11	11	0	2,270	2,260	△ 10	6,946	6,217	△ 729	2,144	1,894	△ 250	94.45	83.81
神学部		6	6	0	181	181	0	728	800	72	164	174	10	90.61	96.13
仏教学部		5	5	0	487	487	0	1,803	1,643	△ 160	458	458	0	94.05	94.05
人間関係学部		5	5	0	1,045	1,045	0	3,103	3,151	48	1,142	1,009	△ 133	109.28	96.56
グローバル・コミュニケーション学部(群)		5	5	0	888	888	0	5,978	4,943	△ 1,035	788	758	△ 30	88.74	85.36
文芸学部		3	3	0	1,240	1,240	0	19,560	19,655	95	1,343	1,334	△ 9	108.31	107.58
現代文化学部		3	3	0	445	425	△ 20	1,111	892	△ 219	382	346	△ 36	85.84	81.41
その他		32	33	1	7,641	7,581	△ 60	57,855	53,852	△ 4,003	7,521	7,294	△ 227	98.43	96.21
社会科学系		526	528	2	171,506	171,944	438	1,379,159	1,379,719	560	174,183	176,636	2,453	101.56	102.73
経済学部		91	90	△ 1	39,013	38,782	△ 231	350,241	342,042	△ 8,199	39,567	40,180	613	101.42	103.60
経営学部		89	88	△ 1	27,966	27,806	△ 160	252,916	248,941	△ 3,975	28,882	29,136	254	103.28	104.78
法学部		79	79	0	30,870	30,800	△ 70	243,558	258,672	15,114	31,638	32,380	742	102.49	105.13
商学部		29	29	0	14,341	14,421	80	117,896	110,369	△ 7,527	14,314	15,122	808	99.81	104.86
社会学部		26	26	0	8,580	8,564	△ 16	89,572	87,838	△ 1,734	8,652	8,787	135	100.84	102.60
社会福祉学部		21	21	0	3,649	3,649	0	10,181	9,332	△ 849	3,548	3,132	△ 416	97.23	85.83
人間社会学部		13	13	0	3,570	3,570	0	14,837	13,227	△ 1,610	3,522	3,251	△ 271	98.66	91.06
現代社会学部		13	13	0	2,931	2,931	0	21,295	19,933	△ 1,362	2,983	2,979	△ 4	101.77	101.64
総合政策学部		12	12	0	2,840	2,840	0	21,761	20,157	△ 1,604	2,839	3,048	209	99.96	107.32
経営情報学部		10	10	0	2,122	2,122	0	7,510	5,873	△ 1,637	2,283	2,133	△ 150	107.59	100.52

※次のページに続く

5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

R4～R5

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

系 統 区 分 学 部 名	集計学部数			入学定員(人)			志願者数(人)			入学者数(人)			入学定員充足率(%)		
	R4年度	R5年度	増減	R4年度	R5年度	増減	R4年度	R5年度	増減	R4年度	R5年度	増減	R4年度	R5年度	増減
医学	31	31	0	4,125	4,153	28	97,957	102,448	4,491	4,146	4,171	25	100.51	100.43	△ 0.08
歯学	17	17	0	2,015	1,995	△ 20	7,773	7,423	△ 350	1,534	1,566	32	76.13	78.50	2.37
薬学	60	60	0	11,391	11,276	△ 115	76,635	74,627	△ 2,008	10,798	10,674	△ 124	94.79	94.66	△ 0.13
保健系	266	272	6	39,729	40,720	991	184,961	171,927	△ 13,034	39,444	39,414	△ 30	99.28	96.79	△ 2.49
看護学部	107	110	3	9,723	9,978	255	51,399	48,896	△ 2,503	9,894	9,900	6	101.76	99.22	△ 2.54
保健医療学部	34	35	1	6,700	6,954	254	26,850	24,931	△ 1,919	6,623	6,648	25	98.85	95.60	△ 3.25
リハビリテーション学部	16	16	0	1,845	1,885	40	6,811	5,986	△ 825	1,794	1,799	5	97.24	95.44	△ 1.80
医療保健学部	8	8	0	1,820	1,900	80	7,124	6,715	△ 409	1,756	1,709	△ 47	96.48	89.95	△ 6.53
医療技術学部	7	8	1	2,125	2,245	120	12,788	12,641	△ 147	2,196	2,241	45	103.34	99.82	△ 3.52
医療科学部	7	7	0	1,180	1,180	0	5,540	5,162	△ 378	1,147	1,053	△ 94	97.20	89.24	△ 7.96
栄養学部	6	7	1	1,257	1,337	80	5,317	4,233	△ 1,084	1,130	1,258	128	89.90	94.09	4.19
医療学部	5	5	0	470	510	40	901	871	△ 30	437	419	△ 18	92.98	82.16	△ 10.82
保健科学部	4	4	0	910	910	0	3,382	3,023	△ 359	1,016	1,035	19	111.65	113.74	2.09
リハビリテーション学部（専門職）	4	4	0	510	510	0	602	542	△ 60	448	416	△ 32	87.84	81.57	△ 6.27
看護福祉学部	3	3	0	600	600	0	2,446	2,225	△ 221	563	522	△ 41	93.83	87.00	△ 6.83
医療福祉学部	3	3	0	716	716	0	1,000	950	△ 50	524	450	△ 74	73.18	62.85	△ 10.33
健康医療科学部	3	3	0	550	550	0	3,042	2,901	△ 141	570	558	△ 12	103.64	101.45	△ 2.19
看護栄養学部	3	3	0	455	455	0	1,372	1,380	8	489	481	△ 8	107.47	105.71	△ 1.76
保健看護学部	3	3	0	340	340	0	1,977	1,886	△ 91	368	370	2	108.24	108.82	0.58
ヒューマンケア学部	3	3	0	657	657	0	5,527	4,368	△ 1,159	680	682	2	103.50	103.81	0.31
総合リハビリテーション学部	3	3	0	460	460	0	2,415	2,528	113	469	459	△ 10	101.96	99.78	△ 2.18
その他	47	47	0	9,411	9,533	122	46,468	42,689	△ 3,779	9,340	9,414	74	99.25	98.75	△ 0.50
理・工学系	166	172	6	62,294	60,899	△ 1,395	777,971	745,078	△ 32,893	65,001	62,044	△ 2,957	104.35	101.88	△ 2.47
工学部	51	51	0	21,834	21,069	△ 765	243,538	226,594	△ 16,944	22,887	21,098	△ 1,789	104.82	100.14	△ 4.68
理工学部	29	29	0	17,870	16,890	△ 980	252,100	237,957	△ 14,143	18,621	17,539	△ 1,082	104.20	103.84	△ 0.36
理学部	14	14	0	4,364	4,104	△ 260	48,211	45,574	△ 2,637	4,415	4,120	△ 295	101.17	100.39	△ 0.78
建築学部	11	11	0	2,137	2,137	0	32,233	28,970	△ 3,263	2,389	2,308	△ 81	111.79	108.00	△ 3.79
生命科学部	9	9	0	2,032	2,042	10	25,634	28,171	2,537	2,091	2,134	43	102.90	104.51	1.61
情報科学部	4	4	0	1,100	1,100	0	35,040	34,286	△ 754	1,165	1,231	66	105.91	111.91	6.00
デザイン工学部	4	4	0	1,089	1,089	0	16,431	15,852	△ 579	1,118	1,114	△ 4	102.66	102.30	△ 0.36
情報工学部	3	3	0	735	735	0	14,383	13,216	△ 1,167	795	810	15	108.16	110.20	2.04
工科学部（専門職）	3	3	0	480	480	0	1,109	1,344	235	553	525	△ 28	115.21	109.38	△ 5.83
その他	38	44	6	10,653	11,253	600	109,292	113,114	3,822	10,967	11,165	198	102.95	99.22	△ 3.73
農学系	25	25	0	8,875	8,850	△ 25	79,742	82,069	2,327	9,110	9,144	34	102.65	103.32	0.67
農学部	10	10	0	3,661	3,636	△ 25	46,938	47,034	96	3,727	3,757	30	101.80	103.33	1.53
獣医学部	4	4	0	970	970	0	10,936	12,536	1,600	1,033	1,025	△ 8	106.49	105.67	△ 0.82
その他	11	11	0	4,244	4,244	0	21,868	22,499	631	4,350	4,362	12	102.50	102.78	0.28
人文科学系	250	251	1	68,634	68,526	△ 108	498,558	474,386	△ 24,172	67,898	65,979	△ 1,919	98.93	96.28	△ 2.65
文学部	84	84	0	32,856	32,566	△ 290	270,070	254,016	△ 16,054	33,262	31,600	△ 1,662	101.24	97.03	△ 4.21
文学部	32	32	0	6,605	6,720	115	37,548	33,371	△ 4,177	6,454	6,415	△ 39	97.71	95.46	△ 2.25
外国語学部	27	27	0	9,588	9,533	△ 55	59,645	57,251	△ 2,394	9,455	9,212	△ 243	98.61	96.63	△ 1.98
心理学部	25	26	1	3,528	3,783	255	28,259	32,716	4,457	3,740	3,942	202	106.01	104.20	△ 1.81
国際文化学部	11	12	1	1,950	2,061	111	11,883	11,590	△ 293	1,720	1,910	190	88.21	92.67	4.46
人間学部	11	11	0	2,260	2,250	△ 10	6,217	5,679	△ 538	1,894	1,884	△ 10	83.81	83.73	△ 0.08
神学部	6	6	0	181	191	10	800	843	43	174	173	△ 1	96.13	90.58	△ 5.55
仏教学部	5	5	0	487	493	6	1,643	1,512	△ 131	458	406	△ 52	94.05	82.35	△ 11.70
人間関係学部	5	5	0	1,045	1,045	0	3,151	2,560	△ 591	1,009	945	△ 64	96.56	90.43	△ 6.13
グローバル・コミュニケーション学部（群）	5	5	0	888	858	△ 30	4,943	4,668	△ 275	758	808	50	85.36	94.17	8.81
文芸学部	3	3	0	1,240	1,240	0	19,655	19,140	△ 515	1,334	1,281	△ 53	107.58	103.31	△ 4.27
その他	36	35	△ 1	8,006	7,786	△ 220	54,744	51,040	△ 3,704	7,640	7,403	△ 237	95.43	95.08	△ 0.35
社会科学系	528	541	13	171,944	174,614	2,670	1,379,714	1,355,137	△ 24,577	176,631	179,337	2,706	102.73	102.70	△ 0.03
経済学部	90	89	△ 1	38,782	38,546	△ 236	342,042	345,052	3,010	40,180	40,624	444	103.60	105.39	1.79
経営学部	88	89	1	27,806	28,334	528	248,941	249,399	458	29,136	30,190	1,054	104.78	106.55	1.77
法学部	79	80	1	30,800	31,087	287	258,672	236,821	△ 21,851	32,380	32,066	△ 314	105.13	103.15	△ 1.98
商学部	29	29	0	14,421	14,421	0	110,369	114,493	4,124	15,122	14,931	△ 191	104.86	103.54	△ 1.32
社会学部	26	27	1	8,564	8,519	△ 45	87,838	83,754	△ 4,084	8,787	8,616	△ 171	102.60	101.14	△ 1.46
社会福祉学部	21	20	△ 1	3,649	3,410	△ 239	9,332	7,234	△ 2,098	3,132	2,737	△ 395	85.83	80.26	△ 5.57
現代社会学部	13	14	1	2,931	3,081	150	19,933	22,979	3,046	2,979	3,107	128	101.64	100.84	△ 0.80
情報学部	10	14	4	2,410	3,285	875	37,270	38,060	790	2,689	3,724	1,035	111.58	113.36	1.78
人間社会学部	13	13	0	3,570	3,474	△ 96	13,227	11,467	△ 1,760	3,251	3,164	△ 87	91.06	91.08	0.02
総合政策学部	12	12	0	2,840	2,840	0	20,157	21,926	1,769	3,048	2,877	△ 171	107.32	101.30	△ 6.02



アドミッションポリシー／医療保健学部 入学受け入れの方針

医療保健学部においては、本学の建学の精神及び本学部の教育研究の目的を理解し、以下のような学生を求めます。

1. 医療保健分野への関心が高く、学部に対する熱意を有している人
2. 医療保健に関わる者として、生命を尊重し他者を思いやる心を有している人
3. 多様な人々を尊重し、偏見を以て意思疎通を図り、それらの人々と協働・連携することができる人
4. 健康に関わる社会課題に対応できる専門知識や技術を身につけるための基礎学力を有している人
5. 様々な課題に関心・興味を示し、科学的根拠に基づいて課題の解決に取り組むことができる人

学生納付金について

医療保健学部 医療保健学科 初年度学生納付金				
大学名	学部・学科名	入学定員	年 限	初年度納付金
東京医療保健大学	医療保健学部 医療保健学科	180 名	4 年	1,603,610 円

※初年度は2025年度学生から適用です。

総合する近畿圏分野の初年度学生納付金				
大学名	学部・学科・専攻名	入学定員	年 限	初年度納付金
立命館大学	医療衛生学部 医療工学科 臨床工学専攻	45 名	4 年	1,800,000 円
近畿大学	医療科学部 臨床工学科	70 名	4 年	1,750,000 円
吉村大学	保健学部 臨床工学科	60 名	4 年	1,988,370 円
東京工科大学	医療保健学部 臨床工学科	80 名	4 年	1,983,300 円
東海大学	工学部 臨床工学科	80 名	4 年	1,854,000 円
帝京平成大学	健康メディカル学部 医療科学科 臨床工学コース	40 名	4 年	1,603,300 円
埼玉医科大学	保健医療学部 臨床工学科	40 名	4 年	1,848,370 円

※1. 別途、特別奨励金、奨励金、学費減免制度、奨学金制度、奨励金の適用あり。
※2. 入学定員は2025年度学生から適用です。

交通アクセス 【世田谷キャンパス・医療保健学部 医療保健学科 〒154-8568 東京都世田谷区世田谷3-11-3】



世田谷駅 徒歩10分
世田谷駅 徒歩10分
世田谷駅 徒歩10分
世田谷駅 徒歩10分
世田谷駅 徒歩10分
世田谷駅 徒歩10分
世田谷駅 徒歩10分
世田谷駅 徒歩10分
世田谷駅 徒歩10分
世田谷駅 徒歩10分

お問い合わせ

東京医療保健大学 入試広報部
〒154-8568 東京都世田谷区世田谷3-11-3

TEL : 03-5779-5071
e-mail : nyushi@thou.ac.jp
URL : https://www.thou.ac.jp





多彩な医療人を育成する大学へ



東京医療保健大学
医療保健学部 医療保健学科
2026(令和8)年4月 新学科開設予定
(構想中)



東京医療保健大学
TOKYO HEALTH CARE UNIVERSITY

※学部・専攻の名称、定員等の詳細内容は現時点での計画であり、変更となる可能性があります。



医療保健学科の理念

医療保健学部医療保健学科においては「社会や医療保健の高度化を促す、多様なニーズに対応できる医療保健専門職の育成」「健康に関わる社会課題を解決し、医療保健の現場を支えあふめるフィールドにおいて、他の専門職と協働して自らの専門性を発揮する人材の育成」を図る。

東京医療保健大学医療保健学部の学科統合と再編(構想中) ※統合・再編時期は2026(令和8)年4月を予定
東京医療保健大学は、「進化する大学」を目標とし、国家資格や社会の求める技能を習得できる修学体制を整えています。

医療保健学部 (3学科)	定 員
看護学科	280名
医療栄養学科 (学位:医療栄養学)	100名
医療情報学科 (学位:医療情報学)	80名

医療保健学部 (2学科)	定 員
看護学科	280名
医療保健学科 (学位:医療保健学)	180名

ディプロマポリシー／養成する人材像

医療保健学部 学位取得の方針
医療保健学部においては、本学の建学の精神に基づき、以下の能力を修得したと認められる者に学士(医療保健学)の学位を授与します。

1. 医療保健の専門職として必要な知識と技術を修得し、「医療の現場」や「健康な生活づくり」に関わる実践現場で活用できる能力
2. 高い倫理性と人間性を兼ね備え、医療保健分野に貢献できる能力
3. グローバルな教養を身に付け、医療保健の専門職としての協働もとより、多様な文化や背景を持つ人々を理解し協働できる能力
4. 未知の課題に對して多様な情報を収集し、科学的根拠に基づいた思考と判断により解決に向けて創造的に取り組むことができる能力

臨床検査技術とは

臨床検査技術は血液検査・微生物検査・病理検査・遺伝子検査などの検体検査や電解質検査・超音波検査・脳波検査などの生理機能検査を医師の指示のもとで実施しています。その測定結果は患者さんの病状の診断や治療効果の判定そして再発予防にも活用されています。検査技術の進歩と新たな開発により、取り扱う検査項目が日々拡大しており臨床検査技術の重要性はますます高まっています。

医療工学技術とは

現代の医療に欠かせない血液浄化装置、人工心臓装置、人工呼吸器を始めとした高度な生命維持管理装置を安全かつ的確に操作・管理するのが主な仕事です。医療工学技術者は、多くの医療スタッフが連携して治療を行うチーム医療で最も医療機器に長けた職種として多くの医療機器の操作および保守管理を行うので、現代医療には欠かせない存在となっています。

カリキュラムポリシー／学部・学科・専攻の特色

医療保健学部 教育課程編成・実施の方針
医療保健学部においては、学位取得の方針を策定・達成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。

1. 高い倫理性と人間性を兼ね備え、数ある医療保健の専門職を育成するための、「いのち・人間の教育分野」、「医療のフロンティア分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開講します。
2. 「いのち・人間の教育分野」では、医療保健の専門職として欠かせない「思いやり」、「人の絆」、「愛」の心を養うため、人文・社会科学および自然科学の双方から人間に対する理解を深める科目を開講します。
3. 「医療のフロンティア分野」では、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士及び医療保健分野の情報処理技術者(以下、各種職という)に共通する基礎医学および社会医学に関する科目を配課し、医療保健の現場や生活を支える上での基礎となる医学的知識の修得とともに、職種間の協働・連携を図るスキルと態度の習得を図ります。
4. 「専門職の教育分野」では、各種職の国家資格等を得るために必要な知識及び技術を修得するための科目を設置するとともに、それらの知識や技術を活かし、職業を定めて社会貢献の果たるための総合的科目を設置し、幅広いフィールドで活躍できる人材の育成を目指します。

取得できる資格／想定される卒業後の活躍フィールド

管理栄養学専攻	臨床検査学専攻	医療情報学専攻	臨床工学専攻
※管理栄養士(国家試験受験資格) ※栄養士 ※管理栄養士(国家試験受験資格) ※食品衛生管理士(国家試験受験資格) ※食品衛生監視員(国家試験受験資格) ※食品衛生検査員(国家試験受験資格) ※食品衛生監視員(国家試験受験資格) ※食品衛生検査員(国家試験受験資格)	※臨床検査技師(国家試験受験資格) ※臨床検査士(国家試験受験資格) ※臨床検査士(国家試験受験資格) ※臨床検査士(国家試験受験資格) ※臨床検査士(国家試験受験資格) ※臨床検査士(国家試験受験資格) ※臨床検査士(国家試験受験資格) ※臨床検査士(国家試験受験資格)	※医療情報学専攻(国家試験受験資格) ※医療情報学専攻(国家試験受験資格) ※医療情報学専攻(国家試験受験資格) ※医療情報学専攻(国家試験受験資格) ※医療情報学専攻(国家試験受験資格) ※医療情報学専攻(国家試験受験資格) ※医療情報学専攻(国家試験受験資格) ※医療情報学専攻(国家試験受験資格)	※臨床工学技士(国家試験受験資格) ※臨床工学技士(国家試験受験資格) ※臨床工学技士(国家試験受験資格) ※臨床工学技士(国家試験受験資格) ※臨床工学技士(国家試験受験資格) ※臨床工学技士(国家試験受験資格) ※臨床工学技士(国家試験受験資格) ※臨床工学技士(国家試験受験資格)

東京医療保健大学 医療保健学部 改組計画に係る高校生進学意向調査

東京医療保健大学では、医療保健学部の改組（看護学科定員増及び医療保健学科設置）を検討しています。改組計画検討の参考として、皆さんの率直なご意見をお聞かせください。

質問 1 あなたの性別はどちらですか。該当するものに○をつけてください。(1つ選択)

1 男性 2 女性 3 無回答

質問 2 あなたのお住まいはどちらですか。該当するものに○をつけてください。(1つ選択)

1 東京都 2 神奈川県 3 静岡県
4 埼玉県 5 千葉県 6 群馬県
7 栃木県 8 茨城県 9 その他（ ）

質問 3 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。該当するものに○をつけてください。
(複数選択可)

1 大学 2 短期大学 3 専門職大学
4 専門職短期大学 5 専門学校 6 就職
7 その他（ ）

質問 3 で 1～4 を選択した方は質問 4 へお進みください。
※質問 3 で 5～7 のみを選択した方への質問はこれで終了です。

質問 4 あなたが志望する大学等の設置者の希望を選択し、○をつけてください。(複数選択可)

1 国立 2 公立 3 私立

質問 5 あなたが進学先で学びたいと考えている興味のある学問分野を選択し、○をつけてください。
(複数選択可)

1 文学 2 史学・哲学
3 法学・政治学 4 商学・経済学
5 社会学・福祉学 6 理学
7 工学 8 農学・水産学
9 医学・歯学・薬学 10 看護学
11 医療保健（管理栄養学、臨床検査学、
臨床工学、医療情報学等） 12 家政学・栄養学
13 教育学・保育学 14 体育学
15 芸術学 16 その他（ ）

⇒裏面へお進みください

東京医療保健大学 保健医療学部 改組計画に係る事業所採用需要調査

東京医療保健大学では、保健医療学部 改組計画（看護学科定員増及び保健医療学科設置）を検討しています。改組計画検討の参考として、皆様の率直なご意見をお聞かせください。

質問 1 貴事業所の主たる種別はどちらですか。該当するものに○をつけてください。(1つ選択)

1 病院・診療所 2 保健所 3 助産所
4 社会福祉施設 5 訪問看護ステーション 6 介護老人保健(福祉)施設
7 地方自治体 8 一般企業 9 その他（ ）

質問 2 貴事業所の主たる所在地はどちらですか。該当するものに○をつけてください。(1つ選択)

1 東京都 2 神奈川県 3 静岡県
4 埼玉県 5 千葉県 6 群馬県
7 栃木県 8 茨城県 9 その他（ ）

質問 3 貴事業所の従業員数（正規社員）について、該当するものに○をつけてください。(1つ選択)

1 50 名未満 2 50～99 名 3 100～499 名
4 500～999 名 5 1,000～4,999 名 6 5,000 名以上

質問 4 貴事業所では、過去 3 年間でどのような職種を採用されましたか。該当するものに○をつけてください。(複数選択可)

1 看護師 2 管理栄養士 3 臨床検査技師
4 臨床工学技士 5 医師・歯科医師 6 その他の専門・技術職
7 事務職 8 営業職 9 その他（ ）

質問 5 貴事業所では、質問 4 で回答された職種を過去 3 年間で何人採用されましたか。該当する欄に採用人数をご記入ください。＊詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
採用人数	() 人	() 人	() 人

質問 6 貴事業所では、過去 3 年間で採用された職種の充足状況についてどのようにお考えですか。該当するものに○をつけてください。(1つ選択)

1 不足している 2 やや不足している 3 ある程度充足している
4 充足している 5 わからない

⇒裏面へお進みください

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

医療保健学部 看護学科

	都道府県	人数	割合
1	東京都	54,268 人	34.55%
2	神奈川県	23,390 人	14.89%
3	埼玉県	18,327 人	11.67%
4	千葉県	14,112 人	8.98%
5	静岡県	3,305 人	2.10%
	全体	157,086 人	

医療保健学部 医療栄養学科

	都道府県	人数	割合
1	東京都	54,268 人	34.55%
2	神奈川県	23,390 人	14.89%
3	埼玉県	18,327 人	11.67%
4	千葉県	14,112 人	8.98%
5	茨城県	5,375 人	3.42%
	全体	157,086 人	

医療保健学部 医療情報学科

	都道府県	人数	割合
1	東京都	54,268 人	34.55%
2	神奈川県	23,390 人	14.89%
3	埼玉県	18,327 人	11.67%
4	千葉県	14,112 人	8.98%
5	岐阜県	529 人	0.34%
	全体	157,086 人	

医療保健学部（合計）

	都道府県	人数	割合
1	東京都	54,268 人	34.55%
2	神奈川県	23,390 人	14.89%
3	埼玉県	18,327 人	11.67%
4	千葉県	14,112 人	8.98%
5	茨城県	5,375 人	3.42%
	全体	157,086 人	

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	東京都	100.80	103.48	103.46

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	保健系（大学）	99.97	99.28	96.79
2	家政学（大学）	94.11	95.28	89.01

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこ

大学学部学科等名：東京医療保健大学 医療保健学部看護学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	12人	12人	12人	12人	12人	12人
	延べ人数	142人	103人	91人	105人	80人	104人
	志願者数	140人	103人	90人	102人	80人	103人
	受験者数	34人	29人	30人	32人	41人	33人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人
	実人数	142人	103人	91人	105人	80人	104人
	志願者数	140人	103人	90人	102人	80人	103人
	受験者数	34人	29人	30人	32人	41人	33人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人
	入学者数	34人	28人	30人	32人	40人	33人
学校推薦型選抜	募集人数	28人	28人	28人	28人	28人	28人
	延べ人数	70人	58人	48人	61人	49人	57人
	志願者数	69人	57人	48人	61人	49人	57人
	受験者数	40人	45人	40人	39人	42人	41人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	70人	58人	48人	61人	49人	57人
	志願者数	69人	57人	48人	61人	49人	57人
	受験者数	40人	45人	40人	39人	42人	41人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	40人	45人	40人	39人	42人	41人
一般選抜	募集人数	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	806人	667人	597人	604人	656人	666人
	志願者数	720人	587人	517人	531人	599人	591人
	受験者数	164人	184人	174人	195人	260人	195人
	合格者数	0人	10人	5人	13人	19人	9人
	うち追加合格者数	131人	134人	129人	151人	191人	147人
	辞退者数	806人	667人	597人	604人	656人	666人
	志願者数	720人	587人	517人	531人	599人	591人
	受験者数	164人	184人	174人	195人	260人	195人
	合格者数	0人	10人	5人	13人	19人	9人
	うち追加合格者数	131人	134人	129人	151人	191人	147人
	辞退者数	33人	50人	45人	44人	69人	48人
	入学者数	10人	10人	10人	10人	10人	10人
	募集人数	351人	300人	233人	191人	179人	251人
共通テスト利用入試	延べ人数	351人	300人	233人	191人	179人	251人
	志願者数	104人	89人	74人	109人	82人	92人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	97人	88人	74人	104人	82人	89人
	辞退者数	351人	300人	233人	191人	179人	251人
	志願者数	351人	300人	233人	191人	179人	251人
	受験者数	104人	89人	74人	109人	82人	92人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	97人	88人	74人	104人	82人	89人
	辞退者数	7人	1人	0人	5人	0人	3人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数					9人	9人
	延べ人数					7人	7人
	志願者数					4人	4人
その他の特別選抜	受験者数					0人	0人
	合格者数					0人	0人
	うち追加合格者数					1人	1人
	辞退者数						
	実人数					9人	9人
	志願者数					7人	7人
	受験者数					4人	4人
	合格者数					0人	0人
	うち追加合格者数					1人	1人
	辞退者数						
	入学者数					3人	3人
	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	1369人	1128人	969人	961人	973人	1080人
	志願者数	1280人	1047人	888人	885人	914人	1003人
合計	受験者数	342人	347人	318人	375人	429人	362人
	合格者数	0人	10人	5人	13人	19人	9人
	うち追加合格者数	228人	223人	203人	255人	275人	237人
	辞退者数	1369人	1128人	969人	961人	973人	1080人
	志願者数	1280人	1047人	888人	885人	914人	1003人
	受験者数	342人	347人	318人	375人	429人	362人
	合格者数	0人	10人	5人	13人	19人	9人
	うち追加合格者数	228人	223人	203人	255人	275人	237人
	辞退者数	114人	124人	115人	120人	154人	125人
	入学者数						

3. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入 学 定 員 充 足 率	1.14	1.24	1.15	1.20	1.54	1.25
歩 留 率	0.33	0.36	0.36	0.32	0.36	0.35

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
その他の特別選抜はR7年度入学者選抜より実施。

大学学部学科等名：東京医療保健大学 医療保健学部医療栄養学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	30人	33人	40人	40人	40人	37人
	延べ人数						
	志願者数	66人	32人	36人	44人	43人	44人
	受験者数	66人	32人	36人	43人	42人	44人
	合格者数	59人	31人	35人	39人	42人	41人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	0人	2人	0人	0人	1人
	実人数						
	志願者数	66人	32人	36人	44人	43人	44人
	受験者数	66人	32人	36人	43人	42人	44人
	合格者数	59人	31人	35人	39人	42人	41人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	0人	2人	0人	0人	1人
	入学者数	58人	31人	33人	39人	42人	41人
学校推薦型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数						
	志願者数	21人	18人	10人	25人	21人	19人
	受験者数	21人	18人	10人	25人	21人	19人
	合格者数	21人	18人	10人	25人	21人	19人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数						
	志願者数	21人	18人	10人	25人	21人	19人
	受験者数	21人	18人	10人	25人	21人	19人
	合格者数	21人	18人	10人	25人	21人	19人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	21人	18人	10人	25人	21人	19人
一般選抜	募集人数	40人	40人	35人	35人	35人	37人
	延べ人数						
	志願者数	87人	64人	56人	76人	149人	86人
	受験者数	63人	49人	42人	61人	125人	68人
	合格者数	59人	43人	34人	47人	112人	59人
	うち追加合格者数	1人	2人	0人	0人	0人	1人
	辞退者数	44人	30人	24人	33人	90人	44人
	実人数						
	志願者数	87人	64人	56人	76人	149人	86人
	受験者数	63人	49人	42人	61人	125人	68人
	合格者数	59人	43人	34人	47人	112人	59人
	うち追加合格者数	1人	2人	0人	0人	0人	1人
	辞退者数	44人	30人	24人	33人	90人	44人
	入学者数	15人	13人	10人	14人	22人	15人
共通テスト利用入試	募集人数	10人	7人	5人	5人	5人	6人
	延べ人数						
	志願者数	70人	64人	43人	39人	53人	54人
	受験者数	70人	64人	43人	39人	52人	54人
	合格者数	69人	63人	43人	39人	50人	53人
	うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	62人	60人	42人	37人	44人	49人
	実人数						
	志願者数	70人	64人	43人	39人	53人	54人
	受験者数	70人	64人	43人	39人	52人	54人
	合格者数	69人	63人	43人	39人	50人	53人
	うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	62人	60人	42人	37人	44人	49人
	入学者数	7人	3人	1人	2人	6人	4人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数						
	志願者数					3人	3人
	受験者数					3人	3人
	合格者数					3人	3人
	うち追加合格者数					0人	0人
	辞退者数					2人	2人
	実人数						
	志願者数					3人	3人
	受験者数					3人	3人
	合格者数					3人	3人
	うち追加合格者数					0人	0人
	辞退者数					2人	2人
	入学者数					1人	1人
合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数						
	志願者数	244人	178人	145人	184人	269人	204人
	受験者数	220人	163人	131人	168人	243人	185人
	合格者数	208人	155人	122人	150人	228人	173人
	うち追加合格者数	2人	2人	0人	0人	0人	1人
	辞退者数	107人	90人	68人	70人	136人	94人
	実人数						
	志願者数	244人	178人	145人	184人	269人	204人
	受験者数	220人	163人	131人	168人	243人	185人
	合格者数	208人	155人	122人	150人	228人	173人
	うち追加合格者数	2人	2人	0人	0人	0人	1人
	辞退者数	107人	90人	68人	70人	136人	94人
	入学者数	101人	65人	54人	80人	92人	78人

3. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入 学 定 員 充 足 率	1.01	0.65	0.54	0.80	0.92	0.78
歩 留 率	0.49	0.42	0.44	0.53	0.40	0.46

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
その他の特別選抜はR7年度入学者選抜より実施。

大学学部学科等名：東京医療保健大学 医療保健学部医療栄養学科 管理栄養学専攻

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

				R6年度入学者	R7年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数			28人	28人	28人
	延べ人数	志願者数		38人	25人	32人
		受験者数		38人	25人	32人
		合格者数		34人	25人	30人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人
	実人数	志願者数		38人	25人	32人
		受験者数		38人	25人	32人
		合格者数		34人	25人	30人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人
学校推薦型選抜	入学者数			34人	25人	30人
	募集人数			14人	14人	14人
	延べ人数	志願者数		23人	15人	19人
		受験者数		23人	15人	19人
		合格者数		23人	15人	19人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人
	実人数	志願者数		23人	15人	19人
		受験者数		23人	15人	19人
		合格者数		23人	15人	19人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人
一般選抜	入学者数			23人	15人	19人
	募集人数			23人	23人	23人
	延べ人数	志願者数		51人	58人	55人
		受験者数		39人	49人	44人
		合格者数		28人	41人	35人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人
		辞退者数		21人	30人	26人
	実人数	志願者数		51人	58人	55人
		受験者数		39人	49人	44人
		合格者数		28人	41人	35人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人
共通テスト利用入試	入学者数			21人	30人	26人
	募集人数			7人	11人	9人
	延べ人数	志願者数		30人	19人	25人
		受験者数		30人	19人	25人
		合格者数		30人	18人	24人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人
		辞退者数		28人	17人	23人
	実人数	志願者数		30人	19人	25人
		受験者数		30人	19人	25人
		合格者数		30人	18人	24人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人
その他の特別選抜	入学者数			28人	17人	23人
	募集人数			2人	1人	2人
	延べ人数	志願者数		0人	0人	0人
		受験者数			1人	1人
		合格者数			1人	1人
		うち追加合格者数			0人	0人
		辞退者数			1人	1人
	実人数	志願者数			1人	1人
		受験者数			1人	1人
		合格者数			1人	1人
		うち追加合格者数			0人	0人
合計	入学者数				0人	0人
	募集人数	0人	0人	0人	68人	68人
	延べ人数	0人	0人	0人	142人	118人
		0人	0人	0人	130人	109人
		0人	0人	0人	115人	100人
		0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	49人	48人
	実人数	0人	0人	0人	142人	118人
		0人	0人	0人	130人	109人
		0人	0人	0人	115人	100人
		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	49人	48人
		0人	0人	0人	66人	52人
		0人	0人	0人		24人

3. 入学定員充足率

				R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員				68人	68人	68人
入学定員充足率				0.97	0.76	0.87
歩留率				0.57	0.52	0.55

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
R6年度より改組。医療栄養学科に管理栄養学専攻、臨床検査学専攻を設置。
その他の特別選抜はR7年度入学者選抜より実施。

大学学部学科等名：東京医療保健大学 医療保健学部医療情報学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	45人	45人	45人	40人	40人	43人
	延べ人数	51人	32人	22人	19人	23人	29人
	志願者数	51人	31人	22人	19人	23人	29人
	受験者数	51人	29人	22人	19人	23人	29人
	合格者数	51人	29人	22人	19人	23人	29人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	3人	0人	0人	1人	0人	1人
	実人数	51人	32人	22人	19人	23人	29人
	志願者数	51人	31人	22人	19人	23人	29人
	受験者数	51人	29人	22人	19人	23人	29人
	合格者数	51人	29人	22人	19人	23人	29人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	3人	0人	0人	1人	0人	1人
	入学者数	48人	29人	22人	18人	23人	28人
学校推薦型選抜	募集人数	13人	13人	13人	13人	13人	13人
	延べ人数	15人	19人	14人	10人	1人	12人
	志願者数	15人	19人	14人	10人	1人	12人
	受験者数	15人	19人	14人	10人	1人	12人
	合格者数	15人	19人	14人	10人	1人	12人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	15人	19人	14人	10人	1人	12人
	志願者数	15人	19人	14人	10人	1人	12人
	受験者数	15人	19人	14人	10人	1人	12人
	合格者数	15人	19人	14人	10人	1人	12人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	15人	19人	14人	10人	1人	12人
一般選抜	募集人数	17人	17人	17人	22人	22人	19人
	延べ人数	49人	29人	40人	24人	15人	31人
	志願者数	41人	20人	32人	22人	14人	26人
	受験者数	41人	19人	30人	17人	11人	24人
	合格者数	41人	19人	30人	17人	11人	24人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	25人	16人	22人	12人	10人	17人
	実人数	49人	29人	40人	24人	15人	31人
	志願者数	41人	20人	32人	22人	14人	26人
	受験者数	41人	19人	30人	17人	11人	24人
	合格者数	41人	19人	30人	17人	11人	24人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	25人	16人	22人	12人	10人	17人
	入学者数	16人	3人	8人	5人	1人	7人
共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	5人	5人	5人
	延べ人数	34人	18人	22人	11人	6人	18人
	志願者数	34人	18人	22人	11人	6人	18人
	受験者数	34人	17人	22人	9人	6人	18人
	合格者数	34人	17人	22人	9人	6人	18人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	28人	15人	18人	9人	5人	15人
	実人数	34人	18人	22人	11人	6人	18人
	志願者数	34人	18人	22人	11人	6人	18人
	受験者数	34人	18人	22人	11人	6人	18人
	合格者数	34人	17人	22人	9人	6人	18人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	28人	15人	18人	9人	5人	15人
	入学者数	6人	2人	4人	0人	1人	3人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数					0人	0人
	志願者数					0人	0人
	受験者数					0人	0人
	合格者数					0人	0人
	うち追加合格者数					0人	0人
	辞退者数					0人	0人
	実人数					0人	0人
	志願者数					0人	0人
	受験者数					0人	0人
	合格者数					0人	0人
	うち追加合格者数					0人	0人
	辞退者数					0人	0人
	入学者数					0人	0人
合計	募集人数	80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	149人	98人	98人	64人	45人	91人
	志願者数	141人	88人	90人	62人	44人	85人
	受験者数	141人	84人	88人	55人	41人	82人
	合格者数	141人	84人	88人	55人	41人	82人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	56人	31人	40人	22人	15人	33人
	実人数	149人	98人	98人	64人	45人	91人
	志願者数	141人	88人	90人	62人	44人	85人
	受験者数	141人	84人	88人	55人	41人	82人
	合格者数	141人	84人	88人	55人	41人	82人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	56人	31人	40人	22人	15人	33人
	入学者数	85人	53人	48人	33人	26人	49人

３．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入 学 定 員 充 足 率	1.06	0.66	0.60	0.41	0.32	0.61
歩 留 率	0.60	0.63	0.55	0.60	0.63	0.60

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
その他の特別選抜はR7年度入学者選抜より実施。

大学学部学科等名：東京医療保健大学 東が丘看護学部看護学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	8人	8人	8人	20人	9人
	延べ人数						
	志願者数		101人	93人	40人	54人	72人
	受験者数		99人	92人	40人	53人	71人
	合格者数		21人	20人	18人	28人	22人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数						
	志願者数		101人	93人	40人	54人	72人
	受験者数		99人	92人	40人	53人	71人
	合格者数		21人	20人	18人	28人	22人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		21人	20人	18人	28人	22人
学校推薦型選抜	募集人数	43人	38人	38人	38人	28人	37人
	延べ人数						
	志願者数	79人	80人	77人	24人	26人	57人
	受験者数	78人	79人	77人	24人	26人	57人
	合格者数	73人	57人	52人	24人	24人	46人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数						
	志願者数	79人	80人	77人	24人	26人	57人
	受験者数	78人	79人	77人	24人	26人	57人
	合格者数	73人	57人	52人	24人	24人	46人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	73人	57人	52人	24人	24人	46人
一般選抜	募集人数	50人	47人	47人	47人	45人	47人
	延べ人数						
	志願者数	563人	513人	358人	368人	362人	433人
	受験者数	499人	450人	292人	310人	322人	375人
	合格者数	159人	137人	125人	152人	223人	159人
	うち追加合格者数	0人	10人	3人	5人	17人	7人
	辞退者数	114人	102人	87人	95人	163人	112人
	実人数						
	志願者数	563人	513人	358人	368人	362人	433人
	受験者数	499人	450人	292人	310人	322人	375人
	合格者数	159人	137人	125人	152人	223人	159人
	うち追加合格者数	0人	10人	3人	5人	17人	7人
	辞退者数	114人	102人	87人	95人	163人	112人
	入学者数	45人	35人	38人	57人	60人	47人
共通テスト利用入試	募集人数	7人	7人	7人	7人	7人	7人
	延べ人数						
	志願者数	196人	183人	110人	81人	70人	128人
	受験者数	196人	183人	110人	81人	70人	128人
	合格者数	64人	47人	33人	44人	52人	48人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	60人	44人	32人	42人	51人	46人
	実人数						
	志願者数	196人	183人	110人	81人	70人	128人
	受験者数	196人	183人	110人	81人	70人	128人
	合格者数	64人	47人	33人	44人	52人	48人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	60人	44人	32人	42人	51人	46人
	入学者数	4人	3人	1人	2人	1人	2人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数						
	志願者数					6人	6人
	受験者数					3人	3人
	合格者数					3人	3人
	うち追加合格者数					0人	0人
	辞退者数					1人	1人
	実人数						
	志願者数					6人	6人
	受験者数					3人	3人
	合格者数					3人	3人
	うち追加合格者数					0人	0人
	辞退者数					1人	1人
	入学者数					2人	2人
合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数						
	志願者数	838人	877人	638人	513人	518人	677人
	受験者数	773人	811人	571人	455人	474人	617人
	合格者数	296人	262人	230人	238人	330人	271人
	うち追加合格者数	0人	10人	3人	5人	17人	7人
	辞退者数	174人	146人	119人	137人	215人	158人
	実人数						
	志願者数	838人	877人	638人	513人	518人	677人
	受験者数	773人	811人	571人	455人	474人	617人
	合格者数	296人	262人	230人	238人	330人	271人
	うち追加合格者数	0人	10人	3人	5人	17人	7人
	辞退者数	174人	146人	119人	137人	215人	158人
	入学者数	122人	116人	111人	101人	115人	113人

3. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入 学 定 員 充 足 率	1.22	1.16	1.11	1.01	1.15	1.13
歩 留 率	0.41	0.44	0.48	0.42	0.35	0.42

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
総合型選抜はR6年度入学者選抜より実施。
その他の特別選抜はR7年度入学者選抜より実施。

大学学部学科等名：東京医療保健大学 立川看護学部看護学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	8人	10人	4人
	延べ人数				88人	86人	87人
	志願者数				88人	86人	87人
	受験者数				21人	23人	22人
	合格者数				0人	0人	0人
	うち追加合格者数				0人	0人	0人
	辞退者数				0人	0人	0人
	実人数				88人	86人	87人
	志願者数				88人	86人	87人
	受験者数				21人	23人	22人
	合格者数				0人	0人	0人
	うち追加合格者数				0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	43人	43人	43人	38人	38人	41人
	延べ人数				75人	66人	76人
	志願者数	95人	71人	73人	75人	66人	76人
	受験者数	95人	71人	73人	75人	66人	76人
	合格者数	66人	63人	62人	51人	50人	58人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数				75人	66人	76人
	志願者数	95人	71人	73人	75人	66人	76人
	受験者数	95人	71人	73人	75人	66人	76人
	合格者数	66人	63人	62人	51人	50人	58人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	募集人数	50人	50人	50人	47人	45人	48人
	延べ人数				358人	476人	441人
	志願者数	458人	516人	398人	358人	476人	441人
	受験者数	404人	458人	339人	313人	431人	389人
	合格者数	155人	136人	135人	112人	199人	147人
	うち追加合格者数	0人	8人	7人	14人	22人	10人
	辞退者数	102人	90人	80人	70人	140人	96人
	実人数				358人	476人	441人
	志願者数	458人	516人	398人	358人	476人	441人
	受験者数	404人	458人	339人	313人	431人	389人
	合格者数	155人	136人	135人	112人	199人	147人
	うち追加合格者数	0人	8人	7人	14人	22人	10人
共通テスト利用入試	募集人数	53人	46人	55人	42人	59人	51人
	延べ人数				7人	7人	7人
	志願者数	180人	163人	149人	81人	69人	128人
	受験者数	180人	163人	149人	81人	69人	128人
	合格者数	62人	51人	43人	33人	35人	45人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	58人	46人	43人	31人	34人	42人
	実人数				81人	69人	128人
	志願者数	180人	163人	149人	81人	69人	128人
	受験者数	180人	163人	149人	81人	69人	128人
	合格者数	62人	51人	43人	33人	35人	45人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数					7人	7人
	志願者数					7人	7人
	受験者数					3人	3人
	合格者数					2人	2人
	うち追加合格者数					0人	0人
	辞退者数					0人	0人
	実人数					7人	7人
	志願者数					7人	7人
	受験者数					3人	3人
	合格者数					2人	2人
	うち追加合格者数					0人	0人
合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数						
	志願者数	733人	750人	620人	602人	704人	682人
	受験者数	679人	692人	561人	557人	655人	629人
	合格者数	283人	250人	240人	217人	309人	260人
	うち追加合格者数	0人	8人	7人	14人	22人	10人
	辞退者数	160人	136人	123人	102人	174人	139人
	実人数						
	志願者数	733人	750人	620人	602人	704人	682人
	受験者数	679人	692人	561人	557人	655人	629人
	合格者数	283人	250人	240人	217人	309人	260人
	うち追加合格者数	0人	8人	7人	14人	22人	10人
入学定員充足率	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数						
	志願者数	733人	750人	620人	602人	704人	682人
	受験者数	679人	692人	561人	557人	655人	629人
	合格者数	283人	250人	240人	217人	309人	260人
	うち追加合格者数	0人	8人	7人	14人	22人	10人
	辞退者数	160人	136人	123人	102人	174人	139人
	実人数						
	志願者数	733人	750人	620人	602人	704人	682人
	受験者数	679人	692人	561人	557人	655人	629人
	合格者数	283人	250人	240人	217人	309人	260人
	うち追加合格者数	0人	8人	7人	14人	22人	10人

3. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入 学 定 員 充 足 率	1.23	1.14	1.17	1.15	1.35	1.21
歩 留 率	0.43	0.46	0.49	0.53	0.44	0.47

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
総合型選抜はR6年度入学者選抜より実施。
その他の特別選抜はR7年度入学者選抜より実施。

大学学部学科等名：東京医療保健大学 千葉看護学部看護学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	8人	8人	10人	5人
	延べ人数						
	志願者数			57人	30人	45人	44人
	受験者数			57人	30人	44人	44人
	合格者数			19人	16人	25人	20人
	うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人
	辞退者数			0人	0人	0人	0人
	実人数						
	志願者数			57人	30人	45人	44人
	受験者数			57人	30人	44人	44人
	合格者数			19人	16人	25人	20人
	うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人
	辞退者数			0人	0人	0人	0人
	入学者数			19人	16人	25人	20人
学校推薦型選抜	募集人数	43人	43人	38人	38人	38人	40人
	延べ人数						
	志願者数	71人	67人	51人	40人	38人	53人
	受験者数	71人	67人	51人	40人	38人	53人
	合格者数	64人	63人	44人	38人	35人	49人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数						
	志願者数	71人	67人	51人	40人	38人	53人
	受験者数	71人	67人	51人	40人	38人	53人
	合格者数	64人	63人	44人	38人	35人	49人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	64人	63人	44人	38人	35人	49人
一般選抜	募集人数	50人	50人	47人	47人	45人	48人
	延べ人数						
	志願者数	412人	440人	344人	365人	255人	363人
	受験者数	360人	385人	283人	313人	234人	315人
	合格者数	146人	148人	153人	131人	161人	148人
	うち追加合格者数	5人	16人	16人	21人	18人	15人
	辞退者数	99人	102人	81人	86人	106人	95人
	実人数						
	志願者数	412人	440人	344人	365人	255人	363人
	受験者数	360人	385人	283人	313人	234人	315人
	合格者数	146人	148人	153人	131人	161人	148人
	うち追加合格者数	5人	16人	16人	21人	18人	15人
	辞退者数	99人	102人	81人	86人	106人	95人
	入学者数	47人	46人	72人	45人	55人	53人
共通テスト利用入試	募集人数	7人	7人	7人	7人	7人	7人
	延べ人数						
	志願者数	178人	138人	89人	91人	51人	109人
	受験者数	178人	138人	89人	91人	51人	109人
	合格者数	66人	48人	33人	40人	47人	47人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	65人	47人	32人	40人	44人	46人
	実人数						
	志願者数	178人	138人	89人	91人	51人	109人
	受験者数	178人	138人	89人	91人	51人	109人
	合格者数	66人	48人	33人	40人	47人	47人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	65人	47人	32人	40人	44人	46人
	入学者数	1人	1人	1人	0人	3人	1人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数						
	志願者数					3人	3人
	受験者数					1人	1人
	合格者数					1人	1人
	うち追加合格者数					0人	0人
	辞退者数					1人	1人
	実人数						
	志願者数					3人	3人
	受験者数					1人	1人
	合格者数					1人	1人
	うち追加合格者数					0人	0人
	辞退者数					1人	1人
	入学者数					0人	0人
合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数						
	志願者数	661人	645人	541人	526人	392人	553人
	受験者数	609人	590人	480人	474人	368人	504人
	合格者数	276人	259人	249人	225人	269人	256人
	うち追加合格者数	5人	16人	16人	21人	18人	15人
	辞退者数	164人	149人	113人	126人	151人	141人
	実人数						
	志願者数	661人	645人	541人	526人	392人	553人
	受験者数	609人	590人	480人	474人	368人	504人
	合格者数	276人	259人	249人	225人	269人	256人
	うち追加合格者数	5人	16人	16人	21人	18人	15人
	辞退者数	164人	149人	113人	126人	151人	141人
	入学者数	112人	110人	136人	99人	118人	115人

3. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入 学 定 員 充 足 率	1.12	1.10	1.36	0.99	1.18	1.15
歩 留 率	0.41	0.42	0.55	0.44	0.44	0.45

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
総合型選抜はR6年度入学者選抜より実施。
その他の特別選抜はR7年度入学者選抜より実施。

大学学部学科等名：東京医療保健大学 和歌山看護学部看護学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	0人	8人	8人	8人	13人	7人
	延べ人数						
	志願者数		47人	39人	29人	39人	39人
	受験者数		46人	39人	29人	39人	38人
	合格者数		13人	17人	17人	25人	18人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数						
	志願者数		47人	39人	29人	39人	39人
	受験者数		46人	39人	29人	39人	38人
	合格者数		13人	17人	17人	25人	18人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		13人	17人	17人	25人	18人
学校推薦型選抜	募集人数	43人	43人	43人	40人	45人	43人
	延べ人数						
	志願者数	147人	122人	102人	95人	73人	108人
	受験者数	147人	121人	101人	95人	71人	107人
	合格者数	77人	61人	63人	73人	65人	68人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	11人	10人	12人	17人	10人	12人
	実人数						
	志願者数	147人	122人	102人	95人	73人	108人
	受験者数	147人	121人	101人	95人	71人	107人
	合格者数	77人	61人	63人	73人	65人	68人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	11人	10人	12人	17人	10人	12人
	入学者数	66人	51人	51人	56人	55人	56人
一般選抜	募集人数	39人	34人	34人	34人	27人	34人
	延べ人数						
	志願者数	236人	205人	180人	118人	137人	175人
	受験者数	209人	186人	156人	103人	107人	152人
	合格者数	82人	70人	55人	53人	71人	66人
	うち追加合格者数	0人	3人	0人	4人	1人	2人
	辞退者数	41人	43人	30人	30人	50人	39人
	実人数						
	志願者数	236人	205人	180人	118人	137人	175人
	受験者数	209人	186人	156人	103人	107人	152人
	合格者数	82人	70人	55人	53人	71人	66人
	うち追加合格者数	0人	3人	0人	4人	1人	2人
	辞退者数	41人	43人	30人	30人	50人	39人
	入学者数	41人	27人	25人	23人	21人	27人
共通テスト利用入試	募集人数	8人	5人	5人	5人	5人	6人
	延べ人数						
	志願者数	34人	45人	34人	24人	36人	35人
	受験者数	34人	45人	34人	24人	36人	35人
	合格者数	20人	20人	19人	21人	32人	22人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	17人	17人	18人	19人	29人	20人
	実人数						
	志願者数	34人	45人	34人	24人	36人	35人
	受験者数	34人	45人	34人	24人	36人	35人
	合格者数	20人	20人	19人	21人	32人	22人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	17人	17人	18人	19人	29人	20人
	入学者数	3人	3人	1人	2人	3人	2人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	3人	10人	3人
	延べ人数						
	志願者数		5人	10人	2人	7人	6人
	受験者数		5人	10人	2人	4人	5人
	合格者数		4人	5人	2人	4人	4人
	うち追加合格者数		1人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		2人	0人	0人	1人	1人
	実人数						
	志願者数		5人	10人	2人	7人	6人
	受験者数		5人	10人	2人	4人	5人
	合格者数		4人	5人	2人	4人	4人
	うち追加合格者数		1人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		2人	0人	0人	1人	1人
	入学者数		3人	5人	2人	3人	3人
合計	募集人数	90人	90人	90人	90人	100人	92人
	延べ人数						
	志願者数	417人	424人	365人	268人	292人	353人
	受験者数	390人	403人	340人	253人	257人	329人
	合格者数	179人	168人	159人	166人	197人	174人
	うち追加合格者数	0人	4人	0人	4人	1人	2人
	辞退者数	69人	72人	60人	66人	90人	71人
	実人数						
	志願者数	417人	424人	365人	268人	292人	353人
	受験者数	390人	403人	340人	253人	257人	329人
	合格者数	179人	168人	159人	166人	197人	174人
	うち追加合格者数	0人	4人	0人	4人	1人	2人
	辞退者数	69人	72人	60人	66人	90人	71人
	入学者数	110人	97人	99人	100人	107人	103人

3. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員	90人	90人	90人	90人	100人	92人
入学定員充足率	1.22	1.07	1.10	1.11	1.07	1.11
歩留率	0.61	0.58	0.62	0.60	0.54	0.59

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
総合型選抜、その他の特別選抜はR4年度より実施。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：東京医療保健大学 医療保健学部看護学科オープンキャンパス(五反田)

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	869人	924人	①取組概要 授業体験や入試説明会、在学生との懇親など学部・学科の特色がわかるイベントを実施。 R6年度入試対象(R5開催)：計5回実施(6/23, 8/3, 8/4, 9/15, 3/20) R5年度入試対象(R4開催)：計5回実施(6/4, 7/29, 7/30, 9/18, 3/20) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去の実績より、イベントに参加した受験生のうち、受験率・入学率ともに上昇していることを確認できる。
うち受験対象者数(b)	558人	586人	
うち受験者数(c)	159人	186人	
うち入学者数(d)	45人	56人	
(受験率 c/b)	28, 49%	31, 74%	
(入学率 d/b)	28, 30%	30, 11%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：東京医療保健大学 医療保健学部 医療栄養学科・医療情報学科オープンキャンパス

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	395人	447人	①取組概要 授業体験や入試説明会、在学生との懇親など学部・学科の特色がわかるイベントを実施。 R6年度入試対象(R5開催)：計10回実施 (4/27, 5/26, 6/9, 7/21, 8/17, 9/1, 9/22, 10/27, 11/24, 3/23) R5年度入試対象(R4開催)：計9回実施 (5/21, 6/11, 7/23, 8/11, 8/27, 9/24, 10/22, 11/26, 3/24) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 過去の実績より、イベントに参加した受験生のうち、受験率・入学率ともに上昇していることを確認できる。
うち受験対象者数(b)	212人	248人	
うち受験者数(c)	76人	89人	
うち入学者数(d)	62人	79人	
(受験率 c/b)	35, 84%	35, 88%	
(入学率 d/b)	29, 24%	31, 85%	

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	カメヤマ シュウジ 亀山 周二 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		東京医療保健大学学長 (令和3.4～令和11.3)

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基 （主専）	教授 学科長	グンジ トシアキ 郡司 俊秋 ＜令和8年4月＞		医学博士		＜学科共通科目群＞		1前	0.1	1	東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 教授（令和7年4月）	○	○			5	
							・医療と人間※											
							＜管理栄養学専攻科目群＞											
							・医学・医療概論※	○	1後	0.9	1							
							・病理学Ⅰ（病態の系統的理解）	○	2後	2.0	1							
							・病理学Ⅱ（病態の評価・診断）	○	3前	2.0	1							
							・医療栄養学概論※	○	3後	0.7	1							
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1							
							＜臨床検査学専攻科目群＞											
							・医学・医療概論		1後	0.9	1							
							・病理学Ⅰ（病態の系統的理解）	○	2後	2.0	1							
							・病理学Ⅱ（病態の評価・診断）	○	3前	2.0	1							
							＜臨床工学専攻科目群＞											
							・医学・医療概論※		1後	0.9	1							
							・臨床工学病理学	○	2後	2.0	1							
2	基 （主専）	教授	トヨダ ヒデトシ 豊田 英敏 ＜令和8年4月＞		教育学修士		＜学科共通科目群＞		2後	1.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 教授（平成28年4月）	○				5	
							・家族社会学											
							＜管理栄養学専攻科目群＞											
							・キャリア教育Ⅲ	○	3後	1.0	1							
							・実用国語※		1前	0.4	1							
							・卒業研究	○	4通	4.0	1							
							・教職論		2前	2.0	1							
							・教育制度論		2後	1.0	1							
							・栄養教育実習事前事後指導		4通	1.0	1							
							・栄養教育実習		4前	1.0	1							
							・教職実践演習（栄養教諭）		4後	2.0	1							
							＜臨床検査学専攻科目群＞											
							・キャリア教育Ⅲ		3後	1.0	1							
							・実用国語※		1前	0.4	1							
							＜臨床工学専攻科目群＞											
							・実用国語※		1前	0.4	1							

教員の氏名等																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名		
3	基 （主専）	教授	ミドウ ナオキ 御堂 直樹 ＜令和8年4月＞		博士 （農学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・食品学Ⅰ （総論・食品の構成・生理およ び栄養機能） ・食品学Ⅱ （各論・食品の種類、性状、栄 養特性・加工） ・食品学実験 ・食品加工学実習 ・総合演習Ⅱ（応用・総合）※ ・実用国語※ ・卒業研究 ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・実用国語※ ＜臨床工学専攻科目群＞ ・実用国語※	○ ○ ○ ○ ○ ○	1後 2前 1後 3前 4後 1前 4通 1前 1前	2.0 2.0 2.0 2.0 0.1 0.1 4.0 0.1 0.1	1 1 2 2 1 1 1 1 1	東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 教授（令和3年4月）	○				5	
4	基 （主専）	教授	サイネンサチエ 西念 幸江 ＜令和8年4月＞		博士 （栄養学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ・調理学 ・調理学実習Ⅰ （基本調理・日本食の理解） ・調理学実習Ⅱ （応用調理・食文化と献立作 成） ・調理科学実験 ・食品の官能評価・鑑別論 ・総合演習Ⅱ（応用・総合）※ ・卒業研究 ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜臨床工学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜医療情報学専攻科目群＞ ・協働実践演習	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	4前 1後 1前 1後 2前 2前 4後 4通 4前 4前 4前	1.0 2.0 2.0 2.0 2.0 1.0 0.1 4.0 1.0 1.0 1.0	1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1	東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 教授（平成17年4月）	○				5	

教員の氏名等																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況			
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称						
5	基 （主専）	教授	カノウ タカユキ 加藤 隆幸 ＜令和8年4月＞		博士 （医学）		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 教授（平成28年4月）	○				5				
							・体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸 器、泌尿器系）	○	1前	2.0	1										
							・体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感 覚器系）	○	1後	2.0	1										
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.5	1										
							・解剖生理学実習	○	2前	2.0	2										
							・栄養生理学実験	○	3後	2.0	2										
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1										
							・卒業研究	○	4通	4.0	1										
							＜臨床検査学専攻科目群＞														
							・体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸 器、泌尿器系）	○	1前	2.0	1										
							・体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感 覚器系）	○	1後	2.0	1										
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										
							・解剖生理学実習	○	2前	1.0	1										
							＜臨床工学専攻科目群＞														
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										
							＜医療情報学専攻科目群＞														
・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1																	

教員の氏名等																					
(医療保健学部医療保健学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況			
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称						
6	基 （主専）	教授	キタジマユキエ 北島 幸枝 ＜令和8年4月＞		博士 （栄養学）		＜管理栄養学専攻科目群＞						東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 准教授（平成23年9月）	○				5			
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							・食品機能学		3前	1.0	1										
							・応用栄養学Ⅰ （基本的理解・総論）	○	2前	2.0	1										
							・応用栄養学Ⅱ （応用・特殊環境と栄養・実 践）	○	2後	2.0	1										
							・応用栄養学実習Ⅰ （ライフステージ別食事管理）	○	2前	2.0	2										
							・応用栄養学実習Ⅱ （ライフステージ別栄養管理）	○	2後	2.0	2										
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1										
							・卒業研究	○	4通	4.0	1										
							＜臨床検査学専攻科目群＞														
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							＜臨床工学専攻科目群＞														
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							＜医療情報学専攻科目群＞														
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
7	基 （主専）	教授	ミムラ クニヒロ 三村 邦裕 ＜令和8年4月＞		博士 （医学）		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 教授（令和6年4月）	○	○			5	
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1							
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							
							＜臨床検査学専攻科目群＞											
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.5	1							
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							
							・臨床検査生化学	○	2前	2.0	1							
							・チーム医療概論	○	4前	1.0	1							
							・医学概論	○	1前	1.0	1							
							・血液検査学総論	○	2前	2.0	1							
							・血液検査学	○	2後	2.0	1							
							・血液検査学実習	○	3前	1.0	1							
							・検査管理総論	○	3前	2.0	1							
							・臨床検査総合演習Ⅱ※	○	4後	0.3	1							
							・臨地実習前評価※	○	4前	0.3	1							
							・生理検査学に関する臨地実習	○	4前	3.0	1							
							・生理検査学以外の臨地実習	○	4前	8.0	1							
							・卒業研究		4通	4.0	1							
							＜臨床工学専攻科目群＞											
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1							
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							
							・生化学（臨床工学）	○	2前	1.0	1							
							・医学概論	○	1後	1.0	1							
							・チーム医療概論	○	4前	1.0	1							
							＜医療情報学専攻科目群＞											
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1							
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							

教員の氏名等																										
(医療保健学部医療保健学科)																										
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況								
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称											
8	基 （主専）	教授	ヨコタ ヒロミツ 横田 浩充 ＜令和8年4月＞		博士 （理学）		＜臨床検査学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 教授（令和7年4月）	○					5								
							・臨床検査医学総論	○	3後	2.0	1															
							・遺伝子関連・染色体検査学	○	2後	2.0	1															
							・遺伝子関連・染色体検査学実	○	3前	1.0	1															
							・生理検査学実習Ⅲ	○	4前	1.0	1															
							・臨床検査総合演習Ⅰ※	○	4後	0.3	1															
							・臨床検査医療安全管理学	○	3後	2.0	1															
							・臨床検査医療安全管理学実習	○	4前	1.0	1															
							・臨地実習前評価※	○	4前	0.1	1															
							・生理検査学に関する臨地実習	○	4前	3.0	1															
							・生理検査学以外の臨地実習	○	4前	8.0	1															
							・卒業研究		4通	4.0	1															
							・臨床工学専攻科目群＞																			
							・医療安全管理学（臨床工学）	○	4後	1.0	1															
9	基 （主専）	教授	オオシマ トシオ 大島 利夫 ＜令和8年4月＞		博士 （医学）		＜臨床検査学専攻科目群＞					新渡戸文化短期大学臨 床検査学科教授（令和5 年4月）	○					5								
							・微生物検査学Ⅰ	○	2後	2.0	1															
							・微生物検査学Ⅱ	○	3前	2.0	1															
							・微生物検査学実習	○	3後	2.0	1															
							・臨床検査総合演習Ⅱ※	○	4後	0.3	1															
							・臨地実習前評価※	○	4前	0.1	1															
							・生理検査学に関する臨地実習	○	4前	3.0	1															
							・生理検査学以外の臨地実習	○	4前	8.0	1															
							・卒業研究		4通	4.0	1															

教員の氏名等																								
(医療保健学部医療保健学科)																								
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況						
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称									
10	基（主専）	教授	シマヅ ヒデアキ 嶋津 秀昭 ＜令和8年4月＞		医学博士		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学客員 教授（令和6年7月）	○				5							
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1													
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1													
							＜臨床検査学専攻科目群＞																	
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1													
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1													
							＜臨床工学専攻科目群＞																	
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.5	1													
							・キャリア教育Ⅱ	○	2後	1.0	1													
							・キャリア教育Ⅲ		3後	1.0	1													
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1													
							・臨床工学演習Ⅱ※	○	4後	0.5	1													
							・医用機械工学	○	1後	2.0	1													
							・システム工学	○	2後	2.0	1													
							・生体物性工学	○	2前	2.0	1													
							・医用材料工学	○	2後	1.0	1													
							・生体物性・材料工学	○	4後	1.0	1													
							・臨床工学演習Ⅰ※	○	4後	0.6	1													
							・医用機器学概論	○	1後	2.0	1													
							・卒業研究		4通	4.0	1													
＜医療情報学専攻科目群＞																								
・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1																				
・協働実践演習	○	4前	1.0	1																				

教員の氏名等																						
(医療保健学部医療保健学科)																						
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況				
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称						
11	基（専）	教授	イシハラ テルオ 石原 照夫 ＜令和8年4月＞		医学博士		＜学科共通科目群＞		1前	0.1	1	東京医療保健大学医療 保健学部医療情報学科 教授（平成28年10月）	○	○			4					
							・医療と人間※															
							＜臨床工学専攻科目群＞															
							・体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸 器、泌尿器系）								○	1前		2.0	1			
							・体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感 覚器系）								○	1後		2.0	1			
							・解剖生理学実習								○	2前		1.0	1			
							・臨床医学総論Ⅰ								○	2前		2.0	1			
							・臨床医学総論Ⅱ								○	3前		2.0	1			
							・手術・集中治療学								○	3後		2.0	1			
							＜医療情報学専攻科目群＞															
							・体の仕組みと働きⅠ （血液、循環器、消化器、呼吸 器、泌尿器系）								○	1前		2.0	1			
							・体の仕組みと働きⅡ （骨格、筋、神経、内分泌、感 覚器系）								○	1後		2.0	1			
							・医学・医療概論								○	1前		1.0	1			
							・臨床医学総論								○	1後		2.0	1			
							・臨床医学各論A									2前		2.0	1			
							・臨床医学各論B									2後		2.0	1			

教員の氏名等																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況	
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
12	基（主専）	教授	イマイズミズヤ 今泉 一哉 ＜令和8年4月＞		博士 （人間科 学）		＜学科共通科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部医療情報学科 教授（平成19年4月）	○	○			5		
							・情報リテラシー	○	1前	2.0	1								
							・情報科学	○	1後	2.0	1								
							＜管理栄養学専攻科目群＞	○											
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1								
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1								
							＜臨床検査学専攻科目群＞												
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1								
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1								
							＜臨床工学専攻科目群＞												
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.5	1								
							・キャリア教育Ⅱ	○	2後	1.0	1								
							・キャリア教育Ⅲ		3後	1.0	1								
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1								
							・計測工学	○	2後	2.0	1								
							・生体計測装置学Ⅰ	○	2前	2.0	1								
							・生体計測装置学Ⅱ	○	2後	2.0	1								
							・生体計測学基礎	○	1後	1.0	1								
							・生体計測装置学実習	○	3前	1.0	1								
							・卒業研究		4通	4.0	1								
＜医療情報学専攻科目群＞																			
・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1															
・協働実践演習	○	4前	1.0	1															
・生体情報演習		1後	2.0	1															

教員の氏名等																													
(医療保健学部医療保健学科)																													
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況											
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称													
13	基(主専)	教授	セト リョウマ 瀬戸 僚馬 ＜令和8年4月＞		博士 (医療福祉 経営学)		＜学科共通科目群＞		2後	2.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部医療情報学科 教授（平成21年4月）	○				5												
							・情報通信と保健医療																						
							＜管理栄養学専攻科目群＞																						
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1																		
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1																		
							＜臨床検査学専攻科目群＞																						
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1																		
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1																		
							＜臨床工学専攻科目群＞																						
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1																		
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1																		
							＜医療情報学専攻科目群＞																						
							・医療安全管理学 （臨床工学・危機管理学・感染 制御学）	○	2前	2.0	1																		
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.5	1																		
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1																		
							・診療情報論Ⅰ	○	2前	2.0	1																		
							・診療情報論Ⅱ		2後	2.0	1																		
							・ワークショップD （ヘルスプロモーション）		2後	2.0	1																		
							・基礎ゼミⅠ	○	1通	2.0	1																		
							・基礎ゼミⅡ	○	2通	2.0	1																		
							・応用ゼミⅠ	○	3前	2.0	1																		
							・応用ゼミⅡ	○	3後	2.0	1																		
							・応用ゼミⅢ	○	4前	2.0	1																		
							・卒業研究	○	4通	6.0	1																		
							・診療プロセス論A	○	1後	2.0	1																		
							・診療プロセス論B		2前	2.0	1																		
・医療制度論	○	1後	2.0	1																									
・インターンシップ		3前	2.0	1																									

教員の氏名等																			
(医療保健学部医療保健学科)																			
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況	
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
14	基 （主専）	准教授	カンダ ヒロコ 神田 裕子 ＜令和8年4月＞		博士 （保健学）		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 准教授（平成18年4月）	○				5		
							・栄養学総論（基礎栄養学）	○	1後	2.0	1								
							・キャリア教育Ⅱ	○	2後	1.0	1								
							・健康管理概論	○	1前	2.0	1								
							・フードスペシャリスト論		3前	2.0	1								
							・基礎栄養学特講	○	2前	1.0	1								
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1								
							・卒業研究	○	4通	4.0	1								
							＜臨床検査学専攻科目群＞												
							・栄養学総論（基礎栄養学）	○	1後	2.0	1								
							・キャリア教育Ⅱ	○	2後	1.0	1								
							・健康管理概論		1前	2.0	1								
							＜臨床工学専攻科目群＞												
							・栄養学総論（基礎栄養学）		1後	2.0	1								
							＜医療情報学専攻科目群＞												
							・栄養学総論（基礎栄養学）	○	2前	2.0	1								
15	基 （主専）	准教授	カネダ カズヒデ 金田 一秀 ＜令和8年4月＞		博士 （薬学）		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 准教授（令和3年10月）	○				5		
							・公衆衛生学	○	2後	2.0	1								
							・食品衛生学	○	2前	2.0	1								
							・食安全学		4前	2.0	1								
							・食品化学実験	○	1前	2.0	2								
							・食品衛生学実験	○	2後	2.0	2								
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1								
							・卒業研究	○	4通	4.0	1								
							＜臨床検査学専攻科目群＞												
							・公衆衛生学	○	2後	2.0	1								
							＜臨床工学専攻科目群＞												
							・公衆衛生学	○	2後	2.0	1								

教員の氏名等																				
(医療保健学部医療保健学科)																				
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況		
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称					
16	基 （主専）	准教授	サカイ リエ 酒井 理恵 ＜令和8年4月＞		博士 （歯学）		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 准教授（平成29年4月）	○				5			
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.5	1									
							・給食経営管理論Ⅱ （応用・実践・施設別給食管 理）	○	2後	2.0	1									
							・給食経営管理論実習	○	2後	2.0	2									
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1									
							・臨地実習Ⅰ（給食経営管理）	○	3後	1.0	1									
							・臨地実習Ⅲ （給食の運営・臨床栄養学・給 食経営管理）	○	4前	3.0	1									
							・卒業研究	○	4通	4.0	1									
							＜臨床検査学専攻科目群＞													
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1									
							＜臨床工学専攻科目群＞													
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1									
							＜医療情報学専攻科目群＞													
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1									

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
17	基 （主専）	准教授	シミズ マサミ 清水 雅富 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		<管理栄養学専攻科目群>					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 准教授（平成18年4月）	○	○			5	
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							
							・生化学Ⅰ （生体物質の構造と機能）	○	2前	2.0	2							
							・生化学Ⅱ（生体物質の代謝）	○	2後	2.0	1							
							・生化学実験Ⅰ （生体物質の分析）	○	2前	2.0	1							
							・生化学実験Ⅱ （生体物質の発現・代謝分析）	○	3後	2.0	2							
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1							
							・卒業研究	○	4通	4	1							
							<臨床検査学専攻科目群>											
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							
							・生化学Ⅰ （生体物質の構造と機能）		2前	2.0	1							
							・生化学Ⅱ（生体物質の代謝）		2後	2.0	1							
							・生化学実験Ⅰ （生体物質の分析）	○	2前	1.0	1							
							・生化学実験Ⅱ （生体物質の発現・代謝分析）		3後	1.0	1							
							<臨床工学専攻科目群>											
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							
							<医療情報学専攻科目群>											
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							

教員の氏名等																					
(医療保健学部医療保健学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況			
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称						
18	基 （主専）	准教授	ホソダ アケミ 細田 明美 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 准教授（平成18年10 月）	○				5				
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							・臨床栄養学Ⅱ （疾患別・病態別栄養管理）	○	3前	2.0	1										
							・臨床栄養学Ⅲ （チーム医療における栄養管	○	3後	2.0	1										
							・臨床栄養学実習Ⅰ（基礎）	○	3前	2.0	2										
							・総合演習Ⅰ（基礎）	○	4前	1.0	1										
							・臨地実習Ⅲ （給食の運営・臨床栄養学・給	○	4前	3.0	1										
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										
							・臨床栄養学Ⅰ （臨床症候と栄養障害の評価）	○	2後	2.0	1										
							・臨床栄養学実習Ⅱ （応用と実践）	○	3後	2.0	2										
							・総合演習Ⅰ（基礎）	○	4前	1.0	1										
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1										
							・臨地実習Ⅲ （給食の運営・臨床栄養学・給 食経営管理）	○	4前	3.0	1										
							・総合学習Ⅰ （食べ物・栄養と健康）	○	1前	1.0	1										
							・卒業研究	○	4通	4.0	1										
							＜臨床検査学専攻科目群＞														
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										
							＜臨床工学専攻科目群＞														
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										
							＜医療情報学専攻科目群＞														
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										

教員の氏名等																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況			
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名科						
19	基 （主専）	准教授	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞ サイトウ エ 齋藤 さな恵 ＜令和8年4月＞		博士 （栄養学）		<管理栄養学専攻科目群>					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 准教授（平成18年9月）	○				5				
							・医学・医療概論※	○	1後	0.1	1										
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							・栄養教育論Ⅰ（基礎）	○	2前	2.0	1										
							・栄養教育論Ⅱ （応用・ライフステージ別栄養 教育）	○	2後	2.0	2										
							・栄養教育論実習Ⅰ （基礎・ライフステージ別栄養 教育）	○	2後	2.0	1										
							・栄養教育論実習Ⅱ （応用・症例に基づく栄養教 育）	○	3前	2.0	2										
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1										
							・卒業研究	○	4通	4.0	1										
							・教職実践演習（栄養教諭）		4後	2.0	1										
							<臨床検査学専攻科目群>														
							・医学・医療概論		1後	0.1	1										
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							<臨床工学専攻科目群>														
							・医学・医療概論※		1後	0.1	1										
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							<医療情報学専攻科目群>														
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
22	基（主専）	准教授	イワミツ ヒロコ 岩満 裕子 ＜令和8年4月＞		修士 （経営学）		＜臨床工学専攻科目群＞ ・生体機能代行装置学概論 ・生体機能代行装置学Ⅰ ・生体機能代行装置学Ⅱ ・生体機能代行装置学Ⅲ ・生体機能代行装置学Ⅳ ・生体機能代行装置学実習Ⅰ ・生体機能代行装置学実習Ⅱ ・生体機能代行装置学実習Ⅲ ・技術・知識の到達度評価 （臨床工学） ・臨床実習	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 4前 4前	1.0 2.0 2.0 2.0 2.0 1.0 1.0 1.0 1.0 6.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医療保健大学立川 看護学部看護学科准教 授（平成26年4月）	○				5	
23	基（主専）	准教授	ヤマナカ ノソム 山中 望 ＜令和8年4月＞		博士 （医学）		＜臨床工学専攻科目群＞ ・臨床工学演習Ⅱ※ ・臨床工学演習Ⅰ※ ・医用治療機器学Ⅰ ・医用治療機器学実習 ・臨床支援技術学 ・医用機器安全管理学Ⅰ ・医用機器安全管理学Ⅱ ・医用機器安全管理学実習 ・医療治療機器学Ⅱ ・技術・知識の到達度評価 （臨床工学） ・臨床実習	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	4後 4後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 2後 4前 4前	0.5 0.3 2.0 1.0 2.0 2.0 2.0 1.0 2.0 1.0 6.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	防衛医科大学校校内講 師（平成19年12月）	○				5	

教員の氏名等																					
(医療保健学部医療保健学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況			
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称						
24	基 （主専）	講師	クサマ ダイ 草間 大生 ＜令和8年4月＞		修士 （栄養学）		＜管理栄養学専攻科目群＞						東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 講師（令和4年10月）	○				5			
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							・栄養学演習	○	1後	1.0	1										
							・臨床栄養実践演習		4後	1.0	1										
							・給食経営管理論Ⅰ（基礎）	○	2前	2.0	1										
							・給食経営管理論実習	○	2後	2.0	2										
							・総合演習Ⅰ（基礎）	○	4前	1.0	1										
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1										
							・臨地実習Ⅰ（給食経営管理）	○	3後	1.0	1										
							・臨地実習Ⅲ （給食の運営・臨床栄養学・給 食経営管理）	○	4前	3.0	1										
							・卒業研究	○	4通	4.0	1										
							＜臨床検査学専攻科目群＞														
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							＜臨床工学専攻科目群＞														
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							＜医療情報学専攻科目群＞														
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										

教員の氏名等																					
(医療保健学部医療保健学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況			
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称						
25	基 （主専）	講師	ミヤジ アカネ 宮路 茜 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 講師（平成29年4月）	○				5				
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.5	1										
							・公衆栄養学Ⅰ （地域栄養の現状と課題・公衆 栄養マネジメント）	○	3前	2.0	1										
							・公衆栄養学Ⅱ （国内外の健康・栄養施策・栄 養疫学）	○	3後	2.0	1										
							・公衆栄養学実習	○	3前	2.0	2										
							・地域栄養学実習		3後	1.0	1										
							・総合演習Ⅰ（基礎）	○	4前	1.0	1										
							・総合演習Ⅱ（応用・総合）※	○	4後	0.1	1										
							・臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	○	3後	1.0	1										
							・実用国語※		1前	0.1	1										
							・卒業研究	○	4通	4.0	1										
							＜臨床検査学専攻科目群＞														
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										
							・実用国語※		1前	0.1	1										
							＜臨床工学専攻科目群＞														
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										
							・実用国語※		1前	0.1	1										
							＜医療情報学専攻科目群＞														
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										

教員の氏名等																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以外 の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況			
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名						
27	基(主専)	講師	スギタ ジュンイチ 杉田 純一 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部講師（平成24 年4月）	○				5				
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							＜臨床検査学専攻科目群＞														
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							＜臨床工学専攻科目群＞														
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1										
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							＜医療情報学専攻科目群＞														
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.5	1										
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1										
							・医療情報システム開発論	○	3前	2.0	1										
							・ワークショップC （人間科学）	○	2前	2.0	1										
							・医用画像処理工学		3前	2.0	1										
							・基礎ゼミⅠ	○	1通	2.0	1										
							・基礎ゼミⅡ	○	2通	2.0	1										
							・応用ゼミⅠ	○	3前	2.0	1										
							・応用ゼミⅡ	○	3後	2.0	1										
							・応用ゼミⅢ	○	4前	2.0	1										
・卒業研究	○	4通	6.0	1																	
・データベースと医療Ⅰ （基礎）	○	2前	2.0	1																	
・データベースと医療Ⅱ （応用）		2後	2.0	1																	

[illegible]

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
29	基 （主専）	助教	スズキ サチナ 鈴木 祥菜 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部医療栄養学科 助教（令和2年4月）	○				5	
							・解剖生理学実習	○	2前	2.0	2							
							・生化学実験Ⅰ （生体物質の分析）	○	2前	2.0	2							
							・食品学実験	○	1後	2.0	2							
							・栄養生理学実験	○	3後	2.0	2							
							・運動栄養学	○	3前	1.0	1							
							・臨地実習Ⅰ（給食経営管理）	○	3後	1.0	1							
							・総合学習Ⅱ （食べ物・栄養と疾病・治療）	○	2前	1.0	1							
							・栄養教育実習事前事後指導		4通	1.0	1							
							・栄養教育実習		4前	1.0	1							
・教職実践演習（栄養教諭）		4後	2.0	1														
30	基（主専）	助教	オオスキ マサヤ 大貫 雅也 ＜令和8年4月＞		博士 （保健学）		＜臨床工学専攻科目群＞					杏林大学保健学部臨床 工学科助教（平成7年4 月）	○				5	
							・電気工学Ⅰ	○	2前	2.0	1							
							・電気工学Ⅱ	○	2後	2.0	1							
							・電気磁気学	○	4後	1.0	1							
							・電子工学Ⅰ	○	2前	2.0	1							
							・電子工学Ⅱ	○	2後	2.0	1							
							・電気・電子工学実習	○	3後	1.0	1							
							・臨床工学演習Ⅰ※	○	4後	0.1	1							
							・臨床実習	○	4前	6.0	1							

教員の氏名等																											
(医療保健学部医療保健学科)																											
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況									
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称											
32	基(主専)	助教	ヤマベ ユウタ 山邊 悠太 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		<管理栄養学専攻科目群>		1前	0.1	1	東京医療保健大学医療 保健学部医療情報学科 助教（平成30年4月）	○				5										
							・キャリア教育Ⅰ※	○	4前	1.0	1																
							<臨床検査学専攻科目群>																				
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1																
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1																
							<臨床工学専攻科目群>																				
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.1	1																
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1																
							<医療情報学専攻科目群>																				
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.5	1																
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1																
							・基礎ゼミⅠ	○	1通	2.0	1																
							・基礎ゼミⅡ	○	2通	2.0	1																
							・応用ゼミⅠ	○	3前	2.0	1																
							・応用ゼミⅡ	○	3後	2.0	1																
							・応用ゼミⅢ	○	4前	2.0	1																
							・臨床データ分析Ⅱ		3前	2.0	1																
							・卒業研究	○	4通	6.0	1																
							・病院管理概論	○	2後	2.0	1																
							33	その他	講師	イタバシ ユウキ 板橋 祐己 ＜令和8年4月＞								修士 (学術)		<学科共通科目群>							
・文学		2後	1.0	1																							
・歴史		1前	2.0	1																							
<管理栄養学専攻科目群>																											
・キャリア教育Ⅲ	○	3後	1.0	1																							
・食文化論		1後	1.0	1																							
・特別活動の指導法		3後	1.0	1																							
・栄養教育実習事前事後指導		4通	1.0	1																							
・栄養教育実習		4前	1.0	1																							
<臨床検査学専攻科目群>																											
・キャリア教育Ⅲ		3後	1.0	1																							
・食文化論		1後	1.0	1																							

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
34	その他	教授	クスノキ ススム 楠 進 ＜令和8年4月＞		博士 （医学）		＜学科共通科目群＞ ・医療と人間※ ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・免疫検査学 ＜臨床工学専攻科目群＞ ・免疫検査学	○ ○	1前 2後 2後	0.1 2.0 2.0	1 1 1	独立行政法人地域医療 機能推進機構（令和2年 4月）						
35	その他	教授	カメヤマ シュウジ 亀山 周二 ＜令和8年4月＞		博士 （医学）		＜学科共通科目群＞ ・医療と人間※		1前	0.3	1	東京医療保健大学 学長（令和3年4月）						
36	その他	教授	スエナガ ユリ 末永 由理 ＜令和8年4月＞		博士 （経済学）		＜学科共通科目群＞ ・医療と人間※ ＜管理栄養学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜臨床工学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜医療情報学専攻科目群＞ ・協働実践演習	○ ○ ○ ○	1前 4前 4前 4前 4前	0.1 1.0 1.0 1.0 1.0	1 1 1 1 1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 教授（平成17年4月）						
37	その他	教授	マエノ カズオ 前野 一雄 ＜令和8年4月＞		学士 （教育学）		＜学科共通科目群＞ ・医療と人間※		1前	0.3	1	東京医療保健大学客員 教授（令和2年4月）						
38	その他	准教授	ニシヤマ ミキエ 西山 幹枝 ＜令和8年4月＞		修士 （学術）		＜学科共通科目群＞ ・英会話Ⅲ ・専門英語		2前 3後	2.0 2.0	1 1	東京医療保健大学 大学院准教授（平成27 年10月）						

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
39	その他	准教授	ヤマモトノブヒロ 山本 伸裕 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		＜学科共通科目群＞ ・哲学と宗教 ・生命倫理学	○	1前 1後	2.0 1.0	1 1	東京医療保健大学 大学院准教授（平成30 年10月）						
40	その他	教授	マツムラ ユリコ 松村 有里子 ＜令和8年4月＞		博士 （理学）		＜学科共通科目群＞ ・情報リテラシー ・情報科学	○ ○	1前 1後	2.0 2.0	1 1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 教授（平成28年4月）						
41	その他	教授	ヨシダ リカ 吉田 理香 ＜令和8年4月＞		博士 （感染制御 学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜臨床工学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜医療情報学専攻科目群＞ ・協働実践演習	○ ○ ○ ○	4前 4前 4前 4前	1.0 1.0 1.0 1.0	1 1 1 1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 教授（平成25年4月）						
42	その他	講師	イナガキアキコ 稲垣 晃子 ＜令和8年4月＞		博士 （保健学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜臨床工学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜医療情報学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※	○ ○ ○ ○	1前 1前 1前 1前	0.1 0.1 0.1 0.1	1 1 1 1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 講師（令和3年4月）						
43	その他	教授	イワサワ アツオ 岩澤 篤郎 ＜令和8年4月＞		博士 （医学）		＜学科共通科目群＞ ・基礎生物 ＜管理栄養学専攻科目群＞ ・応用生物 ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・応用生物 ＜臨床工学専攻科目群＞ ・応用生物 ＜医療情報学専攻科目群＞ ・応用生物	○ ○ ○	1前 1前 1前 1前 1前	1.0 1.0 1.0 1.0 1.0	1 1 1 1 1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 教授（平成28年4月）						
44	その他	助教	ウジイ モミジ 氏井 紅葉 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・教育課程論 ・教育方法論		2後 2後	1.0 1.0	1 1	東京医療保健大学 千葉看護学部看護学科 助教（令和6年9月）						

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
			教授会										教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称			
45	その他	講師	イナガキ アキコ 稲垣 晃子 ＜令和8年4月＞		修士 (保健学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜臨床工学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜医療情報学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※	○ ○ ○ ○	1前 1前 1前 1前	0.1 0.1 0.1 0.1	1 1 1 1							
46	その他	修士	サカキバラ トモキ 榑原 知樹 ＜令和8年4月＞		修士 (学術)		＜学科共通科目群＞ ・英語購読・記述 ・英会話Ⅰ ・英会話Ⅱ	○ ○ ○	1後 1前 1後	2.0 2.0 2.0	1 1 1	東京医療保健大学 大学院講師（令和4年 10月）						
47	その他	助教	シンジョウ スミレ 鈕庄 すみれ ＜令和8年4月＞		博士 (看護学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜臨床工学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜医療情報学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※	○ ○ ○ ○	1前 1前 1前 1前	0.1 0.1 0.1 0.1	1 1 1 1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 助教（令和5年4月）						
48	その他	講師	オオタ ユウマ 因田 雄馬 ＜令和8年4月＞		修士 (看護学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜臨床工学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※ ＜医療情報学専攻科目群＞ ・キャリア教育Ⅰ※	○ ○ ○ ○	1前 1前 1前 1前	0.1 0.1 0.1 0.1	1 1 1 1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 講師（平成31年4月）						
49	その他	准教授	ヤマザキ チズコ 山崎 千寿子 ＜令和8年4月＞		博士 (看護学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜臨床工学専攻科目群＞ ・協働実践演習 ＜医療情報学専攻科目群＞ ・協働実践演習	○ ○ ○ ○	4前 4前 4前 4前	1.0 1.0 1.0 1.0	1 1 1 1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 准教授（平成24年4月）						

教員の氏名等																					
(医療保健学部医療保健学科)																					
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況			
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称					
50	その他	講師	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞ アクタ ユミ 芥田 ゆみ ＜令和8年4月＞		博士 （看護学）		＜管理栄養学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										
							・協働実践演習														
							＜臨床検査学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										
							・協働実践演習														
							＜臨床工学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										
							・協働実践演習														
							＜医療情報学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										
51	その他	助教	ナカジマスミ 中嶋 真澄 ＜令和8年4月＞		修士 （看護学）		＜管理栄養学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 助教（令和2年4月）									
							・協働実践演習														
							＜臨床検査学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										
							・協働実践演習														
							＜臨床工学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										
							・協働実践演習														
							＜医療情報学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										
52	その他	教授	ヒロシマ マヨコ 廣島 麻揚 ＜令和8年4月＞		博士 （保健学）		＜管理栄養学専攻科目群＞	○	1前	0.1	1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 教授（平成26年4月）									
							・キャリア教育Ⅰ※														
							＜臨床検査学専攻科目群＞	○	1前	0.1	1										
							・キャリア教育Ⅰ※														
							＜臨床工学専攻科目群＞	○	1前	0.1	1										
							・キャリア教育Ⅰ※														
							＜医療情報学専攻科目群＞	○	1前	0.1	1										
53	その他	准教授	ヤマザキ チゾコ 山崎 千寿子 ＜令和8年4月＞		博士 （看護学）		＜管理栄養学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										
							・協働実践演習														
							＜臨床検査学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										
							・協働実践演習														
							＜臨床工学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										
							・協働実践演習														
							＜医療情報学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1										

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
54	その他	教授	アベ モモコ 阿部 桃子 ＜令和8年4月＞		博士 （看護学）		＜管理栄養学専攻科目群＞	○	4前	1.0	1	東京医療保健大学 医療保健学部看護学科 教授（平成22年4月）						
							・協働実践演習											
							＜臨床検査学専攻科目群＞											
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							
							＜臨床工学専攻科目群＞											
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							
							＜医療情報学専攻科目群＞											
							・協働実践演習	○	4前	1.0	1							
55	その他	教授	フカサワ ヒロミ 深澤 弘美 ＜令和8年4月＞		博士 （経営情報 学）		＜学科共通科目群＞	○	1後	2.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部医療情報学科 教授（平成18年4月）						
							・データサイエンス		2後	2.0	1							
							・情報通信と保健医療											
							＜医療情報学専攻科目群＞											
							・臨床データ分析Ⅰ	○	2後	2.0	1							
56	その他	教授	ヤマモト ジュンイチ 山本 純一 ＜令和8年4月＞		博士 （情報シス テム学）		＜学科共通科目群＞		2後	2.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部医療情報学科 教授（令和3年4月）						
							・情報通信と保健医療											
							＜医療情報学専攻科目群＞											
							・医療情報基礎演習B	○	3前	2.0	1							
							・医療情報システム論	○	2前	2.0	1							
							・AIと医療	○	3後	2.0	1							
57	その他	講師	駒崎 俊剛 ＜令和8年4月＞		修士 （学術）		＜医療情報学専攻科目群＞	○	2後	1.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部講師（平成17 年4月）						
							・キャリア教育Ⅱ	○	3前	1.0	1							
							・キャリア教育Ⅲ											
58	その他	講師	カナザワ カンヒサ 金澤 功尚 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		＜医療情報学専攻科目群＞		2後	2.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部講師（平成21年 4月）						
							・データ構造とアルゴリズム											
59	その他	助教	オオノ ヒロユキ 大野 博之 ＜令和8年4月＞		修士 （工学）		＜医療情報学専攻科目群＞	○	2前	2.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部医療情報学科 助教（平成21年4月）						
							・プログラミング演習Ⅰ		2後	2.0	1							
							・プログラミング演習Ⅱ											
60	その他	講師	フクダ タイシ 福田 太志 ＜令和8年4月＞		学士 （経済学）		＜臨床工学専攻科目群＞	○	1後	2.0	1	（有）ホロンエデュケー ション 講師 （平成21年4月）						
							・基礎数学Ⅱ		1後	2.0	1							
							＜医療情報学専攻科目群＞											
							・基礎数学Ⅱ											
61	その他	講師	ハリハラモリオ 針原 森夫 ＜令和8年4月＞		修士 （情報工 学）		＜学科共通科目群＞	○	1前	2.0	1	（株）HKMコンサルタン ト 取締役 （昭和29年4月）						
							・情報リテラシー	○	1後	2.0	1							
							・情報科学											

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
62	その他	講師	マスカワ アツシ 益川 敦 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・実用国語※ ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・実用国語※ ＜臨床工学専攻科目群＞ ・実用国語※		1前 1前 1前	0.5 0.5 0.5	1 1 1	頌栄女子学院中学・高 等学校 教員 （平成10年4月）						
63	その他	講師	アンドウ ケンタロウ 安東 賢太郎 ＜令和8年4月＞		博士 （医学）		＜臨床工学専攻科目群＞ ・薬理学	○	1後	2.0	1	千葉科学大学薬学部薬 学科教授 薬学研究科薬学専攻教 授 （平成30年4月）						
64	その他	講師	カノウ タカシ 加納 隆 ＜令和11年4月＞		博士 （学術）		＜臨床工学専攻科目群＞ ・画像診断学	○	4後	1.0	1	埼玉医科大学 名誉教 授 （令和2年4月）						
65	その他	講師	キムラ サトシ 木村 知史 ＜令和10年4月＞		修士 （工学）		＜医療情報学専攻科目群＞ ・情報セキュリティ		3後	2.0	1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （令和7年4月）						
66	その他	講師	クボタ コウジ 久保田 耕司 ＜令和8年4月＞		博士 （薬学）		＜医療情報学専攻科目群＞ ・応用化学		1前	1.0	1	山陽女子短期大学 准 教授 （令和3年4月）						
67	その他	講師	アベ スミコ 安倍 澄子 ＜令和9年4月＞		博士 （農学）		＜学科共通科目群＞ ・ジェンダー論		2後	1.0	1	一般社団法人農山漁村 女性・生活指導支援協 会 会長 （令和2年4月）						
68	その他	講師	イノウエ ハジメ 井上 肇 ＜令和10年4月＞		博士 （薬学）		＜医療情報学専攻科目群＞ ・臨床薬理学（薬理学）	○	3後	2.0	1	聖マリアンナ医科大学 形成外科学 特任教授 （昭和61年4月）						
69	その他	講師	スポーレ・マーシャ ＜令和8年4月＞		学士 （文学）		＜学科共通科目群＞ ・英語購読・記述 ・英会話Ⅰ ・英会話Ⅱ	○ ○ ○	1後 1前 1後	2.0 2.0 2.0	1 1 1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （令和4年4月）						

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
70	その他	講師	ケイイシ クレマン ヒェル ヘンリ ＜令和8年4月＞		学士 （文学）		＜学科共通科目群＞ ・フランス語		1前	2.0	1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （平成30年4月）						
71	その他	講師	サガワ ケン 佐川 賢 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		＜学科共通科目群＞ ・認知科学		1後	1.0	1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （平成30年4月）						
72	その他	講師	スズキ ナオト 鈴木 直人 ＜令和10年4月＞		博士 （医学）		＜医療情報学専攻科目群＞ ・医療マネジメント論	○	3後	2.0	1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （平成30年4月）						
73	その他	講師	ハン アラン 韓 アラン ＜令和8年4月＞		学士 （文学）		＜学科共通科目群＞ ・英語購読・記述 ・英会話Ⅰ ・英会話Ⅱ	○ ○ ○	1後 1前 1後	2.0 2.0 2.0	1 1 1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （令和3年4月）						
74	その他	講師	セキグチ ヒロヒサ 関口 博久 ＜令和8年4月＞		博士 （経済学）		＜学科共通科目群＞ ・経済学		1前	2.0	1	国士舘大学政経学部経 済学科 教授 （令和5年4月）						
75	その他	講師	シバタ サヤコ 畠田 彩也子 ＜令和8年4月＞		博士 （心理学）		＜学科共通科目群＞ ・心理学		1前	2.0	1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （令和5年4月）						
76	その他	講師	タカギワ ムツミ 高際 睦 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		＜学科共通科目群＞ ・基礎数学		1前	1.0	1	東京歯科大学数学研究 室 准教授 （令和4年4月）						
77	その他	講師	タカハシ ショウイチロウ 高橋 昌一郎 ＜令和8年4月＞		修士 （哲学）		＜学科共通科目群＞ ・コミュニケーション概論		1後	2.0	1	国学院大学文学部外国 語文化学科 教授 （令和3年4月）						
78	その他	講師	イマイ ケン 今井 健 ＜令和8年4月＞		博士 （学際情報 学）		＜医療情報学専攻科目群＞ ・医療情報学概論※	○	1後	0.9	1	東京大学大学院医学系 研究科 疾患生命工学セ ンター医工情報学部門 准教授 （平成28年4月）						
79	その他	講師	ニシオ アケミ 西大 明美 ＜令和9年4月＞		博士 （工学）		＜医療情報学専攻科目群＞ ・診療情報管理論		2前	2.0	1	国立保健医療科学院研 究情報研究センター 研究員 （令和5年4月）						
80	その他	講師	カジ シノブ 梶 忍 ＜令和10年4月＞		学士 （家政学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・公衆栄養学実習 ・臨地実習Ⅱ（公衆栄養学）	○ ○	3前 3後	2.0 1.0	2 1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （令和6年4月）						
81	その他	講師	ヤナギダ ナオコ 柳田 尚子 ＜令和9年4月＞		修士 （スポーツ 科学）		＜学科共通科目群＞ ・スポーツ科学 ・スポーツ実習		1前・2後・3後 1前・2後・3後	1.0 1.0	1 1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （令和3年4月）						
82	その他	講師	ヤマグチ トシカズ 山口 敏和 ＜令和8年4月＞		修士 （物理学）		＜学科共通科目群＞ ・物理学		1前	1.0	1	江戸川大学メディアコ ミュニケーション学部 情報文化学科 准教授 （令和2年4月）						
83	その他	講師	ヤマノバ ユウジ 山野邊 裕二 ＜令和10年4月＞		博士 （医学）		＜医療情報学専攻科目群＞ ・臨床医学各論C		3前	2.0	1	福岡輝栄会病院医療情 報部長形成外科 部長 （平成31年4月）						
			イノウエ トシタカ 井上 俊孝		博士		＜医療情報学専攻科目群＞					医療法人誠心会井上病						

教員の氏名等																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
84	その他	講師	＜令和10年4月＞		(医学)		・臨床医学各論D		3前	2.0	1	院誠医院長理事 （平成29年6月）						

教員の氏名等																				
(医療保健学部医療保健学科)																				
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況		
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称				
85	その他	講師	ヨコミヅ クミ 横溝 久美 ＜令和8年4月＞		博士 （法学）		＜学科共通科目群＞ ・法学 ＜管理栄養学専攻科目群＞ ・日本国憲法		1前 3前	2.0 2.0	1 1	横溝法律事務所 弁護士 （平成7年4月）								
86	その他	講師	リ コグジョウ 李 克城 ＜令和8年4月＞		学士 （文学）		＜学科共通科目群＞ ・中国語		1前	2.0	1	東京医療保健大学 非常勤講師 （平成17年4月）								
87	その他	講師	ウスイ ユキオ 碓井 之雄 ＜令和9年4月＞		博士 （薬学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・微生物学 ・病態生化学 ・サプリメント論 ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・微生物学 ・病態生化学	○	2前 4後 4後	2.0 1.0 1.0	1 1 1	東京医療保健大学 非常勤講師 （平成29年4月）								
							○	2前 4後	2.0 1.0	1 1										
88	その他	講師	オクムラ ミチコ 奥村 通子 ＜令和9年4月＞		博士 （工学）		＜医療情報学専攻科目群＞ ・疾病分類演習Ⅰ ・疾病分類演習Ⅱ		2前 2後	1.0 1.0	1 1	東京医療保健大学 非常勤講師 （平成24年4月）								
89	その他	講師	カガ キミカ 加我 君孝 ＜令和10年4月＞		博士 （医学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・医療栄養学概論※	○	3後	0.1	1	東京大学大学名誉教授， 独立行政法人国立病院 機構（東京医療セン ター臨床研究セン ター）名誉臨床研究セ ンター長 （平成19年4月）								
90	その他	講師	マルヤマ ミチオ 丸山 道生 ＜令和10年4月＞		博士 （医学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・医療栄養学概論※	○	3後	0.1	1	田無病院 病院長 （平成26年4月）								
91	その他	講師	カノウ ヨウヘイ 過能 洋平 ＜令和9年4月＞		博士 （人文学）		＜学科共通科目群＞ ・人間関係論		2前	1.0	1	東京医療保健大学 非常勤講師 （平成19年4月）								
92	その他	講師	サクラチ リエ 櫻内 理恵 ＜令和8年4月＞		修士 （外国語学）		＜学科共通科目群＞ ・英語購読・記述 ・英会話Ⅰ ・英会話Ⅱ	○ ○ ○	1後 1前 1後	2.0 2.0 2.0	1 1 1	東京医療保健大学 非常勤講師 （平成17年4月）								
93	その他	講師	ミヤザキ シゲル 宮崎 滋 ＜令和10年4月＞		博士 （医学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・医療栄養学概論※	○	3後	0.1	1	結核予防会総合健診推 進 センター所長 （平成27年4月）								

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
94	その他	講師	クボタ 久保田 さゆり ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		＜学科共通科目群＞	○	1前	1.0	1	国立大学法人長崎大学 人文社会科学域教育学 部助教 （令和5年4月）						
							・基礎化学											
							＜管理栄養学専攻科目群＞											
							・キャリア教育Ⅰ※											
							＜臨床検査学専攻科目群＞											
							・キャリア教育Ⅰ※											
							＜臨床工学専攻科目群＞											
							・キャリア教育Ⅰ※											
							＜医療情報学専攻科目群＞											
95	その他	講師	ミヤマ ケンジ 三山 健司 ＜令和10年4月＞		博士 （医学）		＜管理栄養学専攻科目群＞	○	3後	0.1	1	国立精神・神経医療研 究センター 副院長 （令和5年4月）						
							・医療栄養学概論※											
96	その他	講師	セヤマ ヨウスケ 脊山 洋右 ＜令和10年4月＞		博士 （医学）		＜管理栄養学専攻科目群＞	○	3後	0.3	1	東京大学名誉教授 （平成13年4月）						
							・医療栄養学概論※											
97	その他	講師	ミヤザワ キ 宮澤 安紀 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）		＜学科共通科目群＞		1前	2.0	1	國學院大學研究開発推 進機構日本文化研究所 共同研究員 （令和5年4月）						
							・社会学											

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
98	その他	講師	クリハラ ヒロユキ 栗原 博之 ＜令和9年4月＞		修士 (薬学)		＜医療情報学専攻科目群＞ ・医療安全管理学（臨床工学・ 危機管理学・感染制御学）	○	2前	2.0	1	公益財団法人日本医療 機能評価機構 統括調 整役 （令和2年4月）						
99	その他	講師	イオロイ リョウ 五百蔵 良 ＜令和8年4月＞		博士 (農学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・食品の官能評価・鑑別論	○	2前	1.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部 名誉教授 （令和3年4月）						
							・応用化学		1前	1.0	1							
							＜臨床検査学専攻科目群＞ ・応用化学	○	1前	1.0	1							
							＜臨床工学専攻科目群＞ ・応用化学		1前	1.0	1							
100	その他	講師	ヤマザキ サチコ 山崎 幸子 ＜令和10年4月＞		修士 (教育学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・特別支援教育の基礎		3前	1.0	1	長野市立川中島小学校 教員 （平成28年4月）						
101	その他	講師	シノハラ カズヒコ 篠原 一彦 ＜令和9年4月＞		博士 (医学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・医療安全管理学 （臨床工学・危機管理学・感染 制御学）	○	2前	2.0	1	東京工科大学医療保健 学部臨床工学科 教授 （平成27年4月）						
							＜臨床検査学専攻科目群＞ ・医療安全管理学 （臨床工学・危機管理学・感染 制御学）		2前	2.0	1							
							＜臨床工学専攻科目群＞ ・医療安全管理学 （臨床工学・危機管理学・感染 制御学）		2前	2.0	1							
102	その他	講師	モリヤ ケンジ 守谷 賢二 ＜令和10年4月＞		修士 (心理学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・学校教育相談		3後	2.0	1	淑徳大学教育学部こど も教育学科 教授 （令和6年4月）						
103	その他	講師	ハルヤマヤスオ 春山 康夫 ＜令和9年4月＞		博士 (医学)		＜医療情報学専攻科目群＞ ・公衆衛生学	○	2後	2.0	1	独協医科大学医学部 教授 （令和2年4月）						
104	その他	講師	コミネ ヨウコ 小峰 洋子 ＜令和10年4月＞		博士 (心理学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・カウンセリング論		3前	1.0	1	聖心女子大学現代教養 学部心理学科 助教 （平成31年4月）						
105	その他	講師	オノ ヨウヘイ 小野 洋平 ＜令和10年4月＞		博士 (心理学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・生徒指導論		3前	1.0	1	聖路加国際大学専門職 大学院公衆衛生学研究 科 助教 （令和6年4月）						
106	その他	講師	マツモト クマカ 松本 邦愛 ＜令和10年4月＞		博士 (医学)		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・医療マネジメント論	○	3前	2.0	1	東邦大学医学部 准教 授 （平成30年4月）						
							＜臨床検査学専攻科目群＞ ・医療マネジメント論		3前	2.0	1							
							＜臨床工学専攻科目群＞ ・医療マネジメント論		3前	2.0	1							

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
107	その他	講師	ウエノ マサミチ 上野 正道 ＜令和9年4月＞		博士 （教育学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・教育原理		2前	1.0	1	上智大学総合人間科学 部教育学科 教授 （平成30年4月）						
108	その他	講師	モリ マサフミ 森 雅文 ＜令和9年4月＞		博士 （文化人類 学）		＜学科共通科目群＞ ・比較文化論		2後	1.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部 非常勤講師 （平成30年4月）						
109	その他	講師	アサダ マナブ 浅田 学 ＜令和9年4月＞		博士 （教育学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・教育心理学		2前	2.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部 非常勤講師 （平成30年4月）						
110	その他	講師	オオダチ ジュンコ 大舘 順子 ＜令和10年4月＞		博士 （生物環境 調節学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・分子病態学	○	3前	2.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部 非常勤講師 （平成30年4月）						
							＜臨床検査学専攻科目群＞ ・分子病態学		3前	2.0	1							
111	その他	講師	オオムラ ケンジ 大村 健二 ＜令和10年4月＞		博士 （医学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・医療栄養学概論※	○	3後	0.3	1	上尾中央総合病院上尾 中央総合病院 外科顧問 腫瘍内科顧問 栄養サ ポートセンター セン ター長 （平成25年4月）						
112	その他	講師	オオサワ ススム 大澤 進 ＜令和9年4月＞		博士 （学術）		＜臨床検査学専攻科目群＞ ・臨床検査栄養学	○	2後	2.0	1	国際医療福祉大学大学 院保健医療学専攻 特任 教授 （令和2年4月）						
							・生化学検査学	○	2後	2.0	1							
							・生化学検査学実習	○	3前	1.0	1							
							・検査精度管理学	○	4前	2.0	1							
							・臨床検査総合演習Ⅰ※	○	4後	0.3	1							
113	その他	講師	タニグチ ヒデキ 谷口 英喜 ＜令和10年4月＞		博士 （医学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・医療栄養学概論※	○	3後	0.1	1	済生会横浜市東部病院 患者支援センター長 （平成30年4月）						
114	その他	講師	タンバ ヤスコ 丹波 泰子 ＜令和11年4月＞		修士 （健康科 学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・臨床検査学		4前	2.0	1	大東文化大学スポー ツ・健康科学部 健康科 学科 特任准教授 （令和4年4月）						
							＜臨床検査学専攻科目群＞ ・臨床検査学		4前	1.0	1							
115	その他	講師	ドイ シュンスケ 土井 俊祐 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		＜医療情報学専攻科目群＞ ・医療情報学概論※	○	1後	1.1	1	千葉大学医学部付属病 院 特任講師 （令和5年4月）						
116	その他	講師	イイジマ クミコ 飯島 久美子 ＜令和10年4月＞		博士 （学術）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・フードコーディネート論		3前	2.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部 非常勤講師 （令和4年4月）						

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
117	その他	講師	フクシマ ノブヒサ 福島 延久 ＜令和8年4月＞		修士 （工学）		＜管理栄養学専攻科目群＞	○	1前	0.3	1	東京医療保健大学医療 保健学部 非常勤講師 （平成29年4月）						
							・キャリア教育Ⅰ※											
							＜臨床検査学専攻科目群＞	○	1前	0.3	1							
							・キャリア教育Ⅰ※											
							＜臨床工学専攻科目群＞	○	1前	0.3	1							
							・キャリア教育Ⅰ※											
							・情報数学	○	1前	2.0	1							
							＜医療情報学専攻科目群＞											
							・キャリア教育Ⅰ※	○	1前	0.3	1							
							・情報数学											
118	その他	講師	ヒラカフ 平川 あずさ ＜令和8年4月＞		博士 （生活科学）		＜管理栄養学専攻科目群＞		1後	1.0	1	東京医療保健大学医療 保健学部 非常勤講師 （令和4年4月）						
							・食育論											
							＜臨床検査学専攻科目群＞		1後	1.0	1							
							・食育論											

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
119	その他	講師	モチヅキョウ 望月 照次 ＜令和10年4月＞		学士 （臨床検査 学）		＜臨床検査学専攻科目群＞					昭和大学病院臨床検査 部 技師長 （平成30年3月）						
							・輸血・移植検査学	○										
							・輸血・移植検査学実習	○										
							・輸血・移植検査学演習	○										
							・臨床実習前評価※	○										
							＜臨床工学専攻科目群＞											
							・輸血・移植検査学	○										
120	その他	講師	ホリカワ アキコ 堀川 昭子 ＜令和10年4月＞		博士 （医学）		＜管理栄養学専攻科目群＞		3前	1.0	1	東京歯科大学人間社会 学部スポーツ科学科 教授 （平成24年4月）						
							・アスリート栄養学											
121	その他	講師	ホンダ ヒデオ 本多 秀雄 ＜令和10年4月＞		博士 （薬学）		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京医療保健大学医療 保健学部 非常勤講師 （平成29年4月）						
							・臨床薬理学（薬理学）	○										
							・薬物療法学											
							＜臨床検査学専攻科目群＞											
							・臨床薬理学(薬理学)	○										
							・薬物療法学											
							＜臨床工学専攻科目群＞											
							・臨床薬理学(薬理学)	○										
122	その他	講師	オエ ユキコ 麻植 有希子 ＜令和10年4月＞		学士 （栄養学）		＜管理栄養学専攻科目群＞		3後	2.0	1	SOMPOケアフーズ株式会 社栄養管理部 部長 （令和元年4月）						
							・栄養教育論Ⅲ （応用・要介護者の栄養管理と カウンセリング）	○										
123	その他	講師	キウチ サチコ 木内 幸子 ＜令和10年4月＞		博士 （学術）		＜臨床検査学専攻科目群＞					千葉科学大学危機管理 学部 教授 （令和元年4月）						
							・生理検査学Ⅰ	○										
							・生理検査学Ⅱ	○										
							・生理検査学Ⅲ	○										
							・生理検査学実習Ⅰ	○										
							・生理検査学実習Ⅱ	○										
							・生理検査学実習Ⅲ	○										
							・生理検査学演習	○										
							・臨床検査総合演習Ⅰ※	○										
							・臨床実習前評価※	○										
							＜臨床工学専攻科目群＞											
							・生理検査学Ⅰ	○										
							・生理検査学Ⅱ	○										
			ノグチ タカオ 野口 孝夫		博士		＜管理栄養学専攻科目群＞					東京農業大学国際食料 健康学部 栄養管理学						

教員の氏名等																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
124	その他	講師	野口 敏夫 ＜令和10年4月＞		博士 （農学）		・食品流通論		3後	2.0	1	情報学部食料環境経済 学科 教授 （令和7年4月）						

教員の氏名等																		
(医療保健学部医療保健学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千 円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数	申請に係る学部等以 外の組織（他の大学 等に置かれる学部等 を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
125	その他	講師	ユギ ヤスヨ 柚木 康代 ＜令和8年4月＞		修士 （人間教育 学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・社会福祉総論 ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・社会福祉総論	○	1前 1前	2.0 2.0	1 1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （平成23年4月）						
126	その他	講師	コシイシ アヤカ 興石 采佳 ＜令和8年4月＞		修士 （外国語学）		＜学科共通科目群＞ ・英語購読・記述 ・英会話Ⅰ ・英会話Ⅱ	○ ○ ○	1後 1前 1後	2.0 2.0 2.0	1 1 1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （令和4年4月）						
127	その他	講師	サイノウ ノブオ 齋藤 信夫 ＜令和8年4月＞		修士 （人文学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・ボランティア論 ・ボランティア活動 ＜臨床検査学専攻科目群＞ ・ボランティア論 ・ボランティア活動 ＜臨床工学専攻科目群＞ ・ボランティア論 ・ボランティア活動 ＜医療情報学専攻科目群＞ ・ボランティア論 ・ボランティア活動	○	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前	1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.0	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （平成18年4月）						
128	その他	講師	ヤナガワ ユキコ 柳沢 幸子 ＜令和10年4月＞		博士 （栄養学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・学校栄養教育論 ・学校栄養教育実践演習			3前 3後	2.0 2.0	1 1	東京医療保健大学 非 常勤講師 （令和4年4月）					
129	その他	講師	ヒビノ モリオ 日比野 守男 ＜令和9年4月＞		修士 （統計学）		＜学科共通科目群＞ ・国際関係論			2後	1.0	1	東京医療保健大学 非 常勤 （平成23年4月）					
130	その他	講師	ハママツ 濱松章洋 ＜令和10年4月＞		学士 （教育）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・道徳教育/総合的な学習の時間 の指導法			3前	1.0	1	調布市深大寺小学校 校長 （平成31年4月）					
131	その他	講師	ハットリ カズオ 服部 一夫 ＜令和10年4月＞		博士 （農学）		＜管理栄養学専攻科目群＞ ・食品機能学			3前	1.0	1	東京農業大学応用生物 科学部栄養科学科食品 科学研究室 教授 （平成25年4月）					

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	0人	4人	2人	1人	5人	12人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准 教 授	博 士	0人	0人	2人	4人	3人	0人	0人	9人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講 師	博 士	0人	0人	3人	1人	0人	1人	0人	5人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助 教	博 士	0人	2人	2人	0人	0人	0人	0人	4人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	2人	7人	9人	5人	2人	5人	30人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

（注）

1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。

2 この書類は、基幹教員についてのみ作成すること。

3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。

4 「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合、「専任教員」と読み替えること。

5 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。